新潟県埋蔵文化財調査報告書　第258集

一般国道49号

阿賀野バイパス関係発掘調査報告書Ⅷ

山口野中遺跡Ⅱ

２０１５

新　潟　県　教　育　委　員　会

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道49号

阿賀野バイパス関係発掘調査報告書Ⅷ

山口野中遺跡Ⅱ

（やまぐちのなか）

２０１５

新　潟　県　教　育　委　員　会

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

一般国道 49 号は、太平洋側の福島県いわき市と日本海側の新潟市を結ぶ主要幹線道路です。2011 年 3 月の東日本大震災の際は、鉄道や磐越自動車道とともに避難や救援物資の輸送に大きな役割を果たした事は記憶に新しいところです。また、同路線は沿線市町村と新潟市を結び、日常生活や地域経済を支える重要な基盤道路としての役割を果たしています。

しかし、現道は阿賀野市街地での幅員減少等の問題を抱え、近年の著しい交通量の増加に十分に対応できておりません。その結果、交通混雑、交通騒音、交通事故の増加等、生活環境に悪影響を与える様々な問題が生じています。

そこで、阿賀野市六野瀬から同市下黒瀬を結ぶ延長 13.7km の阿賀野バイパスの建設が計画されました。同バイパスは、安全で円滑な交通の確保と都市機能活性化のために重要な役割を果たすものと大いに期待されています。

本書は、阿賀野バイパス建設に先立ち、2013 年度に実施した山口野中遺跡の 2 回目の発掘調査報告書です。調査の結果、縄文時代、古代、中世の遺構・遺物を層位的に検出しました。縄文時代は、晩期後葉に営まれた遺跡で、多くの焼土と炭化物の集積を検出しました。ここでは、食料として利用されたトチノキ・オニグルミ・クリなどのほか、コイ科・アユ属・サケ属など魚の骨片を焼いていたことがわかりました。特に堅果類は焼いた後、それぞれの種別ごとに分けて集積した様子が窺えます。また、焼土の近くでは祭祀具と考えられる石冠の出土も見られます。こうした状況から、食べ終わった堅果類、魚骨などを燃やす祭祀的な行為が想定され、当時の人々の「食べ終わったもの」あるいは、「役目を終えたもの」に対する儀礼の存在を垣間見ることができます。

今回の調査結果が、地域の歴史を解明するための研究資料として広く活用されるとともに、県民の方々の埋蔵文化財に対する理解と認識を深める契機となれば幸いです。

最後に、この調査に関して多大な御支援と御協力をいただいた阿賀野市教育委員会、並びに地元住民の方々、そして、発掘調査から報告書刊行に至るまで格別のご高配をいただいた国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所に対して厚くお礼申し上げます。

2015 年 3 月

新潟県教育委員会

教育長　高　井　盛　雄

例　　言

1　本報告書は、新潟県阿賀野市大字月崎地内に所在する山口野中遺跡の発掘調査記録である。

2　発掘調査は一般国道 49 号阿賀野バイパスの建設に伴い、国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所（以下、国交省）から新潟県教育委員会（以下、県教委）が受託したものである。

3　発掘調査は県教委が調査主体となり、公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）に調査を依頼した。埋文事業団は、発掘調査作業及び関連諸工事を株式会社帆苅組に委託し、2013 年 4 月から 11 月にかけて実施した。発掘調査面積は 14,857㎡である。

4　出土遺物及び調査に係る各種資料は、すべて県教委が新潟県埋蔵文化財センターにおいて保管している。遺物の註記は調査年度の下二桁を頭に付し「13 ヤマノ」とし、出土地点・遺構名・層位を続けて記入した。

5　本書の図中で示す方位は、全て真北である。

6　本書に掲載した遺構番号はすべて通し番号とし、本文及び挿図・遺物観察表・図面図版・写真図版の番号は一致している。

7　引用文献は、著者及び発行（西暦）を文中に［　　］で示し、巻末に一括して掲載した。

8　作成した図版のうち、既成の地図を使用した場合は、それぞれにその出典を記した。

9　調査成果の一部は、現地説明会、広報誌『埋文にいがた』No.85、新潟県埋蔵文化財調査事業団年報（2013 年度）で公開しているが、本書の記述をもって正式な報告とする。

10　現地における地震液状化の痕跡については、卜部厚志氏（新潟大学積雪地域災害研究センター准教授）のご教示を得た。

11　遺構と地震の痕跡との関係、埋設土器については、古澤妥史氏（阿賀野市教育委員会）のご教示を得た。

12　石器・石製品の石材は、竹之内耕氏（糸魚川市教育委員会）のご指導を得て、担当者の責任で決定した。

13　縄文土器の年代観については、荒川隆史氏・渡邊裕之氏（新潟県教育庁文化行政課）の指導をうけた。

14　自然科学分析は株式会社パレオ・ラボ、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、分析結果は第Ⅵ章に掲載した。

15　遺構断面図のトレース及び各種図版作成・編集は有限会社不二出版に委託した。

16　本書の執筆は、田海義正（埋文事業団）、村上章久・高橋　均・今村　克（株式会社帆苅組調査員）があたり、編集は村上が担当した。執筆分担は以下のとおりである。

田海：第Ⅰ章 1、2A・2C・2D、3　　村上：第Ⅰ章 2B、第Ⅱ章、第Ⅲ章、第Ⅳ章 4、第Ⅴ章 3、第Ⅶ章

高橋：第Ⅳ章 1・2・3、第Ⅴ章 1F　　今村：第Ⅴ章 1A・1B・1C・1D・1E、2

17　遺物の接合・復元は佐藤直美・大月清也・渡部　覚・大瀧明美・佐藤由紀・田中加代子・渡部由江・伊藤麻美、拓本・実測は佐藤直美・大瀧明美・伊藤麻美・齊藤　準、トレースは佐藤直美・伊藤麻美、遺構図版の作成は佐藤直美、遺物図版の作成は佐藤直美・伊藤麻美が行った。

18　発掘調査から本書に至るまで、下記の方々から多くの御教示・御協力を得た。厚く御礼申し上げる。

（敬称略　五十音順）

朝岡政康　卜部厚志　澤田　敦　十菱駿武　鈴木俊成　竹之内耕　立木宏明　橋本博文
福永　徹　藤田　登　古澤妥史　渡辺達郎　渡邊朋和
阿賀野川土地改良区　阿賀野市教育委員会　阿賀野市建設課　糸魚川市フォッサマグナミュージアム
月崎集落　新潟大学

目　　次

第Ⅰ章　序　　章 …… 1

1　調査に至る経緯 …… 1

2　調 査 経 過 …… 2

A　試 掘 調 査 …… 2

B　本発掘調査 …… 3

C　中層・下層の確認 …… 6

1）1　　区 …… 6　2）4　　区 …… 6

D　整理作業の経過 …… 7

3　調査・整理体制 …… 7

A　試 掘 調 査 …… 7

B　本発掘調査・整理作業 …… 7

第Ⅱ章　遺跡の歴史的環境 …… 8

1　地形と遺跡の分布 …… 8

2　遺跡周辺の歴史的環境 …… 11

A　五頭山西麓の遺跡 …… 11

B　笹神丘陵の遺跡 …… 11

C　上野林段丘の遺跡 …… 12

D　沖積平野の遺跡 …… 12

第Ⅲ章　調査の概要 …… 13

1　グリッドと調査区の設定 …… 13

2　基 本 層 序 …… 13

A　基本層序の記載 …… 13

B　下層の旧地形 …… 14

C　地震の痕跡 …… 14

1）噴　　砂 …… 14　2）噴　砂　口 …… 17

3）陥　　没 …… 17

3　記載の方針 …… 17

A　遺　　構 …… 17

B　遺　　物 …… 18

第Ⅳ章　遺　　構 …… 19

1　遺構の分類 …… 19

A　上 ・ 中 層 …… 19

B　下　　層 …… 20

2　上層の遺構 …… 20

A　遺構の検出状況 …… 20

B　掘立柱建物 …… 21
1）概　　要 …… 21　2）各　　説 …… 21
C　井　　戸 …… 21
1）概　　要 …… 21　2）各　　説 …… 22
D　土　　坑 …… 23
1）概　　要 …… 23　2）各　　説 …… 23
E　道 …… 26
1）概　　要 …… 26　2）各　　説 …… 26
F　溝 …… 26
1）概　　要 …… 26　2）各　　説 …… 26
G　性格不明遺構 …… 27

3　中層の遺構 …… 27
A　遺構の検出状況 …… 27
B　掘立柱建物 …… 27
C　土　　坑 …… 28
D　溝 …… 28
E　性格不明遺構 …… 28

4　下層の遺構 …… 29
A　遺構の検出状況 …… 29
B　竪穴建物 …… 29
C　焼土・炭化物の集積 …… 29
1）概　　要 …… 29　2）各　　説 …… 30
D　埋設土器 …… 37
1）概　　要 …… 37　2）各　　説 …… 38
E　土器集中 …… 40
1）概　　要 …… 40　2）各　　説 …… 41

第Ⅴ章　遺　　物 …… 43

1　上層（中世）の遺物 …… 43
A　概　　要 …… 43
B　土器・陶磁器 …… 43
1）記載の方針 …… 43　2）遺構内出土遺物 …… 43
3）遺構外出土遺物 …… 44
C　土器転用研磨具 …… 44
1）遺構内出土遺物 …… 44　2）遺構外出土遺物 …… 45
D　石　製　品 …… 45
1）遺構内出土遺物 …… 45　2）遺構外出土遺物 …… 45
E　金属製品 …… 45
F　木　製　品 …… 46
1）概　　要 …… 46　2）各　　説 …… 46

2　中層（古代）の遺物 …… 47
A　概　　要 …… 47
B　各　　説 …… 47

3　下層（縄文時代）の遺物 …… 48
A　土　　器 …… 48
1）記載の方針 …… 48　2）遺構内出土遺物 …… 57
3）遺構外出土遺物 …… 64

B　焼成粘土塊 …… 65
C　石　　器 …… 66
1）概　　要 …… 66　2）分　　類 …… 66
3）各　　説 …… 68
D　漆　製　品 …… 70
E　アスファルト …… 70

第Ⅵ章　自然科学分析 …… 71

1　出土木製品の樹種同定 …… 71
A　はじめに …… 71
B　試料と方法 …… 71
C　結　　果 …… 71
D　考　　察 …… 71

2　放射性炭素年代測定 …… 72
A　放射性炭素年代測定（1） …… 72
1）はじめに …… 72　2）試料と方法 …… 72
3）結　　果 …… 73　4）考　　察 …… 74
B　放射性炭素年代測定（2） …… 76
1）はじめに …… 76　2）試　　料 …… 76
3）分析方法 …… 76　4）結果および考察 …… 77

3　リン・カルシウム分析 …… 78
A　はじめに …… 78
B　試料と方法 …… 78
C　結　　果 …… 78
D　考　　察 …… 78
E　おわりに …… 79

4　赤色顔料の分析 …… 80
A　はじめに …… 80
B　試　　料 …… 80
C　分析方法 …… 80
D　結　　果 …… 80
E　考　　察 …… 81

5　炭化種実同定および動物遺存体分析
A　試　　料 …… 82
1）ブロック試料 …… 82　2）炭化種実試料 …… 82
3）骨片試料 …… 82
B　分析方法 …… 83
1）水洗選別 …… 83　2）炭化種実同定 …… 83
3）動物遺存体分析（骨・貝類同定） …… 83
C　結　　果 …… 83
1）ブロック試料の炭化種実・動物遺存体の検出状況 …… 83
2）炭化種実同定 …… 88
D　考　　察 …… 96
1）植物利用 …… 96　2）動物利用 …… 98

第Ⅶ章　調査のまとめ …… 103
1　上　　層（中世）…… 103
A　集落の構造 …… 103
B　周辺遺跡との関係 …… 103
2　下　　層（縄文時代）…… 105
A　遺跡の立地と下層の旧地形 …… 105
B　遺　　構 …… 105
1）竪穴建物 …… 105　2）焼土・炭化物の集積（SC）…… 105
3）ピット …… 108　4）埋設土器 …… 108
C　小　　結 …… 109
D　縄文土器 …… 110
1）各器種の特徴 …… 110　2）編年的位置付け …… 116
《引用・参考文献》…… 117
《観　察　表》…… 121

挿図目次

第 1 図　阿賀野バイパスの路線と遺跡の位置 …… 1
第 2 図　試掘トレンチ位置図 …… 2
第 3 図　中・下層の試掘調査と土層柱状図 …… 4
第 4 図　土層堆積模式図 …… 4
第 5 図　噴砂と土層の関係 …… 4
第 6 図　遺跡位置図 …… 9
第 7 図　周辺の自然地形と縄文～弥生時代の遺跡分布図 …… 10
第 8 図　グリッド設定図 …… 13
第 9 図　基本土層と旧地形模式図 …… 15
第 10 図　地震の痕跡 …… 16
第 11 図　砂脈の長軸方向 …… 17
第 12 図　砂脈の長さと幅 …… 17
第 13 図　遺構の平面・断面形態の分類 …… 19
第 14 図　遺構覆土の堆積形状の分類 …… 19
第 15 図　掘立柱建物の計測位置 …… 20
第 16 図　埋設土器の分類模式図 …… 37
第 17 図　刀子名称 …… 45
第 18 図　器種分類と部位の名称 …… 48
第 19 図　口縁形態 …… 49
第 20 図　突起の分類 …… 49
第 21 図　浅鉢の器形分類 …… 50
第 22 図　浅鉢の文様分類模式図 …… 50
第 23 図　浅鉢文様２～６類の文様模式図 …… 50
第 24 図　浮線文の段数の数え方 …… 51
第 25 図　浅鉢文様１類浮線文の種類模式図 …… 52
第 26 図　鉢の器形分類 …… 53
第 27 図　甕の器形分類 …… 54
第 28 図　甕の文様帯構成と文様種類の関係模式図 …… 54
第 29 図　綾杉文及び関連する沈線文の分類模式図 …… 55
第 30 図　深鉢の器形分類 …… 56
第 31 図　深鉢の文様分類模式図 …… 56
第 32 図　壺の器形分類 …… 57
第 33 図　石器の分類 …… 67
第 34 図　結び方 …… 70
第 35 図　赤漆塗り糸玉の分類 …… 70
第 36 図　山口野中遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真 …… 72
第 37 図　山口野中遺跡の放射性炭素年代測定試料 …… 75
第 38 図　各試料の暦年較正結果 …… 75
第 39 図　暦年較正結果（1σ）…… 77
第 40 図　プレス試料およびリンとカルシウムの元素マッピング図 …… 79
第 41 図　糸玉外観 …… 80
第 42 図　X 線回折図（1）…… 81
第 43 図　X 線回折図（2）…… 81
第 44 図　炭化種実出土状況 …… 89
第 45 図　炭化種実（1）…… 99
第 46 図　炭化種実（2）…… 100
第 47 図　炭化種実（3）…… 101
第 48 図　出土骨貝類 …… 102
第 49 図　上層の集落 …… 103
第 50 図　周辺の遺跡全体図 …… 104
第 51 図　焼土・炭化物の集積の規模 …… 106
第 52 図　焼土・炭化物の集積ａ～ｃ類の分布 …… 107
第 53 図　石製品・堅果類の出土状況 …… 107
第 54 図　埋設土器の分布状況 …… 109

第 55 図　山口野中遺跡出土浅鉢・台付浅鉢……111
第 56 図　山口野中遺跡出土鉢……111
第 57 図　山口野中遺跡出土甕……113
第 58 図　山口野中遺跡出土深鉢（1）……114
第 59 図　山口野中遺跡出土深鉢（2）……115
第 60 図　山口野中遺跡出土壺……115

挿表目次

第 1 表　周辺の縄文～弥生時代の遺跡……11
第 2 表　SC の分類……30
第 3 表　器種別石器出土数……66
第 4 表　山口野中遺跡出土木製品の樹種同定結果……71
第 5 表　測定試料および処理……73
第 6 表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果（1）……73
第 7 表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果（2）……77
第 8 表　分析対象一覧……78
第 9 表　半定量分析結果……79
第 10 表　X 線回折測定条件……80
第 11 表　炭化種実・骨貝類抽出同定結果（1）……84
第 12 表　炭化種実・骨貝類抽出同定結果（2）……85
第 13 表　炭化種実同定結果（1）……86
第 14 表　炭化種実同定結果（2）……87
第 15 表　炭化種実出土状況……88
第 16 表　検出動物分類群一覧……92
第 17 表　骨同定結果（1）……93
第 18 表　骨同定結果（2）……94
第 19 表　骨同定結果（3）……95
第 20 表　遺構別・部位別数量表……96

図版目次

【図面図版】
図版 1　調査範囲図
図版 2　基本層序
図版 3　上層遺構全体図
図版 4　上層遺構分割図（1）
図版 5　上層遺構分割図（2）
図版 6　上層遺構分割図（3）
図版 7　上層遺構分割図（4）
図版 8　上層遺構分割図（5）
図版 9　上層遺構分割図（6）
図版 10　上層遺構分割図（7）
図版 11　上層遺構分割図（8）
図版 12　上層遺構分割図（9）
図版 13　上層遺構分割図（10）
図版 14　上層遺構分割図（11）
図版 15　上層遺構個別図（1）SB6 ～ 9
図版 16　上層遺構個別図（2）SE308・349・386
図版 17　上層遺構個別図（3）SE396・398・478・520・SK412・P411
図版 18　上層遺構個別図（4）SE479・SK312・313・317・318・326
図版 19　上層遺構個別図（5）SK327・336・343・346・350・351・358・361・362・382・385・387・390・392・P328
図版 20　上層遺構個別図（6）SK394・395・397・399・400・401・403・407・426・427・433・441
図版 21　上層遺構個別図（7）SK437・444・445・468・471・476・481・488
図版 22　上層遺構個別図（8）SD5・11・25・37・40・300・303・304・306・347・490・553・554・SX525・道 1（SD6・30）
図版 23　中層遺構全体図
図版 24　中層遺構分割図（1）
図版 25　中層遺構分割図（2）
図版 26　中層遺構分割図（3）
図版 27　中層遺構個別図　SB10・SK503・514・531・559・SD46・553・556・P529・538・557・558・SX524
図版 28　下層遺構全体図
図版 29　下層遺構分割図（1）
図版 30　下層遺構分割図（2）
図版 31　下層遺構分割図（3）
図版 32　下層遺物分布全体図
図版 33　下層遺物分布分割図（1）
図版 34　下層遺物分布分割図（2）
図版 35　下層遺物分布分割図（3）

図版 36　下層遺構個別図（1）SI860・SI860-炉・P873・874・895・896・899・901・902・919・921 ～ 923
図版 37　下層遺構個別図（2）SI860、SC283・800
図版 38　下層遺構個別図（3）SC801 ～ 803・SC801-P1 ～ 3
図版 39　下層遺構個別図（4）SC804、P892・927
図版 40　下層遺構個別図（5）SC806 ～ 811・818・821・845・847・856・858、P854
図版 41　下層遺構個別図（6）SC815 ～ 817
図版 42　下層遺構個別図（7）SC825・SC825-P1・2
図版 43　下層遺構個別図（8）SC842・850・863
図版 44　下層遺構個別図（9）SC859・SC859 焼土 2・SC859-P1
図版 45　下層遺構個別図（10）SC859・861、P915・916
図版 46　下層遺構個別図（11）SC866 ～ 868・870 ～ 872・876・884
図版 47　下層遺構個別図（12）SC879・880・885、P906・930
図版 48　下層遺構個別図（13）SC889 ～ 891・893・911・914・918・934
図版 49　下層遺構個別図（14）埋設土器 1・824・828・834・894
図版 50　下層遺構個別図（15）埋設土器 830・839・840、土器集中 831 ～ 833・835・836
図版 51　下層遺構個別図（16）埋設土器 837・883・887・898・903・908・924・928
図版 52　下層遺構個別図（17）土器集中 1 ～ 3
図版 53　下層遺構個別図（18）埋設土器 933、土器集中 820・822・838・852・864・881・886
図版 54　下層遺構個別図（19）土器集中 865・888・932、P848・851・855・878・925
図版 55　中世の土器　SE349・386・479・SK343・362・397・445・P450・SD300・遺構外出土
図版 56　土器転用研磨具・石製品・金属製品・古代の土器　SE349・386・SD11・300・SK488・遺構外出土
図版 57　中世の木製品　SE386・479・520
図版 58　縄文時代の土器（1）SI860・SC800・801
図版 59　縄文時代の土器（2）SC803・804・806・808・811・815
図版 60　縄文時代の土器（3）SC816・817・825・842・850・859
図版 61　縄文時代の土器（4）SC859・879
図版 62　縄文時代の土器（5）SC861・866・868・914・埋設土器 1・824
図版 63　縄文時代の土器（6）埋設土器 824・828・830・834
図版 64　縄文時代の土器（7）埋設土器 837・839・840・883
図版 65　縄文時代の土器（8）埋設土器 887・894・898・903・908・924
図版 66　縄文時代の土器（9）埋設土器 928・933・土器集中 1
図版 67　縄文時代の土器（10）土器集中 2・3・820・822・836
図版 68　縄文時代の土器（11）土器集中 835・838・852・864・865
図版 69　縄文時代の土器（12）土器集中 881・886・888・932
図版 70　縄文時代の土器（13）遺構外出土遺物
図版 71　縄文時代の土器（14）遺構外出土遺物
図版 72　縄文時代の土器（15）・焼成粘土塊
図版 73　縄文時代の石器（1）
図版 74　縄文時代の石器（2）
図版 75　縄文時代の石器（3）・石製品・漆製品・糸玉・アスファルト

【写真図版】

図版 76　カラー図版（1）遺跡近景
図版 77　カラー図版（2）調査区全景・基本層序・噴砂・噴砂口・陥没・SC863・埋設土器 883
図版 78　カラー図版（3）SI860・SC825・842・859・埋設土器 1・824
図版 79　カラー図版（4）下層出土土器・石器・糸玉・漆製品・アスファルト
図版 80　遺構（1）SB7 ～ 9・SE386・398・478・479
図版 81　遺構（2）SB6・SB7-P381・SE308・349・386・396・398・SK412・P411
図版 82　遺構（3）SE478・479・520・SK312・313
図版 83　遺構（4）SK336・346・351・362・385・390・395・397・399・SD373
図版 84　遺構（5）SK403・437・471・476・488・SD347・SX525
図版 85　遺構（6）SD11・37・40・300・303・553・554・道 1（SD6・30）
図版 86　遺構（7）中層完掘・SK503・531・SD46
図版 87　遺構（8）SI860
図版 88　遺構（9）SI860・SI860-炉・SI860-P873
図版 89　遺構（10）SI860-P874・895・896・899・901・917・919・921・923
図版 90　遺構（11）SC283・800 ～ 803
図版 91　遺構（12）SC804・806

図版 92　遺構（13）SC807・810・815 ～ 817・850・858
図版 93　遺構（14）SC825
図版 94　遺構（15）SC842
図版 95　遺構（16）SC842・859・SC859 焼土・SC859-P1
図版 96　遺構（17）SC861・866・867・870・879
図版 97　遺構（18）SC880・884・911・914・918
図版 98　遺構（19）SC914・埋設土器 824・828・830
図版 99　遺構（20）埋設土器 834・837・839・840・883・887
図版 100　遺構（21）埋設土器 894・903・908・928・933・土器集中 1・2
図版 101　遺構（22）土器集中 820・835・865・886・932・P848・855・878
図版 102　中世の土器・土器転用研磨具・石製品・鉄製品　SE349・386・479・SK343・362・397・445・488・P450・SD11・300・遺構外出土
図版 103　中世の木製品・古代の土器　SE386・479・520
図版 104　縄文時代の土器（1）SI860・SC800・801・803
図版 105　縄文時代の土器（2）SC804・806・808・811・815・816・817・825
図版 106　縄文時代の土器（3）SC842・850・859・861・868
図版 107　縄文時代の土器（4）SC879・914・埋設土器 824
図版 108　縄文時代の土器（5）埋設土器 1・828・830・834
図版 109　縄文時代の土器（6）埋設土器 837・839・840・883・887
図版 110　縄文時代の土器（7）埋設土器 894・898・903・908・924・928・933・土器集中 1
図版 111　縄文時代の土器（8）土器集中 2・3・820・822・836・838
図版 112　縄文時代の土器（9）土器集中 835・852・864・865・881
図版 113　縄文時代の土器（10）土器集中 886・888・932・遺構外出土遺物
図版 114　縄文時代の土器（11）遺構外出土遺物
図版 115　縄文時代の土器（12）・縄文時代の石器（1）
図版 116　縄文時代の石器（2）・石製品

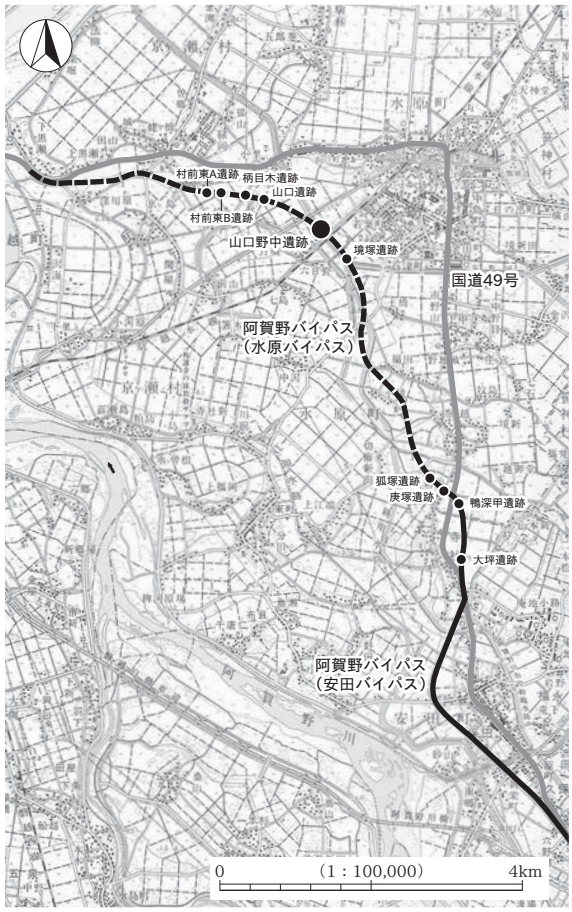
第Ⅰ章　序　　章

1　調査に至る経緯

一般国道49号（福島県いわき市～新潟市）は、太平洋側と日本海側を結ぶ重要な幹線道路である。県内では、沿線の阿賀町・阿賀野市と新潟市を結ぶ地域幹線道路として重要な役割を果たしている。道路は阿賀野市の市街地（旧安田町・旧水原町・旧京ヶ瀬村）を通過しており、幅員が狭小なため、その交通量に対応できず、交通混雑、交通騒音、交通事故等都市機能や生活環境に与える影響が問題となっている。これらの問題を解消し、安全かつ円滑に交通を処理することを目的に、「一般国道49号安田バイパス」（阿賀野市六野瀬～同市寺社間5.6km）と「一般国道49号水原バイパス」（阿賀野市寺社～同市下黒瀬間8.1km）が計画された。これら二つのバイパスは、2004年の市町村合併に伴う阿賀野市の誕生を機に、「阿賀野バイパス」と呼称されることもある（第1図）。

阿賀野バイパスのうち、安田バイパスは1977年に事業化され、1979年に用地着手、工事着手は1981年である。1985年に六野瀬～寺社間の4.3kmで暫定供用され一時事業が中断した。1998年度に同事業が復活し、寺社地内未供用区間1.3kmの用地着手が行われた。これを受けて国交省と県教委との間で、建設用地内における埋蔵文化財の取扱い、試掘調査に関する協議が本格化し、2003年に国交省から試掘調査の依頼を受けた県教委は、埋文事業団に調査を委託した。試掘確認調査の結果、周知の遺跡である大坪遺跡の調査範囲を確定した。また、鴨深甲（かもふけこう）遺跡を新遺跡として登録した。両遺跡の本発掘調査は大坪遺跡を2004年度、鴨深甲遺跡を2005年度に実施した。

水原バイパスは、1999年3月に都市計画道路として決定され、翌2000年4月に事業化、2003年度から用地着手が行われた。これを受けて国交省と県教委との間で、建設用地内における埋蔵文化財の取扱い、試掘調査に関する協議が本格化した。2005年4月、国交省から試掘調査の依頼を受けた県教委は、埋文事業団に調査を委託した。これ以降、試掘調査が本格化し、2005年度に庚塚（かのえづか）遺跡、2006年度に狐塚（きつねづか）遺跡、2007年度に村前東（むらまえひがし）A遺跡・村前東B遺跡・柄目木（からめき）遺跡・山口遺跡、2008年度には境塚遺跡を新遺跡として登録した。本発掘調査は、2007年度から本格化し、2007年度



第1図　阿賀野バイパスの路線と遺跡の位置

〔国土地理院発行「新潟」「新津」1：50,000原図〕

に庚塚遺跡・狐塚遺跡、2008・2010・2013 年度に山口遺跡、2008・2009・2011 年度に柄目木遺跡、2009 年度に境塚遺跡・村前東 A 遺跡・村前東 B 遺跡の発掘調査を実施した。

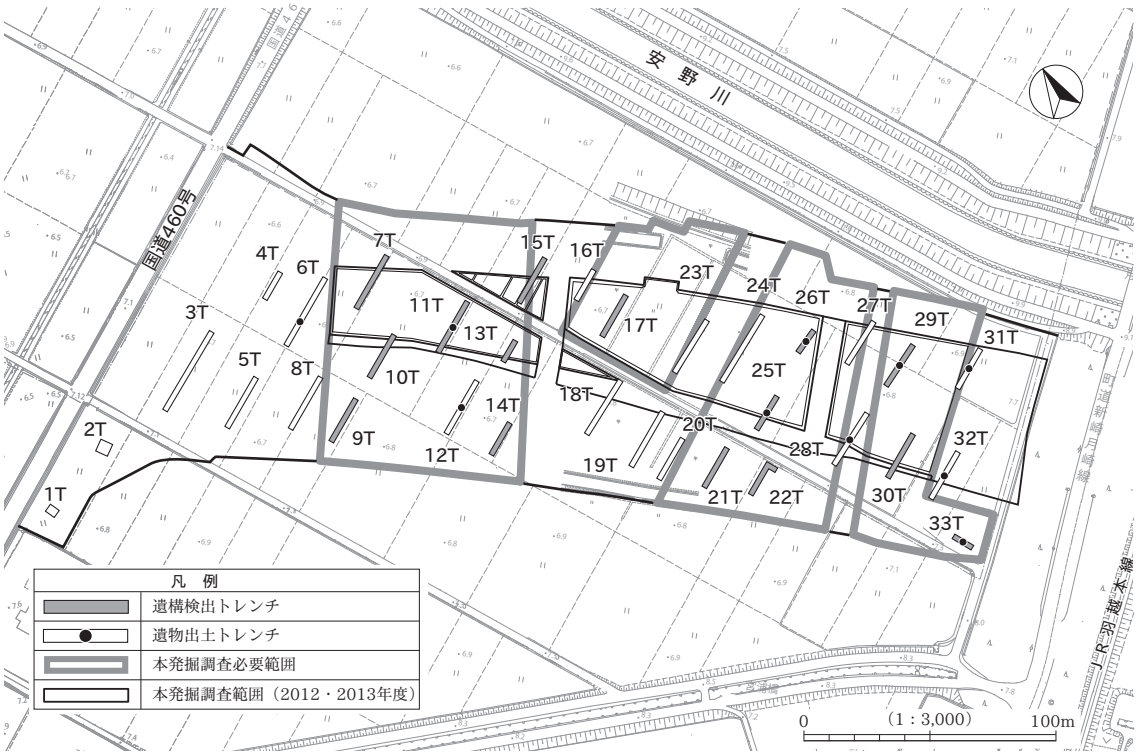
山口野中遺跡は 2008 年 1 月に県営湛水防除事業に伴う阿賀野市教育委員会による試掘調査で新発見された遺跡である。遺跡は安野川左右の両岸に約 50,000m² にわたって広がり、阿賀野バイパス建設予定地内における本発掘調査面積は 23,271m² である。2012 年 3 月、国交省から委託を受けた県教委は、埋文事業団に本発掘調査を行うよう依頼し、埋文事業団は 2012 年度に縄文時代、古代・中世面、中世面の延べ 9,128m² の調査を行った。なお、縄文時代、古代・中世面については、中世の井戸下半部の調査に伴い、井戸付近の縄文時代、古代・中世面を井戸拡張区として部分的に調査した。2013 年度は、調査区内を走る農道・用排水路、工事用道路部分のほか、バイパス建設に伴う盛土の影響範囲を含めた縄文時代、古代・中世面、中世面の延べ 14,857m² の調査を実施した（第 8 図）。

2 調 査 経 過

A 試 掘 調 査

山口野中遺跡のバイパス法線に関わる試掘調査は、埋文事業団が 2008 年 5 月 8 日～5 月 22 日に行った。調査地点は国道 460 号から JR 羽越本線の間である（第 2 図）。調査対象面積は 35,960m²、実質調査面積は 1,042m²、試掘確認率は 2.9% である。試掘調査は、調査対象地に調査坑（試掘トレンチ：略号 T）を任意に設定し、重機（バックホー）及び人力による掘削・精査を行い、遺構・遺物の有無を確認した。その後、土層堆積状況、トレンチ位置、遺構・遺物の検出状況等を図面・写真に記録する方法で行った。試掘トレンチは 33 か所設定し、遺物はトレンチ西端から 2m 単位で取り上げた。

調査の結果、北西側の 7 ～ 15T、17T 付近と南東側の 21 ～ 26T、29 ～ 33T の大きく 4 つの範囲で



第 2 図　試掘トレンチ位置図

遺構を検出した。9・10Tでは柱穴・土坑・土坑状炭窯・溝を検出した。出土遺物から中世集落の一部と見られる。また、このほかは溝を主体に検出した。溝の覆土は灰色系と灰褐色・褐色系に2分できる。中世の遺物が包含される遺構は後者、近世以降の遺物が出土する遺構は前者であり、こうした傾向は本発掘調査の結果と整合する。

以上から、山口野中遺跡は試掘トレンチでの遺構検出を基に4か所（7～15T、17T付近、21～26T、29～33T周辺）を範囲とし、本発掘調査必要面積は20,785m^{2}として、平成20年8月7日付、新埋第172号で県教委に試掘調査報告書を提出した（第2図）。しかし、調査対象を分割したが、本発掘調査では遺構がつながったことから対象は広がった。また、2012年度は、本発掘調査と並行して、下層における遺構・遺物の有無を把握する調査を行った。確認トレンチは15か所設定し、調査は試掘調査と同様の方法で行った。調査の結果、遺構検出面はⅡ・Ⅳ・Ⅶ層の3面あることが認められ、Ⅱ層上面は中世（上層）、Ⅳ層上面は古代・中世（中層）、Ⅶ層上面は縄文時代晩期（下層）であることが明らかとなった（第5図）。

古代・中世に属する遺構は、2区の3・11Tで検出した。Ⅳ層の堆積は起伏があり、1区9～10Tでは土層の落込みが著しく、西側へ向かう斜面部を形成する。これより東側の2区1～4T、10・11Tにかけては徐々に標高を上げ、3区5～7T、12～15Tでは平坦面となる。遺構は2区の緩斜面で検出した。3T壁面では、Ⅳ層を掘り込む遺構があり、そのくぼみにⅢ層土が落込む。また、11Tではピットを検出した。中層は、遺構の検出状況から、2区の緩斜面部に分布域をもつものと見られる。3区については、Ⅱ・Ⅲ層が削平されていたことから、Ⅳ層上面の調査は2012年度で終了した。また、1区については農道及び用排水路が存在するため、1区全域の確認調査ができなかった。このため、2013年度はトレンチによる調査が必要である。

以上から、古代・中世面は2区全域の範囲とし、本発掘調査必要面積は、1区のトレンチ調査部分を含めた5,616m^{2}とした。

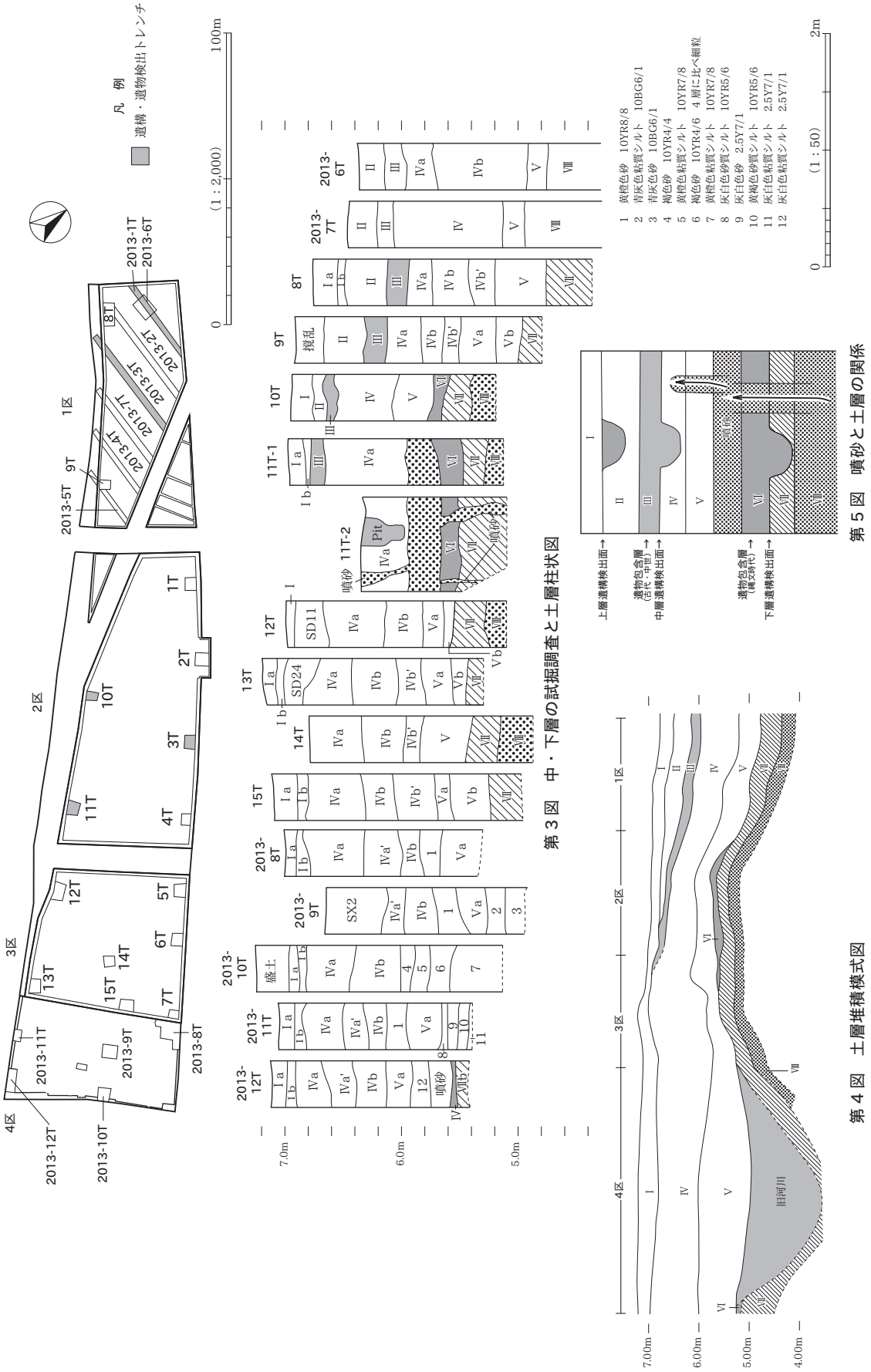
縄文時代に属する遺構・遺物は、2区の3・10・11TのⅥ・Ⅶ層で検出し、10Tでは埋設土器を検出した。Ⅵ層の堆積は2区で認められるが、西側1区と東側3区では不明瞭となる。3区13～15Tでは、有機物層と考えられる暗オリーブ褐色砂質シルトが堆積し、下位の灰色砂質シルトからは流木・礫が出土した。こうした土層の堆積は河川の埋積形状を示しており、3区は旧河川部分にあたるものと見られる。また、東側1区においてはⅣ～Ⅶ層が急激に落込むことから旧河川存在が推定される（第3・4図）。遺構・遺物を検出した2区は、東西の旧河川に挟まれた微高地と考えられ、土層断面から、遺跡は旧河川に沿って南北方向へ延びると推定される。また、旧河川部分からの遺構・遺物の出土はなかった。

以上から、縄文時代面は2区の全域の範囲とし、本発掘調査必要面積は、5,482m^{2}とした。

2012年度は上層のほか、上層で検出した井戸下半部の調査に伴い井戸付近の中・下層を井戸拡張区として調査した。調査面積は上層：8,623.6m^2、中層：252.2m^2、下層：252.2m^{2}の延べ9,128m^{2}である。発掘調査報告書は2013年度に刊行した。2013年度は、上層:3,759m^2、中層:5,616m^2、下層:5,482m^{2}の延べ14,857m^{2}の調査を実施した。

B　本発掘調査

本発掘調査は、2013年4月1日～11月30日に行った。調査区は、2012年度の調査で工事用道路を境に便宜的に分けた1区・2区・3区を踏襲し、年度途中から新たに調査した3区からJR羽越本線側の範囲を4区とした（第8図）。



第３図　中・下層の試掘調査と土層柱状図

第５図　噴砂と土層の関係

第４図　土層堆積模式図

本発掘調査は、上層（1～3区）→中層（2区）→下層（2区）・上層（4区）の順に行った。

4月1日～4月11日に調査区内を走る工事用道路と農道を撤去した。また、農道脇に敷設された既存の用排水路については、調査区外へ迂回させる工事を行った。バックホーによる表土掘削は、これらの工事と並行して4月9日～4月15日に行った。4月16日から作業員による上層の遺構検出を開始した。上層では、掘立柱建物・井戸・土坑・溝などを検出した。遺構の分布は粗密があり、2012年度の調査で検出した中世集落付近の2区南東側に多く、このほかは少ない。遺構の検出状況から、集落は調査区外の更に南側へ延びるものと考えられる。このほか、2012年度の調査で検出した近世以降に属する溝につながるものも複数確認した。溝の覆土は粘性の弱い灰色系シルトの堆積が認められることが特徴である。これらについては完掘せず、遺構平面・土層断面を図面・写真に記録した。上層の調査（1～3区）は5月21日に終了した。また、本発掘調査と一部並行して、4月20日～5月10日に2区の暗渠敷設工事を行った。

5月13日～5月21日に、1区において中･下層の遺構･遺物の有無を把握するための調査を行った（第3図）。1区全域に東西方向のトレンチを設定し、バックホーによりⅢ層を掘削した後、Ⅳ層上面を人力で掘削・精査した。遺物は土師器椀の底部片が1・3Tで各1点出土した。この後、下層の遺構・遺物の有無を把握するために、Ⅳ層から約1.5m下まで掘削し、遺構・遺物の有無を確認したが、いずれのトレンチからも遺構・遺物は検出できなかった。この結果、1区の中・下層については、遺構は検出できず、遺物の出土が僅少なことから、本発掘調査は不要と判断した。

5月22日～6月3日に2区の間層（Ⅱ・Ⅲ層）掘削を行った。Ⅲ層から古代・中世の遺物が少量出土したことから、Ⅲ層は古代・中世の遺物包含層と判断した。6月3日からⅣ層上面の遺構検出を行い、中層の調査を開始した。遺構には土坑･溝･ピットなどがあり、ピットが2区南端部にやや集中するものの、これ以外は調査区全域に散在していた。中層の調査は7月3日に終了した。

7月3日～7月29日に下層の土層堆積状況を把握するために、東西方向に2か所のトレンチを設定した。トレンチは、バックホーによりⅣ・Ⅴ層を掘削した後、Ⅵ層を人力で掘削・精査した。この結果、縄文時代晩期の地形は調査区南側が微高地となり、北及び東西方向へ向かって緩やかな斜面を形成し、北側は低位面となっている状況が明らかとなった。また、土層断面には、地震により液状化して砂が噴出する噴砂の痕跡が認められた。噴砂は縄文時代の生活面であるⅥ層を貫きⅥ層上位に堆積するものと、Ⅳ層上位にまで及ぶものの2種類が観察された（第5図）。噴砂は2012年度で検出した中世の井戸に切られていることから、地震は縄文時代晩期以降、中世までの間に起ったものと考えられる。下層における土層堆積状況を確認した後、7月16日～8月31日にバックホーによる間層（Ⅳ・Ⅴ層）掘削を行った。2区南側1,300m^{2}の間層掘削が終了した時点で、バックホーと作業員が近接した作業とならないことを確認し、7月31日から下層の調査を本格的に開始した。遺構は、竪穴建物・土坑・埋設土器のほか、焼土・炭化物の集積などを検出した。遺構は南側の微高地から北側の低位面にかけて多く検出し、北東・北西側の斜面部では少ない。遺構の検出状況から、遺跡は調査区外の南北へ延びることが推定される。遺構は焼土・炭化物の集積が主体で、大半の焼土からは白色の微細な骨片が出土した。このため、焼土・炭化物の集積範囲の土壌を採取し、冬季整理期間に洗浄した。また、SC842の炭化物層からは漆製品が出土した。漆製品は脆弱なため、11月8日、埋文事業団保存処理担当の三ッ井朋子班長が来跡し、発泡ウレタンを用いて固め、遺物周辺の土ごと取り上げた。

4区の表土掘削は､9月2日～9月11日に行った。4区の本格的な調査は､2区の下層調査と並行して、10月14日から開始した。遺構は掘立柱建物・井戸・土坑などを検出し、井戸から珠洲焼などが出土し

たことから中世の集落と考えた。遺構の分布はJR羽越本線寄りの南側に偏っており、集落は調査区外の更に南側へ広がる状況が窺えた。井戸については崩落の危険があったため、最初は上半部の調査を行った。井戸の下半部は調査区の全体写真撮影が終了した後、重機を併用し、安全を確保してから周囲を掘削して調査することとした。

現地説明会は10月26日に開催し、77名の見学者が訪れた。11月15日、県教委が終了確認をした後、11月23日に航空写真を撮影した。4区における下層の遺構・遺物の有無を把握するための調査は、航空写真撮影終了後の11月25日・11月26日のほか、9月2日、10月19日に行った（第3図）。調査の結果、いずれのトレンチからも遺構・遺物の出土は無かった。井戸下半部の掘削は、11月25日～11月27日に行い、SE386・479から水溜に設置された曲物が出土した。11月28日～11月30日に2区において、縄文遺構の掘り残しがないかを確認するために、バックホー及び人力により掘削・精査した。この結果、埋設土器933を検出し、調査を行った。すべての作業は11月30日に終了した。

C　中層・下層の確認

中・下層における遺構・遺物を把握するための調査は、調査の進行状況に合わせて適時行った。調査は第Ⅰ章2Aと同様の方法で行った。調査対象面積は4072.7m²、実質確認面積は486m²、確認率は0.119%である。

1）1　　区

1区における中・下層の遺構・遺物の有無を把握するための調査は、1区上層の調査終了後の5月13～21日に行った。始めに中層の確認を目的として、1区全域を網羅するように東西方向に5か所のトレンチを設定した（第3図）。調査の結果、1・3TのⅢ層から土師器椀の底部片が各1点出土したが、これ以外のトレンチからは遺構・遺物の出土は認められなかった。この後、下層の有無を把握するために、1区中央部と北西端に2か所のトレンチを設けた。なお、南側と西側部分については、2012年度に確認を終えている［村上ほか2013］。調査の結果、いずれのトレンチにもⅥ層の堆積は認められず、遺構・遺物は検出されなかった。

以上から、1区の中・下層については、遺構は検出されず、出土した遺物も僅少であることから、本発掘調査は不要であると判断した。

2）4　　区

4区における下層の遺構・遺物の有無を把握するための調査は、9月2日、10月19日、11月25日・11月26日に行った。中層については、Ⅲ層が削平されていたことから、Ⅳ層上面の調査は2013年度で終了した。下層の確認トレンチは、4区全域に5か所設定した（第3図）。調査の結果、いずれのトレンチからも、遺構・遺物は検出されなかった。土層は、12TでⅥ層が2～8cmの層厚で堆積することを確認したが、このほかは、Ⅵ層の堆積は認められなかった。2012・2013年の本発掘調査では、2区東側から3区にかけて旧河川を検出した。土層の堆積状況から、3区の東側に連続する4区についても、この旧河川の範囲内にあるものと推定される。

以上の調査結果から、下層に所属する遺構・遺物の出土は認められなかった。したがって、4区における下層の本発掘調査は不要であると判断した。

D　整理作業の経過

整理作業は2013・2014年度に行った。遺構の記録類及び遺物の洗浄・註記については、現地で基礎作業を進め、現地作業終了後に本格的な整理作業に着手した。本発掘調査終了後は、記録類・遺物を株式会社帆苅組整理事務所に搬入し、遺構図面整理と遺物の接合・実測・トレースのほか、現地で採取した土壌の水洗及び土壌から検出した遺物の選別を行った。

本文･挿図、遺構･遺物の図面図版･写真図版の作成及び編集作業は、有限会社不二出版にテキストデータ・挿図原図・遺構測量データ・遺構原図・遺物トレース図・レイアウト図案を支給して委託し、印刷用データで納品を受け、2014年度に印刷・刊行した。

3　調査・整理体制

A　試　掘　調　査

調査期間　2008年5月8日～5月22日
調査主体　新潟県教育委員会（教育長　武藤克己）
調　　査　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括　木村正昭（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　事務局長）
管　　理　斎藤　栄（　同　総務課長）
庶　　務　長谷川靖（　同　班長）
調査総括　藤巻正信（　同　調査課長）
調査担当　田海義正（　同　担当課長代理）
調査職員　畠野義昭（　同　主任調査員）

B　本発掘調査・整理作業

調査期間　2013（平成25）年4月9日～11月30日
整理期間　2013年12月1日～2015年3月31日
調査主体　新潟県教育委員会（教育長　高井盛雄）
調　　査　公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（2014年度から公益財団法人）
総　　括　木村正昭（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　事務局長）2013年12月31日まで
　　土肥　茂（公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　事務局長）2014年1月1日から
管　　理　熊倉宏二（　同　総務課長）
庶　　務　仲川国博（　同　班長）
調査総括　高橋　保（　同　調査課長）
調査指導　田海義正（　同　担当課長代理）
調査組織　株式会社　帆苅組
現場代理人　伊藤　聡（株式会社　帆苅組　埋蔵文化財調査室）
調査担当　村上章久（　同　）
調 査 員　高橋　均（　同　）
　　建部真也（　同　）2013年7月31まで
　　今村　克（　同　）2013年8月1日から
補 助 員　佐藤直美・大瀧明美・佐藤由紀・田中加代子・渡部由江・伊藤麻美・
　　大月清也・渡部　覚・齊藤　準（　同　）

第Ⅱ章　遺跡の歴史的環境

遺跡の地理的環境及び古代・中世の歴史的環境については、既刊の報告書『山口野中遺跡』［村上ほか 2013］で記載しているので、ここでは、遺跡周辺の縄文時代の歴史的環境について概観する。また、遺跡分布図には後続する弥生時代の遺跡も掲載した。

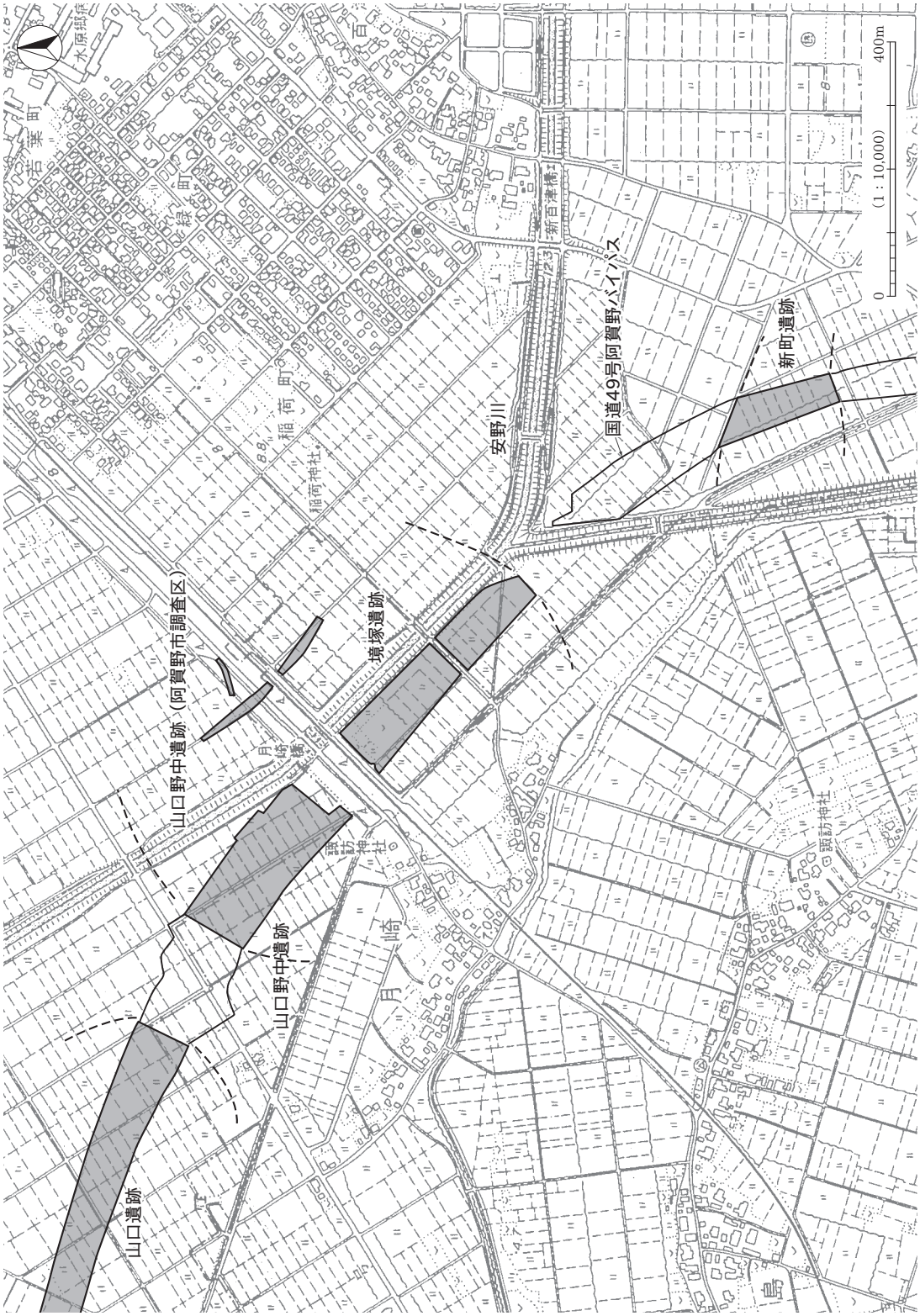
1　地形と遺跡の分布（第７図・第１表）

当遺跡が所在する阿賀野市の地勢は、東に五頭（ごず）連峰と笹神（ささかみ）丘陵、西に阿賀野川とその支流が作り上げた沖積平野から構成される。五頭連峰の西側には、標高 100m 前後の笹神丘陵が約 18km にわたって広がり、五頭連峰と笹神丘陵の間には、標高約 30 ～ 40m 前後の村杉低地帯と呼ばれる狭長な平地が南北方向に延びている。また、笹神丘陵の南西には標高約 20 ～ 30m 前後の上野林（うわのばやし）段丘がある。上野林段丘は、1970 年代に実施された圃場整備事業、1999 年～ 2003 年の新潟県東部産業団地（阿賀野市テクノタウン）の造成などにより、段丘が掘削され、現在は大きく地形が改変されている。

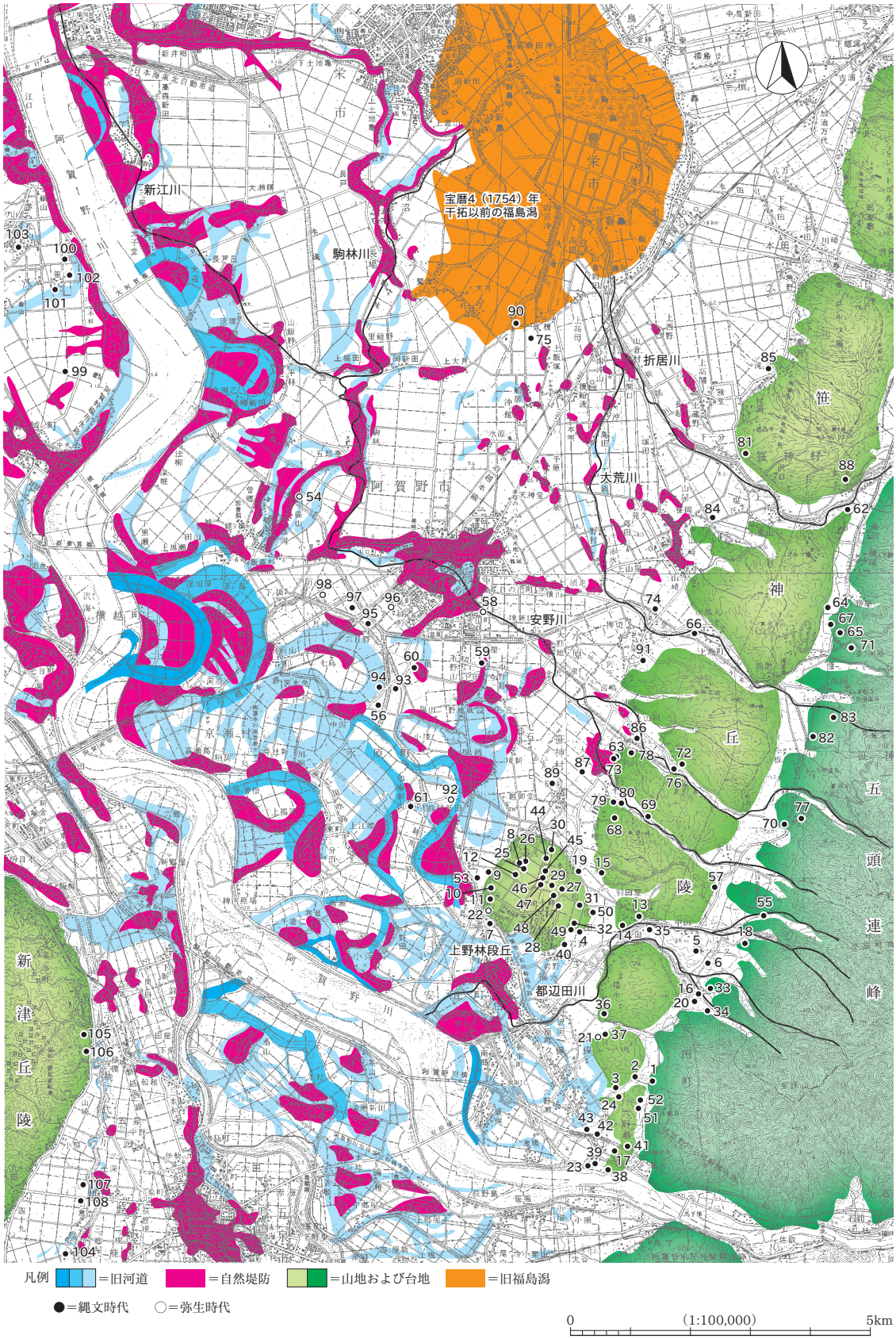
五頭連峰に源流を発する河川は、村杉低地帯と笹神丘陵を横断し、北西・西方向へ流れ出る。主な河川には、北から折居（おりい）川・大荒川・安野（あんの）川・都辺田（つべた）川などがあり、河川は砂礫や土砂を運搬し、五頭山西麓・笹神丘陵裾部には扇状地が形成されている。一方、西側を流れる阿賀野川は、氾濫することで東から西へと流路を変え、沖積平野には旧河道の痕跡が網目状に残り、この旧河道に沿って自然堤防が発達する。なお、大荒川と安野川は、昭和初期の河川改修により２川が合流され、現在では流路が変更されている（第６・７図）。

縄文時代～弥生時代の遺跡は、五頭連峰西麓、笹神丘陵、これらを横切る河川が作り出す扇状地のほか、上野林段丘、沖積平野に分布する。遺跡の分布には疎密があり、折居川以北では少なく、これより南側へいくにつれ遺跡数が増加する。特に笹神丘陵の南西側縁辺部、南側先端部の縁辺と上野林段丘に集中する。沖積平野では、大荒川・安野川流域のほか、旧河道の縁辺部や自然堤防上に分布する。また、月崎・六日野・百津集落付近（旧水原町）から六野瀬集落（旧安田町）を結ぶ線より西側は、阿賀野川の旧河道の痕跡が多く認められ、阿賀野川の度重なる氾濫の様子が窺える。なお、この区域では、阿賀野川の氾濫が頻繁に発生していたためか、遺跡が見つかっていない。

縄文時代～弥生時代の主な遺跡を見ると、五頭山西麓ではツベタ遺跡（6）・村杉遺跡（70）、笹神丘陵では、六野瀬遺跡（23）・萩野遺跡（43）・獅子沢遺跡（52）・浦林遺跡（66）、上野林段丘では、山ノ下遺跡（7）・中道遺跡（10）・藤堂遺跡（11）・物見山遺跡（22）・横峰Ａ遺跡（25）・横峰Ｂ遺跡（26）などがある。これら丘陵～段丘上に立地する遺跡は、縄文時代中期～後期の遺跡が多い。また、上野林段丘では山ノ下遺跡（7）・物見山遺跡（22）など弥生時代中期の遺跡が近接して存在する［石川 2005］。一方、沖積平野では、猫山遺跡（54）［古澤ほか 2003］・石船戸遺跡（56）・下金田遺跡（58）［関 1973a］・榎木大割遺跡（90）・狐塚遺跡（92）［佐藤ほか 2009］・境塚遺跡（95）・三辺稲荷遺跡（96）［古澤ほか 2011b］・山口遺跡（98）［荒谷ほか 2010］などの遺跡があり、縄文時代晩期～弥生時代前・中期の遺跡の分布が目立つ。当該期には低地にも活動範囲が広がっていった状況が窺える。



第６図　遺跡位置図〔水原町全図を一部改変〕



第７図　周辺の自然地形と縄文～弥生時代の遺跡分布図

（国土地理院地形図「新潟」「新津」「新発田」「津川」1：50000 に建設省北陸地方建設局「阿賀野川水害地形分類図」・新潟県教育委員会「福島潟」近世の干拓地を合成・改変、河川については大日本帝國陸地測量部発行　大正３年「出湯」「松ヶ濱」　大正 15 年「水原」「新津」　地理調査所発行昭和 23 年「天王」1：25,000 を参照。）

2　遺跡周辺の歴史的環境

A　五頭山西麓の遺跡

五頭山西麓の主な遺跡には、ツベタ遺跡（6）・村杉遺跡（70）などがある。ツベタ遺跡（6）は、五頭山西麓の扇状地に立地し、標高約 70m を測る。1886 年に歴史地理学者吉田東伍により発見され［吉田 1889］、この後、1963・1972・1982・1983 年に調査が行われた。遺跡は複数回の土石流により埋没しており、この土石流を間層として 4 層の生活面が検出され、中期の馬高式・大木 8b 式土器、後期の三十稲場式土器が出土した。遺構では、三十稲場式土器が埋設された石組炉などが検出され、中期前葉～後期初頭まで続く大規模な遺跡と考えられる［中川ほか 1971、関ほか 1973b、川上ほか 1984、川上 2004］。

村杉遺跡（70）は、旧笹神村に所在する村杉温泉の南西側、標高 60 ～ 70m の扇状地に立地する。ツベタ遺跡とは約 2km の距離にある。戦時中、オランダ人考古学者ジェラード・グロードが調査を行い、1956 年、上原甲子郎を担当とする北方文化博物館主催の調査が実施された。1962 年には、中川成夫らにより調査が行われ、中期の竪穴住居が重複して検出された。出土遺物から、中期前半～中葉を中心とする集落と考えられる［中川ほか 1963・1971、川上 2003］。

B　笹神丘陵の遺跡

笹神丘陵に立地する遺跡には、六野瀬遺跡（23）・萩野遺跡（43）・獅子沢遺跡（52）・浦林遺跡（66）などがある。六野瀬遺跡（23）は、阿賀野川右岸の標高 20m 前後の笹神丘陵末端に立地する。縄文時代前期～弥生時代・中世にわたり、断続的に営まれた遺跡である。主体となる時期は、縄文時代晩期末葉～弥生時代中期、中世である。このうち、縄文時代晩期では浮線文土器の良好な資料が出土しており、鳥屋 2b 式土器の標識となる遺跡である。また、石器組成は、石鏃・石錐の割合が高いことが特徴である。［石川・渡邊ほか 1992］。

No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
1	野中	縄文（中・後）	28	上野林 D	縄文	55	大日ヶ原Ⅱ	縄文（中）	82	布依徒塚	縄文
2	徳正寺	縄文（中）	29	上野林 E	旧石器・縄文	56	石船戸	縄文（晩）・平安・中世	83	大石沢	縄文（後）
3	新割	縄文（中）・平安	30	上野林 F	縄文	57	大日ヶ原Ⅰ	縄文	84	大沢	縄文（中）
4	上野林 A	縄文（中）	31	上野林 G	縄文	58	下金田	弥生	85	滝沢貝喰	縄文
5	中山	縄文（中）	32	上野林 H	縄文	59	久祢添	縄文・平安	86	上小山中	縄文
6	ツベタ	縄文（中・後）	33	吉ヶ沢平	縄文	60	土橋	縄文（後）・平安	87	鶴渕	縄文・室町
7	山ノ下	縄文（中・後）・弥生（中）	34	中峰下	縄文	61	熊居上の山	縄文（中）・平安	88	女堂上ノ山	縄文
8	横峰 C	縄文（中・後）	35	篭田中山	縄文	62	木倉山	旧石器・縄文	89	大室堤下	縄文（中）
9	小山崎	縄文（後）	36	蔵敷林	縄文・平安	63	王ヶ峯	縄文	90	榎木大割	縄文（後・晩）
10	中道	縄文（中・後）	37	用水林	縄文	64	畑井	縄文（前）	91	宮下	縄文
11	藤堂	縄文（中・後）	38	渡場赤坂山A	縄文	65	横道下	縄文（中）	92	狐塚	弥生（中）・中世
12	行塚	縄文（中・後）	39	渡場赤坂山B	縄文（中）	66	浦林	縄文（中）・平安	93	石船戸東	縄文（中・後・晩）・平安・室町
13	家添	縄文	40	岩野 B	縄文（中）	67	中野	旧石器・縄文（中・晩）	94	石船戸北	縄文・中世
14	家裏	縄文	41	赤坂山 B	縄文（中）	68	貝喰平	縄文（中）	95	境塚	縄文（晩）・古墳・平安・中世
15	手城山	縄文	42	官林	縄文（前）	69	風吹沢	縄文（中）	96	三辺稲荷	弥生（前）・平安・中世
16	丸山	縄文	43	萩野	縄文（前・中・後）・弥生	70	村杉	縄文（中・後）	**97**	**山口野中**	**縄文（晩）・古代・中世**
17	赤坂山	縄文	44	上野林 I	縄文	71	畑江	縄文	98	山口	弥生（前～中）・古代・中世
18	日陰平	縄文	45	上野林 J	旧石器・縄文・平安	72	川端 B	縄文（後）	99	小杉上田	縄文・古代
19	二本松	縄文	46	上野林 K	縄文	73	大室	縄文	100	中山	縄文（中・後）・古墳・古代
20	保田新割	縄文	47	上野林 L	縄文・平安	74	馬屋尻	縄文（中）	101	笹山前	縄文（後）・弥生・古墳・古代
21	山下 A	弥生	48	上野林 M	縄文・平安	75	小曽根	縄文・弥生・平安	102	城山	縄文・古墳・平安・鎌倉
22	物見山	弥生（中）	49	上野林 N	縄文	76	川端 A	縄文	103	松山	縄文・中世
23	六野瀬	縄文（前・晩）・弥生（中）	50	上野林 O	縄文	77	薬師平 B	縄文	104	五百地	縄文（中）
24	不動院	縄文・平安	51	円山	旧石器・縄文（前～後）	78	下里 B	縄文	105	小実山	縄文（前・中・後）・弥生・古代
25	横峰 A	縄文（晩）・弥生	52	獅子沢	縄文（晩）・弥生（中）	79	貝喰	縄文	106	下野山	縄文（後）
26	横峰 B	縄文（中）	53	大坪	縄文・弥生・平安・中世	80	十二神	縄文	107	新田	縄文（後）
27	上野林 B	縄文（中）	54	猫山	弥生（中）	81	下一部	縄文・平安	108	巳ノ明	縄文（後）

第１表　周辺の縄文～弥生時代の遺跡

萩野遺跡（43）は笹神丘陵南端に立地する。標高約 22m を測り、丘陵と阿賀野川右岸の沖積平野との接点に位置する。遺物は縄文時代中期～弥生時代の土器が出土しているが、中期前葉の新保・新崎式土器が主体である。石器の出土数は少ないが、撥形の磨製石斧がまとまって出土した［亀井・鈴木ほか 1994］。

獅子沢遺跡（52）は笹神丘陵南端に立地し、標高は約 40m を測る。遺物は縄文時代晩期末葉～弥生時代中期前葉の土器が主体である［菅井・村山 1996］。また、遺跡の南側には円山遺跡（51）が隣接する。円山遺跡は旧石器時代を主体とする遺跡であるが、前期前葉～末葉の土器も少量出土している［土橋 2003］。

浦林遺跡（66）は大荒川左岸の笹神丘陵末端部に立地する。遺物は後期前葉の三十稲場式・南三十稲場式土器が出土し、遺構は土坑・ピットのほか埋設土器が 4 基検出された。埋設土器に使用された土器は、器面に縄文のみを施した粗製の深鉢形土器である［中山・渡辺 2000、川上 2003］。

C　上野林段丘の遺跡

上野林丘陵の遺跡には、小山崎遺跡（9）・中道遺跡（10）・藤堂遺跡（11）・横峰 A 遺跡（25）・横峰 B 遺跡（26）などがある。小山崎遺跡（9）は上野林丘陵西側に立地し、標高約 30m を測る。遺物は後期前葉の南三十稲場式土器、後期中葉の加曽利 B 式土器が出土し、遺構は竪穴住居 1 基などが検出された［川上ほか 1979、山口ほか 2000］。

中道遺跡（10）は上野林段丘西縁に位置し、標高は約 20m である。遺跡の南西～西側にかけて小沢が切れ込み、遺跡はこの小沢に面して立地する。遺物は中期前半、後期中～後葉の土器が出土した。遺構は竪穴住居 3 基などが検出された［川上ほか 1980］。

藤堂遺跡（11）は中道遺跡の南西約 200m の距離にあり、中道遺跡と同様に小沢に面して立地する。遺跡の主体となる時期は、後期後葉の瘤付土器の段階で、この時期の竪穴住居が 4 基検出された［本間ほか 1974］。

横峰 A 遺跡（25）・横峰 B 遺跡（26）は上野林段丘西側にある沢を挟んで向かい合ように立地する。横峰 B 遺跡は中期の竪穴住居が中央の広場を挟んで並列し、集落が形成されている。このほか、晩期の壺形土器を埋設した土坑が 1 基検出された［川上ほか 1981、川上 2004］。横峰 A 遺跡は、縄文時代後期～弥生時代後期まで断続的に利用された遺跡で、縄文時代晩期後半の上野原式土器を伴う竪穴住居 1 基が検出された［川上ほか 1981］。

D　沖積平野の遺跡

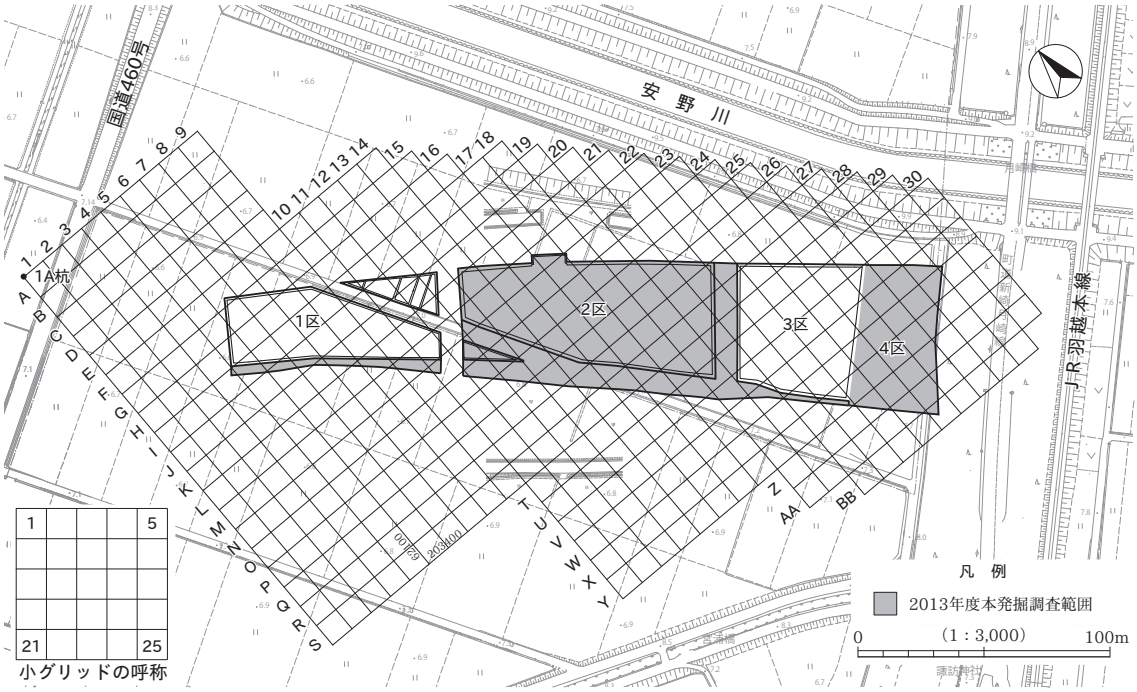
沖積平野では、石船戸遺跡（56）・境塚遺跡（95）などの遺跡がある。第 7 図を見ると、阿賀野川の旧河道が旧水原町中潟集落付近で大きく蛇行する部分がある。石船戸遺跡（56）は、この旧河道右岸の沖積地に立地する。1966 年、用水工事中に発見され、関雅之らにより応急的な調査が行われた。その後、2012 年～ 2014 年に阿賀野市教育委員会により調査が行われ、現在の水田面より約 1.5m 下で晩期初頭～前半の遺跡が検出された。遺構は竪穴住居・掘立柱建物のほか、埋設土器・土器廃棄場などがある。また、遺物の出土量も膨大で、沖積地の大規模集落と考えられる［中川ほか 1971、古澤 2014］。

境塚遺跡（95）は、石船戸遺跡と同じ旧河道の右岸に立地する。調査区西側の D 区では旧河川が検出されており、この旧河川の西岸、現水田面より約 1.5m 下で晩期後葉の土器が出土した［荒川ほか 2012］。

第Ⅲ章　調 査 の 概 要

1　グリッドと調査区の設定

調査区は、2012 年度の調査で工事用道路を境に便宜的に分けた 1 区・2 区・3 区のほか、今年度新たに調査した 3 区から JR 羽越本線側の間を 4 区とした（第 8 図）。グリッドは、2012 年度の調査で設定したものを踏襲した。大グリッドの呼称は、西から東へ向けて算用数字（1・2・3…）を付し、北から南へ向けてアルファベット大文字（A・B・C…）を付し、これを組み合わせた。両者の組み合わせにより、「7E」「10K」のように表示した。小グリッドは大グリッドの中を 2m 四方に 25 分割した。小グリッドには 1 ～ 25 の番号を付し、北西隅を 1、南東隅を 25 となるように配列した。グリッドは、大グリッドと小グリッドを組み合わせ、「7E3」「10K25」のように表記した。なお、1A 杭は、国家座標の X 座標 =203570.000（北緯 37 度 49 分 56.75682 秒）、Y 座標 =62050.000（東経 139 度 12 分 17.72584 秒）である。



第 8 図　グリッド設定図

2　基　本　層　序（図版 2・77）

A　基本層序の記載

基本層序は、2012 年度の調査のものに準じて設定しているが、Ⅳ層以下については、必要に応じて細分し直した。

Ⅰ a 層：灰黄褐色砂質シルト　表土。

Ⅰ b 層：灰黄褐色粘質シルト　水田床土。鉄分を多量に含む。

Ⅱ　層：にぶい黄褐色粘質シルト　部分的に赤褐色の鉄分を含む。中世の遺構確認面である。

Ⅲ　層：暗褐色粘質シルト　　部分的に赤褐色の鉄分を含む。古代・中世の遺物包含層である。

Ⅳａ層：にぶい黄褐色粘質シルト　古代・中世の遺構確認面である。

Ⅳa'層：にぶい黄褐色粘質シルト　Ⅳａ層より砂質である。

Ⅳｂ層：黄褐色砂質シルト

Ⅴａ層：にぶい黄褐色粘質シルト～暗灰黄色粘質シルト　長径３～5mm 程度の鉄分を多量に含む。

Ⅴｂ層：にぶい黄褐色粘質シルト長径３～5mm 程度の鉄分を多量に含む。

Ⅵ　層：にぶい黄褐色粘質シルト～暗灰黄色粘質シルト　長径３～5mm 程度の鉄分を多量に含む。色調はⅤ・Ⅶ層に近似するが、これらに比して暗色である。また、長径３～5mm 程度の炭化物粒を含む。縄文時代晩期の遺物包含層である。

Ⅶａ層：暗灰黄色砂質シルト　黄褐色砂を多量に含む。縄文時代晩期の遺構確認面である。

Ⅶｂ層：暗灰黄色砂質シルト

Ⅶｃ層：黄灰色砂質シルト　２区東側では暗青灰色粘質シルトとなる。

Ⅷ　層：黄褐色砂～青灰色砂

B　下層の旧地形

2012 年度の調査で、遺構確認面は上・中・下層の３面あることが確認された。出土遺物から上層は中世（13 世紀後半～ 14 世紀前半）、中層は古代・中世、下層は縄文時代晩期に属する。調査区では、土層の堆積状況から、縄文時代晩期以降、中世に至るまで、地形の変化が認められた。このうち、縄文時代については、2012 年度はトレンチ調査を主体としたため、不明瞭な部分があった。以下では、今年度の調査成果を踏まえて、縄文時代の旧地形について記載する。

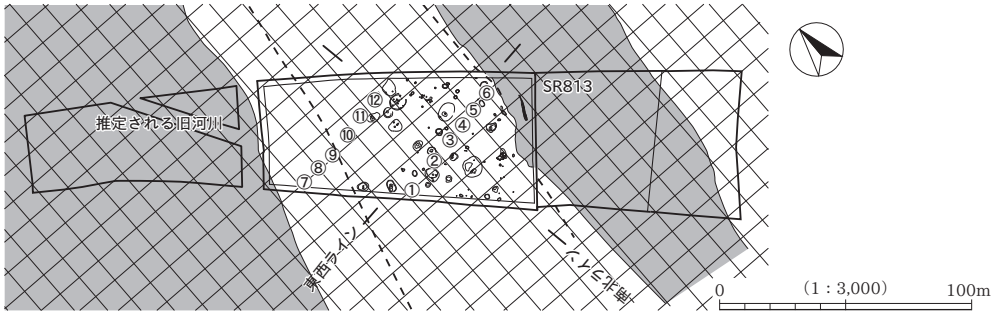
縄文時代晩期の遺物包含層であるⅥ層の堆積は、南北方向を見ると、調査区南側 16O グリッド付近で標高 5.8 ～ 5.9m、中央部の 18P グリッド付近では標高 5.0 ～ 5.2m と徐々に標高を下げ、北側の 17 ～ 18M グリッド付近では標高 4.8 ～ 4.9m を測る。Ⅵ層の堆積は、南側と北側で約 1m の比高となる。土層断面から、調査区南側が微高地、中央部付近は緩斜面、北側は低位面を形成している（第９図）。また、東西方向では、西側の 13N グリッド付近で標高 5.4 ～ 5.5m、東側の 21P グリッドでは標高 5.2 ～ 5.0m となり、微高地から東・西へ向かって緩斜面を形成する。更に、東側端部の 21O ～ 20S グリッドでは、Ⅵ層を切る旧河川（SR813）を検出した。土層の堆積状況から、調査区の東側には縄文時代晩期頃にも流路が存在した可能性が推定される。また、西側の１区では 2012 年度の調査でⅤ・Ⅶ層が急激に落ち込む土層の堆積状況を確認したことから、旧河川の存在が推定された。したがって、調査区は東西の旧河川に挟まれた微高地と低位面にあたるものと考えられる。遺構は、この微高地端部から低位面にかけて造られており、遺跡は旧河川に沿って調査区外の南北に延びるものと推定される。なお、東側の旧河川では、流木以外の出土遺物は無かった。

C　地 震 の 痕 跡

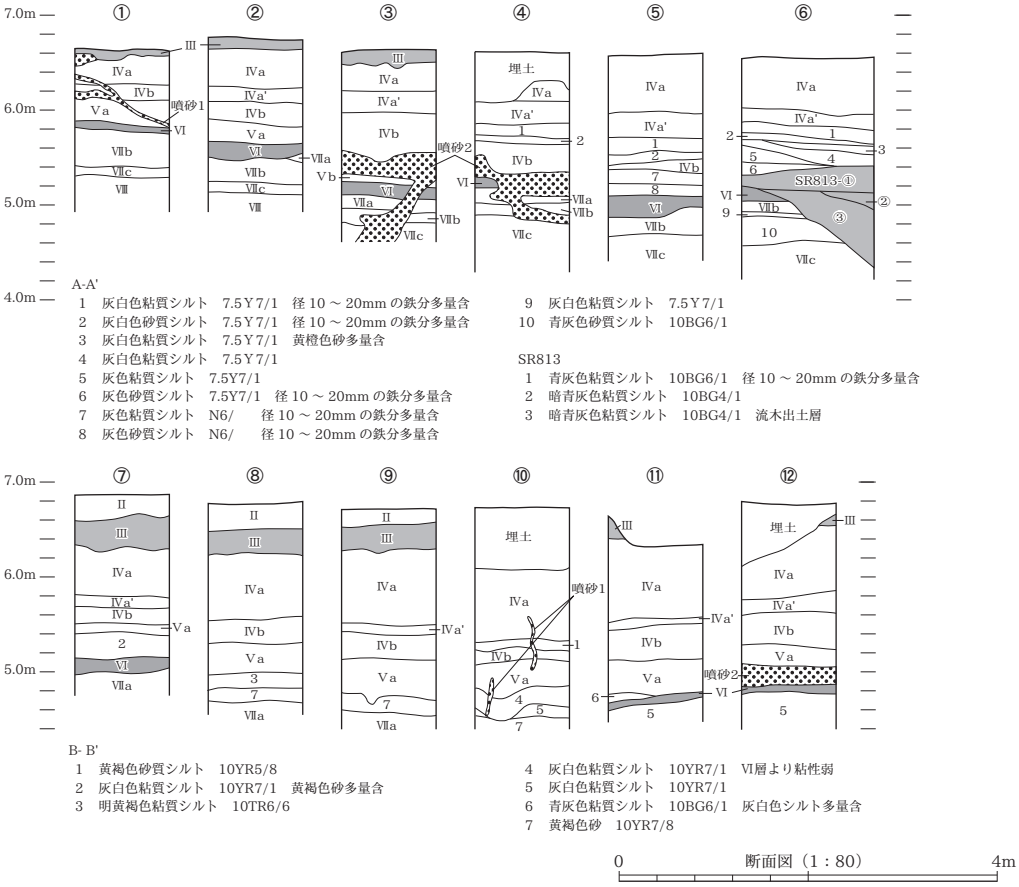
1）噴　　砂

調査区では、地震液状化の痕跡である噴砂を検出した。噴砂は縄文時代晩期の生活面であるⅥ層を貫き、Ⅵ層の上位に堆積するもの（噴砂２）と、Ⅳ層上位にまで及ぶもの（噴砂１）の２種類が認められる（第９・

旧地形模式図１



基本土層



A-A'

1　灰白色粘質シルト　7.5Y7/1　径 10 ～ 20mm の鉄分多量含
2　灰白色砂質シルト　7.5Y7/1　径 10 ～ 20mm の鉄分多量含
3　灰白色粘質シルト　7.5Y7/1　黄橙色砂多量含
4　灰白色粘質シルト　7.5Y7/1
5　灰色粘質シルト　7.5Y7/1
6　灰色砂質シルト　7.5Y7/1　径 10 ～ 20mm の鉄分多量含
7　灰色粘質シルト　N6/　径 10 ～ 20mm の鉄分多量含
8　灰色砂質シルト　N6/　径 10 ～ 20mm の鉄分多量含
9　灰白色粘質シルト　7.5Y7/1
10　青灰色砂質シルト　10BG6/1

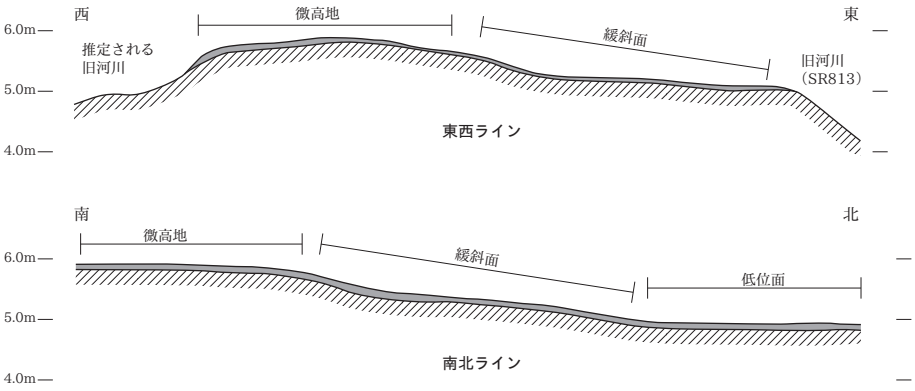
SR813

1　青灰色粘質シルト　10BG6/1　径 10 ～ 20mm の鉄分多量含
2　暗青灰色粘質シルト　10BG4/1
3　暗青灰色粘質シルト　10BG4/1　流木出土層

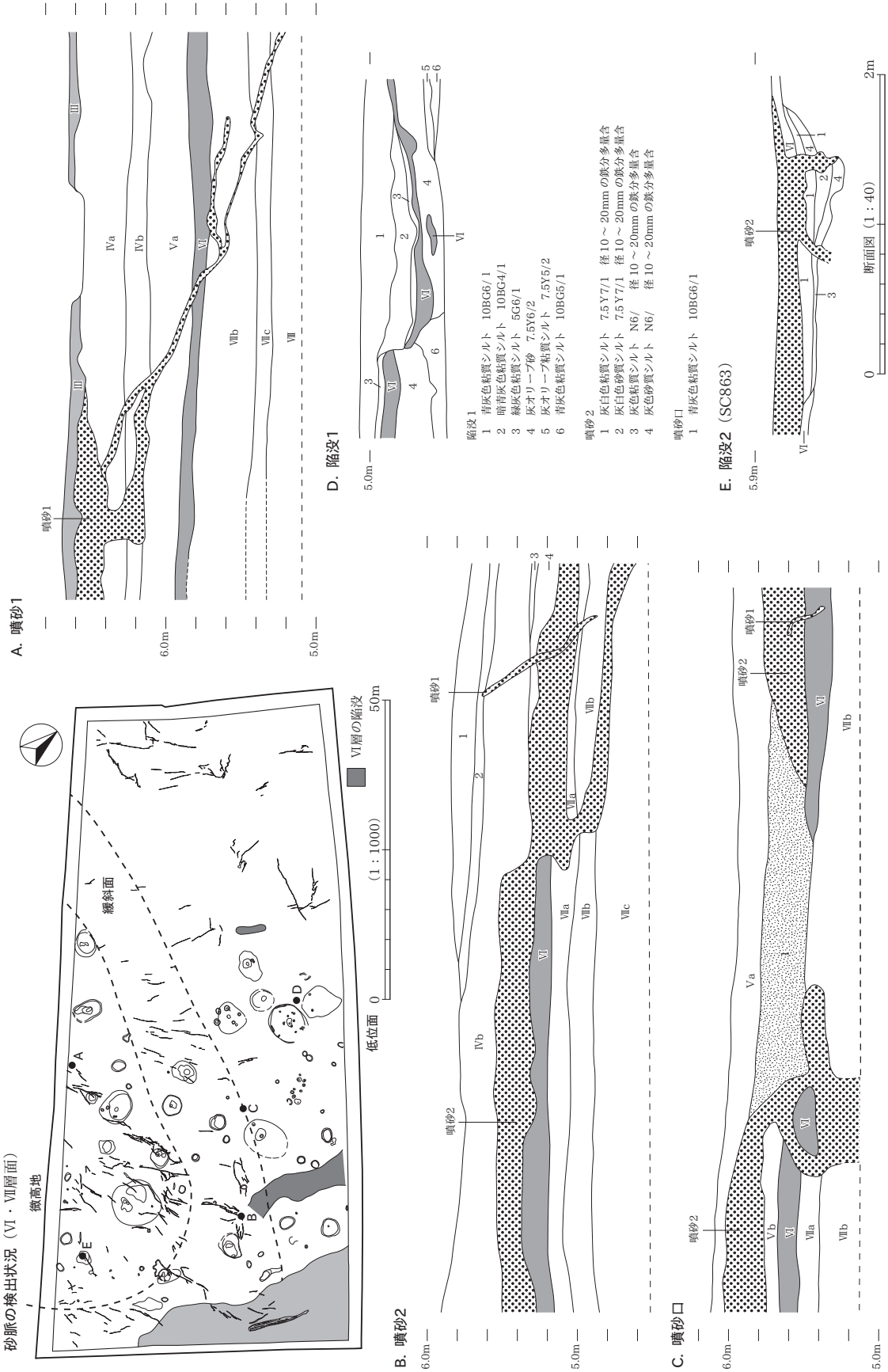
B- B'

1　黄褐色砂質シルト　10YR5/8
2　灰白色粘質シルト　10YR7/1　黄褐色砂多量含
3　明黄褐色粘質シルト　10TR6/6
4　灰白色粘質シルト　10YR7/1　Ⅵ層より粘性弱
5　灰白色粘質シルト　10YR7/1
6　青灰色粘質シルト　10BG6/1　灰白色シルト多量含
7　黄褐色砂　10YR7/8

旧地形模式図２

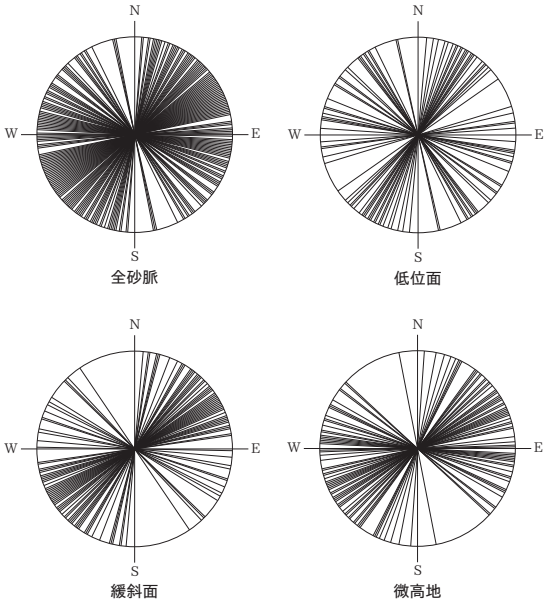


第９図　基本土層と旧地形模式図

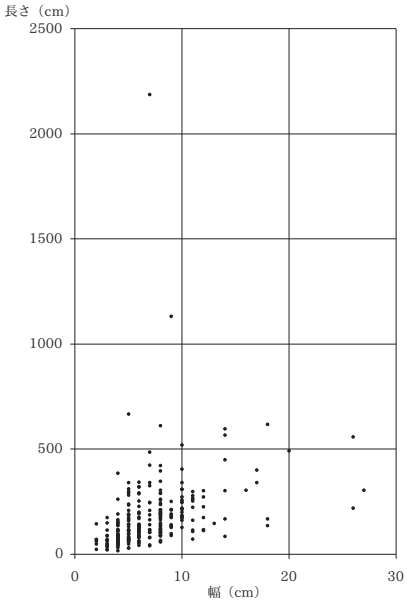

砂脈の検出状況（Ⅵ・Ⅶ層面）
微高地
緩斜面
低位面
Ⅵ層の陥没
0
50m
（1：1000）
A. 噴砂1
噴砂1
Ⅲ
Ⅳa
Ⅳb
Ⅴa
Ⅵ
Ⅶb
Ⅶc
Ⅶ
6.0m
5.0m
B. 噴砂2
噴砂1
噴砂2
Ⅳb
Ⅴa
Ⅶa
Ⅶb
Ⅶc
C. 噴砂口
噴砂1
噴砂2
Ⅴa
Ⅴb
Ⅶa
Ⅶb
D. 陥没1
5.0m
陥没1
1 青灰色粘質シルト 10BG6/1
2 暗青灰色粘質シルト 10BG4/1
3 緑灰色粘質シルト 5G6/1
4 灰オリーブ砂 7.5Y6/2
5 灰オリーブ粘質シルト 7.5Y5/2
6 青灰色粘質シルト 10BG5/1
噴砂2
1 灰白色粘質シルト 7.5Y7/1 径10～20mmの鉄分多量含
2 灰白色砂質シルト 7.5Y7/1 径10～20mmの鉄分多量含
3 灰色粘質シルト N6/ 径10～20mmの鉄分多量含
4 灰色砂質シルト N6/ 径10～20mmの鉄分多量含
噴砂口
1 青灰色粘質シルト 10BG6/1
E. 陥没2（SC863）
5.9m
噴砂2
0
2m
断面図（1：40）

第10図 地震の痕跡

10 図・図版 77)。このことから、調査区は少なくとも 2 回の地震に見舞われたことが推定される。噴砂 2 は縄文時代晩期の層を切っていること、噴砂 1 はⅢ層を突き抜けないこと、中世の井戸（13 世紀後半～ 14 世紀前半）に切られていることから、地震は縄文時代晩期以降、中世までの間に起ったものと考えられる。また、砂脈は微高地・低位面を問わず 2 区全域で検出した（第 10 図）。砂脈は、微高地では北東－南西・北西－南東方向（N-36 ～ 133° E)、緩斜面では北東－南西方向（N-35° ～ 82° -E)、低位面では北北東－南南西方向（N-5° ～ 48° -E）のものが多く、地形により長軸方向が異なる傾向がある（第 11 図)。また、砂脈の幅は約 2 ～ 28cm の規模のものがあるが、12cm 以下のものが多い（第 12 図)。



第 11 図　砂脈の長軸方向



第 12 図　砂脈の長さと幅

2）噴　砂　口

低位面の 18O グリッドでは、噴砂口と考えられる痕跡を検出した（第 10 図・図版 77)。噴砂口は幅約 2m を測り、Ⅵ層を分断する。これにより、Ⅵ層の一部はちぎれて堆積する状況が見られる。噴砂口の周辺は、噴き上げた砂が約 30cm の厚さでⅤb・Ⅵ層の上位に堆積する。また、噴砂口には、青灰色粘質シルトの堆積が認められる。青灰色粘質シルトは約 30cm の厚さを測り、地震が終息した後に堆積したものと推定される。

3）陥　　没

調査区では、土層が上下にずれる陥没の痕跡が複数検出された（第 10 図・図版 77)。これらは、微高地・低位面のいずれからも確認された。陥没 1 は、低位面の 17M グリッドに存在し、Ⅵ層が上下方向にずれ、Ⅵ層の一部はちぎれて堆積する状況が認められる。また、微高地で検出した SC863 は、噴砂が遺構を突き抜け、遺構の北西半分が沈み込んでいる（陥没 2)。このほか、地震の影響により、Ⅵ層の陥没が顕著に認められる地点が 16M グリッドと 20N ～ 20P グリッドの 2 か所で認められた。いずれも低位面に存在し、北東－南西方向に溝状に延びる（第 10 図)。

3　記 載 の 方 針

A　遺　　構

遺 構 番 号

遺構個々の名称は遺構種別・番号の順に表記した遺構番号で表す。遺構の種別は掘立柱建物：SB、竪

穴建物：SI、井戸：SE、土坑：SK、ピット：P、溝：SD、焼土・炭化物の集積：SC、性格不明遺構：SX、自然流路：SR とした。なお、埋設土器・土器集中については略号を用いなかった。遺構番号は2012 年度からの続き番号を付し、上・中層は 230 ～ 239、290 ～ 562、下層は 1 ～ 3・283・800 ～ 933 を付した。調査中に遺構でないと判断したものは欠番とした。掘立柱建物の番号は、SB6 ～ 10 を付し、これを構成する個々のピット番号は検出時に付した遺構番号をそのまま用いた。また、調査の過程で別遺構としたものが、同一遺構となったものは、遺構番号を統一した。

図 面 図 版

遺構の図版は、調査範囲図・全体図・分割図・個別図で構成される。調査範囲図は 1/1,500、全体図は上層 1/1,500、中・下層は 1/500 で表し、分割図は調査範囲を分割して 1/200 で表した。個別図は平面図・セクション図・エレベーション図・出土状況図で構成される。上・中層は、掘立柱建物の平面図・セクション・エレベーション図は 1/50、1/80、個別ピットのセクション図は 1/40 で表した。井戸は平面図・セクション図・出土状況図は 1/40 で表した。土坑・ピットの平面図・セクション図は 1/40、道は 1/50、溝・性格不明遺構は 1/40 で表した。道・溝・性格不明遺構についてはセクション図のみを個別図に表し、セクションポイントは分割図に示した。下層は、竪穴建物の平面図・セクション図は 1/60、個別ピット・炉跡のセクション図は 1/40、出土状況図は 1/20・1/60 で表した。焼土・炭化物の集積の平面図・セクション図は 1/40・1/60・1/80、出土状況図は 1/20・1/40・1/60・1/80 で表した。埋設土器・土器集中の平面図・セクション図は 1/20・1/40・1/60、ピットは 1/40 で表した。

土層の色調は『新版　標準土色帖』［小山・竹原 1998］に基づいた。写真図版は個別図にある遺構について掲載するよう努めたが、すべてを網羅していない。冒頭に全体写真を掲載した後に、遺構図版と同様に上層・中層・下層の順で遺構写真を掲載した。

観　察　表

観察表の観察項目は、位置・形態・規模（長径・短径・深度）・底面標高・覆土の堆積形状・出土遺物・重複関係などである。位置はグリッド位置を示した。形態・覆土の堆積形状については第Ⅳ章 1 で記載する。深度は上端の標高から下端の標高を引いた値である。出土遺物は、掲載した遺物については出土した遺物と報告番号を示した。重複関係は「<」・「>」・「=」・「≠」の記号を用いた。記号の内容は「<P100」とは P100 に切られ、「>P100」とは P100 を切っていることを示す。また「=P100」は P100 と同時期であり、「≠ P100」は P100 と重複関係があるものの、新旧が不明なことを示す。

B　遺　　物

遺物の説明は、観察表で全てについて記載し、本文で解説する。上層は、土器・土器転用研磨具・石製品は遺構出土のものについて述べた後に遺構外出土のものについて記載し、金属製品・木製品は遺構毎、中層は器種別に記載する。下層は、土器は遺構出土のものについて述べた後に遺構外出土のものについて記載し、そのほかは器種別に記載する。

図版の縮尺率は、土器は基本的に 1/3・1/4 であり、一部について 1/5・1/6 で表した。石器は 2/3・1/2・1/4 で表した。木製品は大きさに応じて 1/3・1/4・1/10 で表した。そのほかは 1/1・1/3・1/4 で表した。写真図版は図面図版とほぼ同じ縮尺で、全てを掲載した。観察表は図版に掲載した全ての遺物について観察項目を設定し、その内容を記載した。

第Ⅳ章　遺　　構

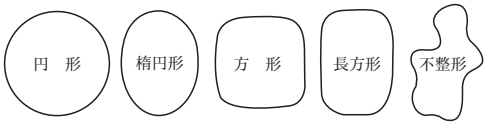
1　遺構の分類

A　上　・　中　層

遺構の分類は、その機能を検討するため、遺構の平面･断面形態（第 13 図）、覆土堆積形状（第 14 図）［荒川ほか 2004］に従い分類した。

遺構種別は次のように分類した。掘立柱建物は柱穴が一定の間隔で並ぶものとした。各建物の計測位置は『境塚遺跡』［荒川ほか 2012］に拠り、観察表に示した。規模、面積は柱穴下端の中心及び柱痕下端の中心を基点として計測した(第 15 図)。梁行柱間長･桁行柱間長は最も短いものから最も長いものを示した。長軸方向は長軸の方向について真北を基準として東西に傾く角度を計測した。井戸は平面形・覆土の堆積状況から判断した。土坑は深さが 1m 以下で、平面・断面形や覆土の特徴から判別した。道は同規模の 2 条の溝が等間隔で平行に延びるものを道の側溝と考えた。この 2 条の溝と間に挟まれた平面を道と認定した。溝は大小の規模がある。性格不明遺構は、平面形が不整形で、底面が一定しないなど定型的な上記以外の遺構とした。

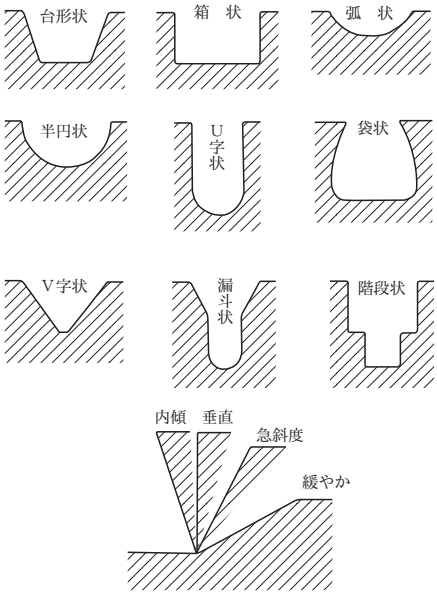
平面形態の分類



円形	長径が短径の1.2倍未満のもの。
楕円形	長径が短径の1.2倍以上のもの。
方形	長軸が短軸の1.2倍未満のもの。
長方形	長軸が短軸の1.2倍以上のもの。
不整形	凸凹で一定の平面形を持たないもの。

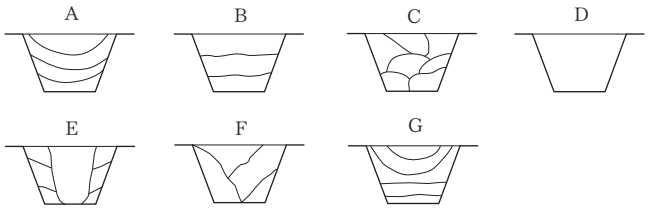
台形状	底部に平坦面を持ち、緩やか～急斜度に立ち上がるもの。
箱状	底部に平坦面を持ち、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
弧状	底部に平坦面を持たない弧状で、緩やかに立ち上がるもの。
半円状	底部に平坦面を持たない椀状で、急斜度に立ち上がるもの。
U字状	確認面の長径よりも深さの値が大きく、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
袋状	確認面の径よりも底部の径が大きく、内傾した後に垂直ないし外傾して立ち上がるもの。
V字状	点的な底部を持ち、急斜度に立ち上がるもの。
漏斗状	下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの。
階段状	階段状の立ち上がりを持つもの。

断面形態の分類

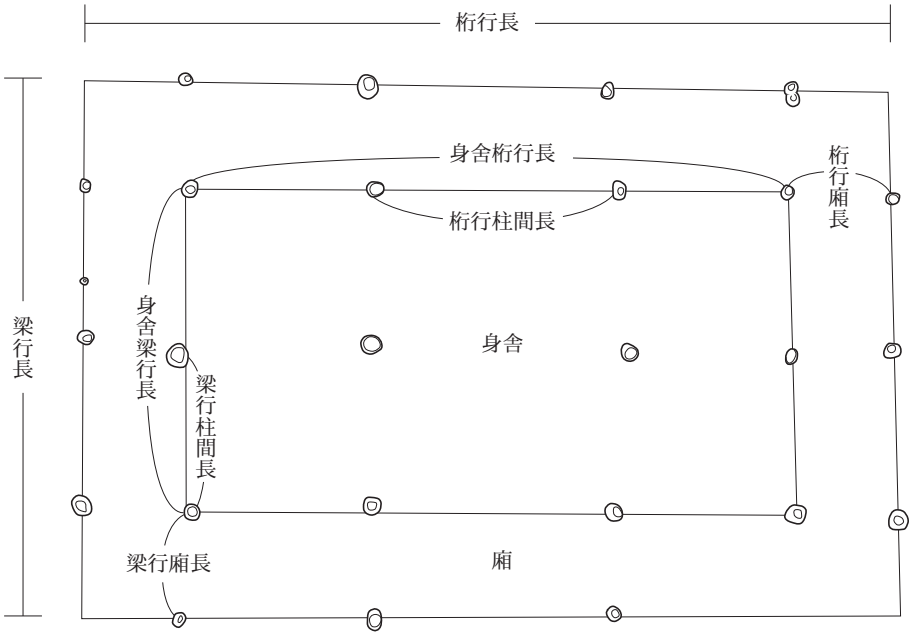


第 13 図　遺構の平面・断面形態の分類［荒川ほか 2004］

A　レンズ状	複数層がレンズ状に堆積する。
B　水平	複数層が水平に堆積する。
C　ブロック状	ブロック状に堆積する。
D　単層	覆土が単一層のもの。
E　柱痕	柱痕と思われる土層が堆積するもの。
F　斜位	斜めに堆積するもの。
G　水平･レンズ	覆土下位は水平に、上位はレンズ状に堆積するもの。



第 14 図　遺構覆土の堆積形状の分類［荒川ほか 2004］



第 15 図　掘立柱建物の計測位置［荒川ほか 2012］

B 下　　層

下層で検出した遺構は次のように分類した。竪穴建物は地面を掘り下げて構築したもので、炉や柱穴などの付帯施設をもつものとした。焼土・炭化物の集積は、焼土が認められ、焼土の周辺に炭化物が集積するものである。このほか、焼土は認められないが、炭化物のみが集中する範囲もこれに含めた。埋設土器は、土中に土器を埋設したもので、土坑内に土器を埋設したもの、ピット状の掘形をもち、その中に土器を埋設したもの、掘形の不明瞭なものなどがある。土器集中は、約 0.1 ～ 2m の範囲に土器片が集中する範囲とした。この中には地震の影響により、埋設土器が破壊されてしまったものも含まれている可能性がある。また、集中域内において掘り込みや焼土・炭化物などの堆積が認められず、遺構として捉えることができない可能性があるものも存在するが、遺物の出土状況及び分布状況を考慮して、遺構に準じて報告する。

2 上 層 の 遺 構

A 遺構の検出状況

上層の遺構は調査区の全域で検出した。遺構は、出土遺物から中世・近世以降に属するものがある。このうち、中世に属する遺構は、掘立柱建物 4 棟、井戸 8 基、土坑 40 基、ピット 111 基、道 1 条、溝 15 条、性格不明遺構 1 基である。遺構は 2 区南東側と 4 区南東側の大きく 2 か所に分布域をもち、それぞれ、掘立柱建物・井戸・土坑で構成され、居住域を形成する。これらは、約 70m 離れて存在する。2 区南東側は、2012 年度の調査で検出した集落の一部と見られ、遺構の検出状況から、集落は調査区外の更に南東側に広がるものと推定される。また、4 区で検出した掘立柱建物 3 棟のうち、2 棟は長軸方向が東偏 15 ～ 20 度を測り、2 区の建物の長軸と概ね一致することから、2 区と 4 区の集落はほぼ同時期に機能していた可能性が推定される。4 区の集落は、遺構の検出状況から調査区外南側の JR 羽越本線側へ延

びるものと考えられる。中世遺構の所属時期は、出土遺物から 13 世紀後半～ 14 世紀前半と推定される。また、近世以降に属する遺構は、溝を主体として調査区の全域で検出した。これらは、2012 年度の調査で検出した溝につながり、覆土は粘性の弱い灰色系シルトが堆積し、中世の遺構とは区別される。

B　掘 立 柱 建 物

1）概　　要

掘立柱建物は 4 棟を検出した。2 区西側で SB6、4 区南東側では SB7 ～ 9 が存在する。SB6 は、2012 年度の調査で検出された建物群からはやや離れた位置にあり、周辺には遺構も少なく建物の規模も小さい。

SB7 ～ 9 は近接して存在し、このうち、SB8・9 は長軸方向が東偏 15・20 度を測り、建物の長軸が概ね一致する。また、4 区で検出した集落は、遺構の検出状況から調査区外の南側に中心があるものと推定され、今回の調査で検出した居住域は、集落の西側縁辺部にあたるものと考えられる。

2）各　　説

SB6（図版 7・15・81）

建物の西側が調査区外に続くため全体は不明である。桁行 2.64m、桁行柱間長 1.22 ～ 1.42m を測り、2012 年度の調査で検出した SB1 ～ 3 に比べ、規模が小さい。柱穴の掘形は径 39 ～ 47cm の円形で、深度は 13 ～ 32cm を測る。

SB7（図版 14・15・80・81）

梁間 2 間、桁行 2 間の総柱建物である。西側隅の柱穴 P383 がやや西側に張り出す。長軸方向は西偏 23 度を測り、近接する SB8・9 とは長軸を異にする。柱穴の掘形は径 26 ～ 77cm の円形・楕円形で、深度は 9 ～ 59cm を測る。

SB8（図版 13 ～ 15・80）

建物の南東隅及び東側の柱穴を検出できなかったが、残存する形状から側柱建物と考えられる。柱穴の掘形は径 40 ～ 56cm の円形で、深度は 22 ～ 49cm を測る。

SB9（図版 13 ～ 15・80）

梁間 1 間、桁行 2 間の片面廂付建物である。東側の柱穴 P413・414 がやや北東側に張り出す。柱穴の掘形は径 23 ～ 48cm の円形・楕円形で、深度は 36 ～ 60cm を測る。P413・414 の底面付近からは、柱材と考えられる木片が出土した。

C　井　　戸

1）概　　要

井戸は 8 基検出した。井戸の規模は、開口部の長径 97 ～ 305cm、深度 65 ～ 232cm を測り、深度は 65 ～ 120cm の浅いものと（SE308・396・398・478）、191 ～ 232cm の深いもの（SE349・386・479・520）がある。これらは SE478 を除き、Ⅳ層下に堆積する砂層まで掘り抜かれている。断面形状は、台形状・

箱状・U 字状・漏斗状・階段状がある。覆土は炭化物層が認められるもの、炭化物を多量に含むものが多く、炭化物層が覆土上～中位に堆積するもの（SE308・349・396）、覆土の下位や水溜に設置された曲物内に堆積するもの（SE386・479・520）がある。2 区の井戸 SE308・349 は、2012 年度の調査で検出した居住域に構築されている。また、4 区で検出した SE386・396・398・478・479 は、SB7・9 に近接する。井戸は、素掘りのもの（SE308･349･396･398･478･520）と井戸側などの施設をもつもの（SE386･479）がある。SE479 は縦板の一部、横桟の最下段が検出され、井戸側の残存状況から縦板組隅柱横桟留井戸［宇野 1982］の可能性がある。

2）各　　説

SE308（図版 9・16・81）

SD300 と重複し、これより古い。掘形の平面形は円形である。覆土は 6 層に識別される。2 層は炭化物層で、層厚約 14cm を測る。4 層も多量の炭化物を含み、粘性が強い。深度は 79cm を測り、断面形は階段状である。

SE349（図版 10・16・81）

掘形の平面形は円形である。覆土は 11 層に識別される。覆土上～中位の 1 ～ 5 層はレンズ状、中～下位の 6 ～ 11 層は水平に堆積する。また、7 ～ 11 層は暗灰色～青灰色シルトが堆積し、上位の層に比べ粘性が強い。4 層は炭化物層で、これより上位及び下位の 2・3・5 ～ 9 層も炭化物を含む。深度は 191cm を測り、断面形は箱状である。

遺物は、土師質土器皿（図版 55・102-1）、珠洲焼片口鉢（図版 55・102-2）、珠洲焼甕（図版 55・102-3）、瓷器系陶器甕（図版 55･102-4）、土器転用研磨具（図版 56･102-39･40）、砥石（図版 56･102-44）、刀子（図版 56・102-49）、箸状木製品が出土した。

SE386（図版 14・16・81）

SB7 に近接する。掘形の平面形は楕円形である。崩落が予想されたため、覆土中位の一部を記録できなかった。覆土は 14 層に識別され、土層堆積状況から井戸側が設置されていた可能性が考えられる。また、水溜には底を外した曲物（図版 57・103-68）を据えている。1 ～ 8 層は水平堆積で、曲物内部の 7 層は層厚約 4cm の炭化物層である。土層堆積状況から 1 ～ 8 層は埋め戻されたものと推定される。9 ～ 14 層は、井戸側・水溜の外側に充填された土と考えられ、黄褐色シルト・暗青灰色シルトを主体とし、これに褐色シルト・黒褐色シルトがブロック状に混じる。深度は 232cm を測り、断面形は漏斗状である。

遺物は土師質土器皿（図版 55・102-5 ～ 7）、珠洲焼片口鉢（図版 55・102-8）、刀子（図版 56・102-50）が出土した。

SE396（図版 14・17・81）

SB7 に近接する。掘形の平面形はやや不整な円形である。覆土は 6 層に識別される。2 層は炭化物層で、下位に炭化物が集中する。1・3・4 層は褐色シルト・黄褐色シルト・にぶい黄褐色シルトがブロック状に混じることから、埋め戻されたものと推定される。深度は 107cm を測り、断面形は U 字状である。

SE398（図版 14・17・81）

SK412 と重複し、これより新しい。掘形の平面形は円形である。覆土は 13 層に識別される。1･2･4･5 層は炭化物・炭化物粒を含み、特に 1・5 層に多い。覆土中位～下位の 8 ～ 11 層は、砂質のにぶい黄褐色シルトが堆積する。深度は 120cm を測り、断面形は台形状である。

SE478（図版 14・17・82）

SE479 と重複し、これより新しい。掘形の平面形は楕円形である。深度は 65cm を測り、他の井戸に比べ浅い。覆土は 8 層に識別される。2・3・6・7 層は炭化物を含み、特に覆土中位の 6 層に多い。また、底面付近の 8 層は黄褐色砂質シルトが堆積する。断面形は階段状である。なお、当遺構は砂層を掘り抜いていないため土坑の可能性もあるが、覆土堆積状況・断面形態から井戸に含めた。

SE479（図版 14・18・82）

SB7 に近接する。掘形の平面形は円形である。覆土 1 層は炭化物を含み、被熱した礫が出土した。覆土に焼土などの痕跡が認められないことから、これらは覆土上位の埋戻しに伴い入れられたと推定される。曲物内部の 9 層は炭化物層で、層厚は約 4cm を測る。12 層は水溜の外側に充填されたもので、均質な黄褐色シルトが堆積する。井戸側は、標高 5.6m 以下から残存する。横桟（図版 57・103-69 ～ 71）は最下段部を検出し、南隅には縦板（図版 57・103-72）が認められる。また、水溜には底を外した大小の曲物（図版 57・103-73・74）が上下に据えられている。深度は 227cm を測り、断面形は漏斗状である。

遺物は、珠洲焼片口鉢（図版 55・102-9・10）、珠洲焼壺（図版 55・102-12）、珠洲焼甕（図版 55・102-11）、瓷器系陶器甕（図版 55・102-13）が出土した。

SE520（図版 7・8・17・82）

2012 年度調査区で検出した近世以降の溝（SD99）の底面で検出した。遺構は、2 区南東側の居住域から離れて存在する。掘形の平面形は楕円形である。覆土 4 層の上位からは礫のほか、漆器椀（図版 57・103-75）が出土した。また、底面付近の 6 層は炭化物層である。深度は 204cm を測り、断面形はＵ字状である。

D　土　　坑

1）概　　要

土坑は調査区全域で 40 基検出した。このうち SB1 ～ 3 付近に 9 基、SB7 ～ 9 付近に 25 基が分布し、居住域に分布域を持つものが大半を占める。これ以外は調査区の全域に散在する。以下では、居住域に分布する土坑を中心に、当遺跡で特徴的なものについて記載する。

2）各　　説

SK312（図版 10・18・82）

22P7・12 グリッドに位置し、居住域からは離れて存在する。SD553 と重複し、これより新しい。平面形は楕円形である。覆土は 3 層に識別され、1・3 層は炭化物・骨片を含む。また、2 層は暗赤褐色の

焼土粒を多量に含む。底面中央部は土坑底面の長軸に直交して溝状に落ち込み、幅 28cm、深さ 8cm を測る。

SK313（図版 10・18・82）

SK312 の東側に近接する。平面形は楕円形である。覆土は 3 層に識別され、1･3 層は炭化物･骨片を含む。2 層は暗赤褐色の焼土ブロックを多量に含み、覆土の堆積状況は SK312 と類似する。底面はやや凹凸があり、側壁は緩やかに立ち上がる。

SK336（図版 7・19・83）

13M5・14M1 グリッドに位置し、居住域からは離れて存在する。また、2013 年度の調査で検出した SK139･140･147･148 に近接する。平面形は円形である。覆土は 2 層に識別され、2 層は炭化物を含む。底面は凹凸があり、側壁は急斜度に立ち上がる。

SK343（図版 10・19）

SD11 と重複し、これより古い。平面形は長方形である。覆土は単層で、にぶい黄褐色シルトが堆積する。底面は南側へ向かってやや傾斜し、側壁は緩やかに立ち上がる。遺物は土師質土器皿（図版 55・102-14）が出土した。

SK346（図版 9・19・83）

SK362 と重複し、これより新しい。平面形は楕円形である。覆土は 4 層に識別され、いずれも炭化物粒を含む。また、1 ～ 3 層は焼土粒を含む。底面はやや凹凸があり、側壁は急斜度に立ち上がる。

SK350（図版 10・19）

SK361 と重複し、これより新しい。平面形はやや不整な円形である。覆土は 2 層に識別され、水平に堆積する。1・2 層は炭化物・炭化物粒を含む。底面は南東側へ向かって緩やかに傾斜し、側壁は急斜度に立ち上がる。

SK361（図版 10・19）

SK350 と重複し、これより古い。平面形は残存形状から楕円形と推定される。覆土は 2 層に識別され、2 層は炭化物を多量に含む。底面は中央付近が緩やかに窪み、側壁は急斜度に立ち上がる。

SK362（図版 9・19・83）

SK346 と重複し、これより古い。平面形は円形である。覆土は 5 層に識別され、覆土上位の 1 層、下位の 4･5 層は炭化物粒を含む。また、4 層は焼土粒を少量含む。底面はやや凹凸があり、側壁は急斜度に立ち上がる。遺物は土師質土器皿（図版 55・102-15）が出土した。

SK395（図版 13・14・20・83）

SB9 に近接する。平面形は円形である。覆土は 3 層に識別され、にぶい黄褐色シルトが主体である。

底面は中央付近がやや窪み、側壁は緩やかに立ち上がる。

SK397（図版 14・20・83）

平面形は円形である。覆土は単層で灰黄褐色シルトが堆積し、炭化物を含む。底面は凹凸があり、側壁は急斜度に立ち上がる。遺物は珠洲焼片口鉢（図版 55・102-16）が出土した。

SK399（図版 14・20・83）

SB7 に近接する。近世以降の溝（SD373）と重複し、これより古い。平面形は円形である。覆土は 4 層に識別され、1 ～ 3 層は炭化物・炭化物粒を多量に含み、特に 2・3 層に多い。底面は凹凸があり、側壁は急斜度に立ち上がる。

SK426（図版 13・14・20）

位置関係から、SB8 と重複する。遺構の南東側を欠失するが、残存状況から平面形は楕円形と推定される。覆土は 2 層に識別され、褐色シルトが主体である。底面は凹凸があり、側壁は急斜度に立ち上がる。

SK437（図版 13・14・21・84）

平面形は円形である。覆土は 4 層に識別され、2 ～ 4 層は炭化物を含み、特に底面付近の 4 層は炭化物を多量に含む。底面は中央部付近が 10cm 程度窪む。側壁は東側が急斜度、西側は段を持ちながら急斜度に立ち上がる。遺物は珠洲焼甕が出土した。

SK445（図版 13・14・21）

SK444 と重複し、これより古い。平面形は残存形状から楕円形と推定される。覆土は単層で、暗褐色シルトが堆積する。底面は平坦で、側壁は緩やかに立ち上がる。遺物は珠洲焼片口鉢（図版 55・102-17）が出土した。

SK471（図版 13・21・84）

平面形は円形である。覆土は 2 層に識別され、いずれも炭化物・炭化物粒を含む。底面は平坦で、側壁は段を持ちながら急斜度に立ち上がる。

SK476（図版 13・14・21・84）

遺構は他の中世遺構面より約 15cm 高い位置で検出した。平面形は楕円形である。覆土は 8 層に識別される。覆土はブロック状に堆積し、2・6・8 層は焼土・焼土塊・骨片を含む。また、5 層からは骨片が集中して出土した。覆土堆積形状から、埋め戻されたものと推定される。底面は平坦で、側壁は緩やかに立ち上がる。

SK488（図版 13・14・21・84）

SK433、近世以降の溝（SD28）と重複し、これより古い。平面形は楕円形である。覆土は 3 層に識別され、2・3 層は炭化物・炭化物粒を含む。底面は凹凸があり、側壁は緩やかに立ち上がる。遺物は土師質土器皿、

刀子（図版 56・102-51）が出土した。

E 道

1）概　　要

20・21U グリッドでは、2012 年度の調査で検出した道 1 の延長を検出した。路面部分は 2012 年度の調査と同様に、昭和初期の耕地整理により削平を受けており、硬化面や連続した小溝等は確認できなった。道の側溝（SD6・30）は約 3m の間隔を持ちながら平行して北東－南西方向に延びる。遺構の検出状況から、これらは調査区外の南西方向へ続くものと推定される。以下、側溝について個別に記載する。

2）各　　説

SD6（図版 11・22・85）

近世以降の溝（SD5）と重複し、これより古い。覆土は 3 層に識別され、1・3 層は小礫を多量に含む。また、底面付近の 3 層は炭化物粒を多量に含む。底面はやや凹凸があり、側壁は急斜度に立ち上がる。

SD30（図版 11・22・85）

近世以降の溝（SD12）と重複し、これより古い。覆土は 4 層に識別され、3 層は小礫と炭化物粒を多量に含む。底面は平坦で、側壁は東側が急斜度、西側では階段状に立ち上がる。遺物は珠洲焼甕が出土した。

F 溝

1）概　　要

溝は 14 条検出した。このうち、SD11・15・24・25・37・40 は 2012 年度の調査で検出した溝の延長である。遺構の分布は 2 区東から南にかけての高位面に多い。溝の長軸方向は、北東－南西方向（7 条）、北西－南東方向（2 条）、南北方向（1 条）、東西方向（4 条）のものがあり、北東－南西方向、北西－南東方向に構築されるものが多く、これらは 2012 年度の調査で検出した建物の長軸に平行・直交する。個々の溝はその殆どが調査区外に延びるため、建物との関係を捉えることが出来なかった。また、溝の規模には最大幅が 1m 以上（7 条）と 1m 以下（7 条）の大小がある。以下では、上記した溝のうち特徴的なものについて記載する。

2）各　　説

SD11（図版 9 ～ 12・22・85）

18S ～ 20S グリッドにかけて東西方向に延びる溝と 20T ～ 21V グリッドを北西－南東方向に延びる溝が、19S グリッドで交差する。覆土は 2 層に識別され、にぶい黄褐色シルトが堆積する。また、2 層は炭化物を含む。底面は凹凸があり、側壁は緩やかに立ち上がる。遺物は珠洲焼片口鉢、刀子（図版 56・102-52）が出土した。

SD40（図版 10・22・85）

21O ～ 21R グリッドにかけて南北方向に延びる。SD553・554 と重複するが、土層断面から同時期の遺構と判断した。覆土は 4 層に識別され、にぶい黄褐色シルトが主体である。底面は概ね平坦であるが、

21Q グリッド付近では凹凸が著しい。側壁は急斜度に立ち上がるが、21R グリッド付近の西壁は階段状となる。

SD300（図版 9・22・85）

16Q・R、17R グリッドにかけて幅約 1.7m で北西－南東方向に延び、17R グリッドでは幅約 0.5m となり溝の幅を減じる。覆土は 2 層に識別され、1 層は炭化物粒を少量含む。底面は凹凸があり、側壁は緩やかに立ち上がる。遺物は土師質土器皿、珠洲焼片口鉢（図版 55・102-19 ～ 21）、土器転用研磨具（図版 56・102-41）、砥石（図版 56・102-45）が出土した。

SD303（図版 9・10・22・85）

17･18R･S グリッドを東西方向に延びる。SD11 と重複し、これより新しい。覆土は 2 層に識別され、1 層は炭化物粒を含む。底面はやや凹凸があり、側壁は緩やかに立ち上がる。

SD347（図版 9・22・84）

17Q・R グリッドを北東－南西方向に延び、17Q グリッドで北西－南東方向に短く屈曲する。また、西側に隣接する SX525 に平行する。覆土は 3 層に識別される。底面はやや凹凸があり、側壁は急斜度に立ち上がる。

G　性格不明遺構

SX525（図版 9・22・84）

17R グリッドを北東－南西方向に溝状に延びる。底面は凹凸があり、南側の底面両端部は約 10cm の深さで溝状に窪む。こうした底面の状況から溝とは区別した。覆土は 4 層に識別され、にぶい黄橙色シルトが堆積する。また、1 ～ 3 層は炭化物・炭化物粒を含む。遺物は青磁片が出土した。

3　中 層 の 遺 構

A　遺構の検出状況

中層では掘立柱建物 1 棟、土坑 4 基、溝 3 条、ピット 51 基、性格不明遺構 1 基を検出した。遺構の分布には疎密があり、2 区南東側の高位面に掘立柱建物・土坑・ピットがまとまる。これ以外は、北西側の緩斜面部に土坑・ピット・溝が散在する。中層の遺物包含層であるⅢ層からは、古代・中世の遺物が少量出土しており、検出した遺構も古代・中世に所属すると考えられる。しかし、遺構から遺物が殆ど出土していないため、明確な所属時期を捉えることが出来なかった。

B　掘 立 柱 建 物

SB10（図版 26・27）

梁間 1 間、桁行 2 間の側柱建物である。桁行長は 2.2m を測り、上層の建物に比べ規模が小さい。北東隅の柱穴 P545 が東にやや張り出すのに対応して、北西隅の P544 も東に張り出す。柱穴の掘形は円形で、深度は 6 ～ 38cm を測る。

C 土　　坑

SK503（図版 24・27・86）

平面形は円形である。覆土は 2 層に識別され、暗褐色シルトが主体である。底面は凹凸があり、側壁は緩やかに立ち上がる。

SK514（図版 24・27）

P513 と重複し、これより古い。平面形は円形である。覆土は単層で、炭化物を少量含む。底面はやや凹凸があり、側壁は緩やかに立ち上がる。

SK531（図版 26・27・86）

平面形は円形である。覆土は単層で、炭化物粒を少量含む。底面はやや凹凸があり、側壁は緩やかに立ち上がる。

SK559（図版 25 ～ 27）

遺構南側を欠失するが、残存状況から平面形は長方形と推定される。覆土は単層で、炭化物粒を少量含む。底面は平坦で、側壁は急斜度に立ち上がる。

D 溝

SD46（図版 25 ～ 27・86）

2012 年度の調査で検出した溝の延長である。19N ～ 21P グリッドにかけて北西－南東方向に延び、21Q・R グリッドで南北方向へ緩やかに屈曲する。覆土は 5 層に識別され、3 層は炭化物粒を微量含む。底面はやや凹凸があり、側壁は急斜度に立ち上がる。遺物は土師器椀、須恵器杯が出土した。

SD533（図版 26・27）

18S グリッドを東西方向に延びる。覆土は単層で、にぶい黄褐色シルトが堆積する。底面は平坦で、側壁は急斜度に立ち上がる。

SD556（図版 24・27）

15・16M グリッドを東西方向に延びる。覆土は単層で、灰褐色シルトが堆積する。底面はやや凹凸があり、側壁は緩やかに立ち上がる。

E 性格不明遺構

SX524（図版 25・27）

18M グリッドを北東－南西方向に延びる。平面形は不整形で、底面の凹凸が著しいことから溝とは区別した。覆土は単層で、暗褐色シルトが堆積する。側壁は緩やかに立ち上がる。

4　下 層 の 遺 構

A　遺構の検出状況

下層では、竪穴建物 1 基、焼土・炭化物の集積 46 か所、埋設土器 17 基、土器集中 15 か所、ピット 24 基を検出した。第Ⅲ章 2B で述べたように、2 区東側では縄文時代晩期の層を切る旧河川（SR813）を検出し、土層堆積状況から調査区外の東側には縄文時代晩期頃にも流路が存在した可能性がある。また、2 区西側から 1 区にかけては土層の落ち込みが著しく、旧河川の存在が推定される。この東西の旧河川に挟まれた区域は、南側は標高約 5.9m の微高地、北側は標高約 4.8m の低位面を形成する。遺構は、この微高地端部から低位面にかけてつくられており、遺跡は旧河川に沿って調査区外の南北に延びるものと推定される。また、遺構は地震の影響を大きく受けており、陥没により遺構が上下方向にずれてしまったもの（SC863）、Ⅵ・Ⅶ層が陥没する方向へ遺構が引き込まれてしまったもの（SI860-P923・SC804・825・842･P848）、液状化の影響により遺構が破壊されてしまったもの（埋設土器 883･土器集中 865）などがある。下層の遺構は、出土遺物から縄文時代晩期後葉の鳥屋 2a 式期が主体であると推定される（第Ⅶ章 2D）。また、遺構の重複が少ないことから、遺跡は短期間の利用であった可能性が考えられる。

B　竪　穴　建　物

SI860（図版 30・34・36・78・87 ～ 89）

低位面で検出し、SC861・868 に隣接する。遺構東側を欠失するが、残存状況から平面形は楕円形と推定される。建物の長径は約 6.86m を測る。遺構の北側約 2m には、地震による土層の陥没が認められる（第 10 図・図版 77・陥没 1）。このため、遺構も地震の影響を受けており、建物の柱穴 P923、炉周辺の炭化物層はⅥ・Ⅶ層が陥没する方向へ遺構が引き込まれている。覆土は 24 層に識別され、1 ～ 4 層は、明オリーブ灰色砂とオリーブ灰色砂、オリーブ灰色シルトの互層となる。6 層は暗灰色砂が堆積し、炭化物粒を含む。7 層は炭化物層で、締まりが非常に強く硬化面となることから、床面と判断した。床面の中央よりやや東側には、径約 30cm の範囲に微細な骨片を含む焼土が検出され、焼土の周辺には約 151 × 88cm の範囲に炭化物の広がりが認められる。検出状況から炉と考えられる。床面の西側 P902 付近からは、甕・深鉢（図版 58・104-3）の体～底部が一括して出土した。覆土 7 層から出土した鉢（図版 58・104-1）は、北側に隣接する SC861 出土土器と接合関係が認められる。柱穴は 12 基検出され、規模は長径 16 ～ 64cm、深度は 13 ～ 60cm を測る。このうち、P874・895・896・902 は覆土中～下位から自然礫が出土した。また、P873 からは甕・深鉢（図版 58・104-4）、壺（図版 58・104-7）が出土した。建物の西壁と南壁一部には、長さ 1 ～ 2m・幅 20 ～ 25cm・深度約 5cm の溝が検出され、検出状況から壁溝と推定される。壁溝の覆土は暗灰色砂が主体で、炭化物粒を多量に含む。

遺物は、甕・深鉢（図版 58・104-5・11）、壺（図版 58・104-2・6・8 ～ 10）、石鏃（図版 73・115-14）、石斧未成品（図版 73・116-35）、磨石類（図版 74・116-48）、石製品（図版 75・116-57）が出土した。

C　焼土・炭化物の集積

1）概　　要

焼土・炭化物の集積は 46 か所見つかっており、下層で検出した遺構の中で最も多い。これらは、以下

の３種類がある。なお、焼土・炭化物の集積については、渡邊［2009］を参考にした。

a　焼土が認められ、焼土の周辺に炭化物が集積するもの。

焼土は締りがあり、焼土の周縁が被熱して変色し、現地で火を焚いたと考えられる。調査区では16か所検出した。焼土の中心からの周縁にかけては、被熱の結果、赤褐色→赤灰色となり色調の変化が徐々に認められるなどの特徴がある。規模は長径8m前後が２か所、４～6mが７か所、２～3mが４か所、2m以下が３か所ある。長径2m以上の規模のものは、焼土面が上下に２～３面持つものがあり、複数回にわたり火を焚いていた状況が推定される。規模が4m以上になると、炭化物層の下からピットが１～２基検出されるものがある。これらについては竪穴建物の可能性もあるが、SI860のように床面と判断される硬化した炭化物層が認められないこと、壁溝などの付帯施設が明確に検出されなかったこと、焼土・炭化物の堆積状況などからSCに含めた。

a		b			c
SC801	SC863	SC800	SC847	SC885	SC283
SC802	SC872	SC806	SC850	SC889	SC856
SC803	SC879	SC807	SC858		SC861
SC804	SC911	SC809	SC866		SC871
SC808	SC914	SC810	SC867		SC890
SC815	SC918	SC811	SC868		SC891
SC817		SC816	SC870		SC893
SC825		SC818	SC876		SC934
SC842		SC821	SC880		
SC859		SC845	SC884		

第２表　SCの分類

b　炭化物が集中し、焼土粒を含むもの。

火を焚いたと考えられる焼土が認められないもの。焼土はブロック状・粒状となり、これらが炭化物・炭化物粒と混じり合って堆積する状況が見られる。検出状況から、別の場所で焚かれた焼土や炭化物を移動したものと考えられる。調査区では22か所検出した。規模は長径2m以上のものが７か所、1.0～1.9mが11か所、0.6～0.8mが４か所ある。

c　炭化物のみが集中するもの。

調査区では８か所検出した。規模は長径6m以上が１か所、1～1.5mが３か所、1.0m以下が４か所あり、a・bの遺構より規模が小さい。また、b・cの遺構は明瞭な掘り込みを持たないものが殆どだが、土坑状の掘り込みを持つものも数基認められる。これらについても、土層堆積状況などからSCに含めた。

2）各　　説

SC283（図版31・35・37・90）

微高地に位置する。SC879の南西、土器集中２の北側に近接する。炭化物粒は、SC中央部から北側の範囲にやや集中するが、このほかは疎らである。

SC800（図版30・34・37・90）

微高地に位置する。SC中央から西側では、壺（図版58・104-12）の細片が約1.5m×1.5mの範囲に集中して出土した。この周辺には、多量の炭化物・炭化物粒と焼土粒が集中する。焼土粒は炭化物粒と混じり合って堆積することから、土器・炭化物・焼土が一括して入れられた可能性が推定される。

SC801（図版30・34・38・90）

SC800の東側に隣接する。SC中央の１層は、明赤褐色の焼土である。焼土周辺の土である２層は被熱し、にぶい赤褐色シルトとなる。更にこの外周の３・４層は炭化物層である。土層堆積状況から、この場で火を焚いたものと推定される。３層の炭化物層からは甕・深鉢（図版58・104-16）の体～底部が正位の状態で出土した。また、深鉢（図版58・104-15）は、SC825・842出土土器との接合関係が認められる。SC

南側の３層下からはP1 ～ 4 を検出した。いずれも覆土に炭化物を多量に含む。

遺物は、甕（図版 58・104-14）、深鉢（図版 58・104-13）、壺（図版 58・104-17 ～ 19）、石鏃（図版 73・115-5）が出土した。

SC802（図版 31・35・38・90）

微高地に位置する。SC 中央の２・３層は、にぶい赤褐色の焼土で、３層下位は暗赤褐色となる。また、焼土周辺の４層は被熱しており、赤灰色シルトとなる。土層堆積状況から、この場で火を焚いたものと推定される。

SC803（図版 31・35・38・90）

微高地から北側緩斜面へと地形が緩やかに変化する地点に位置する。SC 北側の３層は、赤褐色の焼土で、焼土周辺の２層は炭化物層である。SC 上面及び周辺は東西方向の砂脈が多数認められる。遺構も地震の影響を受けており、１～３層は噴砂により分断されている。このため、土層堆積状況が不明瞭な部分があるが、焼土の縁辺が赤褐色から赤灰色と徐々に変色して被熱の痕跡を示すことから、この場で火を焚いた可能性が推定される。遺物は甕・深鉢（図版 59・104-20）が出土した。

SC804（図版 31・35・39・91）

微高地から北側緩斜面へと地形が緩やかに変化する地点に位置する。SC 中央からやや南西の１層は、にぶい赤褐色の焼土である。焼土の縁辺がにぶい赤褐色から赤灰色と徐々に変色して被熱の痕跡を示すことから、この場で火を焚いた可能性が推定される。焼土周辺には炭化物が広がる。炭化物の集中範囲は、径 8.37m × 7.78m の広範囲に認められる。このうち、焼土周辺の約 2.4m × 1.6m の範囲と SC 北側の 3.2m × 1.6m の範囲では、炭化物が濃密に分布する。１層の焼土下位には焼土粒・灰白色シルトブロックなどを含む炭化物層が堆積する（5 ～ 7 層）。この炭化物層を挟んで最下層の８層は、にぶい赤褐色の焼土が検出された。焼土は１層の焼土に比べ暗色であるが、縁辺部に向かって赤灰色に変色することから、この場で火を焚いた可能性が推定される。また、焼土及び焼土周辺からは微細な骨片が出土した。土層堆積状況から、SC804 では少なくとも２度にわたり火を焚いたことが推定され、炭化物が広範囲に分布することから大規模な燃焼行為があったことが考えられる。遺構は地震の影響を大きく受けており、SC 中央部は砂が噴き上げた結果、4･6 層が分断されている。北側は東西方向に走る砂脈により、6 層が分断され、SC 西側では７層の陥没が認められる。７層の下からは、P892 が検出された。また、遺構東側に隣接して P927 が存在する。P892 は長径 30cm、P927 は長径 56cm を測り、いずれも炭化物粒を含む。

遺物は、浅鉢（図版 59･105-21）、甕（図版 59･105-22 ～ 24･26）、甕･深鉢（図版 59･105-27･28）、壺（図版 59・105-25）、石鏃（図版 73・115-4）、石斧未製品（図版 73・116-37）が出土した。

SC806（図版 31・35・40・91）

微高地から東側緩斜面へと地形が緩やかに変化する地点に位置する。炭化物の分布は SC 中央部に集中し、外縁に向かって密度が低くなる。炭化物粒と焼土粒が混じり合って堆積することから、これらが一括して集積された可能性が推定される。遺物は浅鉢（図版 59・105-29）が出土した。

SC807（図版 31・35・40・92）

微高地に位置する。炭化物は 1.5m × 0.91m の範囲に集中し、この範囲に重なるように土器の細片、礫が集中する。炭化物粒と焼土粒が混じり合って堆積することから、これらが一括して集積された可能性が推定される。

SC808（図版 31・35・40）

緩斜面に位置する。SC 中央から東側にかけては、噴砂の痕跡が認められ、4 層の焼土が大きく分断されている。5 層は被熱しており、やや暗い赤褐色となる。地震の影響により、土層堆積状況が不明瞭な部分もあるが、焼土及び焼土周辺の土層から、この場で火を焚いた可能性が推定される。焼土周辺の 2 層から、多量の炭化物粒とともに白色の微細な骨片が出土した。

遺物は、甕・深鉢（図版 59・105-33・34）が出土した。

SC809（図版 31・35・40）

緩斜面に位置する。炭化物の分布は SC 西側にやや集中し、東側へ向かって少なくなる。炭化物粒と焼土粒が混じり合って堆積することから、これらが一括して集積された可能性が推定される。

SC810（図版 31・35・40・92）

緩斜面に位置する。炭化物の分布は SC 中央部に集中し、外縁に向かって密度が低くなる。炭化物粒と焼土粒が混じり合って堆積することから、これらが一括して集積された可能性が推定される。

SC811（図版 31・35・40）

緩斜面に位置する。炭化物の分布範囲は、地形の傾斜に沿って南北方向へ細長く広がる。炭化物粒と焼土粒が混じり合って堆積することから、これらが一括して集積された可能性が推定される。遺物は壺（図版 59・105-30 ～ 32）が出土した。

SC815（図版 30・34・41・92）

微高地から西側緩斜面へと地形が緩やかに変化する地点に位置する。1 層は炭化物粒と焼土粒を多量に含み、特に SC 中央から南側にかけて濃密に分布する。この範囲に重なるように土器の・石器が集中して出土した。3 層は暗赤褐色の焼土である。焼土周辺の土は被熱し、赤灰色となる。土層堆積状況から、この場で火を焚いた可能性が推定される。

遺物は、浅鉢（図版 59・105-36）、甕（図版 59・105-35）、石鏃（図版 73・115-7）、石鏃未成品（図版 73・115-16）、石錐（図版 73・115-19）、不定形石器（図版 73・116-27）、石斧未成品（図版 73・116-34）、石核（図版 74・116-54）が出土した。

SC816（図版 30・34・41・92）

微高地に位置する。炭化物は約 4.54m × 3.55m の範囲に疎らに分布する。2 層は暗灰黄褐色シルトが主体で炭化物粒・焼土粒が混じり合って堆積し、約 1.4m × 0.7m の範囲に濃密に集中する。土層堆積状

況から、焼土・炭化物が一括して集積された可能性が推定される。

遺物は、鉢（図版 60・105-37）、深鉢（図版 60・105-38）、壺（図版 60・105-39）、石鏃（図版 73・115-13）、磨製石斧（図版 73・116-29）が出土した。

SC817（図版 30・34・41・92）

緩斜面に位置し、埋設土器 908 の北東に隣接する。2 層は焼土で、焼土周辺の 3・4 層は被熱し、灰赤褐色・赤灰色となる。土層堆積状況から、この場で火を焚いた可能性が推定される。また、2 層から白色の微細な骨片が出土した。

遺物は、深鉢（図版 60·105-40）、石鏃未成品（図版 73·115-15）、不定形石器（図版 73·116-28）が出土した。

SC818（図版 30・34・40）

微高地から北側緩斜面へと地形が緩やかに変化する地点に位置する。炭化物粒と焼土粒が混じり合って堆積することから、これらが一括して集積された可能性が推定される。

SC821（図版 31・35・40）

微高地に位置する。2 層は炭化物粒・焼土粒を多量に含む。これらは混じり合って堆積することから、これらが一括して集積された可能性が推定される。

SC825（図版 30・34・42・78・93）

低位面に位置する。遺構は地震の影響を受けており、1 ～ 8 層は波状に起伏をもって堆積する。また、遺構東側はⅥ層の陥没が認められ、遺構東側半分もこれに引き込まれるように沈み込む。2・3・5 層は焼土で、焼土下位の 6・7 層は被熱して灰赤色シルトとなる。10・15 層は灰赤色・赤灰色シルトで、灰のような土が堆積する。16 層下位は暗赤褐色の焼土で、焼土周辺の土は被熱して赤灰色に変色する。土層堆積状況から、2・3・5・16 層の各層で火を焚いた可能性が推定される。また、4 層の炭化物層から糸玉（図版 75・117-64 ～ 68）、3・8 層から白色の微細な骨片が出土した。12 層の下からはピット 2 基が検出され、P1 は長径 55cm を測る。覆土は単層で、焼土・炭化物・骨片をブロック状に含む。P2 は長径 53cm を測る。覆土は 4 層に識別され、2 層は暗赤灰色シルトと炭化物粒・骨片がブロック状に堆積する。土層堆積状況から、いずれも埋め戻された可能性が推定される。

遺物は、浅鉢（図版 60・105-41 ～ 45・50）、深鉢（図版 60・105-46 ～ 49・51）、壺（図版 60・105-52・53）、石鏃（図版 73・115-6・8・12）、石錐（図版 73・115-23）、不定形石器（図版 73・115-25）、石核（図版 75・116-56）、石製品（図版 75・116-58）が出土した。

SC842（図版 30・34・43・78・94・95）

低位面に位置する。遺構北西側は地震の影響により、Ⅵ層の陥没が認められる（第 10 図）。遺構は、これに引き込まれるように北側半分が急激に沈み込む。6・8・13 層は赤褐色の焼土で、焼土周辺の土は被熱し、赤灰色に変色する。土層堆積状況から、6・8・13 層の各層で火を焚いた可能性が推定される。3・4・6 ～ 8 層から白色の微細な骨片、5 層からは焼けたオニグルミ、12 層からは漆製品（図版 75・117-69）が出土した。

遺物は、浅鉢（図版 60・106-54）、甕（図版 60・106-56・57）、甕・深鉢（図版 60・106-55）、石鏃（図版 73・115-10）、不定形石器（図版 73・115-24）、磨製石斧（図版 73・116-31）、磨石類（図版 74・116-50）、が出土した。

SC845（図版 30・34・40）

低位面に位置する。SC 中央には噴砂の痕跡が認められる。炭化物粒と焼土粒が混じり合って堆積することから、これらが一括して集積された可能性が推定される。

SC847（図版 30・34・40）

低位面に位置する。炭化物粒と焼土粒が混じり合って堆積することから、これらが一括して集積された可能性が推定される。

SC850（図版 31・35・43・92）

低位面に位置し、埋設土器 894 の西側に隣接する。炭化物粒と焼土粒が混じり合って堆積することから、これらが一括して集積された可能性が推定される。遺物は、浅鉢（図版 60・106-58）、甕・深鉢（図版 60・106-59）、石鏃（図版 73・115-9）が出土した。

SC856（図版 30・34・40）

低位面に位置し、P854 の南側に隣接する。炭化物は 0.59m × 0.52m の範囲に分布する。ほかの SC と比べ規模が小さく、炭化物が集中する密度も低い。

SC858（図版 30・34・40・92）

低位面に位置する。炭化物粒と焼土粒が混じり合って堆積することから、これらが一括して集積された可能性が推定される。

SC859（図版 31・35・44・78・95）

低位面に位置する。遺構東側には大規模なⅥ層の陥没（第 10 図）と噴砂の痕跡が認められる。また、遺構は北西 - 南東方向・東西方向の砂脈により 1 ～ 3 層が分断される。2 層は焼土で、焼土周辺の土は被熱して赤灰色に変色する。3 層下位には暗赤褐色の焼土が検出され、焼土下位は被熱して灰赤色シルトとなる。土層堆積状況から 2・3 層の各層で火を焚いた可能性が推定される。また、焼土及びその周辺からは白色の微細な骨片が出土した。炭化物は焼土周辺に濃密に分布し、石冠（図版 75･116-61）が出土した。土器の集中は、北･西･南西の 3 か所で認められ、甕（図版 61･106-70）、深鉢（図版 60･106-69）が出土し、深鉢 69 は遺構南西側に隣接する土器集中 888 出土土器と接合関係が認められる。炭化物層の下からは、ピットが検出され、規模は長径 54cm を測る。覆土は単層で、炭化物を含む。

遺物は、浅鉢（図版 60・106-60 ～ 63）、鉢（図版 60・106-65）、甕（図版 60・106-66・67）、深鉢（図版 61・106-71）、甕・深鉢（図版 60・106-64・68）、石錐（図版 73・115-20）、不定形石器（図版 73・116-26）、磨石類（図版 74・116-45・51）が出土した。

SC861（図版 30・34・45・96）

低位面に位置し、SI860 の北側に隣接する。遺構南側は地震による土層の陥没が認められ（第 10 図・図版 77・陥没 1）、遺構が破壊されている。また、東側では噴砂により 1 層が分断されている。遺構西側の 1 層から、約 50 ～ 60cm の範囲に礫が集中して出土した。礫は加工痕が認められず、被熱もしていない。1 層の下からは、P915・916 が検出された。P915 は長径 38cm、P916 は長径 36cm を測る。P916 は単層で、炭化物粒を多量に含む。

遺物は、浅鉢（図版 62･106-75 ～ 77）、壺（図版 62･106-78･79）、磨製石斧（図版 73･116-32）が出土した。

SC863（図版 31・35・43・77）

微高地に位置する。遺構は地震の影響を受けており、噴砂により遺構は分断されて東側半分が沈み込んでいる（第 10 図）。遺構の中央部には焼土が検出され、焼土周辺は炭化物が濃密に分布する。焼土周辺の土は被熱し、赤灰色に変色する。土層堆積状況から、この場で火を焚いた可能性が推定される。遺物は、石鏃未成品（図版 73・115-18）が出土した。

SC866（図版 30・34・46・96）

緩斜面に位置し、SC867 の西側に隣接する。遺構は北東－南西方向の砂脈により分断される。1 ～ 4 層は焼土粒・炭化物粒・骨片が混じり合って堆積することから、これらが一括して集積された可能性が推定される。遺物は、深鉢（図版 62・106-80）、石錐（図版 73・115-21）が出土した。

SC867（図版 31・35・46・96）

緩斜面に位置する。炭化物粒と焼土粒が混じり合って堆積することから、これらが一括して集積された可能性が推定される。

SC868（図版 30・34・46）

低位面に位置し、SI860 の西側に隣接する。遺構は地震の影響を受けており、東側が破壊されている。3 層は炭化物粒と焼土粒が混じり合って堆積することから、これらが一括して集積された可能性が推定される。遺物は、深鉢（図版 62・106-81）、甕・深鉢（図版 62・106-82）、石鏃（図版 73・115-2）、アスファルト（図版 75・117-70）が出土した。

SC870（図版 31・35・46・96）

緩斜面に位置する。1 層は炭化物粒・焼土粒が混じり合って堆積し、2 層は褐灰色シルトと明黄褐色シルトがブロック状に堆積することから、これらが一括して集積された可能性が推定される。

SC871（図版 31・35・46）

低位面に位置し、SC859 の東側、SC880 の南西側に隣接する。遺構東側は噴砂により破壊されている。1・2 層はいずれも炭化物粒を含み、特に 1 層に多い。

SC872（図版 31・35・46）

緩斜面に位置する。50 × 40cm の範囲に焼土が検出され、焼土周辺の土は被熱し、赤灰色に変色する。土層堆積状況から、この場で火を焚いた可能性が推定される。

SC876（図版 30・34・46）

低位面に位置し、SC856・P855・857 の南側に隣接する。炭化物粒と焼土粒が混じり合って堆積することから、これらが一括して集積された可能性が推定される。

SC879（図版 31・35・47・96）

微高地に位置し、SC283・889 の北側に隣接する。遺構の中央部には焼土が検出され、焼土周辺の土は被熱して赤灰色シルトに変色する。土層堆積状況から、この場で火を焚いた可能性が推定される。2 層からは、白色の微細な骨片が出土した。また、焼土と重なるように浅鉢（図版 61・107-72）、深鉢（図版 61・107-73）、甕（図版 61・107-74）が一括して出土した。炭化物層である 3 層からは、磨石類（図版 74・116-46）が出土した。焼土付近の 3 層の下からは、P906・930 が検出された。P906 は長径 22cm、P930 は長径 30cm を測る。P906 の覆土は 2 層に識別され、炭化物粒を多量に含む。P930 は単層で、炭化物粒を微量に含む。

SC880（図版 31・35・47・97）

低位面に位置する。炭化物粒と焼土粒が混じり合って堆積することから、これらが一括して集積された可能性が推定される。遺物は、石斧未成品（図版 73・116-36）が出土した。

SC884（図版 31・35・46・97）

低位面に位置する。遺構は、北西 - 南東方向に延びる 2 条の砂脈により分断される。炭化物粒と焼土粒が混じり合って堆積することから、これらが一括して集積された可能性が推定される。

SC885（図版 31・35・47）

低位面に位置する。炭化物粒と焼土粒が混じり合って堆積することから、これらが一括して集積された可能性が推定される。

SC889（図版 31・35・48）

緩斜面に位置する。炭化物粒と灰白色シルトが混じり合って堆積することから、これらが一括して集積された可能性が推定される。

SC890（図版 30・34・48）

低位面に位置し、SC891 の西側に隣接する。炭化物粒は SC の中心に濃密に分布し、外縁に向かって疎らとなる。

SC891（図版 30・34・48）

低位面に位置する。炭化物粒はSC北側に濃密に分布し、そのほかは疎らとなる。

SC893（図版 30・34・48）

低位面に位置する。灰色砂に炭化物粒が疎らに含まれる。

SC911（図版 31・35・48・97）

微高地に位置する。147cm × 93cm の範囲に焼土が検出され、焼土周辺の土は被熱して赤灰色に変色する。土層堆積状況から、この場で火を焚いた可能性が推定される。

SC914（図版 30・34・48・97・98）

微高地に位置する。2・5・6 層は焼土で、焼土周辺の土は被熱して赤灰色に変色する。土層堆積状況から各層で火を焚いた可能性が推定される。遺物は 1 層から深鉢（図版 62・107-83）、炭化物層の 3 層からは石冠（図版 75・116-59）、遺構の約 1.2m 南から独鉆状石製品（図版 75・116-63）が出土した。また、5 層から甕・深鉢（図版 62・107-84）の体～底部が出土した。

SC918（図版 31・35・48・97）

低位面に位置する。83cm × 29cm の範囲に焼土が検出され、焼土周辺の土は被熱して赤灰色に変色する。土層堆積状況から、この場で火を焚いた可能性が推定される。

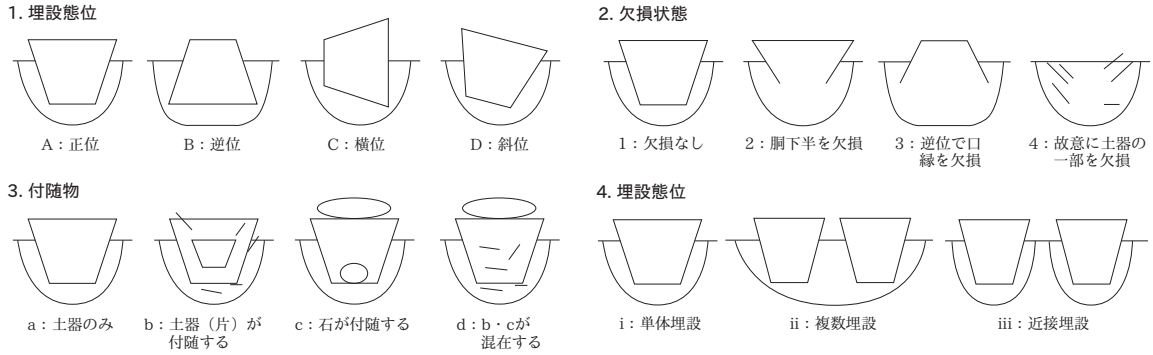
SC934（図版 30・34・48）

微高地に位置し、SC801 の北側に隣接する。炭化物粒はSCの中心に濃密に分布し、外縁は疎らである。

D　埋　設　土　器

1）概　　要

埋設土器は 17 基見つかっており、微高地で 3 基、緩斜面で 5 基、低位面で 9 基を検出した。このうち 14 基の埋設土器は、焼土・炭化物の集積に近接して分布する。残りの 3 基は、遺構分布が希薄な西側斜面に単独で存在する。埋設土器に用いられた土器は、粗製土器が主体であり、明確に精製土器とされる



第 16 図　埋設土器の分類模式図［古澤 2002］

ものは5個体と少ない。

埋設土器の分類基準については『元屋敷遺跡Ⅱ』［古澤 2002］に拠り、1. 埋設態位、2. 欠損状態、3. 付随物、4. 埋設方法について分類した（第16図）。埋設土器は、地震の影響により崩落・倒壊したものが多く、埋設態位については確実なものが少ないが、A：正位埋設：10基、B：逆位埋設：1基、C：横位埋設：1基となる。欠損状態は、欠損が認められない1類:12基、故意に土器の一部を欠損させた4類:1基で、1類が主体を占める。付随物は、付随物が認められないa類：13基、石が付随するc類：3基、土器片・石が付随するd類：1基で、a類が主体である。埋設方法は、単体埋設i類：7基、複数埋設ii類：3基、近接埋設iii類：7基である。

2）各　　説

埋設土器1（図版30・34・49・78）

微高地に位置し、SC815の北東、SC818の西側に近接する。口縁部を欠損する壺（図版62・108-85）が横位の状態で出土した。上位の肩～底部はつぶれるように内側へ崩落することから、正位の状態で埋設されたものが倒壊した可能性が推定される。

埋設土器824（図版30・34・49・78・98）

低位面に位置し、埋設土器903の西側に隣接する。遺構東側は地震の影響により、Ⅵ層の陥没が認められる。埋設土器は、土坑内に土器を埋設したものである。土坑南側には甕（図版62・107-87）と深鉢（図版63・107-88）の口縁～体部、甕・深鉢（図版63・107-89）の体部が隣接して埋設される。また、88と89の土器は環状に組み合わせており、甕87と高さを揃えるように埋設されている。土器の北側には、径11cmの礫、甕87の土器内からは浅鉢（図版62・107-86）の口縁部片が出土した。土坑北側では、石斧未成品（図版73・74・116-38・41・42）・扁平な楕円形礫（図版74・116-40）が2個ずつ上下に並べたように出土した。土坑の覆土は2層に識別され、2層は炭化物粒を多量に含む。底面は凹凸があり、側壁は緩やかに立ち上がる。

埋設土器828（図版30・34・49・98）

低位面に位置し、SC861・埋設土器824の北側に近接する。甕・深鉢（図版63・108-90）の体～底部が横位の状態で出土した。上位の体部はつぶれるように内側へ崩落し、下位の体部は外側へ開くように破損する。また、土器の北側には長径7cmの礫が出土した。遺構付近は地震により、橙色砂が噴出してⅥ層が島状に残る地点である。埋設土器もこの影響を受け、倒壊した可能性が推定される。

埋設土器830（図版30・34・50・98）

低位面に位置し、埋設土器839・土器集中831～833に近接する。浅鉢（図版63・108-91）と深鉢（図版63・108-92）の口縁～体部、甕・深鉢（図版63・108-93）の体～底部が近接して検出された。遺構付近は地震により、橙色砂が噴出してⅥ層が島状に残る地点である。埋設土器もこの影響を受け、浅鉢91は口縁部がつぶれるように外側へ崩落し、正位の状態で埋設されていたものが倒壊した可能性が推定される。また、深鉢92、甕・深鉢93は南側へ大きく傾き、この先には長径12cmの棒状礫が検出された。また、93の土器は、土器集中831出土土器と接合関係が認められる。

埋設土器 834（図版 30・34・49・99）

低位面に位置し、土器集中 833 の北側に近接する。甕・深鉢（図版 63・108-94）の体～底部が横位の状態で出土した。遺構付近は地震により、橙色砂が噴出してⅥ層が島状に残る地点である。埋設土器もこの影響を受け、倒壊した可能性が推定される。

埋設土器 837（図版 29・33・51・99）

緩斜面に位置し、埋設土器 924 の北側に近接する。甕（図版 64・109-95）が横位の状態で出土した。遺構付近は地震により、橙色砂が噴出してⅥ層が島状に残る地点である。埋設土器もこの影響を受け、倒壊した可能性が推定される。

埋設土器 839（図版 30・34・50・99）

低位面に位置し、埋設土器 830・土器集中 831 に近接する。甕・深鉢（図版 64・109-99）の体～底部が正位の状態で出土した。遺構付近は地震により、橙色砂が噴出してⅥ層が島状に残る地点である。埋設土器もこの影響を受け、体部はつぶれるように外側へ崩落する。また、つぶれた体部片の上には長径 6cm の礫が出土した。また、甕（図版 64・109-98）は、土器集中 831 ～ 833 出土土器との接合関係が認められる。出土状況から、土器集中 831 ～ 833 の土器は埋設土器 839 の一部であったと推定され、地震の影響により、大きく北側へ移動した可能性が考えられる。

埋設土器 840（図版 30・34・50・99）

低位面に位置し、土器集中 836 に近接する。浅鉢（図版 64・109-100）と甕（図版 64・109-101）の体～底部が隣接して埋設されている。遺構付近は地震により、橙色砂が噴出してⅥ層が島状に残る地点である。浅鉢 100・甕 101 は出土状況から、いずれも正位に埋設されたと考えられるが、浅鉢 100 は体部が南側へ倒壊し散乱する。甕 101 も南側へ大きく傾く。

埋設土器 883（図版 29・33・51・99）

緩斜面に位置する。甕・深鉢（図版 64・109-96・97）の体～底部が隣接して埋設される。遺構付近は地震により、橙色砂が噴出してⅥ層が島状に残る地点である。出土状況から、いずれも正位に埋設されたと考えられるが、甕・深鉢 97 は噴砂により沈み込み、南側へ大きく傾く。

埋設土器 887（図版 31・35・51・99）

低位面に位置する。埋設土器は、土坑内に土器を埋設したものである。土坑中央に台付浅鉢（図版 65・109-102）を埋設する。土器は、浅鉢の底部を外し、口縁～体部を円形ないし方形状に組み合わせる。口縁部・底部片はこの上位で検出されており、出土状況から、これらの土器片で蓋をした可能性が推定される。

埋設土器 894（図版 31・35・49・100）

低位面に位置し、SC850 の東側に隣接する。埋設土器は、ピット内に土器を埋設したと考えられるが、遺構は、地震により橙色砂が噴出してⅥ層が島状に残る地点のため、明確な掘形を確認できなかった。土

器は、甕・深鉢（図版 65・110-103）の体～底部が正位の状態で埋設されている。

埋設土器 898（図版 30・34・51）

緩斜面に位置し、SC866 の北西に隣接する。甕・深鉢（図版 65・110-104）の体～底部が横位の状態で出土した。遺構付近は地震により、橙色砂が噴出してⅥ層が島状に残る地点である。埋設土器もこの影響を受け、倒壊した可能性が推定される。

埋設土器 903（図版 30・34・51・100）

低位面に位置し、SC861 の西側、埋設土器 824 の東側に隣接する。鉢（図版 65・110-105）が正位の状態で出土した。埋設土器 824 の東側は地震によりⅥ層が大きく陥没する。埋設土器もこの影響により、口縁部が土器の内側へつぶれるように内側へ崩落する。

埋設土器 908（図版 30・34・51・100）

緩斜面に位置し、SC817 の南西に隣接する。埋設土器は、土器の大きさに合わせてピット状に掘り込み土器を埋設したもので、甕・深鉢（図版 65・110-106）の体～底部が逆位の状態で出土した。

埋設土器 924（図版 29・33・51）

緩斜面に位置する。浅鉢（図版 65・110-107）が正位の状態で出土した。遺構付近は地震により、橙色砂が噴出してⅥ層が島状に残る地点である。埋設土器もこの影響を受け、口縁部つぶれるように外側へ崩落する。

埋設土器 928（図版 31・35・51・100）

微高地に位置し、SC911 の東側に隣接する。深鉢（図版 66・110-108）と甕・深鉢（図版 66・110-109）が埋設される。下位の深鉢 108 は正位、上位の甕･深鉢 109 は逆位の状態で出土しており、出土状況から、合わせ口状に埋設されたと考えられ、上位の土器が下位の土器の内側へ崩落したものと推定される。

埋設土器 933（図版 30・34・53・100）

微高地に位置し、SC801・934 の北西に隣接する。埋設土器は、土坑内に土器を埋設したものである。土坑南側には甕(図版 66･110-111)が横位の状態で出土した。土坑の覆土は単層で､炭化物粒を微量に含む。遺物は甕・深鉢（図版 66・110-110）が出土した。

E 土 器 集 中

1）概　　要

土器集中は 18 か所見つかっており、微高地で 5 か所、緩斜面で 5 か所、低位面で 8 か所を検出した。このうち 15 か所の土器集中は、埋設土器、焼土・炭化物の集積に近接して分布する。残りの 3 か所は、付近に焼土・炭化物の集積が存在しない西側斜面に分布し、埋設土器と分布域がほぼ重なる。

2）各　　説

土器集中 1（図版 31・35・52・100）

微高地に位置し、土器集中 3 の東側に隣接する。遺物は約 1.7m × 1.8m の範囲に集中して出土した。土器集中の北側と南側には、約 0.9m × 0.5m の範囲に炭化物が比較的多く集中する。北側の炭化物集中範囲には、灰白色の粘土の堆積が認められる。深鉢 115（図版 66・111）は、土器集中 2 の出土土器と接合関係が認められる。遺物は、浅鉢（図版 66・110-112）、深鉢（図版 66・110-113・114）、石核（図版 74・116-53）が出土した。

土器集中 2（図版 31・35・52・100）

微高地に位置し、SC283･879 の南側に近接する。遺物は約 0.8m × 0.9m の範囲に集中して出土した。遺物は、深鉢（図版 67・111-116）が出土し、SC879 の出土土器と接合関係が認められる。

土器集中 3（図版 31・35・52）

微高地に位置する。遺物は約 0.5m × 1.4m の範囲に集中して出土した。集中域では、土器集中 1 と同様に灰白色の粘土の堆積が認められる。遺物は、浅鉢（図版 67･111-117）、深鉢（図版 67･111-118）、甕・深鉢（図版 67・111-119）が出土した。

土器集中 820（図版 29・33・53・101）

西側斜面に位置する。付近には遺構がなく、単独で存在する。遺物は、深鉢（図版 67･111-120）が約 0.5m × 0.7m の範囲に集中して出土した。遺構付近は地震により、橙色砂が噴出してⅥ層が島状に残る地点である。深鉢は上下に重なるように出土しており、横位の状態にあった深鉢がつぶれた可能性が推定される。

土器集中 822（図版 29・33・53）

西側斜面に位置する。付近には遺構がなく、単独で存在する。遺物は、壺（図版 67･111-121）が約 0.2m × 0.4m の範囲に集中して出土した。遺構付近は地震により、橙色砂が噴出してⅥ層が島状に残る地点である。出土状況から埋設土器の可能性も考えられる。

土器集中 831・832・833（図版 30・34・50）

低位面に位置し、埋設土器 830・839 に隣接する。遺構付近は地震により、橙色砂が噴出してⅥ層が島状に残る地点である。土器集中は、いずれも埋設土器 830・839 出土の土器と接合関係が認められる。出土状況から、埋設土器 830・839 の一部であったものが、地震の影響により原位置を動いてしまったものと推定される。

土器集中 835・836（図版 30・34・50・101）

低位面に位置し、埋設土器 840 の北側に近接する。遺構付近は地震により、橙色砂が噴出してⅥ層が島状に残る地点である。遺物は、浅鉢（図版 68・112-123）、深鉢（図版 68・112-124）、甕・深鉢（図版 67・111-122、図版 68・112-125）が出土した。甕・深鉢 122 と 125 は同一個体の可能性があることから、

もともと同一の遺構であったものが、地震の影響により原位置を大きく動いてしまった可能性が推定される。

土器集中 838（図版 29・33・53）

西側斜面に位置する。付近には遺構がなく、単独で存在する。遺物は約 0.5m × 0.7m の範囲に集中し、甕・深鉢（図版 68・111-126）の体～底部が出土した。

土器集中 852（図版 31・35・53）

微高地に位置する。遺物は約 1.4m × 2.1m の範囲に集中して出土した。Ⅵ層は地震の影響により、東側に陥没し、遺物もこれに引き込まれるように出土した。遺物は甕・深鉢（図版 68・112-127・128）が出土した。

土器集中 864（図版 30・34・53）

低位面に位置し、SC850・868 の北側に近接する。遺構付近は地震により、橙色砂が噴出してⅥ層が島状に残る地点である。遺物は、壺（図版 68・111-129）の体～底部が約 0.3m × 0.6m の範囲に集中して出土した。

土器集中 865（図版 30・34・54・101）

低位面に位置し、噴砂口（第８図）の北側で検出した。土器集中付近は大規模な液状化の痕跡が認められる。遺物は浅鉢（図版 68・112-131）、甕・深鉢（図版 68・112-130）が出土した。

土器集中 881（図版 31・35・53）

緩斜面に位置し、SC870 の北東、土器集中 886 の西側に近接する。遺物は約 0.7m × 0.8m の範囲に集中し、甕（図版 69・112-132）、深鉢（図版 69・113-133）、甕・深鉢（図版 69・112-134）、壺（図版 69・112-135）が出土した。

土器集中 886（図版 31・35・53・101）

緩斜面に位置する。遺物は、甕（図版 69・113-136）が約 0.5m × 0.8m の範囲に集中して出土した。出土状況から、土器は横位の状態でつぶれた可能性が推定される。

土器集中 888（図版 31・35・54）

低位面に位置し、SC859・867 に隣接する。遺物は約 1.1m × 1.2m の範囲に集中し、甕（図版 69・113-137）が出土した。

土器集中 932（図版 30・34・54・101）

微高地に位置し、SC817・818・914・934・埋設土器 908・933 に近接する。遺物は約 1.4m × 1.5m の範囲に集中し、甕（図版 69・113-138）が出土した。

第Ⅴ章　遺　　物

1　上層（中世）の遺物

A　概　　要

中世の遺物には、土師質土器、青磁、白磁、珠洲焼、瓷器系陶器、石製品、金属製品、木製品などがある。土器・陶磁器の大半を占めるのは珠洲焼で、Ⅳ期に属するものが主体である。遺構は、2012 年度の調査区と同様に昭和初期の開田の影響を受けており、遺構上半部が削平されている。このため、遺物は遺構深度の大きいものから出土しており、井戸・溝などから少量出土した。

B　土器・陶磁器

1）記 載 の 方 針

陶磁器、土師質土器の器種分類や年代観については、貿易陶磁器の分類は［山本 2000］、珠洲焼は [吉岡 1994］、土師質土器は［水澤 2005］、瓷器系陶器は［小田 1999、鶴巻 2005］を参考にした。実年代について珠洲焼は吉岡Ⅰ期 =12 世紀第 3 四半期～第 4 四半期、Ⅱ期 =13 世紀第 1 四半期～第 2 四半期、Ⅲ期 =13 世紀第 3 四半期～第 4 四半期、Ⅳ期 =14 世紀第 1 四半期～第 3 四半期である。

2）遺構内出土遺物（図版 55・102）

SE349（1 ～ 4）

1 は土師質土器小皿で、器壁が厚く、底部から口縁部にかけて外傾しながら立ち上がる。2 は珠洲焼の片口鉢で、卸し目は 10 目観察される。3 は珠洲焼の甕である。体部外面は叩打により成形される。また、割れ口の断面にはススの付着が認められる。4 は瓷器系陶器の甕で、地元笹神丘陵で生産された北越窯産と考えられる。体部の内外面にはススの付着が認められる。3・4 はススの付着状況から、二次的に付着したものと考えられる。

SE386（5 ～ 8）

5 ～ 7 は土師質土器皿で、5 は口縁部片、6・7 は底部片である。6 は底部内面の中央が盛り上がる形状となる。8 は珠洲焼の片口鉢で、口唇部は水平となる。Ⅳ期に比定される。また、器面の内外は器面の剥落が著しい。

SE479（9 ～ 13）

9・10 は珠洲焼の片口鉢で、いずれも口縁は内傾し、端部の稜は明瞭である。Ⅳ期に比定される。9 は内面の一部が赤化し、ススが付着することから、二次的に被熱したものと考えられる。11 は珠洲焼の甕の口縁部片である。頸部は、「く」の字状に屈曲し、体部外面は頸基部の直下から叩打成形がなされる。Ⅳ期と考えられる。12 は珠洲焼の壺で、頸部は緩やかに外傾し、頸部内面には櫛目波状文が施される。Ⅳ期と考えられる。13 は北越窯の瓷器系陶器甕である。体部には「菊花文 + 簾状文」の押印が認められる。

簾状文は端部に１条の節が入ることから、狼沢窯段階に属すると考えられる。

SK343（14）

14 は土師質土器皿で、底部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。器面の摩耗が著しい。

SK362（15）

15 は土師質土器皿で、口唇にタール状の付着物が認められる。灯明皿として使用された可能性が考えられる。

SK397（16）

16 は珠洲焼の片口鉢で、卸し目は７目観察される。

SK445（17）

17 は珠洲焼の片口鉢である。口縁は内傾し、端部の稜は明瞭である。Ⅳ期に比定される。

P450（18）

18 は珠洲焼の片口鉢である。底部外面にはススの付着が認められ、内面は器面の剥落が著しい。

SD300（19 ～ 21）

19 ～ 21 は珠洲焼の片口鉢で、19・20 は口縁部片、21 は底部片である。19・20 は、いずれも口唇部の中央付近がやや凹む。Ⅳ期に比定される。

3）遺構外出土遺物（図版 55・102）

22 ～ 24 は土師質土器小皿である。22 は手づくね成形、23・24 は器壁が厚く、口縁部の断面は三角形となる。25・26 は土師質土器皿で、いずれも器面の摩耗が著しい。27 は青磁蓮弁文の椀で、13 世紀中頃～ 14 世紀初頭前後に所属するものと考えられる。28 ～ 33 は珠洲焼の片口鉢である。28・29 は口縁部片で、いずれも口唇は平坦である。Ⅳ期に比定される。30 ～ 33 は底部片で、30・31 は底部外面に指頭痕が観察される。32 は底部内面および割れ口の断面にススの付着が認められることから、二次的に被熱したものと考えられる。34・36 は珠洲焼壺で、34 は肩部片、36 は底部片である。35・37 は珠洲焼の甕で、いずれも体部外面はタタキによる成形である。38 は瓷器系陶器の甕で、肩部に「菊花文＋簾状文」の押印が認められる。簾状文は端部に１条の節が入ることから、狼沢窯段階に属すると考えられる。

C　土器転用研磨具

珠洲焼など硬質な土器片の一部に、筋状の磨痕が認められるものである。井戸・溝などから出土した。

1）遺構内出土遺物（図版 56・102）

SE349（39・40）

39・40 は、いずれも珠洲焼を転用したもので、39 は正裏面に３条、40 は正裏面に２条の筋条痕が認

められ、40 の筋条痕の断面はＵ字状となる。

SD300（41）

41 は珠洲焼を転用したものである。口縁部片が接合しており、接合状況から破損あるいは折断した後に研磨具として使用されたものと考えられる。

2）遺構外出土遺物（図版 56・102）

42・43 は珠洲焼を転用したもので、いずれも正面に浅い筋条痕が認められる。

D　石　製　品

石製品には砥石があり、井戸・溝などから出土した。

1）遺構内出土遺物（図版 56・102）

SE349（44）

44 は正面が使用されており、基軸に対して斜め方向の線条痕が認められる。

SD300（45）

45 は正裏面が使用されており、正面は基軸に対して直交、斜め方向、裏面は基軸に対して平行、斜め方向の線条痕が認められる。

2）遺構外出土遺物（図版 56・102）

46・47 は正裏面に研面が観察され、46 の正裏面は基軸に対して斜め方向、47 の正裏面は基軸に対して直交、斜め方向の線条痕が認められる。48 は下半部を欠損する。正裏面、左右側面の 4 面に研面が認められ、いずれも線条痕が観察される。

E　金　属　製　品（図版 56・102）

金属製品には刀子があり、井戸・土坑・溝などから出土した。

SE349（49）

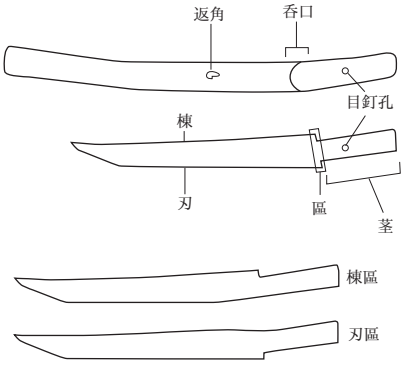
49 は棟區が明瞭に認められる。

SE386（50）

50 は刃部と基部の境の棟區・刃區（第 17 図）が明瞭で、基部には目釘穴が認められる。

SK488（51）

51 は刃部先端を一部欠損する。棟區・刃區は明瞭で、基部には目釘穴が認められる。



第 17 図　刀子名称［佐藤 2012］

SD11（52）

52 は刃部を欠損するもので、基部には目釘穴が認められる。

F　木　製　品（図版 57・103）

1）概　　要

木製品はすべて SE386・479・520 の 3 基の井戸から出土したものである。SE386 は最下部から曲物水溜、SE479 は最下部から井戸側横桟の最下段と縦板、上下 2 段に置かれた大小 2 個の曲物水溜が出土した。材質は全てスギ材である（第Ⅵ章 1）。この 2 基の井戸は出土状況から、もともと井戸側が設置されていて廃棄の際に解体、転用されたと推測する。解体の際に井戸側壁の崩落などの理由により最下段部の桟木、縦板、水溜が残されたと考える。また、SE520 からは漆塗りの木製椀が出土した。

2）各　　説

SE386（図版 57・103）

曲　　物（68）

高さ 54.0cm、径 58cm を測る。曲物の底板を外し、上下逆に設置されていた。厚さ 0.5 ～ 0.8cm の板目板の内外面に繊維を分断する方向に、ケビキで板厚の 2 分の 1 から 3 分の 1 の切り込みを入れて、板を 3 重に曲げ、両端部を桜の樹皮で縫って綴じている。上下を幅 8.5cm と 15.8cm の柾目材の箍で巻いて補強している。幅の広い箍は、もとは下端（上端）に巻かれていたものが中央部にずれたものである。綴じあわせ部分は本体、箍ともに厚みを薄くして段差を調整している。綴じあわせも同じ部分に力がかからないように、本体と箍部分でずらしている。綴じ方は 1 列内多段綴じで、上部側面には底板を止めていた木クギの痕が 36 か所認められる。

SE479（図版 57・103）

縦　　板（72）

縦板はおそらく、井戸側解体時に折れて残ったものであろう。全長 25.3cm、幅 14.8cm、厚さ 0.9cm の板目材である。中央部で縦に 2 つに割れている。全体に腐食が著しい。

桟　　木（69 ～ 71）

桟木は 5 点出土した。その中で出土位置が明確な 3 点を図示した。69 は南東側桟木。全長 86.6cm、幅 5.4cm、厚さ 5.6cm の柾目材で仕口は凸加工である。70 は北東側桟木。全長 89.5cm、幅 5.9cm、厚さ 6.9cm の柾目材、71 は南西側桟木。全長 88.7cm、幅 5.1cm、厚さ 6.3cm の柾目材で共に凹加工になる。3 点とも腐食が著しくほとんど原形をとどめない。

曲　　物（73・74）

73 は高さ 24.7cm、径 50.6cm を測る。上下 2 段に設置されていた水溜の下段である。厚さ 0.4 ～ 0.6cm の板目板の内面に繊維を分断する方向に、ケビキで板厚の 2 分の 1 から 3 分の 1 の切り込みを入れて、板を 2 重に曲げ、両端部を桜の樹皮で縫って綴じている。外側は箍で補強されていない。綴じあわせ部分は厚みを薄くして段差を調整している。綴じあわせも同じ部分に力がかからないようにずらしている。綴じ方は 1 列内多段綴じで、上部側面には底板を止めていた木クギの痕が 6 か所認められる。74

は高さ 53.6cm、径 79.0cm の大型の曲物水溜である。上下に重ねて設置されていた上段側である。厚さ 0.6 ～ 0.8cm の板目の幅広の板の内外面に繊維を分断する方向に、ケビキで板厚の 2 分の 1 から 3 分の 1 の切り込みを入れて、板を 2 重に曲げ、3 重になった部分を桜の樹皮で縫って綴じている。外側は上下を幅 7.5cm と 15.5cm の板目材の箍で巻いて補強している。幅の狭い箍は、もとは上端に巻かれていたものが中央部にずれたものである。上端部は腐食が著しく高さ、板厚共に本来の形を留めない。綴じあわせ部分は本体、箍ともに厚みを薄くして段差を調整している。綴じあわせも同じ部分に力がかからないように、本体と箍部分でずらしている。綴じ方は 1 列内多段綴じである。

SE520（図版 57・103）

漆　器　椀（75）

内外面赤漆塗りの木製椀である。横木取りで作られている。高さ 7.5cm、径 11.5cm で、高台外径 6.0cm、高台内径 4.2cm 高台高さ 1.9cm、底板厚 1.70cm を測る。高台内面は黒漆塗で、中央部に赤漆で書いた文字または図柄のようなものが見受けられるが、ほとんど剥落していて不明である。内外面赤漆塗りであることから 16 世紀以降の所産と考える。

2　中層（古代）の遺物

A　概　　要

古代の遺物には、土師器無台椀、須恵器無台杯、須恵器甕などがある。遺物はⅢ層で出土したほか、中世遺構の覆土や近世以降の溝から少量出土した。

遺物の年代観は、春日編年［春日 1999］のⅤ期（9 世紀前～中葉）に属する。須恵器の胎土については［春日ほか 2004］を参考にした。2012 年度の調査では胎土 B 群が主体で、胎土 A 群がわずかに見られたが、2013 年度の調査で出土した須恵器はすべて胎土 B 群である。胎土 B 群は以下の特徴が認められる。

胎土 B 群 : 胎土そのものが精良で、白色小粒子を多く含む。器面に黒色の斑点、吹き出しの見られるものが多い。器種によって胎土が異なり、無台杯と小型の有台杯は胎土が特に精良で器面は滑らかであるが、そのほかの器種は砂っぽいややざらついた胎土である。佐渡小泊窯跡群（やや離れた地点の大木戸窯跡も含む）で生産された須恵器と考えられる。

B　各　　説（図版 56・103）

53 ～ 60・63 ～ 65 は須恵器無台杯である。53・56・57・58・60 はロクロナデ痕の稜を強く残す。66 は土師器無台椀の底部片で、器面の摩耗が見られる。67 は須恵器甕で、外面は平行タタキ、内面は同心円状当て具痕が認められる。

3　下層（縄文時代）の遺物

A　土　　器

1）記 載 の 方 針

当遺跡の土器は、縄文時代晩期後葉の鳥屋 2a 式土器を主体とする。a 器種分類、b 口縁部及び口縁部形態及び各器種の器形分類、文様分類については、『青田遺跡』［荒川 2004］に拠り、その内容を引用し、以下に示す。なお、同時期の周辺遺跡との相互比較を容易にするため、分類項目は変更せず、当遺跡で出土例のない分類項目についても掲載した。また、当遺跡の特性に合わせて、一部省略した部分がある。当遺跡では、総重量 349.4kg の土器が出土した。

a　器　種　分　類

器種は、浅鉢形土器・台付浅鉢形土器・鉢形土器・甕形土器・深鉢形土器・壺形土器（以下「形土器」を省略する）の大別器種を設定した（第 18 図）。

b　口縁部及び口縁端部形態の分類

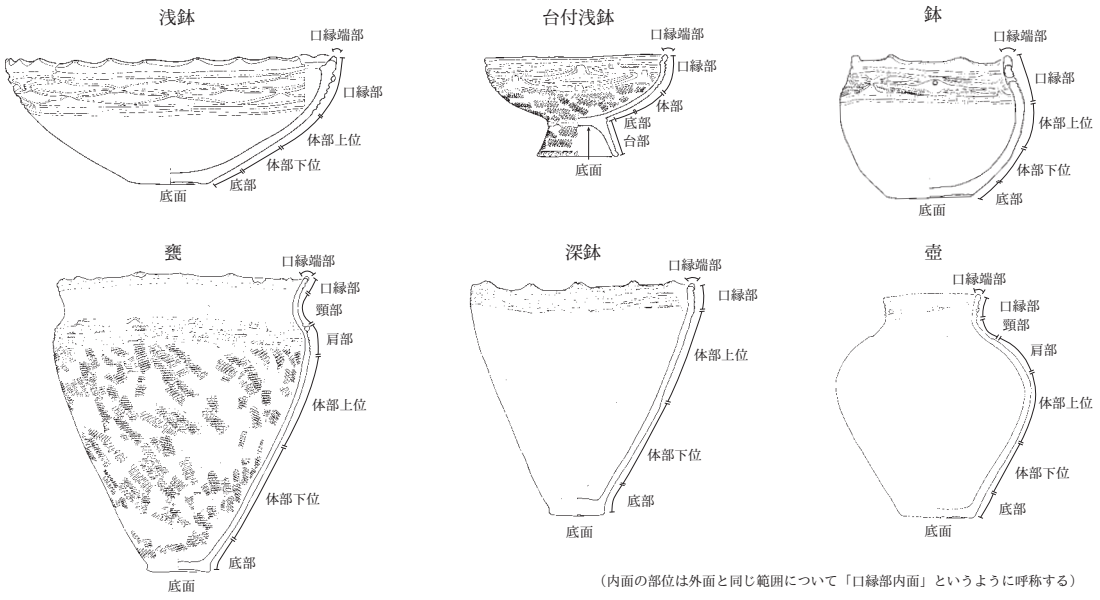
口縁形態の分類（第 17 図）

複合口縁　口縁部外面に帯状の粘土紐を貼り付けることにより、口縁部以下より一段高く作り出されるもの。

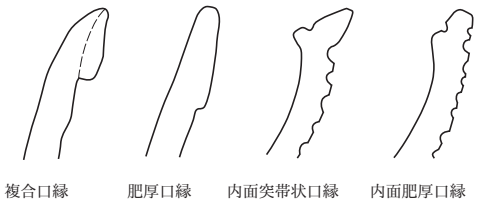
肥厚口縁　口縁部下端をケズリやミガキを加えて削り出すことにより、口縁部上端がそれ以下より高く作り出されるもの。

内面突帯状口縁　口縁部内面が肥厚し、その下端が大きく張り出すもの。下端に粘土紐を張り付けて作られたものもある。

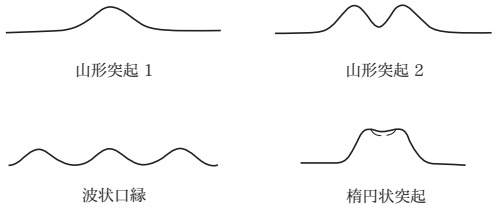
内面肥厚口縁　口縁部内面が肥厚するが、下端が強く張り出さないもの。



第 18 図　器種分類と部位の名称［荒川 2004］



第 19 図　口縁形態（内外面）［荒川 2004］



第 20 図　突起の分類［荒川 2004］

突起の分類（第 20 図）

山形突起 1　山形の突起が 1 個のもの。

山形突起 2　山形の突起が 2 個 1 対になるもの。

波状口縁　　山形突起が連続するもので、波底部が平行縁でなく湾曲するもの。

楕円状突起　山形突起の頂部が楕円形にくぼむもの。

c　浅　　鉢

口径が器高を上回るもので、口縁部～体部の屈曲が少ないものである。器形は底部から口縁部への立ち上がり方などから A ～ J 類に分類した（第 21 図）。文様帯は口縁部を主体とし、口縁部に施文される文様種類について 1 ～ 10 類に分類を行った（第 22・23 図）。そして、器形分類と文様分類とを組み合わせて A1 類のように表記し、個々の土器を記載する。なお、浮線文については a ～ h 種に分類し、1a 類のように末尾に表す。

器 形 分 類

A類　体部から口縁部にかけて鋭く張り出した後に屈曲し、口縁部が直立ないし外傾するもの。

B類　体部から口縁部にかけて明瞭な屈曲点を持たず曲線的に口縁部まで立ち上がるもの。口縁部はやや内傾するもの（1）、ほぼ直立するもの（2）、外傾するもの（3）を含む。

C類　体部は直線的に外傾し、口体境や口縁部上位に屈曲点を持って、内側に角度を変えて立ち上がるもの。屈曲の度合いは強いものと弱いものがあり、口縁部は若干内傾するもの（1）、直立するもの（2）、外傾するもの（3）がある。

D類　体部から口縁部にかけて直線的に外傾するもの。

E類　底部から体部にかけてほぼ直線的に立ち上がるもので、底径が口径に比して大きく、全体的に逆台形を呈するもの。

F類　体部下位から上位にかけて強く張り出した後に内傾し、外反する頸部を持つもの。

G類　体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部は丸みを帯びながら鋭く内傾するもの。

H類　体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部は丸みを帯びて内傾した後に、口縁部上端が「く」の字状に短く外傾するもの。東北地方の大洞 A' 式の影響が窺えるもの。

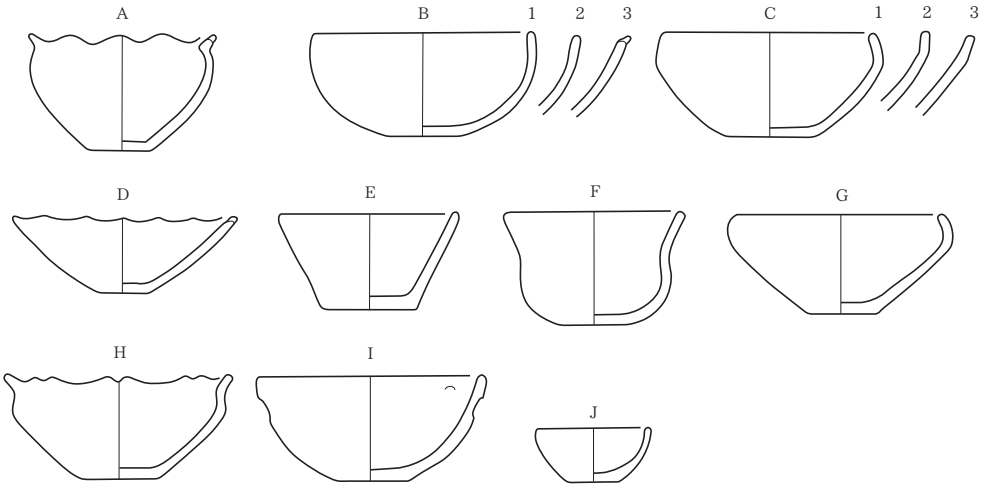
I類　幅広の頸部無文帯を有するもの。信州地方の氷 I 式の影響が窺えるもの。

J類　小形品をまとめる。

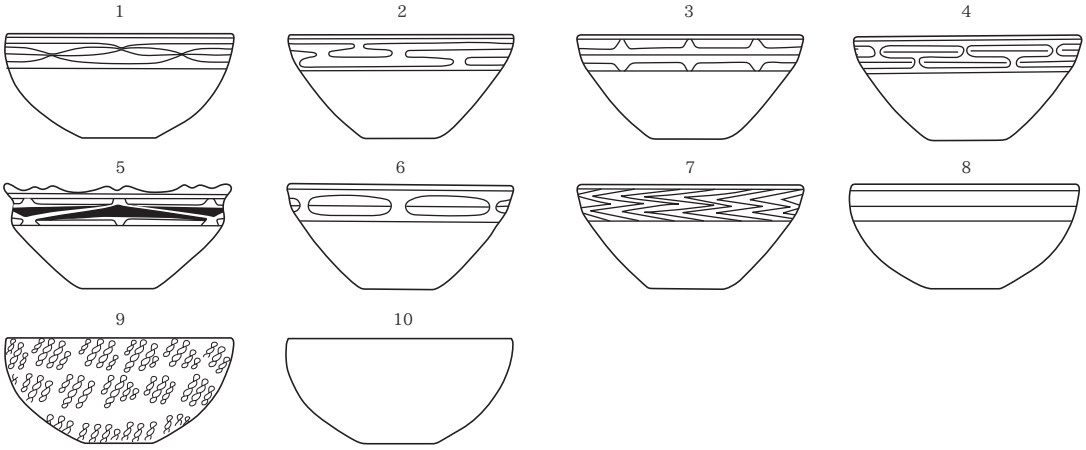
文様の分類（第 22・23 図）

1 類　浮線文が施されるもの。細分は後述する。

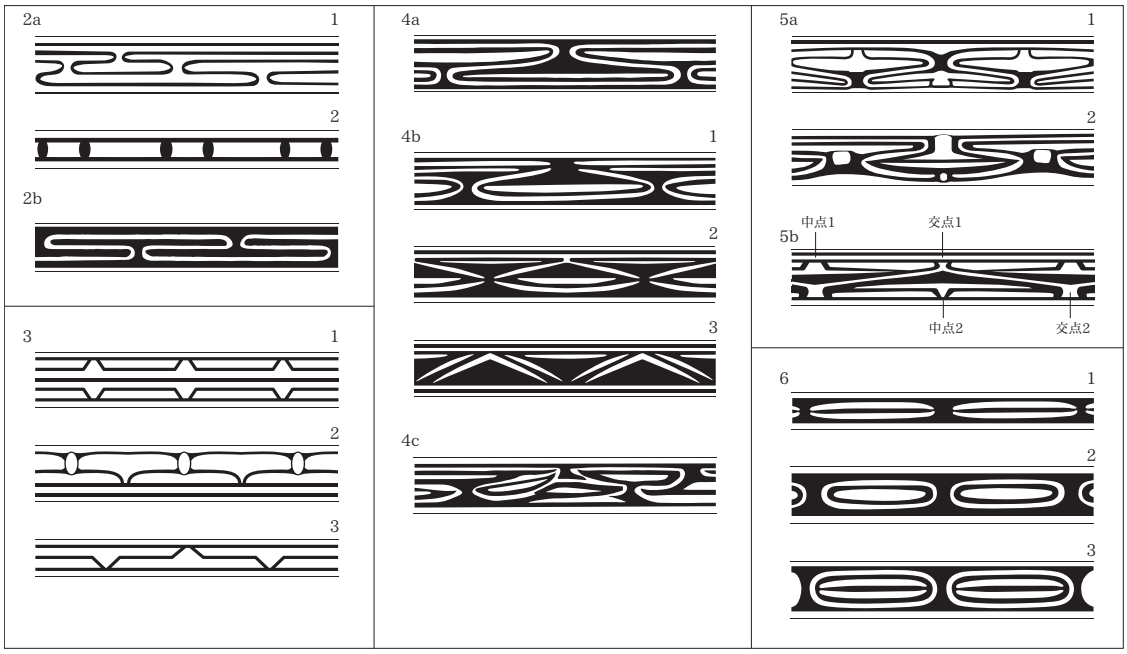
2 類　工字文が施されるもの。



第 21 図　浅鉢の器形分類［荒川 2004］



第 22 図　浅鉢の文様分類模式図［荒川 2004］



第 23 図　浅鉢文様 2 ～ 6 類の文様模式図［荒川 2004］

3 類　東北地方に系譜を求め得る匹字文が施されるもの。

4 類　沈線により匹字部を持たない横流水状の曲線的な変形工字文が描かれるもの。東北地方に系譜を求め得る。

5 類　三角形を交互に配し、中点や交点を持つ変形工字文あるいはそれに類似するモチーフが施されるもの。東北地方に系譜を求め得る。

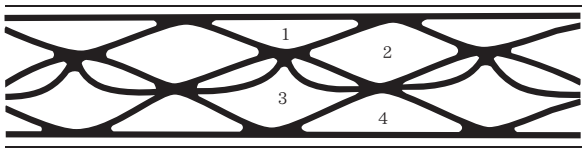
6 類　楕円文のほか、「日」字状文や「目」字状文など左右上下に連結しない楕円文系の文様が施されるもの。

7 類　綾杉文が施されるもの。

8 類　平行沈線文が施されるもの。

9 類　斜縄文が施されるもの。

10 類　全面無文のもの。



第 24 図　浮線文の段数の数え方［荒川 2004］

浮線文の分類（第 25 図）

a 種　菱形のモチーフのなかに交点間を結ぶ水平な浮線が加えられるもの。

a1 種　2 段の菱形のモチーフの上下に三角形モチーフが配されて 4 段構成となるもの。交点を平行沈線が貫くもの（1）がある。

a2 種　3 段構成となるもの。

a3 種　a2 種と同じ 3 段構成のもので、交点を結ぶ水平線が 2 ～ 3 条になるもの。

a4 種　文様帯の上端や下端に匹字状の交点持つ 2 段構成となるもの。

b 種　1 条と 2 条の浮線で表現されるもので、交点間の水平線がないもの。

b1 種　菱形と三角形を組み合わせた 4 段構成のもの。

b2 種　b1 種と同様の構図が 5 ～ 7 段と多段になるもの。

b3 種　2 ～ 3 段構成となり、文様帯が狭小なもの。

b4 種　b 種に交点間を結ぶ水平な浮線が加わるものや、不規則な構成となるもの。

c 種　文様の上端に匹字状の交点を持ち、楕円形ないし菱形のモチーフ内に水平線や楕円文が配されるもので、左右のモチーフが連結しないもの。

d 種　紡錘形を横に連続させる構図で、紡錘形の内部は 1 条から数条の浮線が施される。

d1 種　2 条の浮線による紡錘形のモチーフを連続させるもの。

d2 種　3 条による紡錘形のモチーフを連続させるもの。

d3 種　4 条以上の多条によるモチーフを連続させるもの。

d4 種　2 条による紡錘形のモチーフを上下 2 段に配するもの。

d5 種　3 条による紡錘形のモチーフを上下 2 段に配するもの。

d6 種　4 条やそれ以上による紡錘形のモチーフを上下 2 段に配するもの。

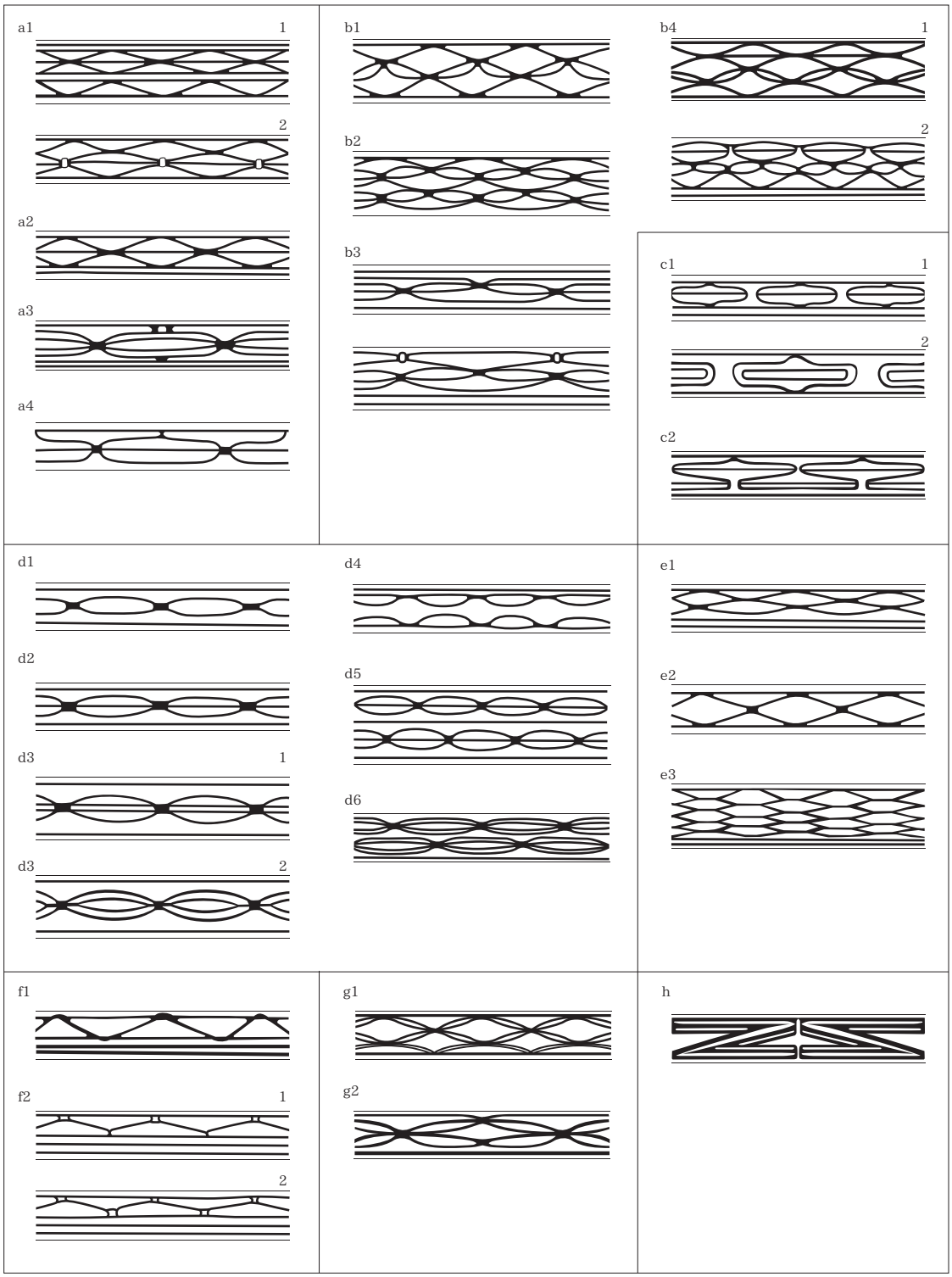
e 種　交点間に水平な浮線を持たない網目状の構図のもの。

e1 種　三角形と菱形を組み合わせた 3 段構成のもので、文様帯下端の交点が平行隆線に連結しないもの。

e2 種　e1 種と同様に 3 段構成だが、下段の交点が文様帯下端の平行隆線に連結させたものである。

e3 種　4 ～ 8 段と多段化するもの。

f 種　三角形のモチーフを上下交互に連続させるもの。



第 25 図　浅鉢文様 1 類浮線文の種類模式図［荒川 2004］

g 種　2 ～ 3 条 1 対の浮線により菱形のモチーフを描くもの。

h 種　細く直線的な浮線 3 ～ 4 条で Z 字状のモチーフを交互に組み合わせるもの。

d　台　付　浅　鉢

浅鉢に台が付くものである（第 18 図）。

e　鉢　　形

体部の立ち上がりの角度が浅鉢に類似するものの、口径が器高をやや上回る深めのものである（第26図）。

Ａ類　口縁部が緩やかに内傾するもの。

Ｂ類　体部は丸く膨らんだ後に内傾し、口縁部が「く」の字状に鋭く屈曲して外傾するもの。浅鉢Ａ類に類似する。

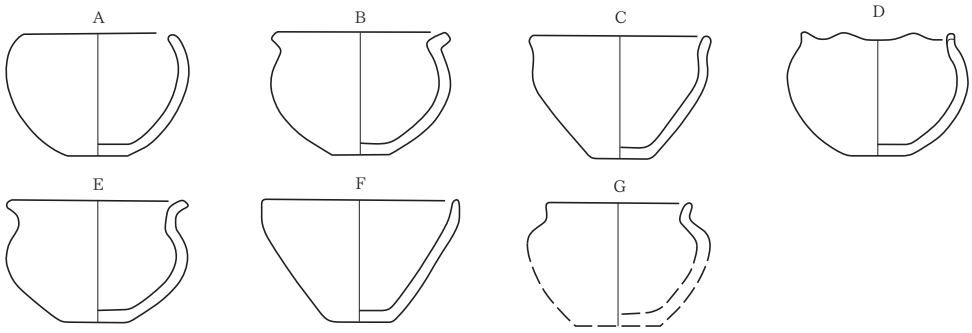
Ｃ類　体部が直線的に外傾した後に、口縁部はゆるく外反するもの。

Ｄ類　体部上位が丸く張り出した後に内傾し、口縁部はほぼ垂直に立ち上がるもの。

Ｅ類　体部上位が丸く張り出した後に外反する頸部を持つもの。口縁部は外傾する。

Ｆ類　体部から口縁部にかけて直線的に外傾するもので、口縁部が直立するものもある。

Ｇ類　体部上位が丸く張り出し、口頸部が「く」の字状に屈曲してやや外傾気味に立ち上がるもの。



第 26 図　鉢の器形分類［荒川 2004］

f　甕

体部の立ち上がりの角度が大きく、屈曲する頸部を有する器形である（第 18 図）。器形は肩部～口縁部の形態によりＡ～Ｉ類に分類した。また、文様帯は口縁部・頸部・肩部・体部上半にあり、文様帯の位置文様種類には１～３類のパターンが認められる。以上から、器形と文様帯構成・文様種類との組み合わせにより記載することとする。

器 形 分 類（第 27 図）

Ａ類　体部が直線的に立ち上がった後に肩部が丸く張り出し、頸部は緩やかに内傾して口縁部も内傾するもの。

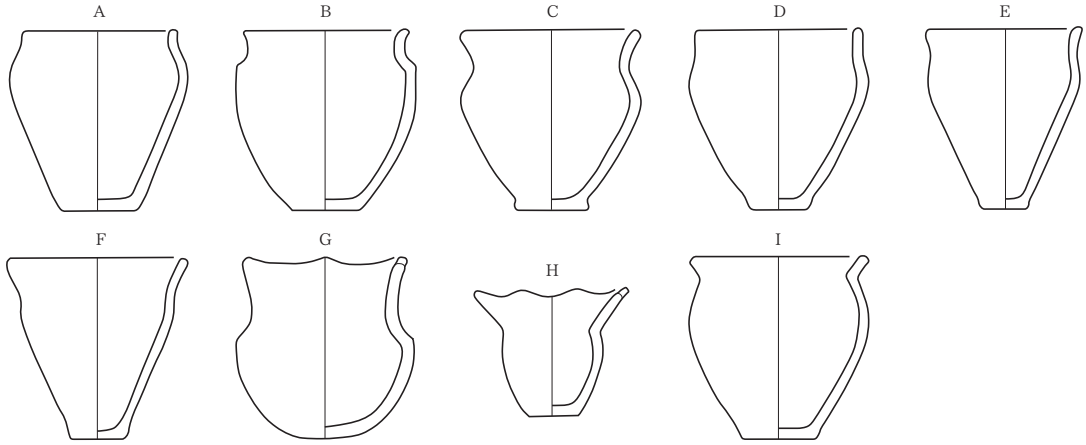
Ｂ類　肩部上端で角張るように強く張り出すもの。頸部は内傾するものから外反するものがあり、口縁部はほぼ直立するものと外傾するものがある。体部最大径より口径が下回るものが占める。

Ｃ類　肩部は丸く強く張り出し、頸部から口縁部にかけて外反するもの。口縁部から肩部にかけてＳ字形を描くようなものを主とする。

Ｄ類　肩部は丸く強く張り出すが、頸部は外反せず、口縁部がほぼ垂直に立ち上がるもの。

Ｅ類　肩部の張り出しは弱く、頸部の屈曲も弱く、口縁部が緩やかに外傾するもの。肩部の張り出し位置は肩部下位の場合が多く、全体的に細身のプロポーションとなる。

Ｆ類　肩部の張り出しはわずかで、頸部の屈曲が不明瞭のまま口頸部が外傾する。口径が体部最大径を上回る。



第 27 図　甕の器形分類［荒川 2004］

G類　非常に長い頸部を持つもの。肩部は強く張り出すものが多い。

H類　肩部の張り出しは弱く、頸肩境で鋭く屈曲して、長い口頸部が直線的に外傾するもの。口径が体部最大径を上回る。

I類　体部はやや丸みを帯びて立ち上がり、肩部は強く張り出し、口頸部が「く」の字状に屈曲するもの。

文様帯と文様の組み合わせ（第 28 図）

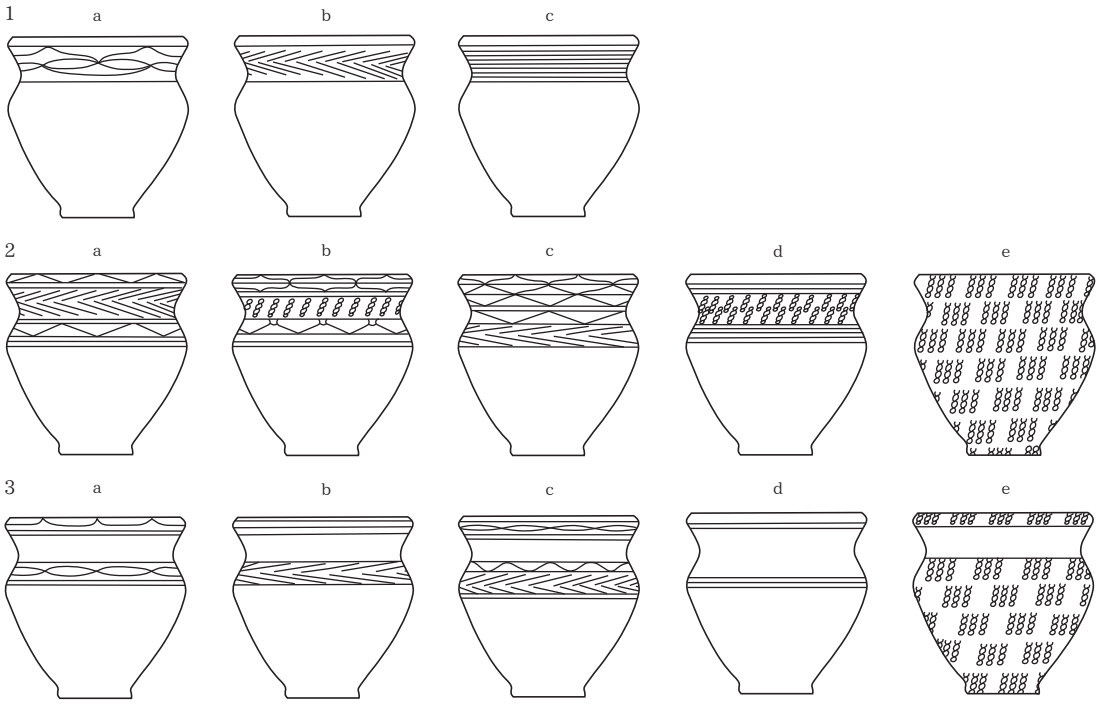
1 類　頸部を主な文様帯とするもの。

1a 類　浮線文が施されるもの。

1b 類　後述する綾杉文やこれに関連する沈線文（第 29 図）が施されるもの。

1C 類　頸部に平行沈線文などの上記以外の文様が施されるもの。

2 類　口縁部と肩部を文様帯としながらも、頸部にも文様が施されるもの。



第 28 図　甕の文様帯構成と文様種類の関係模式図［荒川 2004］

2a 類　頸部に綾杉文や関連する沈線文が施され、口縁部や肩部に浮線文や工字文が施されるもの。

2b 類　口縁部や肩部に浮線文や工字文が施され、頸部は斜縄文などが施されるもの。

2c 類　肩部に浮線文や工字文が施され、体部上位に綾杉文が施される２段構成のもの。

2d 類　口縁部や肩部に平行沈線文が施されるもの。

2e 類　全面に斜縄文などが施される装飾性の低いもの。

3 類　頸部を無文帯とし、口縁部と肩部を文様帯とするもの。

3a 類　口縁部や肩部に浮線文や工字文が施されるもの。

3b 類　口縁部や肩部に綾杉文やこれに関連する沈線文が施されるもの。

3c 類　肩部に浮線文や工字文が施され、体部上位に綾杉文が施される２段構成のもの。

3d 類　口縁部や肩部に平行沈線文が施されるもの。

3e 類　単位文様が施されず、口縁部や肩部以下に斜縄文や条痕文がなどが施される装飾性の低いもの。

綾杉文及びこれに関連する沈線文の分類（第 29 図）

綾杉文（1）　沈線が斜め上・斜め下に交互に連続的に描かれるもの。

交互綾杉文（2）　左右に開放する綾杉文が交互に施されるもの。これにより菱形のモチーフが形成される。

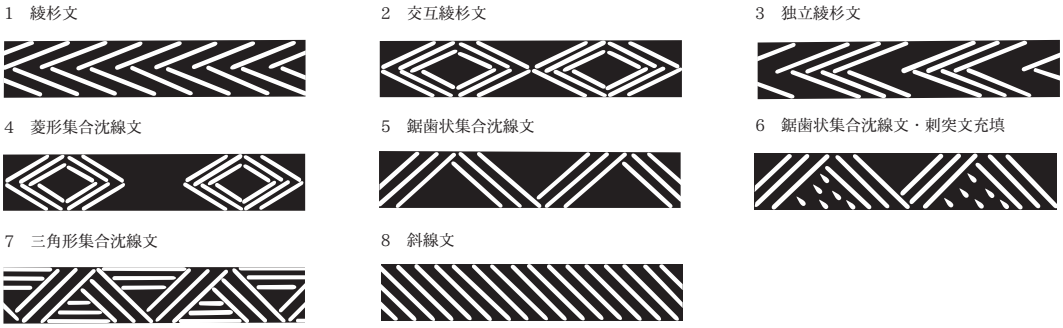
独立綾杉文（3）　綾杉文が一定の間隔を置いて施されるもの。

菱形集合沈線文（4）　交互綾杉文と同様に形成された菱形モチーフが横位に連結せず独立するもの。

鋸歯状集合沈線文（5）　多条の沈線により右上がりと左上がりが交互に施されるもの。三角形内に刺突文が充填されるもの（6）がある。

三角形集合沈線文（7）　鋸歯状集合沈線文の三角形内に水平の沈線文を加えたもの。

斜線文（8）　同じ斜位方向の沈線文が連続的に施されるもの。



第 29 図　綾杉文及び関連する沈線文の分類模式図［荒川 2004］

g　深　　鉢

器高が口径を上回るもので、口縁部から体部にかけて屈曲が少なく、甕のような頸部を持たないものである（第 18 図）。器形は口縁部の形態などから A ～ E 類に分類した。また、文様帯は口縁部に限定され、施文される文様により 1 ～ 8 類に分類した。よって、器形と文様種類との組み合わせにより記載することとする。

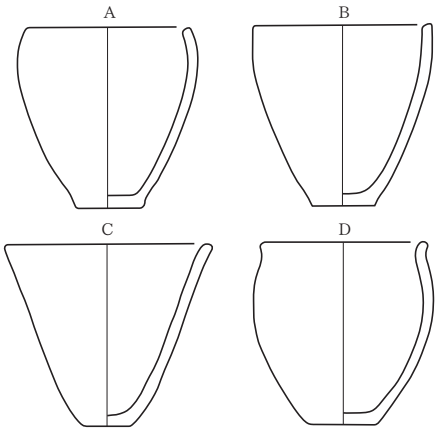
器 形 分 類（第 30 図）

A類　口縁部が内傾するもの。

B類　口縁部がほぼ直立するもの。

C類　口縁部が外傾するもの。

D類　体部上位から口縁部にかけてやや内傾した後に口縁端部付近が緩やかに外反するもの。口縁部に平行沈線文が施されるものや、体部に平行沈線文が施されるものがある。



第 30 図　深鉢の器形分類［荒川 2004］

文様の分類（第 31 図）

1 類　口縁部に浮線文が施されるもの。

2 類　口縁部に工字文が施されるもの。

3 類　口縁部に綾杉文及びこれに関連する沈線文(第 27 図)が施されるもの。

4 類　口縁部に浮線文、その直下に綾杉文などの文様が施されて 2 段構成となるもの。

5 類　口縁部に波状沈線文が施されるもの。

6 類　口縁部に平行沈線文が施されるもの。平行沈線文のほかに各種の文様が施されるものが多く、以下のように細分する。なお、複数の文様がある場合は、最後に施された文様を基準とする。

6a 類　斜縄文が施されるもの。

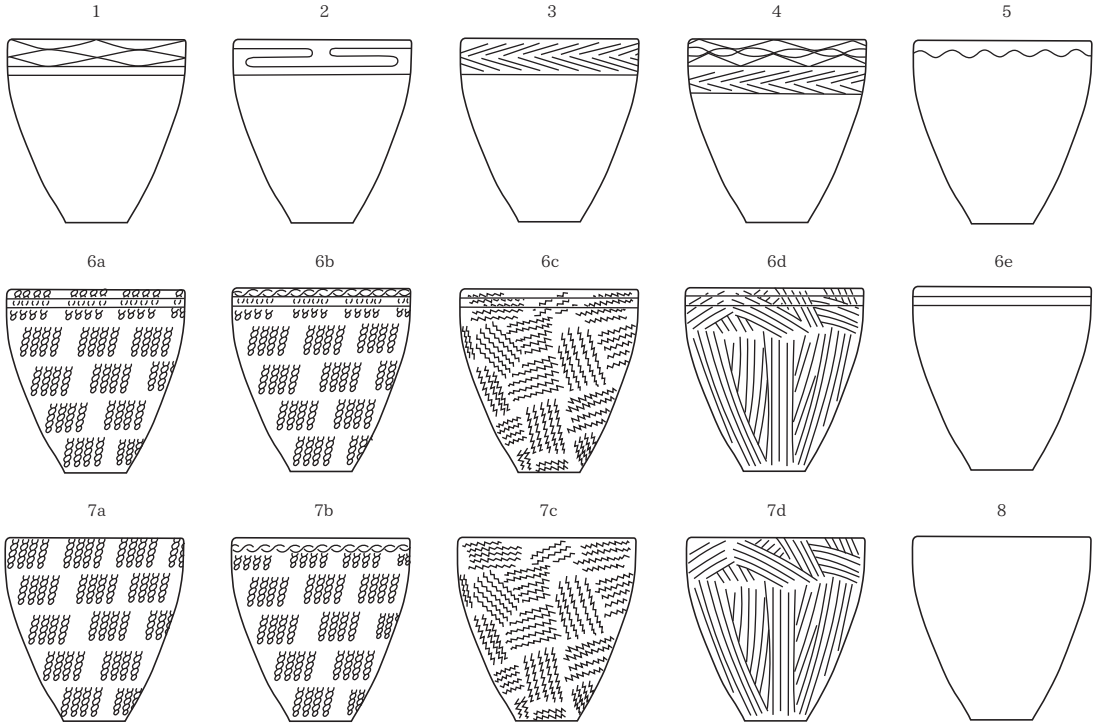
6b 類　結節縄文が施されるもの。

6c 類　撚糸文や網目状撚糸文が施されるもの。

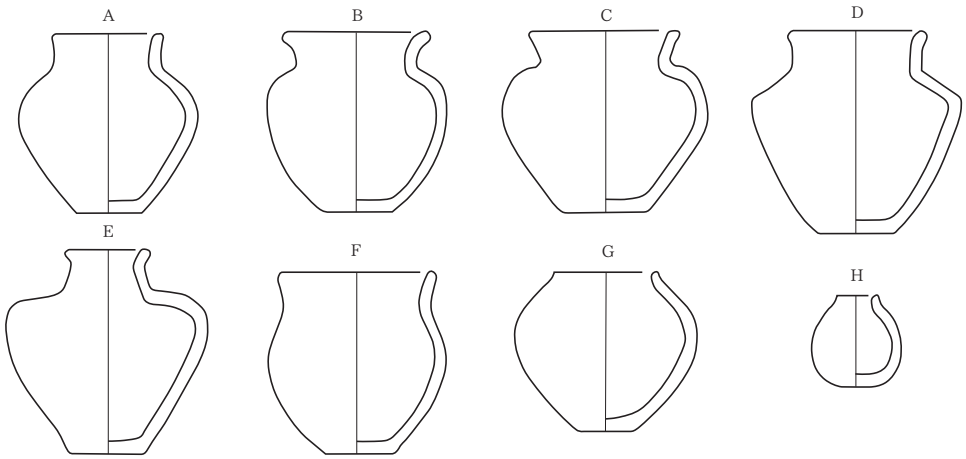
6d 類　条痕文が施されるもの。

6e 類　平行沈線文以外の文様が施されないもの。

7 類　文様帯を持たず、斜縄文などが施される装飾性の低いもの。



第 31 図　深鉢の文様分類模式図［荒川 2004］



第 32 図　壺の器形分類［荒川 2004］

7a 類　斜縄文が施されるもの。

7b 類　結節縄文が施されるもの。

7c 類　撚糸文や網目状撚糸文が施されるもの。

7d 類　条痕文が施されるもの。

8 類　全面無文のもの。

h　壺

肩が張り出して口頸部がすぼまり、口径が体部最大径よりかなり小さいもの。部位は口縁端部･口縁部･頸部・肩部・体部上位・体部下位・底部に分かれる（第 18 図）。器形と文様により分類した。

器 形 分 類（第 32 図）

Ａ類　体部は直線的に立ち上がり、肩体境が丸く大きく張り出し、長くなだらかな肩部を持つ。頸部は緩やかに屈曲して立ち上がり、口縁部が直立ないし若干外傾するもの。

Ｂ類　体部から肩部球形状に丸く張り出し、頸肩境に段差を有する。口頸部は外反する。Ａ類に比べ、口径／体部最大径がやや大きい。

Ｃ類　肩部から体部上位が大きく張り出すもので、頸肩境はやや高い。頸部は「く」の字状に鋭く屈曲し、口縁部が大きく開く。

Ｄ類　肩体境は位置が高く、強く張り出す。肩部は直線的に内傾し、頸部で急激に角度を変えて立ち上がり、口縁部が外傾するもの。

Ｅ類　体部は直線的に立ち上がり、肩体境は位置が高く、大きく張り出す。肩部は長くほぼ水平となり、頸部で急激に角度を変えて直線的に内傾した後に、口縁部が「く」の字状に外傾するもの。

Ｆ類　肩部の張り出しが弱い一群のもの。

Ｇ類　体部上位が丸く張り出し、肩部は内傾して明確な頸部を持たずに口縁部が短く直立するもの。

Ｈ類　小形の壺で、体部から肩部は球形状や楕円形状に膨らみ、口頸部がほぼ垂直に立ち上がるもの。

2）遺構内出土遺物（図版 58 ～ 69・104 ～ 113）

SI860（図版 58 - 1 ～ 11）

1 は鉢 F 類で、口縁部は鋸歯状集合沈線文と刺突文、体部は擬縄文が施される。SC861 出土土器との

接合関係が認められる。2 は壺の口縁部片で、口縁部には浮線文が施される。3・4 は甕ないし深鉢の体部～底部で、いずれも体部には条痕文が施される。4 の底面はササ葉と見られる圧痕が観察される。また、割れ口の断面にススの付着が認められることから、二次的に付着したものと考えられる。5 は甕ないし深鉢の口縁部片で、網目状撚糸文が施される。6 ～ 10 は小形の壺である。6 は口縁部片で、口縁部には b 種と見られる浮線文が施される。7 ～ 10 は体部～底部で、7 は a 種と見られる浮線文が施される。11 は土器の体部～底部片で、内面・割れ口の断面にはアスファルトが厚く付着する。底部片を利用したアスファルトの容器と考えられる。

SC800（図版 58 - 12）

12 は大形の壺で、口縁内面は隆帯を巡らせ、受け口状となる。肩部には 4 類の横流水状と見られる工字文が施される。

SC801（図版 58 - 13 ～ 19）

13・15 は深鉢で、13 は B1 類、15 は A6 類である。13 の口縁部には浮線文 e2 種が施される。16 は甕ないし深鉢の体部～底部で、体部には条痕文が施された後、雷文が加えられる。14 は甕 B1a 類で、口縁部中央には平行沈線文が 1 条巡り、この上下に刺突文が施される。頸部には浮線文 e2 種が施される。17 ～ 19 は壺である。17・18 は同一個体で、17 は口縁部片、18 は肩部片である。口縁部は 2 条の平行沈線文の間に列点状の刺突文、肩部は列点状の刺突文の下位に平行沈線が 2 条巡る。19 は肥厚口縁上に縄文 LR が施され、その直下に平行沈線文が 3 条巡る。また、平行沈線文は肩部にも 3 条施される。

SC803（図版 59 - 20）

20 は甕ないし深鉢の口縁部片である。肥厚口縁上に平行沈線文が施された後、網目状撚糸文が加えられ、その下位には綾杉文が施される。

SC804（図版 59 - 21 ～ 28）

21 は浅鉢 A2 類で、口縁部に直線的な工字文が描かれ、体部には縄文 LR が施される。22 ～ 24・26 は甕である。22 は B1b 類で、口縁部には平行沈線文が 2 条巡り、頸部には綾杉文が施される。23 は B1a 類で、頸部には b 種と見られる浮線文が配される。24 は B1b 類である。複合口縁上は刺突文、頸部には綾杉文が施され、綾杉文は 2 条の平行沈線文を挟んで上下に 2 段施される。25 は壺で、口縁部の内外に沈線が施される。26 は甕の肩部片で、眼鏡状文が 2 段施される。27・28 は甕ないし深鉢の体部～底部で、いずれも条痕文が施され、28 の体部下位～底部は横方向のナデにより調整される。

SC806（図版 59 - 29）

29 は浅鉢で、口縁部には浮線文が施される。

SC808（図版 59 - 33・34）

33・34 は甕ないし深鉢である。33 は体部片、34 は底部片で、いずれも条痕文が施される。

SC811（図版 59－30 ～ 32）

30 ～ 32 は同一個体で、小形の壺である。器面は被熱による剥落が著しい。30 は口縁部片で、縄文 LR が施された後、平行沈線文が加えられる。32・33 は肩部に刺突文と浮線文が施される。

SC815（図版 59－35・36）

35 は甕 B3d 類で、口縁部は平行沈線文が 3 条巡る。頸部は無文帯となり、体部は条痕文が施された後、雷文が加えられる。36 は浅鉢 B1 類で、口縁部には浮線文 a1 種が施され、下端の交点が体部に直接連結する。体部には縄文 LR が施される。器面は被熱による剥落が著しい。

SC816（図版 60－37 ～ 39）

37 は鉢 A 類である。口縁部に刺突文・浮線文が施されるが、被熱による器面の剥落が著しいため文様は判然としない。38 は深鉢 B7c 類で、網目状撚糸文は口縁部では横方向、体部は従方向に施される。39 は壺の口縁部片で、連弧状の沈線文が施される。

SC817（図版 60－40）

40 は深鉢 B7d 類で、条痕文は口縁部では横方向、体部は縦方向に施される。

SC825（図版 60－41 ～ 53）

41 ～ 45 は浅鉢である。41・42 は C1 類で、41 は浮線文の交点に縦のスリットが入る。42 は浮線文 b2 種が施される。43・44 は B1 類で、43 は浮線文 b2 種、44 は浮線文 e3 種が施され、44 の浮線文は上下端の交点が口縁部・体部に直接連結する。45 は A2a 類で、浮線化した工字文が施される。46 ～ 49 は深鉢である。47 は結節縄文の下位に刺突文が 2 段施される。48・49 は B6d 類、51 は B7d 類で、48 は割れ口の断面にススの付着が認められることから、二次的に付着したものと考えられる。50 は浅鉢で小破片のため、浮線文は判然としない。52・53 は小形の壺で、52 は口縁部・頸部に平行沈線文、53 は肩部に工字文が施される。

SC842（図版 60－54 ～ 57）

54 は浅鉢 B1 類である。浮線文 e3 類が施され、浮線文の交点に縦のスリットが入る。55 は甕ないし深鉢の口縁部片、56・57 は甕である。56 は口縁部に結節縄文、頸部に綾杉文が施される。57 は口縁部に網目状撚糸文が施された後に刺突文が加えられる。頸部は平行沈線文が上下に 3 条巡り、この間に綾杉文が施される。肩部は刺突文が施される。

SC850（図版 60－58・59）

58 は浅鉢、59 は甕ないし深鉢の口縁部片で、59 は綾杉文が施される。

SC859（図版 60－60 ～ 69、図版 61－70・71）

60 ～ 63 は浅鉢である。60・61 の浮線文は上端の交点が口縁部に直接連結する。62・63 は B1 類で、

62 は浮線文 e3 種が施され、浮線文は上下端の交点が口縁部・体部に直接連結する。また、割れ口の断面にススの付着が認められることから、二次的に付着したものと考えられる。63 の外面は被熱による器面の剥落が著しい。64 は甕ないし深鉢の口縁部片で、口縁部には a 種と見られる浮線文が施される。65 は鉢 C 類で、口縁部は無文帯を挟み、上下に浮線文が施される。下段の浮線文は b2 種で、上下端の交点が無文帯・体部上位に直接連結する。66・67・70 は甕である。66 は肩部の張り出し・頸部の屈曲が弱い E3a 類で、口縁部は平行沈線文が 3 条巡る。頸部は無文帯となり、肩部には浮線文 e1 種、体部は条痕文が施される。また、浮線文は上端の交点が頸部無文帯に直接連結する。67 は楕円状突起を持つ口縁部片で、口縁部は浮線文 e2 種が横方向、突起下から頸部にかけては縦方向に配される。68 は甕ないし深鉢の口縁部～体部で、幅広の文様帯を持つ。口縁部上位は鋸歯状集合沈線文が施される。中・下位には 3 条の平行沈線文が上下に 2 段巡り、この間には綾杉文が施される。70 は楕円状突起を持つ大形の A2a 類である。口縁部・肩部は平行沈線文が巡り、頸部は浮線文 a2 種が横方向に施される。突起下から頸部にかけては浮線文 d1 種が縦方向に施され、浮線文の両脇には三叉文状の文様が配される。69 は深鉢 B7d 類で、被熱による器面の剥落が認められる。71 は B7b 類で、口縁部に幅広の凹帯を作り出し、その上下に刺突文が施される。体部上位には結節縄文が横方向に 3 段施され、文様帯を形成する。体部中～下位は条痕文が施される。

SC861（図版 62－75 ～ 79）

75 ～ 77 は浅鉢で、75 は C1 類、76・77 は B1 類である。76・77 は浮線文 a2 種と見られる浮線文が施される。78・79 は壺で、78 は口縁部片、79 は小形壺の肩部片である。79 は壺 A 類で、肩部には浮線文が施される。隣接する SI860 出土の壺 6 と同一個体の可能性がある。

SC866（図版 62－80）

80 は深鉢 B7d 類で、口縁部に補修孔が認められる。

SC868（図版 62－81・82）

81 は深鉢 B6d 類で、口縁部は平行沈線文が 3 条巡り、体部には条痕文が施される。82 は甕ないし深鉢の口縁部片で、口縁部には綾杉文が施される。

SC879（図版 61－72 ～ 74）

72 は浅鉢 B1 類で、器壁が厚い。口縁部は浮線文 e3 種が施され、浮線文の交点に縦のスリットが入る。73 は深鉢 B6b 類で、結節縄文は口縁部では横方向、体部は縦方向に施される。74 は大形の甕 B2a 類である。網目状撚糸文は口縁部では横方向、体部は縦方向に施される。頸部は綾杉文が 2 段施され、肩部は眼鏡状文と浮線文が施される。

SC914（図版 62－83・84）

83 は深鉢 B7c 類で、口縁部には網目状撚糸文、体部は条痕文が施される。84 は甕ないし深鉢の体部～底部で、条痕文が施される。

埋設土器 1（図版 62－85）

85 は壺 C 類で、肩部～体部上位が大きく張り出す。肩部は工字文 2 類が施される。また、肩部には漆の付着が認められる。

埋設土器 824（図版 62－86・87、図版 63－88・89）

86 は浅鉢 F1 類で、浮線文 a2 種が施される。87 は甕 B2a 類である。口縁上端は鋸歯状集合沈線文、浮線文 a1 種が施され、浮線文は上端の交点が口縁部に直接連結する。頸部は交互綾杉文が施される。肩部の文様は 2 段構成となり、上位は綾杉文、下位は眼鏡状文が配される。88 は深鉢 B7c 類で、口縁部は横方向の強いナデにより肥厚する。網目状撚糸文は口縁部では横方向、体部は縦方向に施される。89 は甕ないし深鉢の体部で、体部には条痕文が施される。

埋設土器 828（図版 63－90）

90 は甕ないし深鉢の体部～底部で、条痕文が施され、底部はナデにより調整される。

埋設土器 830（図版 63－91 ～ 93）

91 は浅鉢 C2 類である。内面肥厚口縁で、口縁部には工字文 2 類が施される。底面には網代痕が認められる。92 は深鉢 B6e 類で、口縁部は平行沈線文が 3 条巡る。体部は縦方向のナデにより調整される。93 は甕ないし深鉢の体部～底部で、条痕文が施され、底部はナデにより調整される。

埋設土器 834（図版 63－94）

94 は甕ないし深鉢の体部～底部で、条痕文が施される。

埋設土器 837（図版 64－95）

95 は甕 G1b 類で、頸部は綾杉文と刺突文を充填した交互綾杉文が施される。

埋設土器 839（図版 64－98・99）

98 は甕 B2a 類で、口縁部・肩部には浮線文 e2 種が施される。肩部の浮線文は上下端の交点がそれぞれ頸部・体部に直接連結する。頸部・体部には雷文が施される。99 は甕ないし深鉢の体部～底部で、撚糸文が施される。

埋設土器 840（図版 64－100・101）

100 は浅鉢 C1 類で、浮線文 f1 種が施される。体部はケズリ・ナデにより調整される。101 は甕で、体部はナデにより調整される。

埋設土器 883（図版 64－96・97）

96・97 は甕ないし深鉢の体部～底部で、96 はナデにより調整される。97 は条痕文が施される。

埋設土器 887（図版 65－102）

102 は台付浅鉢である。口縁部にはボタン状突起が配され、浮線文 b2 種に赤色顔料が施される。

埋設土器 894（図版 65－103）

103 は甕ないし深鉢の体部～底部である。体部は条痕文が施され、底部は横方向のナデにより調整される。

埋設土器 898（図版 65－104）

104 は甕ないし深鉢の体部～底部で、条痕文が施される。

埋設土器 903（図版 65－105）

105 は鉢 F 類で、器面はナデ・ミガキにより調整される。

埋設土器 908（図版 65－106）

106 は甕ないし深鉢の体部～底部で、条痕文が施される。また、割れ口の断面にススの付着が認められることから、二次的に付着したものと考えられる。

埋設土器 924（図版 65－107）

107 は浅鉢 B1 類で、浮線文 a2 種が施される。浮線文は上端の交点が口縁部に直接連結する。

埋設土器 928（図版 66－108・109）

108 は深鉢 B1 類で、浮線文 b3 種が施される。浮線文は上端の交点が口縁部に直接連結する。109 は甕ないし深鉢の体部～底部で、網目状撚糸文が施される。

埋設土器 933（図版 66－110・111）

110 は甕ないし深鉢の口縁部片で、b2 種と見られる浮線文が施される。111 は小形の甕 B2a 類で、口唇部には沈線が巡り、口縁部は沈線文、頸部は綾杉文、肩部には浮線文が施される。

土器集中 1（図版 66－112 ～ 115）

112 は浅鉢で、浮線文が施される。浮線文は上端の交点が口縁部に直接連結する。113 ～ 115 は深鉢である。113 は全面無文の A8 類である。114 は B1 類で、浮線文 a1 種が施される。浮線文は上端の交点が口縁部に直接連結する。また、網目状撚糸文は口縁部では横方向、体部では縦方向に施される。115 は B7b 類で、結節縄文は口縁部では横方向、体部は縦方向に施される。撚糸文は口縁部では左斜め、体部は縦方向に施される。

土器集中 2（図版 67－116）

116 は深鉢 B7c 類で、網目状撚糸文は口縁部では横方向、体部では縦方向に施される。

土器集中 3（図版 67－117 ～ 119）

117 は浅鉢 B1 類で、浮線文 e3 種が施される。浮線文は上下端の交点が口縁部・体部に直接連結する。118 は深鉢 B7c 類で、口縁部は撚糸文、体部には条痕文が施される。119 は甕ないし深鉢の体部～底部で、網目状撚糸文が施される。

土器集中 820（図版 67－120）

120 は深鉢 B7c 類で、網目状撚糸文は口縁部は横方向、体部は縦方向に施される。

土器集中 822（図版 67－121）

121 は壺の体部～底部で、体部下位から底部はナデにより調整される。また、器面の一部は被熱により赤変する。

土器集中 835（図版 68－123 ～ 125）

123 は浅鉢で、b 種と見られる浮線文が施される。124 は深鉢 A6b 類である。口縁部～体部上位は平行沈線文が間隔を開けて上位から 3 条、2 条、1 条巡り、この間に結節縄文が施され文様帯を形成する。これより下位には条痕文が施される。125 は甕ないし深鉢の体部～底部である。体部下位は条痕文が施され、底部はナデにより調整される。

土器集中 836（図版 67－122）

122 は甕ないし深鉢の体部で、条痕文が施される。

土器集中 838（図版 68－126）

126 は甕ないし深鉢の体部～底部で、条痕文が施される。

土器集中 852（図版 68－127・128）

127・128 は甕ないし深鉢の体部～底部で、縄文 RL が縦方向に施される。また、底面はケズリにより調整される。128 は口縁部に平行沈線文が 3 条巡り、その下位には綾杉文と見られる文様が施される。

土器集中 864（図版 68－129）

129 は壺の体部～底部である。体部下位はミガキ、底部はナデにより調整される。

土器集中 865（図版 68－130・131）

130 は甕ないし深鉢の体部～底部で、条痕文が施される。また底面には木葉痕が認められる。131 は浅鉢 B1 類で、浮線文 e3 種が施される。

土器集中 881（図版 69－132 ～ 135）

132 は波状口縁の甕 B2a 類で、口縁部は縄文 LR が施される。頸部文様は 2 段構成となり、鋸歯状集

合沈線文と浮線文が施され、肩部は突起が配される。133 は深鉢 B7b 類で、口縁部は結節縄文、体部には条痕文が施される。134 は甕ないし深鉢の体部～底部で、条痕文が施される。135 は H 類と見られる小形の壺で、器面はナデにより調整される。

土器集中 886（図版 69－136）

136 は甕 A1b 類で、網目状撚糸文は口縁部と肩部に横方向に施される。頸部は綾杉文が施され、体部は条痕文が施された後、ナデにより調整される。

土器集中 888（図版 69－137）

137 は頸部を無文帯とする甕 B3a 類で、肥厚口縁上に擬縄文が施される。肩部には眼鏡状文と対向する匹字文が施され、匹字文は沈線・隆線の幅が広い。

土器集中 932（図版 69－138）

138 は甕の肩部～底部で、肩部には眼鏡状文と浮線文 d2 種が施される。

3）遺構外出土遺物（図版 70 ～ 72・113 ～ 115）

浅　　鉢（図版 70－139 ～ 148・150）

139 は B1 類で、浮線文 e3 種が施される。140 は G1 類である。浮線文 a4 種が施され、浮線文の交点に縦のスリットが入る。141 は D1 類で、浮線文 a2 種が施される。浮線文は上下端の交点が口縁部・体部に直接連結する。142・143 は B1 類である。142 は浮線文 e3 種が施され、浮線文は下端の交点が体部に直接連結する。143 は浮線文 d1 種が施され、浮線文は上端の交点が口縁部に直接連結する。また、外面は赤漆の付着が認められ、内面及び割れ口の断面にも漆が付着する。このことから、漆パレットとして使用された可能性が考えられる。144 ～ 146 は B1 類で、いずれも浮線文 e3 種が施される。144 は底面に網代痕が認められる。147 は G 類で、眼鏡状文が配される。148 は B1 類で、浮線文は上端の交点が口縁部に直接連結する。150 は D2 類で、口縁上位は鋸歯状集合沈線文と突起が配され、下位は工字文が施される。

台　付　浅　鉢（図版 70－152・153・155 ～ 157）

152･153 は台部に平行沈線文が施され、152 は透かし孔が認められる。155 は「ハ」の字状に開く台部で、器面の摩耗が著しい。156･157 は台部下位に交互匹字文が施され、内面の見込みには円文が認められる。また、157 は匹字文の交点に透かし孔が配される。

鉢（図版 70－149・154・158 ～ 161）

149 は F 類で、口縁部には平行沈線文が施される。154 は A 類で、器面の内外には黒漆と見られる付着物が認められる。158 は C 類で、口縁部には沈線文が 1 条巡る。159 は体部～底部で、ナデにより調整される。160・161 は F 類で、160 はミガキ・ナデ、161 はナデにより調整される。

甕（図版 70－151・162 ～ 164、図版 71－165 ～ 173）

151 は口縁部に a 種と見られる浮線文が 2 段施される。口縁以下を欠くため、深鉢の可能性もある。162 は口縁部片で、複合口縁上に刺突文が施される。163 は頸部片で、平行沈線文の下位に刺突文が施される。164 は口縁部～肩部で、甕 A 類としたが、壺 G 類の可能性もある。口縁部・肩部には平行沈線文が巡り、頸部は無文帯となる。165 は A1a 類で、肥厚口縁上に浮線文 f1 種、頸部は浮線文 e3 種が施される。166 は B1a 類で、頸部には a 種と見られる浮線文が施される。167 は B2a 類で、口縁部は浮線文、頸部には綾杉文が施される。168 は口縁部片で、交互綾杉文あるいは菱形集合沈線文が施される。169 は B2e 類で、条痕文は頸部では綾杉状、肩部は横方向、体部は縦・斜め方向に施される。170 は頸部を無文帯とする B3a 類で、口縁部は平行沈線文が 2 条巡り、肩部は浮線文 e2 種と眼鏡状文が配される。171 は A2a 類で、複合口縁上に浮線文 d2 種が施され、頸部は浮線文 d1 種の上・下位に向きを違えた綾杉文が施される。肩部は眼鏡状文と平行沈線文あるいは浮線文が施される。172･173 は A2e 類で、172 の条痕文は複合口縁上では横方向、頸部～体部では縦方向に施される。173 の条痕文は口縁部では横方向、頸部～体部は縦方向に施される。

深　　鉢（図版 71－174 ～ 179、図版 72－180 ～ 188）

174 は B3 類で、口縁部は平行沈線文の間に綾杉文が施される。175 は B1 類で、口縁部は a 種と見られる浮線文が施され、体部には縄文 LR が施される。176・177 は B6d 類で、176 は口縁部には平行沈線文、体部は条痕文が施され、底部はナデにより調整される。177 は口縁端部にキザミが加えられ、口縁部は平行沈線文、体部は条痕文が施される。178 は B4 類で、口縁部は綾杉文と浮線文が施され、文様は 2 段構成となる。179 は A7c 類で、口縁部は刺突文、体部は網目状撚糸文が施される。180 は B6c 類で、口縁部は平行沈線文と網目状撚糸文、体部は条痕文が施される。181・182 は B6d 類で、いずれも口縁部に平行沈線文と刺突文、体部は条痕文が施される。183 は B7d 類で、全面に条痕文が施される。184 は A7d 類で、条痕文は肥厚口縁上では横・斜め方向、体部は縦方向に施される。185 は B7b 類で、口縁部は結節縄文が施される。186 は全面無文の B8 類である。187 は B7d 類で、条痕文は肥厚口縁上では横・斜め方向、体部は縦方向に施される。188 は B7a 類で、縄文 LR が施される。

壺（図版 72－189 ～ 192）

189・190 は小形の壺で、189 は口縁部片、190 は肩部片である。189 は口縁部に突起と平行沈線文が配される。190 は肩部に平行沈線文が施される。191 は肩部片で、隆帯が 1 条巡り、楕円状の押圧が施され、この下位には浮線文と見られる文様が施される。192 は体部～底部で、底面は木葉痕が認められる。

そ　の　他（図版 72－193）

193 はミニチュア土器で、体部はアンギンと見られる圧痕が認められる。

B　焼 成 粘 土 塊（図版 72・115－194 ～ 196）

被熱した塊状の粘土を焼成粘土塊とした。調査区から 4 点出土した。

194 は、表面は滑らかで裏面は凹凸がある。表面が平滑なことから土製品の可能性も考えられる。

194・195 は表裏面ともに凹凸が著しい。

C　石　　器（図版 73 ～ 75・115・116-1 ～ 63）

1）概　　要

当遺跡で出土した石器は、石鏃、石鏃未成品、石錐、不定形石器、磨製石斧、石斧未成品、磨石類、石製品（玉類・石冠・独鋸状石製品）などがある（第 3 表）。各器種の出土数は、剥片石器・礫石器ともに 10 ～ 20 点前後と少ない。このことは、今回調査した地点の性格を反映している可能性が推定される。また、石器に用いられた石材は、流紋岩、頁岩、メノウ、凝灰岩、砂岩、輝緑岩など阿賀野川流域で採取される在地のもので構成され、蛇紋岩など遠隔地の石材は認められない。

	石鏃	石鏃未成品	石錐	不定形石器	磨製石斧	石斧未成品	磨石類	石核	石製品	剥片類	自然礫	合計
遺構内出土	18	8	7	10	4	13	6	4	5	1,504	890	2,469
遺構外出土	4	2	3	4	9	5	11	2	2	701	968	1,711
合計	22	10	10	14	13	18	17	6	7	2,205	1,858	4,180

第 3 表　器種別石器出土数

2）分　　類（第 33 図）

石器は『青田遺跡』［加藤 2004］に拠り、その内容を引用し、以下に示す。なお、同時期の周辺遺跡との相互比較を容易にするため、分類項目は変更せず、当遺跡で出土例のない分類項目についても掲載した。また、当遺跡の特性に合わせて一部省略した。

石　　鏃　「扁平で鋭い先端部を持つ」［安部 1979］石器を石鏃とした。

A 類　有茎鏃

AⅠ類　平基有茎鏃

AⅠa 類　尖頭部長／最大幅が 2.5 以上

AⅠb 類　尖頭部長／最大幅が 1.5 以上 2.5 未満

AⅠc 類　尖頭部長／最大幅が 1.5 未満

AⅡ類　凸基有茎鏃

AⅡa 類　尖頭部長／最大幅が 1.5 以上

AⅡb 類　尖頭部長／最大幅が 1.5 未満

B 類　無茎鏃

C 類　尖基鏃

石　　錐　石鏃以外の石器で、鋭い先端部が作出されている石器及び先端部に摩耗痕が認められる石器を石錐とした。

A 類　基部と錐部が明瞭に区別されるもの。

B 類　基部と錐部の境が不明瞭なもの。

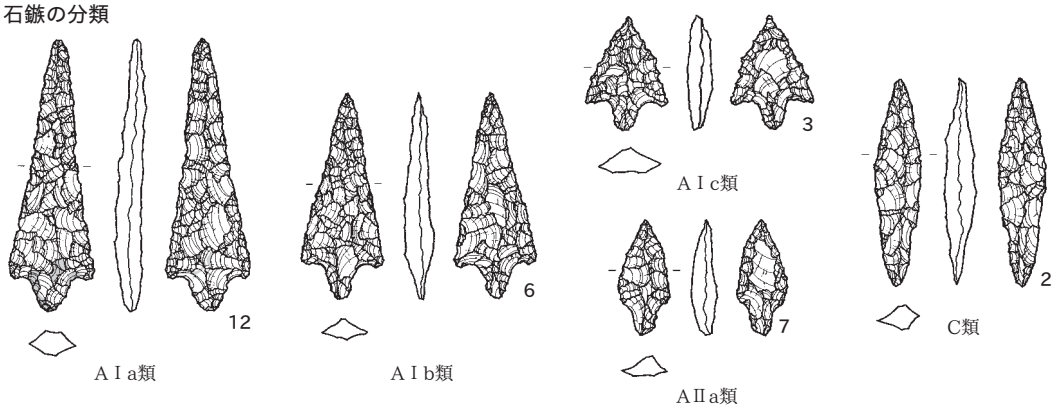
BⅠ類　基部が広がるもの。

BⅡ類　棒状の平面形態を呈するもの。

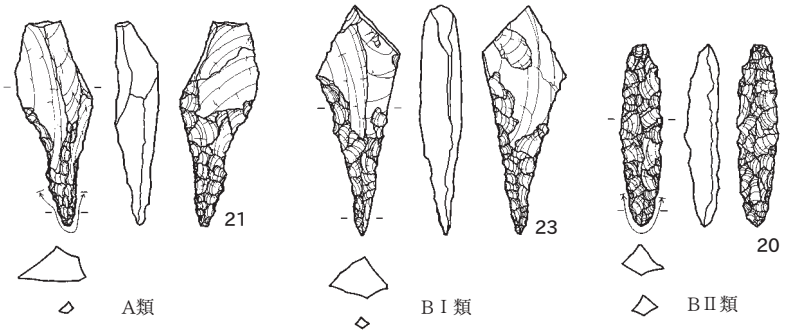
不定形石器　上記以外の石器で、二次加工により刃部が作出された石器を不定形石器とした。

A 類　連続的な押圧剥離により刃部が作出されているもの。従来スクレイパー・削器と呼ばれているものである。

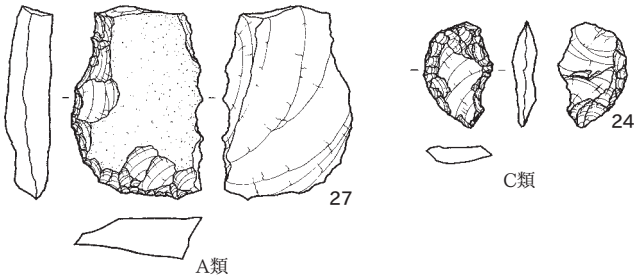
石鏃の分類



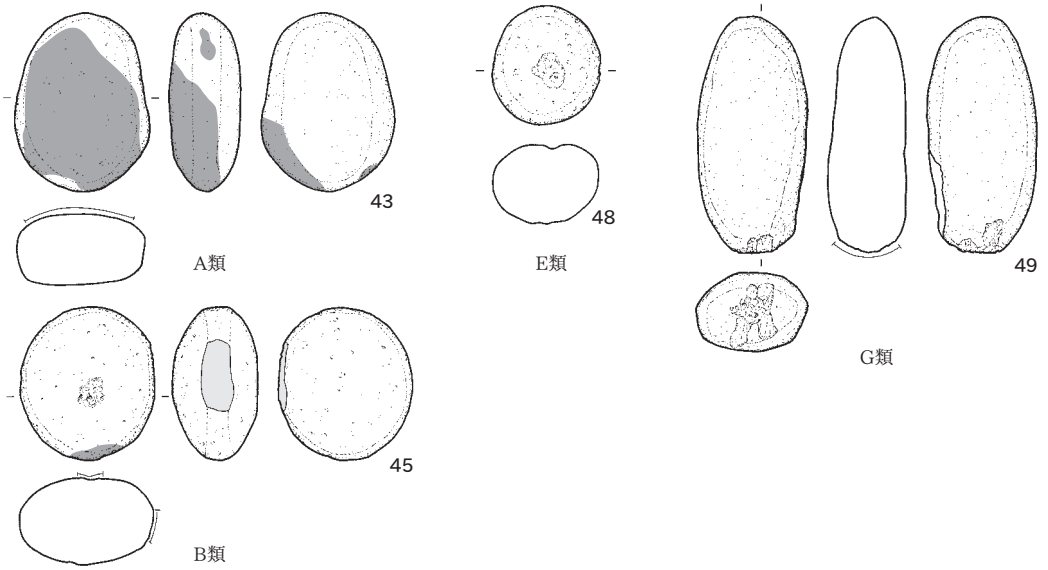
石錐の分類



不定形石器の分類



磨石類の分類



第 33 図　石器の分類

Ｂ類　連続剥離による鋸歯状刃部を持つもの。

Ｃ類　両面からの連続剥離または連続剥離状の調整によるもの。

Ｄ類　抉入状の刃部を有するもの。

Ｅ類　素材の端部に連続剥離状の刃部を有するもの。従来エンドスクレイパーと呼ばれているもの。

Ｆ類　不連続な剥離の刃部を持つもの。

Ｇ類　鋭利な先端部があり、先端部に連続剥離を有するもの。

Ｈ類　使用の結果生じたと推定される微細剥離痕を有するもの。

磨製石斧　研磨により刃部を作り出している斧形の石器を磨製石斧とした。成品と未成品の区別は、研磨がほぼ全体に及んでいるものを成品とし、それ以外を未成品とした。

磨　石　類　円礫または扁平礫に磨痕・凹痕・敲打痕の残る石器を磨石類とした。

Ａ類　磨痕のみ認められるもの。

Ｂ類　磨痕と凹痕が認められるもの。

Ｃ類　磨痕と敲打痕が認められるもの。

Ｄ類　磨痕・凹痕・敲打痕すべてが認められるもの。

Ｅ類　凹痕のみ認められるもの。

Ｆ類　凹痕と敲打痕が認められるもの。

Ｇ類　敲打痕のみが認められるもの。

3）各　　説（図版 73 ～ 75・115・116）

石　　鏃（図版 73－1 ～ 14）

石鏃はＡⅠａ類２点、ＡⅠｂ類６点、ＡⅠｃ類４点、ＡⅡａ類４点、Ｃ類１点、不明５点の計 22 点が出土した。石材は、メノウ８点、流紋岩６点、珪質頁岩４点、碧玉（赤玉）３点、凝灰岩１点である。１はＡⅡａ類で、基部にアスファルトの付着が認められる。２はＣ類で基部先端は尖る。３・４はＡⅠｃ類で、４は左側縁の下端を欠損する。５・６・８・９はＡⅠｂ類で、８・９の基部にはアスファルトの付着が認められる。７はＡⅡａ類で、裏面は素材剥片の大きな剥離痕が認められる。10 はＡⅠａ類で、基部が欠損する。11 は先端部を欠損する。12 はＡⅠａ類で基部にアスファルトの付着が認められる。13 は先端部、14 は基部を欠損する。

石 鏃 未 成 品（図版 73－15 ～ 18）

石鏃未成品は 10 点出土した。石材は、流紋岩５点、メノウ２点、碧玉（赤玉）２点、凝灰岩１点である。15･17･18 は正裏面に加工が施されるが、器厚を減じきれていない。16 は剥片を素材としたもので、正裏面の側縁と基部に剥離調整が施されるが、基部の厚みを減じきれていない。

石　　錐（図版 73－19 ～ 23）

石錐はＡ類３点、ＢⅠ類２点、ＢⅡ類５点の計 10 点が出土した。石材は、メノウ３点、碧玉（赤玉）３点、流紋岩２点、珪質頁岩１点、凝灰岩１点である。19・20 はＢⅡ類で、錐部の摩耗が著しい。21・22 はＡ類で、22 は正裏面に自然面を残す。23 はＢⅠ類で、錐部の摩耗痕は不明瞭である。

不 定 形 石 器（図版 73－24 ～ 28）

不定形石器はＡ類 10 点、Ｃ類 3 点、Ｆ類 1 点の計 14 点が出土した。石材は、流紋岩 5 点、凝灰岩 3 点、頁岩 2 点、碧玉（赤玉）2 点、砂岩 1 点、泥岩 1 点である。24・25 はＣ類で、24 は右側縁の正裏面に剥離調整が施され、刃部を作出している。25 は裏面の打瘤を除去して、右側縁の正裏面に刃部加工が施される。26 ～ 28 はＡ類で、26 は右側縁、27 は右側縁～下端、28 は左側縁に剥離調整が施され、刃部を作出している。

磨　製　石　斧（図版 73－29 ～ 38、図版 74－39 ～ 42）

成品 13 点、未成品 18 点が出土した。石材は輝緑岩 20 点、凝灰岩 4 点、砂岩 4 点、斑レイ岩 3 点である。29 ～ 31 は成品である。29 ～ 31 は小形の石斧で、29 は上・下半部を欠損する。30 は刃部に使用の結果と考えられる剥離痕が認められる。31 の刃部は角が丸まり、弧状となる。32 は刃部、33 は基部側を欠損する。34 ～ 39、41・42 は未成品である。35・37・38・39・41・42 は、礫の周縁部に剥離痕、36 は剥離痕と敲打痕が認められることから、石斧製作工程の初期段階のもと考えられる。34 は研磨痕より新しい剥離痕が認められる。また、上半部が折れたように欠損することから、再生の途中で欠損したため廃棄された可能性も考えられる。40 は輝緑岩の扁平礫で、38・41・42 とともに埋設土器 824 から一括して出土した。石斧の原石と推定される。

磨　石　類（図版 74－43 ～ 52）

Ａ類 7 点、Ｂ類 1 点、Ｅ類 3 点、Ｇ類 6 点の計 17 点が出土した。凝灰岩 11 点、閃緑岩 5 点、安山岩 1 点である。43 はＡ類で、正面に磨痕が認められ、正裏面・右側縁に赤色顔料の付着が観察される。44・46 はＧ類で、いずれも右側縁に敲打痕が認められる。45 はＢ類で、正面に凹痕、右側縁に磨痕が認められる。47・48 はＥ類で、いずれも正面に凹痕が認められる。49 はＧ類で、端部に敲打痕が認められる。50・51 はＡ類で、50 は右側縁、51 は下端部に赤色顔料の付着が認められる。52 は明瞭な使用痕が認められないが、正面・右側縁に赤色顔料の付着が認められる。

石　　核（図版 74－53・54、図版 75－55・56）

石核は 6 点出土した。石材は、凝灰岩 4 点、流紋岩 2 点である。53 は自然面を大きく残すものである。打面は上・下面に大形の剥離によって形成され、正面に上下方向からの剥離作業が行われている。54 は剥離作業の進んだもので、打面転移を繰り返し剥片剥離が行われている。55・56 は自然面を残し、55 は打面転移を繰り返し剥片剥離が行われ、56 は正面の 1 面で剥離作業が行われている。

石　製　品（図版 75－57 ～ 63）

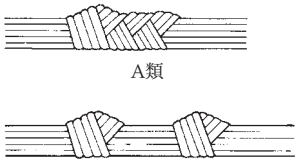
石製品は 7 点出土した。57 は凝灰岩製の玉類で、形状は歪で粗雑な作りである。58 は泥岩製の垂飾品で、正面と左右側縁の 3 か所穿孔される。また、下側縁は 2 か所抉りが施される。59 ～ 61 は石冠で、石材は輝緑岩、閃亜鉛鉱、凝灰岩が用いられる。石冠は「球頭形石冠」･「石斧状石冠」［滝沢 2002］が出土し、59・60 は球頭形石冠で、59 は頭部と基部の境は明瞭、60 は不明瞭である。61 は石斧状石冠で、縦断面が三角形となる。62 は石製の容器と考えられるもので、石材はデイサイトである。63 は独鈷状石製品

で、右半分を欠損する。石材はデイサイトである。

D　漆　製　品（図版 75・117－64 ～ 69）

64 ～ 68 は植物繊維を撚り糸状にしてベンガラ漆を塗り、それらを束ねて結んだ糸玉である。SC825 から 5 点出土した。糸玉の分類は、『青田遺跡』[猪狩 2004]に拠った。64 ～ 67 の結び目は同じ方向からの「一重結び」である（第 34 図）。66・67 の結び目は、［猪狩 2004］の A 類（第 35 図）に所属するものと考えられる。69 は SC842 出土の漆製品である。依存状態が悪いため、器種などの詳細については不明である。

第 34 図　結び方［猪狩 2004］



第 35 図　赤漆塗り糸玉の分類
［猪狩 2004］

E　アスファルト（図版 75・117－70・71）

アスファルトの塊は SC868 から 7 点、P877 から 1 点、遺構外 10 点の計 18 点出土した。70 は SC868 の出土で、長さ 4.0cm、幅 5.5cm、厚さ 3.5cm、71 は P877 の出土で、長さ 4.3cm、幅 7.6cm、厚さ 3.5cm を測る。

第Ⅵ章　自然科学分析

1　出土木製品の樹種同定

小林克也（パレオ・ラボ）

A　は　じ　め　に

阿賀野川右岸の沖積地に立地する山口野中遺跡では、井戸で出土した曲物の樹種同定を行なった。なお、同一試料を用いて放射性炭素年代測定が行われている（第Ⅵ章 2A）。

B　試 料 と 方 法

試料は、上層から検出された井戸である SE386 と SE479 から出土した曲物各 1 点の、計 2 点である。時期については、発掘調査所見ではいずれも 13 世紀後半～ 14 世紀前半と考えられ、放射性炭素年代測定では平安時代～鎌倉時代であった。試料は切片採取前に木取りの確認を行なった。

生材の樹種同定では、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行なった。

C　結　　果

同定の結果、2 点の曲物はいずれもスギであった。

次に、同定された材の特徴を記載し、第 36 図に光学顕微鏡写真を示す。

試料 No.	掲載 No.	出土遺構	器種	樹種	木取り	年代測定番号
1	68	SE386	曲物	スギ	板目	PLD-26051
2	74	SE479	曲物	スギ	板目	PLD-26052

第 4 表　山口野中遺跡出土木製品の樹種同定結果

（1）スギ　*Cryptomeria japonica*（L.f.）D.Don　スギ科　第 36 図　1a-1c（No.1）、2a-2c（No.2）

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、1 ～ 14 細胞高となる。分野壁孔は大型のスギ型で、1 分野に普通 2 個みられる。

スギは大高木へと成長する常緑針葉樹で、天然分布は東日本の日本海側に多い。比較的軽軟で、切削などの加工が容易な材である。

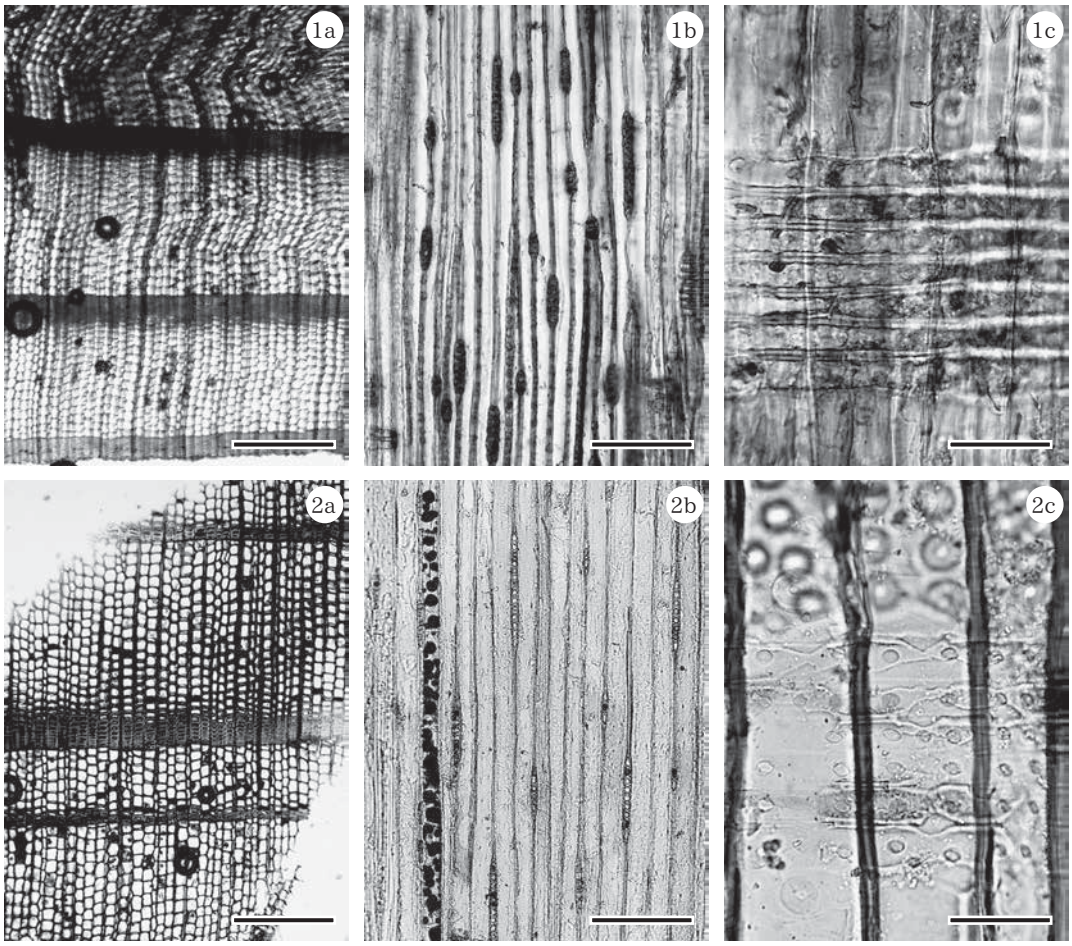
D　考　　察

SE386 と SE479 で出土した曲物は、いずれもスギであった。スギは木理通直で真っ直ぐに生育し、加工性が良いという材質を持つ[伊東ほか 2011]。また山口野中遺跡に近い、阿賀野市の土居内西遺跡でも、中世の井戸から出土した曲物はスギであった［株式会社古環境研究所 2005］。新発田市の青田遺跡で行われた花粉分析では弥生時代以降にスギ林が拡大したと示唆されており［吉川 2004］、山口野中遺跡周辺にもスギが生育し、曲物として選択利用していた可能性がある。

引用文献

伊東隆夫・佐野雄三・安部　久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌．238p，青海社.

株式会社古環境研究所（2005）樹種同定．阿賀野市教育委員会編「土居内西遺跡」：29-30，阿賀野市教育委員会．
吉川昌信（2004）青田遺跡における縄文時代晩期以降の花粉化石群．新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団編「青田遺跡 関連諸科学・写真図版編」：35-42，新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団．



1a-1c. スギ（No.1）、2a-2c. スギ（No.2）
a：横断面（スケール =500 μm）、b：接線断面（スケール =200 μm）、c：放射断面（スケール =50 μm）

第 36 図　山口野中遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真

2　放射性炭素年代測定

A　放射性炭素年代測定（1）

伊藤　茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・小林克也
（パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ）

1）は　じ　め　に

新潟県阿賀野市に位置する山口野中遺跡より出土した試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。なお、一部の試料について樹種同定が行われている（第Ⅵ章 1）。

2）試 料 と 方 法

試料は、井戸である SE386 と SE479 から出土した曲物各 1 点（PLD-26051・26052：共にスギで試料

中の最外部から採取)、埋設土器824から出土した深鉢体部の外面付着炭化物（PLD-26053)、埋設土器933から出土した甕口縁部の外面付着炭化物（PLD-26054）の、計4点である。時期については、発掘調査所見ではSE386とSE479は13世紀後半～14世紀前半、埋設土器824と埋設土器933は縄文時代晩期と考えられている。測定試料の情報、調製データは第5表のとおりである。

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-26051	遺構：SE386 掲載 No.68	種類：生材（スギ） 試料の性状：部位不明 器種：曲物 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1.0N，塩酸：1.2N）
PLD-26052	遺構：SE479 掲載 No.74	種類：生材（スギ） 試料の性状：部位不明 器種：曲物 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1.0N，塩酸：1.2N）
PLD-26053	遺構：埋設土器824 試料 No.9 掲載 No.88	種類：土器付着炭化物 器種：深鉢 部位：体部外面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：0.1N，塩酸：1.2N）
PLD-26054	遺構：埋設土器933 掲載 No.111	種類：土器付着炭化物 器種：甕 部位：口縁部外面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：0.1N，塩酸：1.2N）

第5表　測定試料および処理

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製1.5SDH）を用いて測定した。得られた^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C年代、暦年代を算出した。

3）結　　果

第6表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した^{14}C年代を、第38図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代（yrBP）の算出には、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、および半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal4.1（較正曲線データ：IntCal13）を使用した。なお、1σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦

測定番号	δ^{13}C（‰）	暦年較正用年代（yrBP±1σ）	^{14}C年代（yrBP±1σ）	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-26051 SE386	−24.53±0.14	770±17	770±15	1248AD（68.2%）1275AD	1224AD（95.4%）1277AD
PLD-26052 SE479	−24.66±0.15	952±17	950±15	1031AD（19.4%）1047AD 1090AD（38.9%）1122AD 1139AD（10.0%）1148AD	1024AD（27.1%）1056AD 1076AD（68.3%）1154AD
PLD-26053 埋設土器824 試料 No.9	−25.66±0.23	2509±19	2510±20	770BC（14.2%）749BC 684BC（11.7%）667BC 641BC（33.2%）588BC 579BC（ 9.1%）562BC	781BC（22.5%）733BC 690BC（15.9%）661BC 650BC（57.1%）545BC
PLD-26054 埋設土器933	−23.68±0.26	2856±22	2855±20	1054BC（68.2%）977BC	1111BC（86.6%）971BC 961BC（ 8.8%）935BC

第6表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果（1）

年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

4）考　　察

各試料の暦年較正結果のうち、2σ暦年代範囲（確率 95.4%）に着目して結果を整理する。なお、縄文時代の暦年代と考古学編年との対応関係については、小林（2008・2009）、工藤（2012）を参照した。

SE386 で出土した曲物（PLD-26051）は、1224-1277 cal AD（95.4%）を示し、13 世前半～後半となった。これは、鎌倉時代に相当する。

なお、SE386 の曲物（PLD-26051）の採取部位は不明であり、最終形成年輪を含めて測定が行われていない。木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。SE386 の曲物（PLD-26051）は試料内の最外部を採取して測定がおこなわれている。よって最終形成年輪は確認されていないため古木効果の影響を受けていると考えられるが、影響は比較的少ない、と考えられる。

SE479 で出土した曲物（PLD-26052）は、1024-1056 cal AD（27.1%）および 1076-1154 cal AD（68.3%）を示し、11 世紀前半～ 12 世紀中頃となった。これは、平安時代に相当する。SE479 の曲物（PLD-26052）の採取部位も試料内の最外部であり、古木効果の影響は比較的少ない、と考えられる。

埋設土器 824 から出土した深鉢体部の外面付着炭化物（PLD-26053）は、781-733 cal BC（22.5%）、690-661 cal BC（15.9%）、650-545 cal BC（57.1%）を示した。これは、縄文時代晩期後葉に相当する。

埋設土器 933 から出土した甕口縁部の外面付着炭化物（PLD-26054）は、1111-971 cal BC（86.6%）および 961-935 cal BC（8.8%）を示した。これは、縄文時代晩期中葉に相当する。

参考文献

Bronk Ramsey, C.（2009）Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51（1），337-360.

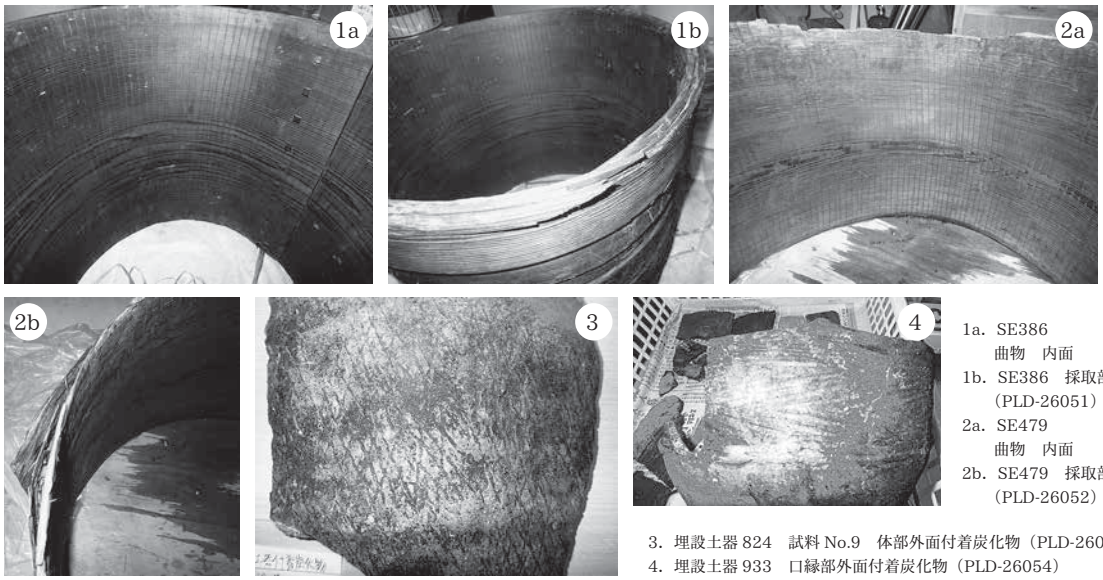
小林謙一（2008）縄文時代の暦年代．小杉 康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編「縄文時代の考古学 2 歴史のものさし」：257-269，同成社.

小林謙一（2009）近畿地方以東の地域への拡散．西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第 4 巻　弥生農耕のはじまりとその年代」：55-82，雄山閣.

工藤雄一郎（2012）旧石器・縄文時代の環境文化史ー高精度放射性炭素年代測定と考古学ー．373p，神泉社.

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編「日本先史時代の ^{14}C 年代」：3-20，日本第四紀学会.

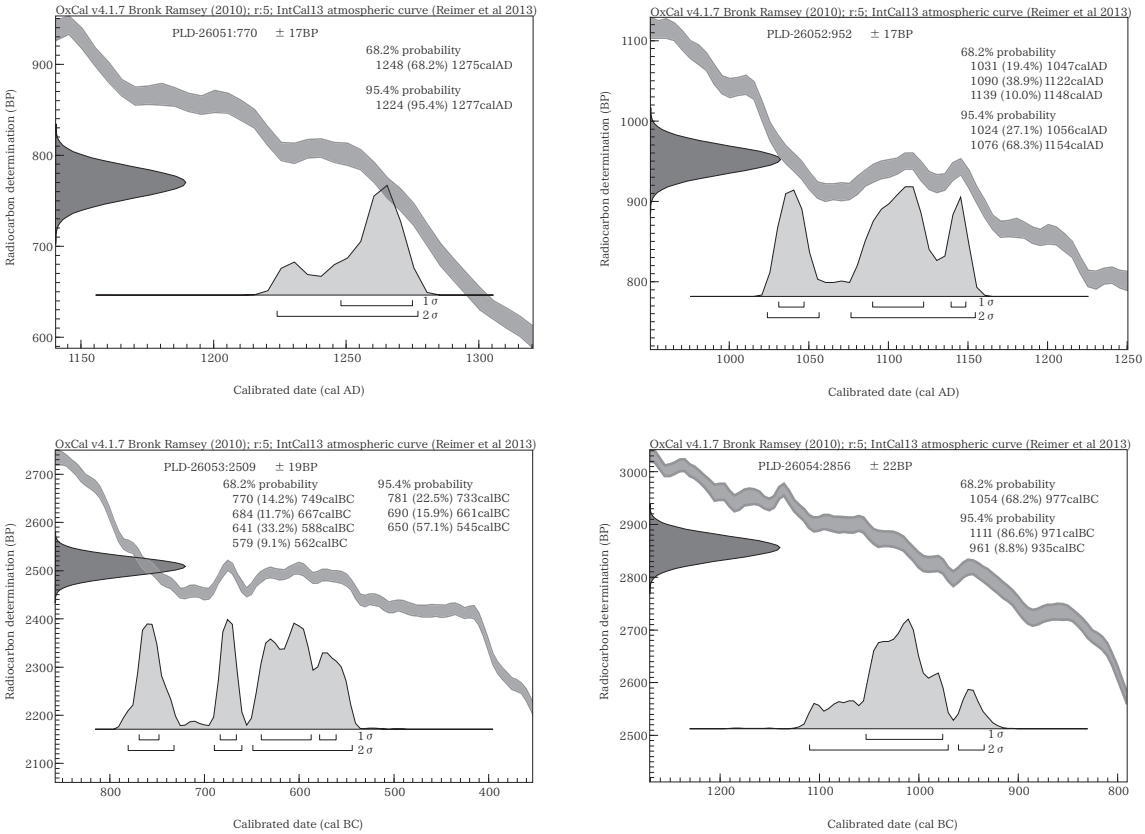
Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.（2013）IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55（4），1869-1887.



1a. SE386
曲物　内面
1b. SE386　採取部位
（PLD-26051）
2a. SE479
曲物　内面
2b. SE479　採取部位
（PLD-26052）

3. 埋設土器 824　試料 No.9　体部外面付着炭化物（PLD-26053）
4. 埋設土器 933　口縁部外面付着炭化物（PLD-26054）

第 37 図　山口野中遺跡の放射性炭素年代測定試料



第 38 図　各試料の暦年較正結果

B　放射性炭素年代測定（2）

千葉博俊・松本美由紀・金井慎司（パリノ・サーヴェイ株式会社）

1）は　じ　め　に

山口野中遺跡（新潟県阿賀野市大字月崎地内）は、現在の阿賀野川右岸、旧阿賀野川の蛇行流路と考えられる三日月形を為す河跡湖の北西の沖積地に立地する。当遺跡では、これまでの発掘調査により、上層（中世；13 世紀後半～ 14 世紀前半）、中層（古代・中世）、下層（縄文時代晩期）の 3 面の遺構確認面が確認されている。

本報告では、下層より出土した縄文土器の年代の検討を目的として、放射性炭素年代測定を実施した。

2）試　　料

放射性炭素年代測定の対象とされた資料は、土器集中より出土した縄文土器（土器集中 881・掲載 No.132）と、炭化物集中より出土した縄文土器（SC859･掲載 No.71）の 2 点である。測定に供した試料は、2 資料ともに土器外面に付着した炭化物であり、土器集中 881 が口縁部付近、SC859 が口縁部下位の文様帯の各所より採取している。

3）分　析　方　法

測定試料に土壌や根等の目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセットや超音波洗浄等により物理的に除去する。その後 HCl による炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOH による腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HCl によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸･アルカリ･酸処理）。試料をバイコール管に入れ、1g の酸化銅（Ⅱ）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30 分）850℃（2 時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにて CO2 を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製した CO2 と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを 650℃で 10 時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径 1mm の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV 小型タンデム加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX- Ⅱ）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に 13C/12C の測定も行うため、この値を用いて δ^{13}C を算出する。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma；68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.0.1［Copyright 1986-2014 M Stuiver and PJ Reimer］を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}C の半減期 5,730 ± 40 年）を較正することである。暦年較正は、CALIB REV のマニュアルにしたがい、1 年単位まで表された同位

体効果の補正を行った年代値を用いて行う。また、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用い、測定誤差σ、2σ（σは統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、2σは真の値が95%の確率で存在する範囲）双方の値を計算する。表中の相対比とは、σ、2σの範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。較正された暦年代は、将来的に暦年較正曲線等の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表された値を記す。

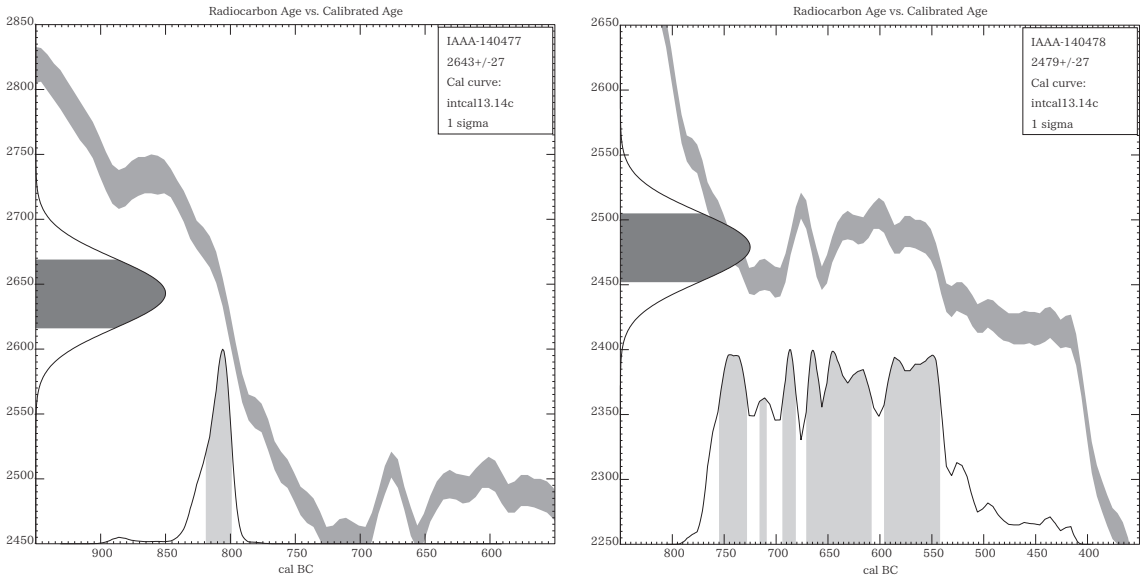
4）結果および考察

土器外面に付着した炭化物の同位体効果による補正を行った測定年代（補正年代）は、土器集中881が2,640 ± 30yrBP、SC859が2,480 ± 30yrBPを示す。また、暦年較正結果（1σ）は、土器集中881がcalBC 819 – calBC 799、SC859がcalBC 755 – calBC 542である（第7表，第39図）。

以上の結果について、［小林編 2008］や［小林 2008・2009］等を参考とすると、土器集中881の暦年較正年代は縄文時代晩期中葉頃、SC859は縄文時代晩期後半の範囲にそれぞれ相当し、土器集中881の方が若干古い傾向にある。なお、SC859については、第39図に示すように較正曲線が平坦となる時期にあたるため、暦年較正年代の範囲が広くなっている。

試料	測定年代（yrBP）	δ^{13}C（‰）	補正年代（暦年較正用）（yrBP）	暦年較正結果			相対比	測定機関 CodeNo.
土器集中881 土器外面付着炭化物 掲載No.132	2,640 ± 30	– 25.84 ± 0.55	2,643 ± 27	σ	cal BC 819 – cal BC 799	cal BP 2,768 – 2,748	1.000	IAAA-140477
				2σ	cal BC 887 – cal BC 884	cal BP 2,836 – 2,833	0.003	
					cal BC 841 – cal BC 790	cal BP 2,790 – 2,739	0.997	
SC859 土器外面付着炭化物 掲載No.71	2,480 ± 30	– 26.18 ± 0.63	2,479 ± 27	σ	cal BC 755 – cal BC 728	cal BP 2,704 – 2,677	0.170	IAAA-140478
					cal BC 716 – cal BC 708	cal BP 2,665 – 2,657	0.041	
					cal BC 694 – cal BC 680	cal BP 2,643 – 2,629	0.081	
					cal BC 670 – cal BC 607	cal BP 2,619 – 2,556	0.367	
					cal BC 595 – cal BC 542	cal BP 2,544 – 2,491	0.342	
				2σ	cal BC 771 – cal BC 506	cal BP 2,720 – 2,455	0.986	
					cal BC 504 – cal BC 489	cal BP 2,453 – 2,438	0.014	

第7表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果（2）



第39図　暦年較正結果（1σ）

3　リン・カルシウム分析

竹原弘展（パレオ・ラボ）

A　は　じ　め　に

阿賀野市に所在する山口野中遺跡は、阿賀野川右岸の沖積地に立地する。山口野中遺跡Ⅱで検出された縄文時代の埋設土器より採取した土壌について、蛍光Ｘ線分析によるリン・カルシウム分析を行い、検討した。

B　試 料 と 方 法

分析対象となる試料は、縄文時代晩期後葉の埋設土器２点の中の土壌である（第８表）。

分析は、藤根ほか（2008）の方法に従って行った。この方法は、元素マッピング分析によりリン、カルシウムを多く含む箇所を面的に検出し直接測定できるという利点がある。測定試料は、乾燥後、極軽く粉砕して塩化ビニル製リングに充填し、油圧プレス機で 20t・１分以上プレスしたものを作製、使用した。

分析装置は、エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置である（株）堀場製作所製分析顕微鏡 XGT-5000 Type Ⅱを使用した。装置の仕様は、Ｘ線管が最大 50kV、1.00mA のロジウム（Rh）ターゲット、Ｘ線ビーム径が 100 μm または 10 μm、検出器は高純度 Si 検出器（Xerophy）で、検出可能元素はナトリウム（Na）～ウラン（U）である。また、試料ステージを走査させながら測定することにより元素の二次元的な分布画像を得る、元素マッピング分析も可能である。

分析 No.	遺構	層位
1	埋設土器 824・掲載 No.87	底部直上
2	埋設土器 824・掲載 No.88・89	最下部

第８表　分析対象一覧

本分析では、まず元素マッピング分析を行い、元素の分布図を得た上で、リン（P）のマッピング図において輝度の高い箇所を選び、ポイント分析を行った。測定条件は、元素マッピング分析では 50kV、1.00mA、ビーム径 100 μm、測定時間 2000s を５回走査、パルス処理時間 P3 に、ポイント分析では 50kV、0.10 ～ 0.50mA（自動設定）、ビーム径 100 μm、測定時間 500s、パルス処理時間 P4 に設定して行った。定量計算は、装置付属ソフトによる標準試料を用いないファンダメンタル・パラメータ法で行っており、半定量値である。

C　結　　果

試料のリンおよびカルシウムの各マッピング図にポイント分析を行った各５箇所の位置を示した図を第 40 図に、ポイント分析結果より酸化物の形で表した各元素半定量値を第９表に示す。

分析の結果、リン（P_2O_5）が 0.03 ～ 18.79%、カルシウム（CaO）が 0.22 ～ 17.53% の値を示した。

D　考　　察

骨や歯は、ハイドロキシアパタイト $Ca_5(PO_4)_3OH$ が主成分であり、すなわち蛍光Ｘ線分析ではリン（P）とカルシウム（Ca）が共に高く検出される。ただし、土壌中のリンとカルシウムは鉱物由来の可能性も考慮する必要があり、特にカルシウムは一般的にもともと土砂中に多く含まれている元素で、注意を要する。さらに、貝殻はもちろん、炭化材なども蛍光Ｘ線分析では高いカルシウム含有量を示す。このように、カルシウムのみの検出では骨由来であるか骨以外のもの由来であるかを判断し難いため、分析ではリンを中心に検討した。また、埋没した時には骨が存在していたが、埋没中に分解拡散が進行し、現状で

はほとんどリンが検出されない場合や、骨からビビアナイト $Fe_3(PO_4)_2 \cdot 8H_2O$ が析出しているケースのように骨由来のリンが多く検出される箇所でもカルシウムが少ないという場合もある。

今回分析した試料は、両者ともリンがかなり多い箇所が複数検出された。また、これら箇所はリンとともにカルシウムも多く検出されており、骨・歯に由来する可能性が高い。

E　お　わ　り　に

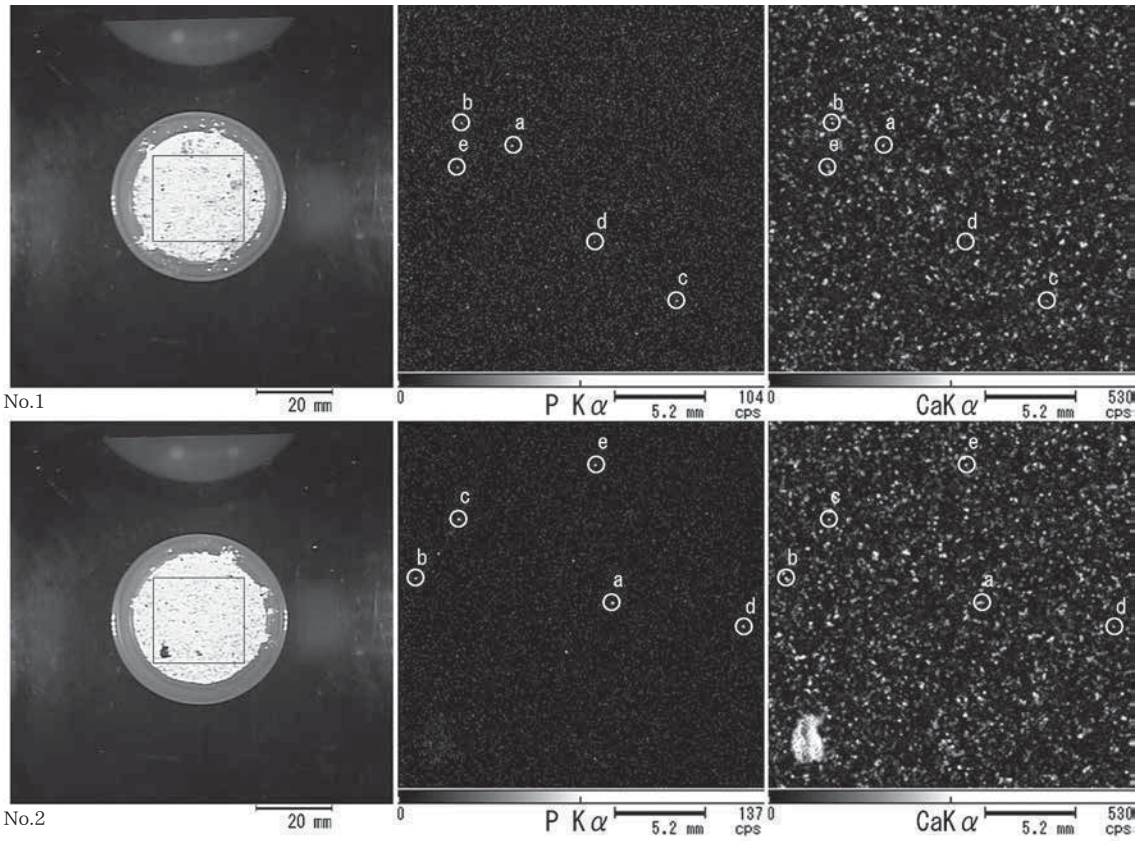
山口野中遺跡より出土した埋設土器内の土壌について分析を行った結果、リン・カルシウム共に明らかに多く含む箇所が検出され、骨・歯の存在を示唆する結果を得た。遺構の性格については、他の自然科学分析の結果および遺物の出土状況や類例など考古学的所見も併せた総合的な判断が望まれる。

参考文献

藤根　久・佐々木由香・中村賢太郎（2008）蛍光 X 線装置を用いた元素マッピングによるリン・カルシウム分析．日本文化財科学会第 25 回大会研究発表要旨集，108-109.

分析 No.	ポイント	MgO	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	SO_3	K_2O	CaO	TiO_2	MnO_2	Fe_2O_3	Rb_2O	SrO	Y_2O_3	ZrO_2
1	a	0.84	14.75	61.63	5.39	0.06	3.54	5.45	2.41	0.10	5.76	0.01	0.02	0.01	0.03
	b	1.04	18.37	57.35	6.65	0.10	1.70	9.56	0.61	0.20	4.33	0.02	0.04	0.02	0.02
	c	0.98	14.06	56.57	11.50	0.05	2.20	11.13	0.60	0.08	2.78	0.01	0.02	0.01	0.01
	d	0.91	16.04	71.54	0.03	0.01	10.58	0.22	0.00	0.00	0.59	0.01	0.04	0.00	0.02
	e	2.15	15.43	60.65	9.85	0.16	1.32	5.42	0.25	0.28	4.41	0.02	0.03	0.02	0.02
2	a	0.82	10.27	54.96	18.52	0.09	1.66	10.09	0.33	0.13	3.05	0.01	0.03	0.01	0.02
	b	2.57	14.07	46.04	13.87	0.08	1.35	11.97	0.94	0.25	8.77	0.01	0.04	0.01	0.03
	c	1.43	11.15	45.89	18.79	0.00	1.17	17.53	0.23	0.07	3.65	0.02	0.02	0.01	0.02
	d	1.33	4.86	86.10	2.23	0.03	0.33	2.55	0.26	0.07	2.20	0.01	0.02	0.01	0.01
	e	2.20	15.19	63.20	5.28	0.13	2.59	4.02	0.41	0.07	6.86	0.02	0.02	0.01	0.01

第 9 表　半定量分析結果（mass%）



第 40 図　プレス試料およびリンとカルシウムの元素マッピング図

4　赤色顔料の分析

千葉博俊・齋藤紀行（パリノ・サーヴェイ株式会社）

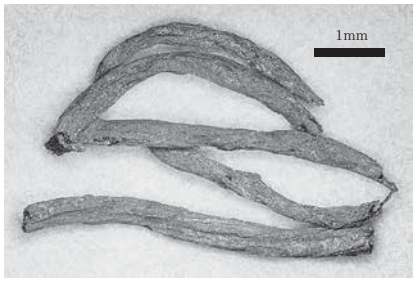
A　は　じ　め　に

山口野中遺跡（新潟県阿賀野市大字月崎地内）は、旧阿賀野川右岸の沖積地に立地する。当遺跡は、平成24年度より継続的に発掘調査が実施されており、これまでに縄文時代晩期、古代・中世および中世の計3面の遺構確認面の存在が明らかとされている。今回の発掘調査においても、これまでと同様に縄文時代晩期および古代・中世の遺構・遺物が確認されている。

本報告では、縄文時代晩期の土器や糸玉に使用されている赤色顔料の原料に関する情報を得ることを目的として、X線回折分析を実施した。

B　試　　料

試料は、縄文時代晩期の浅鉢（埋設土器887・掲載No.102）の外面文様部に塗布された赤色顔料と糸玉（SC825・掲載No.64～68）に使用された赤色顔料2点である。分析に供した試料は、埋設土器が器面より採取した赤色物質、糸玉が本体より剥落した破片である。



糸玉（SC825・掲載No.64～68）

第41図　糸玉外観

C　分　析　方　法

空気乾燥した試料をメノウ乳鉢で磨砕した後、無反射試料板に充填し、リガク製X線回折装置（Ultima Ⅳ Protectus）を用いて表1の条件で測定を実施した。物質の同定解析は、Materials Data,Inc.のX線回折パターン処理プログラムJADE9.5を用い、リファレンスデータベースはICDDのPDF2（Release 2013）を利用して該当する化合物または鉱物を検索した。

装置	リガク製 Ultima Ⅳ Protectus
Target	Cu（K α）
Monochrometer	Graphite 湾曲
Voltage	40kV
Current	40mA
Detector	SC
Calculation Mode	cps
Divergency Slit	1/2°
Scattering Slit	1/2°
Recieving Slit	0.15mm
Scanning Speed	1°/min
Scanning Mode	連続法
Sampling Range	0.02°
Scanning Range	5～45°

第10表　X線回折測定条件

D　結　　果

X線回折図を第42・43図に示す。図中上段が試料のX線回折図、下段が検出された鉱物の回折パターンである。また、文中で括弧内に示したものは、X線回折図で同定された鉱物名である。なお、固溶体やポリタイプを有する鉱物については、X線回折試験では正確な同定は困難であるため、最終的な検出鉱物名としては、それらを包括する大分類の鉱物名を使用している。

（1）縄文時代晩期 浅鉢（埋設土器887・掲載No.102）

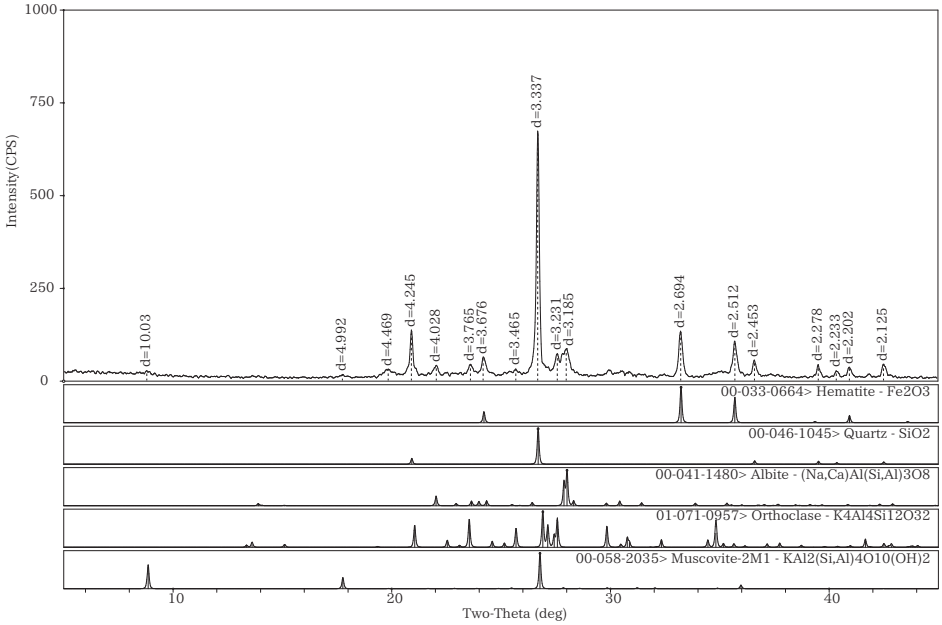
顔料鉱物である赤鉄鉱（hematite）の明瞭な反射が認められた。この他、石英（quartz）、斜長石（曹長石：albite）、カリ長石（正長石：orthoclase）、雲母鉱物（白雲母：muscovite）を示唆する反射が確認された。これらは供試試料削取の際に混入した土器胎土由来の鉱物と見られる。

（2）糸玉（SC825・掲載 No.64 ～ 68）

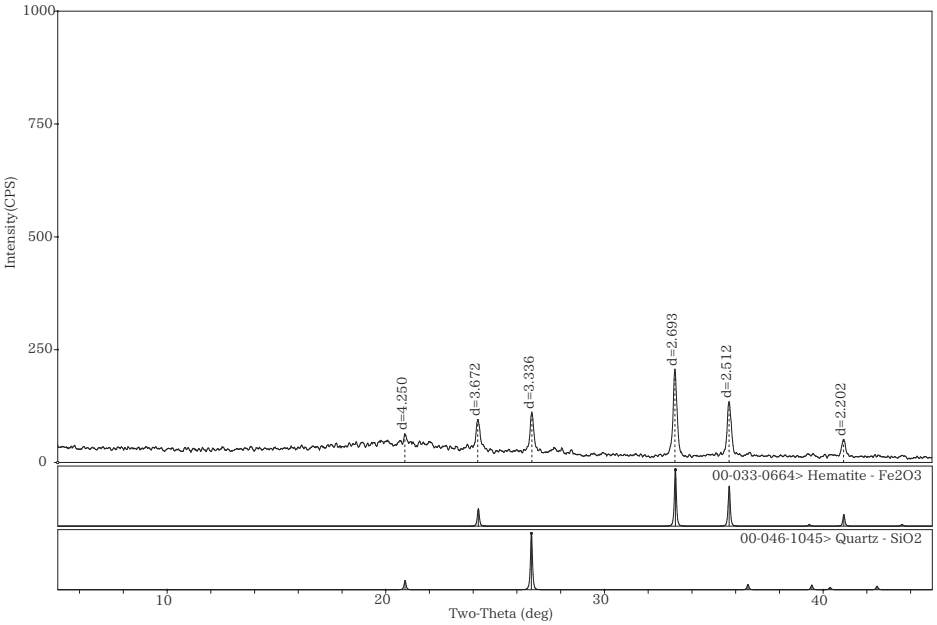
顔料鉱物である赤鉄鉱（hematite）の明瞭な反射が認められたほか、石英（quartz）が検出された。

E　考　　察

赤色を呈する代表的な顔料鉱物にはベンガラ（赤鉄鉱；hematite［α -Fe_2O_3］）のほか、水銀朱（辰砂；cinnabar［HgS］）、鉛丹（鉛丹；minium［Pb_3O_4］）等がある。本調査では、縄文時代晩期の浅鉢の赤色顔料および糸玉ともに赤鉄鉱が認められ、水銀朱など他の顔料鉱物は検出されていない。このことから、これらにおいて利用された赤色顔料はベンガラであると判断される。



第 42 図　X 線回折図（1）（赤色顔料；埋設土器 887・掲載 No.102）



第 43 図　X 線回折図（2）（糸玉；SC825・掲載 No.64 ～ 68）

なお、ベンガラには天然の赤鉄鉱を利用する場合のほか、含水水酸化鉄を焼成して得られる赤鉄鉱を利用する場合がある。また、赤鉄鉱にはパイプ状構造をなすものと、非パイプ状（塊状、球状、不定形など）構造のものとがあり、前者については沼沢地等において鉄バクテリアが生成する含水水酸化鉄が出発物質であることが判明している［岡田 1997、織幡・沢田 1997］。

このような背景から、ベンガラ原料の産出地は無数に存在することとなり、原料産出地を言及することは難しいが、［成瀬 1998］によれば一遺跡において同一時期に使用されるベンガラはパイプ状もしくは非パイプ状のどちらかが支配的な傾向にあるとされる。また、県内には雲母鉄鉱の産出地として有名な新発田市の赤谷鉱山が所在する。検出されたベンガラと赤谷鉱山産の雲母鉄鉱との関係についてまで言及することは出来ないが、今後においては電子顕微鏡などを利用してパイプ状構造の有無を把握しておくこともベンガラ原料に関する情報の一つとして有益と思われる。

引用文献

岡田文男，1997，パイプ状ベンガラ粒子の復元．日本文化財科学会第 14 回大会研究発表要旨集，38-39.

織幡順子・沢田正昭，1997，酸化鉄系赤色顔料の基礎的研究．日本文化財科学会第 14 回大会研究発表要旨集，76-77.

成瀬正和，1998，縄文時代の赤色顔料Ⅰ．考古学ジャーナル，438，10-14.

5　炭化種実同定および動物遺存体分析

千葉博俊・松本美由紀・金井慎司（パリノ・サーヴェイ株式会社）

A　試　　料

本分析に供された試料は、遺構覆土等より不攪乱の柱状試料あるいは塊状試料として採取された土壌（以下、ブロック試料）、発掘調査時に出土した炭化種実（以下、炭化種実試料）、遺構覆土の水洗選別により回収・選別された骨片類（以下、骨片試料）からなる。以下に、各試料の概要を記す。

1）ブロック試料

試料は、埋設土器内、焼土・炭化物集中等の各所より採取された土壌 38 点（約 60kg）からなる。これらの試料の詳細は、結果とともに第 11・12 表に示す。なお、試料の観察では、SC825 10・11 層 No.416 と SC842 3 層 No.381 は、いずれも大型の炭化材を主体とするという特徴が認められた。そのため、これらの 2 試料については、それぞれ主体となる炭化材の観察を行い、さらに樹種の確認を行った。

2）炭化種実試料

試料は、発掘調査時に取り上げられた炭化種実等であり、計 13 試料（66 個）からなる。本分析では、試料全点を同定対象とし、同一の遺構や層位等から採取された試料が複数ある場合、それぞれ仮番号（枝番）を付して扱っている。各試料の詳細は、結果とともに第 14 表に示す。

3）骨　片　試　料

試料は、水洗選別により回収された骨片からなり、11 遺構より採取された 74 試料からなる。炭化種

実試料と同様に、1 遺構より複数の試料が採取されている場合は、便宜的に仮番号（枝番）を付して扱っている。各試料の詳細は、同定結果とともに第 17 ～ 19 表に示す。

B　分　析　方　法

1）水　洗　選　別

分析対象とされた炭化種実や骨・貝類等の動物遺存体を土壌中より可能な限り壊さず回収するために、試料の秤量および常温乾燥させた後、肉眼観察で確認された炭化種実や炭化材、骨片等を拾い上げる。この工程を経た乾燥後の試料は、水を満たした容器に投入し、容器を傾けて浮いた炭化物を粒径 0.5mm の篩に回収する。容器内の残土は、さらに水を入れて静かに攪拌し、容器を傾けて炭化物を回収する作業を炭化物が浮かなくなるまで繰り返す（20 ～ 30 回）。残土を粒径 0.5mm の篩を通して水洗する。

篩内に回収した試料は粒径別に常温乾燥させた後、双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な炭化種実や動物遺存体の他に、炭化材（主に径 4mm 以上）や土器片等の遺物を抽出する。本分析では、抽出された炭化種実や動物遺存体を同定対象とし、その他の抽出物は重量および一部の個数と最大径を求めて一覧表に示す。分析残渣は、主に水に浮いた炭化材・炭化物主体と、主に水に沈んだ砂礫主体とに大まかに分け、重量を表示する。分析後は、抽出物と分析残渣を容器に入れて保管する。

2）炭化種実同定

炭化種実の同定は、現生標本および［石川 1994、中山ほか 2000、小畑 2008・2011］等を参考に実施し、部位・状態別の個数、重量、最大径を求めて結果を一覧表で示す。実体顕微鏡下による区別が困難な複数種間は、－（ハイフォン）で結んで表示する。多量の堅果類が検出された試料は、微細片を一括して「堅果類主体」とし、重量を表示する。同定後は、炭化種実を分類群毎に容器に入れて保管する。

3）動物遺存体分析（骨・貝類同定）

試料を肉眼および実体顕微鏡で観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。

C　結　　果

1）ブロック試料の炭化種実・動物遺存体の検出状況

結果を第 11・12 表に示す。38 試料（約 60kg）を通じて、炭化種実 3,899 個（61.2g）、動物遺存体 5.5g が検出された。この他、炭化材 143.9g、不明炭化物 16.7g、炭化材・炭化物主体 293.3g、砂礫主体 744.2g、土器片 121 個（214.5g）、石鏃 1 個（0.3g）、非炭化植物片 5.3g、不明物質 39 個（0.02g）が検出された。

・炭化種実

炭化種実は、SC842（2）、14N7 グリッド（掲載 No.161）出土土器内、埋設土器 1 の土器内（4 試料）の、計 6 試料を除く 32 試料より検出された。検出された炭化種実のうち、最大は SC885 のトチノキ種皮（2.0cm）である。また、SC885 は、炭化種実の検出状況が個数・重量ともに最も多く、SC804 が計 862 個（14.2g）とこれに次ぎ、さらに SC866（301 個；5.3g）、SC850（計 386 個；3.9g）からも比較的多く検出された。

5　炭化種実同定および動物遺存体分析

	16P1		16P1		17M10	17P2		17R4	14N7	19N16	16Q10	17Q1.2	17P22	18Q18	18R3	18Q19	18R5	20P24	15P9	17P2
	埋設土器 1		埋設土器 1		埋設 903	埋設 908	埋設 928	埋設 933	掲載 No.161	P855	SC800	SC801		SC804				SC809	SC815	SC817
	土器内（1）		土器内（2）		土器内 No.13	土器内	土器内	土器内	土器内 No.3	1 層	1 層	2 層		1	2	3	4		2 層	2 層 -1
種類																			No.222	
炭化種実																				
オニグルミ 核（破片）	−	−	−	−	−	−	0.01	0.63	−	0.09	0.13	0.87	−	0.89	0.17	5.26	3.05	0.04	0.01	−
オニグルミ 核主体（破片）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1.12	−	−	−	−
オニグルミ 核−クリ 子葉（破片）	−	−	−	−	−	0.02	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
クリ 子葉（破片）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
クリ 果皮（破片）	−	−	−	−	−	−	0.01	−	−	0.03	−	0.01	−	−	−	−	0.21	0.01	−	−
クリ 果皮主体（破片）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.21	−	−	−	−	−	−	−	−
トチノキ 種皮主体（破片）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.03	−	−	−	−	−	−	0.86	−	−	−
トチノキ 種皮（破片）	−	−	−	−	<0.001	0.003	−	0.07	−	0.10	−	−	0.12	0.25	0.26	0.22	0.96	0.09	0.01	0.01
トチノキ 種皮・子葉（破片）	−	−	−	−	−	−	−	0.01	−	0.004	−	−	−	−	−	−	0.02	0.00	−	−
トチノキ 子葉（破片）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.09	−	−	0.41	−	−	−	−	−	−	−
トチノキ 子葉主体（破片）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.001	−	−	0.69	−	−	−	0.38	−	−	−
堅果類主体（破片）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.34	−	−	−	−	−	−	−	−
アカメガシワ 種皮（破片）	−	−	−	−	0.003	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
サンショウ 種子（完形）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
サンショウ 種皮（破片）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.009	−	−	−
ムクロジ 種皮（破片）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.01	0.15	−	−	−
ヤマブドウ 種子（完形）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
クサギ 核（完形）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ニワトコ 核（完形）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	<0.001	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
イネ科 穎・胚乳（完形）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
イネ科 胚乳（完形）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ヒゴクサ類 果実（完形）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
アサ？ 果実（破片）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ギシギシ属 果実（完形）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	<0.001	−	−	−	−	−
タデ属 果実（完形）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
マメ科（アズキ類）種子（完形）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ヒシ属 果皮（破片）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.01	0.01	0.07	−	−	−
ヒシ属 果皮主体（破片）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.01	0.29	−	−	−	−
双子葉類（完形）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
不明種実（完形）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
炭化種実合計	−	−	−	−	0.003	0.03	0.02	0.71	−	0.34	0.13	1.43	1.23	1.14	0.45	6.92	5.69	0.15	0.03	0.01
骨貝類																				
貝類？（破片）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
骨片（被熱）																				
コイ属 腹椎	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
フナ属 腹椎	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	<0.01	−	−
コイ科 第 1/2 椎骨	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
コイ科 尾椎	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
コイ科 背鰭棘	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	<0.01	−	−	−
アユ属 尾椎	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.01	−	−	−
アユ属？ 尾椎	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
サケ属 歯牙	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.02	−	−	−
サケ属 椎骨	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.04	−	−	<0.01	−	−	−	0.04	−	−	−
硬骨魚綱 椎骨	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.01	−	−	<0.01	−	−	−	0.01	−	−	−
硬骨魚綱 鰭棘等	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.18	−	−	0.02	−	−	−	0.14	0.01	−	<0.01
硬骨魚綱 部位不明破片	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.10	−	−	0.01	−	−	−	0.07	0.01	−	−
哺乳綱 部位不明破片	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
鳥綱／哺乳綱 部位不明破片	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
種類不明 部位不明破片	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.12	−	−	<0.01	−	−	−	0.19	0.02	−	<0.01
その他	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
合計	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.45	−	−	0.03	−	−	−	0.48	0.04	−	<0.01
骨片？	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.01	−	−	−	−	−
その他																				
不明炭化物	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
炭化材	0.00	0.01	0.01	−	0.24	0.01	0.02	0.83	−	0.74	0.15	0.15	0.16	2.05	1.91	0.60	2.51	1.94	3.87	0.02
炭化物・炭化材主体	−	−	−	−	−	−	−	1.17	−	4.95	−	2.42	2.00	14.97	2.21	19.66	17.22	1.21	4.99	−
砂礫主体	0.10	1.5	5.8	2.97	2.33	0.99	10.62	10.23	3.01	14.05	0.89	1.58	11.16	27.58	46.33	35.99	51.12	23.19	1.78	4.50
不明物質（遺物か）	0.00	−	0.0	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
土器片	−	0.4	103.1	8.00	0.51	−	−	0.36	−	11.29	−	1.38	2.03	−	−	−	−	1.95	−	−
石鏃	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
非炭化植物片	−	−	0.1	0.01	−	−	−	−	−	0.26	−	<0.001	−	−	−	−	1.45	−	−	−
分析量（g）	152	711	1545	246	173	405	117	2502	240	1916	45	447	762	2318	4541	2812	4599	1425	235	1475

第 11 表　炭化種実・骨貝類抽出同定結果（1）

	17018	17N23	17018	17N17	16M25	16M25	17M20	19·20N	17·18M	180·P	180·P	17M·N	18P	19·200	200	19P9·14	20P	17·18P	合計 (g)
	SC817		SC825			SC842		SC850	SC861	SC866	SC867	SC868	SC870	SC871	SC880	SC884	SC885	SC914	
	2 層 -2	−	4 層	10.11 層	(1)	(2)	3 層	1 層	1 層	1-4 層	1 層	2 層	1-2 層	1-2 層	1 層	1 層	1-2 層	2 層	
種類			No.316	No.416			No.381					No.29						No.136	
炭化種実																			
オニグルミ 核（破片）	−	0.53	0.01	0.41	0.01	−	1.22	0.10	0.02	0.17	0.01	−	0.06	0.10	0.05	−	3.96	−	17.77
オニグルミ 核主体（破片）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1.12
オニグルミ 核−クリ 子葉（破片）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.09	−	−	−	−	−	−	−	−	0.12
クリ 子葉（破片）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.25	−	−	−	−	−	−	−	−	0.25
クリ 果皮（破片）	−	0.03	0.01	−	−	−	0.03	0.27	−	1.37	0.01	0.03	0.03	−	0.06	<0.001	0.41	−	2.49
クリ 果皮主体（破片）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1.86	−	0.03	−	−	−	−	−	−	2.09
トチノキ 種皮主体（破片）	−	−	−	0.04	−	−	−	1.46	−	−	−	−	0.13	−	0.26	−	−	−	2.77
トチノキ 種皮（破片）	0.002	−	0.03	0.06	<0.001	−	0.07	1.90	0.01	0.07	0.004	−	0.22	2.28	0.59	−	17.26	0.001	24.60
トチノキ 種皮・子葉（破片）	−	−	−	−	−	−	−	0.05	−	−	−	−	0.003	−	−	−	0.77	−	0.84
トチノキ 子葉（破片）	−	0.21	−	−	−	−	−	0.05	−	0.07	−	−	0.51	−	−	−	1.78	−	3.11
トチノキ 子葉主体（破片）	−	−	−	−	−	−	−	0.03	−	−	−	−	0.12	−	−	−	1.67	−	2.89
堅果類主体（破片）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1.40	−	−	−	−	−	−	−	−	1.74
アカメガシワ 種皮（破片）	−	0.001	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.009	<0.001	−	−	0.01
サンショウ 種子（完形）	−	0.003	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.003
サンショウ 種皮（破片）	−	0.001	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.01
ムクロジ 種皮（破片）	−	0.02	−	−	−	−	−	−	0.03	−	−	−	0.17	−	0.04	−	−	−	0.42
ヤマブドウ 種子（完形）	−	−	−	0.01	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.01
クサギ 核（完形）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.01	−	−	−	−	0.01
ニワトコ 核（完形）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	<0.001
イネ科 穎・胚乳（完形）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.00	−	0.001
イネ科 胚乳（完形）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	<0.001	−	−	−	−	−	<0.001
ヒゴクサ類 果実（完形）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	<0.001	−	<0.001
アサ？ 果実（破片）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.005	−	−	−	0.005
ギシギシ属 果実（完形）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	<0.001
タデ属 果実（完形）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	<0.001	−	<0.001
マメ科（アズキ類）種子（完形）	−	0.02	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.02
ヒシ属 果皮（破片）	−	−	−	0.02	−	−	0.03	0.02	−	−	−	−	−	−	−	−	0.43	−	0.58
ヒシ属 果皮主体（破片）	−	−	−	0.06	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.37
双子葉類（完形）	−	0.002	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.002
不明種実（完形）	−	−	−	−	−	−	−	0.002	−	−	−	−	<0.001	−	−	−	−	−	0.002
炭化種実合計	0.002	0.80	0.05	0.59	0.01	−	1.34	3.88	0.05	5.28	0.02	0.06	1.24	2.39	1.00	<0.001	26.27	0.001	61.24
骨貝類																			
貝類？（破片）	−	−	−	−	−	0.01	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.01
骨片（被熱）																			
コイ属 腹椎	−	0.01	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.01
フナ属 腹椎	−	0.01	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.01
コイ科 第 1/2 椎骨	−	<0.01	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.00
コイ科 尾椎	−	0.02	−	−	<0.01	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.02
コイ科 背鰭棘	−	0.02	−	−	0.01	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.03
アユ属 尾椎	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.01
アユ属？ 尾椎	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.01	−	−	−	−	−	−	−	−	0.01
サケ属 歯牙	−	0.02	−	−	0.03	−	−	−	−	0.01	−	−	−	−	−	−	−	−	0.08
サケ属 椎骨	−	0.15	0.01	−	0.17	−	0.01	−	−	0.10	−	−	−	−	−	−	<0.01	−	0.52
硬骨魚綱 椎骨	−	0.01	−	−	0.02	−	−	−	−	0.01	−	−	−	−	−	−	−	−	0.06
硬骨魚綱 鰭棘等	0.01	0.35	0.01	−	0.48	0.02	0.01	−	−	0.15	−	−	0.01	−	−	−	0.02	−	1.41
硬骨魚綱 部位不明破片	<0.01	0.15	0.01	−	0.10	−	<0.01	−	−	0.07	−	−	<0.01	−	−	−	<0.01	−	0.52
哺乳綱 部位不明破片	−	0.10	0.04	−	0.04	−	0.02	−	−	−	−	−	<0.01	−	−	−	−	−	0.20
鳥綱／哺乳綱 部位不明破片	−	0.05	−	−	0.12	−	−	−	−	0.05	−	−	−	−	−	−	−	−	0.22
種類不明 部位不明破片	0.01	0.73	0.02	0.01	0.73	0.01	0.02	<0.01	−	0.44	−	−	0.01	−	0.01	−	0.02	−	2.34
その他	−	0.02	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.01	−	0.03
合計	0.02	1.62	0.09	0.01	1.70	0.03	0.06	<0.01	−	0.84	−	−	0.02	−	0.01	−	0.04	−	5.45
骨片？	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.01
その他																			
不明炭化物	−	−	15.21	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.11	1.35	−	−	−	−	16.7
炭化材	0.01	9.82	0.64	9.72	0.00	0.23	44.18	2.55	20.27	4.89	2.13	13.57	0.64	5.78	3.43	0.30	10.55	0.02	143.9
炭化物・炭化材主体	−	14.63	−	7.31	−	−	26.95	13.91	19.83	33.18	4.47	6.77	7.27	11.89	4.76	0.50	70.94	0.12	293.3
砂礫主体	10.13	124.21	0.86	18.17	61.44	18.40	6.25	24.55	33.20	51.74	3.76	2.20	47.46	10.82	7.92	46.51	20.00	0.93	744.2
不明物質（遺物か）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.02
土器片	−	2.34	0.75	20.00	8.61	−	0.90	11.26	18.09	0.57	−	−	10.92	−	0.13	−	11.90	−	214.5
石鏃	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.35	−	−	−	−	−	0.3
非炭化植物片	−	−	−	0.06	−	−	−	−	0.23	0.04	−	0.08	−	0.33	0.99	0.03	1.78	−	5.3
分析量（g）	309	3349	174	484	2517	5523	389	2146	2220	2766	1631	192	3320	1341	1865	640	3828	169	59528.8

第 12 表　炭化種実・骨貝類抽出同定結果（2）

5　炭化種実同定および動物遺存体分析

	埋設903	埋設908	埋設928	埋設933	P855	SC800	SC801		SC804				SC809	SC815	SC817	SC817
分類群・部位（状態）	土器内	土器内	土器内	土器内	1 層	1 層	－	2 層	1	2	3	4		2 層	2 層 -1	2 層 -2
堅果類																
オニグルミ 核（破片）	－	－	9	25	7	10	58	－	28	31	281	213	9	1	－	－
オニグルミ 核－クリ 子葉（破片）	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
クリ 子葉（破片）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
クリ 果皮（破片）	－	－	4	－	17	－	4	－	－	－	－	49	7	－	－	－
トチノキ 種皮（破片）	2	5	－	22	29	－	－	37	54	41	21	122	43	5	10	5
トチノキ 種皮・子葉（破片）	－	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－	1	1	－	－	－
トチノキ 子葉（破片）	－	－	－	－	3	－	－	15	－	－	－	－	－	－	－	－
その他の木本類																
アカメガシワ 種皮（破片）	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
サンショウ 種子（完形）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
サンショウ 種皮（破片）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－
ムクロジ 種皮（破片）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	8	－	－	－	－
ヤマブドウ 種子（完形）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
クサギ 核（完形）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ニワトコ 核（完形）	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
草本類																
イネ科 穎・胚乳（完形）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
イネ科 胚乳（完形）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ヒゴクサ類 果実（完形）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
アサ？ 果実（破片）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ギシギシ属 果実（完形）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－
タデ属 果実（完形）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
マメ科（アズキ類）種子（完形）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ヒシ属 果皮（破片）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	2	6	－	－	－	－
不明																
双子葉類（完形）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
不明種実（完形）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
種実合計																
堅果類	2	6	13	48	57	10	62	52	82	72	302	385	60	6	10	5
その他の木本類	3	－	－	－	1	－	－	－	－	－	1	10	－	－	－	－
草本類	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	2	6	－	－	－	－
不明	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
種実合計（不明を除く）	5	6	13	48	58	10	62	52	82	74	305	401	60	6	10	5

＊炭化種実が検出されなかった試料は表中より除外している。

	SC825			SC842		SC850	SC861	SC866	SC867	SC868	SC870	SC871	SC880	SC884	SC885	SC914	合計
分類群・部位（状態）	－	4 層	10.11 層	－	3 層	1 層	1 層	1-4 層	1 層	2 層	1-2 層	1-2 層	1 層	1 層	1-2 層	2 層	（個）
堅果類																	
オニグルミ 核（破片）	20	4	45	1	200	7	6	10	2	－	9	14	6	－	126	－	1122
オニグルミ 核－クリ 子葉（破片）	－	－	－	－	－	－	－	12	－	－	－	－	－	－	－	－	13
クリ 子葉（破片）	－	－	－	－	－	－	－	8	－	－	－	－	－	－	－	－	8
クリ 果皮（破片）	6	5	－	－	14	65	－	264	10	10	11	－	20	3	51	－	540
トチノキ 種皮（破片）	－	32	24	2	19	300	9	6	7	－	34	52	96	－	1017	4	1998
トチノキ 種皮・子葉（破片）	－	－	－	－	－	5	－	－	－	－	1	－	－	－	18	－	28
トチノキ 子葉（破片）	4	－	－	－	－	2	－	1	－	－	14	－	－	－	26	－	65
その他の木本類																	
アカメガシワ 種皮（破片）	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	4	1	－	－	9
サンショウ 種子（完形）	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
サンショウ 種皮（破片）	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	3
ムクロジ 種皮（破片）	1	－	－	－	－	－	1	－	－	－	22	－	4	－	－	－	37
ヤマブドウ 種子（完形）	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
クサギ 核（完形）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	1
ニワトコ 核（完形）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
草本類																	
イネ科 穎・胚乳（完形）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	1
イネ科 胚乳（完形）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	2
ヒゴクサ類 果実（完形）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	1
アサ？ 果実（破片）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	8	－	－	－	8
ギシギシ属 果実（完形）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
タデ属 果実（完形）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	1
マメ科（アズキ類）種子（完形）	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
ヒシ属 果皮（破片）	－	－	7	－	3	6	－	－	－	－	－	－	－	－	28	－	53
不明																	
双子葉類（完形）	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2
不明種実（完形）	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	2
種実合計																	
堅果類	30	41	69	3	233	379	15	301	19	10	69	66	122	3	1238	4	3774
その他の木本類	4	－	1	－	－	－	1	－	－	－	22	1	8	1	－	－	53
草本類	1	－	7	－	3	6	－	－	－	－	2	－	8	－	31	－	68
不明	2	－	－	－	－	1	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	4
種実合計（不明を除く）	35	41	77	3	236	385	16	301	19	10	93	67	138	4	1269	4	3895

＊炭化種実が検出されなかった試料は表中より除外している。

第 13 表　炭化種実同定結果（1）

・動物遺存体

骨･貝類は､計 18 試料から検出され､最大は P855 の 1.1cm である。検出された重量は､SC842 の 1.7g が最多であり、SC825（1.6g)、SC866（0.8g）等がこれに次ぐ。

・不明炭化物

不明炭化物は､SC825 4 層（No.316）から菌類？が 15.2g と､SC870 から樹皮？が 0.1g（最大 1.8cm)、SC871 から不明が 1.4g（最大 1.2cm）検出された。

・炭化材

炭化材は、14N7 グリッド出土土器（掲載 No.161）内と埋設土器 1 土器内（2）の 2 試料を除く 36 試料から検出された。検出状況は、SC842 が 28.5g と最多であり、SC868（13.6g)、SC885（10.6g）等が次いで多い。なお、上述した炭化材を主体とする 2 試料（SC825 10・11 層 No.416、SC842 3 層 No.381）のうち、SC825 試料は残存幅が約 5cm、厚さが約 1cm を測る針葉樹のスギの板目板状を呈する炭化材、SC842 試料は残存長が約 24cm、残存幅が約 5cm、厚さが約 2cm を測る落葉広葉樹のクリの板目板状を呈する炭化材であることが確認された。

試料名					分類群	部位	状態	個数	枝番	乾重（g）	計測値（mm）＊			備考
Gr	遺構名	層位	備考	枝番							長さ	幅	厚さ	
17N	SC825	－	－	－	オニグルミ	核	破片	4	1	0.6	20.6 +	18.8 +	7.8 +	全周 , 隔壁欠損
17N	SC825	－	－	－	オニグルミ	核	破片	－	－	0.5	－	－	－	上記（枝番 1）と合せて計 1 個体未満
17N	SC825	－	－	－	ソバ	果実	完形	2	1	0.003	2.7	2.1	－	
17N	SC825	－	－	－	ソバ	果実	完形	－	2	0.004	3.1	1.9	－	萼残存
17N	SC825	－	－	－	ソバ	果実	破片	1	－	<0.001	2.5	1.2 +	－	約半分
17N	SC825	－	－	－	ソバ	種子	完形	1	－	<0.001	2.2	－	－	渦巻き状
17N	SC825	－	－	－	炭化材			2	－	0.004	2.5	－	－	
17N8	SC825	1-4 層	P1	1	ソバ	果実	完形	1	－	0.004	2.3	2.1	－	
17N8	SC825	1-4 層	P1	1	不明		完形	1	－	0.001	3.2	2.0	1.5	やや偏平な楕円体、端部突起状、ソバ果実？
17N8	SC825	1-4 層	P1	1	炭化材			1	－	0.004	2.7	－	－	
17N8	SC825	1-4 層	P1	2	ヒシ属	果実	破片	1	－	0.011	5.1 +	5.8 +	－	肩部
17N8	SC825	1-4 層	P1	2	双子葉類	種子	完形	2	1	0.005	3.7	3.4	2.4	渦巻き状、ソバ種子？
17N8	SC825	1-4 層	P1	2	双子葉類	種子	完形	－	2	0.006	3.5	3.4	2.6	渦巻き状、ソバ種子？
17N8	SC825	1-4 層	P1	2	不明		完形	1	－	0.0	5.7	3.6	－	楕円～卵体
17N8	SC825	1-4 層	P1	2	炭化材			2	－	0.005	2.9	－	－	
17N	SC825	－	－	1	ソバ	果実	完形未満	1	－	0.003	3.0	2.3	－	
17N	SC825	－	－	2	トチノキ	子葉	破片	1	－	0.3	10.8	12.7	－	約 1/3 個
17N	SC825	4-7 層	－	－	ヤナギタデ近似種	果実	完形	1	－	0.002	2.0	1.4	1.1	
17N	SC825	4-7 層	－	－	ヤナギタデ近似種	果実	破片	4	－	<0.001	－	－	－	計 1 個分
17N	SC825	10 層	－	－	ソバ	果実	完形	1	－	0.006	3.0	2.3	－	
17N	SC825	10 層	－	－	ソバ？	果実？	完形	4	－	0.011	3.2	－	－	状態不良（押し潰れている）
17N	SC825	10 層	－	－	不明		破片	2	－	0.003	2.9 +	－	－	
17N	SC825	10 層	－	－	炭化材			2	－	0.003	2.9	－	－	
16M25	SC842	5 層	－	－	オニグルミ	核	完形未満	1	－	3.6	29.8	25.0	15.5 +	泥充填 , 半割面に別個体の破片が付着
16M25	SC842	5 層	－	－	オニグルミ	核	破片	20	1	3.1	30.1	24.5 +	12.6 +	泥充填 , 半分厚（復元 25.2mm）、側部（2～5 時）欠損
16M25	SC842	5 層	－	－	オニグルミ	核	破片	－	2	1.3	27.9	24.9 +	9.7 +	半分厚（復元 19.3mm）、両側部（2～4 時 ,7～8 時）欠損
16M25	SC842	5 層	－	－	オニグルミ	核	破片	－	3	1.8	25.9 +	21.4 +	11.9 +	半分厚（復元 23.8mm）、頂～側部（12～5 時）欠損（リス類による食痕の可能性）
16M25	SC842	5 層	－	－	オニグルミ	核	破片	－	4	1.2	20.7 +	22.5 +	10.6 +	半分厚（復元 21.1mm）、頂部（10～2 時）、側部（3～5 時）欠損
16M25	SC842	5 層	－	－	オニグルミ	核	破片	－	5	1.8	23.6 +	20.4 +	12.1 +	泥充填 , 半分厚（復元 24.1mm）、基部（4～8 時）、側部（2～3 時）欠損
16M25	SC842	5 層	－	－	オニグルミ	核	破片	－	6	0.7	19.3 +	19.7 +	10.1 +	半分厚（復元 20.1mm）、頂～側部（7～2 時）欠損
16M25	SC842	5 層	－	－	オニグルミ	核	破片	－	7	0.7	20.3 +	19.0 +	10.2 +	半分厚（復元 20.4mm）、頂～側部（10～5 時）、隔壁欠損
16M25	SC842	5 層	－	－	オニグルミ	核	破片	－	－	13.1	－	－	－	
16・17M, 17N	SC842	5-6 層	－	－	ブドウ属	種子	完形	2	1	0.003	2.7	2.7	2.0	合点窪む
16・17M, 17N	SC842	5-6 層	－	－	ブドウ属	種子	完形	－	2	0.005	3.0	2.6	2.1	合点不明瞭（欠損）
16・17M, 17N	SC842	5-6 層	－	－	炭化材			1	－	0.005	2.5	－	－	
19O	SC859	－	－	－	オニグルミ	核	破片	1	－	0.8	20.1 +	19.1 +	9.1 +	半分厚（復元 18.1mm）、頂～側部（10～5 時）、隔壁欠損
20P	SC885	－	－	－	オニグルミ	核	破片	4	1	0.8	24.9 +	24.0 +	6.9 +	全周、隔壁欠損
20P	SC885	－	－	－	オニグルミ	核	破片	－	2	0.7	19.5 +	19.6 +	11.6 +	全周、隔壁欠損
19O	SC859	－	－	－	クサギ	核	破片	1	－	0.003	2.6 +	3.2 +	－	背面
19・20R	SC879	－	－	－	ブドウ属	種子	完形	1	－	0.008	3.5	3.1	2.1	合点不明瞭（泥充填）
20P	SC885	－	－	－	オニグルミ	核	破片	－	3	0.7	31.3 +	18.8 +	7.7 +	ほぼ全周（12～11 時）、隔壁欠損、12～6 時：リス類による食痕の可能性
20P	SC885	－	－	－	オニグルミ	核	破片	－	4	0.5	23.2 +	19.6 +	7.7 +	
							合計	66		32.4				

＊計測はデジタルノギスを使用 .

第 14 表　炭化種実同定結果（2）

・炭化材・炭化物主体、砂礫主体

炭化材・炭化物主体は、計 24 試料から検出された。SC885 が 70.9g と最も多く、SC866（33.2g）、SC842 の No.381 3 層（27.0g）が次いで多い。砂礫主体は、全試料から検出され、高師小僧（褐鉄鉱）を含む。SC825（17N23）が 124.2g と最多であり、SC842（1）（61.4g）、SC866（51.7g）、SC804-4（51.1g）等が次いで多い。

・土器片、石鏃

土器片は、20 試料より検出された。最大は埋設土器 1 土器内（2）より検出された 9.4cm を測る土器片である。なお、埋設土器 1 土器内（2）は土器片の検出が個数・重量ともに最も多い。石鏃は、SC870 から 1 点確認され、長さは 2.5cm を測る。

・炭化していない植物片

炭化していない植物片は、13 試料から検出された。イネの穎（17Q1.2 SC801）やカヤツリグサ属の果実（埋設土器 1 土器内（2））を含む。これらは保存状態から後代の混入の可能性が高い。

・不明物質

黒色、不定形な薄膜状を呈する物質である。埋設土器 1 土器内（1）から 1 個（0.002g）、埋設土器 1 土器内（2）から 38 個（0.01g）検出され、最大破片は 4.2mm を測る。

2）炭化種実同定

a　出　土　状　況

ブロック試料より抽出した炭化種実の同定結果を第 11 ～ 13 表に、発掘調査時に取上げられた炭化種

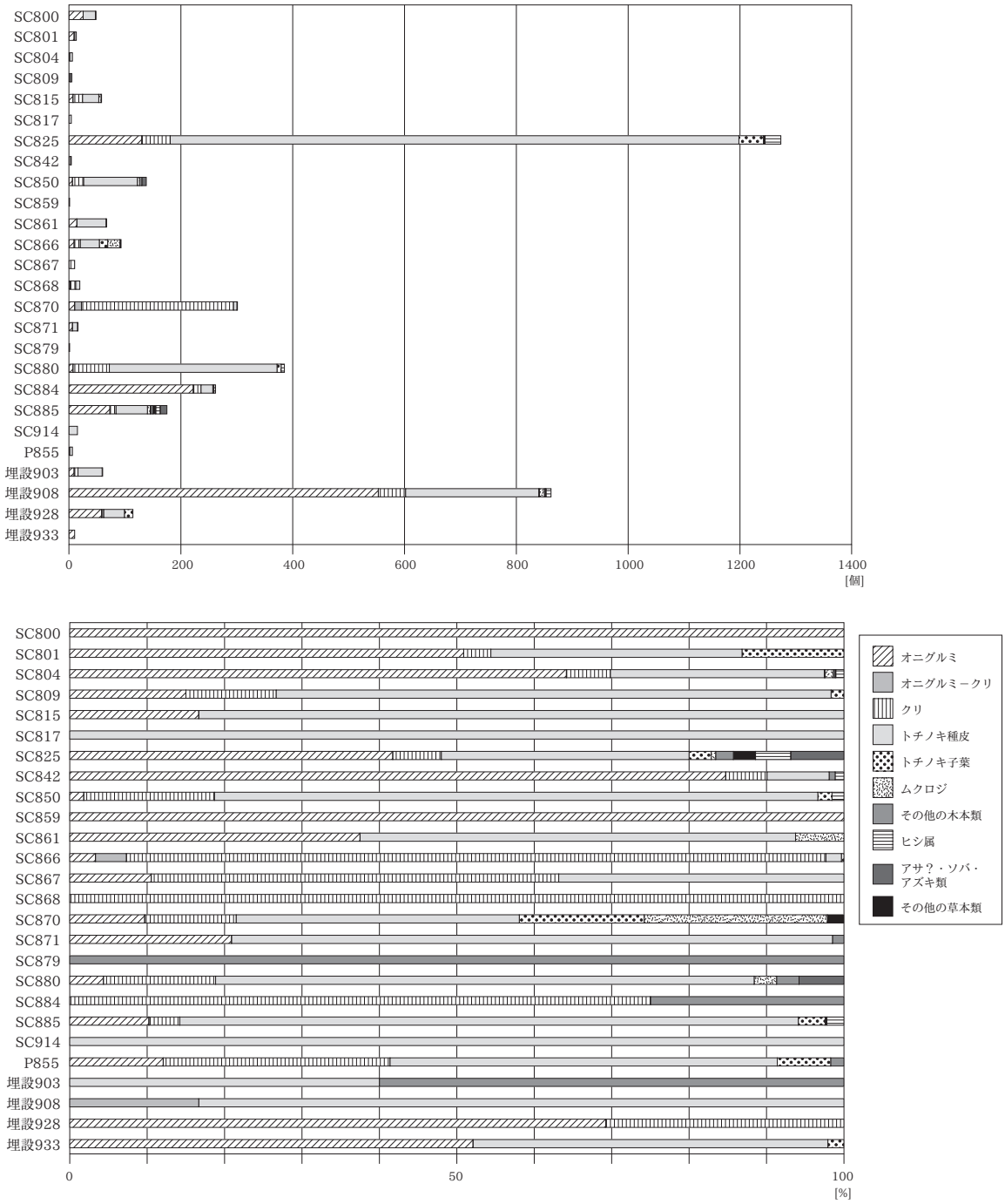
分類群	埋設903	埋設908	埋設928	埋設933	P855	SC800	SC801	SC804	SC809	SC815	SC817	SC825	SC842	SC850	SC859	SC861	SC866	SC867	SC868	SC870	SC871	SC879	SC880	SC884	SC885	SC914	合計（個）
堅果類																											
オニグルミ	−	−	9	25	7	10	58	553	9	1	−	73	222	7	1	6	10	2	−	9	14	−	6	−	130	−	1111
オニグルミ−クリ	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	12	−	−	−	−	−	−	−	−	−	12
クリ 子葉	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	8	−	−	−	−	−	−	−	−	−	8
クリ 果皮	−	−	4	−	17	−	4	49	7	−	−	11	14	65	−	−	264	10	10	11	−	−	20	3	51	−	519
トチノキ 種皮	2	5	−	22	29	−	37	238	43	5	15	56	21	300	−	9	6	7	−	34	52	−	96	−	1017	4	1940
トチノキ 種皮・子葉	−	−	−	1	1	−	−	1	1	−	−	−	−	5	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	18	−	26
トチノキ 子葉	−	−	−	−	3	−	15	−	−	−	−	5	−	2	−	−	1	−	−	14	−	−	−	−	26	−	63
その他の木本類																											
アカメガシワ	3	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	4	1	−	−	6
サンショウ	−	−	−	−	−	−	−	2	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	4
ムクロジ	−	−	−	−	−	−	−	9	−	−	−	1	−	−	−	1	−	−	−	22	−	−	4	−	−	−	37
ヤマブドウ	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1
ブドウ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	3
クサギ	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	1
ニワトコ	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0
草本類																											
イネ科	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	1	−	3
ヒゴクサ類	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	1
アサ？	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	8	−	−	−	8
ギシギシ属	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1
ヤナギタデ近似種	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	5	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	5
タデ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	1
ソバ	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	7	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	7
ソバ？	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	4
マメ科（アズキ類）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1
ヒシ属	−	−	−	−	−	−	−	9	−	−	−	8	3	6	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	28	−	54
不明																											
双子葉類	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	4
不明	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	4	−	1	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	6
種実合計																											
堅果類	2	6	13	48	57	10	114	841	60	6	15	145	257	379	1	15	301	19	10	69	66	−	122	3	1242	4	3679
その他の木本類	3	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	5	−	−	−	1	−	−	−	22	1	1	8	1	−	−	52
草本類	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	25	−	6	−	−	−	−	−	2	−	−	8	−	31	−	85
不明	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	8	−	1	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	10
種実合計（不明を除く）	5	6	13	48	58	10	114	841	60	6	15	175	257	385	1	16	301	19	10	93	67	1	138	4	1273	4	3816

＊炭化種実が検出されなかった試料は表中からは除外した．

第 15 表　炭化種実出土状況

実試料の同定結果を第 14 表に示す。また、ブロック試料、炭化種実試料をまとめた遺構別の出土状況を第 15 表、第 44 図に示す。

ブロック試料（38 試料）および炭化種実試料（13 試料）を通じて、被子植物 19 分類群（木本のオニグルミ、クリ、アカメガシワ、サンショウ、トチノキ、ムクロジ、ヤマブドウ、ブドウ属、クサギ、ニワトコ、草本のイネ科、ヒゴクサ類、アサ？、ギシギシ属、ヤナギタデ近似種、タデ属、ソバ、マメ科（アズキ類）、ヒシ属）3,946 個が同定された。この他、10 個は種類の同定に至らなかったため不明とし、このうち 4 個を双子葉類としている。以下に、同定された炭化種実の試料別の出土状況を述べる。



第 44 図　炭化種実出土状況（上；ヒストグラム、下；相対比）

・ブロック試料

全 38 試料を通じて、木本 8 分類群（クリ、アカメガシワ、サンショウ、トチノキ、ムクロジ、ヤマブドウ、クサギ、ニワトコ）3,827 個、草本 7 分類群（イネ科、ヒゴクサ類、アサ？、ギシギシ属、タデ属、マメ科（アズキ類）、ヒシ属）68 個の、計 3,895 個が同定された。この他、双子葉類が 2 個、不明が 2 個確認された。

木本類は全て落葉広葉樹で、河畔林要素で高木のオニグルミの核の破片が 1,122 個、オニグルミの核またはクリの子葉の破片 13 個、二次林要素のクリの子葉の破片が 8 個、果皮の破片が 540 個、河畔林要素のトチノキの種皮の破片が 1,998 個、種皮・子葉の破片が 28 個、子葉の破片が 65 個と、河畔や林縁等の明るく開けた場所を好んで生育するアカメガシワの種皮の破片が 9 個、ムクロジの種皮の破片が 37 個、低木のサンショウの種子が 4 個（完形 1、破片 3）、クサギの核が 1 個、ニワトコの核が 1 個、藤本のヤマブドウの種子が 1 個確認された。

トチノキをはじめ、オニグルミやクリ等の堅果類が炭化種実群の全体の 97%（計 3,774 個）と多数を占める。炭化種実が最も多く検出された SC885 はトチノキ主体、次いで多い SC804 はオニグルミ主体である。また、SC866 はクリ主体であり、遺構によって多産（優占）する堅果類の種類が異なるという特徴が窺える。

草本類は、栽培種のアサ？の果実の破片が 8 個（SC880）、栽培の可能性があるマメ科（アズキ類）の種子が 1 個（SC825）と、浮葉性水生植物のヒシ属の果実の破片が 53 個（SC804，SC825，SC842，SC852，SC885）、中生植物のイネ科の穎・胚乳が 1 個（SC885）、胚乳が 2 個（SC870）、ヒゴクサ類の果実が 1 個（SC885）、ギシギシ属の果実が 1 個（SC804）、タデ属の果実が 1 個（SC885）確認された。

・炭化種実試料

全 13 試料を通じて、木本 4 分類群（オニグルミ、トチノキ、ブドウ属、クサギ）35 個、草本 3 分類群（ヤナギタデ近似種、ソバ、ヒシ属）17 個の、計 52 個が同定された。この他、双子葉類が 2 個、不明が 4 個確認された。種実以外では、炭化材が 8 個確認された。

木本類は、全て落葉広葉樹で、堅果類のオニグルミの核の完形未満が 1 個（SC842）、破片が 29 個（SC825，SC842，SC859，SC885）、トチノキの子葉の破片が 1 個（SC825）と、林縁種のクサギの核の破片が 1 個（SC859）、ブドウ属の種子が 3 個（SC842，SC879）確認された。草本類は、栽培種のソバの果実が 10 個（SC825）、種子が 1 個（SC825）と、浮葉性水生植物のヒシ属の果実の破片が 1 個（SC825）、湿生植物のヤナギタデ近似種の果実が 5 個（SC825）確認された。ソバとヤナギタデ近似種は、ブロック試料には確認されなかった分類群である。

b　主要分類群の記載

炭化種実の保存状態は、全て炭化しており黒色を呈し、破損や泥の付着等により極めて不良である。各分類群の写真を図版に示し、主な分類群の形態的特徴等を以下に述べる。また、一部の炭化種実の大きさをデジタルノギスで計測した結果を第 14 表に示す。

・オニグルミ（*Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis*（Miyabe et Kudo）Kitamura）クルミ科クルミ属

核は、径 2.5 ～ 3.5cm の広卵体で頂部が尖り、1 本の明瞭な縦の縫合線がある。核は硬く緻密で、表面には維管束の痕跡である縦網状の彫紋があり、ごつごつしている。縫合線に沿って半割した内部に子葉が入る 2 つの大きな窪みと隔壁がある。

出土核は、リス類に囓られた食痕［樽野 2000］の可能性がある資料を 2 個（SC842，SC885）含むが、

大半は破片で、頂部や基部、側面を欠損したものもみられる。クリやトチノキとは異なり、オニグルミの子葉と同定可能な炭化種実が１個も確認されない出土状況を考え合わせると、人為による打撃痕の可能性が高い。

・クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）　ブナ科クリ属

果実・子葉は、完形ならば、径２～4cm、厚さ１～2.5cm の三角状広卵体で、腹面は平らで背面は丸みがある個体が多い。頂部は尖り、基部は切形。果実基部全面を占める着点は別組織で、粗く不規則な粒状紋様がある。果皮外面はやや平滑で微細な縦筋がある。果皮内面には種皮（渋皮）があり、粗い縦筋がある。出土果皮は全て破片で、最大 1.0cm を測る（SC885）。

果実内に１個入る子葉は、硬く緻密で、表面には種皮（渋皮）の圧痕の縦筋が粗く波打つ。２枚からなる子葉の合わせ目の線に沿って割れた半分未満の破片もみられる。子葉合わせ目の表面は平滑で、正中線はやや窪み、頂部には小さな孔（主根）がある。出土子葉は全て破片で、最大 6.6mm を測る（SC866）。

・トチノキ（*Aesculus turbinata* Blume）　トチノキ科トチノキ属

種子は、完形ならば、径 2.5 ～ 3.5cm の偏球体で、表面にはほぼ赤道面を蛇行して一周する曲線を境に、不規則な流理状模様がある光沢の強い黒色の上部と、粗面で光沢のない灰褐色の下部の着点に別れる。種皮は薄く硬く、不規則に割れており、最大 2.0cm を測る（SC885）。種子内に入る子葉は、オニグルミやクリよりも粗面で不規則に割れており、最大 1.3cm を測る（SC825）。

・ムクロジ（*Sapindus mukorossi* Gaertn.）　ムクロジ科ムクロジ属

種子は、完形ならば、径 1.5 ～ 1.7cm の広楕円状球体で、基部は切形で線状の臍があり、臍周辺は肥厚する。種皮は厚く（約 1mm）、表面粗面で断面は柵状。出土種皮は全て破片で、最大 9.6mm を測る（SC804）。

・ヤマブドウ（*Vitis coignetiae Pulliat* ex Planch.）　ブドウ科ブドウ属

SC825 10，11 層から出土した種子は、長さ 4.14mm、幅 2.96mm、厚さ 2.31mm のやや偏平な広倒卵体で、側面観は半広倒卵形を呈する。基部は鋭尖形で、長さ 0.5mm の細く嘴状に尖る核嘴がある。背面正中線は、頂部から 0.5mm に長さ 1.5mm、幅 0.7mm の卵形の合点があり、細く浅い溝に囲まれて合点中央は窪む。腹面正中線は、鈍稜をなし、細い筋が走る。正中線の左右には、長さ 1.5mm、幅 0.5mm の倒皮針形で深く窪む核窪がある。種皮は硬く、表面は粗面。なお、合点の形状が不明瞭な種子をブドウ属としている。

・イネ科（Gramineae）

SC885 から出土した穎・胚乳は、長さ 3.5mm、幅 1.4mm、厚さ 1.6mm の狭卵体で、背面は丸みがあり腹面は平らである。背腹両面基部正中線上には、長さ 1.0mm の胚の窪みがあり、腹面正中縫合線は溝がある。オオムギに似るが小型であることから、イネ科としている。

SC870 から出土した胚乳２個は、長さ 1.0mm、幅 0.9mm、胚長 0.5mm と、長さ 1.0mm、幅 0.6mm、胚長 0.7mm の背面は丸みがあり腹面は平らの狭卵体で、別種と考えられる。後者はヒエに似るが小型であることから、イネ科としている。

・アサ（*Cannabis sativa* L.）　クワ科アサ属

果実は、完形ならば、長さ 4mm、幅 3mm、厚さ 2mm の歪な広倒卵体で、基部は切形で頂部に径 1mm の楕円形の突起がある。果皮表面には葉脈状網目模様があり、断面は柵状を呈す。

SC880 から出土した炭化破片は、縦方向に一周する稜に沿って割れた半分未満で、最大 2.6mm を測る。表面の葉脈状網目模様がみられることから、アサの果実と考えられる。

・ソバ（*Fagopyrum esculentum* Moench）　タデ科ソバ属

果実は、長さ 2.2 ～ 3.1mm、径 1.9 ～ 2.1mm の稜が鋭く尖る三稜状広卵体で、基部に萼がある。稜に沿って割れた破片もみられる。果皮は薄く、表面は粗面で、浅く細い横筋がある。果実内に入る種子は粗面で、子葉の合わせ目が湾曲し、渦を巻いた様にみえる。

・マメ科（Leguminosae）

SC825 から出土した種子は、長さ 5.76mm、幅 3.11mm、厚さ 3.22mm の直方体状楕円体を呈す。腹面の子葉合わせ目上にある幼根はわずかに突出し、隣接する臍は、残存長 2.5mm、幅 0.5mm の長楕円形で端部をわずかに欠損する。臍の形状は、「アズキ型種子」にみられる「厚膜タイプ」［小畑 2008・2011］に該当することから、出土種子をアズキ類としている。種皮は薄く、表面は粗面で焼き崩れている。

・ヒシ属（*Trapa*）　ヒシ科

果実は、完形ならば、長さ 1 ～ 2cm、幅 2 ～ 3cm、厚さ 1cm のやや偏平な倒三角状広卵体で、両肩に各 1 個、長さ 1cm の鋭い長刺がある。頂部の中央には円柱状の子房突起が突出し、その中心に短い刺がある。両肩の刺からは基部まで延びる翼状隆条がある。果皮は木質で表面はやや平滑、内部は粗面である。出土果皮は全て破片で、最大 1.2cm を測る（SC885）。

c　動物遺存体分析

ブロック試料および水洗選別により回収された骨片試料からは、貝類？、軟骨魚綱（エイ類）、硬骨魚綱 9 種類（カタクチイワシ、コイ属、フナ属、アユ属、サケ属、トゲウオ科、アジ類、カマス属？、カレイ科？）、鳥綱、哺乳綱等が確認された（第 16 表）。同定結果を第 11・12・17 ～ 19 表に示す。また、遺構別の出土状況を第 20 表に示す。

・ブロック試料（第 11・12 表）

38 試料を通じて、コイ属の腹椎、フナ属の腹椎、コイ科の第 1/2 椎骨・尾椎・背鰭棘、アユ属の尾椎、アユ属？の尾椎、サケ属の歯牙・椎骨、硬骨魚綱の椎骨・鰭棘等・部位不明破片、哺乳綱の部位不明破片、鳥綱／哺乳綱の部位不明破片、種類・部位不明破片等が検出された。遺構別の出土状況は、SC825 や SC842 等で多く検出され、確認された種類では硬骨魚綱が多く、中でもサケ属が多い。

・骨片試料（第 17 ～ 19 表）

水洗選別により回収された骨片試料（74 試料）からは、エイ類の椎骨、カタクチイワシの第 1 椎骨・腹椎、コイ属の腹椎、フナ属の左方骨・腹椎、フナ属？の腹椎、コイ科の第 1 椎骨・尾椎・背鰭棘、コイ科？の左主鰓蓋骨・下咽頭骨？・第 2 椎骨・腹椎、アユ属の第 1 椎骨・腹椎・尾椎、アユ属？の第 1 椎骨？・腹椎・尾椎、サケ属の歯牙・椎骨、トゲウオ科の鰭棘、アジ類？の尾椎、カマス属？の腹椎・尾椎、カレイ科？の尾椎、魚類の

軟体動物門？　Phylum　Mollusca?
　　貝類？
脊椎動物門　Phylum　Vertebrata
　軟骨魚綱　Class　Chondrichthyes
　　板鰓亜綱　Subclass　Elasmobranchii
　　エイ目　Order Rajiformes
　　エイ類
　硬骨魚綱　Class　Osteichthyse
　　条鰭亜綱　Subclass　Actinopterygii
　　ニシン目　Order　Clupeiformes
　　カタクチイワシ科　Family　Engraulidae
　　カタクチイワシ　*Engraulis japonicus*
　　コイ目　Order　Cypriniformes
　　コイ科　Family　Cyprinidae
　　コイ亜科　Subfamily　Cyprininae
　　コイ属　Genus　*Cyprinus*
　　フナ属　Genus　*Carassius*
　　サケ目　Order　Salmoniformes
　　アユ科　Family　Plecolossidae
　　アユ属　Genus　*Plecoglossus*
　　サケ科　Family　Salmonidae
　　サケ属　Genus　*Oncorhynchus*
　　トゲウオ目　Order　Gasterosteiformes
　　トゲウオ亜目　Suborder　Gasterosteoidei
　　トゲウオ科　Family　Gasterosteidae
　　属種不明
　　スズキ目？　Order　Perciformes?
　　スズキ亜目？　Suborder　Percoidei?
　　アジ科？　Family　Carangidae?
　　アジ類
　　サバ亜目？　Suborder　Scombroidei?
　　カマス科？　Family　Sphyraenidae?
　　カマス属？　Genus　*Sphyraena*?
　　カレイ目？　Order　Pleuronectiformes?
　　カレイ科？　Family　Pleuronectidae?
　　属種不明
　鳥綱　Class　Aves
　　鳥類
　哺乳綱　Class　Mammalia
　　獣類

第 16 表　検出動物分類群一覧

遺構名	枝番	重量（g）	種類	部位	部分	数量	重量（g）	被熱	備考
SC804	1	1	哺乳綱	不明	破片	1		○	No.3954
SC804	2	2	コイ科	尾椎	破片	1		○	
			アユ属	第１椎骨	破片	1		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.23	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	4		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.21	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.03	○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	2		○	
			残渣				0.89	○	
SC804	3	2	残渣				1.58	○	微細
SC817	1	1	コイ科	第１椎骨	破片	1		○	
			アユ属	腹椎	破片	2		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.03	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.05	○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	6		○	
			残渣				0.19	○	
SC817	2	4	コイ科	背鰭棘	破片	2		○	
			コイ科？	腹椎	破片	1		○	
			アユ属	腹椎	破片	1		○	
			アユ属	尾椎	破片	2		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.26	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	8		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.32	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.12	○	
			鳥類	椎骨	破片	1		○	
			鳥類	中節骨	遠位端欠	1		○	
			哺乳綱	不明	破片	3		○	
			残渣				2.41	○	
SC817	3	2	サケ属	椎骨	破片		0.04	○	
			残渣				1.25	○	微細（鰭棘主体）
SC825	1	1	サケ属	歯牙	破片	1		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.07	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	4		○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.07	○	
			哺乳綱	不明	破片	4		○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	3		○	
			残渣				0.20	○	
SC825	2	10	コイ科	第１椎骨	破片	7		○	
			コイ科	尾椎	破片	16		○	
			コイ科	背鰭棘	破片	2		○	
			コイ科？	腹椎	破片	4		○	
			フナ属	腹椎	破片	12		○	
			アユ属	腹椎	破片	2		○	
			アユ属	尾椎	破片	2		○	
			サケ属	歯牙	破片	5		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.46	○	
			アジ類？	尾椎	破片	2		○	
			硬骨魚綱	第１椎骨？	破片	1		○	
			硬骨魚綱	左角骨	破片	1		○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	92		○	
			硬骨魚綱	尾椎	破片	3		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		1.28	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.74	○	
			哺乳綱	不明	破片	1		○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	2		○	
			残渣				6.30	○	
SC825	3	3	コイ科	第１椎骨	破片	2		○	
			コイ科	尾椎	破片	1		○	
			コイ科	背鰭棘	破片	1		○	
			コイ属	腹椎	破片	2		○	
			フナ属	腹椎	破片	2		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.22	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	22		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.26	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.17	○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	6		○	
			残渣				4.12	○	
SC825	4	3	コイ科	尾椎	破片	2		○	
			フナ属	腹椎	破片	1		○	
			アユ属	尾椎	破片	2		○	
			サケ属	歯牙	破片	1		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.06	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	5		○	
			硬骨魚綱	腹椎	破片	1		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.19	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.05	○	
			残渣				1.65	○	

遺構名	枝番	重量（g）	種類	部位	部分	数量	重量（g）	被熱	備考
SC825	5	4	サケ属	歯牙	破片	17		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.48	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	17		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.53	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.29	○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	7		○	
			残渣				1.55	○	
SC825	6	4	コイ科	尾椎	破片	1		○	
			サケ属	歯牙	破片	16		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.32	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	11		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.35	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.11	○	
			哺乳綱	不明	破片	1		○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	3		○	
			残渣				1.71	○	
SC825	7	1	フナ属	腹椎	破片	1		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.02	○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.01	○	
			哺乳綱	不明	破片	2		○	
			残渣				0.05	○	
SC825	8	1	サケ属	椎骨	破片		0.00	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	3		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.10	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.03	○	
			残渣				0.56	○	微細
SC825	9	0.1	コイ科	背鰭棘	破片	1		○	
SC825-P1	10	7	サケ属	歯牙	破片	26		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.99	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	12		○	
			硬骨魚綱	腹椎	破片	1		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.78	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.45	○	
			哺乳綱	不明	破片	2		○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	16		○	
			残渣				3.61	○	
SC825	11	1	哺乳綱	不明	破片	1		○	
SC825	12	1	アユ属	尾椎	破片	2		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.03	○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.15	○	
			哺乳綱	不明	破片	7		○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	9		○	
			残渣				0.12	○	
SC825	13	1	硬骨魚綱	椎骨	破片	1		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.01	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.10	○	
			哺乳綱	不明	破片	1		○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	5		○	
			残渣				0.37	○	
SC825	14	2	コイ科	第１椎骨	破片	1		○	
			コイ科	尾椎	破片	1		○	
			フナ属	腹椎	破片	1		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.05	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	1		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.02	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.11	○	
			鳥類	中節骨	遠位端欠	1		○	
			哺乳綱	不明	破片	1		○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	5		○	
			残渣				0.62	○	
SC825	15	0.1	コイ科	背鰭棘	破片	3		○	
			残渣				0.02	○	
SC825	16	0.1	残渣				0.00	○	
SC825	17	1	サケ属	椎骨	破片		0.04	○	
			残渣				0.11	○	
SC825	18	2	コイ科	第１椎骨	破片	1		○	
			コイ科	尾椎	破片	1		○	
			コイ科	背鰭棘	破片	4		○	
			フナ属	腹椎	破片	1		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.11	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	5		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.26	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.07	○	
			哺乳綱	不明	破片	1		○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	4		○	
			残渣				1.30	○	
SC825	19	0.2	コイ科	背鰭棘	破片	2		○	

第 17 表　骨同定結果（1）

遺構名	枝番	重量（g）	種類	部位	部分	数量	重量（g）	被熱	備考
SC825	20	2	コイ科	尾椎	破片	1		○	
			コイ科	背鰭棘	破片	1		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.13	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	2		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.24	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.01	○	
			残渣				0.66	○	
SC825	21	0.1	コイ科	背鰭棘	破片	1		○	
SC825	22	2	コイ科	背鰭棘	破片	2		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.16	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	1		○	
			哺乳綱	不明	破片	3		○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	38		○	
			残渣				0.27	○	
SC825	23	4	コイ科	尾椎	破片	1		○	
			コイ科	背鰭棘	破片	2		○	
			サケ属	歯牙	破片	9		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.36	○	
			トゲウオ科	鰭棘	破片	6		○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	10		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.72	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.27	○	
			哺乳綱	不明	破片	1		○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	7		○	
			残渣				2.23	○	
SC825	24	1	硬骨魚綱	椎骨	破片	1		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.00	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.05	○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	4		○	
			残渣				0.01	○	
SC825	25	0.3	サケ属	椎骨	破片		0.03	○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	3		○	
			残渣				0.01	○	
SC825	26	0.5	サケ属	椎骨	破片		0.03	○	
			哺乳綱	不明	破片	1		○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	3		○	
			残渣				0.07	○	
SC825	27	4	サケ属	歯牙	破片	11		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.35	○	
			硬骨魚綱	腹椎	破片	1		○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	8		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.38	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.12	○	
			哺乳綱	不明	破片	2		○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	4		○	
			残渣				1.63	○	
SC825	28	3	コイ科	尾椎	破片	1		○	
			サケ属	歯牙	破片	12		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.42	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	12		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.37	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.22	○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	5		○	
			残渣				1.23	○	
SC825	29	2	サケ属	歯牙	破片	17		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.26	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	7		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.29	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.08	○	
			残渣				1.16	○	
SC825-P2	30	2	サケ属	歯牙	破片	11		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.14	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	9		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.15	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.15	○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	1		○	
			残渣				0.41	○	
SC825-P1	31	2	サケ属	歯牙	破片	6		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.18	○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.01	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.01	○	
			哺乳綱	不明	破片	2		○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	21		○	
			残渣				0.34	○	
SC825-P2	32	1	哺乳綱	不明	破片	2		○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	4		○	
			残渣				0.06	○	
SC825	33	1	サケ属	椎骨	破片		0.01	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.03	○	
			哺乳綱	不明	破片	1		○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	5		○	
			残渣				0.11	○	

遺構名	枝番	重量（g）	種類	部位	部分	数量	重量（g）	被熱	備考
SC825	34	2	サケ属	歯牙	破片	2		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.10	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	3		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.12	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.06	○	
			残渣				0.62	○	
SC842	1	3	コイ科	背鰭棘	破片	2		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.11	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	6		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.26	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.06	○	
			哺乳綱	不明	破片	3		○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	2		○	
			残渣				1.09	○	
SC842	2	8	残渣				7.11	○	微細（鰭棘主体）
SC842	3	1	サケ属	椎骨	破片		0.03	○	
			残渣				0.34	○	
SC842	4	3	コイ科	尾椎	破片	3		○	
			コイ科	背鰭棘	破片	12		○	
			フナ属	腹椎	破片	3		○	
			フナ属？	腹椎	破片	1		○	
			アユ属	腹椎	破片	1		○	
			アユ属	尾椎	破片	1		○	
			サケ属	歯牙	破片	4		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.23	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	24		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.51	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.13	○	
			残渣				1.81	○	
SC842	5	2	コイ科	背鰭棘	破片	1		○	
			コイ科？	腹椎	破片	1		○	
			アユ属？	尾椎	破片	1		○	
			サケ属	歯牙	破片	2		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.06	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	9		○	
			硬骨魚綱	尾椎	破片	1		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.16	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.14	○	
			残渣				0.62	○	
SC842	6	0.5	サケ属	椎骨	破片		0.07	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片		0.00	○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.01	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.05	○	
			残渣				0.03	○	
SC842	7	4	コイ科	背鰭棘	破片	4		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.21	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	22		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.58	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.14	○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	1		○	
			残渣				2.81	○	
SC842	8	0.1	残渣				0.00	○	
SC842	9	1	コイ科	背鰭棘	破片	4		○	
			コイ科？	下咽頭骨？	破片	1		○	
			残渣				0.00	○	
SC842	10	1	サケ属	椎骨	破片		0.02	○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.06	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.04	○	
			残渣				0.09	○	
SC859	1	16	コイ科	尾椎	破片	5		○	
			コイ科	背鰭棘	破片	2		○	
			フナ属	腹椎	破片	1		○	
			アユ属	腹椎	破片	2		○	
			アユ属	尾椎	破片	6		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.59	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	25		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.58	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.96	○	
			哺乳綱	中手骨／中足骨	遠位端破片	1		○	
			哺乳綱	不明	破片		2.40	○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	13		○	
			残渣				5.43	○	
			礫等				3.84		

第 18 表　骨同定結果（2）

遺構名	枝番	重量（g）	種類	部位	部分	数量	重量（g）	被熱	備考
SC859	2	29	カタクチイワシ	腹椎	破片	1		○	
			コイ科	尾椎	破片	14		○	
			コイ科	背鰭棘	破片	2		○	
			コイ科？	左主鰓蓋骨	破片	1		○	
			フナ属	腹椎	破片	3		○	
			アユ属	腹椎	破片	5		○	
			アユ属	尾椎	破片	15		○	
			アユ属？	第１椎骨？	破片	1		○	
			サケ属	歯牙	破片	2		○	
			サケ属	椎骨	破片		2.05	○	
			カマス属？	腹椎	破片	1		○	
			カレイ科？	尾椎	破片	2		○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	32		○	
			硬骨魚綱	腹椎	破片	1		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.78	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.59	○	
			哺乳綱	不明	破片	1		○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	3		○	
			残渣				25.77	○	
SC859	3	0.1	サケ属	椎骨	破片		0.04	○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.01	○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	4		○	
			残渣				0.03	○	
			礫等				0.05		
SC859	4	2	コイ科	背鰭棘	破片	2		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.11	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	5		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.20	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.10	○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	2		○	
			残渣				0.77	○	
			礫等				0.04		
SC859	5	1	アユ属	腹椎	破片	3		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.01	○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.07	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.02	○	
			残渣				0.08	○	
			礫等				0.04		
SC859	6	1	コイ科	背鰭棘	破片	21		○	
			サケ属	歯牙	破片	1		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.01	○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.03	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.03	○	
			残渣				0.00	○	
SC859	7	8	サケ属	椎骨	破片		0.02	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	2		○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.03	○	
			残渣				6.55	○	微細（鰭棘主体）
SC859	8	6	残渣				4.80	○	
SC866	1	3	エイ類	椎骨	破片	1		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.11	○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.00	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.05	○	
			哺乳綱	中手骨／中足骨？	遠位端	1		○	
			哺乳綱	不明	破片	2		○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	11		○	
			残渣				1.35	○	
SC866	2	12	カタクチイワシ	第１椎骨	破片	1		○	
			カタクチイワシ	腹椎	破片	7		○	
			コイ科？	腹椎	破片	1		○	
			コイ科	尾椎	破片	4		○	
			コイ科	背鰭棘	破片	4		○	
			コイ科？	第２椎骨？	破片	1		○	
			フナ属	左方骨	破片	1		○	
			フナ属	腹椎	破片	1		○	
			アユ属	尾椎	破片	1		○	
			サケ属	歯牙	破片	1		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.32	○	
			トゲウオ科	鰭棘	破片	2		○	
			カマス属？	腹椎	破片	16		○	
			カマス属？	尾椎	破片	1		○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	30		○	
			硬骨魚綱	腹椎	破片	1		○	
			硬骨魚綱	尾椎	破片	2		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.58	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.19	○	
			鳥類	指骨	破片	3		○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	2		○	
			残渣				11.93	○	

遺構名	枝番	重量（g）	種類	部位	部分	数量	重量（g）	被熱	備考
SC866	3	7	残渣				5.86	○	微細
SC879	1	3	コイ科	背鰭棘	破片	1		○	
			サケ属	歯牙	破片	2		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.13	○	
			カマス属？	腹椎	破片	1		○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	1		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.13	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.15	○	
			哺乳綱	不明	破片	7		○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	6		○	
			残渣				2.66	○	
SC879	2	14	エイ類	椎骨	破片	1		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.58	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	2		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.22	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.09	○	
			残渣				9.91	○	
SC879	3	2	サケ属	歯牙	破片	1		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.02	○	
			トゲウオ科	鰭棘	破片	1		○	
			カマス属？	腹椎	破片	1		○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	4		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.13	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.06	○	
			鳥類	指骨	破片	1		○	
			残渣				1.07	○	
SC885	1	2	サケ属	椎骨	破片		0.09	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	1		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.06	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.02	○	
			残渣				0.70	○	
SC885	2	2	サケ属	椎骨	破片		0.04	○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.04	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.02	○	
			残渣				0.69	○	
SC914	1	2	残渣				1.40	○	
SC914	2	1	サケ属	椎骨	破片		0.02	○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.00	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.03	○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	13		○	
			残渣				0.36	○	
SC914	3	6	コイ科	尾椎	破片	1		○	
			フナ属	腹椎	破片	1		○	
			アユ属	腹椎	破片	1		○	
			アユ属	尾椎	破片	3		○	
			サケ属	歯牙	破片	4		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.47	○	
			トゲウオ科	鰭棘	破片	1		○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	6		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.30	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.24	○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	4		○	
			残渣				4.40	○	
SI860	1	3	サケ属	歯牙	破片	1		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.19	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	2		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.10	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.10	○	
			鳥綱／哺乳綱	不明	破片	4		○	
			残渣				2.10	○	
SI860	2	1	サケ属	歯牙	破片	16+		○	
P855	1	1	サケ属	椎骨	破片		0.02	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	2		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.05	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.02	○	
			残渣				0.30	○	
P855	2	3	エイ類	椎骨	ほぼ完存	1		○	
			コイ科	背鰭棘	破片	2		○	
			アユ属	尾椎	破片	1		○	
			アユ属	第１椎骨	破片	1		○	
			アユ属？	腹椎	破片	1		○	
			サケ属	椎骨	破片		0.16	○	
			硬骨魚綱	椎骨	破片	12		○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.24	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.10	○	
			残渣				1.93	○	
P855	3	2	サケ属	椎骨	破片		0.01	○	
			硬骨魚綱	鰭棘等	破片		0.05	○	
			硬骨魚綱	不明	破片		0.00	○	
			残渣				0.74	○	微細（鰭棘主体）

第 19 表　骨同定結果（3）

		SC801	SC804	SC809	SC817	SC825	SC842	SC850	SC859	SC866	SC870	SC879	SC880	SC885	SC914	SI860	P855
貝類？	破片						1										
エイ類	椎骨									1		1					1
カタクチイワシ	第１椎骨									1							
	腹椎								1	7							
コイ属	腹椎					4											
フナ属	左方骨									1							
	腹椎			1		20	3		4	1					1		
フナ属？	腹椎						1										
コイ科	第１椎骨				1	12											
	尾椎		1			30	4		19	4					1		
	背鰭棘		1		2	27	27		27	4		1					2
コイ科？	左主鰓蓋骨								1								
	下咽頭骨？						1										
	第２椎骨									1							
	腹椎				1	4	1			1							
アユ属	第１椎骨		1														1
	腹椎				3	2	1		10						1		
	尾椎		1		2	6	1		21	1					3		1
アユ属？	第１椎骨？								1								
	腹椎																1
	尾椎						1			1							
サケ属	歯牙		2			136	8		3	5		3			4	17＋	
	椎骨	0.00 g	0.27 g		0.33 g	5.18 g	0.91 g		2.83 g	0.53 g		0.73 g		0.13 g	0.49 g	0.19 g	0.23 g
トゲウオ科	鰭棘					6				2		1			1		
アジ類？	尾椎					2											
カマス属？	腹椎								1	16		2					
	尾椎									1							
カレイ科？	尾椎								2								
硬骨魚綱	左角骨					1											
	第１椎骨？					1											
	腹椎					3			1	1							
	尾椎					3	1			2							
	椎骨	1	15		8	235	81		64	32		7		1	6	2	21
	鰭棘等	0.02 g	0.35 g	0.01 g	0.33 g	6.58 g	2.09 g		1.67 g	0.73 g	0.01 g	0.48 g		0.12 g	0.30 g	0.10 g	0.52 g
	不明	0.01 g	0.10 g	0.03 g	0.17 g	3.35 g	0.66 g		1.73 g	0.31 g	0.00 g	0.30 g		0.04 g	0.27 g	0.10 g	0.22 g
鳥綱	椎骨				1												
	中節骨				1	1											
	指骨									3		1					
哺乳綱	中手骨／中足骨								1								
	中手骨／中足骨？									1							
	不明		1		3	37	6		1＋	2	1	7					
鳥綱／哺乳綱	不明		2		6	161	14		22	15		6			17	4	
骨？	不明		1														
残渣	不明	0.00 g	2.66 g		3.86 g	31.88 g	14.66 g	0.00 g	47.40 g	19.58 g	0.01 g	13.64 g	0.01 g	1.42 g	6.16 g	2.10 g	3.09 g

＊「0.00g」は、0.00g 未満を示す。

第 20 表　遺構別・部位別数量表

左角骨・第１椎骨？・腹椎・尾椎・椎骨・鰭棘等・部位不明、鳥類の椎骨・中節骨・指骨、獣類の中手骨／中足骨・中手骨／中足骨？・部位不明、鳥類／獣類の部位不明、残渣等が検出された。

遺構別の出土状況では SC825 や SC859 が多く、SC842、SC866、SC879 等がこれに次ぐ。確認された種類は、全体的に硬骨魚綱を中心とするが、鳥綱や哺乳綱も稀に認められる。なお、魚類では、コイ属やフナ属等を含むコイ科、アユ属、サケ属等が多いが、エイ類、カタクチイワシ、アジ類？、カマス属？、カレイ科？等の海産種とみられる魚骨も少量検出される。

D　考　　察

1）植　物　利　用

埋設土器内や焼土・炭化物集中等から出土した炭化種実には、木本 10 分類群（オニグルミ、クリ、アカメガシワ、サンショウ、トチノキ、ムクロジ、ヤマブドウ、ブドウ属、クサギ、ニワトコ）、草本 9 分類群（イネ科、ヒゴクサ類、アサ？、ギシギシ属、ヤナギタデ近似種、タデ属、ソバ、マメ科（アズキ類）、ヒシ属）が認められた。また、出土炭化種実は、トチノキ、オニグルミ、クリなどの堅果類を主体とすることが明らかとなった。

出土炭化種実のうち木本類は、全て落葉広葉樹から構成される。木本種実群を特徴付ける堅果類のうち、オニグルミやトチノキは川沿いなどの湿潤な肥沃地に生育する河畔林要素の高木であり、クリは丘陵や山

地に生育する二次林要素高木である。この他、ムクロジは、新潟県以南［清水 1989］の暖地に広く分布する高木である。小高木～高木のアカメガシワや、低木のサンショウ、クサギ、ニワトコ、藤本のヤマブドウ、ブドウ属は、河畔や林縁等の明るく開けた場所を好んで生育する陽樹である。これらの樹種は、現在の本地域にも分布しており、本遺跡の立地等を考慮すると、当時の阿賀野川をはじめとする河川沿いに分布した落葉広葉樹林内に生育していたと考えられる。

最も多く確認されたトチノキは、あく抜きすることで子葉が食用可能となり、次いで多く確認されたオニグルミやクリは、あく抜きせずに子葉が食用可能である。これらの堅果類は、長期保存可能で収量も多いことから、古くから利用され、遺跡出土例も多い［渡辺 1975 など］。今回検出された堅果類は、食用できない核や果皮、種皮の破片が多く、食用できる子葉はトチノキが少量、クリが微量確認されたのみであり、オニグルミには人間が叩き割った打撃痕の可能性も確認された。このような出土状況から、出土した堅果類の破片は、可食部の子葉を取り出した後の状況を示していると考えられる。さらに炭化している状態から、食物残滓の処理後の状況、あるいは燃料材として利用された痕跡の可能性がある。また、上述したように遺構によって優占する堅果類の種類が異なるという特徴が認められた。堅果類の出土破片数に基づく相対比（第 44 図）でみると、SC809、SC815、SC817、SC850、SC871、SC880、SC885、SC914、埋設 908 はトチノキ主体、SC800、SC801、SC804、SC842、SC859、埋設 928、埋設 933 はオニグルミ主体、SC866、SC867、SC868、SC884 はクリ主体である。このような利用植物の出現傾向の差異については、野地遺跡（旧中条町）における出土種実の調査結果においても確認されており、利用するまでの行程により廃棄場所が異なっていた可能性が考えられている［吉川 2009］。今回の分析において認められた特徴についても同様の状況が推定されるものの、その詳細については各遺構の時期や覆土の形成状況（埋積過程）等の調査所見と合せた検討が望まれる。

なお、今回の分析に供されたブロック試料のうち、大型の炭化材が認められた SC825 10･11 層（No.416）や SC842 3 層（No.381）からは、それぞれ針葉樹のスギ、落葉広葉樹のクリが確認された。スギは、谷沿いや扇状地扇端部の湧水点周辺などの水気の多い土地に生育する常緑高木であり、木材は木理が通直で割裂性が高く、加工は容易である。クリは、上述したように二次林等に生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度と耐朽性が高い。新潟県内における縄文時代晩期の調査事例では、スギは青田遺跡（旧加治川村）の割材等に、クリは青田遺跡の柱根や寺前遺跡（旧出雲崎町）の木組遺構の構築材等に認められている。今回の出土炭化材については、本来の形状や用途の推定は難しいものの、残存状況から板目板状を呈する資料であることが確認でき、とくにクリについては果実の利用だけではなく木材の利用も推定された。

その他の利用可能な木本種実では、サンショウは種子が食用や薬用、香辛料等に利用可能で、ムクロジは子葉が油脂を多く含むため食用とされる。ヤマブドウ、ブドウ属は果実が生食可能である。これらの出土種実には明瞭な利用痕跡は確認できないものの、当時利用されていた可能性が考えられる。

一方、草本類では、栽培種のアサ（？）やソバ、栽培の可能性があるアズキ類の特徴をもつマメ科が確認された。SC825 から確認されたアズキ類は、近年の土器圧痕調査や種実遺体の研究で、縄文時代における栽培の可能性が検討されている［小畑 2008・2011、西本ほか 2012 など］。SC880 から確認されたアサ（？）、SC825 から確認されたソバは、栽培のために持ち込まれた渡来種とされ、アサは縄文時代早期からの出土例［小林ほか 2008、工藤ほか 2009、小畑 2011 など］がある。一方、ソバは、縄文時代からの出土例は殆どなく［小畑 2011］、花粉が確認される程度［山田 1992］である。

また、栽培種とその可能性のある分類群を除いた草本類では、やや富栄養化した水域に生育する一年生

浮葉植物のヒシ属や、湿生植物のヤナギタデ近似種、やや乾いた場所にも生育可能な中生植物のイネ科、ヒゴクサ類、ギシギシ属、タデ属が確認された。これらは、当時の調査区周辺域の草地環境に生育していたと考えられ、とくに付近にはヒシ属が生育可能な水深 2m 以内のやや富栄養化した水域の存在したことも示唆される。なお、ヒシ属は、果実内部の種子が食用可能であり、出土果皮は破片の状態で出土していることから、当時利用された可能性も考えられる。

2）動　物　利　用

ブロック試料および水洗選別により回収された試料に認められた骨片（骨片試料）は、いずれも焼けており、微細な破片であった。上述した炭化種実と同様に焼土・炭化物集中等の遺構から出土していることや上述した骨片の状態などから、食料等として利用された後、焼かれて廃棄されたものと推定される。

出土骨は魚類を主体としており、コイ属やフナ属等を含むコイ科、アユ属、サケ属等を中心とする組成が確認された。コイ科は池沼や湖等の淡水域を中心に、またアユ属、サケ属、トゲウオ科は河川を遡上する種類である。この他、獣類については、SC801・SC809・SC850・SC880・SC885・SC914・SI860・P855 を除く試料から検出されたものの、イノシシやニホンジカなど明らかに大型獣類に由来する骨片は認められなかった。以上の状況から、本遺跡では付近を流れる河川や湖沼等における漁労活動が主体であったと推定され、鳥類や獣類も僅かであるが狩猟対象となっていた可能性がある。さらに、SC825・SC859・SC866・SC879・P855 等では、海産種の可能性がある魚類も検出されていることから、沿岸域での漁労活動あるいは間接的にこれらの魚類を入手した可能性が想定される。

なお、新潟県内の縄文時代晩期の遺跡における出土骨の検出状況と比較すると、青田遺跡は本遺跡と同様にコイ科やサケ類が多く、シカやイノシシが少ないという傾向が明らかとされている［西本・小林 2004］。一方、野地遺跡では、サケ科、コイ科、アユ等の他にイノシシやシカ等の哺乳類、ニシン科・キス属・タイ科・サバ属・ヒラメ科等の海産魚類などが確認されており［樋泉 2009］、種類構成が豊富であること、とくにシカ・イノシシの検出状況が本遺跡や青田遺跡と比較して多いという特徴が窺える。このように遺跡による出土骨の検出状況の違いは、狩猟・漁猟等の活動の場となった周辺環境や遺跡の性格等を反映している可能性があり、さらに今後の資料の蓄積による検討が期待される。

引用文献

小林謙一，2008，縄文土器の年代（東日本）．小林達雄先生古希記念企画　総覧　縄文土器．株式会社アム・プロモーション，896-903.

小林謙一，2009，近畿地方以東の地域への拡散．西本豊弘編　弥生農耕のはじまりとその年代，新弥生時代のはじまり　第 4 巻，55-82.

小林真生子・百原　新・沖津　進・柳澤清一・岡本東三，2008，千葉県沖ノ島遺跡から出土した縄文時代早期のアサ果実．植生史研究第 16 巻第 1 号，11-18.

小林達雄編，2008，小林達雄先生古希記念企画　総覧　縄文土器．株式会社アム・プロモーション，1322p.

工藤雄一郎・小林真生子・百原　新・能城修一・中村俊夫・沖津　進・柳澤清一・岡本東三，2009，千葉　県沖ノ島遺跡から出土した縄文時代早期のアサ果実の 14C 年代．植生史研究第 17 巻第 1 号，27-31.

石川茂雄，1994，原色日本植物種子写真図鑑．石川茂雄図鑑刊行委員会，328p.

中山至大・井之口希秀・南谷忠志，2000，日本植物種子図鑑，東北大学出版会，642p.

西本豊弘・小林園子，2004，青田遺跡出土の動物遺体．新潟県埋蔵文化財調査報告書第 133 集　日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ　青田遺跡　関連諸科学・写真図版編，新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団，91-96.

西本豊弘・住田雅和・竜子正彦・高橋　潔・近藤奈央・吉崎　伸，2012，縄文時代のアズキについて－京都市上里遺跡出土のアズキ類の検討－．動物考古学，第 29 号，45-53.

小畑弘巳，2008，マメ科種子同定法.「極東先史古代の雑穀 3」，日本学術振興会平成 16 ～ 19 年度科学研究費補助金（基盤 B-2）（課題番号 16320110）「雑穀資料からみた極東地域における農耕受容と拡散過程の実証的研究」研究成果報告書，小畑弘巳編，熊本大学埋蔵文化財調査室，225-252.

小畑弘己，2011，東北アジア古民族植物学と縄文農耕．同成社，309p.

吉崎昌一，1992，古代雑穀の検出．月刊考古学ジャーナル，No.355，2-14.

清水建美，1989，ムクロジ科．日本の野生植物　木本Ⅱ，佐竹義輔・原　寛・亘野俊次・冨成忠夫編，平凡社，19-21，PL.28-30.

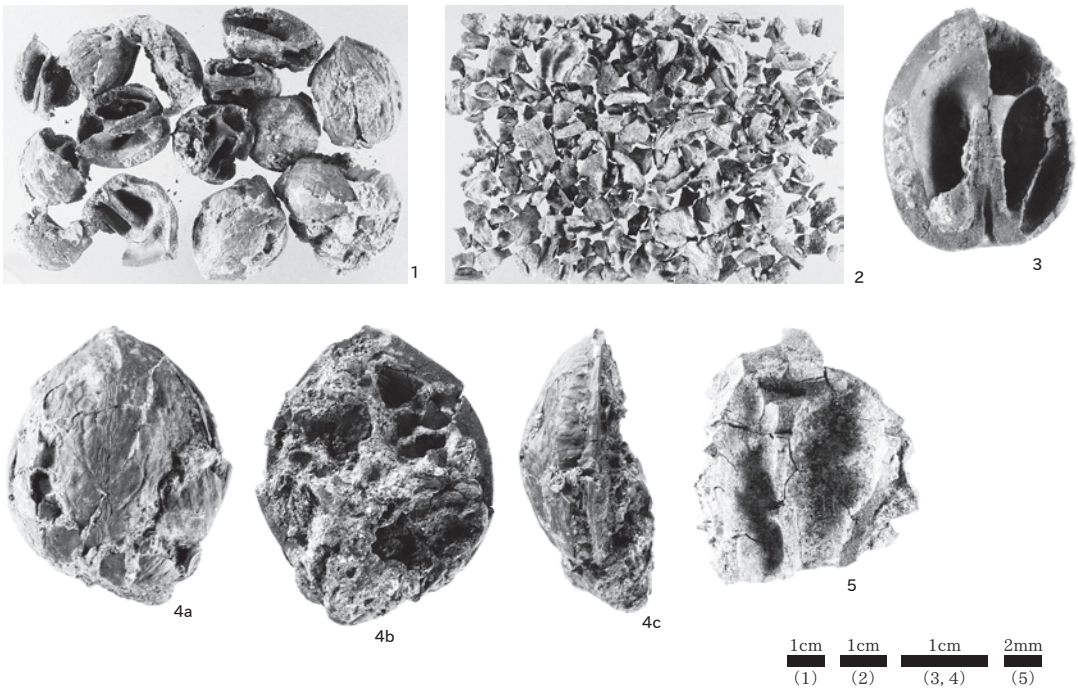
樽野博幸，2000，リスが食べたクルミの殻．Nature Study，46 巻 12 号，大阪市立自然科学博物館編，大阪市立自然科学博物館友の会，1-2.

樋泉岳二，2009，動物遺体．新潟県埋蔵文化財調査報告書第 196 集　日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書ＸＸⅡ　野地遺跡，新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団，169-179.

渡辺　誠，1975，縄文時代の植物食．雄山閣出版，187p.

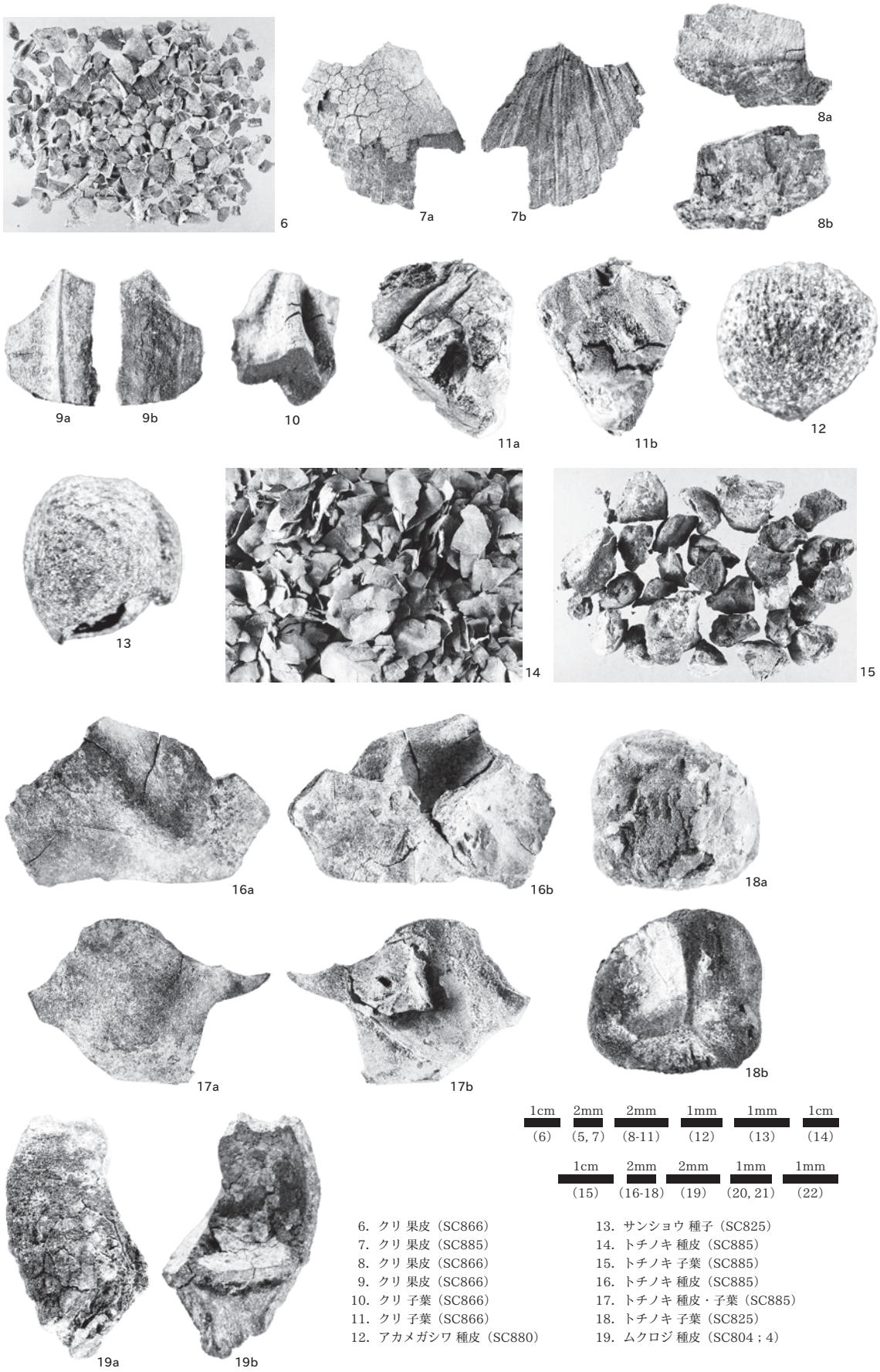
山田悟郎，1992，古代のソバ．考古学ジャーナル，355，ニューサイエンス社，23-28.

吉川順子，2009，4 植物学的分析 A　出土種実による植物利用解析．新潟県埋蔵文化財調査報告書第 196 集　日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XXXⅡ　野地遺跡，新潟県教育委員会･財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団，136-152.



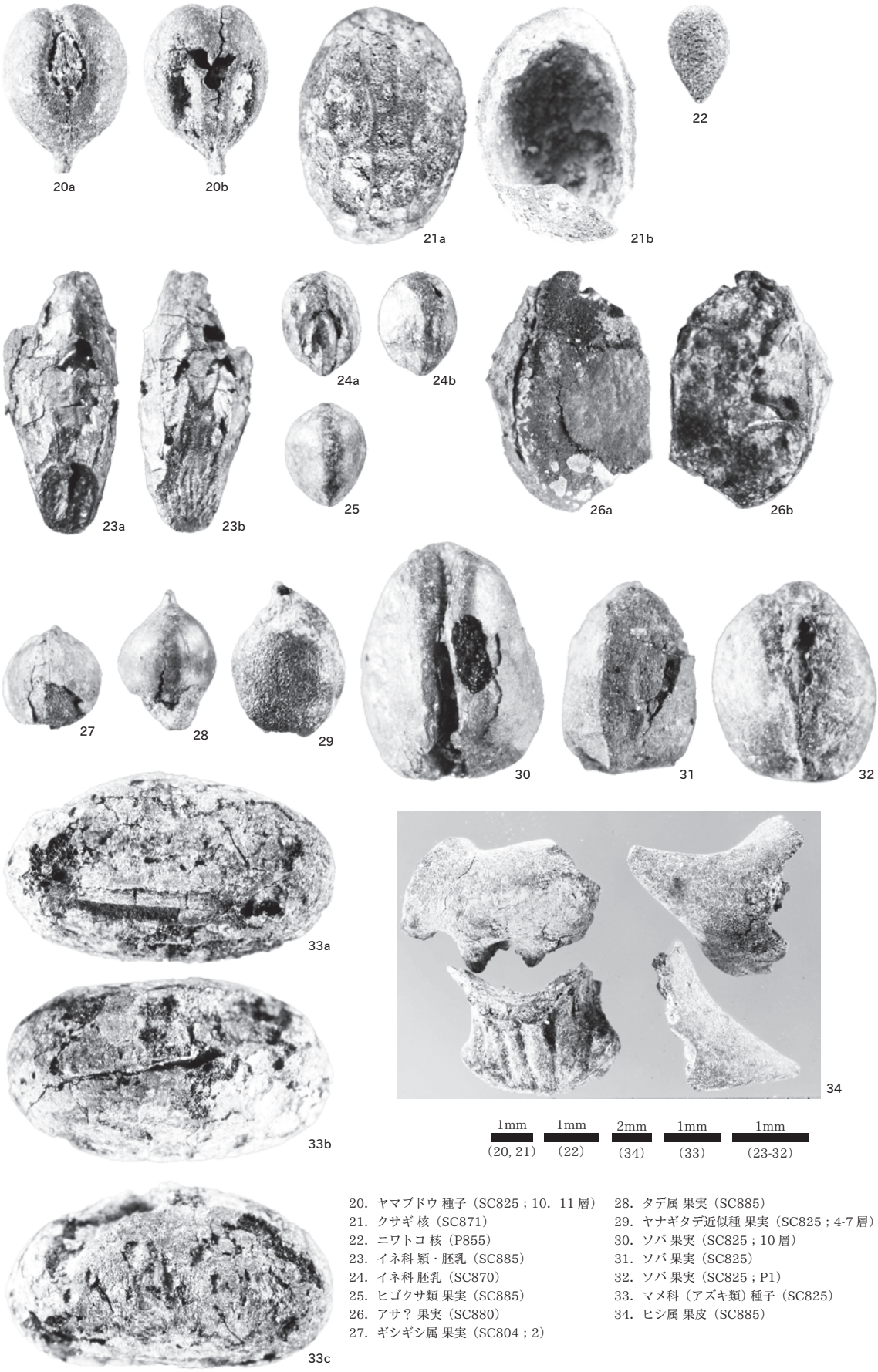
1. オニグルミ 核（SC842；5 層）
2. オニグルミ 核（SC804；3）
3. オニグルミ 核（頂部 - 側部欠損）（SC842；5 層）
4. オニグルミ 核（縫合線残存）（SC842；5 層）
5. オニグルミ 核（SC804；3）

第 45 図　炭化種実（1）



6. クリ 果皮（SC866）
7. クリ 果皮（SC885）
8. クリ 果皮（SC866）
9. クリ 果皮（SC866）
10. クリ 子葉（SC866）
11. クリ 子葉（SC866）
12. アカメガシワ 種皮（SC880）
13. サンショウ 種子（SC825）
14. トチノキ 種皮（SC885）
15. トチノキ 子葉（SC885）
16. トチノキ 種皮（SC885）
17. トチノキ 種皮・子葉（SC885）
18. トチノキ 子葉（SC825）
19. ムクロジ 種皮（SC804；4）

第 46 図　炭化種実（2）



20. ヤマブドウ 種子（SC825；10. 11 層）
21. クサギ 核（SC871）
22. ニワトコ 核（P855）
23. イネ科 穎・胚乳（SC885）
24. イネ科 胚乳（SC870）
25. ヒゴクサ類 果実（SC885）
26. アサ？ 果実（SC880）
27. ギシギシ属 果実（SC804；2）
28. タデ属 果実（SC885）
29. ヤナギタデ近似種 果実（SC825；4-7 層）
30. ソバ 果実（SC825；10 層）
31. ソバ 果実（SC825）
32. ソバ 果実（SC825；P1）
33. マメ科（アズキ類）種子（SC825）
34. ヒシ属 果皮（SC885）

第 47 図　炭化種実（3）

5mm　(1-32)　　1cm　(33-35)

1. 貝類？（SC842；土サンプル 24）
2. エイ類 椎骨（P855；No.2）
3. エイ類 椎骨（SC879；No.2）
4. カタクチイワシ 第 1 椎骨椎骨（SC866；No.2）
5. カタクチイワシ 腹椎（SC866；No.2）
6. コイ属 腹椎（SC825；No.3）
7. フナ属 左方骨（SC866；No.2）
8. フナ属 腹椎（SC866；No.2）
9. コイ科 第 1 椎骨（SC817；No.1）
10. コイ科 第 1 椎骨（SC825；No.14）
11. コイ科 尾椎（SC859；No.1）
12. コイ科 背鰭棘（SC842 2-4 層；No.9）
13. コイ科？ 左主鰓蓋骨（SC859；No.2）
14. コイ科？ 下咽頭骨？（SC842 2-4 層；No.9）
15. アユ 第 1 椎骨（P855；No.2）
16. アユ 第 1 椎骨（SC804；No.2）
17. アユ 腹椎（SC817；No.1）
18. アユ 尾椎（SC825 8・9 層；No.12）
19. サケ属 歯牙（SC825 P1；No.10）
20. サケ属 椎骨（SC817；No.1）
21. トゲウオ科 鰭棘（SC866；No.2）
22. トゲウオ科 鰭棘（SC914；No.3）
23. アジ類？ 尾椎（SC825；No.2）
24. カマス属？ 腹椎（SC866；No.2）
25. カマス属？ 尾椎（SC866；No.2）
26. カレイ科？ 尾椎（SC859；No.2）
27. 硬骨魚綱 左角骨（SC825；No.2）
28. 硬骨魚綱 第 1 椎骨？（SC825；No.2）
29. 鳥類 椎骨（SC817；No.2）
30. 鳥類 中節骨（SC817；No.2）
31. 鳥類 中節骨（SC825；No.14）
32. 鳥類 指骨（SC879；No.3）
33. 獣類 中手骨 / 中足骨（SC859；No.1）
34. 獣類 中手骨 / 中足骨？（SC866；No.1）
35. 獣類 部位不明破片（SC804No.3954；No.1）

第 48 図　出土骨貝類

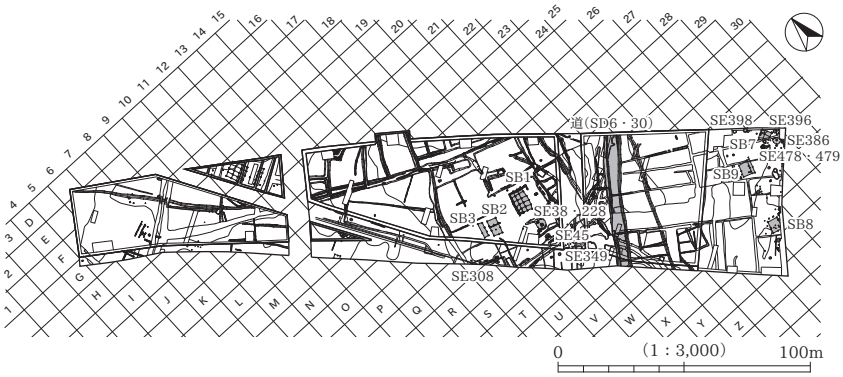
第Ⅶ章　調査のまとめ

1　上　　層（中世）

A　集落の構造

上層の遺構は、2区南東側と4区南東側の大きく2か所に分布域を持つ。2区の遺構は、2012年度の調査で検出した集落の一部と見られ、掘立柱建物・井戸・土坑・溝などがある。また、集落の東側には北東－南西方向に延びる道が存在する。4区で検出した遺構には、掘立柱建物・井戸・土坑などがあり、これらは近接して存在し、集落を形成する（第49図）。また、遺構検出状況から、2区は集落の北側縁辺部、4区は集落の西側縁辺部にあたるものと推定される。掘立柱建物は、2区SB1～3（2012年度調査）が東偏17°～20°、4区SB8･9が東偏15°･20°を測り、長軸方向が概ね一致する。遺物は2区のSE45（2012年度調査）から珠洲焼Ⅳ期の片口鉢・甕、4区のSE386から珠洲Ⅳ期の片口鉢（図版55-8）、SE479からは珠洲Ⅳ期の片口鉢（図版55-10）・甕（図版55-11）が出土した。

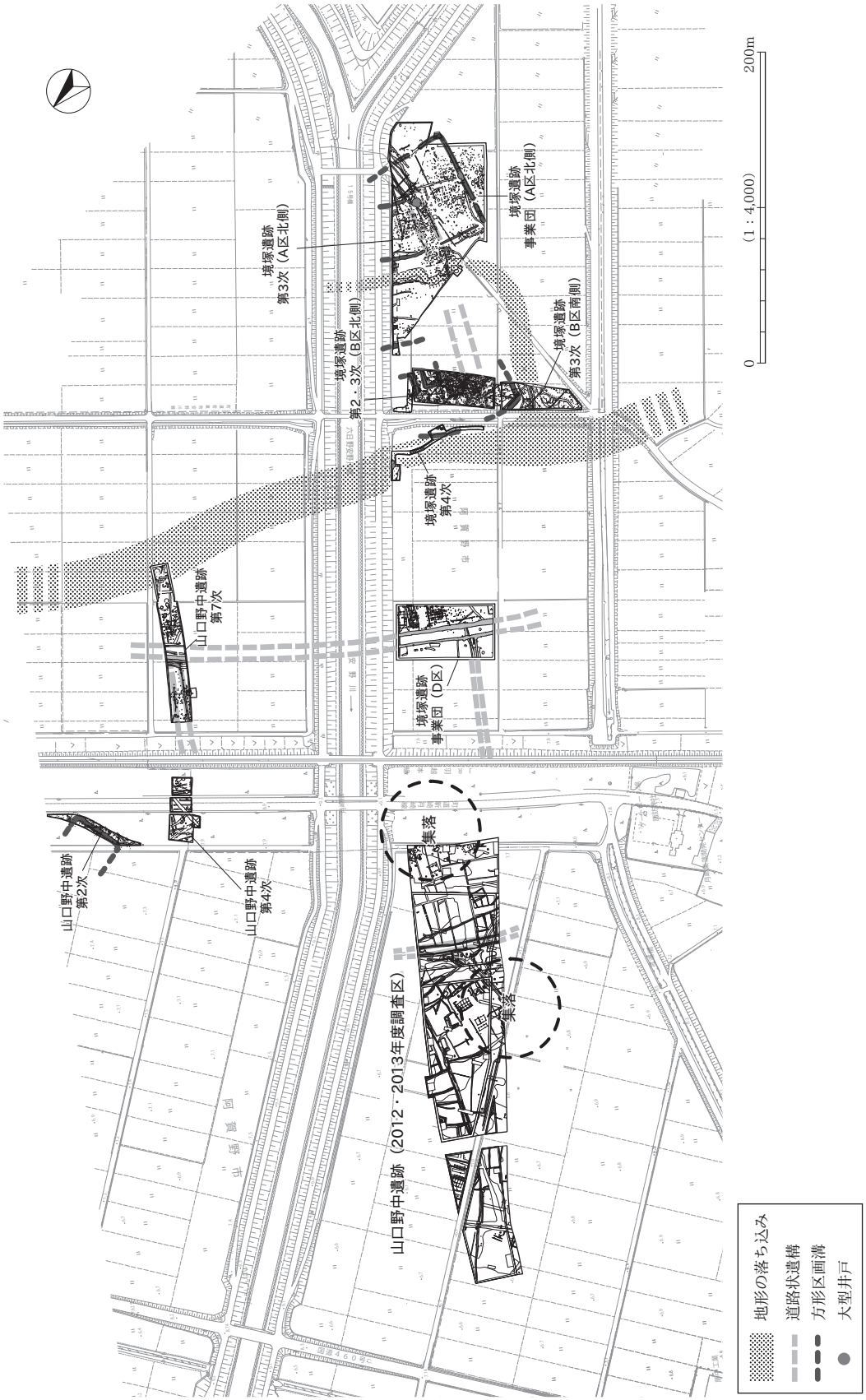
遺構・遺物の検出状況から、2区と4区の集落はほぼ同時期に機能していた可能性が考えられ、集落は13世紀後半～14世紀前半が主体であると推定される。



第49図　上層の集落

B　周辺遺跡との関係

当遺跡の周辺には、南東側に境塚遺跡［荒川ほか2012、古澤ほか2011b］、北東側には阿賀野市教育委員会が調査を継続している山口野中遺跡第1～10次調査区［古澤前掲］が隣接する（第50図）。境塚遺跡は、大規模な方形区画溝と幹線道路を備えた拠点的な町場と考えられている［荒川前掲、古澤前掲］。当遺跡は、出土遺物から境塚遺跡とほぼ同時期に機能していたことが考えられ、遺構・遺物の内容から拠点集落の周辺に存在する集落と捉えられる［村上ほか2013］。今年度の調査では、2区の集落から約70m東側の地点で新たに集落を検出した。これらの集落は、境塚遺跡の幹線道路より分岐する枝道（道2：SD2332・2334）の延長に位置することから、拠点集落と陸上交通により結びついていた可能性が推定される。拠点集落と周辺集落を含めた広域的な遺跡の構造、当遺跡に見られる周辺集落の性格などについては、今後の調査の進展により明らかになるものと考える。



第 50 図　周辺の遺跡全体図
〔古澤 2011b を一部改変〕

2　下　　層（縄文時代）

A　遺跡の立地と下層の旧地形

2012・2013 年度にわたる調査の結果、縄文時代晩期以降、中世に至る地形の変化を確認することができた。下層の地形は、調査区東側で縄文時代晩期の層を切る旧河川（SR813）を検出し、西側では急激に落ち込む土層堆積状況から旧河川の存在が推定された（第 7 図）。旧河川は、土層堆積状況から縄文時代晩期頃にも調査区の東西に存在していたことが推定され、検出状況からいずれも南から北方向へ流れていたものと考えられる。この旧河川に挟まれた幅約 100m の区域は、南から北側へ緩やかに傾斜しており、南側は標高 5.8 ～ 5.9m の微高地、中央部は標高 5.0 ～ 5.2m の緩斜面、北側は標高 4.8 ～ 4.9m の低位面を形成する。遺構は、この微高地端部から低位面にかけてつくられており、遺跡は旧河川に沿って南北方向に延びるものと推定される。

B　遺　　構

下層では、竪穴建物、焼土・炭化物の集積（SC）、埋設土器、土器集中などを検出した。遺構は出土遺物から縄文時代晩期後葉の鳥屋 2a 式期が主体であるものと推定される。また、遺構の重複関係が少ないこと、出土土器の年代観などから、調査区は比較的短期間の利用であったと考えられる。遺構は、焼土・炭化物の集積（SC）が 46 か所あり、主体を占める。このほか、埋設土器 17 基があり、SC と分布域がほぼ重なる。以下では、検出した主な遺構について述べ、遺跡の性格について若干の検討を加える。

1）竪　穴　建　物

竪穴建物は SI860 の 1 基を検出した。平面形は楕円形で、長径は約 6.86m、床面積は約 39m^2 を測る。新潟県における縄文時代後期後葉～晩期の竪穴建物については、石丸［2001］が集成しており、その特徴が分析されている。この中で、晩期前葉では床面積 10m^2 以下の建物が 6 割を占め、中葉以降になると 11 ～ 30m^2 が主体を占めるようになり、規模が拡大する傾向が見られる［石丸前掲］。当遺跡で検出した SI860 についても、床面積から、建物の規模が拡大する流れの中で捉えられるものと考えられる。また、SI860 は北側低位面に存在する。北側低位面は、地震の影響が顕著に認められる地点で、地盤は軟弱である。調査時においては雨水による建物壁面の崩壊、水没などが繰り返し見られ、居住には適していない状況も窺えた。

2）焼土・炭化物の集積（SC）

a　SC の分類と遺構の分布

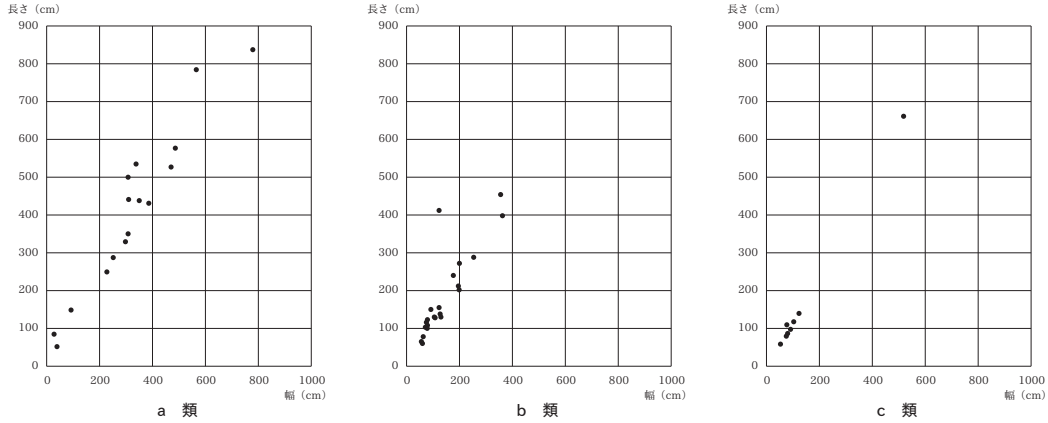
調査区で検出した SC は、第Ⅳ章 C で記載したように以下の 3 種に分類される。

a　焼土が認められ、焼土の周辺に炭化物が集積するもの

b　炭化物が集中し、焼土粒を含むもの

c　炭化物のみが集中するもの

a 類は検出状況および土層堆積状況から現地で火を焚いたと考えられ、この中には複数回にわたり火を焚いたものも存在する。規模は 0.83m ～ 8.37m の大小がある。このうち、3 ～ 6m の規模が多く、b・



第 51 図　焼土・炭化物の集積の規模

c類に比べ大きい傾向が見られる。b類は炭化物･焼土が混じり合って堆積する状況が認められることから、別の場所で焚かれた焼土や炭化物を移動したものと推定される。規模は1～2m前後のものが主体である。c類については、土層堆積状況などからb類に近似した性格を持つ可能性が考えられる。規模は1m前後が主体である（第51図）。なお、第Ⅳ章Cで述べたとおり規模が4m以上のものは、炭化物層の下からピットが1～2基検出されるものがある。これらについては竪穴建物の可能性もあるが、SI860のように床面と判断される硬化面が認められないこと、壁溝などの付帯施設が明確に検出されなかったこと、焼土・炭化物の堆積状況などからSCに含めた。

a～c類の遺構分布は第52図に示した。いずれも微高地端部から低位面にかけて存在するが、a類は微高地・緩斜面部に多く分布する傾向が認められる。b・c類は、a類に近接して分布するもののほか、東側の低位面に集中するものがある。

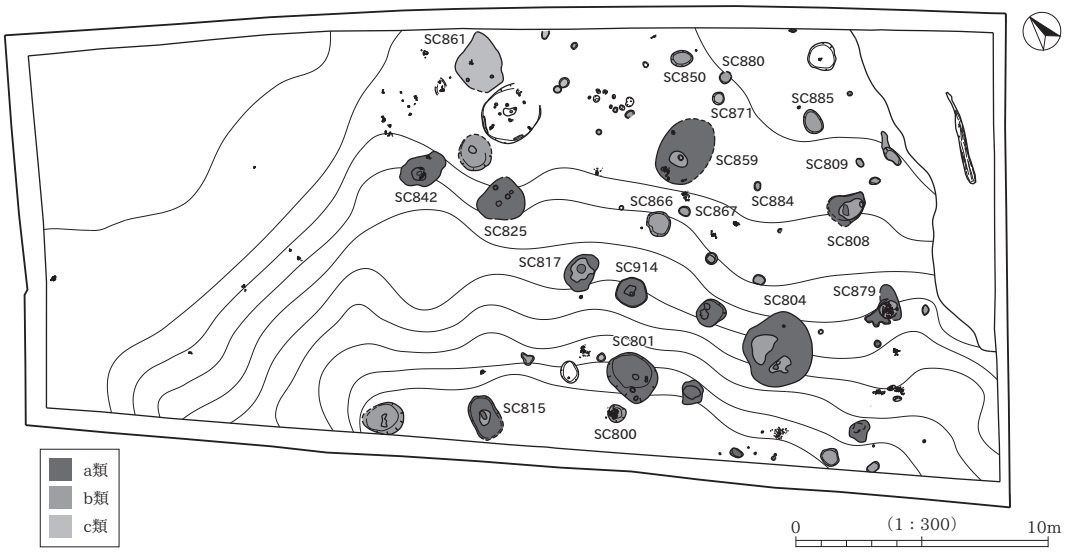
b　SCと出土遺物の関係

SCの出土遺物は土器・石器のほか、炭化種実、白色の微細な骨片などがある。土器は遺構間で接合関係が認められるものがあり（SC801・825・842、SI860・SC861）、遺構の同時性が考慮される。石器は剥片石器・礫石器のほか、祭祀具と考えられる石冠・独鈷状石製品がある。炭化種実はトチノキ・オニグルミ・クリなどの堅果類、骨片はコイ科・アユ属・サケ属などの魚類が出土した。堅果類は自然科学分析の結果、その殆どが可食部の子葉を取り出した後の破片であること、被熱により炭化している状況から、食物残滓の処理後の状況を示すことが考察されている。また、骨片はいずれも被熱しており、骨片の状態から食料として利用された後、焼かれたものと推定されている（第Ⅵ章5）。

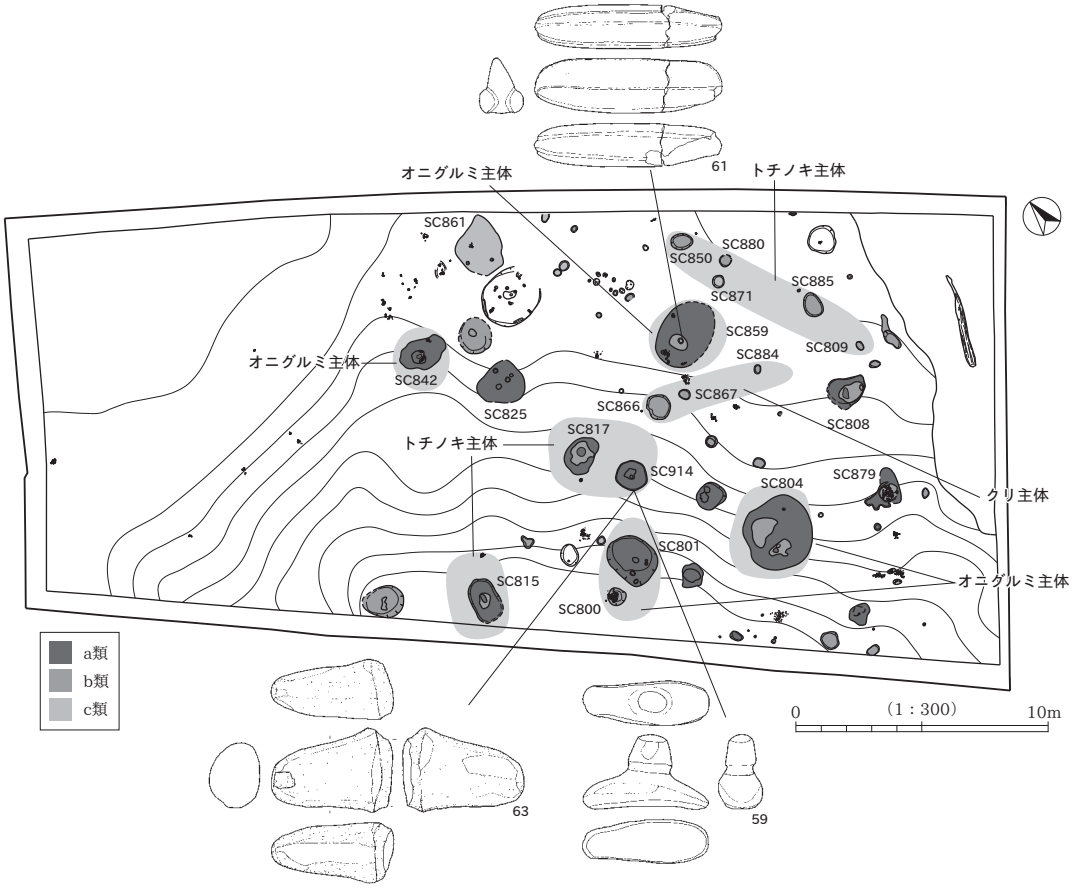
SCから出土した主な遺物と炭化種実・骨片の検出状況を第53図に示した。出土状況を見ると、トチノキを主体とするSCは微高地のSC815（a類）、緩斜面のSC817・914（a類）、b・c類が集中する東側低位面のSC809・850・871・880・885に分布域を持つ。オニグルミを主体とするSCは、微高地のSC801・804（a類）、SC800（b類）、低位面のSC842・859（a類）があり、微高地と低位面に存在する。クリを主体とするSCは、緩斜面から低位面にかけて分布するSC866・867・884（b類）があり、これらは近接して存在する。

堅果類は第Ⅵ章5で述べられているように、遺構により優先される堅果類の種類が異なる傾向が認められる。これに遺構の分布状況を加味すると、堅果類ごとの集積場所を意図的に選択していた可能性が推

定される。また、トチノキはａ類とｂ・ｃ類、オニグルミはａ類とｂ類から出土している。SC と堅果類の出土状況から、焼土・炭化物の集積ａ～ｃ類は密接に関連していたことが推定され、「食物残滓の燃焼行為→焼土・炭化物・堅果類の移動と集積」が繰り返し行われていた状況が窺える。また、魚骨片につい



第 52 図　焼土・炭化物の集積ａ～ｃ類の分布



第 53 図　石製品・堅果類の出土状況

てもａ・ｂ類からの出土が認められることから、堅果類と同様の経過を辿ったものと推定される。このほか、石器では石冠が２点出土しており、いずれもａ類からの出土である。独鈷状石製品もａ類のSC914周辺で出土することから、これらの石器は燃焼行為に伴って使用された可能性も想定される。

3）ピ　ッ　ト

ピットは24基検出した。このうち、８基は北側低位面に集中し、焼土・炭化物の集積ｂ・ｃ類と分布域が重なる。低位面で検出したP855からは、オニグルミ・クリ・トチノキなどの炭化した堅果類のほか、コイ科・アユ属・サケ属などの被熱した骨片が出土した。遺構分布状況・堅果類などの出土状況から、焼土・炭化物の集積ｂ・ｃ類と同様の性格をもつ可能性が推定される。

4）埋　設　土　器

ａ　埋　設　形　態

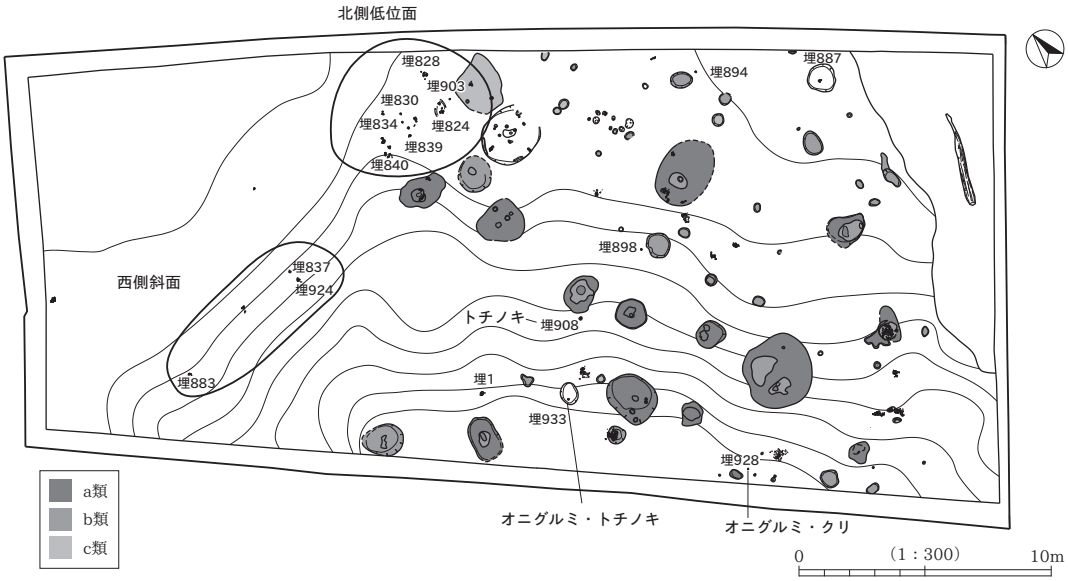
埋設土器は地震の影響により倒壊したと考えられるものが多く、その内容が明確なものは少ない。埋設形態は出土状況から推定したものを含めると、正位埋設10基、逆位埋設１基、横位埋設１基、合わせ口状に埋設したもの１基、不明４基となり、正位埋設が主体を占める。埋設土器に用いられた器種は、浅鉢（4個体）、鉢（1個体）、甕（5個体）、深鉢（3個体）、甕ないし深鉢の体部～底部（11個体）、壺（1個体）である。土器は甕ないし深鉢の体部～底部を多く用いる傾向が見られ、逆位埋設の埋設土器908、合わせ口状に埋設した埋設土器928は、口縁部～体部上位を欠く土器を用いている。しかし、埋設土器の多くは上記したように残存状態が良くないことから、自然の営力により土器が破損し、口縁部を欠くものの存在も考慮される。

ｂ　遺構の分布と埋設土器の特徴

埋設土器はSC周辺に分布するものが多く、上記した焼土･炭化物の集積ａ･ｂ類に近接する。このうち、単体埋設７基、近接埋設７基があり、近接埋設は北側低位面に集中する。これ以外は遺構の希薄な西側斜面に３基分布する（第54図）。

SCに近接し、単体埋設されるもの　SCに近接するものは７基あり、ａ類に近接するもの４基（埋設土器１・908・928・933）、ｂ類に近接するもの３基（埋設土器887・894・898）がある。

ａ類に近接するものは微高地から緩斜面に分布する。正位埋設１基（埋設土器１）、逆位埋設１基（埋設土器908）、横位埋設１基（埋設土器933）、合わせ口状に埋設したもの１基（埋設土器928）が認められ、様々な埋設形態が見られる。この地点で検出した埋設土器は残存状況が比較的良好なことから、埋設土器内の土について分析を行った（第Ⅵ章５）。この結果、埋設土器１以外で炭化した堅果類が出土した。埋設土器908はトチノキ、埋設土器928はオニグルミ･クリ、埋設土器933はオニグルミ･トチノキが検出された。各埋設土器で出土した堅果類の種別は、それぞれ近接するSC出土の堅果類と同様の出土傾向を示す。また、埋設土器内からは、SCで出土した魚類などの骨片は認められなかった。したがって、埋設土器内にSC周辺の土が流れ込んだ可能性は低いと考えられ、埋設土器は、土器内に炭化した堅果類が納められた可能性が推定される。以上から、焼土・炭化物の集積ａ類とこれに近接する埋設土器との関連性が考慮される。また、ｂ類に近接するものは、正位埋設１基のほか、故意に土器の一部を欠損させたもの１基がある。これらは、緩斜面から東側低位面に存在し、ｂ類と同様の分布傾向が見られる。



第 54 図　埋設土器の分布状況

SC に近接し、近接埋設されるもの　近接埋設されたものは北側低位面に集中し、SC842・861・868 に近接する。この地点は地震の影響により、Ⅵ層の陥没が顕著に認められる。また、液状化により噴出した砂がⅥ層を分断し、Ⅵ層が島状に残存する地点である。この結果、埋設土器は倒壊しているものが多い。埋設土器は、埋設土器 824・828・830・834・839・840・903 が存在する。このうち、埋設土器 824 は埋設土器内に土器片、埋設土器付近に礫が出土した。また、埋設土器 828・830・839 は出土状況から礫が付随したものと推定される。埋設土器 824・828・839 は出土状況から、埋設土器の上部に礫が置かれていた可能性が推定される。北側低位面の埋設土器は、付随物が認められる点で、このほかの埋設土器と異なる状況が窺える。埋設土器 824 については、土器内の土壌について、リン・カルシウム分析を行った。この結果、骨・歯の存在を示唆する結果を得た（第Ⅵ章 3）。埋設土器 824 は土坑底面の南側端部に埋設土器、北側端部には磨製石斧未成品・磨製石斧の素材となる扁平礫が出土した。石器は上下に並べたように出土しており、埋納されたものと推定される。土器・石器の出土状況から、埋設土器 824 は土坑墓の可能性も考慮される。

西側斜面に埋設されるもの　西側斜面では、埋設土器 837・883・924 が存在する。この地点は土器集中が 3 か所点在するが、このほかの遺構は存在せず、遺物の分布も希薄である。埋設土器は、埋設土器 837・883・924 が存在する。西側斜面は北側低位面と同様に地震の影響を大きく受けおり、埋設土器も全て倒壊した状態で出土した。このため、その内容については不明瞭な部分が多いが、埋設方法では複数埋設（埋設土器 883）、近接埋設（埋設土器 837・924）があり、2 個体の土器が近接することにその特徴が認められる。

以上から、埋設土器は SC と分布域がほぼ重なり、その中でも、1.SC に近接し、単体埋設されるもの、2.SC に近接し、近接埋設されるもの、3. 西側斜面に埋設されるものの 3 つの分布域を持つことが確認され、1 については、SC との関連が推定される。

C　小　　結

ここでは、上記した遺構の検討を踏まえ、若干の考察を試みる。調査区では、焼土・炭化物の集積が主

体を占め、堅果類・魚類など食物残滓の燃焼とこれらの集積を繰り返し行っていたことが推定される。また、遺構・遺物の検出状況から、堅果類ごとの集積場所を意図的に選択していた可能性が考えられる。埋設土器は焼土・炭化物の集積と分布が重なる。焼土・炭化物の集積のうち、現地で火を焚いたと見られるa類とこれに近接して単体埋設される埋設土器は関連が推定される。埋設土器については、［古澤 2013］において、土器の使用痕、遺跡内における分布と他遺構との関連から、埋葬施設、祭祀関連施設、堅果類加工関連施設など多様な用途をもつことが分析されている。当遺跡では遺構の検討から、食物残滓の燃焼行為と埋設土器の設置、食物残滓の集積は一連のものと捉えられる可能性が考えられる。

焼土・炭化物の集積に見られる「特定の堅果で構成される遺構」の類例として、野地遺跡［渡邊ほか 2009］が挙げられる。野地遺跡は、胎内川右岸の沖積低地に位置する。遺跡は、縄文時代後期中葉～晩期中葉までの長期にわたって継続した拠点的な遺跡である［渡邊前掲］。P2 区ではⅤ-2 期（晩期前葉後半）に属する堅果類集中範囲が 12 か所あり、各集中範囲ではクリ・オニグルミなど特定の堅果が卓越する傾向が見られる。P3 区ではⅣ-3 期（晩期前葉後半）に属する炭化物集中範囲（SV2026）から炭化した大量のクリ・トチノキが出土した。また、集中域内には焼獣骨集中範囲（SX2037）が形成されており、特定の場所に多量の獣骨が出土する。更に SV2026 の最下層では、焼土（SF2083）が検出され、SV2026 の形成に際して燃焼行為を伴う「儀礼」の存在が考察されている［渡邊前掲］。

当遺跡は、上記したように、食物残滓の燃焼行為と埋設土器の設置、食物残滓の移動と集積は一連のものと捉えられる可能性がある。更に燃焼行為を示す遺構やその付近で石冠・独鈷状石製品の出土が認められることなどから、祭祀的な場であったことが推定される。また、縄文時代の旧地形と遺構検出状況から、微高地端部から低位面は集落の縁辺部にあたることが推定され、ここに祭祀的な場が形成されていたものと考えられる。また、居住域は調査区外南側の微高地に存在する可能性が推定される。

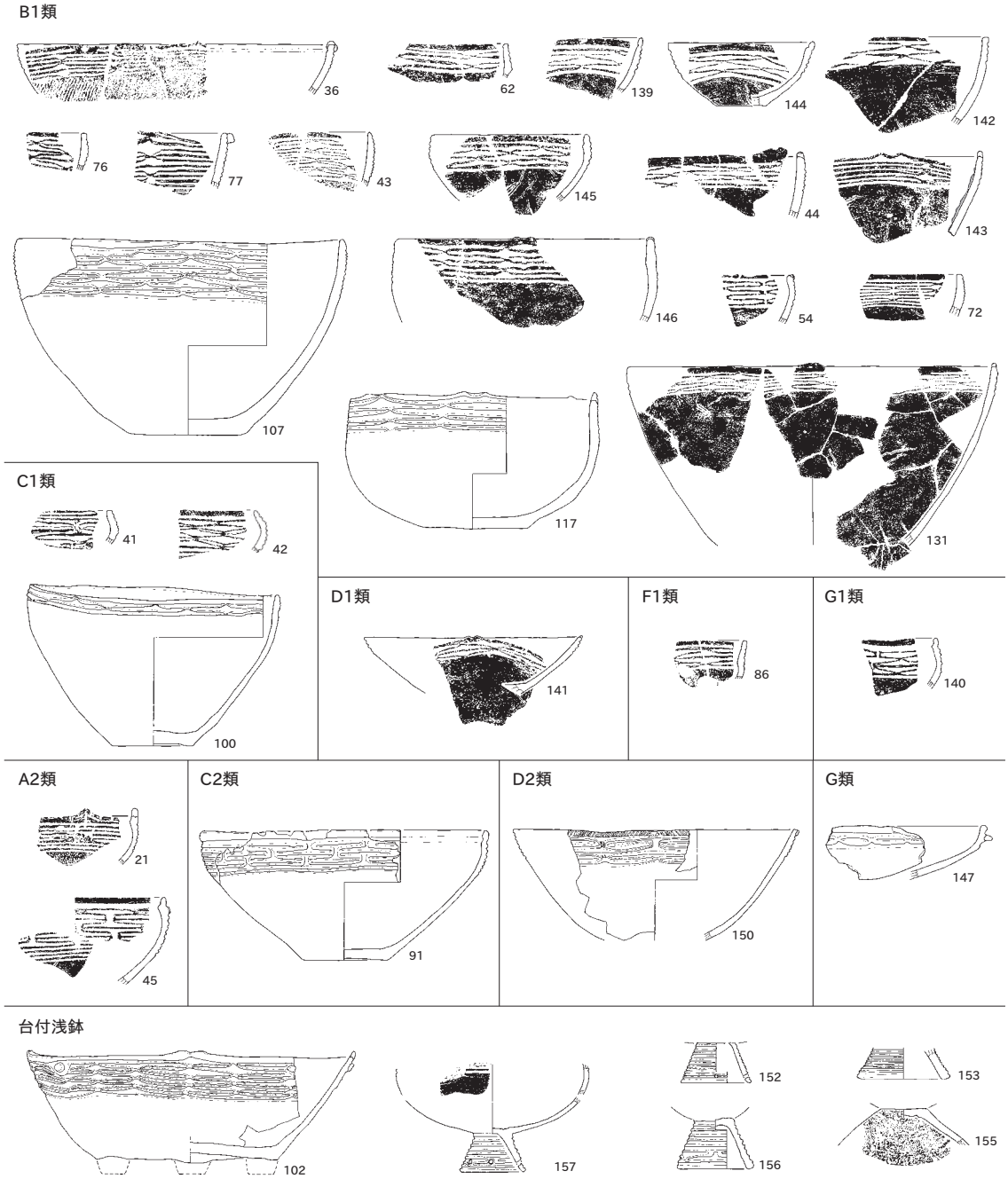
D　縄　文　土　器

当遺跡で出土した縄文土器は、その特徴から縄文時代晩期後葉に属する。当該期の周辺遺跡では、新発田市青田遺跡［荒川ほか 2004］がある。青田遺跡は鳥屋 2a 式～ 2b 式を主体として、膨大な量の土器が出土しており、層位的な土器変遷が明らかとなっている［荒川前掲］。以下では、各器種の特徴を概観し、青田遺跡との比較を通し、編年的位置け付けについて確認する。また、当遺跡は報告資料を用いたものであるため、各器種の組成比は厳密な個体数を示していないが、器形の分かるものだけを図化し、特徴的な文様を持つものは殆ど掲載していることから、掲載した土器の各種組成比は当遺跡の土器様相を示すものと考える。

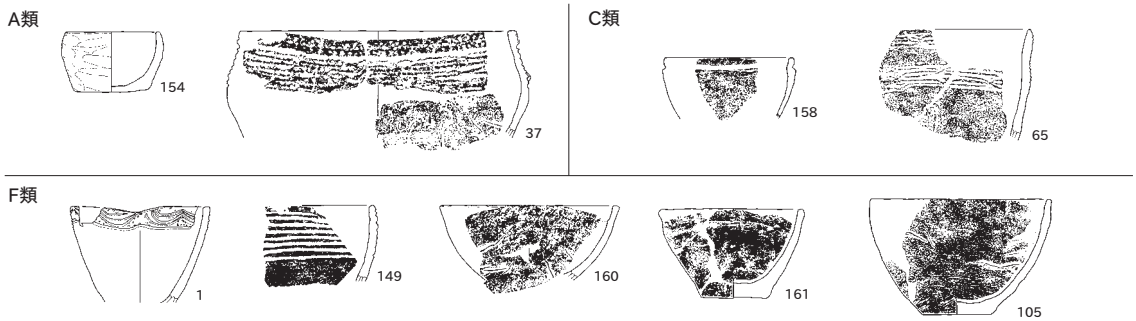
1）各器種の特徴

a　浅鉢・台付浅鉢・鉢（第 55・56 図）

浅鉢は A2・B1・C1・C2・D1・D2・F・G 類が認められ、B1 類が主体を占める。このうち、G 類の 147 は眼鏡状文が配され、鳥屋 1 式の名残が見られることから古相を示す資料と考えられる。浮線文は a1・a2・a4・b2・d1・e3・f1 種があり、e3 種が多く認められる。また、36・44・62・100・107・117・131・141・142・143・146・148 など、浮線文は上下端の交点が口縁部・体部に直接連結するものが主体を占める。21・45・91 は工字文が施されるもので、21・91 は搬入品と見られる。21 は直線的な平行沈線と隆線の間にキザミを入れた工字文、45 は浮線化した工字文が施される。45・91 の工



第 55 図　山口野中遺跡出土浅鉢・台付浅鉢



第 56 図　山口野中遺跡出土鉢

字文は長方形の区画を基調とし、東北地方の大洞 A 式段階に比定される。

台付浅鉢は、102・152・155 ～ 157 などがある。102 は 4 脚で、棒状の脚が付くと見られる。また、浮線文 b2 種が施され、上端の交点が口縁部に直接連結する。152・155 ～ 157 の脚部は「ハ」の字状に開くものである。156･157 は台部に交互匹字文が施されるもので、157 は匹字文の交点が穿孔される。いずれも搬入品と見られ、東北地方の大洞 A 式段階に比定される。また、156･157 は円文が認められる。鉢は A･C･F 類があり、1 は口縁部に鋸歯状集合沈線文と刺突文が施される。65 は浮線文 b2 種が施され、多段化する。

以上から、浅鉢は B1 類を主体とし、浮線文は e2 種が多く認められる。浅鉢・台付浅鉢・鉢は浮線文が多段化することにより、文様帯幅が広くなる傾向が見られる。また、浮線文は上下端の交点が口縁部・体部に直接連結するものが多い。

b　甕（57 図）

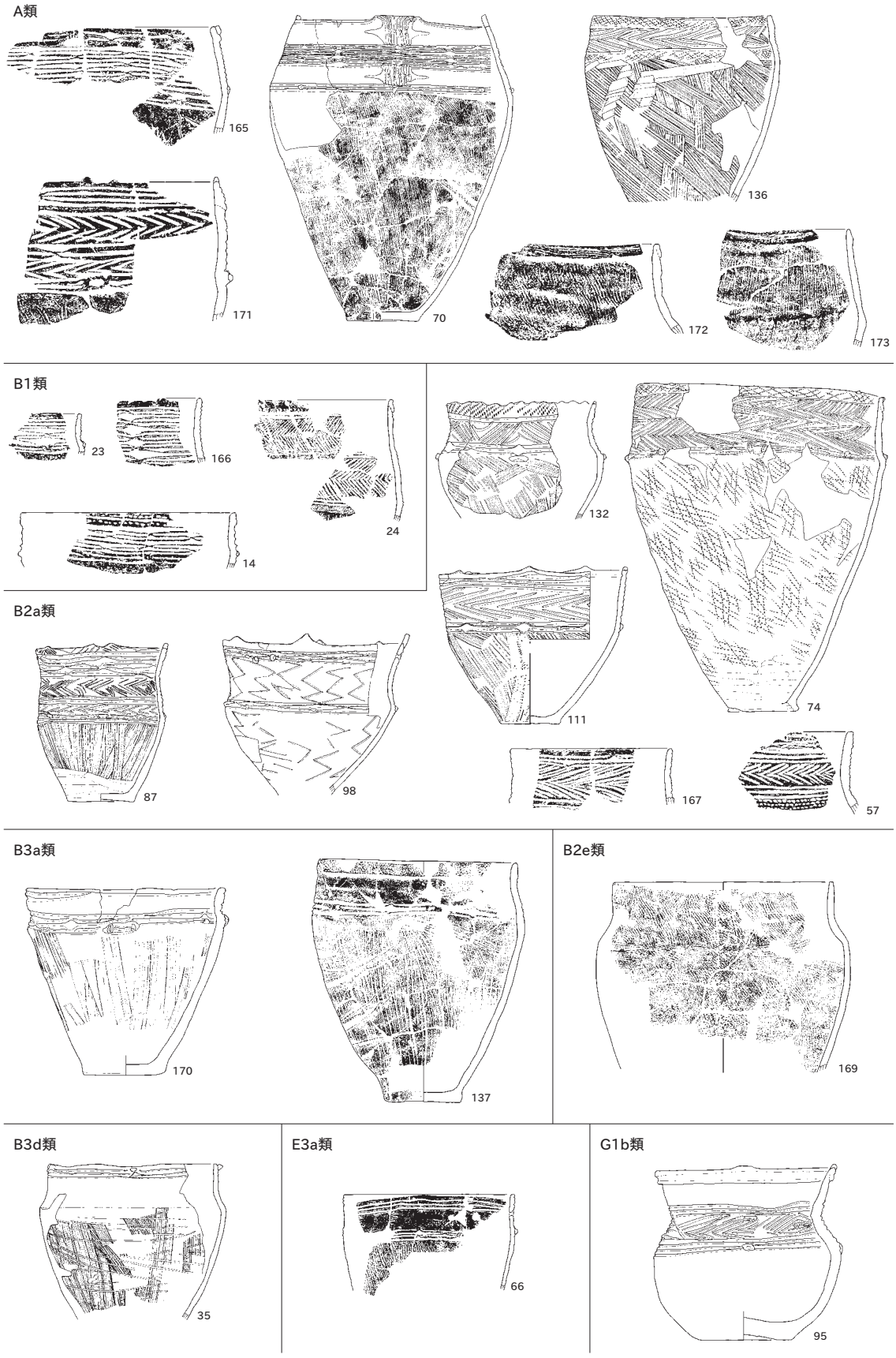
甕は A･B･E･G 類が認められ、B 類が主体を占める。A 類は A1a 類（165）、A1b 類（136）、A2a 類（70･171）、A2e 類（172・173）、A3d 類（164）などがある。165 は口縁部・頸部に浮線文が施され、頸部は浮線文 e3・f1 種が施される。136 は口縁部・肩部に網目状撚糸文を施し、頸部には沈線幅の広い綾杉文を配する。体部は斜め方向の条痕文が施される。70 の文様構成は当遺跡の出土例では稀なものである。口縁部には幅の広い楕円状突起が付けられ、この突起下には浮線文 d1 種が縦方向に配される。頸部は横方向に浮線文 a2 種が施され、縦の浮線文と直交する。田上町保明浦遺跡［田畑 1993］に類例が見られる。171 は眼鏡状文が配されることから古相を示す。

B 類は B1（14・23・24・166）、B2a（57・74・87・98・111・132・167）、B2e（169）、B3a（137・170）、B3d（35）類などがある。このうち、74・87・137・170 は肩部に眼鏡状文が配され、古相を示す。また、B 類の中では、B1・B2a 類が多く認められ、浮線文は a1・e1・e2 種などが施される。綾杉文は、綾杉文、交互綾杉文、鋸歯状集合沈線文などがあり、雷文も認められる。35・137・170 は頸部を無文帯とする 3 類で、頸部はナデにより調整される。このほか、口縁部に刺突文を施す 14・24、肩部に刺突文を施す 57 などがある。G 類は 95 のみの出土である。頸部は刺突文を充填した綾杉文・交互綾杉文が施される。

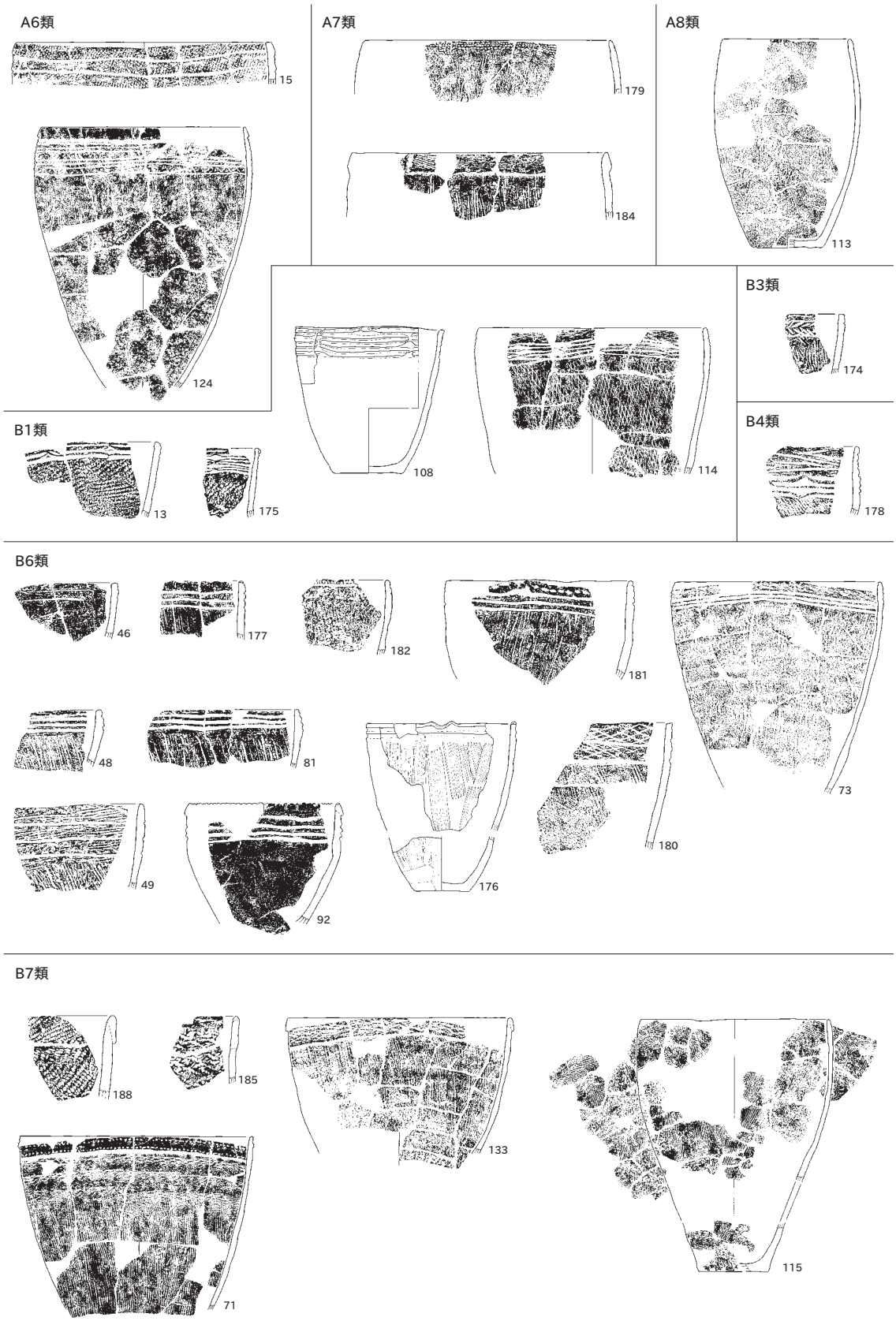
以上から、甕は B 類を主体とし、A・B 類ともに肩部に眼鏡状文を持つものが多く認められる。文様パターンは 1 類・2a 類が目立ち、頸部への加飾性が高い。また、器高 50cm を超える 70・74 のような大形のものも認められる。

c　深　　鉢（58・59 図）

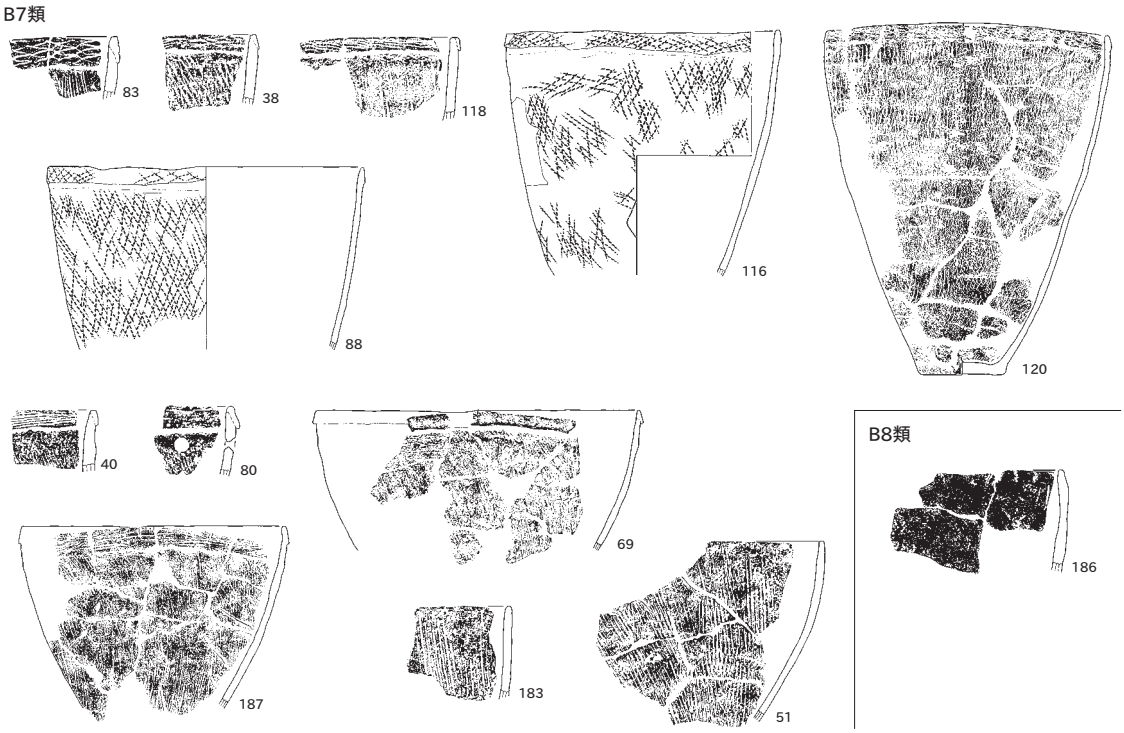
深鉢は A･B 類が認められ、B 類が主体を占める。A 類は A6 類（15･124）、A7 類（179･184）、A8 類（113）がある。124 は口縁部の平行沈線文間に結節縄文、179 は口縁部に刺突文が施される。B 類は B1・B3・B4・B6・B7・B8 類が認められ、B6・B7 類が多く見られる。B1 類の浮線文は a1・b3・e2 種などがある。B6 類は口縁部に刺突文が施される 181・182、結節縄文が施される 73 などが認められる。B7 類は口縁部に縄文 LR を施す B7a 類の 188 がある。B7b 類は口縁部・体部に結節縄文を施すもので、133・185 は口縁部、115 は口縁部・体部に施文方向を変えた結節縄文が施される。71 は口縁部に刺突文、体部上位は結節縄文が 3 段施される。B7c 類は口縁部に網目状撚糸文・撚紋を施すもので、83 は口縁部に網目状撚糸文、体部は条痕文が施され、38・88・116・120 は口縁部・体部に施文方向を変えた網目状撚糸



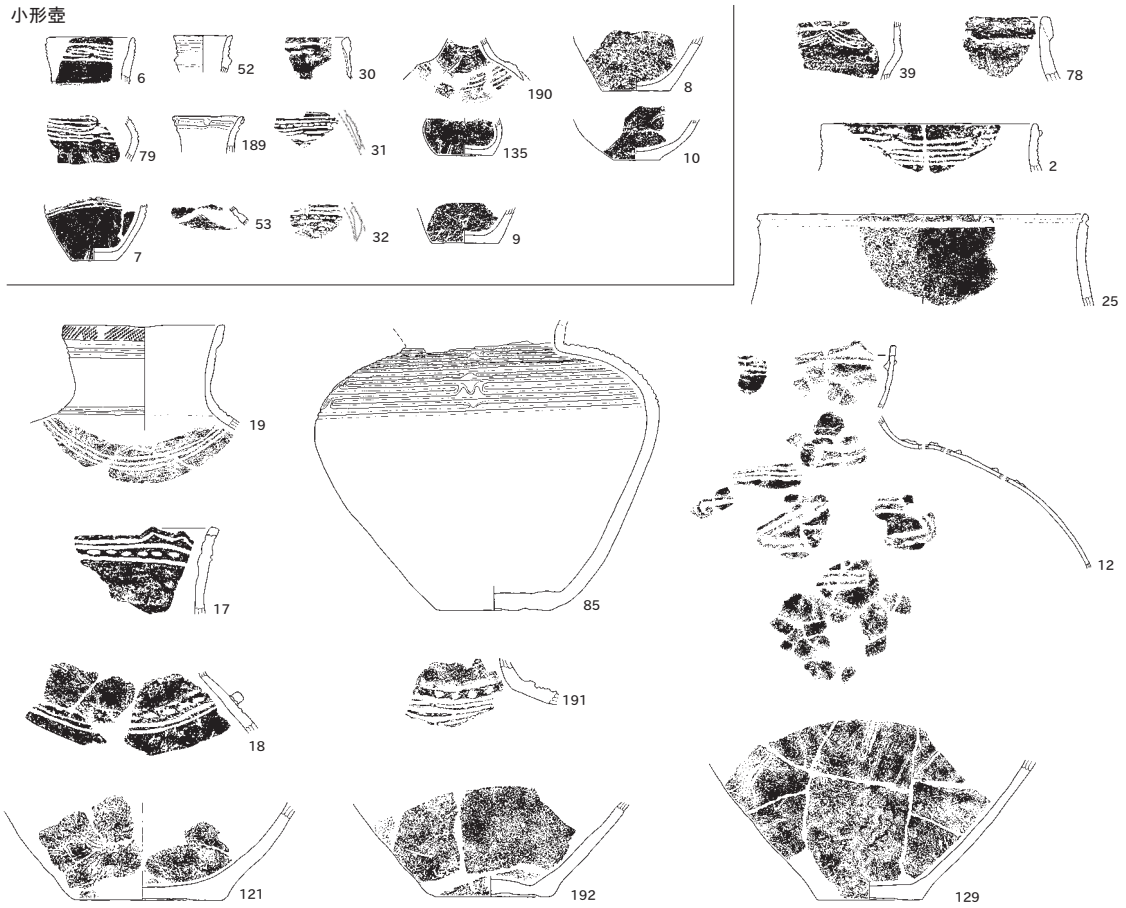
第 57 図　山口野中遺跡出土甕



第 58 図　山口野中遺跡出土深鉢（1）



第 59 図　山口野中遺跡出土深鉢（2）



第 60 図　山口野中遺跡出土壺

文が施される。

以上から、深鉢はB6・B7類が多く認められる。また、A・B類ともに口縁部・体部に結節縄文を施す「保明浦タイプ」［渡邊 1998］が一定量認められる。

d　壺（60図）

壺の出土数は少ない。また、破片資料が殆どであるため、器形のわかるものが少ないが、小形の壺も認められる。小形の壺は口縁部・肩部に浮線文が施される6・7・31・32、79、平行沈線文が施される52・189、工字文が施される53などがある。これ以外は、口縁部が無文の25・78、口縁部・肩部に浮線文が施される2・191、肩部に工字文が施される12・85がある。12は大形の壺で、肩部に横流水状の工字文が施される。85は最大径が体部上半にあり、肩部が大きく張り出す。工字文は長方形を基調とする。いずれも東北地方の大洞A式段階に比定される。このほか、口縁部・肩部に平行沈線文と列点状の刺突文が施される17・18、連弧状の沈線文が施される39など、西日本の影響を受けたと考えられる資料も存在する。

2）編年的位置付け

以下では、青田遺跡出土の浅鉢・甕との比較を通し、編年的位置付けを確認する。

青田遺跡は層位的な土器変遷から、Ⅰ期（D～S4層）、Ⅱ期（S3·S2層）、Ⅲ期（S1層）、Ⅳ期（SD1420-2～1層）、Ⅴ期（SD1420-B9～B7層）の画期が認められている。それぞれ、Ⅰ期：鳥屋2a式（古）、Ⅱ期：鳥屋2a式（新）、Ⅲ期：鳥屋2b式（古）、Ⅳ期：鳥屋2b式（新）、Ⅴ期：緒立1a期に比定されている。

浅鉢は、青田遺跡ではⅠ～Ⅱ期にかけては、B類が主体を占める。Ⅲ期以降はB類が減少し、主体はC類となる。Ⅳ期ではC類のほか、E・H類の増加が認められる。浮線文はⅠ・Ⅱ期ではa2・b1・e3・f1種を主体とし、多種類のモチーフが施される。Ⅲ期にはg2種が加わる。Ⅳ期にはa1・a3・b2・b4・d1・e3・f2種が認められなくなり、代わりに変形工字文4・5類が出現する。Ⅴ期には浮線文1類が見られなくなる。文様帯幅は、Ⅱ期以降狭小化する。また、浮線文はⅠ期では文様帯の上下端が口縁部・体部に直接連結するものが特徴的に認められる。

当遺跡出土の浅鉢は、B類を主体とし、浮線文はe3種が多く認められる。浮線文は上下端の交点が口縁部・体部に直接連結する。また、浮線文は多段化することにより、文様帯の幅が広くなる傾向が見られる。こうした特徴は、青田遺跡Ⅰ期で顕著に認められる。

甕は、青田遺跡Ⅰ期ではB類が特徴的に見られ、頸部に綾杉文などを施す2類が主体である。また、肩部には眼鏡状文・浮線文が施されるものが多い。Ⅱ期はB類の減少が認められ、C類が主体となる。Ⅲ期はC・E類が主体で、頸部無文帯はⅠ・Ⅱ期のナデによる調整からミガキによる調整へと変化する。Ⅳ期は肩部の張り出しが弱く、頸部の屈曲も弱くなるE類が主体となる。

当遺跡出土の甕は、B類を主体とし、頸部に浮線文・綾杉文が施される2類が多く見られる。また、肩部は眼鏡状文が配されるものが目立つ。3類の頸部無文帯はナデにより調整される。こうした特徴から、青田遺跡Ⅰ期の特徴を有する。また、甕と深鉢の割合は、先述したように厳密な個体数は示せないものの、深鉢が甕を上回る傾向がある。

以上から、当遺跡の出土土器は青田遺跡Ⅰ期に比定され、鳥屋2a式を主体とするものであると考えられる。

引用・参考文献

安部朝衛　1979　「第Ⅱ章１ 石鏃」『峠下聖山遺跡』 北海道七飯町教育委員会

荒川隆史・渡邊朋和　1999 「第２章 第２節 第６項 晩期」『新潟県の考古学』 高志書院

荒川隆史ほか 2004　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第133集 青田遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史ほか 2012　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第232集 境塚遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒谷伸郎ほか　2010 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第215集 山口遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

石川日出志　1991　「縄文時代晩期浮線文土器出現期の編年と諸様相」『北越考古学』第４号　北越考古学研究会

石川日出志　1993　「鳥屋 2b 式土器再考」『古代』第95号　早稲田大学考古学研究会

石川日出志・渡邊裕之ほか　1992 『新潟県安田町文化財調査報告12 六野瀬遺跡1990年調査報告書』 安田町教育委員会

石川日出志　1996　「安田六野瀬遺跡の縄文時代晩期末石器群の検討から」『北越考古学』第７号　北越考古学研究会

石川日出志　2005　「弥生時代再葬墓に近接する生活遺跡の試掘調査－新潟県阿賀野市山ノ下遺跡－」『考古学集刊』特別号　明治大学文学部考古学研究室

石丸和正　2001　「新潟県における縄文時代後期後葉～晩期の竪穴建物」『新潟考古学談話会会報』第23号　新潟考古学談話会

伊藤啓雄　2006　「新潟県における中世土師器皿と輸入陶磁器・瀬戸美濃製品」『中世北陸のカワラケと輸入陶磁器・瀬戸美濃製品』 北陸中世考古学研究会

猪狩俊哉　2004　「第Ⅴ章 7B 赤漆塗り糸玉」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第133集 青田遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

稲葉　明・木村　広・二宮俊策・稲村裕一　1976 「津川・野沢間の阿賀野川沿岸の第四系について」『新潟県教育センター研究報告』第９号　新潟県教育センター

宇野隆夫　1982　「井戸考」『史林』第65巻第５号　史学研究会

遠藤孝司　1990　「越後笹神窯の生産と流通」『中世北陸の在地窯－生産と流通の諸問題－』 北陸中世土器研究会

小田由美子　1999　「第５章 第２項 五頭山麓古窯跡群」『新潟県の考古学』新潟県考古学会　高志書院

小田由美子ほか　2002 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第117集 赤坂山中世窯跡・赤坂山Ｂ遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

大島秀俊ほか 2010　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第193集 谷地遺跡・八太郎遺跡・田屋道遺跡Ⅱ・宮の越遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財事業団

折井　敦ほか 2007　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第174集 道下遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財事業団

春日真実　1999　「第４章 古代 第２節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』新潟県考古学会編　高志書院

春日真実ほか 2004　「例言」『越後阿賀北地域の古代土器様相』 新潟古代土器研究会

春日真実　2004a　「第Ⅳ章２ 土師器」『越後阿賀北地域の古代土器様相』 新潟古代土器研究会

春日真実　2004b　「第Ⅲ章４ 海岸部（南部）」『越後阿賀北地域の古代土器様相』 新潟古代土器研究会

春日真実　2005　「越後における奈良・平安時代土器編年の対応関係について－「今池編年」・「下ノ西編年」・「山三賀編年」の検討を中心に－」『新潟考古』第16号　新潟県考古学会

春日真実　2006　「第二編 歴史考古古代篇 第３章 古代越後の集団と地域」『日本海域歴史体系』第二巻 古代篇Ⅱ　青文堂出版株式会社

加藤　学　2004　「第Ⅴ章３ 石器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第133集 青田遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

加藤　学ほか 2010　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 223 集　村前東Ａ遺跡　村前東Ｂ遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
加藤　学ほか 2013　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 237 集　柄目木遺跡Ⅱ』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
鐘方正樹　2003　『井戸の考古学』　同成社
亀井　功・鈴木俊成ほか　1994　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 61 集　萩野遺跡　官林遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
川上貞雄　1979　『安田町文化財調査報告（4）上野林丘陵埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ　横峯経塚群』　安田町教育委員会
川上貞雄 ほか 1979　『安田町文化財調査報告（6）上野林丘陵埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ　行塚遺跡　小山崎遺跡』　安田町教育委員会
川上貞雄ほか 1980　『安田町文化財調査報告（7）上野林丘陵埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ（概報）中道遺跡』　安田町教育委員会
川上貞雄ほか 1981　『上野林丘陵埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ　横峰Ａ遺跡　横峰Ｂ遺跡』　安田町教育委員会
川上貞雄ほか 1984　『安田町文化財調査報告（10）ツベタ遺跡』　新潟県安田町教育委員会
川上貞雄　2003　「第一章　考古　第一節　原始・古代・中世の遺跡　第一項　原始」『笹神村史』資料編一　新潟県笹神村
川上貞雄　2004　「第二章　第二節　五頭山麓の縄文時代」『笹神村史』通史編　新潟県笹神村
建設省北陸地方建設局　阿賀野川工事事務所　1984　『阿賀野川水害地形分類図　説明書』
小林青樹　2008　「浮線網状文系土器」『総覧　縄文土器』『総覧　縄文土器』刊行委員会
小林正史　1991　「縄文時代終末期における東北地方中・南部間の地域差」『北越考古学』第４号　北越考古学研究会
小林正史　1998　「土器の文様はなぜ変わるか－東北地方の縄文晩期後半の単位文様を例として－」『氷遺跡発掘調査資料図譜』第三冊－縄文時代晩期終末期の土器群の研究－』
駒形敏郎・寺崎裕助　1977　『埋蔵文化財発掘調査報告書　藤橋遺跡』　長岡市藤橋遺跡等発掘調査委員会
駒形敏郎ほか 1985　『藤橋遺跡－「ふるさと歴史の広場」事業に伴う発掘調査－』　長岡市教育委員会
駒形敏郎・小林伸治　1991　『藤橋遺跡－史跡整備事業に伴う発掘調査－』　長岡市教育委員会
駒形敏郎　2003　『ソデクネ遺跡』　長岡市教育委員会
小山正忠・竹原秀雄　1998　『新版標準土色帖』　日本色研事業株式会社
坂井秀弥ほか 1989　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 53 集　山三賀Ⅱ遺跡』　新潟県教育委員会
佐藤友子ほか 2009　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 203 集　庚塚遺跡・狐塚遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
佐藤友子ほか 2010　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 216 集　柄目木遺跡Ⅰ』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
佐藤友子ほか 2012　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 238 集　小坂居付遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財事業団
島　吾朗　1998　「豊栄市の地形と気候」『豊栄市史　通史編』　新潟県豊栄市
品田高志　1997　「第５章　第２節　越後における土師器の変遷と諸相」『中・近世の北陸－考古学が語る社会史』　北陸中世土器研究会
品田高志　1999　「第５章　第３節　第１項　中世土師器」『新潟県の考古学』新潟県考古学会編　高志書院
菅井良咲・村山良紀　1996　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 82 集　獅子沢遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財事業団
鈴木俊成ほか 2012　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 231 集　上道下西遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財事業団
関　雅之　1973a　「下金田遺跡調査報告」『水原博物館研究報告』第４号　水原町立水原博物館

関　雅之ほか 1973b 『ツベタ遺跡発掘調査報告』 新潟県安田町教育委員会
関　雅之・安部朝衛・石川日出志　1988 「第四章鳥屋遺跡の発掘調査（遺構と出土遺物）」「第五章鳥屋遺跡の発掘調査（遺構外の出土遺物）」『豊栄市史』資料編１ 考古編　新潟県豊栄市史編纂委員会
関　雅之　1986 「付編奈良・平安時代の遺跡二生産遺跡 真木山遺跡」『新潟県史』通史編Ⅰ原始・古代　新潟県
田中耕作ほか 1982 『新発田市埋蔵文化財調査報告第４ 村尻遺跡Ⅰ』 新発田市教育委員会
田中耕作　1991 「村尻遺跡出土の「ねかせ」状態の焼粘土塊について」『北越考古学』第４号　北越考古学研究会
田中耕作　1999 「新発田市村尻遺跡出土の焼粘土塊（続）」『北越考古学』第 10 号　北越考古学研究会
田畑　弘　1993 『田上町埋蔵文化財調査報告書第３集 保明浦遺跡』 田上町教育委員会
田畑　弘ほか 1996 『田上町埋蔵文化財調査報告書第８集 保明浦遺跡Ⅱ』 田上町教育委員会
田畑　弘　2003 『田上町文化財調査報告書 第 20 集 保明浦遺跡Ⅲ』 田上町教育委員会
田畑　弘　2004 『田上町文化財調査報告書 第 21 集 保明浦遺跡Ⅳ』 田上町教育委員会
髙橋保雄ほか 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 172 集 鴨深甲遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
高橋龍三郎　1999 「Ⅱ.列島における縄文土器型式編年研究の成果と展望（1） 東北地方　晩期（亀ヶ岡式）」『縄文時代』第 10 号［第一分冊］ 縄文時代文化研究会
滝沢規朗　2001 「新潟県の石冠」『新潟考古学談話会会報』第 23 号　新潟考古学談話会
滝沢規朗ほか 2002 『朝日村文化財報告書第 22 集 元屋敷遺跡（上段）』 新潟県朝日村教育委員会
田中久夫・長谷川正・木村澄枝・岡本郁栄・坂井陽一　1996 「新潟砂丘の形成史」『第四紀研究』35-3　日本第四紀学会
鶴巻康志　1991 「瓷器系笹神窯製品について」『新潟県考古学談話会会報』第７号　新潟県考古学談話会
鶴巻康志　1992 「Ⅴ　まとめ　2　六野瀬遺跡と赤坂窯」『新潟県安田町文化財調査報告 12　六野瀬遺跡 1990 年調査報告書』 安田町教育委員会
鶴巻康志　2001 「新発田市ホーロク沢窯跡採集の須恵器」『北越考古学』第 12 号　北越考古学研究会
鶴巻康志　2005 「新潟県北部の中世陶器窯」『全国シンポジウム中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～資料集』
戸根与八郎　1986 「付編奈良・平安時代の遺跡二生産遺跡　真木山窯址群」『新潟県史』通史編Ⅰ原始・古代　新潟県
土橋由理子　2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 121 集 円山遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
藤澤良祐　2008 『中世瀬戸窯の研究』 高志書院
中川成夫ほか 1963 『新潟県村杉遺跡の調査』 北方文化博物館
中川成夫ほか 1971 「水原郷の遺跡・遺物」『水原郷』 新潟県教育委員会
中川成夫・川上貞雄・土井義夫　1973 『笹神村文化財調査報告４ 狼沢窯址群の調査』 笹神村教育委員会
中山俊道・渡辺達郎　2000 『笹神村文化財調査報告 10 浦林遺跡』 笹神村教育委員会
中島栄一・渡邊朋和　1989 「浮線網状文系土器様式」『縄文土器大観』4 後期 晩期 続 縄文　小学館
藤沼邦彦・関根達人　2008 「亀ヶ岡式土器（亀ヶ岡系土器群）」『総覧 縄文土器』 総覧 縄文土器刊行委員会
藤沼邦彦　1989 「亀ヶ岡式土器様式」『縄文土器大観』4 後期 晩期 続 縄文　小学館
藤村東男ほか 1988 『北上市文化財調査報告第 47 集 九年橋遺跡第 11 次調査報告書』 北上考古学会
古澤妥史　2002 「第Ⅳ章 3A（5）埋設土器」『朝日村文化財報告書第 22 集 元屋敷遺跡（上段）』 新潟県朝日村教育委員会
古澤妥史ほか 2003 『京ヶ瀬村埋蔵文化財発掘調査報告書第２集 大割遺跡・猫山遺跡・大曲川端遺跡』 京ヶ瀬村教育委員会
古澤妥史ほか 2005 『阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書第１集 土居内西遺跡』 阿賀野市教育委員会
古澤妥史　2010 『阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書第３集 猫山遺跡確認調査報告書』 阿賀野市教育委員会
古澤妥史ほか 2011a 『阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書第４集 境塚遺跡・山口野中遺跡・三辺稲荷遺跡発掘調査報告書』 阿賀野市教育委員会

古澤妥史ほか 2011b 『阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書第 5 集　三辺稲荷遺跡（弥生時代編）』 阿賀野市教育委員会
古澤妥史　2013 『縄文時代後・晩期土器の研究－新潟県奥三面遺跡群の資料を中心にして－』 新潟大学大学院現代社会文化研究科
古澤妥史　2014 『阿賀野市石船戸遺跡の調査』 新潟史学会発表資料
本間信昭ほか 1974 『安田町文化財調査報告（3）藤堂遺跡発掘調査概報』 安田町教育委員会
水澤幸一　2005 「越後の中世土器」『新潟考古』第 16 号　新潟県考古学会
水澤幸一　2007 「中世越後の土器と陶磁器－ 11 ～ 14c. 前半」『中世のカワラケと輸入陶磁器・瀬戸美濃製品』北陸中世考古学研究会
宮本長二郎　1999 「日本中世住居の形成と発展」『建築史の空間』 中央公論美術出版
村上章久ほか 2013 『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 248 集　山口野中遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
望月誠司　2006 「第二編　歴史考古　古代篇　第 5 章　日本海地域の古代土器生産」『日本海域歴史体系』第二巻古代篇Ⅱ　青文堂出版株式会社
山口陽子ほか 2000 『新潟県安田町文化財調査報告 13　小山崎遺跡発掘調査報告書』 安田町教育委員会
山本信夫　2000 『大宰府条坊跡 XV －陶磁器分類編－』 大宰府市教育委員会
吉岡康暢　1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館
吉田東伍　1889 「越後国北蒲原郡安田村ツベタ岡古代土器」『東京人類学会雑誌』第 4 巻第 41 号
渡邊朋和　1992 「新潟県」『縄文晩期の諸問題』第 5 回セミナー　縄文セミナーの会
渡邊朋和　1998 「新潟県における縄文時代晩期終末期の土器様相」『水遺跡発掘調査資料図譜』第三冊－縄文時代晩期終末期の土器群の研究－』
渡邊裕之　1998 「新潟県における縄文時代晩期後半の粗製土器－鳥屋式土器の理解にむけて－」『新潟考古学談話会会報』第 18 号　新潟考古学談話会
渡邊裕之ほか 2009 『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 196 集　野地遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
渡辺文男　1978 「五頭山麓　赤坂山の中世陶窯」『新潟史学』第 11 号　新潟史学会

上層　掘立柱建物（SB）観察表

出土遺物の後に付した数字は報告番号を示す。

遺構番号	図版番号	位置	形式	梁間	桁行	梁行長（m）	梁行柱間長（m）	桁行長（m）	桁行柱長（m）	全体床面積（㎡）	長軸方向	備考
SB6	7・15・81	12M	側柱建物	(1)	2	2.25	2.25	2.64	1.42 ～ 1.22	5.94	N-28° -W	－
SB7	14・15・80・81	28U	総柱建物	2	2	3.15	1.45 ～ 2.05	3.95	1.58 ～ 2.35	12.4	N-23° -W	－
SB8	13 ～ 15・80	26X	側柱建物	(2)	2	4.08	2.15	4.96	2.42 ～ 2.53	20.2	N-15° -E	－
SB9	13 ～ 15・80	26・27U, 26・27V	片面廂建物	1	2	4.81	3.70 ～ 3.85	5.60	2.35 ～ 3.21	26.9（21.0）	N-20° -E	－

上層　掘立柱建物（SB）の柱穴

SB6

遺構番号	位置	規模			底面標高（m）	出土遺物	重複関係
		長径（cm）	短径（cm）	深度（cm）			
230	12M24	46	40	18	6.491	－	－
231	12M19・24	47	41	17	6.484	－	－
232	12M18・19	42	40	32	6.336	－	－
233	12M18	39	34	13	6.545	－	－

SB7

遺構番号	位置	規模			底面標高（m）	出土遺物	重複関係
		長径（cm）	短径（cm）	深度（cm）			
379	28U19・24	77	43	9	6.676	－	－
380	28U18	33	30	36	6.378	－	－
381	28U12	42	40	59	6.131	－	－
383	28U11・16	27	25	46	6.243	－	－
389	28U13	41	40	19	6.374	－	－
417	28U17・18	34	32	42	6.305	－	－
428	28U17	26	24	51	6.020	－	－
430	28U22	32	30	52	6.220	－	－
486	28U23	35	32	37	6.373	－	－

SB8

遺構番号	位置	規模			底面標高（m）	出土遺物	重複関係
		長径（cm）	短径（cm）	深度（cm）			
452	26X13	50	41	33	6.563	－	－
456	26X6	56	49	49	6.432	－	－
458	26X11	40	37	22	6.606	－	－
466	26X21・22	40	33	26	6.620	－	－
467	25X20, 26X16	41	36	35	6.564	－	－

SB9

遺構番号	位置	規模			底面標高（m）	出土遺物	重複関係
		長径（cm）	短径（cm）	深度（cm）			
404	27V11	48	44	59	6.177	－	－
405	27V6	34	31	60	6.170	－	－
406	27V6	40	31	53	6.218	－	－
408	26V4	46	36	42	6.324	－	－
413	27U21	23	21	54	6.167	－	－
414	27U22	26	22	52	6.194	－	－
418	26V15	35	33	45	6.313	－	－
424	26V9	34	29	36	6.435	－	－
487	26U24・25	40	37	50	6.234	－	－

上層　井戸（SE）観察表

遺構番号	図版番号			位置	形態		規模			底面標高（m）	覆土堆積形状	出土遺物	重複関係
	平面図	断面図	写真		平面形	断面形	長径（cm）	短径（cm）	深度（cm）				
308	9・16	16	81	17R6・7	円形	階段状	97	90	79	5.904	A	－	<SD300
349	10・16	16	81	19S16・17	円形	箱状	107	105	191	4.720	G	土師質土器皿 1, 珠洲焼片口鉢 2, 珠洲焼甕 3, 瓷器系陶器甕 4, 土器転用研磨具 39・40, 砥石 44, 刀子 49	－
386	14・16	16	81	28V3・4・8・9	楕円形	漏斗状	305	250	232	4.450	C	曲物 68, 土師質土器皿 5 ～ 7, 珠洲焼片口鉢 8, 刀子 50	－
396	14・17	17	81	28U19・20・24・25	円形	U字状	185	175	107	5.690	A	－	－
398	14・17	17	81	27T25, 27U5, 28U1	円形	台形状	170	146	120	5.490	A	－	>SK412
478	14・17	17	82	28V1	楕円形	階段状	119	99	65	6.140	A	－	>SE479
479	14・18	18	82	27U25, 28U21, 27V5, 28V1	円形	漏斗状	189	164	227	4.480	A	珠洲焼片口鉢 9・10, 珠洲焼甕 11, 珠洲焼壺 12, 瓷器系陶器甕 13, 横桟 69 ～ 71, 縦板 72, 曲物 73・74	<SE478
520	7・8・17	17	82	15L25	楕円形	U字状	122	93	204	4.660	B	漆器椀 75	－

上層　土坑（SK）観察表（1）

遺構番号	図版番号			位置	形態			規模			底面標高（m）	長軸方向	覆土堆積形状	出土遺物	重複関係
	平面図	断面図	写真		平面形	断面形	立ち上がり	長径（cm）	短径（cm）	深度（cm）					
312	10・18	18	82	22P7・12	楕円形	弧状	緩やか	103	86	25	6.619	N-25° -W	B	－	>SD553
313	10・18	18	82	22P13・14	楕円形	台形状	緩やか	79	50	18	6.692	N-68° -W	A	－	－
317	10・18	18	－	19T5, 20T1	円形	台形状	急斜度	(50)	50	12	6.573	N-85° -E	D	－	－
318	10・18	18	－	19T10	楕円形	台形状	緩やか	76	41	10	6.580	N-45° -W	D	－	－
326	4・18	18	－	4G5, 5G1	楕円形	台形状	急斜度 緩やか	78	55	18	6.209	N-73° -W	A	－	－
327	5・19	19	－	8I13	楕円形	台形状	急斜度	(46)	35	31	6.206	N-50° -E	A	－	>P328
336	7・19	19	83	13M5, 14M1	円形	台形状	急斜度	108	93	24	6.377	N-25° -W	A	－	－
343	10・19	19	－	20S2・7	長方形	台形状	緩やか	(143)	90	13	6.588	N-18° -E	D	土師質土器皿 14	<SD11
346	9・19	19	83	17R2	楕円形	台形状	急斜度	100	52	22	6.446	N-52° -E	A	－	>SK362
350	10・19	19	－	18S15	円形	台形状	急斜度	80	69	25	6.409	N-64° -W	B	－	>SK361
351	9・10・19	19	83	18R17	円形	台形状	急斜度	75	70	8	6.539	N-70° -E	A	－	－
358	10・19	19	－	19S18・19	円形	台形状	緩やか	65	58	11	6.480	N-39° -E	D	－	>SD11
361	10・19	19	－	18S15	楕円形	台形状	急斜度	(48)	60	28	6.346	N-64° -W	B	－	<SK350
362	9・19	19	83	17R1・2	円形	台形状	急斜度	107	(97)	44	6.208	N-83° -E	A	土師質土器皿 15	<SK346
382	14・19	19	－	28U12	円形	台形状	緩やか	70	61	6	6.630	N-56° -E	D	－	－
385	14・19	19	83	28V8	楕円形	台形状	急斜度	75	60	17	6.610	N-52° -W	D	－	－
387	14・19	19	－	26U14・15	円形	台形状	緩やか	76	70	11	6.603	N-33° -W	D	－	－
390	14・19	19	83	27U15	円形	台形状	緩やか	120	105	15	6.613	N-33° -E	A	－	－
392	14・19	19	－	26U9	楕円形	弧状	緩やか	94	60	14	6.580	N-32° -E	D	－	－
394	14・20	20	－	28V1・2	円形	台形状	緩やか	95	85	14	6.625	N-56° -W	－	－	－
395	13・14・20	20	83	26U23, 26V3	円形	台形状	緩やか	98	95	20	6.536	N-30° -E	A	－	－

上層　土坑（SK）観察表（2）

遺構番号	図版番号			位置	形態			規模			底面標高（m）	長軸方向	覆土堆積形状	出土遺物	重複関係
	平面図	断面図	写真		平面形	断面形	立ち上がり	長径（cm）	短径（cm）	深度（cm）					
397	14・20	20	83	27T18・19・23・24	円形	台形状	急斜度	142	（104）	18	6.476	N-52°-W	D	珠洲焼片口鉢 16	－
399	14・20	20	83	28U21・22	円形	台形状	急斜度	139	127	59	6.099	N-38°-E	A	－	－
400	14・20	20	－	28V9	楕円形	台形状	緩やか	70	55	10	6.708	N-15°-E	D	－	<SK401
401	14・20	20	－	28V9	円形	台形状	緩やか	75	63	13	6.715	N-9°-E	D	－	>SK400
403	14・20	20	84	27V18・19	円形	台形状	急斜度	95	85	35	6.396	N-88°-E	A	－	－
407	14・20	20	－	27W2・7	円形	弧状	緩やか	90	78	11	6.742	N-70°-E	D	－	－
412	14・17	17	81	27U5, 28U1	（円形）	弧状	緩やか	（86）	（76）	5	6.603	－	D	－	<SE398, P411
426	13・14・20	20	－	26X13	（楕円形）	台形状	緩やか	（130）	88	17	6.720	N-59°-W	A	－	－
427	13・14・20	20	－	26U18・19・23・24	円形	台形状	緩やか	105	90	14	6.605	N-23°-E	D	－	－
433	14・20	20	－	27V24・25, 27W4・5	円形	台形状	急斜度	178	152	18	6.714	N-1°-E	D	－	>SK488
437	13・21	13・14・21	84	26W4・9	円形	台形状	急斜度	133	128	65	5.904	N-27°-E	A	－	－
441	14・20	20	－	28V18	円形	台形状	緩やか	58	50	10	6.765	N-28°-W	D	－	－
444	13・14・21	21	－	26X9・10	円形	台形状	緩やか	68	59	6	6.790	N-7°-E	D	－	>SK445
445	13・14・21	21	－	26X10	（楕円形）	台形状	緩やか	（70）	（48）	8	6.781	N-10°-W	D	珠洲焼片口鉢 17	<SK444
468	13・21	21	－	25Y5, 26Y1	楕円形	台形状	急斜度	（102）	140	43	6.450	N-72°-W	A	－	－
471	13・21	21	84	25Y7・12	円形	台形状	急斜度	100	86	38	6.469	N-60°-W	A	－	－
476	13・14・21	21	84	26V8	楕円形	台形状	緩やか	100	70	19	6.668	N-7°-E	C	－	－
481	13・14・21	21	－	28U16	楕円形	台形状	急斜度	（70）	（50）	30	6.420	－	D	－	－
488	13・14・21	21	84	27V23・24, 27W3・4・8・9	楕円形	台形状	緩やか	359	206	29	6.523	N-8°-E	A	刀子 51	<SK433

上層　溝（SD）観察表

遺構番号	図版番号			位置	形態		規模			底面標高（m）	長軸方向	覆土堆積形状	出土遺物	重複関係
	平面図	断面図	写真		平面形	断面形	長径（m）	短径（cm）	深度（cm）					
11	9～12	22	85	17S～20S, 20T, 21V, 22W	不整形	台形状	（29.0）	234～471	32	5.936	N-85°-W	B	刀子 52	>SK343，<SK358, SD6・30・303・304・306
15	11・12	－	－	22W1・2・6	直線	台形状	（1.9）	130	46	6.161	N-25°-E	A	－	－
24	12	－	－	22W14・19	直線	台形状	（2.4）	109	14	6.608	N-2°-W	D	－	－
25	12	22	－	23V・W	U字状	台形状	（6.9）	50～72	8	6.696	N-17°-E	D	－	－
37	10	22	85	22P・Q	直線	台形状	（11.5）	32～56	20～25	6.487	N-28°-W	D	－	－
40	10	22	85	21P・Q・R	直線	台形状	（22.6）	61～200	48～82	5.831	N-11°-E	A	－	=SD553・554
300	9	22	85	16Q・R, 17R	直線	台形状	（9.5）	31～170	9～26	6.423	N-67°-W	B	珠洲焼片口鉢 19～21, 土器転用研磨具 41, 砥石 45	>SE308
303	9・10	22	85	17R24・25, 18R21, 17S4・5, 18S1	直線	弧状	（5.6）	111～147	22～30	6.383	N-84°-W	A	－	>SD11
304	9・10	22	－	17S10, 18S6	L字状	弧状	（2.3）	31～50	8～12	6.619	N-80°-W	D	－	>SD11
306	10	22	－	18S7・8	直線	台形状	（2.9）	30～55	12～15	6.549	N-88°-W	D	－	>SD11
347	9	22	84	17Q・R	直線	台形状	（13.5）	25～62	26～41	6.384	N-16°-E	A	－	－
490	13	22	－	25Y9・14	直線	台形状	（2.0）	45～63	12	6.553	N-7°-E	D	－	－
553	10	22	85	21Q, 22P・Q	直線	台形状	（16.9）	50～173	60～75	5.841	N-20°-E	A	－	<SK312, =SD40
554	10	22	85	21P・Q	直線	台形状	（6.8）	46～60	40～42	6.160	N-15°-E	A	－	=SD40

上層　道 1 観察表

遺構番号	図版番号			位置	形態		規模			底面標高（m）	長軸方向	覆土堆積形状	出土遺物	重複関係
	平面図	断面図	写真		平面形	断面形	立ち上がり	長径（cm）	短径（cm）	深度（cm）					
6	11	22	85	20U9・13・14・19	直線	台形状	急斜度	（330）	160	28	6.381	N-35°-E	A	－	>SD11
30	11	22	85	20U20・25 21U16・21	直線	台形状	急斜度	（220）	138	70	5.960	N-39°-E	A	－	>SD11

上層　ピット（P）観察表

遺構番号	図版番号			位置	形態		規模			底面標高（m）	覆土堆積形状	出土遺物	重複関係
	平面図	断面図	写真		平面形	断面形	立ち上がり	長径（cm）	短径（cm）	深度（cm）			
328	5・19	19	－	8I13	円形	－	緩やか	29	22	6	6.441	D	－	<SK327
411	14・17	17	81	27U5, 28U1	円形	U字状	垂直	35	34	24	6.284	D	－	>SK412

上層　性格不明遺構（SX）観察表

遺構番号	図版番号			位置	形態		規模			底面標高（m）	長軸方向	覆土堆積形状	出土遺物	重複関係
	平面図	断面図	写真		平面形	断面形	長径（m）	短径（cm）	深度（cm）					
525	9	22	84	17R13・14・17・18・23	長方形	台形状	（4.0）	155～190	26～50	6.282	N-14°-E	B	－	－

中層　掘立柱建物（SB）観察表

遺構番号	図版番号	位置	形式	梁間	桁行	梁行長（m）	梁行柱間長（m）	桁行長（m）	桁行柱間長（m）	全体床面積（㎡）	長軸方向	備考
SB10	26・27	19・20S	側柱建物	1	2	1.8	1.65 ～ 1.8	2.2	0.7 ～ 1.24	3.96	N-24° -E	－

中層　掘立柱建物（SB）の柱穴

SB10

遺構番号	位置	規模			底面標高（m）	出土遺物	重複関係
		長径（cm）	短径（cm）	深度（cm）			
542	19S5	35	32	13	6.472	－	－
543	19S5, 20S1	26	21	6	6.555	－	－
544	20R21, 20S1	33	28	11	6.498	－	－
545	20S2	27	24	16	6.466	－	－
546	20S1	28	26	38	6.243	－	－
547	20S6	33	29	20	6.412	－	－

中層　土坑（SK）観察表

遺構番号	図版番号			位置	形態			規模			底面標高（m）	長軸方向	覆土堆積形状	出土遺物	重複関係
	平面図	断面図	写真		平面形	断面形	立ち上がり	長径（cm）	短径（cm）	深度（cm）					
503	24・27	27	86	15L21・22, 15M1・2	円形	台形状	緩やか	188	175	25	5.922	N-17° -W	A	－	－
514	24・27	27	－	14O3	円形	台形状	緩やか	93	91	6	6.231	N-62° -W	D	－	<P513
531	26・27	27	86	18R17	円形	台形状	緩やか	86	79	13	6.453	N-33° -E	D	－	－
559	25～27	27	－	17Q21, 17R1	（長方形）	台形状	急角度	（107）	60	18	6.324	N-24° -E	D	－	－

中層　溝（SD）観察表

遺構番号	図版番号			位置	形態		規模			底面標高（m）	長軸方向	覆土堆積形状	出土遺物	重複関係
	平面図	断面図	写真		平面形	断面形	長径（m）	短径（cm）	深度（cm）					
46	25・26	27	86	19N, 20N・O・P・Q・R, 21 P・Q・R	直線	台形状	（41.8）	86 ～ 120	46	5.823 ～ 6.041	N-20° -W	A	－	－
533	26	27	－	18S7・8・9・13・14	直線	台形状	（3.3）	46 ～ 62	22	6.228	N-82° -W	D	－	－
556	24	27	－	15M15, 16M11・12	直線	弧状	（9.3）	26 ～ 40	8	6.155	N-86° -E	D	－	－

中層　ピット（P）観察表

遺構番号	図版番号			位置	形態			規模			底面標高（m）	覆土堆積形状	出土遺物	重複関係
	平面図	断面図	写真		平面形	断面形	立ち上がり	長径（cm）	短径（cm）	深度（cm）				
529	26・27	27	－	18R17・22	円形	U字状	垂直	35	30	56	5.996	E	－	－
538	26・27	27	－	19S18	円形	漏斗状	急斜度	26	24	40	6.170	E	－	－
557	26・27	27	－	18Q22	円形	U字状	急斜度	40	35	64	6.161	E	－	－
558	26・27	27	－	20S16	円形	U字状	垂直	34	33	62	5.765	E	－	－

中層　性格不明遺構（SX）観察表

遺構番号	図版番号			位置	形態		規模			底面標高（m）	長軸方向	覆土堆積形状	出土遺物	重複関係
	平面図	断面図	写真		平面形	断面形	長径（m）	短径（cm）	深度（cm）					
524	25	27	－	18M2・3・6・7・11・12・16・17	不整形	台形状	（6.7）	115 ～ 213	14	6.238	N-27° -E	D	－	－

下層　竪穴建物（SI）　観察表

遺構番号	図版番号			位置	規模			底面標高（m）	長軸方向	出土遺物	重複関係
	平面図	断面図	写真		長径（cm）	短径（cm）	深度（cm）				
860	30・34 36・37	36	78・87 ～ 89	17M20・24・25, 18M16・17・21・22, 17N4・5・10, 18N1 ～ 3・6・7	（686）	575	14	4.700	N-90°	縄文土器 1-3, 5・6, 8-11, 石器 14・35・48・57	
860-炉	30・36	36	88	18M21・22, 18N1	151	88	42	4.691	N-71° -W	－	－
P873	30・36	36	88	18M22	（64）	（50）	19	4.699	N-77° -E	縄文土器 4・7	
P874	30・36	36	89	18M21	34	32	25	4.242	N-45° -W	－	
P895	30・36	36	89	18N6	28	23	22	4.523	N-24° -W	－	>P896
P896	30・36	36	89	18N6	23	19	22	4.667	N-30° -W	－	<P895
P899	30・36	36	89	18M16・21	33	30	36	4.611	N-48° -W	－	
P901	30・36	36	89	18M22, 18N2	39	22	28	4.434	N-19° -E	－	
P902	30・36	36	－	17M25	（25）	（23）	27	4.040	N-60° -E	－	
P917	30・36	36	89	18M22	16	14	13	4.700	N-78° -W	石器 57	
P919	30・36	36	89	18M21	18	15	19	4.492	N-63° -W	－	
P921	30・36	36	89	18M21	28	24	32	4.263	N-54° -W	－	
P922	30・36	36	－	18M21・22	30	27	22	4.449	N-81° -W	－	
P923	30・36	36	89	18N1	38	25	（60）	4.174	N-7° -W	－	

下層　焼土・炭化物の集積（SC）　観察表

遺構番号	図版番号			位置	規模			底面標高（m）	長軸方向	出土遺物	重複関係
	平面図	断面図	写真		長径（cm）	短径（cm）	深度（cm）				
283	31・35・37	37	90	19R13	80	74	13	5.280	N-31° -E	－	－
800	30・34・37	37	90	16Q4・5・9・10	202	198	6	5.695	N-63° -W	縄文土器 12,	－
801	30・34・38	38	90	17P16・17・21～23, 17Q1～3・6～8	576	486	18	5.750	N-31° -W	縄文土器 13～19, 石器 5	≠ SC801-P1～P4
SC801　P1	30・34・38	38	－	17Q2・7	32	30	37	5.610	－	－	≠ SC801
SC801　P2	30・34・38	38	－	17Q2	28	23	7	5.660	－	－	≠ SC801
SC801　P3	30・34・38	38	－	17Q1・6	61	54	6	5.640	－	－	≠ SC801
SC801　P4	30・34・38	38	－	17Q6	54	42	7	5.650	－	－	≠ SC801
802	31・35・38	38	90	17Q13・14・18・19	286	252	16	5.640	N-75° -E	－	－
803	31・35・38	38	90	18P22・23, 18Q2・3・7・8	328	298	15	5.230	N-55° -W	縄文土器 20	－
804	31・35・39	39	91	18Q13～15・17～20・22～25, 19Q16・21, 18R2～5・8～10, 19R1	837	778	5	5.450	N-57° -E	縄文土器 21～28, 石器 4・37	≠ P892
806	31・35・40	40	91	18Q5・10, 19Q1・6	130	104	7	5.095	N-32° -W	縄文土器 29	－
807	31・35・40	40	92	18S13・14	150	91	14	5.658	N-87° -W	－	－
808	31・35・40	40	－	20P21・22, 20Q1～3・6～8	(437)	350	16	5.050	N-89° -W	縄文土器 33・34	－
809	31・35・40	40	－	20P24	103	70	2	4.910	N-5° -E	－	－
810	31・35・40	40	92	20Q4・9	123	(78)	7	4.976	N-61° -W	－	－
811	31・35・40	40	－	20P25, 20Q5, 21P16・21, 20Q1	412	122	8	4.907	N-14° -E	縄文土器 30～32	－
815	30・34・41	41	92	15P4・5・8～10・13～15	(499)	308	21	5.852	N-14° -E	縄文土器 35・36, 石器 7・16・19・27・34・54	－
816	30・34・41	41	92	14O14・15・19・20・25, 15O11・16・21	(454)	(355)	18	5.740	N-47° -W	縄文土器 37～39, 石器 13・29	－
817	30・34・41	41	92	17O17～19・22～25, 17P3	440	310	17	5.193	N-68° -E	縄文土器 40, 石器 15・28	－
818	30・34・40	40	－	16P3・8	155	122	6	5.542	N-18° -E	－	－
821	31・35・40	40	－	18S2・3・7・8	212	195	12	5.769	N-14° -W	－	－
825	30・34・42	42	78・93	17N11～14・16～19・22～24	526	(470)	44	4.271	N-48° -W	縄文土器 41～53, 石器 6・8・12・23・25・56・58, 糸玉 64～68	≠ SC825-P1・P2
SC825　P1	30・34・42	－	－	17N18	55	54	23	4.775	－	－	≠ SC825
SC825　P2	30・34・42	－	－	17N13	53	52	20	4.637	－	－	≠ SC825
842	30・34・43	43	78・94・95	16M19・20・24・25, 16N5, 17M16・17・21・22, 17N1	534	338	3	5.048	N-71° -E	縄文土器 54～57, 石器 10・24・31・50, 漆製品 69	≠ SC842-P1・P2
845	30・34・40	40	－	19M21	78	62	7	4.968	N-71° -E	－	－
847	30・34・40	40	－	18N19・24	60	59	6	4.903	N-48° -W	－	－
850	31・35・43	43	92	19N20・25, 20N16・21	240	176	12	4.942	N-54° -W	土器 58・59, 石器 9	－
856	30・34・40	40	－	19N16	59	52	6	4.893	N-37° -E	－	－
858	30・34・40	40	92	19N13・14	65	55	4	4.983	N-8° -E	－	－
859	31・35・44	44	78・95	18O15・20, 19O6～9・11～14・16～19・21～23	(784)	(565)	12	4.793	N-77° -E	縄文土器 60～71, 石器 20・26・45・51・61	≠ SC859-P1
SC859　P1	31・35・44	44	95	18O15, 19O11	(54)	(49)	28	4.334	N-63° -W	－	≠ SC859
861	30・34・45	45	96	17M10・15, 18M1～3・6～8・11～13・16・17	(660)	517	8	4.690	N-36° -E	縄文土器 75～79, 石器 32	≠ P915・916
863	31・35・43	43	77	18S4・5・9・10	248	228	18	5.318	N-87° -W	石器 18	－
866	30・34・46	46	96	18O23・24, 18P3・4	288	253	18	5.104	N-3° -E	縄文土器 80, 石器 21	－
867	31・35・46	46	96	18O25, 18P5	128	107	8	5.083	N-25° -W	－	－
868	30・34・46	46	－	17M22～24, 17N2～4・8・9	(398)	(362)	19	4.884	N-39° -E	縄文土器 81・82, 石器 2, アスファルト 70	－
870	31・35・46	46	96	18P14・15・19・20	130	129	8	5.060	N-39° -W	－	－
871	31・35・46	46	－	19O10・15, 20O6・11	140	122	9	4.728	N-69° -E	－	－
872	31・35・46	46	－	19P23	(50)	(40)	5	5.219	N-85° -E	－	
876	31・34・46	46	－	19N21	(108)	(78)	19	4.784	N-76° -W	－	
879	30・35・47	47	96	19R9・10・14・15, 20R1・6	430	(386)	10	5.123	N-85° -W	縄文土器 72～74, 石器 46	≠ P906・930
880	31・35・47	47	97	20O1・2・6・7	(138)	(126)	4	4.710	N-63° -E	石器 36	－
884	31・35・46	46	97	19P9・14	100	77	2	4.859	N-41° -E	－	－
885	31・35・47	47	－	20P3・4・8・9	272	199	8	4.704	N-24° -E	－	－
889	31・35・48	48	－	20R11・12・16・17	116	74	3	5.210	N-41° -E	－	－
890	30・34・48	48	－	18N4	87	79	10	4.723	N-51° -W	－	－
891	30・34・48	48	－	18N4・5	118	102	10	4.755	N-80° -E	－	－
893	30・34・48	48	－	18M15・20, 19M11・16	(110)	(76)	5	4.801	N-59° -E	－	－
911	31・35・48	48	97	17R8・9・13・14	147	93	10	5.722	N-38° -W	－	－
914	30・34・48	48	97・98	17P5・9・10・14・15, 18P6・11	349	308	16	5.270	N-17° -W	縄文土器 83・84, 石器 59・63	－
918	31・35・48	48	97	21O6	83	29	4	4.749	N-51° -W	－	－
934	30・34・48	48	－	17P16	98	90	6	5.490	N-60° -E	－	－

下層　埋設土器　観察表

遺構番号	図版番号			位置	器種	埋設態位	欠損状態	付随物	単・複・近	出土遺物
	平面図	断面図	写真							
埋設 1	30・34・49	49	78	16P1	壺	(A)	1	a	i	縄文土器 85
埋設 824	30・34・49	49	78・98	17M9	深鉢・甕	A	1	d	ii	縄文土器 86 ～ 89, 石器 38・40 ～ 42
埋設 828	30・34・49	49	98	17L25	深鉢・甕	－	－	c	iii	縄文土器 90
埋設 830	30・34・50	50	98	17M3・8	浅鉢・深鉢・甕	A	1	c	iii	縄文土器 91 ～ 93
埋設 834	30・34・49	49	99	17L22	深鉢・甕	－	－	a	i	縄文土器 94
埋設 837	29・33・51	51	99	15M12	甕	－	－	a	iii	縄文土器 95
埋設 839	30・34・50	50	99	17M7	深鉢・甕	(A)	1	c	iii	縄文土器 98・99
埋設 840	30・34・50	50	99	16M10	浅鉢・甕	(A)	1	a	iii	縄文土器 100・101
埋設 883	29・33・51	51	77・99	13M19	深鉢・甕	(A)	1	a	ii	縄文土器 96 ～ 97
埋設 887	31・35・51	51	99	21O16・17・21・22	浅鉢	A	4	a	i	縄文土器 102
埋設 894	31・35・49	49	100	20N16	深鉢・甕	A	1	a	i	縄文土器 103
埋設 898	30・34・51	51	－	18O23	深鉢・甕	－	－	a	i	縄文土器 104
埋設 903	30・34・51	51	100	17M10	鉢	A	1	a	iii	縄文土器 105
埋設 908	30・34・51	51	100	17M2・3	深鉢・甕	B	1	a	i	縄文土器 106
埋設 924	29・33・51	51	－	15M17	浅鉢	A	1	a	iii	縄文土器 107
埋設 928	31・35・51	51	100	17R14	深鉢・甕	A・B	1	a	ii	縄文土器 108・109
埋設 933	30・34・53	53	100	16P19	甕	C	1	a	i	縄文土器 110・111

下層　土器集中観察表

遺構番号	図版番号			位置	出土遺物	備考
	平面図	断面図	写真			
土器集中 1	31・35・52	52	100	19R22, 19S2・3	縄文土器 112 ～ 115, 石器 53	－
土器集中 2	31・35・52	52	100	19R19	縄文土器 116	－
土器集中 3	31・35・52	52	－	19R21・22, 19S2	縄文土器 117 ～ 119	－
土器集中 820	29・33・53	53	101	13L1	縄文土器 120	－
土器集中 822	29・33・53	53	－	15L13・18	縄文土器 121	－
土器集中 831	30・34・50	50	－	17M2・7	－	－
土器集中 832	30・34・50	－	－	17M2	－	－
土器集中 833	30・34・50	50	－	17M2	－	－
土器集中 835	30・34・50	50	101	16M5, 17M1	縄文土器 123 ～ 125	－
土器集中 836	30・34・50	50	－	17M6	縄文土器 122	－
土器集中 838	29・33・53	－	－	14M14	縄文土器 126	－
土器集中 852	31・35・53	53	－	18R11・16	縄文土器 127・128	－
土器集中 864	30・34・53	53	－	19N10	縄文土器 129	－
土器集中 865	30・34・54	54	101	18O2・3	縄文土器 130・131	－
土器集中 881	31・35・53	53	－	18P15	縄文土器 132 ～ 135	－
土器集中 886	31・35・53	53	101	19P12	縄文土器 136	－
土器集中 888	31・35・54	54	－	18O25, 19O21	縄文土器 137	－
土器集中 932	30・34・54	54	101	17P6	縄文土器 138	－

下層　ピット（P）　観察表

遺構番号	図版番号			位置	規模			底面標高 (m)	覆土堆積形状	出土遺物	重複関係
	平面図	断面図	写真		長径 (cm)	短径 (cm)	深度 (cm)				
848	30・34・54	54	101	18N15	74	66	40	4.573		－	－
851	31・35・54	54	－	18S9	(24)	(19)	37	5.330		石器 13	－
854	30・34・40	40	－	18N20, 19N16	36	25	20	4.741		－	－
855	30・34・54	54	101	19N16	62	50	25	4.701		－	
877	30・34	－	－	18N15, 19N11	(55)	(37)	32	4.318		アスファルト 71	－
878	30・34・54	54	101	19N11	(46)	(45)	40	4.480		－	－
892	31・35・39	39	－	18Q20	(30)	(25)	18	5.099		－	≠ SC804
906	31・35・47	47	－	19R10	22	20	36	4.770		－	≠ SC879
915	30・34・45	45	－	18M12	38	30	26	4.263		－	≠ SC861
916	30・34・45	45	－	17M10・15, 18M6・11	36	34	33	4.374		－	≠ SC861
925	31・35・54	54	－	17R14	26	22	32	5.428		石器 39	－
927	31・35・39	39	－	19R1	56	50	11	5.206		－	－
930	31・35・47	47	－	19R10・15	30	22	36	4.780		－	≠ SC879

中世　土器・陶磁器観察表

凡例：部位は以下のように表記する。
口＝口縁部、底＝底部、内＝内面、外＝外面。
胎土：石＝石英、長＝長石、雲＝雲母、骨＝海綿骨針、礫＝砂礫、砂＝砂粒

報告番号	分類		グリッド		遺構		層位	法量（cm）			色調 上段：外面 下段：内面	胎土	成形・調整	付着物	備考
	種類	器種	大	小	種別	番号		口径	器高	底径					
1	土師質土器	小皿	19S	－	SE	349	覆土	6.4	1.5	4.2	灰白 浅黄橙	砂	ロクロ成形 底：回転ヘラ切り	－	－
2	珠洲焼	片口鉢	19S	－	SE	349	覆土	－	－	－	灰 灰	長	ロクロ成形 内：卸し目（10 目）	－	－
3	珠洲焼	甕	19S	－	SE	349	4	－	－	－	暗灰 暗灰	長	外：平行タタキ	ススス	－
4	瓷器系陶器	甕	19S	－	SE	349	4	－	－	－	褐 褐	長・礫	ナデ	ススス	－
5	土師質土器	皿	28V	－	SE	386	1	－	－	－	浅黄橙 灰白	砂	ロクロ成形	－	－
6	土師質土器	皿	28V	－	SE	386	1	－	－	8.2	灰白 灰白	砂	ロクロ成形 底：回転ヘラ切り	－	－
7	土師質土器	皿	28V	－	SE	386	1	－	－	8.0	灰白 浅黄橙	石・長	ロクロ成形	－	－
8	珠洲焼	片口鉢	28V	－	SE	386	7	－	－	－	灰白 灰白	礫	ロクロ成形	－	珠洲Ⅳ期
9	珠洲焼	片口鉢	27・28U, V	－	SE	479	覆土	－	－	－	灰白 灰白	長・海骨	ロクロ成形 内：卸し目（9 目）	ススス	珠洲Ⅳ期
10	珠洲焼	片口鉢	27・28U, V	－	SE	479	覆土	－	－	－	灰 灰	長	ロクロ成形 内：卸し目（4 目）	－	珠洲Ⅳ期
11	珠洲焼	甕	27・28U, V	－	SE	479	覆土	－	－	－	灰 灰	長・海骨	外：平行タタキ	－	珠洲Ⅳ期
12	珠洲焼	壺	27・28U, V	－	SE	479	覆土	－	－	－	灰 灰	長	口内：櫛目波状文 外：平行タタキ	－	珠洲Ⅳ期
13	瓷器系陶器	甕	27・28U, V	－	SE	479	覆土	－	－	－	灰白 褐灰	礫	ナデ	－	体部に押印。
14	土師質土器	皿	20S	－	SK	343	1	12.0	3.0	8.0	灰白 灰白	砂	ロクロ成形	－	－
15	土師質土器	皿	17R	2	SK	362	2	13.0	－	－	浅黄橙 浅黄橙	砂	ロクロ成形	タール	灯明皿として使用か。
16	珠洲焼	片口鉢	27T	－	SK	397	覆土	－	－	－	にぶい黄橙 にぶい黄橙	長	ロクロ成形 内：卸し目（7 目）	ススス	－
17	珠洲焼	片口鉢	26X	－	SK	445	1	－	－	－	灰 灰	長・海骨	ロクロ成形 内：卸し目（11 目）	－	珠洲Ⅳ期
18	珠洲焼	片口鉢	26X	－	P	450	1	－	－	12.5	灰色～灰白 灰白	長	ロクロ成形	ススス	－
19	珠洲焼	片口鉢	17R	1	SD	300	1	－	－	－	灰 灰	長・海骨	ロクロ成形 内：卸し目（9 目以上）	－	珠洲Ⅳ期
20	珠洲焼	片口鉢	17R	1	SD	300	1	－	－	－	灰白 灰	長	ロクロ成形 内：卸し目（4 目以上）	－	珠洲Ⅳ期
21	珠洲焼	片口鉢	17R	1	SD	300	1	－	－	11.0	灰 灰	長	ロクロ成形	－	－
22	土師質土器	小皿	2 区	－	－	－	Ⅰ	6.0	3.0	1.5	褐灰 褐灰	長	手づくね成形	－	－
23	土師質土器	小皿	20S	－	SX	23	1	7.6	1.1	6.0	灰白 灰白	砂	－	－	－
24	土師質土器	小皿	20R	25	－	－	Ⅰ	7.9	1.6	5.8	灰白 灰白	砂	－	－	－
25	土師質土器	皿	20R	18	－	－	Ⅰ	－	－	10.0	灰白 灰白	砂	－	－	－
26	土師質土器	皿	20R	18	－	－	Ⅰ	－	－	7.8	浅黄橙 浅黄橙	砂	－	－	－
27	青磁	椀	4 区	－	－	－	Ⅰ	16.0	－	－	緑灰 緑灰	混入物が少なく精良な胎土	ロクロ成形	－	蓮弁文。
28	珠洲焼	片口鉢	20S	－	－	－	Ⅰ	－	－	－	灰 灰白	長	ロクロ成形 内：卸し目（6 目以上）	－	珠洲Ⅳ期
29	珠洲焼	片口鉢	20R, S	－	－	－	撹乱	－	－	－	灰～灰白 灰～灰白	長・海骨	ロクロ成形	－	珠洲Ⅳ期
30	珠洲焼	片口鉢	20R	－	－	－	撹乱	－	－	13.0	灰 灰	長・海骨	ロクロ成形 内：卸し目（13 目）底：静止糸切り	－	底部外面に指頭痕。
31	珠洲焼	片口鉢	19S, T	－	－	－	Ⅰ	－	－	16.8	灰白 灰	長	ロクロ成形 内：卸し目（10 目）底：静止糸切り	－	底部外面に指頭痕。
32	珠洲焼	片口鉢	－	－	－	－	Ⅰ 表土	－	－	10.6	灰黄 灰黄	長	ロクロ成形	ススス	－
33	珠洲焼	片口鉢	2 区	－	－	－	Ⅰ	－	－	13.0	灰色～灰白 灰	長	ロクロ成形 内:卸し目(9 目以上)底:静止糸切り	－	－
34	珠洲焼	壺	20R 20R, S	23	－	－	Ⅰ 撹乱	－	－	－	灰 灰白	長	ロクロ成形	－	－
35	珠洲焼	甕	4 区	－	－	－	Ⅰ	－	－	－	灰 灰	長・海骨	外：平行タタキ	ススス	－
36	珠洲焼	壺	20R, S	－	－	－	Ⅰ	－	－	9.0	灰 灰	長	ロクロ成形 底：静止糸切り	－	－
37	珠洲焼	甕	4 区	－	－	－	Ⅰ	－	－	－	灰 灰	長・海骨	外：平行タタキ	－	－
38	瓷器系陶器	甕	4 区	－	－	－	Ⅰ	－	－	－	灰黄褐 褐灰	礫	ナデ	－	体部に押印。

土器転用研磨具観察表

報告番号	遺構名	グリッド	層位	器種	遺存状態	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	備考
39	SE349	19S	覆土	土器転用研磨具	欠損	（5.8）	（2.0）	（1.3）	48	－
40	SE349	19S	4	土器転用研磨具	欠損	（5.0）	（3.5）	（1.7）	22	－
41	SD300 －	17R1 20R18	1 1	土器転用研磨具	欠損	（10.0）	（4.6）	（1.4）	40	－
42	－	20R8	I	土器転用研磨具	欠損	（5.9）	（6.3）	（1.2）	49	－
43	－	20T・U	I	土器転用研磨具	欠損	（10.1）	（5.2）	（1.2）	54	－

石製品観察表

報告番号	遺構名	グリッド	層位	器種	遺存状態	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	石材
44	SE349	19S	5～6	砥石	欠損	（7.3）	（5.0）	（1.5）	83	凝灰岩
45	SD300	17R1	1	砥石	欠損	（5.3）	（5.0）	（1.0）	19	凝灰岩
46	SD48	20R7	1	砥石	欠損	（3.6）	（2.5）	（0.3）	3.0	凝灰岩
47	－	20R18	I	砥石	欠損	（4.6）	（1.9）	（1.3）	42.0	凝灰岩
48	－	19S	－	砥石	欠損	（6.1）	（2.7）	（2.1）	33.0	凝灰岩

金属製品観察表

報告番号	遺構名	グリッド	層位	器種	遺存状態	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	備考
49	SE349	19S	4	刀子	欠損	（21.5）	（2.0）	（0.4）	（74.0）	－
50	SE386	28V	1	刀子	欠損	（27.6）	（2.4）	（1.2）	（123.0）	－
51	SK488	27V・W	覆土	刀子	欠損	（27.7）	（2.5）	（0.4）	（164.0）	－
52	SD11	19S	2	刀子	欠損	（6.1）	（1.3）	（0.4）	（18.0）	－

木製品観察表

報告 No.	遺構名	グリッド	種別	器種	細分名	木取り	樹種	高さ（cm）	直径（cm）	厚さ（cm）	備考
68	SE386	28V	板材	曲物	水溜	板目	スギ	54.0	58.0	0.5～0.8	上下逆に設置　内外面ケビキ　木クギ痕 36 か所
69	SE479	28U	角材	井戸側	桟木	柾目	スギ	（86.6）	（5.4）	（5.6）	東側最下段　凸加工全体に腐食著しい
70	SE479	28U	角材	井戸側	桟木	柾目	スギ	（89.5）	（5.9）	（6.9）	北側最下段　凹加工全体に腐食著しい
71	SE479	28U	角材	井戸側	桟木	柾目	スギ	（88.7）	（5.1）	（6.3）	南側最下段　凹加工全体に腐食著しい
72	SE479	28U	板材	井戸側	縦板	板目	スギ	25.3	（14.8）	0.9	全体に腐食著しい
73	SE479	28U	板材	曲物	水溜	板目	スギ	24.7	50.6	0.4～0.6	下段　上下逆に設置　内面ケビキ　木クギ痕 6 か所
74	SE479	28U	板材	曲物	水溜	板目	スギ	（53.6）	79.0	0.6～0.8	上段　上部腐食のため欠損　内面ケビキ
75	SE520	15L	角材	刳物	椀	横木取り	－	（7.5）	（11.6）	0.8	内外面赤漆塗　高台内面黒漆塗　高台外径 6.0 内径 4.2　高さ 1.9　板厚 1.7

古代　土器観察表

報告番号	分類		グリッド		遺構		層位	法量（mm）			色調 上段：外面 下段：内面	胎土	成形・調整	付着物	備考
	種類	器種	大	小	種別	番号		口径	器高	底径					
53	須恵器	無台坏	20T	5	－	－	I	12.4	2.9	7.8	灰白 灰白	胎土 B 群	ロクロ成形 底：回転ヘラ切り	－	－
54	須恵器	無台坏	20T	14・18	－	－	I	11.8	3.3	8.6	灰 灰	胎土 B 群	ロクロ成形 底：回転ヘラ切り	－	－
55	須恵器	無台坏	19R 20R	1	SE	38	1 Ⅳ	12.0	3.2	7.6	灰 灰	胎土 B 群	ロクロ成形 底：回転ヘラ切り	－	－
56	須恵器	無台坏	19R	20	SX	44	1	12.5	3.4	7.9	灰 灰	胎土 B 群	ロクロ成形 底：回転ヘラ切り	－	－
57	須恵器	無台坏	－	－	－	－	I	12.6	2.7	8.0	灰 灰	胎土 B 群	ロクロ成形 底：回転ヘラ切り	－	－
58	須恵器	無台坏	2 区	－	－	－	Ⅲ	13.0	3.4	7.6	灰 灰	胎土 B 群	ロクロ成形 底：回転ヘラ切り	－	－
59	須恵器	無台坏	－	－	SD	11	覆土 下層	12.2	8.4	3.4	灰白 灰白	胎土 B 群	ロクロ成形 底：回転ヘラ切り	－	－
60	須恵器	無台坏	20P	2	－	－	Ⅲ	12.2	2.7	8.3	灰白 灰白	胎土 B 群	ロクロ成形	－	－
61	須恵器	杯	20Q 20R	21 1	SD －	43 －	覆土 Ⅳ	12.3	－	－	灰 灰	胎土 B 群	ロクロ成形	－	－
62	須恵器	杯	19R	25	SD	43	1	13.0	－	－	青灰 青灰	胎土 B 群	ロクロ成形	－	－
63	須恵器	無台坏	20R －	6 －	SD SD	48 43	1 1	－	－	7.6	灰 暗灰	胎土 B 群	ロクロ成形	－	－
64	須恵器	無台坏	21T	6	SD	11	1	－	－	8.0	灰 灰	胎土 B 群	ロクロ成形	－	－
65	須恵器	無台坏	19R	25	SD	43	1	－	－	7.8	灰 灰	胎土 B 群	ロクロ成形	－	－
66	土師器	椀	2 区	－	－	－	Ⅲ	－	－	6.0	明赤褐 橙	石・長	ロクロ成形	－	－
67	須恵器	甕	19S 19S	－	SD －	11 －	覆土 Ⅲ・Ⅳ	22.0	－	－	灰 灰	石・長	外：平行タタキ 内：同心円状当て具	－	－

縄文時代　土器観察表（1）

胎土の略称　金雲母：金、黒雲母：黒、石英：英、長石：長、角閃石：角、海面骨針：海骨
部位の略称　口縁端部：端、口縁部：口、頸部：頸、肩部：肩、体部：体、体部上位：体上、体部下位：体下、底部：底、台部：台、底面：底
突起の略称　山形突起 1：山形 1、山形突起 2：山形 2

報告 No.	遺構・層位・グリッド	器種	分類	浮線文	器高	口径	底径	残存率	胎土	外面調整・施文	内面調整・施文	外面色調	内面色調	外面炭化物	内面炭化物	備考
1	SI860・SC861・7・1・18M	鉢	F	－	－	11.0	－	0.347	長	口：鋸歯状集合沈線文・刺突文充填、体：擬縄文	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR 灰黄褐色	口～体	－	－
2	SI860・7・18M	壺	－	－	－	17.2	－	0.230	長・金	口：突起・浮線文	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR 灰黄褐色	－	体	－
3	SI860・7・18M	甕・深鉢	－	－	－	－	12.0	－	長・金	体～底：条痕文	ナデ	10YR 灰白色	10YR 浅黄橙色	－	－	－
4	SI860-P873・18M	甕・深鉢	－	－	－	－	10.5	－	長	体～底：条痕文、面：ササ痕	ナデ	10YR 灰黄褐色	2.5Y 黄灰色	－	体下～底	割れ口の断面にスス
5	SI860・覆土・18M	甕・深鉢	－	－	－	－	－	－	長	複合口縁、口：網目状撚糸文 r	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR 灰黄褐色	－	－	－

縄文時代　土器観察表（2）

報告No.	遺構・層位・グリッド	器種	分類	浮線文	器高	口径	底径	残存率	胎土	外面調整・施文	内面調整・施文	外面色調	内面色調	外面炭化物	内面炭化物	備考
6	SI860・覆土・18M	壺	－	b	－	－	－	－	長・金・英	口：浮線文、頸：ナデ	ナデ	10YR にぶい黄褐色	10YR 灰黄褐色	－	－	外面口縁・頸部赤彩
7	SI860-P873・1・2・18M	壺	－	a	－	－	3.6	－	長	肩：浮線文、体：ナデ	ナデ	10YR 灰白色	2.5Y 黄灰色	－	－	体部外面黒漆付着
8	SI860・7・18M	壺	－	－	－	－	5.4	－	長	体下：ナデ	ナデ	10YR 褐灰色	10YR にぶい黄橙色	－	－	－
9	SI860・6・18M	壺	－	－	－	－	5.3	－	長	体下：ナデ	ナデ	10YR にぶい黄褐色	10YR にぶい黄橙色	－	－	－
10	SI860・覆土・18M	壺	－	－	－	－	3.6	－	長	体下：ナデ	ミガキ	10YR にぶい黄橙色	10YR 褐灰色	－	－	－
11	SI860・7・17N	甕・深鉢	－	－	－	－	－	－	長	－	－	－	－	－	－	器面アスファルト付着
12	SC800・1・16・17Q	壺	A	－	－	－	－	－	長・金	山形 1、頸:隆帯、肩:工字文・隆帯	口：隆帯、ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR 浅黄橙色	－	－	－
13	SC801・1・17Q	深鉢	B1	e2	－	－	－	－	長・金	口；浮線文、体：縄文 LR	ナデ	10YR 灰褐色	10YR にぶい黄橙色	－	－	－
14	SC801・1・17Q	甕	B1a	e2	－	21.4	－	0.472	長・金	口：刺突文・平行沈線文、頸:浮線文、肩:突起・平行沈線文	ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR 浅黄橙色	頸	－	－
15	SC801・覆土・17P・Q・SC825・2・17N・SC842・1・2・16・17M	深鉢	A6	－	－	34.0	－	0.583	長	口：平行沈線文・刺突文	ナデ	7.5YR 浅橙色	7.5YR 浅橙色	－	－	－
16	SC801・3・17Q	甕・深鉢	－	－	－	－	6.2	－	長	体；条痕文・雷文	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR にぶい黄橙色	－	－	－
17	SC801・2・17Q	壺	－	－	－	－	－	－	長・金	山形 1・2、口：刺突文・平行沈線文	口：沈線、ナデ	2.5Y 灰白色	2.5Y 灰白色	－	－	17・18 同一個体
18	SC801・2・17Q	壺	－	－	－	－	－	－	長・金	肩：刺突文・平行沈線文・突起	ナデ	2.5Y 灰白色	2.5Y 灰白色	－	－	17・18 同一個体
19	SC801・1・17Q	壺	－	－	－	16.8	－	0.694	長	肥厚口縁、口：縄文 LR、肩：平行沈線文	ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR 浅黄橙色	－	－	－
20	SC803・1・18Q	甕・深鉢	－	－	－	－	－	－	長・金	肥厚口縁、口：平行沈線文・網目状撚糸文 r、頸：綾杉文	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR にぶい黄橙色	－	－	－
21	SC804・7・18Q	浅鉢	A2	－	－	－	－	－	長	山形 1、端：沈線、口：工字文、体：縄文 LR	口：沈線、ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR 灰黄褐色	－	－	－
22	SC804・7・18Q	甕	B1b	－	－	31.6	－	0.611	長	口:平行沈線文、頸:綾杉文、肩：眼鏡状文	ナデ	10YR 灰白色	10YR 灰白色	－	－	－
23	SC804・8・18Q	甕	B1a	b	－	－	－	－	長・金	口：浮線文、肩：平行沈線文・突起	口：沈線、ナデ	10YR にぶい黄褐色	10YR にぶい黄褐色	－	－	－
24	SC804・7・18Q	甕	B1b	－	－	－	－	－	長・金	複合口縁、口：刺突文、頸:平行沈線文・綾杉文、体：条痕文	ナデ	10YR にぶい黄褐色	10YR 灰黄褐色	口～頸	口	－
25	SC804・7・18Q	壺	－	－	－	26.0	－	0.333	長・金	口：平行沈線文	口：沈線、ナデ	10YR 灰白色	10YR 灰白色	－	－	－
26	SC804・18Q	甕	－	－	－	－	－	－	長・金	肩：眼鏡状文	ナデ	10YR にぶい黄褐色	10YR にぶい黄褐色	体	－	－
27	SC804・7・18Q	甕・深鉢	－	－	－	－	10.1	－	長・金	体～底：条痕文	ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR 褐灰色	－	－	－
28	SC804・5・6・7・18Q	甕・深鉢	－	－	－	－	9.9	－	長	体：条痕文、体下～底：ナデ	ナデ	10YR 灰白色	10YR 褐灰色	－	体下～底	－
29	SC806・1・18Q	浅鉢	－	－	－	－	－	－	長・金	端：沈線文、口：浮線文	ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR 浅黄橙色	－	－	外面口縁赤彩
30	SC811・2・21Q	壺	－	－	－	－	－	－	長	口：縄文 LR・平行沈線文	丁寧なナデ	10YR 灰白色	10YR 灰白色	－	－	内外器面剥落、30 ～ 32 同一個体
31	SC811・2・21Q	壺	－	－	－	－	－	－	長	肩：浮線文・刺突文	－	－	－	－	－	内外器面剥落、30 ～ 32 同一個体
32	SC811・2・21Q	壺	－	－	－	－	－	－	長	肩：浮線文・刺突文	－	10YR 灰白色	10YR 灰白色	－	－	内外器面剥落、30 ～ 32 同一個体
33	SC808・2・3・Ⅵ・20Q	甕・深鉢	－	－	－	－	－	－	長・金	体：条痕文	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR 灰黄褐色	－	体	－
34	SC808・覆土・Ⅵ・20Q2	甕・深鉢	－	－	－	－	9.8	－	長・金	体：条痕文	ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR 浅黄橙色	－	－	－
35	SC815・1・3・15P	甕	B3d	－	－	22.6	－	0.527	長・金	口:平行沈線文、頸:ナデ、体：条痕文・雷文	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR にぶい黄橙色	体上	－	割れ口の断面にスス
36	SC815・3・15P	浅鉢	B1	a1	－	18.8	－	0.194	長・金	山形 1、口：眼鏡状文・浮線文、体：縄文 LR	口：沈線、ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR 浅黄橙色	－	－	内外面口縁赤彩
37	SC816・1・2・14O	鉢	A	－	－	22.2	－	0.333	長	口：刺突文・浮線文、肩：突起	ナデ	10YR 灰白色	10YR 灰白色	－	－	内外面器面剥落
38	SC816・2・14O	深鉢	B7c	－	－	－	－	－	長・黒	複合口縁、口：網目状撚糸文 R、体：網目状撚糸文 R	ナデ	10YR にぶい黄褐色	10YR にぶい黄橙色	－	－	－
39	SC816・1・14O	壺	－	－	－	－	－	－	長・金	口:沈線文（連弧状）	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR にぶい黄橙色	口～頸	口～頸	－
40	SC817・覆土・17O	深鉢	B7d	－	－	－	－	－	長・金	複合口縁、口：条痕文、体：条痕文	ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR 浅黄橙色	－	－	－
41	SC825・2・17N	浅鉢	C1	－	－	－	－	－	長	口：浮線文	ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR 浅黄橙色	－	－	内外面口縁赤彩
42	SC825・4・17N	浅鉢	C1	b2	－	－	－	－	長・金	口：浮線文	口：沈線、ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR にぶい黄橙色	－	－	内外面口縁赤彩
43	SC825・2・17N	浅鉢	B1	b2	－	－	－	－	長	口：浮線文	ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR 浅黄橙色	－	－	外面口縁赤彩
44	SC825・2・10・Ⅵ・17N	浅鉢	B1	e3	－	－	－	－	長・金・海骨	山形 2、口：浮線文	ナデ	10YR 黒褐色	10YR 黒褐色	－	－	外面口縁赤彩

縄文時代　土器観察表（3）

報告No.	遺構・層位・グリッド	器種	分類	浮線文	器高	口径	底径	残存率	胎土	外面調整・施文	内面調整・施文	外面色調	内面色調	外面炭化物	内面炭化物	備考
45	SC825・2・17N	浅鉢	A2a		－	－	－	－	黒	口：工字文	口：沈線、ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR にぶい黄橙色	－	－	内外面口縁赤彩
46	SC825・2・6・17N	深鉢	B6d	－	－	－	－	－	長・金	口:平行沈線文、体:条痕文	ナデ	10YR 褐灰色	10YR 浅黄橙色	－	－	－
47	SC825・8・17N	深鉢	－	－	－	－	－	－	長	口：結節縄文・刺突文	ナデ	7.5YR 灰褐色	5YR にぶい黄橙色	－	－	－
48	SC825・2・17N	深鉢	B6d	－	－	－	－	－	長・金	口:平行沈線文、体:条痕文	丁寧なナデ	10YR 灰黄褐色	10YR 灰黄褐色	口～体上	－	割れ口の断面にス
49	SC825・4・17N	深鉢	B6d	－	－	－	－	－	長	口:平行沈線文、体:条痕文	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR 灰黄褐色	口～体上	体	－
50	SC825・4・17N	浅鉢	－	－	－	－	－	－	長	山形 2、端:沈線文、口：浮線文	ナデ	10YR 黒褐色	10YR 浅黄橙色	－	－	外面口縁赤彩
51	SC825・2・17N	深鉢	B7d	－	－	－	－	－	長	口～体：条痕文	ナデ	10YR 褐灰色	10YR 褐灰色	口～体	体	－
52	SC825・5・17N	壺	－	－	－	4.6	－	0.444	海骨	口:平行沈線文、肩:平行沈線文	ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR 浅黄橙色	－	－	－
53	SC825・2・17N	壺	－	－	－	－	－	－	長	肩：工字文	ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR 浅黄橙色	－	－	－
54	SC842・3・16M	浅鉢	B1	e3	－	－	－	－	長	端：沈線文、口：突起・キザミ、浮線文	ナデ	10YR 明黄褐色	10YR 明黄褐色	－	－	－
55	SC842・3・16M	甕・深鉢	－	－	－	－	－	－	長	複合口縁、口：条痕文	ナデ	10YR 黒褐色	10YR 黒褐色	－	－	－
56	SC842・5・6・16M	甕	－	－	－	－	－	－	長	口：結節縄文、頸：平行沈線文・綾杉文	ナデ	7.5YR 橙色	7.5YR にぶい黄橙色	－	－	－
57	SC842・6・16M	甕	B2a	－	－	－	－	－	長・金	口:網目状撚糸文 R・刺突文、頸:綾杉文・平行沈線文、肩：刺突文	ナデ・ミガキ	10YR 黒褐色	10YR にぶい黄橙色	－	－	－
58	SC850・1・19N	浅鉢	－	－	－	－	－	－	金	突起、口：浮線文	丁寧なナデ	10YR 黄橙色	10YR 黄橙色	－	－	－
59	SC850・1・19N	甕・深鉢	－	－	－	－	－	－	長・金	口：綾杉文	ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR 浅黄橙色	－	－	－
60	SC859・3・19O	浅鉢	－	－	－	－	－	－	長・金	口：浮線文	ミガキ	10YR 灰黄褐色	10YR 黒褐色	－	－	外面口縁赤彩
61	SC859・19O	浅鉢	B1	－	－	－	－	－	長	口：浮線文、体：ミガキ	ミガキ	10YR にぶい黄橙色	10YR 灰黄褐色	－	－	外面口縁赤彩
62	SC859・1・3・19O	浅鉢	B1	e3	－	－	－	－	長・金	口：浮線文	ミガキ	10YR 浅黄橙色	10YR 灰白色	口	口	外面口縁赤彩、割れ口の断面にス
63	SC859・3・19O	浅鉢	B1	－	－	18.6	－	0.111	長・金	口：浮線文	ミガキ	10YR 灰白色	10YR 褐色	－	－	外面口縁赤彩
64	SC859・3・19O	甕・深鉢	－	a	－	－	－	－	長・金	口：浮線文、肩：突起・浮線文	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR にぶい黄橙色	－	－	－
65	SC859・2・19O	鉢	C	b2	－	－	－	－	長・金	口：浮線文、肩：浮線文、体：ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	10YR 灰黄褐色	10YR 浅黄橙色	－	－	－
66	SC859・1～3・19O	甕	E3a	e1	－	23.0	－	0.388	長	口:平行沈線文、頸:ナデ、肩：突起・浮線文、体：条痕文	ナデ	10YR 黒褐色	10YR 灰黄褐色	口～体	－	頸部補修孔
67	SC859・3・19O	甕	－	e2	－	－	－	－	長・金	楕円状突起、口：突起・浮線文、頸：浮線文	ナデ	10YR 黒褐色	10YR 灰黄褐色	－	－	－
68	SC859・2・19O	甕・深鉢	－	－	－	－	－	－	長・金	口：鋸歯状集合沈線文・突起、頸：平行沈線文・綾杉文、肩:平行沈線文・突起	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR にぶい黄橙色	－	－	－
69	SC859・土器集中 888・3・Ⅵ・19O	深鉢	B7d	－	－	34.0	－	0.166	長	複合口縁、口～体：条痕文	ナデ	10YR 灰白色	10YR 灰白色	口～体上	－	外面器面剥落
70	SC859・1・Ⅵ・18・19O	甕	A2a	a2・d1	50.8	32.0	12.0	0.500	長・金・海骨	楕円状突起、口：浮線文・平行沈線文・三又状文、頸：浮線文・三又状文、肩：平行沈線文・突起、体：条痕文	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR 灰黄褐色	口～体上	体～底	外面赤彩
71	SC859・3・Ⅵ・18・19O	深鉢	B7b	－	－	38.5	－	0.833	長	肥厚口縁、口：刺突文、体上:結節縄文、体下：条痕文	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR にぶい黄橙色	口～体上	－	－
72	SC879・1・19R	浅鉢	B1	e3	－	－	－	－	長・海骨	口：浮線文	ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR にぶい黄橙色	－	－	内外面口縁赤彩
73	SC879・1・19R	深鉢	B6b	－	－	27.4	－	0.758	長・金	口：平行沈線文・結節縄文、体：結節縄文	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR 灰黄褐色	口～体上	－	－
74	SC879・1～3・19R	甕	B2a	－	54.7	41.0	11.7	0.736	長・金	複合口縁、口：網目状撚糸文 R・突起、頸：綾杉文、肩：眼鏡状隆帯・浮線文、体:網目状撚糸文 R、底：ナデ	ナデ・ミガキ	10YR にぶい黄橙色	10YR 灰黄褐色	－	体下～底	－
75	SC861・1・18M	浅鉢	C1	－	－	－	－	－	長	口：浮線文	ナデ	10YR にぶい黄褐色	10YR 灰黄褐色	－	－	－
76	SC861・覆土・18M	浅鉢	B1	a2	－	－	－	－	長・黒	口：浮線文	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR 灰黄褐色	－	－	外面口縁赤彩
77	SC861・1・18M	浅鉢	B1	a2	－	－	－	－	長	口：突起・浮線文	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR にぶい黄褐色	口	－	－
78	SC861・覆土・18M	壺	－	－	－	－	－	－	長・黒	口：ナデ、頸：ナデ	ナデ	10YR にぶい黄褐色	10YR 褐灰色	－	－	－
79	SC861・1・18M	壺	A	－	－	－	－	－	長・金	肩：浮線文	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR にぶい黄橙色	－	－	外面肩部赤彩
80	SC866・2・18P	深鉢	B7d	－	－	－	－	－	長	複合口縁、体：条痕文	ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR 浅黄橙色	－	－	補修孔
81	SC868・2・17O	深鉢	B6d	－	－	－	－	－	長	口:平行沈線文、体:条痕文	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR 灰白色	口～体上	－	－
82	SC868・2・17O	甕・深鉢	－	－	－	－	－	－	長	口：条痕文、頸：綾杉文	ナデ	10YR 黒褐色	10YR 灰白色	口～頸	－	－

縄文時代　土器観察表（4）

報告No.	遺構・層位・グリッド	器種	分類	浮線文	器高	口径	底径	残存率	胎土	外面調整・施文	内面調整・施文	外面色調	内面色調	外面炭化物	内面炭化物	備考
83	SC914・1・Ⅵ・17・18P	深鉢	B7c	－	－	－	－	－	長	複合口縁、口：網目状撚糸文R、体：条痕文	ナデ	10YR 黒褐色	10YR 灰黄褐色	－	－	－
84	SC914・1・5・17P	甕・深鉢	－	－	－	－	10.1	－	長	体：条痕文	ナデ	2.5Y 灰白色	2.5Y 黒色	底～面	体下～底	－
85	埋設土器1・Ⅵ・16O	壺	C	－	－	－	12.0	－	長	肩：工字文、体：ナデ	ナデ	10YR 灰白色	10YR 灰白色	－	－	赤彩
86	埋設土器824・1・17M	浅鉢	F1	a2	－	－	－	－	長・金	口：浮線文	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR にぶい黄橙色	－	－	内外面口縁赤彩
87	埋設土器824・1・17M	甕	B2a	a1	21.6	17.3	9.9	0.436	長・金	山形1・2、端：鋸状集合沈線文、口：浮線文、頸：交互綾杉文、肩：綾杉文、眼鏡状文、体：条痕文、体下：ナデ	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR 灰黄褐色	口～体上	体～底	－
88	埋設土器824・1～2・17M	深鉢	B7c	－	－	41.2	－	0.500	長・金	肥厚口縁、口：網目状撚糸文R・ナデ、体：網目状撚糸文R	ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR 浅黄橙色	体	－	－
89	埋設土器824・1・17M	甕・深鉢	－	－	－	－	－	－	長・金	体：条痕文	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR にぶい黄橙色	体上	体下	－
90	埋設土器828・17L・Ⅵ	甕・深鉢	－	－	－	－	9.2		長	体：条痕文、底：ナデ	ナデ	2.5Y 灰白色	10YR 灰黄褐色	－	体下～底	－
91	埋設土器830・Ⅵ・17M	浅鉢	C2	－	11.7	25.0	7.7	0.166	英・角	口：工字文、体：ミガキ、面：網代痕	口：肥厚・沈線、ミガキ	10YR 灰黄褐色	10YR 浅黄橙色	－	－	内外面口縁赤彩
92	埋設土器830・Ⅵ・17M	深鉢	B6e	－	－	15.0	－	0.138	長・金	端：キザミ、複合口縁、口：平行沈線文3条、体：体上：ナデヨコ、体上～下：ナデタテ	ナデタテ	10YR 灰黄褐色	10YR 灰黄褐色	－	－	内外綿口縁赤彩
93	埋設土器830・土器集中831・Ⅵ・17M	甕・深鉢	－	－	－	－	7.9	－	長・金	体：条痕文、底：ナデ	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR にぶい黄橙色	－	体下	－
94	埋設土器834・Ⅵ・17L	甕・深鉢	－	－	－	－	12.8	－	長	体：条痕文、面：ササ？圧痕	ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR にぶい黄褐色	体	体	－
95	埋設土器837・Ⅵ・15M	甕	G1b	－	17.5	18.0	10.0	0.333	長	複合口縁、山形1、頸：平行沈線文・綾杉文・交互綾杉文(刺突文充填)、肩：平行沈線文・突起、体：ナデ	ナデ	2.5Y 灰黄色	10YR 灰白色	口～体上	肩～底	－
96	埋設土器883・13M・Ⅵ	甕・深鉢	－	－	－	－	6.8	－	長	体下：ナデ	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR にぶい黄褐色	－	体下～面	－
97	埋設土器883・13M・Ⅵ	甕・深鉢	－	－	－	－	8.3	－	長	体：条痕文	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR にぶい黄橙色	底～面	－	－
98	土器集中831～833・埋設土器839・Ⅵ・17M	甕	B2a	e2	－	24.2	－	0.805	長	山形1、口：浮線文、頸：雷文、肩：浮線文・突起、体：雷文	ナデ	7.5YR にぶい橙色	7.5YR 黒褐色	口～頸	体～底	口縁：補修孔
99	埋設土器839・Ⅵ・17M7	甕・深鉢	－	－	－	－	10.0	－	長・金	体：撚糸文R	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR 浅黄橙色	－	－	－
100	埋設土器840・Ⅵ・16M	浅鉢	C1	f1	19.4	29.5	9.5	0.694	長・金	口：浮線文、体：ケズリ・ナデ	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR にぶい黄橙色	口～底	体～底	－
101	埋設土器840・Ⅵ・16M	甕	－	－	－	－	6.0		長	肩：平行沈線文 or 浮線文、体：ナデ	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR 灰白色	体	－	－
102	埋設土器887・1・2・21O	台付浅鉢	E1	b2	－	29.0	16.3	0.694	長	山形2、口：浮線文・ボタン状突起	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR にぶい黄橙色	－	－	内外面口縁赤彩
103	埋設土器894・1・20N	甕・深鉢	－	－	－	－	8.8	－	長・金	体：条痕文、底：ナデ	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR にぶい黄橙色	－	体下	－
104	埋設土器898・Ⅵ・18O	甕・深鉢	－	－	－	－	6.8	－	長	体：条痕文	ナデ	10YR 灰白色	10YR 灰白色	体	－	－
105	埋設土器903・Ⅵ・17M	鉢	F	－	9.1	13.9	5.4	0.138	長	口～底：ナデ・ミガキ	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR にぶい黄橙色	口～体上	体	－
106	埋設土器908・2・17P	甕・深鉢	－	－	－	－	9.2	－	長	体～底：条痕文	ナデ	10YR にぶい黄褐色	10YR 浅黄橙色	体下	体下～底	割れ口の断面にスス
107	埋設土器924・15M・Ⅵ	浅鉢	B1	a2	17.5	29.2	10.0	0.316	長・金・海骨	口：浮線文、体：ナデ	ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR 浅黄橙色	－	－	－
108	埋設土器928・Ⅵ・17R	深鉢	B1	b3	14.7	14.8	6.8	0.444	長・金	口：浮線文、体：ナデ	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR 灰白色	－	－	－
109	埋設土器928・Ⅵ・17R	甕・深鉢	－	－	－	－	10.0	－	長・金	体：網目状撚糸文R	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR にぶい黄橙色	－	－	－
110	埋設土器933・1・16P	甕・深鉢	－	b2	－	－	－	－	長・金	口：浮線文	ナデ	2.5Y 灰白色	10YR 浅黄橙色	－	－	－
111	埋設土器933・1・16P	甕	B2a	c1	15.7	19.0	5.9	0.777	長・金	山形1、端：沈線、口：沈線文、頸：綾杉文、肩：浮線文、体：条痕文	口：沈線、ナデ	10YR にぶい黄褐色	10YR にぶい黄橙色	口～体上	口～底	－
112	土器集中1-3・Ⅵ・19S	浅鉢	－	－	－	－	－	－	長・金	口：浮線文	ナデ	10YR にぶい黄褐色	10YR 灰白色	－	－	内外面口縁赤彩
113	土器集中1・Ⅵ・19S	深鉢	A8	－	28.0	17.0	19.3	0.166	長・金	口～底：ナデ	ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR 灰白色	口～体上	体上～底	－
114	土器集中1・Ⅵ・19R	深鉢	B1	a1	－	30.4	－	0.216	長・金	口：網目状撚糸文R・浮線文、体：網目状撚糸文R	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR にぶい黄橙色	口～体	口～体	－
115	土器集中1・2・Ⅵ・19R・S	深鉢	B7b	－	－	31.4	11.6	0.269	長	口～底：結節縄文・撚糸文r	ナデ	7.5YR 明褐色	7.5YR にぶい褐色	口～体上	底	－
116	土器集中2・SC879・Ⅵ・19R	深鉢	B7c	－	－	33.6	－	0.555	長・金	肥厚口縁、口：網目状撚糸文R・ナデ、体：網目状撚糸文R	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR 浅黄橙色	口～体上	体下	－
117	土器集中3・Ⅵ・19R・S	浅鉢	B1	e3	12.6	22.0	9.3	0.761	長	山形1・2、口：浮線文	ナデ	10YR 灰白色	10YR 灰白色	口～面	面	外面口縁赤彩
118	土器集中3・Ⅵ・19R・S	深鉢	B7c	－	－	－	－	－	長・金	複合口縁、口：撚糸文R、体：条痕文	ナデ	10YR 暗褐色	10YR 灰黄褐色	－	－	－
119	土器集中3・Ⅵ・19R	甕・深鉢	－	－	－	－	8.0	－	長・黒	体：網目状撚糸文r、面：ササ圧痕	ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR 灰白色	－	体	－

縄文時代　土器観察表（5）

報告No.	遺構・層位・グリッド	器種	分類	浮線文	器高	口径	底径	残存率	胎土	外面調整・施文	内面調整・施文	外面色調	内面色調	外面炭化物	内面炭化物	備考
120	土器集中 820・Ⅵ・13L	深鉢	B7c	－	46.0	36.9	11.0	0.833	長・金	口～底：網目状撚糸文 R	ナデ・ミガキ	10YR 黒褐色	10YR 灰白色	口～体上	体下～底	－
121	土器集中 822・Ⅵ・15L	壺	－	－	－	－	11.8	－	長・金	底：ナデ	ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR 浅黄橙色	－	－	－
122	土器集中 836・Ⅵ・17M	甕・深鉢	－	－	－	－	－	－	長・金	体：条痕文	ナデ	10YR 灰白色	10YR にぶい黄褐色	体	体	－
123	土器集中 835・Ⅵ・17M	浅鉢	－	b	－	－	－	－	長・金	口：浮線文	口：沈線、ナデ	2.5YR 橙色	10YR 黄橙色	－	－	－
124	土器集中 835・Ⅵ・17M	深鉢	A6b	－	－	33.8	－	0.208	長	肥厚口縁、口：平行沈線文・結節縄文、体：条痕文	ナデ	10YR 灰白色	10YR 灰白色	口～体上	体下	－
125	土器集中 835・Ⅵ・17M	甕・深鉢	－	－	－	－	11.0	－	長・金	体：条痕文、底：ナデ	ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR 浅黄橙色	－	体下～底	－
126	土器集中 838・Ⅵ・14M	甕・深鉢	－	－	－	－	9.1	－	長	体：条痕文	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR にぶい黄橙色	底	体下～底	－
127	土器集中 852・Ⅵ・17・18R	甕・深鉢	－	－	－	－	11.8	－	長・金・海骨	体：縄文 RL、底：ケズリ	ナデ	10YR 灰白色	10YR 灰白色		体下	－
128	土器集中 852・Ⅵ・18R	甕・深鉢	－	－	－	－	－	－	長・金	肥厚口縁、口：平行沈線文 3 条・綾杉文	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR にぶい黄橙色	－	－	－
129	土器集中 864・Ⅵ・20N	壺	－	－	－	－	8.4	－	長	体下：ミガキ、底：ナデ	ミガキ	7.5YR 明褐色	7.5YR 明褐色	－	－	－
130	土器集中 865・Ⅵ・18O	甕・深鉢	－	－	－	－	10.3	－	長	体：条痕文、面：木葉痕	ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR 黄橙色	体	体	－
131	土器集中 865・Ⅵ・18O・N	浅鉢	B1	e3	－	43.8	－	0.138	長・海骨	山形 2、口:浮線文、体：ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	10YR 暗褐色	10YR 黒褐色	口～体	－	外面口縁赤彩
132	土器集中 881・Ⅵ・18P	甕	B2a	－	－	15.0	－	0.361	長・金	波状口縁、口：縄文 LR、頸：平行沈線文・鋸歯状集合沈線文、浮線文、肩：突起、体：条痕文	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR 暗褐色	口～肩	体上	－
133	土器集中 881・Ⅵ・18P	深鉢	B7b	－	－	30.0	－	0.250	長・金	複合口縁、口：結節縄文 R、体：条痕文	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR 灰黄褐色	－	－	－
134	土器集中 881・Ⅵ・18P	甕・深鉢	－	－	－	－	8.0	－	長・金	体：条痕文	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR 灰白色	－	－	－
135	土器集中 881・Ⅵ・18P	壺	H	－	－	－	4.3	－	長・金	ナデ	ナデ	10YR にぶい黄橙色	7.5YR 橙色	－	－	－
136	土器集中 886・Ⅵ・19P	甕	A1b	－	－	29.6	－	0.438	長・黒・海骨	肥厚口縁、口：網目状撚糸文 R、頸：綾杉文、肩：網目状撚糸文 R、体：ナデ・条痕文	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR にぶい黄橙色	－	－	－
137	土器集中 888・Ⅵ・19O	甕	B3a	－	32.5	26.5	10.0	0.472	長・金	肥厚口縁、口：擬縄文、頸：ナデ、肩：眼鏡状文・匹字文、体：条痕文、底：ナデ	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR 灰黄褐色	口～体上	体下	－
138	土器集中 932・Ⅵ・17P	甕	－	d2	－	－	10.0	－	長	肩：浮線文・眼鏡状文、体：条痕文	ナデ・ミガキ	10YR 灰白色	10YR にぶい黄橙色	肩～底	体	－
139	16N18・Ⅵ	浅鉢	B1	e3	－	－	－	－	黒	口：浮線文、ナデ	ミガキ	10YR 灰黄褐色	10YR 灰黄褐色	－	－	内外面口縁赤彩
140	20O3・Ⅵ	浅鉢	G1	a4	－	－	－	－	長・金	口：浮線文	口：沈線、ナデ	10YR 灰白色	10YR 灰白色	－	－	内外面口縁赤彩
141	19Q15・Ⅵ	浅鉢	D1	a2	－	－	－	－	長・金	山形 2、端:沈線、口:浮線文	ナデ	7.5YR 明褐色	7.5YR 灰白色	－	－	－
142	19・20P・Ⅵ	浅鉢	B1	e3	－	－	－	－	長・金	口：浮線文、体：ミガキ・ナデ	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR 浅黄橙色	－	－	外面口縁赤彩
143	17O12・Ⅵ	浅鉢	B1	d1	－	－	－	－	長・金	山形 2、口:浮線文、体：ナデ	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR にぶい黄橙色	－	－	外：赤漆、内：漆
144	16M18・Ⅵ	浅鉢	B1	e3	5.7	13.0	4.4	0.138	長・金	口：浮線文、体：ナデ、面：網代痕	口：沈線、ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR 灰白色	口～体	体	外面口縁赤彩
145	17M・Ⅵ	浅鉢	B1	e3	－	14.0	－	0.166	長・金	口：浮線文、体：ナデ	口：沈線、ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR にぶい黄橙色	口～体	体	－
146	18P・Ⅵ	浅鉢	B1	e3	－	23.0	－	0.138	長	山形 2、口:浮線文、体：ナデ	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR 灰白色	端～体上	体上	－
147	20Q・Ⅵ	浅鉢	G	－	－	－	－	－	長・金	口：眼鏡状文、体：ナデ	ナデ	10YR 明黄褐色	7.5YR 灰白色	－	－	－
148	20O21・Ⅵ	浅鉢	B1	e3	－	－	－	－	長・金	山形 2、口：浮線文	ナデ	10YR にぶい黄褐色	10YR 灰白色	－	－	内外面口縁赤彩
149	16M14・Ⅵ	鉢	F	－	－	－	－	－	長・金	口:平行沈線文、体:ナデ	ミガキ	10YR 灰白色	10YR 灰黄褐色	－	口	外面口縁赤彩、割れ口の断面にスス
150	18O3・Ⅵ	浅鉢	D2	－	－	33.8	－	0.139	長	口：鋸歯状集合沈線文･突起、工字文、体:ナデ	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR 灰黄褐色	体	体	内外面口縁赤彩
151	18Q12・Ⅵ	甕	－	a	－	－	－	－	長・金	口：平行沈線文・浮線文	ナデ	10YR 灰白色	10YR にぶい黄褐色	－	－	－
152	18R16・Ⅵ	台付浅鉢	－	－	－	－	6.4	－	長	台：平行沈線文 12 条・透かし孔	ナデ	7.5YR 浅黄橙色	7.5YR 浅黄橙色	－	－	－
153	18・19P・Ⅵ	台付浅鉢	－	－	－	－	8.2	－	長・金	台：平行沈線文	ナデ	10YR 褐灰色	10YR 褐灰色	－	－	台部外面赤彩
154	16M14・Ⅵ	鉢	A	－	4.7	7.4	5.9	0.583	長・金	口～底：ナデ	ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR 浅黄橙色	－	－	内面：黒漆？付着
155	19P21・Ⅵ	台付浅鉢	－	－	－	－	－	－	長	ナデ	ナデ	10YR 黄橙色	2.5Y 灰白色	－	－	－
156	20Q12・Ⅵ	台付浅鉢	－	－	－	－	6.8	－	長	台：平行沈線文・交互匹字文	ナデ・円文	10YR 黒褐色	10YR 黒褐色	台	－	－
157	2 区・Ⅵ層	台付浅鉢	－	－	－	－	5.9	－	長・英	口：工字文?、体：ミガキ、台：平行沈線文・交互匹字文、透かし孔	ミガキ・円文	10YR 黒褐色	10YR 灰白色	体	体	－
158	19O25・Ⅵ	鉢	C	－	－	10.0	－	0.111	長・金	口：沈線文、体：ナデ	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR 灰白色	－	－	－

縄文時代　土器観察表（6）

報告No.	遺構・層位・グリッド	器種	分類	浮線文	器高	口径	底径	残存率	胎土	外面調整・施文	内面調整・施文	外面色調	内面色調	外面炭化物	内面炭化物	備考
159	19P1・Ⅵ	鉢	－	－	－	－	4.0		長	体～底：ナデ	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR 灰白色	－	－	－
160	16M18・Ⅵ	鉢	F	－	－	14.2	－	0.250	長・金	丁寧なナデ	丁寧なナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR にぶい黄橙色	－	－	－
161	14N7・Ⅵ	鉢	F	－	7.1	11.0	5.2	0.722	長	口～底：ナデ	ナデ	10YR 灰白色	10YR 灰白色	－	－	－
162	19R4・Ⅵ	甕	－	－	－	－	－	－	長	複合口縁、口：刺突文	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR 褐灰色	口	－	－
163	16M10・Ⅵ	甕	－	－	－	－	－	－	長	頸：刺突文、平行沈線文	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR 灰黄褐色	－	－	－
164	16M14・Ⅵ	甕	A3d	－	－	－	－	－	長	山形 1・口：平行沈線文、頸:ナデ、肩:平行沈線文	ナデ	7.5YR にぶい黄橙色	7.5YR 灰白色	－	－	－
165	18Q2・5・6・22・Ⅵ	甕	A1a	f1・e3	－	－	－	－	長・金	肥厚口縁、口:突起、平行沈線文、頸：浮線文、肩：突起	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR にぶい黄橙色	－	－	－
166	18N17・Ⅵ	甕	B1a	a	－	－	－	－	長・金	口：浮線文	口：沈線、ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR にぶい黄橙色	口～頸	－	－
167	19R24・Ⅵ	甕	B2a	－	－	18.0	－	0.166	長・金	口：浮線文、頸：綾杉文、肩：平行沈線文 or 浮線文	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR 褐灰色	－	口	－
168	20O12・Ⅵ	甕	－	－	－	－	－	－	長	山形 1、口：交互綾杉文 or 菱形集合沈線文	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR 浅黄橙色	－	－	－
169	15N・Ⅵ	甕	B2e	－	－	29.2	－	0.306	長・金・	口～体：条痕文	ナデ	10YR 浅黄色	10YR 灰白色	口～体	体	－
170	19Q5・10・20Q1・6	甕	B3a	e2	18.9	19.8	8.3	0.694	長・金	口:平行沈線文、頸:ナデ、肩：浮線文・眼鏡状文、体：条痕文	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR にぶい黄橙色	－	体	－
171	18O・噴砂口	甕	A2a	d1・d2	－	－	－	－	長・金	山形 2、複合口縁、口：浮線文、頸：綾杉文・浮線文、肩：眼鏡状文、平行沈線文 or 浮線文、体：条痕文	ナデ	10YR 褐灰色	10YR 灰黄褐色	－	－	－
172	14N22・Ⅵ	甕	A2e	－	－	－	－	－	長・黒	複合口縁、口～体：条痕文	ナデ	10YR 褐色	10YR 灰白色	－	－	－
173	18R1・Ⅵ	甕	A2e	－	－	－	－	－	長・金	肥厚口縁、口～体：条痕文	ナデ	10YR にぶい黄褐色	10YR 灰黄褐色	－	－	－
174	2 区暗渠	深鉢	B3	－	－	－	－	－	金	口：平行沈線文・綾杉文、体：条痕文	丁寧なナデ	10YR にぶい黄褐色	10YR 暗褐色	－	口	－
175	16M15・Ⅵ	深鉢	B1	a	－	－	－	－	金	口:浮線文･突起､体:縄文 LR	ナデ	10YR にぶい黄褐色	10YR 灰白色	－	－	－
176	17P3・Ⅵ	深鉢	B6d	－	－	15.0	5.4	0.250	長	山形 2、口：平行沈線文､体:条痕文､底:ナデ	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR 黒褐色	－	口～体上	－
177	17O・Ⅵ	深鉢	B6d	－	－	－	－	－	金	端：キザミ、口：平行沈線文、体：条痕文	ナデ	10YR 褐灰色	10YR 灰黄褐色	口～体上	－	－
178	18Q22・Ⅵ	深鉢	B4	－	－	－	－	－	長・金	口:綾杉文･浮線文、体：条痕文	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR にぶい黄橙色	－	－	－
179	16 M15・Ⅵ	深鉢	A7c	－	－	32.0	－	0.166	長・金	口：刺突文、体：網目状撚糸文 R	ナデ	10YR 黒褐色	10YR 灰黄褐色	口～体	－	－
180	17R19・25・Ⅵ	深鉢	B6c	－	－	－	－	－	長・金	口:網目状撚糸文 R･平行沈線文、体：条痕文	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR 灰黄褐色	口	－	－
181	16Q14・Ⅵ	深鉢	B6d	－	－	19.1	－	0.222	長・金	口：刺突文・平行沈線文、体：条痕文	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR にぶい黄橙色	－	－	－
182	17L24・Ⅵ	深鉢	B6d	－	－	－	－	－	長	口：刺突文・平行沈線文、体：条痕文	ナデ	10YR 黒褐色	10YR にぶい黄橙色	口～体上	体上	割れ口の断面にスス
183	18P8・Ⅵ	深鉢	B7d	－	－	－	－	－	長	口～体：条痕文	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR 黒褐色	端	－	割れ口の断面にスス
184	17P22・Ⅵ	深鉢	A7d	－	－	25.6	－	0.194	長	肥厚口縁、口～体：条痕文	ナデ	2.5Y 黄灰色	2.5Y 黒褐色	－	－	－
185	18・19P・Ⅵ	深鉢	B7b	－	－	－	－	－	長・金	口：結節縄文	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR にぶい黄橙色	－	－	－
186	18N22・Ⅵ	深鉢	B8	－	－	－	－	－	長・金	ナデ	ナデ	10YR 褐灰色	10YR 灰黄褐色	体	－	－
187	17P15・Ⅵ	深鉢	B7d	－	－	28.0	－	0.250	長・金	肥厚口縁、口～体：条痕文	ナデ	10YR にぶい黄橙色	10YR 灰黄褐色	－	－	－
188	17L22・Ⅵ	深鉢	B7a	－	－	－	－	－	長・金	複合口縁、口～体：縄文 LR	ナデ	10YR 灰黄褐色	10YR 灰黄褐色	口～体上	－	－
189	18・19P・20O・Ⅵ	壺	－	－	－	5.6	－	0.500	長・金	口：突起・平行沈線文	ナデ	10YR 浅黄橙色	10YR にぶい黄橙色	－	－	－
190	20N16・Ⅵ	壺	－	－	－	－	－	－	長	肩：平行沈線文	ナデ	10YR 褐灰色	10YR 褐灰色	－	－	－
191	18R6・Ⅵ	壺	－	－	－	－	－	－	長・金	肩：隆帯・浮線文	ナデ	2.5Y 灰白色	2.5Y 灰黄色	－	－	－
192	19O25・20O12・16・21	壺	－	－	－	－	9.6	－	長・金	体：ナデ、面：木葉痕	ナデ	10YR 灰白色	10YR 灰白色	体下	体下～底	－
193	20O21・Ⅵ	ミニチュア土器	－	－	4.4	4.4	2.1	0.444	長・金	手づくね成形、体：アンギン状圧痕	－	10YR 灰白色	10YR 褐灰色	－	－	－

焼成粘土塊

報告番号	遺構名	グリッド	層位	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	備考
194	－	B トレンチ	Ⅵ	4.1	4.4	2.9	46.0	－
195	－	19R11	Ⅵ	5.7	5.0	3.0	60.0	－
196	－	19R15	Ⅵ	9.8	7.2	5.7	261.0	－

縄文時代　石器観察表

報告番号	遺構名	グリッド	層位	器種	分類	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	石材	備考
1	－	21O21	Ⅵ	石鏃	AⅡa	3.9	1.0	0.7	2.0	流紋岩	アスファルト付着
2	SC868	17N	2	石鏃	C	4.1	0.9	0.6	1.8	メノウ	－
3	－	18S10	Ⅵ	石鏃	AⅠc	2.3	1.6	0.5	1.3	メノウ	－
4	SC804	18Q	覆土	石鏃	AⅠc	2.3	(2.6)	0.5	1.2	珪質頁岩	左側縁欠損
5	SC801	17P	2	石鏃	AⅠb	3.5	1.4	0.6	2.1	珪質頁岩	－
6	SC825	17N	2	石鏃	AⅠb	4.1	1.6	0.6	2.4	メノウ	－
7	SC815	15P	2	石鏃	AⅡa	2.3	0.5	0.5	0.9	流紋岩	－
8	SC825	17N	覆土	石鏃	AⅠb	2.8	1.3	0.5	1.2	珪質頁岩	アスファルト付着
9	SC850	19N	1	石鏃	AⅠb	4.2	1.8	0.6	2.9	メノウ	アスファルト付着
10	SC842	17M	6	石鏃	AⅠa	(4.2)	1.2	0.5	1.8	流紋岩	基部欠損
11	P851	18S	1	石鏃	－	(3.1)	1.2	0.6	1.7	碧玉	先端部欠損
12	SC825	17N	4	石鏃	AⅠa	5.4	1.7	0.6	3.4	メノウ	アスファルト付着
13	SC816	14O	1	石鏃	－	(2.4)	1.3	0.5	1.1	流紋岩	先端部欠損
14	SI860	17M	7	石鏃	AⅠb	(2.5)	1.3	0.6	1.1	碧玉	基部欠損
15	SC817	17O	2	石鏃未成品	－	2.3	1.3	0.8	2.3	碧玉	－
16	SC815	15P	2	石鏃未成品	－	3.1	1.2	0.6	2.0	流紋岩	－
17	－	20R6	Ⅵ	石鏃未成品	－	3.0	1.0	0.7	1.9	メノウ	－
18	SC863	18S	1	石鏃未成品	－	4.1	2.3	1.1	6.5	凝灰岩	－
19	SC815	15P	2	石錐	BⅡ	3.8	1.0	0.7	1.5	流紋岩	－
20	SC859	19O	1	石錐	BⅡ	3.6	0.9	0.7	2.1	メノウ	－
21	SC866	18O	3	石錐	A	4.1	2.0	0.9	3.6	凝灰岩	－
22	－	20O22	Ⅵ	石錐	A	3.6	1.5	1.7	7.4	メノウ	－
23	SC825	17N	2	石錐	BⅠ	4.5	1.7	0.9	4.2	珪質頁岩	－
24	SC842	17M	6	不定形石器	C	2.8	1.8	0.7	2.4	泥岩	－
25	SC825	17N	4	不定形石器	C	2.5	2.8	1.0	7.5	流紋岩	－
26	SC859	19O	1	不定形石器	A	4.9	3.3	1.3	18.9	凝灰岩	－
27	SC815	15P	2	不定形石器	A	5.1	3.4	1.2	21.0	砂岩	－
28	SC817	17O	2	不定形石器	A	3.7	2.6	0.9	7.2	凝灰岩	－
29	SC816	14O	1	磨製石斧	－	(1.9)	(2.7)	(0.5)	2.6	凝灰岩	上・下半部欠損
30	－	17O24	Ⅵ	磨製石斧	－	5.7	3.3	1.3	34.9	輝緑岩	－
31	SC842	17M	3	磨製石斧	－	7.2	3.6	1.4	51.1	輝緑岩	－
32	SC861	18M	1	磨製石斧	－	(7.9)	(4.4)	2.4	114.0	凝灰岩	刃部欠損
33	－	17O12	Ⅵ	磨製石斧	－	(9.1)	(6.5)	(3.6)	328.5	砂岩	基部欠損
34	SC815	15P	2	石斧未成品	－	(4.1)	(4.8)	(1.4)	49.4	砂岩	－
35	SI860	18M	13	石斧未成品	－	(6.1)	(6.1)	(2.9)	159.0	斑レイ岩	－
36	SC880	20O	1	石斧未成品	－	(8.4)	(7.0)	(3.5)	247.0	輝緑岩	－
37	SC804	18Q	7	石斧未成品	－	(10.9)	(8.0)	(3.1)	425.0	斑レイ岩	－
38	埋設土器 824	17M	2	石斧未成品	－	16.1	9.0	3.5	603.0	輝緑岩	－
39	P925	17R	1	石斧未成品	－	15.5	7.9	4.8	947.0	輝緑岩	－
40	埋設土器 824	17M	2	自然礫	－	15.4	8.2	2.4	453.0	輝緑岩	－
41	埋設土器 824	17M	2	石斧未成品	－	18.6	11.8	3.9	1103.0	輝緑岩	－
42	埋設土器 824	17M	2	石斧未成品	－	21.3	11.5	7.4	2238.0	輝緑岩	－
43	－	18N5	Ⅵ	磨石類	A	9.5	7.1	3.8	390.0	凝灰岩	赤色顔料付着
44	－	18N15	Ⅵ	磨石類	G	9.7	6.7	3.9	293.0	閃緑岩	－
45	SC859	19O	1	磨石類	B	8.1	7.0	4.5	354.0	凝灰岩	被熱、赤色顔料付着
46	SC879	20R	3	磨石類	G	8.7	6.7	3.2	306.0	凝灰岩	－
47	－	19R15	Ⅵ	磨石類	E	7.0	7.9	6.0	399.0	凝灰岩	－
48	SI860	18N	7	磨石類	E	6.3	5.6	4.2	200.0	安山岩	－
49	－	19R17	Ⅵ	磨石類	G	12.5	5.8	4.2	286.0	凝灰岩	－
50	SC842	16M	10	磨石類	A	6.1	5.9	3.9	196.0	凝灰岩	赤色顔料付着
51	SC859	19O	3	磨石類	A	6.2	5.6	4.9	248.0	閃緑岩	赤色顔料付着
52	－	19R18	Ⅵ	自然礫	－	9.3	6.8	4.7	324.0	凝灰岩	赤色顔料付着
53	土器集中 1	19R・S	Ⅵ	石核	－	12.8	15.3	10.2	2284.0	凝灰岩	－
54	SC815	15P	2	石核	－	5.9	6.9	5.4	207.0	流紋岩	－
55	－	19N3	Ⅵ	石核	－	10.6	10.1	9.1	788.0	凝灰岩	－
56	SC825	17N	4	石核	－	7.9	12.0	6.4	688.0	凝灰岩	－
57	SI860-P917	18M	1	玉類	－	(2.0)	(1.7)	(0.5)	1.8	凝灰岩	－
58	SC825	17N	15	垂飾品	－	1.9	3.3	0.9	5.6	泥岩	－
59	SC914	17P	3	石冠	－	7.9	13.3	4.6	463.0	輝緑岩	－
60	－	暗渠	－	石冠	－	5.4	8.0	4.2	308.0	閃亜鉛鉱	－
61	SC859	19O	1	石冠	－	5.8	19.7	4.6	450.0	凝灰岩	－
62	－	17M11	Ⅵ	石製容器	－	7.7	9.5	(7.4)	405.0	デイサイト	－
63	SC914	17P	Ⅵ	独鈷状石製品	－	(9.9)	(8.8)	(6.3)	848.0	デイサイト	－

アスファルト

報告番号	遺構名	グリッド	層位	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	備考
70	SC868	17M・N	覆土	4.0	5.5	3.5	38.0	－
71	P877	18M	覆土	4.3	7.6	3.5	15.0	－

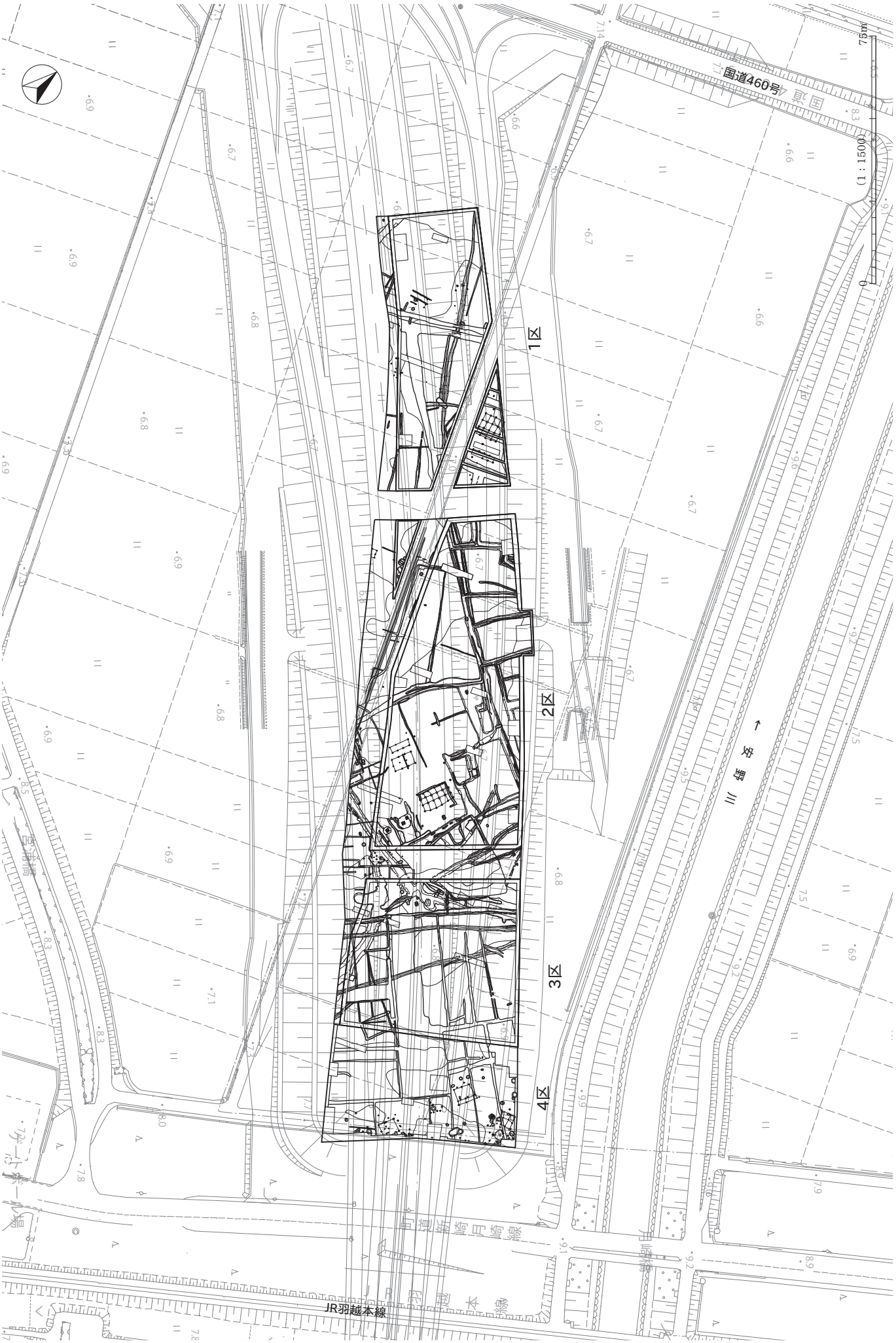
図　　版

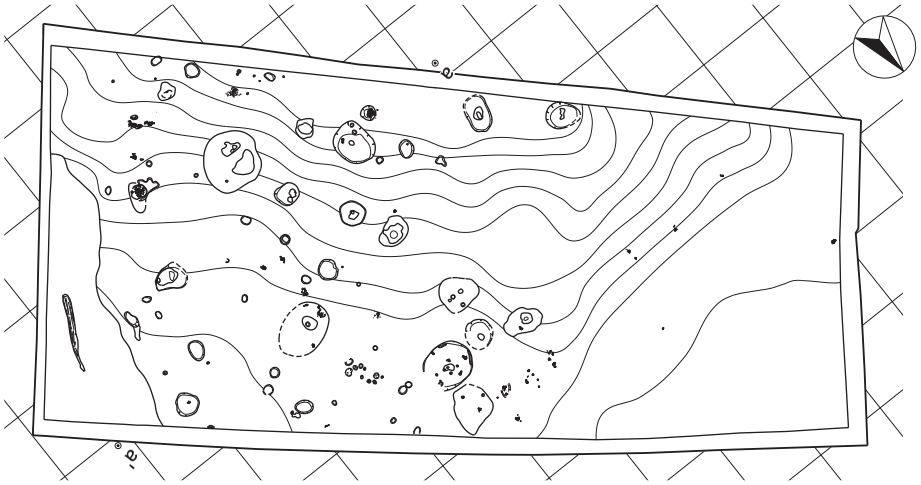
凡　例

- 焼土
- 炭化物範囲
- 炭化物濃密範囲
- ● 土器
- ○ 石器

調査範囲図

図 版 1



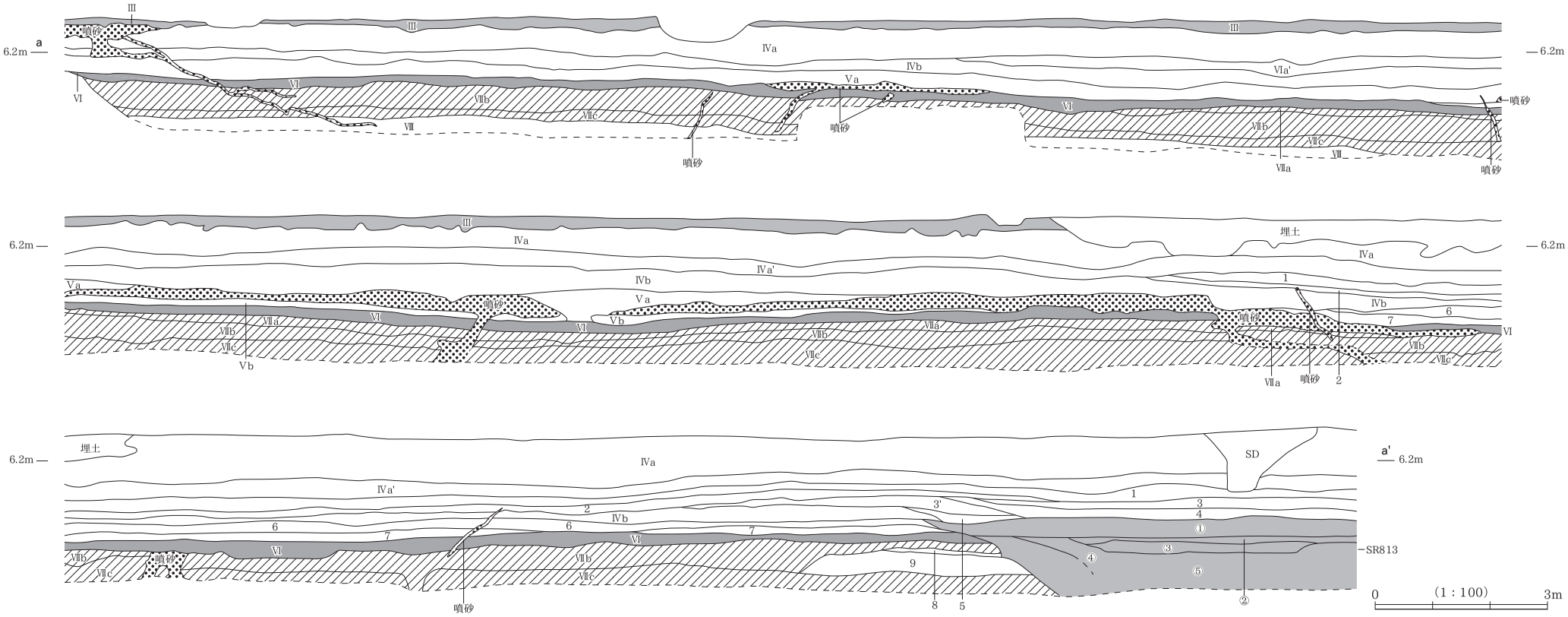


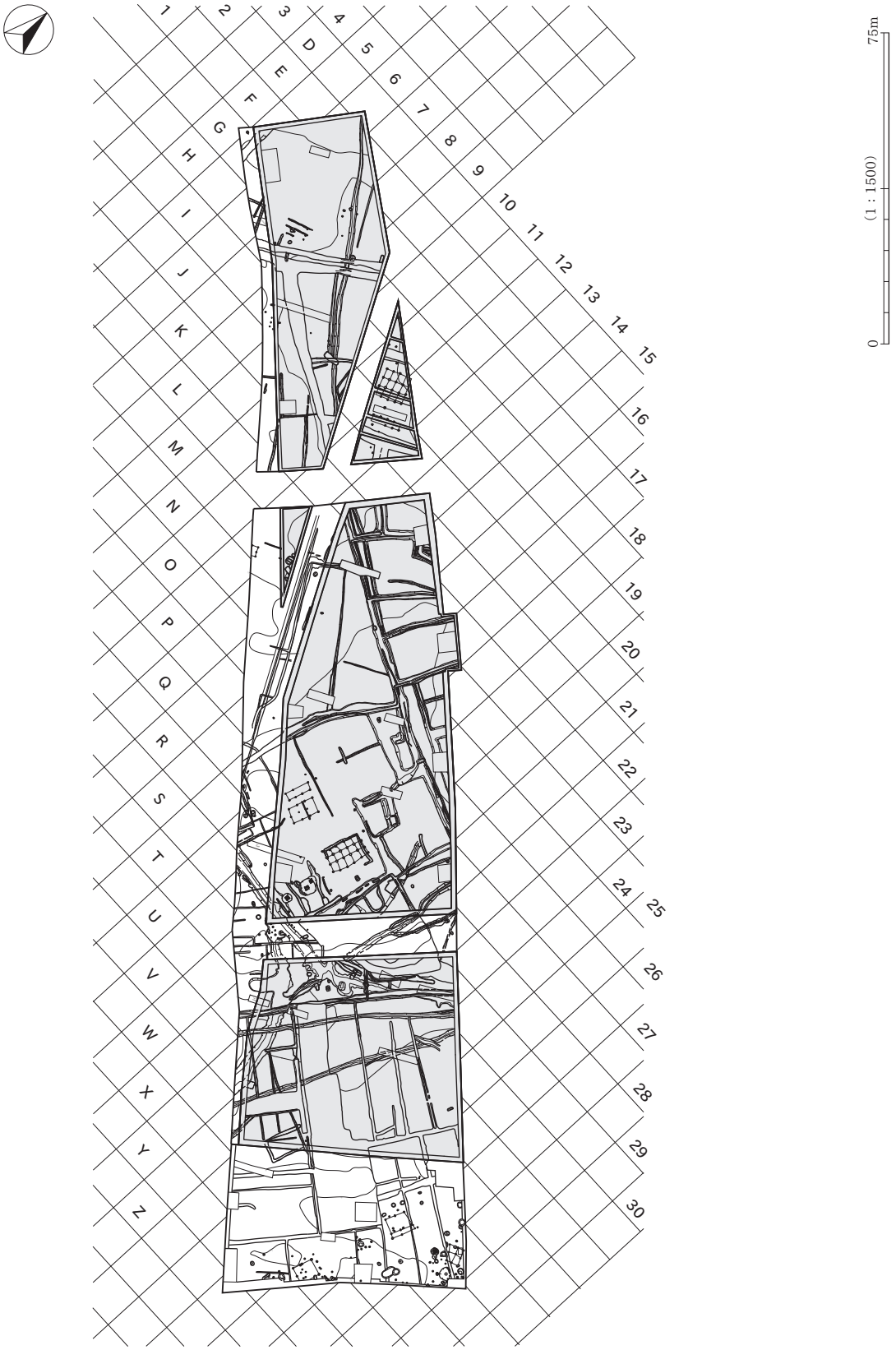
下層遺構分布図

0 (1：1000) 50m

1 灰白色粘質シルト（7.5Y7/1） 径10～20mmの鉄分を多量含む。
2 灰白色砂質シルト（7.5Y7/1） 径10～20mmの鉄分を多量含む。
3 灰白色粘質シルト（7.5Y7/1） 黄橙色砂を多量含む。
3' 灰白色粘質シルト（7.5Y7/1）
4 灰白色粘質シルト（7.5Y7/1）
5 灰白色砂質シルト（7.5Y7/1） 径10～20mmの鉄分を多量含む。
6 灰色粘質シルト（N6/） 径10～20mmの鉄分を多量含む。
7 灰色砂質シルト（N6/） 径10～20mmの鉄分を多量含む。
8 灰白色粘質シルト（7.5Y7/1）
9 青灰色砂質シルト（10BG6/1）

SR813
1 青灰色粘質シルト（10BG6/1） 径10～20mmの鉄分を多量含む。
2 青灰色砂質シルト（10BG6/1） 径10～20mmの鉄分を多量含む。
3 青灰色粘質シルト（10BG6/1） 径10～20mmの鉄分を多量含む。
4 暗青灰色粘質シルト（10BG4/1）
5 暗青灰色砂質シルト（10BG4/1） 流木出土層。




1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
X
Y
Z
0
(1：1500)
75m

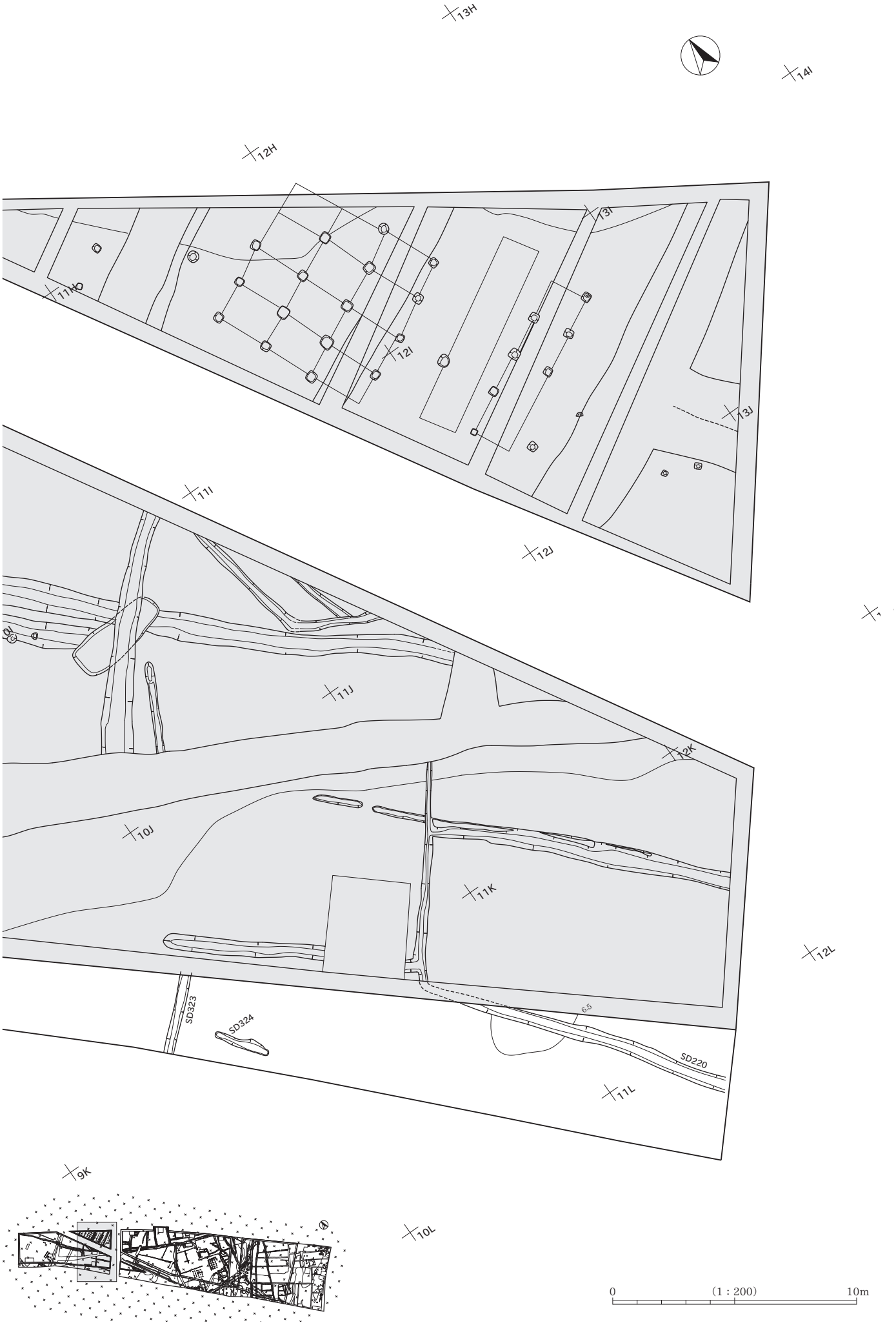
2012年度調査区

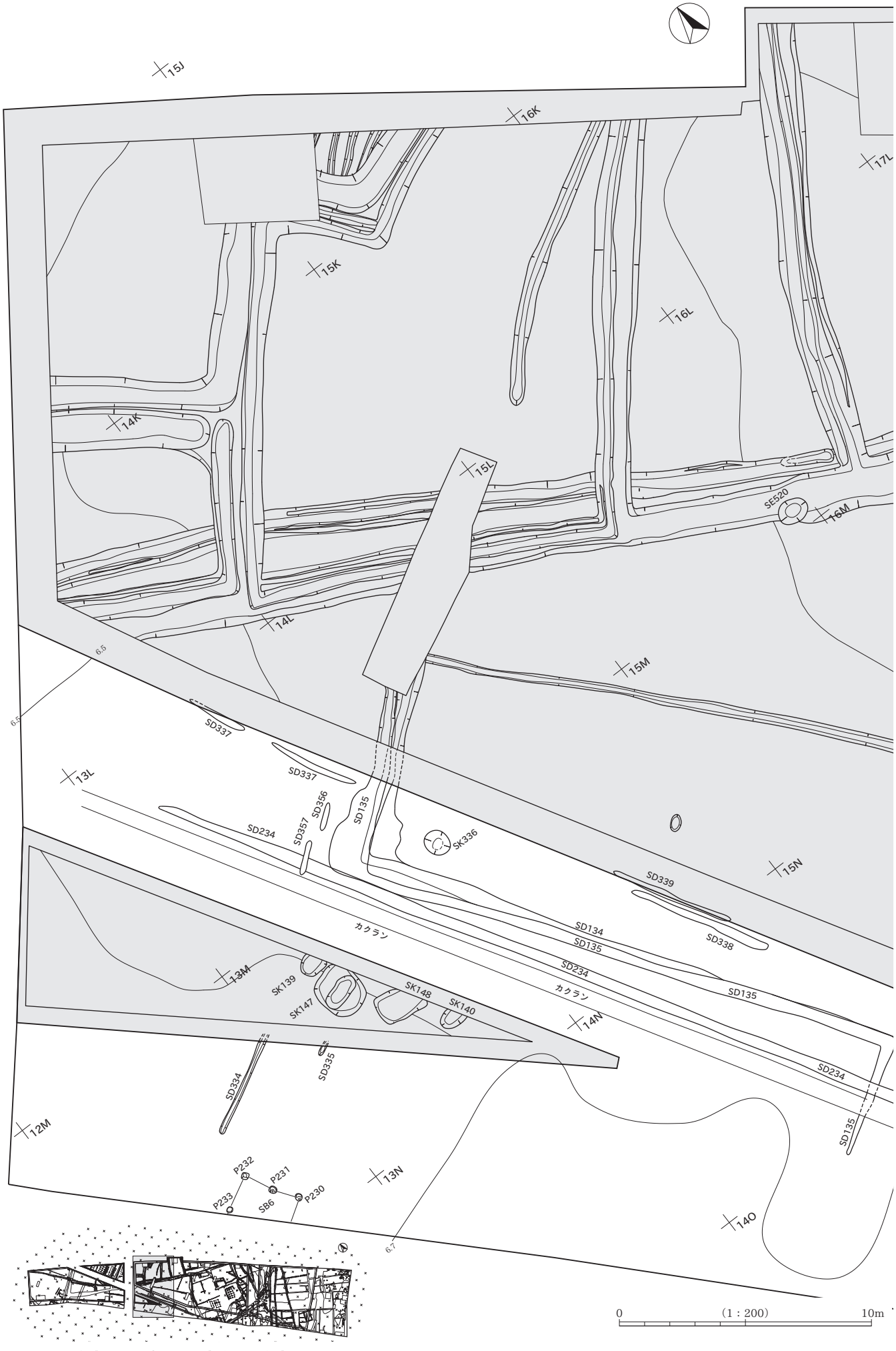
上層遺構分割図（1）

7D
8E
9F
7E
8F
9G
7F
8G
6F
7G
8H
6G
7H
5G
SK326
SD180
6.4
SD320
SD321
10T（2008）
SD185
SD184
6H
6.5
7I
5H
6I
7J
0
（1：200）
10m

10F
11G
9F
10G
11H
9G
10H
9H
10I
8H
9I
10J
SD185
SD184
8I
SK327
P328
P330
P329
P331
P332
P333
9J
6.5
6.5
6.5
SD323
7I
8J
9K
8K
0
(1 : 200)
10m

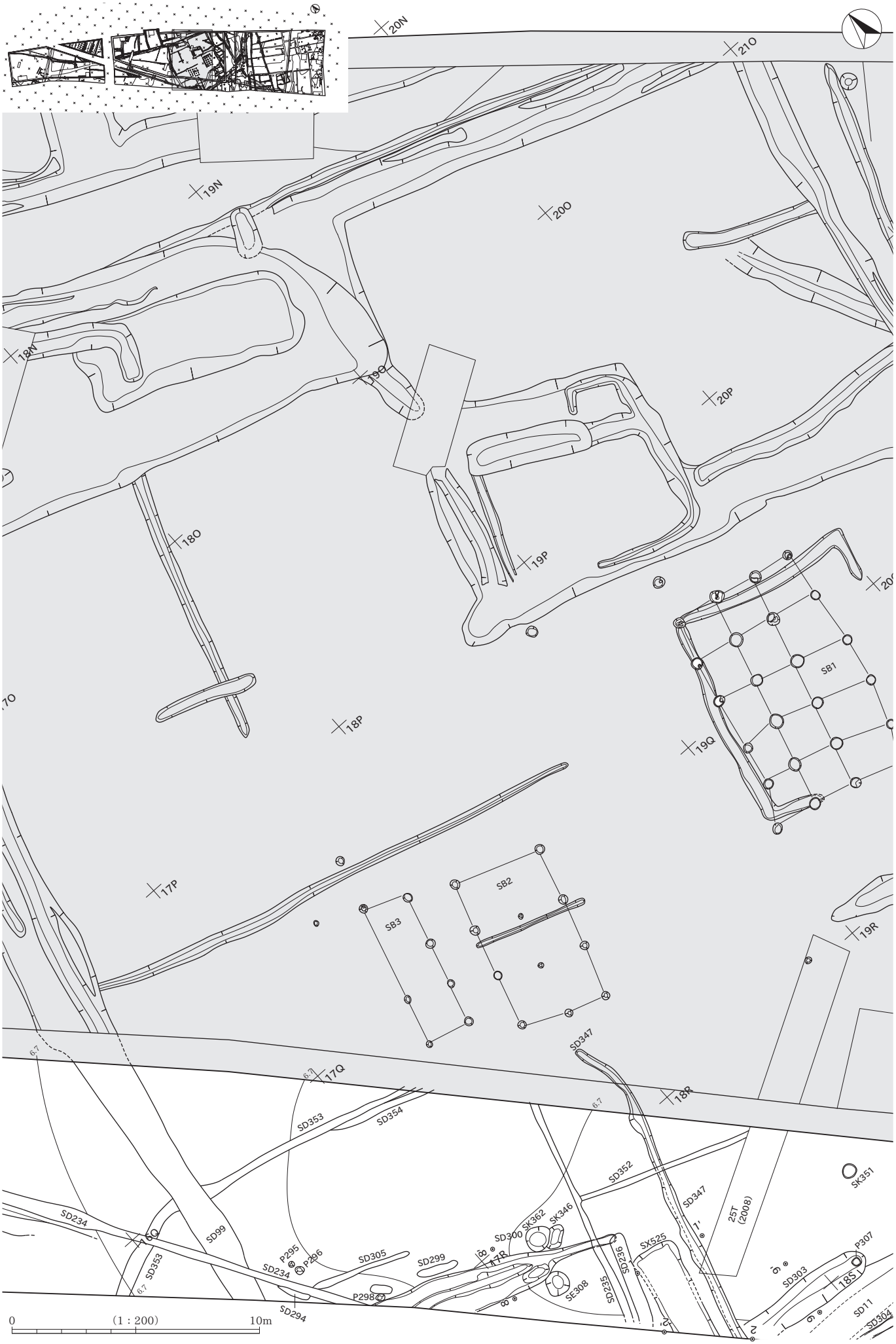
上層遺構分割図（3）


13H
14I
12H
13I
11H
12I
13J
11I
12J
11J
12K
10J
11K
12L
SD323
SD324
6.5
SD220
11L
9K
10L
0
(1：200)
10m

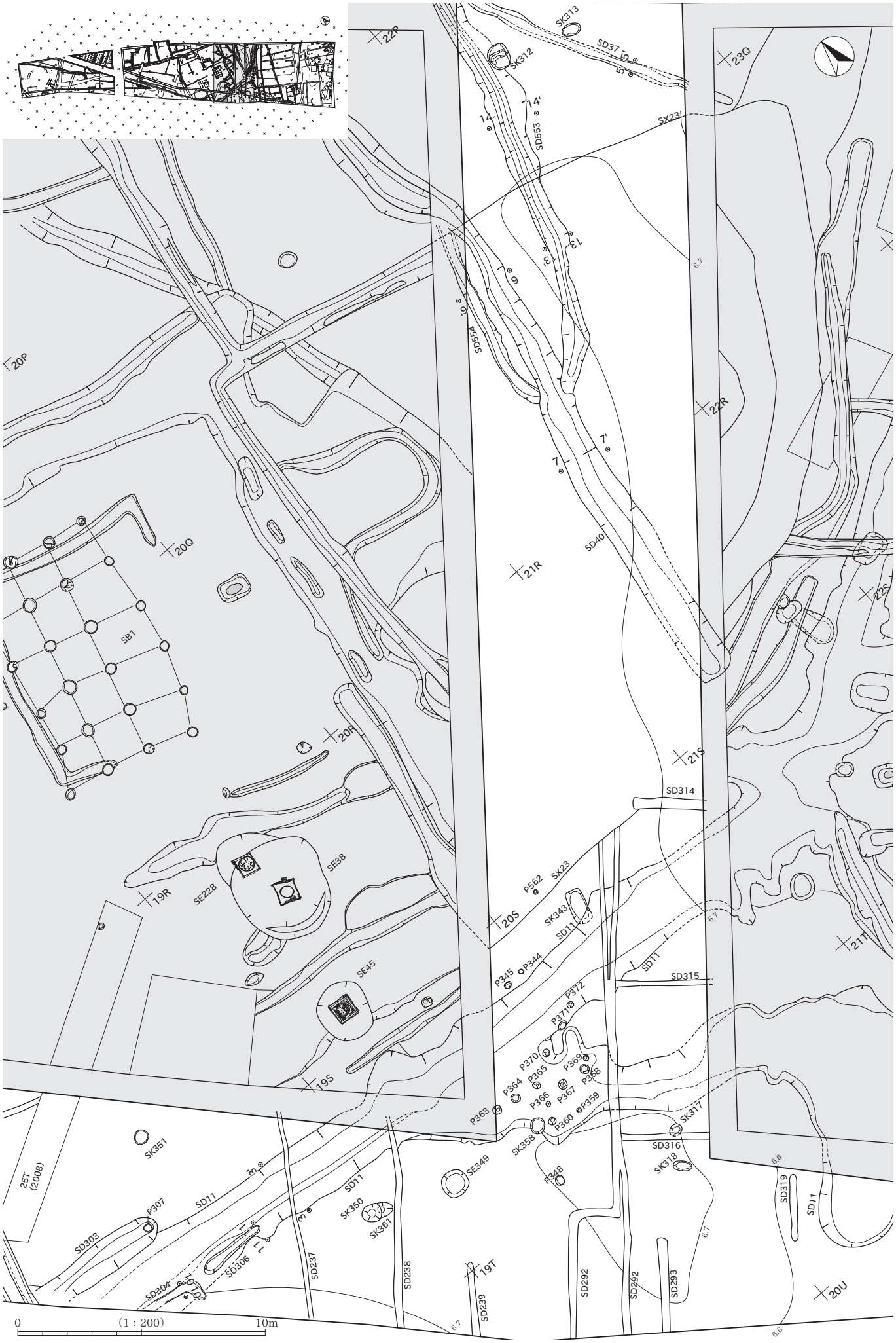

15J
16K
17L
15K
16L
14K
15L
SE520
16M
14L
15M
6.5
6.5
SD337
SD337
13L
SD356
SD135
SD357
SD234
SK336
15N
SD339
SD134
SD135
SD338
カクラン
SD234
カクラン
SD135
13M
SK139
SK147
SK148
SK140
14N
SD334
SD335
SD234
SD135
12M
P232
P231
P233
S86
P230
13N
14O
6.7
0
（1：200）
10m

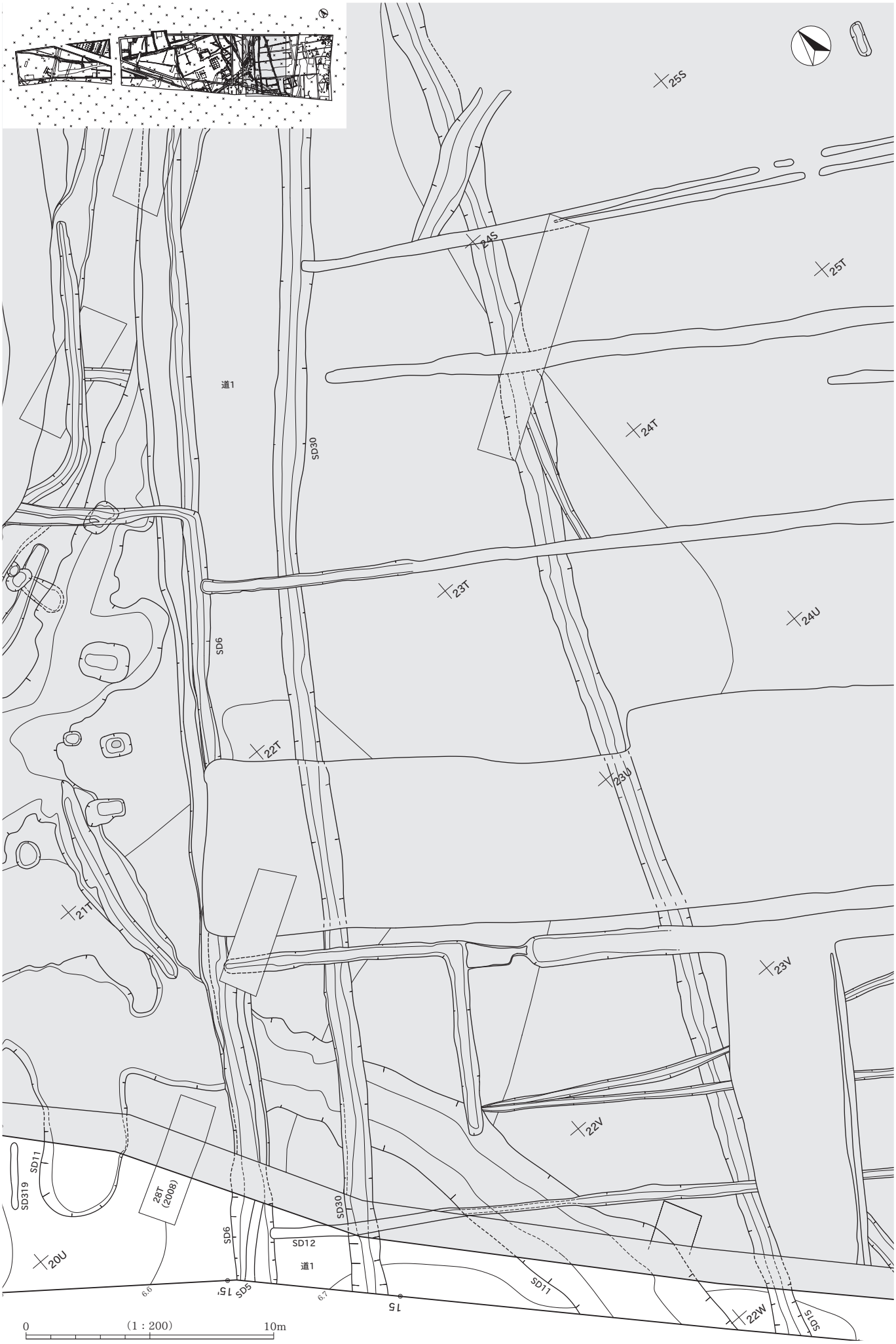
上層遺構分割図（5）

18L
17L
18M
19N
17M
18N
SE520
16M
17N
18O
16N
17O
15N
16O
17P
SD338
6.7
SD135
15O
SD310
SD234
SD134
16P
6.7
SD135
P340
SD355
SD99
SD99
カクラン
SD353
14O
SD355
15P
SD234
16O
SD99
SD353
P295
0
（1：200）
10m

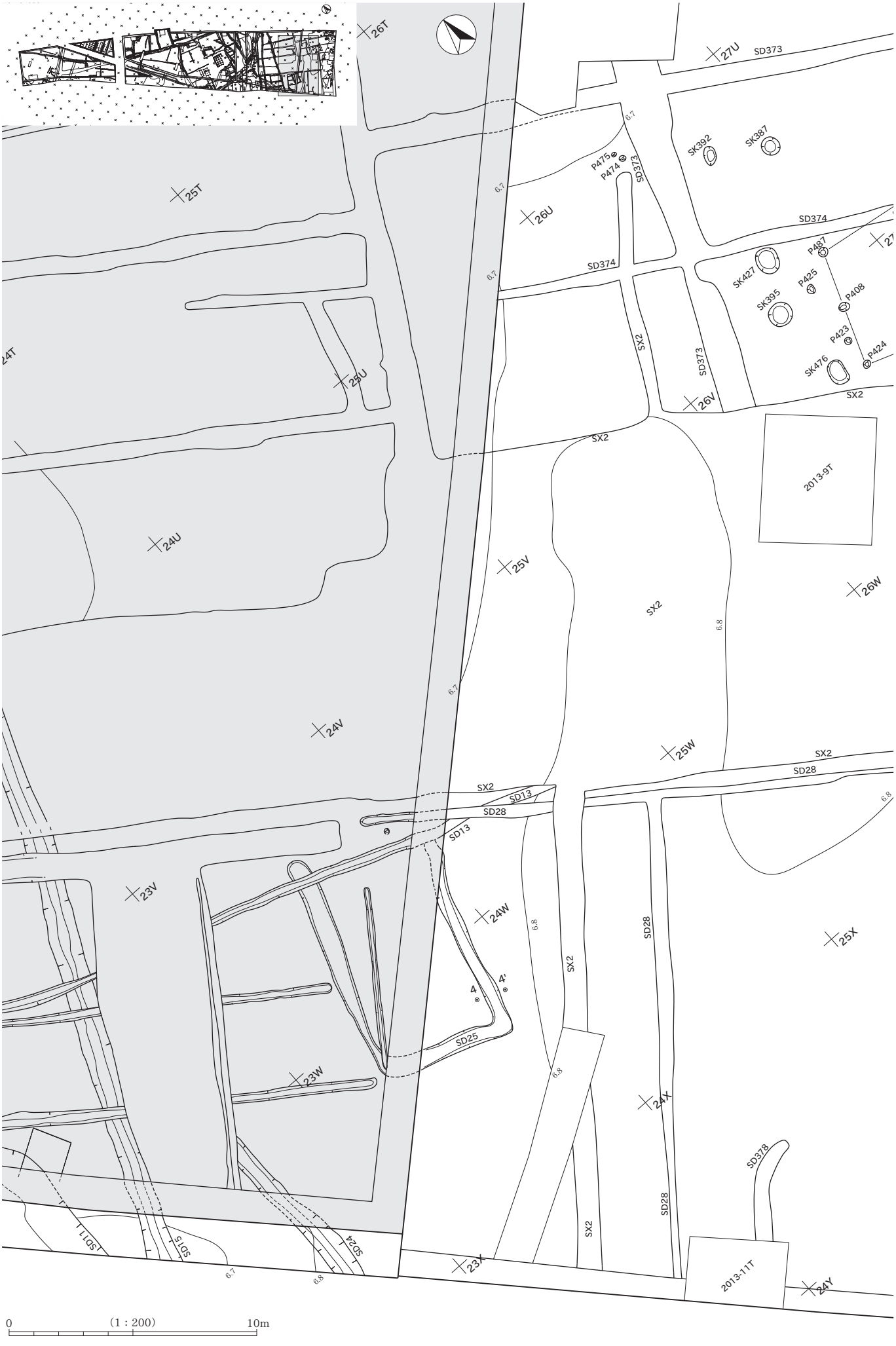

20N
21O
19N
20O
18N
19O
20P
18O
19P
SB1
18P
19Q
17P
SB2
SB3
19R
SD347
17Q
18R
SD353
SD354
SD352
SK351
SD347
25T
(2008)
SD234
16Q
SD99
SK362
SK346
SD300
SX525
P307
P295
P296
SD305
SD299
17R
SD236
SD303
18S
SD234
SD353
SE308
SD235
P298
SD11
SD294
SD304
0
(1 : 200)
10m

上層遺構分割図（7）


SK313
SD37
SK312
22P
23Q
14'
14
SD553
SX23
13
13'
6
6'
SD554
20P
22R
7'
7
SD40
20Q
21R
22S
SB1
20R
21S
SD314
SE38
SE228
19R
P562
SX23
SK343
20S
SD11
21T
SE45
P345
P344
SD11
SD315
P372
P371
P370
P369
P365
P368
P364
P366
P367
P359
P363
P360
SK317
19S
SK358
SD316
SK351
SK318
SE349
P348
25T
(2008)
SD11
SD319
SD11
P307
SD303
SK350
SK361
SD306
SD237
SD238
19T
SD292
SD292
SD293
SD304
SD239
20U
6.7
6.6
0
(1 : 200)
10m


25S
24S
25T
道1
24T
SD30
23T
24U
SD6
22T
23U
21T
23V
22V
SD11
SD319
28T
(2008)
SD6
SD30
SD12
道1
20U
6.6
SD5
15
6.7
15
SD11
22W
SD15
0
(1：200)
10m

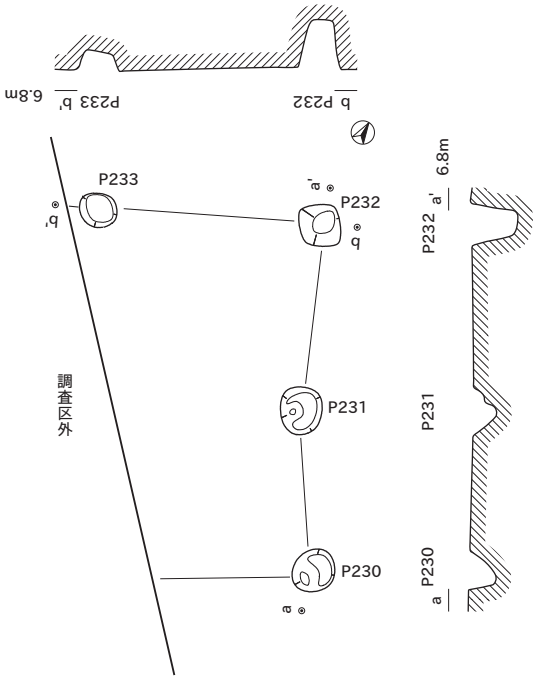
上層遺構分割図（9）


26T
27U
SD373
25T
26U
SK392
SK387
P475
P474
SD373
SD374
P487
SK427
P425
SK395
P408
P423
P424
SK476
SX2
SD373
26V
2013-9T
24T
25U
24U
25V
26W
SX2
6.7
6.8
24V
25W
SD28
SD13
23V
24W
25X
4
4'
SD25
23W
24X
SD378
SD11
SD15
SD24
23X
2013-11T
24Y
0
(1 : 200)
10m

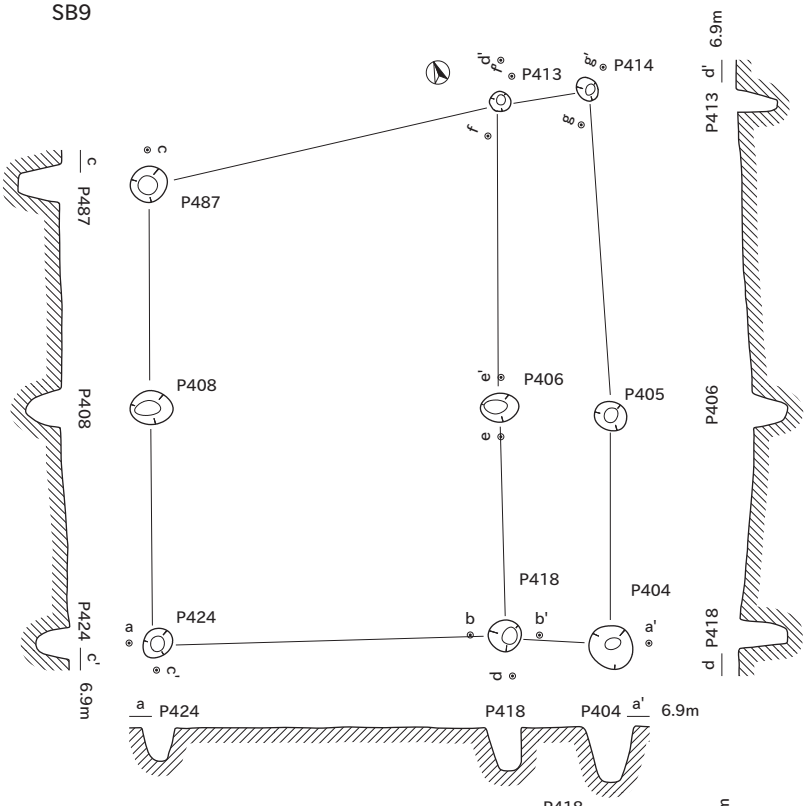
26U
27V
28W
26V
27W
25V
26W
27X
25W
26X
24W
25X
24X
25Y
23X
24Y
25Z
24Z
SD374
SD373
SD28
SX2
SD13
SD25
SD378
SD490
2013-9T
2013-10T
2013-11T
2013-12T
10T
SB9
SB8
SK395
SK427
SK476
SK403
SK433
SK488
SK407
SK437
SK443
SK444
SK445
SK446
SK447
SK426
SK468
SK471
P413
P414
P487
P425
P408
P422
P406
P405
P420
P404
P423
P424
P429
P421
P418
P483
P402
P393
P498
P434
P435
P436
P438
P440
P442
P472
P439
P494
P497
P449
P448
P450
P451
P453
P454
P452
P495
P455
P456
P457
P458
P459
P460
P462
P464
P461
P465
P466
P467
P496
P469
P492
P491
P470

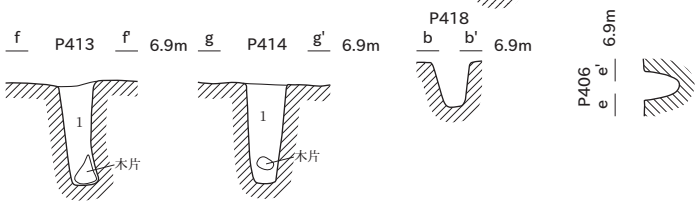
27T
P411
P416
P493
29V
SK397
SE398
SK412
P473
P389
12T
P380
P379
SE396
P484
P388
P381
P417
SB7
P485
SK382
P486
2013-8T
P383
P428
SD373
SK390
SK481
P430
P409
SK401
SK399
P391
SE386
P432
P480
SE479
SK394
SK385
SK400
P410
27U
SD373
SE478
P482
P463
P384
P477
SK441
SK392
SK387
P475
P474
SD373
P431
P413
P414
SD374
26U
SD374
SD374
27V
P487
P422
P405
P483
28W
P402
SK427
P425
P408
SB9
P406
SK403
SK433
SK395
P429
P420
P404
P393
P423
P421
P418
SX2
SD374
SK476
P424
SD28
SD28
SK488
26V
SX2
SK407
27W
SX2
P498
P434
SD28
2013-9T
P435
SK437
SX2
P436
2013-10T
P442
P440
P438
P439
P472
SD28
25V
P494
26W
SX2
SD28
27X
SK445
P497
SK443
P446
SK444
P447
10T
P449
P450
P448
25W
SX2
P453
P454
P451
SD28
P455
P452
26X
SX2
SD13
SD28
P495
P456
SK426
SB8
P457
P458
P462
P464
P460
P459
P461
P465
P466
24W
P496
P467
SD28
25X
SD28
SX2
26Y
SD28
P469
SK468
6.7
6.8
6.9
0
(1 : 200)
10m

SB6



SB9

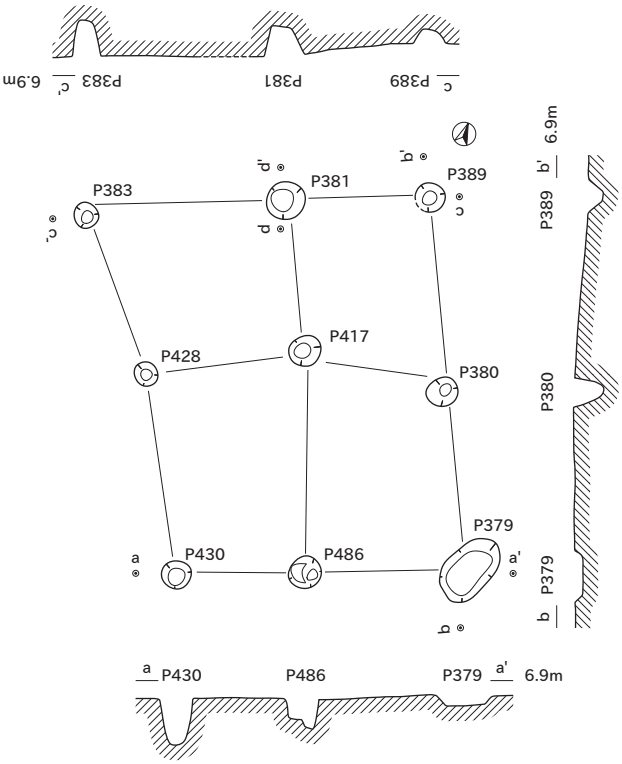


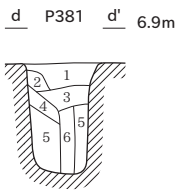


P413
1 にぶい黄褐色シルト（10YR4/3） 鉄分を含む。

P414
1 にぶい黄褐色シルト（10YR4/3） 鉄分を含む。

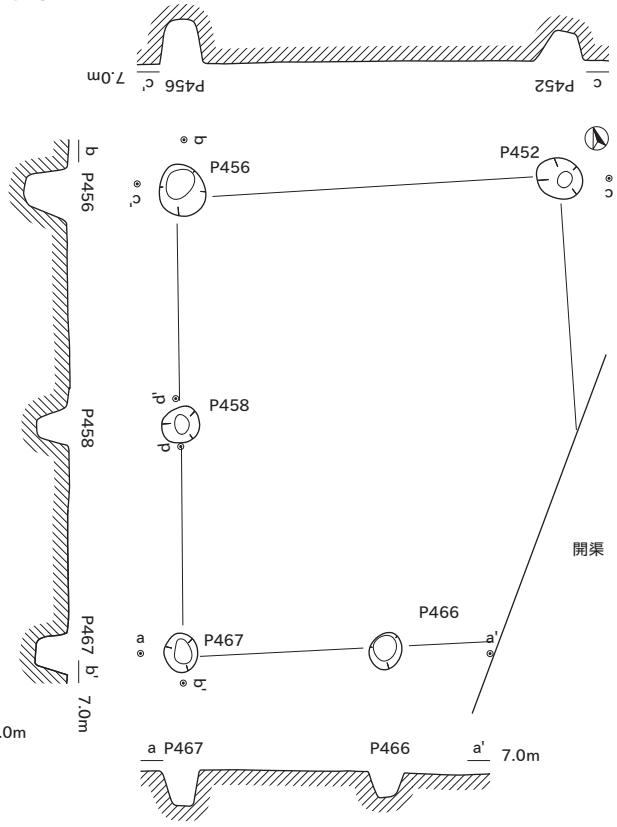
SB7

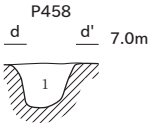




P381
1 黒褐色シルト（10YR3/1） 炭化物粒を多量含む。
2 黄褐色シルト（2.5Y5/4）
3 黒褐色シルト（10YR3/2）
4 暗灰黄色シルト（2.5Y4/2） 砂粒を含む。
5 黄褐色シルト（2.5Y5/4） 砂粒を含む。
6 黒褐色シルト（10YR3/1） 砂粒を含む。

SB8

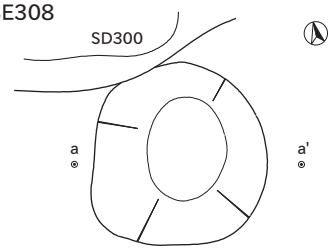


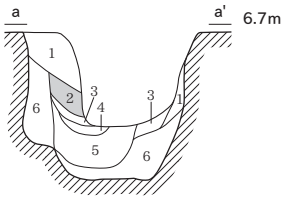


P458
1 にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）炭化物、炭化粒子を含む。

0 断面図（1：40） 2m　　SB6 0 平面図・エレベーション図（1：50） 2m　　SB7～9 0 平面図・エレベーション図（1：80） 4m

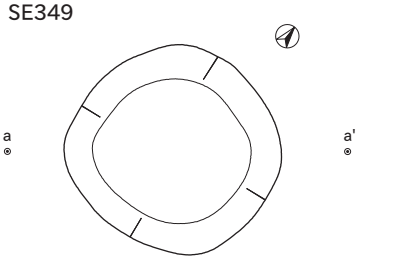
SE308

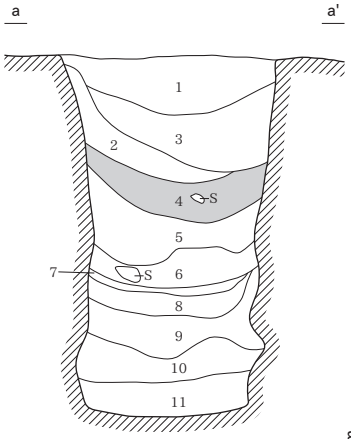




SE308
1　灰褐色砂質シルト（7.5YR5/2）　炭化物を含む。
2　黒褐色砂質シルト（10YR2/2）　炭化物層。
3　灰黄褐色砂質シルト（10YR5/2）
4　黒褐色粘質シルト（10YR3/1）　炭化物を多量含む。
5　灰褐色粘質シルト（7.5YR5/2）
6　褐色砂質シルト（10YR4/6）

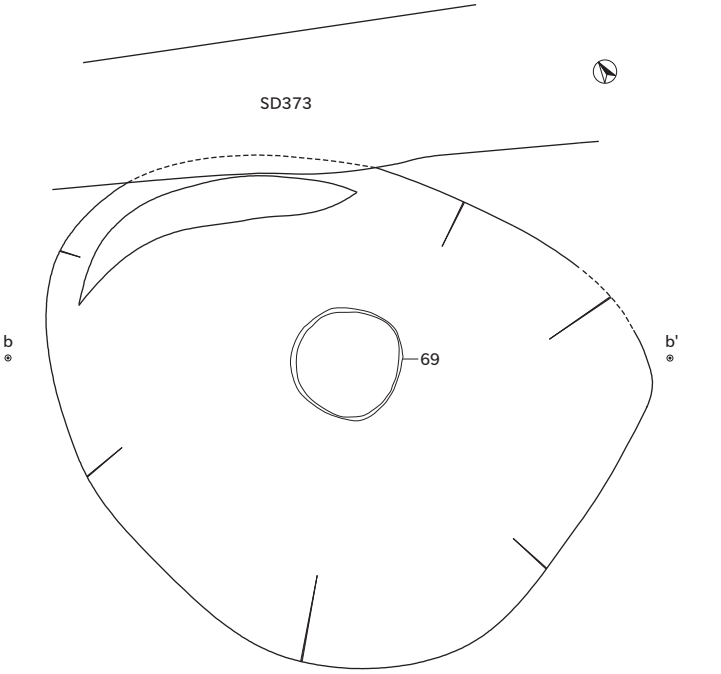
SE349

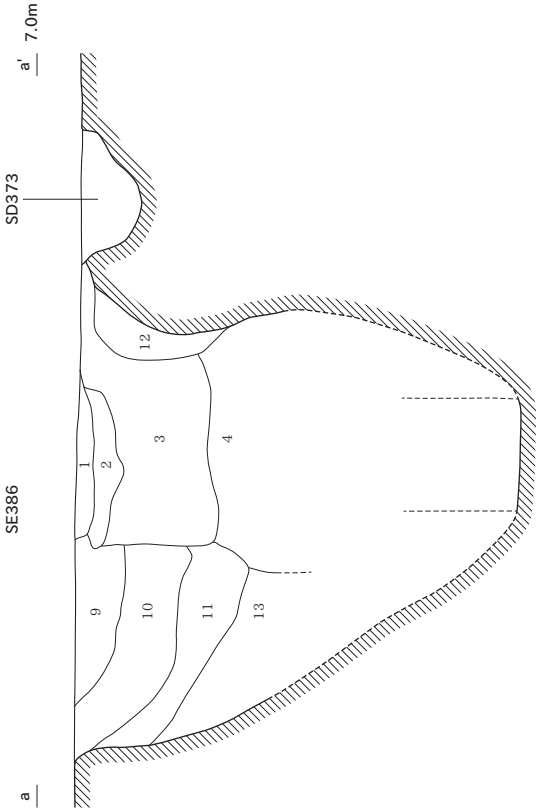


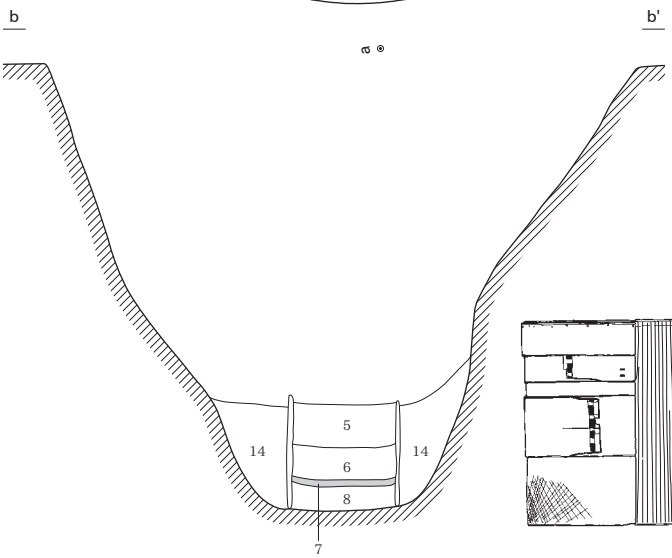


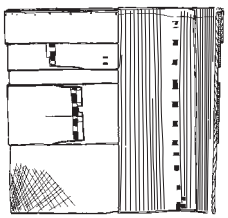
SE349
1　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）　鉄分を多量含む。
2　暗褐色シルト（10YR3/3）　炭化物を多量含む。
3　暗褐色シルト（10YR3/4）　炭化物を含む。
4　黒褐色シルト（10YR3/1）　炭化物層。褐色シルトをブロック状に含む。
5　褐色シルト（10YR4/4）　炭化物・鉄分を含む。
6　暗褐色シルト（10YR3/3）　灰色シルト・明黄褐色シルトを含む。炭化物を含む。
7　暗オリーブ灰色シルト（2.5GY4/1）　灰白色シルトを少量含む。炭化物粒を少量含む。
8　暗灰色シルト（N3/）　灰白色シルトを少量含む。炭化物粒を少量含む。
9　暗灰色シルト（N3/）　青灰色シルトブロックを多量含む。炭化物粒を多量含む。
10　青灰色シルト（10BG6/1）暗灰色シルトを微量含む。
11　暗灰色シルト（N3/）　青灰色シルトブロックを少量含む。

SE386





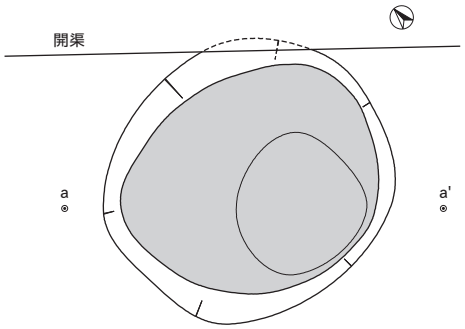


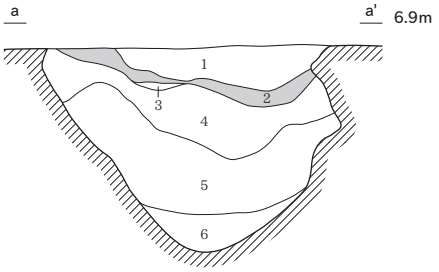


SE386
1　黒褐色シルト（10YR3/2）炭化物、炭化物粒を含む。
2　黒褐色シルト（10YR3/1）炭化物粒を主体とする。
3　黄褐色シルト（2.5Y5/3）　褐色シルトをブロック状に多量含む。
4　にぶい黄褐色シルト（2.5Y6/4）　黄褐色シルト・褐色シルトを含む。砂粒を含む。
5　青灰色シルト（10BG6/1）
6　青灰色シルト（10BG6/1）
7　黒褐色シルト（2.5Y2/1）　炭化物層。木片を含む。
8　青灰色シルト（10BG6/1）
9　黄褐色シルト（2.5Y5/4）　褐色シルトをブロック状に含む。
10　黄褐色シルト（2.5Y5/4）　褐色シルトを含む。
11　黄褐色砂質シルト（2.5Y5/6）　褐色シルトをブロック状に含む。
12　黄褐色シルト（2.5Y5/3）　砂粒を少量含む。
13　黄褐色砂質シルト（2.5Y5/6）　褐色シルトを少量含む。
14　暗青灰色シルト（10BG4/1）　黒褐色シルトを少量含む。

0　平面図・断面図（1：40）　2m

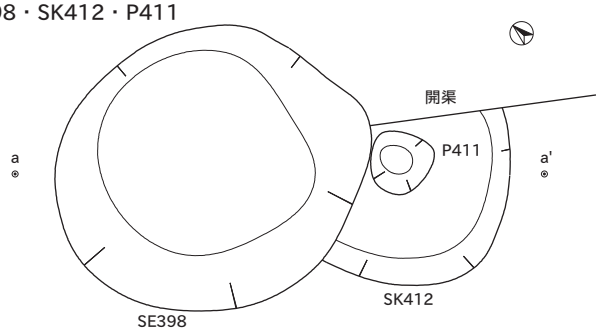
SE396

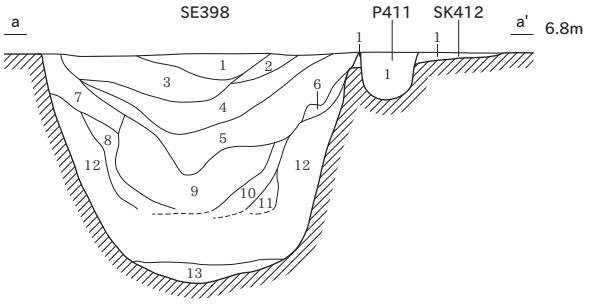




SE396
1 褐色シルト（10YR4/4） 黄褐色シルトを含む。
2 黒褐色シルト（10YR3/1） 炭化物層。
3 にぶい黄褐色シルト（10YR4/3） 黄褐色シルトをブロック状に含む。炭化物粒を含む。
4 にぶい黄褐色シルト（10YR4/3） 黄褐色シルトをブロック状に含む。
5 黄褐色シルト（2.5Y5/4） 砂粒を含む。
6 浅黄橙色シルト（10YR8/4） 灰白色シルトを少量含む。

SE398・SK412・P411



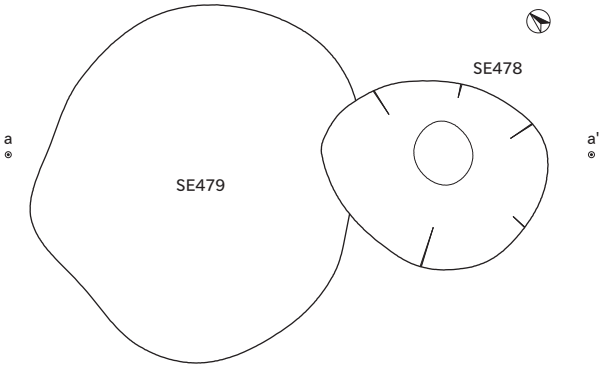


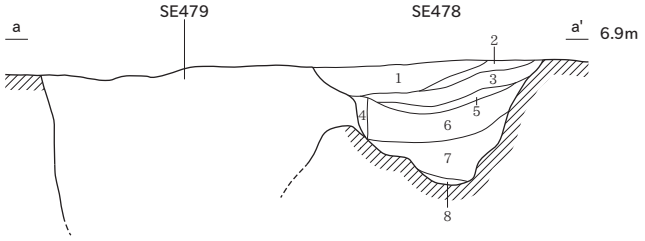
SE398
1 黒褐色シルト（10YR3/1） 炭化物粒を多量含む。鉄分を含む。
2 灰黄褐色シルト（10YR4/2） 炭化物、炭化物粒を含む。鉄分を含む。
3 灰黄褐色シルト（10YR4/2） 鉄分を含む。
4 褐色シルト（10YR4/1） 褐色シルトを含む。炭化物粒を含む。
5 黒褐色シルト（10YR3/1） 炭化物、炭化物粒を多量含む。鉄分を含む。
6 にぶい黄褐色シルト（10YR4/3） 褐色シルトを含む。
7 褐色シルト（10YR4/5） 鉄分を含む。
8 にぶい黄褐色砂質シルト（10YR5/4）
9 にぶい黄褐色シルト（10YR6/6） 砂粒を少量含む。
10 にぶい黄褐色シルト（10YR4/3） 砂粒を少量含む。
11 にぶい黄褐色砂質シルト（10YR5/3）
12 にぶい黄橙色砂質シルト（10YR6/4）
13 黄褐色シルト（10YR7/6）

SK412
1 灰黄褐色シルト（10YR4/2） 鉄分を含む。

P411
1 にぶい黄褐色シルト（10YR5/3） 鉄分を含む。

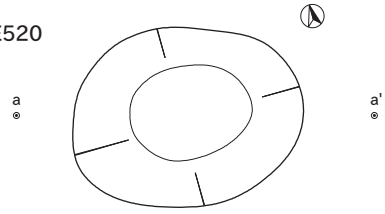
SE478

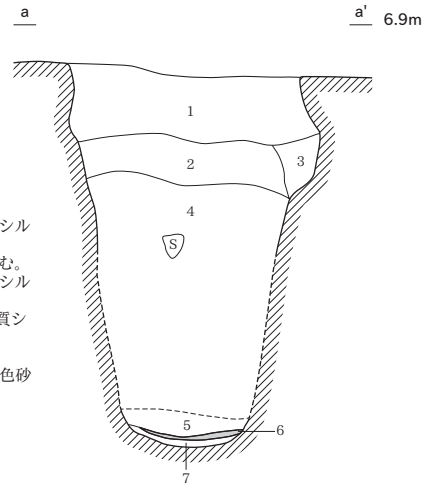




SE478
1 灰黄褐色シルト（10YR4/2） オリーブ褐色シルトをブロック状に含む。炭化物を含む。
2 暗褐色シルト（10YR3/3） にぶい黄褐色シルトをブロック状に含む。炭化物を少量含む。
3 暗褐色シルト（10YR3/3） 炭化物を含む。
4 灰黄褐色シルト（10YR5/2） 砂粒を含む。
5 灰黄褐色シルト（10YR4/2） にぶい黄褐色シルトをブロック状に含む。
6 暗褐色シルト（10YR3/3） 炭化物を多量含む。
7 暗褐色シルト（10YR3/2） 黄褐色シルトをブロック状に含む。炭化物を含む。
8 黄褐色砂質シルト（2.5Y5/4）

SE520

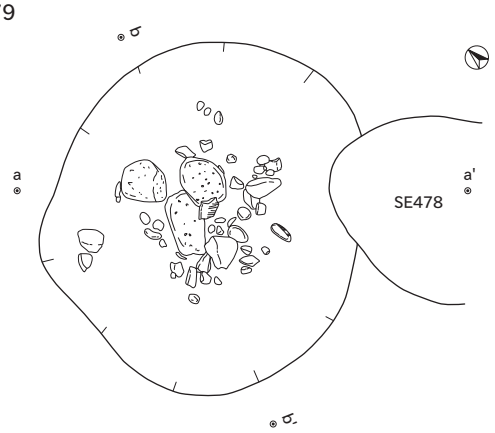


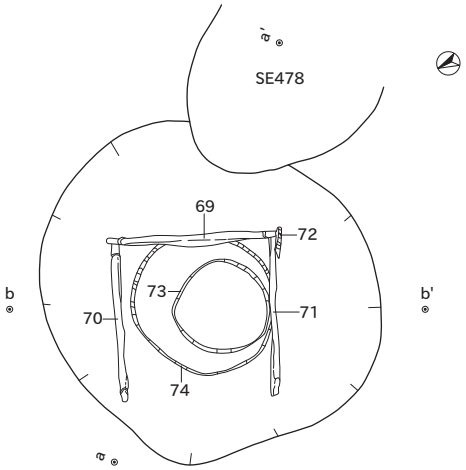


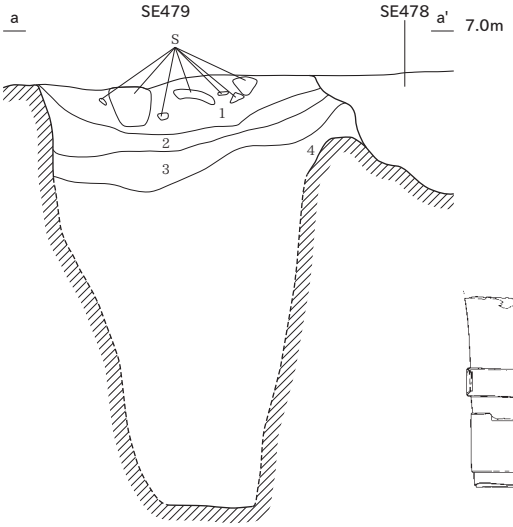
SE520
1 灰黄褐色シルト（10YR4/2） 鉄分を含む。
2 褐灰色シルト（10YR4/1） 灰オリーブ砂質シルトをブロック状に含む。鉄分を少量含む。
3 灰黄褐色シルト（10YR4/2） 鉄分を多量に含む。
4 黒褐色シルト（10YR3/1） 灰オリーブ砂質シルトをブロック状に多量含む。
5 にぶい黄橙色（10YR6/4）とオリーブ灰色砂質シルト（2.5GY5/1）の混合土。
6 黒褐色シルト（10YR3/1） 炭化物層。
7 にぶい黄橙色シルト（10YR6/4） オリーブ灰色砂質シルトを多量含む。

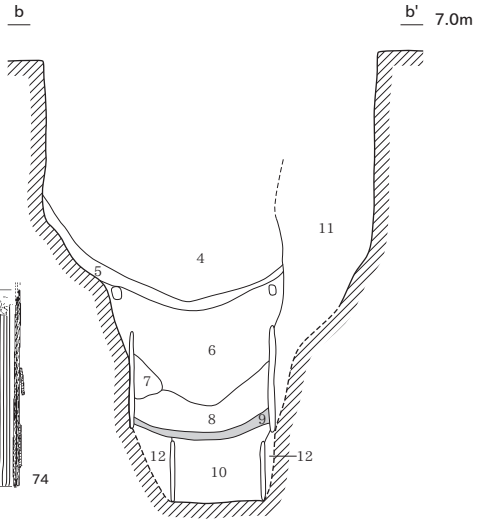
0 平面図・断面図（1：40） 2m

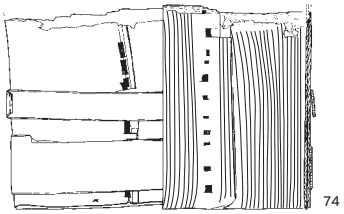
SE479





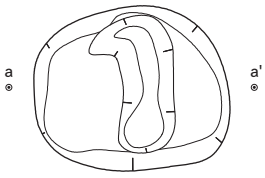


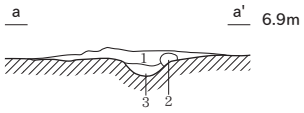




SE479
1　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）炭化物を少量含む。鉄分を多量含む。
2　黄褐色シルト（10YR5/6）鉄分を含む。
3　にぶい黄褐色砂質シルト（10YR5/4）鉄分を含む。
4　にぶい黄褐色砂質シルト（10YR5/3）灰黄褐色砂質シルトを含む。
5　黒褐色シルト（2.5Y3/1）　黄褐色シルトを多量含む。
6　黄褐色シルト（2.5Y5/6）　青灰色シルトを多量含む。
7　青灰色砂（10BG6/1）　青灰色シルトを多量含む。
8　暗青灰色シルト（10BG4/1）
9　黒褐色シルト（2.5Y3/1）　炭化物層。
10　青灰色砂（10BG6/1）
11　黄褐色シルト（2.5Y5/6）　黒褐色シルトを微量含む。
12　黄褐色シルト（2.5Y5/6）

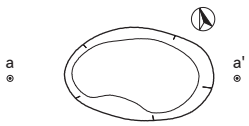
SK312

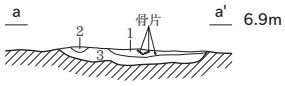




SK312
1　にぶい黄褐色シルト（10YR5/4）炭化物粒を多量、骨片を少量含む。
2　暗赤褐色シルト（5YR3/2）焼土粒を多量含む。
3　褐色シルト（10YR4/4）炭化物粒をブロック状に多量含む。骨片を少量含む。

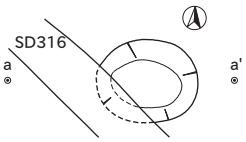
SK313

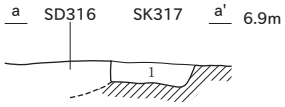




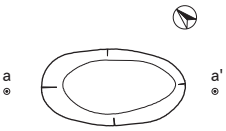
SK313
1　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）炭化物粒・骨片を多量含む。
2　暗赤褐色シルト（5YR5/6）焼土ブロックを多量含む。
3　にぶい黄褐色シルト（10YR5/4）炭化物粒、骨片を含む。

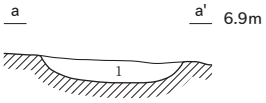
SK317





SK318

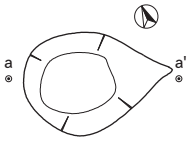


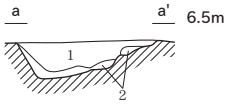


SK317
1　黄褐色シルト（2.5Y5/3）炭化物粒を少量含む。鉄分を多量含む。

SK318
1　黄褐色シルト（2.5Y5/3）炭化物粒を少量含む。鉄分を多量に含む。

SK326

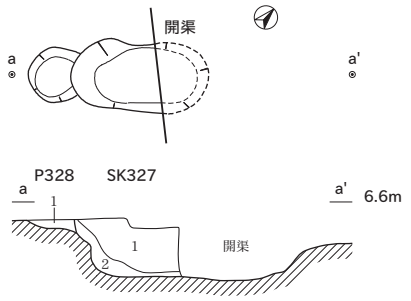




SK326
1　褐灰色シルト（10YR5/1）
2　にぶい黄褐色砂質シルト（10YR6/4）

0　平面図・断面図（1：40）　2m

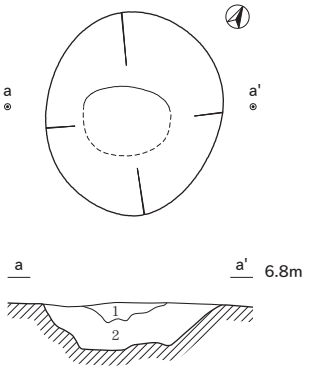
SK327・P328



SK327
1 灰黄褐色シルト（10YR4/2） 鉄分を含む。
2 黄褐色シルト（10YR5/6）

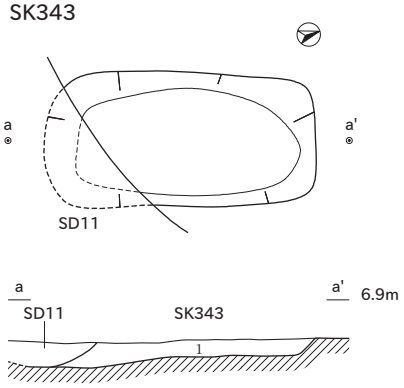
P328
1 灰黄褐色粘質シルト（1YR5/2）

SK336



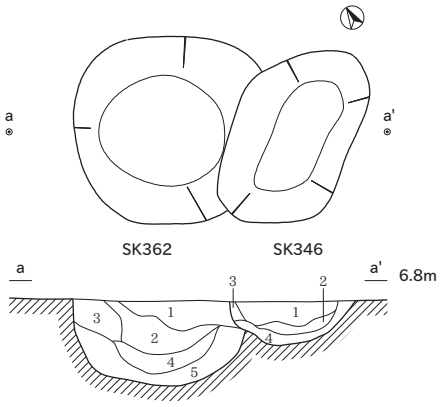
SK336
1 灰黄褐色シルト（10YR4/2） 黄褐色シルトブロック状に含む。
2 灰黄褐色シルト（10YR4/2） 炭化物、炭化物粒を含む。鉄分を含む。

SK343



SK343
1 にぶい黄褐色砂質シルト（10YR4/3） 灰黄褐色シルト・明黄褐色シルトを含む。鉄分を少量含む。

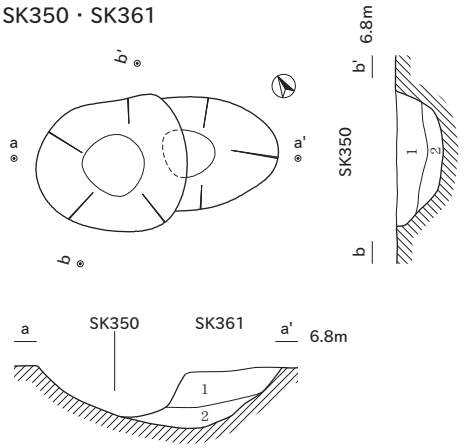
SK346・SK362



SK346
1 にぶい褐色シルト（7.5YR5/3） 炭化物粒・焼土粒を含む。
2 暗褐色シルト（10YR3/3） 炭化物粒を微量含む。焼土粒を少量含む。
3 にぶい黄褐色シルト（10YR5/4）炭化物粒を微量含む。焼土粒を少量含む。
4 灰黄褐色シルト（10YR4/2） 黄褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒を微量含む。

SK362
1 にぶい黄褐色シルト（10YR5/4）炭化物粒を少量含む。
2 明黄褐色シルト（10YR7/6）
3 灰黄褐色シルト（10YR4/2） 褐色シルトを含む。
4 にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）炭化物粒を含む。焼土粒を少量含む。
5 にぶい褐色シルト（7.5YR6/3） 炭化物粒を微量含む。

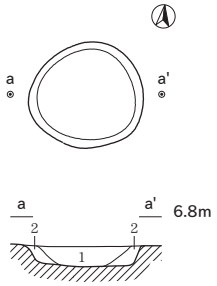
SK350・SK361



SK350
1 にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）炭化物を含む。鉄分を多量含む。
2 にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）炭化物粒を含む。鉄分を少量含む。

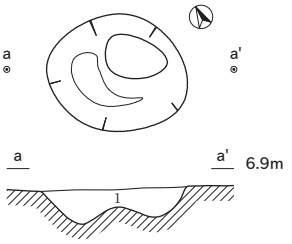
SK361
1 褐色シルト（10YR4/4） 鉄分を含む。
2 にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）炭化物を多量含む。

SK351



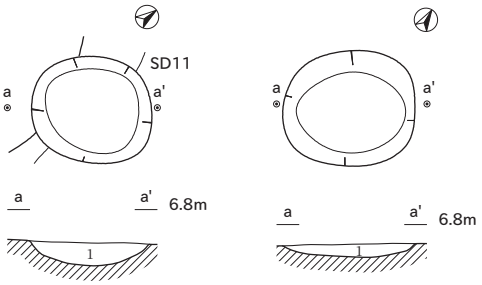
SK351
1 黒褐色シルト（10YR3/2） 炭化物粒を多量含む。
2 にぶい黄褐色シルト（10YR4/3） 炭化物粒を少量含む。

SK385



SK385
1 灰黄褐色シルト（10YR4/2） 黄褐色シルトをブロック状に含む。

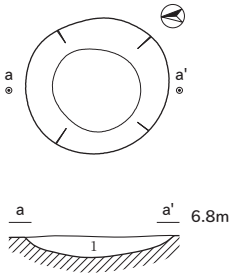
SK358　SK382



SK358
1 にぶい黄褐色シルト（10YR5/3） 黄褐色シルトをブロック状に含む。鉄分を含む。

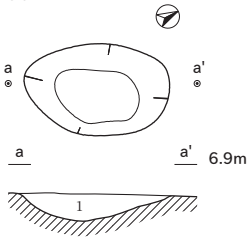
SK382
1 灰黄褐色シルト（10YR4/2）

SK387



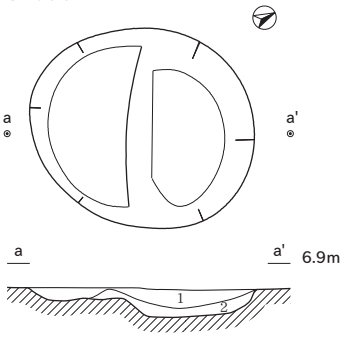
SK387
1 褐色シルト（10YR4/4） 鉄分を含む。

SK392



SK392
1 にぶい黄褐色シルト（10YR5/4） 褐色シルトを含む。鉄分を含む。

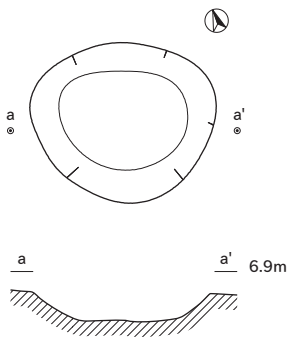
SK390



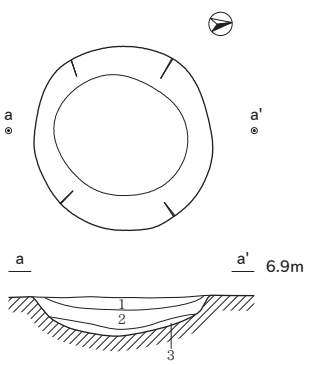
SK390
1 にぶい黄褐色シルト（10YR4/3） 鉄分少量含む。
2 褐色シルト（10YR4/4） 黄褐色シルトをブロック状に含む。

0 平面図・断面図（1：40） 2m

SK394

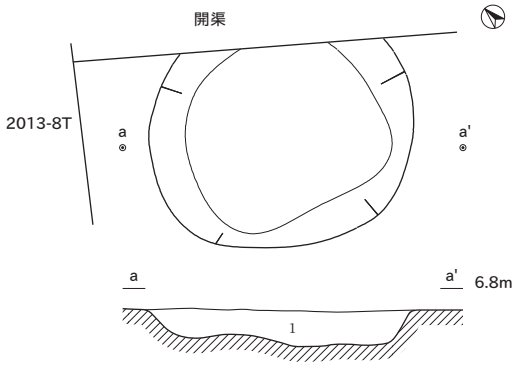


SK395



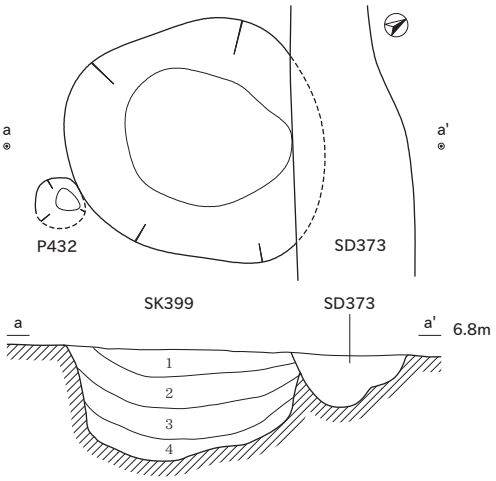
SK395
1　褐色シルト（10YR4/4）　鉄分を含む。
2　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）鉄分を含む。
3　にぶい黄色シルト（2.5Y6/4）　鉄分を含む。

SK397



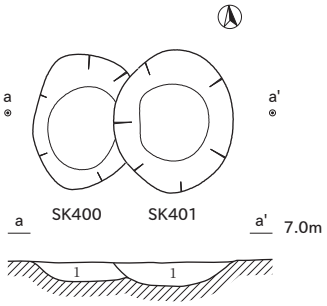
SK397
1　灰黄褐色シルト（10YR4/2）炭化物を含む。鉄分を含む。

SK399



SK399
1　灰黄褐色シルト（10YR5/2）炭化物、炭化物粒を多量含む。
2　黒褐色シルト（10YR3/1）　炭化物、炭化物粒を多量含む。鉄分を含む。
3　黒褐色シルト（10YR3/1）　炭化物を多量含む。
4　暗灰黄色砂質シルト（2.5Y5/2）

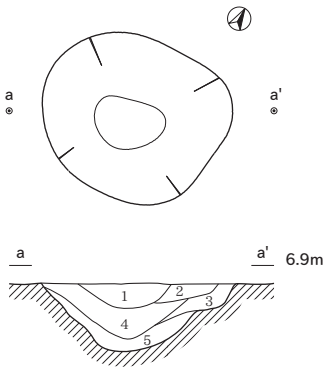
SK400・SK401



SK400
1　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）褐色シルトを含む。炭化物を少量含む。

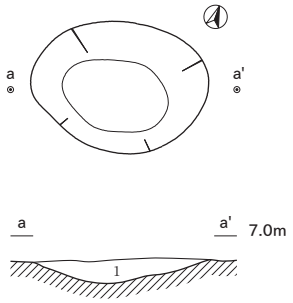
SK401
1　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）褐色シルトをブロック状に含む。炭化物を少量含む。

SK403



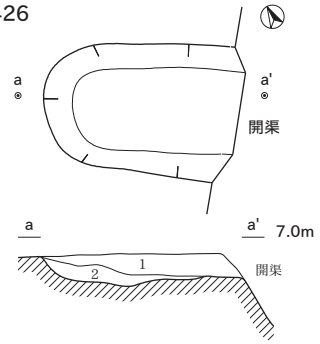
SK403
1　灰黄褐色シルト（10YR4/2）
2　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）
3　褐色シルト（10YR4/4）
4　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）炭化物少量含む。
5　にぶい褐色シルト（10YR4/3）砂粒を多量に含む。

SK407



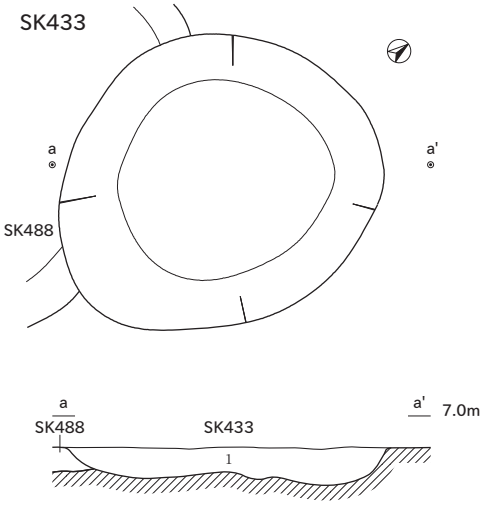
SK407
1　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）鉄分を含む。

SK426



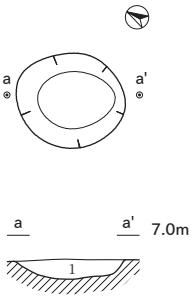
SK426
1　褐色シルト（10YR4/4）にぶい黄橙色シルトをブロック状に含む。
2　褐色シルト（10YR4/4）にぶい黄橙色シルトを含む。

SK433



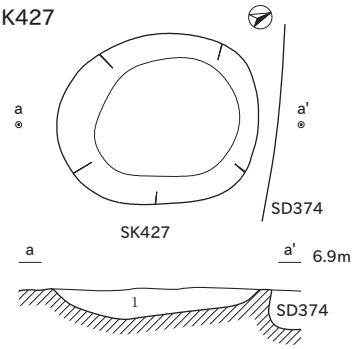
SK433
1　灰黄褐色シルト（10YR4/2）黄褐色シルトをブロック状に含む。

SK441



SK441
1　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）鉄分を含む。

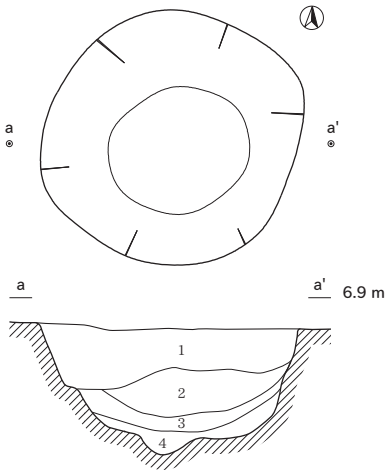
SK427



SK427
1　にぶい黄褐色シルト（10YR5/4）鉄分を含む。

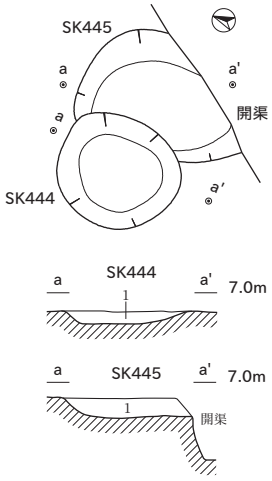
0　平面図・断面図（1：40）　2m

SK437



SK437
1 暗灰黄色シルト（2.5Y4/2） 鉄分を含む。
2 にぶい黄褐色シルト（10YR4/3） 炭化物を少量含む。鉄分を多量含む。
3 褐色シルト（10YR4/4） 炭化物を少量含む。
4 黒褐色シルト（10YR3/1） 炭化物、炭化物粒を多量含む。

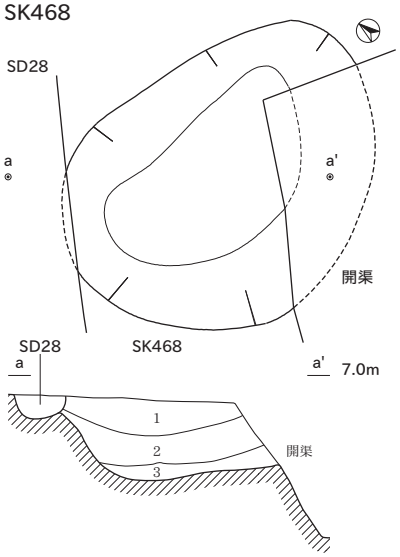
SK444・SK445



SK444
1 暗褐色シルト（10YR3/3） 鉄分を含む。

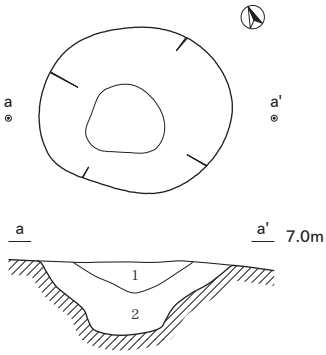
SK445
1 暗褐色シルト（10YR3/3） 黄褐色シルトを含む。

SK468



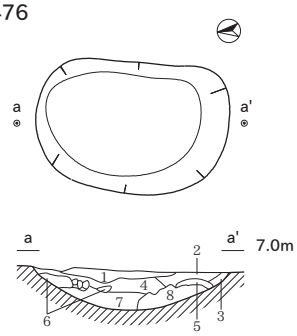
SK468
1 にぶい黄褐色シルト（10YR4/3） にぶい黄橙色シルトをブロック状に含む。炭化物を含む。
2 黒褐色シルト（10YR3/2） にぶい黄橙色シルトをブロック状に含む。
3 にぶい黄褐色シルト（10YR5/4） にぶい黄橙色シルトをブロック状に含む。

SK471



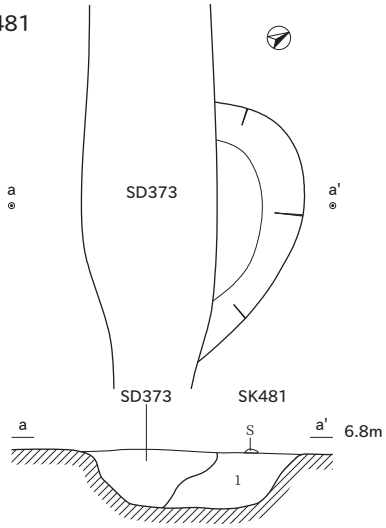
SK471
1 黄褐色シルト（2.5Y5/4）炭化物粒を含む。
2 褐色シルト（10YR4/6） 炭化物を含む。

SK476



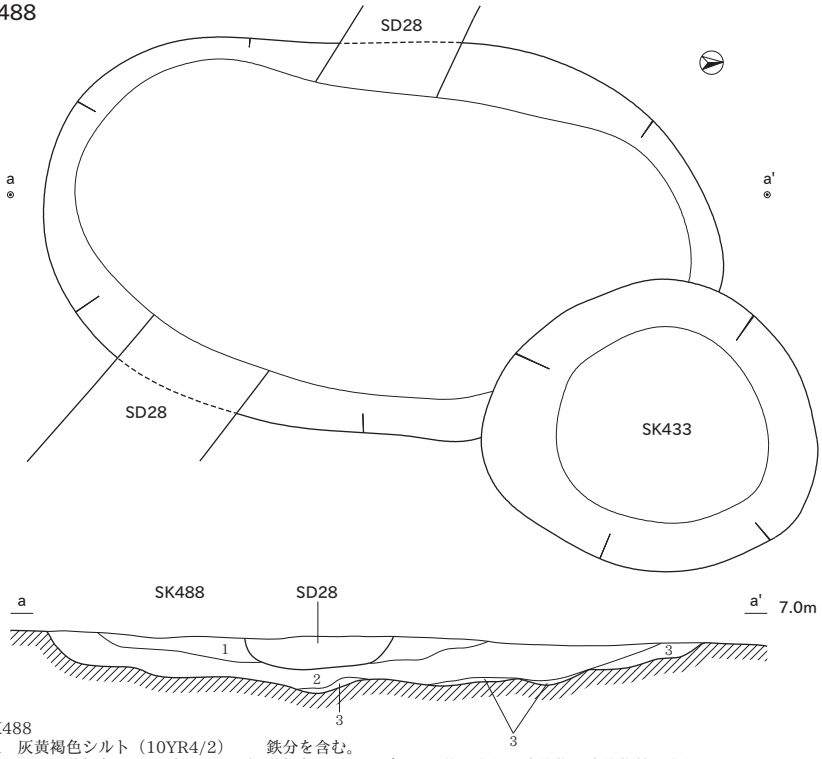
SK476
1 褐色シルト（10YR4/4） 鉄分を含む。
2 にぶい黄褐色シルト（10YR4/3） 炭化物粒・焼土粒・骨片を含む。
3 褐色シルト（10YR4/4） 炭化物、炭化物粒を含む。
4 褐色シルト（2.5Y5/4） 炭化物を含む。
5 骨片を主体とする層。
6 にぶい赤褐色焼土ブロック（5YR4/4） 炭化物粒・焼土粒・骨片を含む。
7 暗褐色シルト（10YR3/3） 炭化物を含む。
8 にぶい黄褐色シルト（10YR4/3） 炭化物粒・焼土粒・骨片を含む。

SK481



SK481
1 褐色シルト（10YR4/4） 黄褐色シルトをブロック状に含む。炭化物を少量含む。

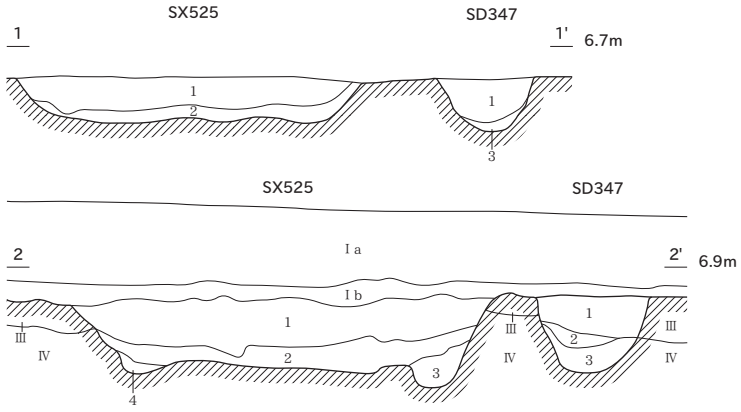
SK488



SK488
1 灰黄褐色シルト（10YR4/2） 鉄分を含む。
2 にぶい黄褐色シルト（10YR4/3） 黄褐色シルトをブロック状に含む。炭化物、炭化物粒を含む。
3 にぶい黄褐色シルト（10YR5/4） 炭化物少量含む。鉄分を含む。

0 平面図・断面図（1：40） 2m

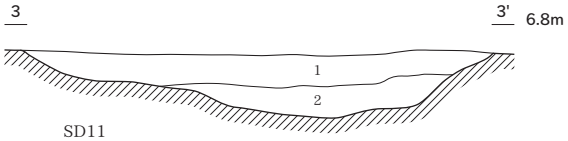
SX525・SD347（17R）



SX525
1　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR7/4）炭化物を含む。鉄分を多量含む。
2　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR6/3）炭化物を含む。焼土を含む。
3　灰黄褐色シルト（10YR6/2）炭化物粒を少量含む。鉄分を多量に含む。
4　灰黄褐色シルト（10YR6/2）鉄分を含む。

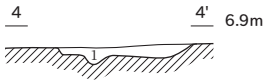
SD347
1　明黄褐色シルト（10YR7/6）鉄分を含む。
2　黄橙色シルト（10YR8/6）　鉄分を含む。
3　灰黄褐色シルト（10YR6/2）鉄分を少量含む。

SD11（18S）



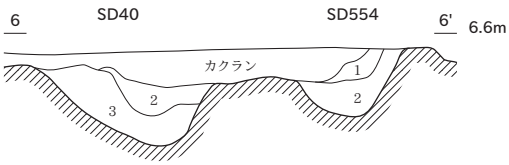
SD11
1　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）鉄分を多量含む。
2　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）炭化物・鉄分を含む。

SD25（23W）



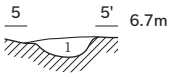
SD25
1　褐色シルト（10YR4/4）明黄褐色シルトを含む。

SD40・SD554（21Q）



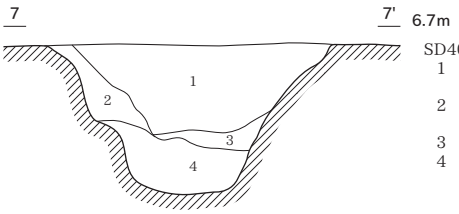
SD554
1　灰白色シルト（10YR7/1）　鉄分を微量含む。
2　褐灰色砂質シルト（10YR5/1）　鉄分を含む。

SD37（22P）



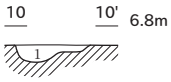
SD37
1　褐灰色シルト（10YR5/1）鉄分を少量含む。

SD40（21Q）



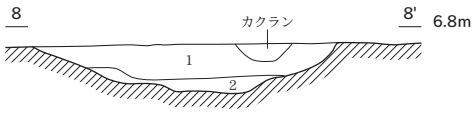
SD40
1　黄褐色シルト（2.5Y5/3）　灰白色シルトをブロック状に含む。鉄分を少量含む。
2　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）灰白色シルトをブロック状に含む。鉄分を含む。
3　灰黄褐色シルト（2.5Y6/2）　砂粒を多量含む。
4　にぶい黄褐色シルト（2.5Y6/3）鉄分を多量含む。

SD304（18S）



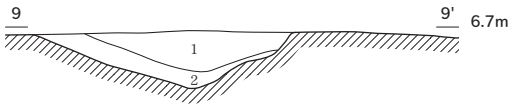
SD304
1　灰黄褐色砂質シルト（10YR4/2）炭化物粒・鉄分を含む。

SD300（17R）



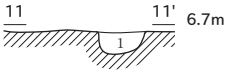
SD300
1　灰黄褐色砂質シルト（10YR5/2）炭化物粒を少量含む。
2　灰褐色シルト（7.5YR6/2）

SD303（17R・S）



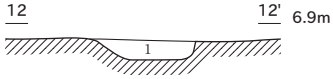
SD303
1　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　炭化物粒を微量含む。
2　褐灰色粘質シルト（7.5YR4/1）基本土層Ⅲ・Ⅳ層の混合土。

SD306（18S）



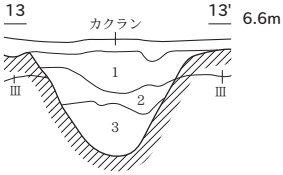
SD306
1　灰黄褐色砂質シルト（10YR5/2）

SD490（25Y）



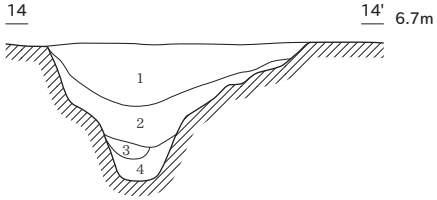
SD490
1　褐色シルト（10YR4/4）炭化物を少量含む。

SD553（21・22Q）



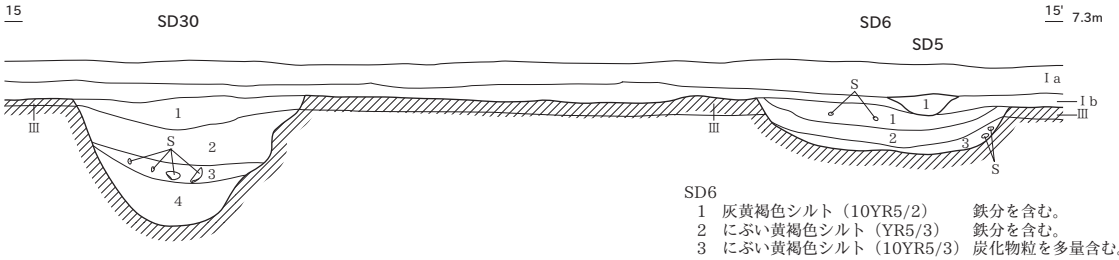
SD553
1　灰白色シルト（10YR7/1）　鉄分を多量含む。
2　灰白色砂質シルト（10YR7/1）　鉄分を少量含む。
3　明褐灰色砂質シルト（7.5YR7/1）鉄分を多量含む。
4　灰白色砂質土（7.5YR7/1）

SD553（22P）



0　（1：40）　2m

道1（SD6・SD30）（20U）



SD30
1　暗褐色シルト（10YR3/3）にぶい黄褐色シルトをブロック状に含む。鉄分を含む。
2　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）鉄分を含む。
3　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）炭化物粒を多量含む。
4　褐色シルト（10YR4/4）　鉄分を含む。

SD6
1　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　鉄分を含む。
2　にぶい黄褐色シルト（YR5/3）　鉄分を含む。
3　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）炭化物粒を多量含む。

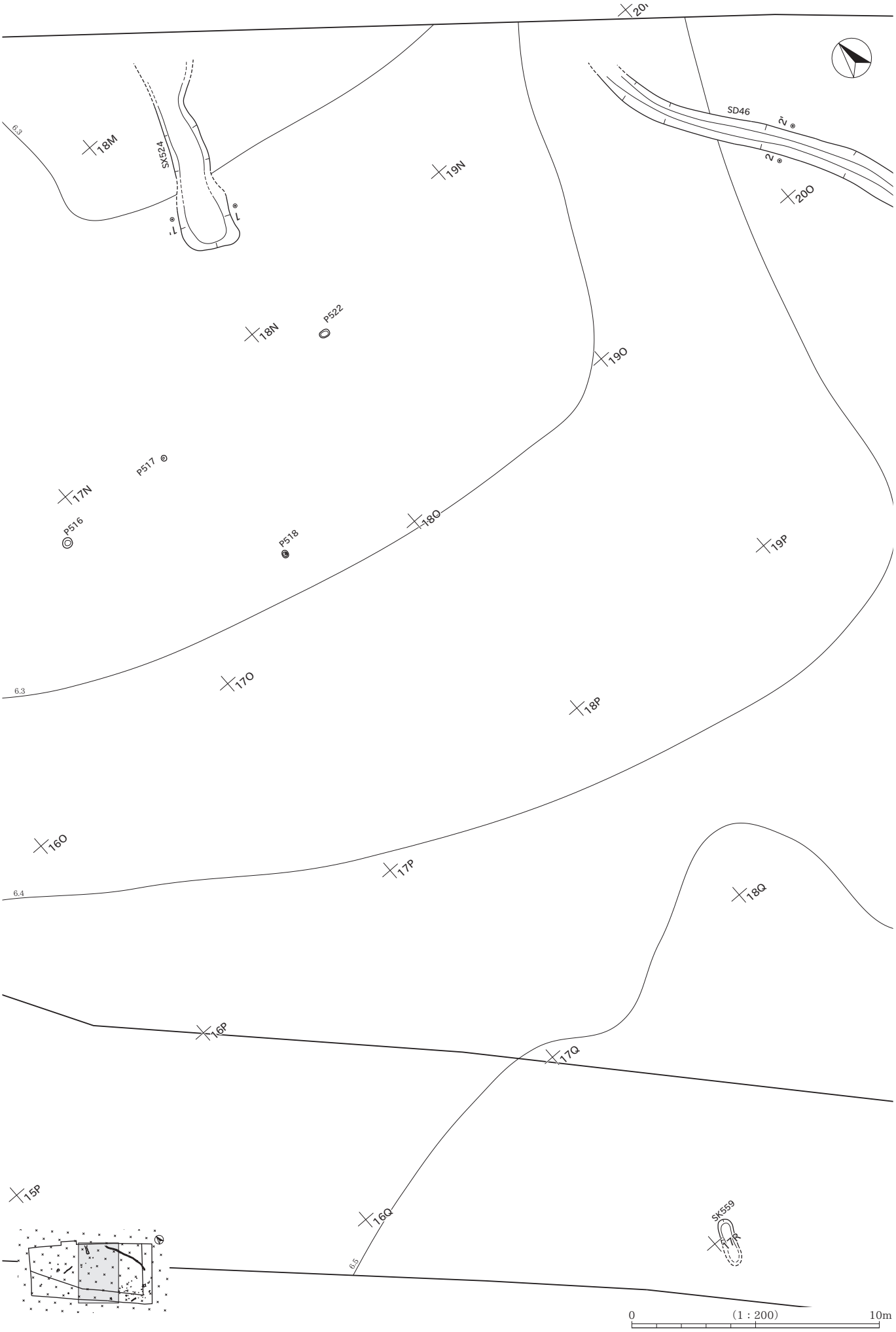
SD5
1　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）鉄分を多量含む。

0　SD5・6・30（1：50）　2m

L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
14
15
16
17
18
19
20
21
22
0
(1 : 500)
25m

中層遺構分割図（1）

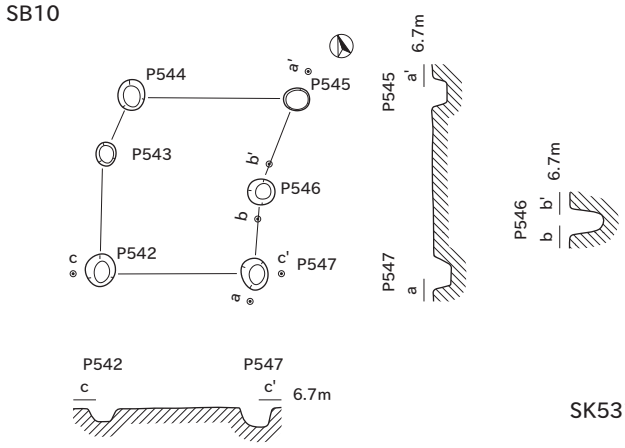
17K
18L
16K
17L
15K
16L
17M
15L
P511
16M
SD556
P512
SK503
14L
16N
6.3
P507
P506
14M
15N
6.1
6.4
P505
13M
14N
15O
P513
SK514
6.2
14O
0
(1：200)
10m


20I
SD46
2
2
6.3
18M
SX524
1
1
19N
20O
18N
P522
19O
P517
17N
P516
18O
P518
19P
6.3
17O
18P
16O
17P
6.4
18Q
16P
17Q
15P
16Q
6.5
SK559
17R
0
(1：200)
10m

中層遺構分割図（3）

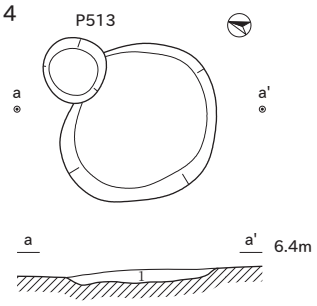
20O
SD46
21P
22Q
20P
19P
20Q
6.4
19Q
20R
P249
6.5
P248
18Q
P247
19R
P560
P561
P551
P552
P544
P545
P543
P546
SB10
P547
P542
P245
P244
P557
P243
P254
P255
P260
P251
P259
P242
P256
P240
P241
P257
18R
P253
19S
P252
P258
P558
P541
P548
P526
P528
P527
SK531
P529
P530
P537
P538
P536
SK559
P539
P540
P535
P532
SD533
P534
18S
19T
0
（1：200）
10m

SB10



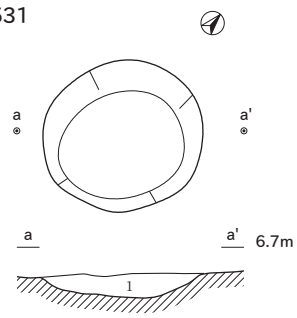
0　SB10　平面図・エレベーション図（1：80）　4m

SK514



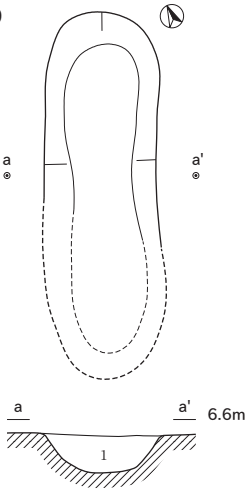
SK514
1　暗褐色シルト（10YR3/4）炭化物を少量含む。鉄分を含む。

SK531



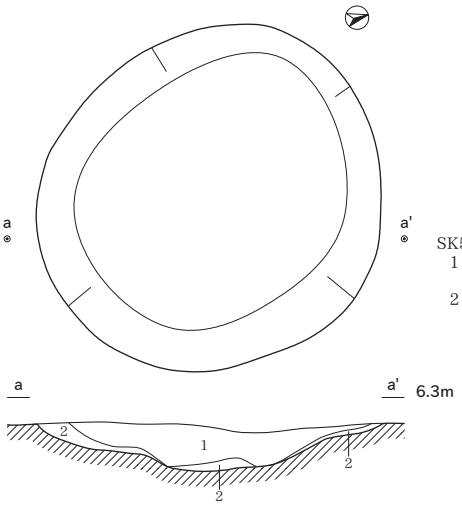
SK531
1　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）炭化物粒を少量含む。鉄分を含む。

SK559



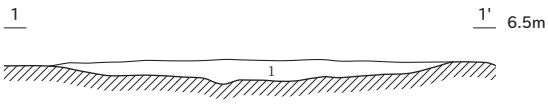
SK559
1　灰黄褐色シルト（10YR5/2）炭化物粒を少量含む。鉄分を少量含む。

SK503



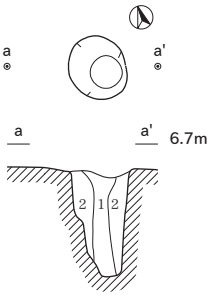
SK503
1　暗褐色シルト（10YR4/3）にぶい黄褐色シルトをブロック状に含む。鉄分を多量に含む。
2　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）暗褐色シルトをブロック状に多量含む。

SX524（18M）

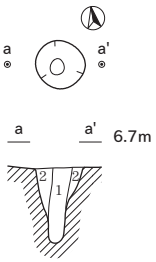


SX524
1　暗褐色シルト（10YR3/3）にぶい黄褐色シルトをブロック状に含む。鉄分を含む。

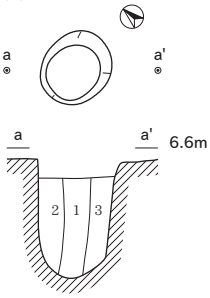
P529



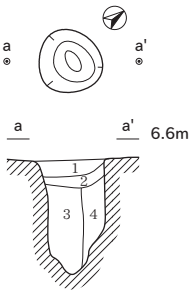
P538



P557



P558



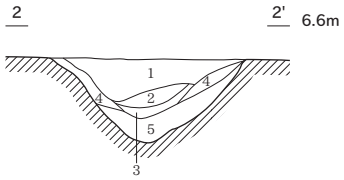
P529
1　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）炭化物粒を少量含む。鉄分を少量含む。
2　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）灰白色シルトをブロック状に含む。鉄分を多量含む。

P538
1　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）鉄分を含む。
2　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）灰白色シルトをブロック状に含む。鉄分を少量含む。

P557
1　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）炭化物粒を少量含む。鉄分を含む。
2　灰黄褐色シルト（10YR6/2）炭化物粒を少量含む。鉄分を含む。
3　灰白色粘質シルト（10YR7/1）　鉄分を少量含む。

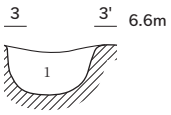
P558
1　褐灰色砂質シルト（7.5YR7/1）　炭化物粒を少量含む。鉄分を含む。
2　灰黄褐色シルト（10YR6/2）鉄分を含む。
3　灰黄褐色シルト（10YR5/2）炭化物粒を微量含む。鉄分を含む。
4　灰黄褐色シルト（10YR6/2）鉄分を多量含む。

SD46（20N）



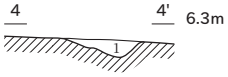
SD46
1　暗褐色シルト（10YR3/3）　鉄分を多量含む。
2　黒褐色シルト（10YR3/1）　にぶい黄褐色シルトをブロック状に含む。
3　灰黄褐色シルト（10YR5/2）炭化物粒を微量含む。
4　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）黄褐色シルトを含む。鉄分を含む。
5　灰黄褐色シルト（10YR6/2）鉄分を多量含む。

SD553（18S）



SD553
1　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）黄褐色シルト・灰褐色シルトを含む。鉄分を含む。

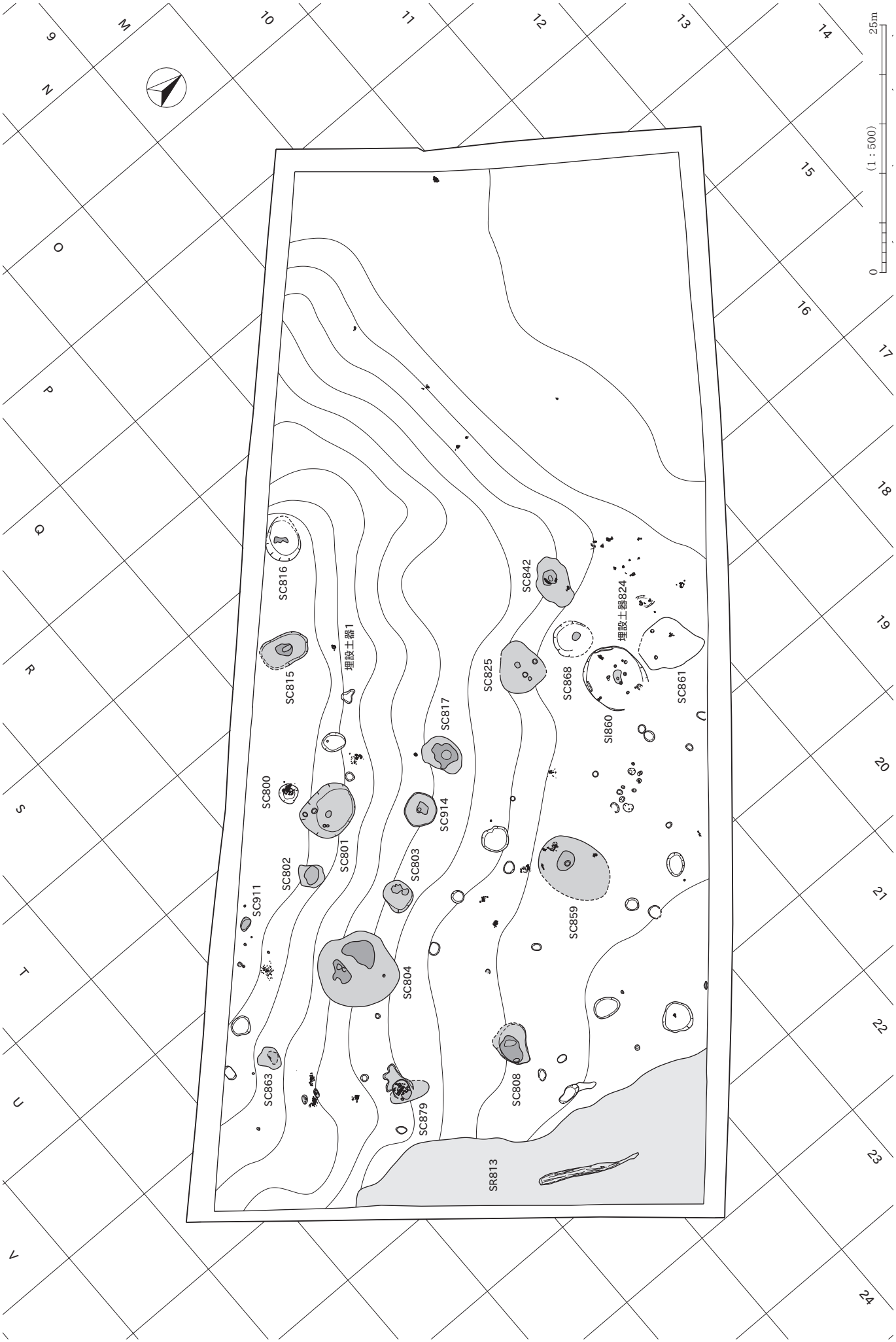
SD556（16M）



SD556
1　灰褐色粘質シルト（7.5YR6/2）暗褐色シルトをブロック状に含む。鉄分を含む。

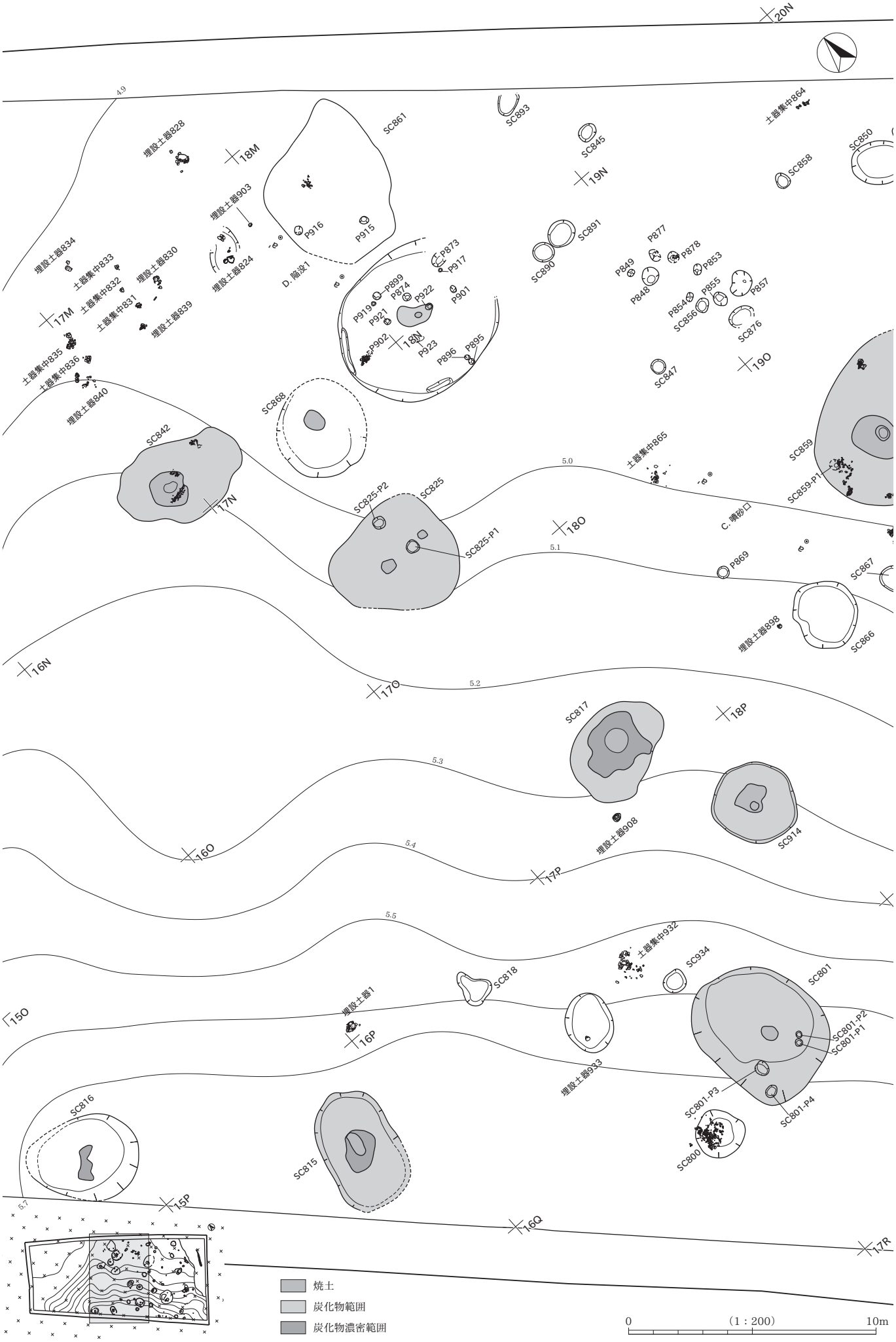
0　平面図・断面図（1：40）　2m

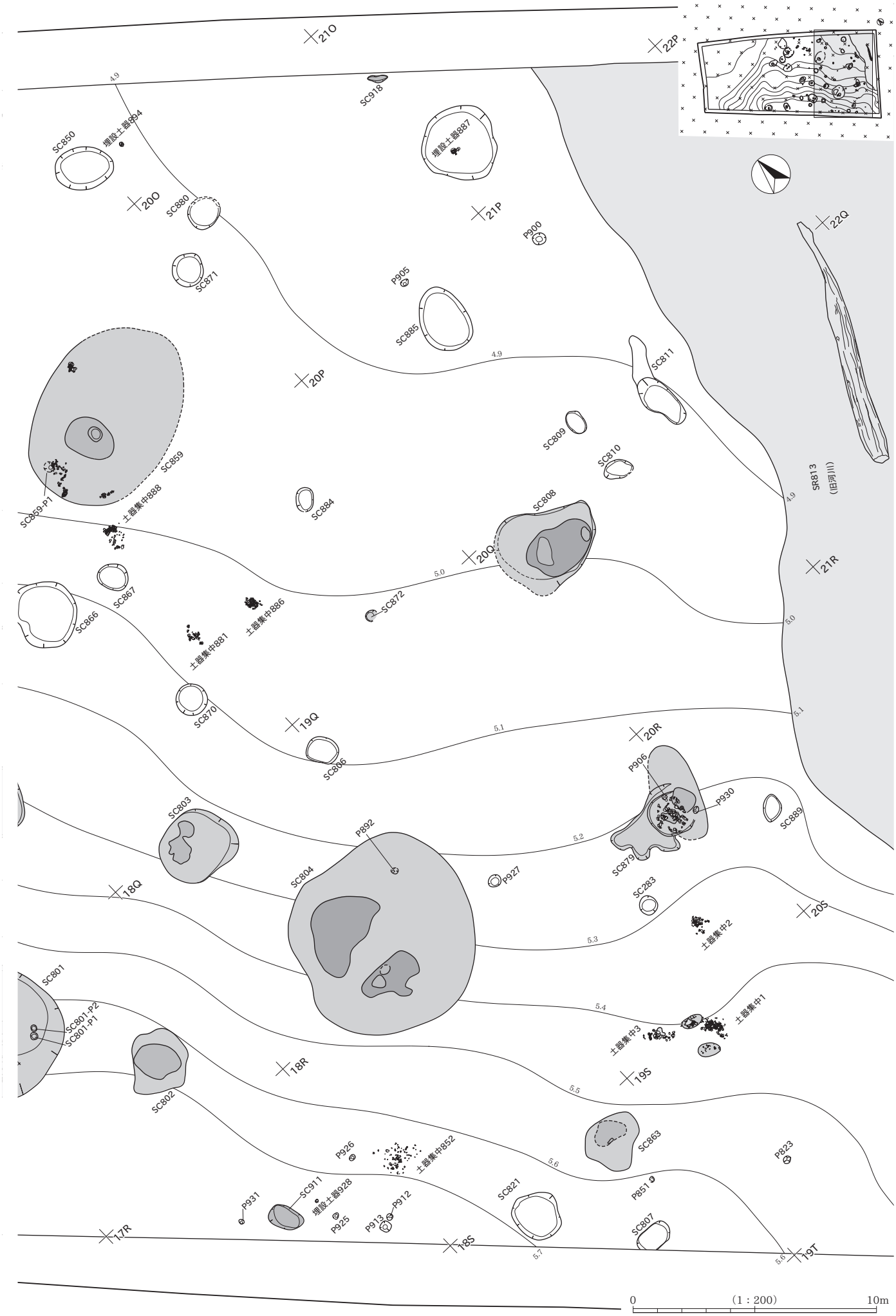
下層遺構全体図


9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
0
(1：500)
25m
SC816
SC815
埋設土器1
SC800
SC801
SC802
SC911
SC863
SC804
SC803
SC914
SC817
SC879
SR813
SC808
SC825
SC842
SC868
埋設土器824
SI860
SC861
SC859

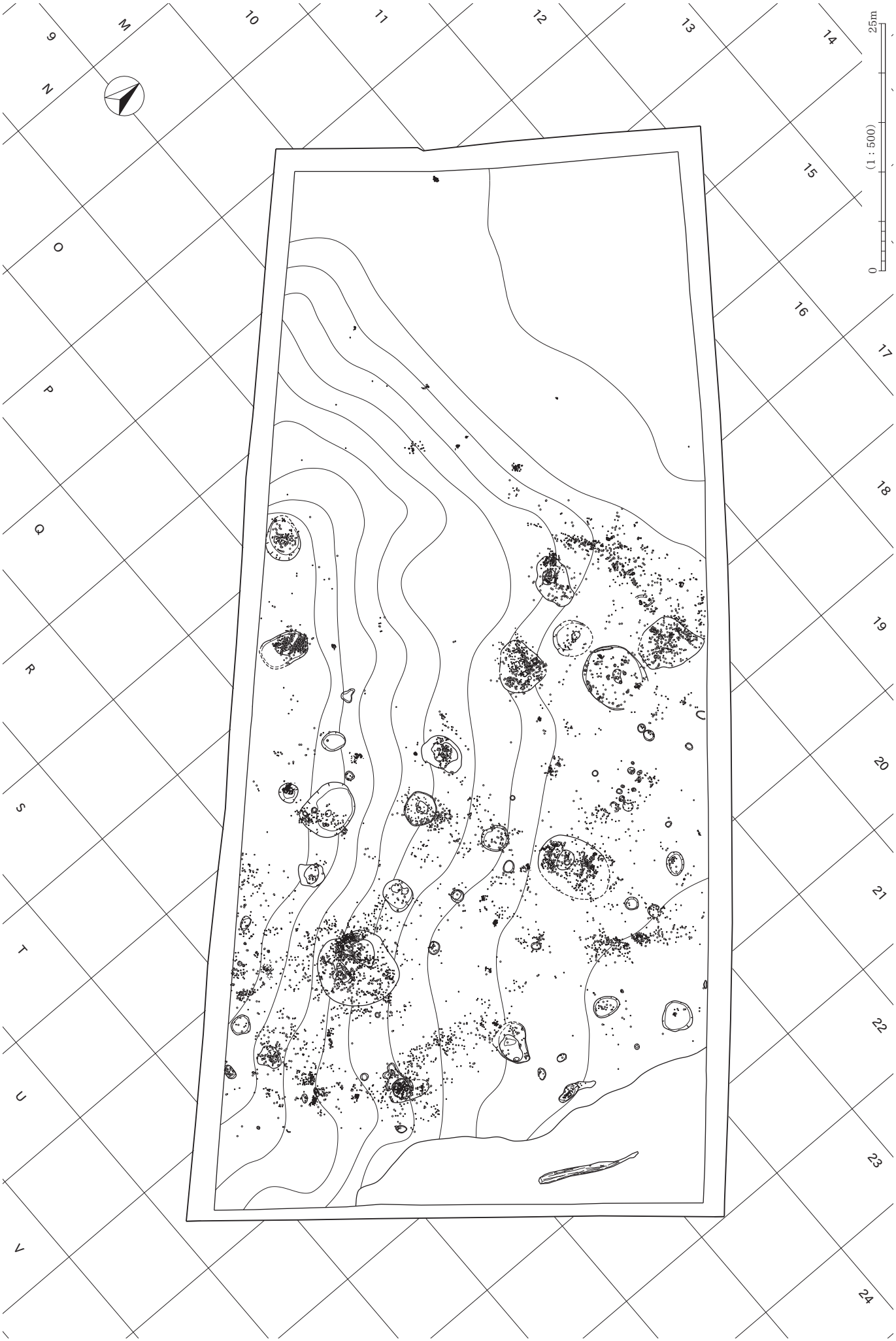
15J
16K
17L
15K
16L
14K
15L
16M
14L
15M
16N
13L
14M
15N
13M
14N
15O
12M
13N
14O
土器集中822
埋設土器837
埋設土器924
土器集中838
土器集中820
埋設土器883
4.9
5.0
5.1
5.2
5.3
5.4
5.5
5.6
0
(1：200)
10m

下層遺構分割図（2）


20N
4.9
埋設土器828
18M
SC861
SC893
SC845
19N
土器集中864
SC850
SC858
埋設土器903
P916
P915
埋設土器834
土器集中833
埋設土器830
埋設土器824
D.陥没1
P873
P917
SC891
SC890
P877
P878
P849
P853
P848
P855
P857
P854
SC856
SC876
17M
土器集中832
土器集中831
埋設土器839
P899
P874
P922
P901
P919
P921
P902
18N
P923
P896
P895
SC847
19O
土器集中835
土器集中836
埋設土器840
SC868
SC842
5.0
土器集中865
SC859
SC859-P1
17N
SC825-P2
SC825
SC825-P1
18O
C.噴砂口
5.1
P869
SC867
埋設土器898
SC866
16N
17O
5.2
SC817
18P
5.3
埋設土器908
SC914
16O
5.4
17P
5.5
土器集中932
SC934
SC818
SC801
埋設土器1
15O
16P
SC801-P2
SC801-P1
埋設土器933
SC801-P3
SC801-P4
SC816
SC815
SC800
5.7
15P
16Q
17R
焼土
炭化物範囲
炭化物濃密範囲
0
（1：200）
10m


21O
22P
SC918
埋設土器894
SC850
埋設土器887
20O
SC880
21P
P900
22Q
SC871
P905
SC885
SC811
20P
SC809
SC810
SC859
SC859-P1
土器集中888
SC884
SC808
20Q
21R
SR813
(旧河川)
SC867
SC866
土器集中881
土器集中886
SC872
SC870
19Q
SC806
20R
P906
P930
SC889
SC803
P892
SC879
SC804
P927
SC283
18Q
20S
土器集中2
SC801
SC801-P2
SC801-P1
土器集中3
土器集中1
18R
19S
SC802
SC863
P823
P926
土器集中852
P851
P931
SC911
埋設土器928
SC821
P925
P913
P912
SC807
17R
18S
19T
4.9
5.0
5.1
5.2
5.3
5.4
5.5
5.6
5.7
0
(1：200)
10m

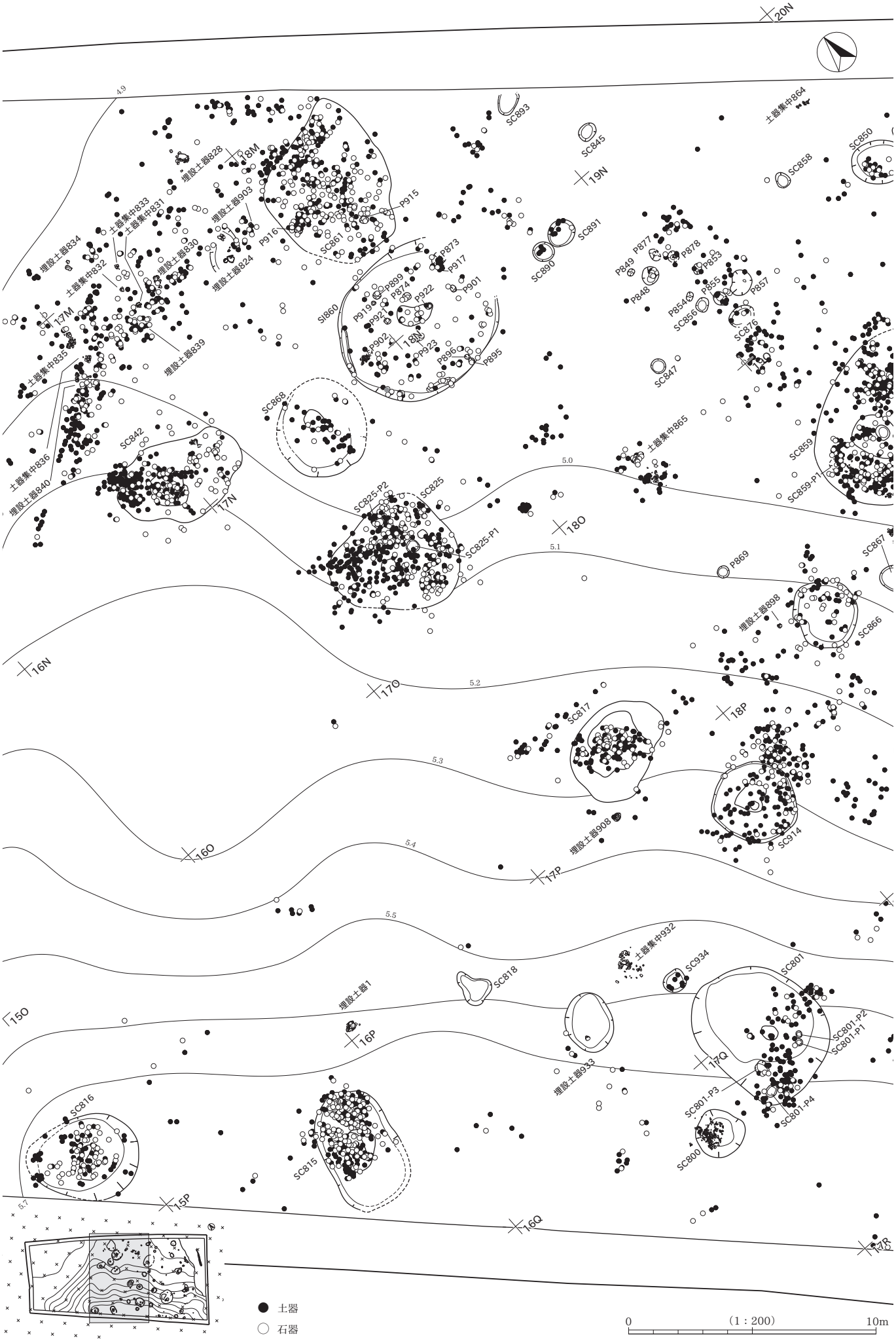
下層遺物分布全体図



下層遺物分布分割図（1）

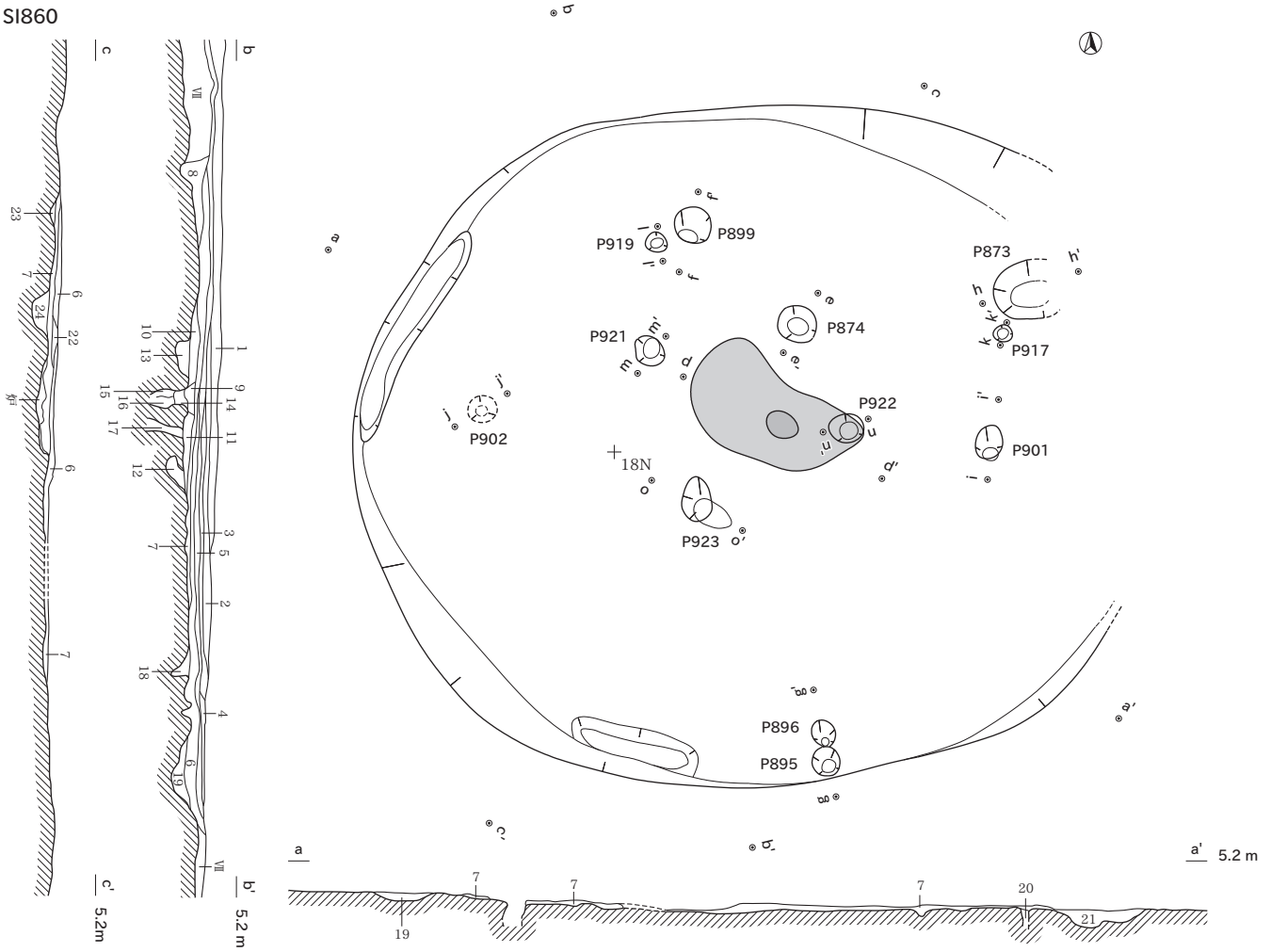
図 版 33

下層遺物分布分割図（2）

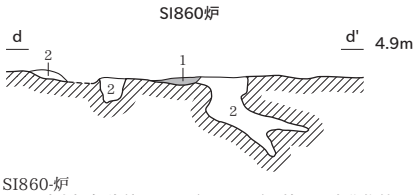

20N
19N
18M
18N
18O
18P
17M
17N
17O
17P
17Q
16N
16O
16P
16Q
15O
15P
15Q
4.9
5.0
5.1
5.2
5.3
5.4
5.5
5.7
SC893
SC845
土器集中864
SC850
SC858
SC891
SC890
P915
P916
SC861
P873
P917
P901
SI860
P919
P899
P874
P922
P921
P902
P923
P896
P895
P849
P877
P878
P853
P848
P855
P857
P854
SC856
SC876
SC847
SC868
SC842
土器集中865
SC859
SC859-P1
SC825-P2
SC825
SC825-P1
P869
SC867
埋設土器898
SC866
SC817
埋設土器908
SC914
土器集中932
SC934
SC801
SC801-P2
SC801-P1
SC801-P3
SC801-P4
SC800
埋設土器933
SC818
埋設土器1
SC816
SC815
埋設土器828
埋設土器903
埋設土器834
土器集中833
土器集中831
土器集中832
埋設土器830
埋設土器824
埋設土器839
土器集中835
土器集中836
埋設土器840
土器集中
土器
石器
0
(1：200)
10m

21O
22P
SC918
埋設土器894
SC850
埋設土器887
20O
SC880
21P
P900
22Q
SC871
P905
SC885
20P
SC811
SC859-P1
SC859
SC809
SC810
SR813
(旧河川)
土器集中888
SC884
SC808
19P
20Q
21R
SC867
SC866
SC872
土器集中886
土器集中881
SC870
19Q
SC806
20R
P906
P930
SC889
SC803
SC804
SC879
P892
P927
SC283
18Q
19R
20S
土器集中2
SC801
SC801-P2
SC801-P1
土器集中3
土器集中1
18R
19S
SC802
土器集中852
SC863
P823
埋設土器928
P926
SC911
P985
P912
SC821
P851
P913
P931
SC807
17R
18S
19T
0
(1：200)
10m

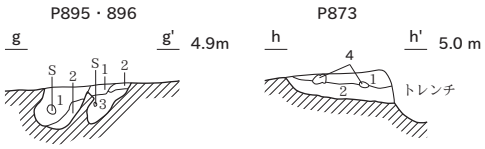
SI860



SI860
1　明オリーブ灰色砂（5GY7/1）
2　オリーブ灰色シルト（5GY6/1）
3　明オリーブ灰色砂（5GY7/1）
4　オリーブ灰色砂（5GY6/1）
5　青灰色シルト（10BG6/1）
6　暗灰色砂（N3/）　炭化物粒・オリーブ灰色砂を少量含む。
7　黒色砂（N2/）　炭化物層。オリーブ灰色砂を少量含む。しまり強い。
8　灰色砂（N6/）　炭化物粒を微量含む。
9　青灰色シルト（10BG6/1）　炭化物粒を少量含む。
10　オリーブ灰色砂（5GY6/1）　炭化物粒を少量含む。
11　オリーブ灰色砂（5GY6/1）　炭化物粒を微量含む。
12　黒色砂（N2/）　炭化物粒・オリーブ灰色砂を多量含む。
13　黒色砂（N2/）とオリーブ灰色砂（5GY6/1）の混在層。
14　オリーブ灰色砂（5GY6/1）　炭化物粒を多量含む。
15　オリーブ灰色砂（5GY6/1）　炭化物粒を微量含む。
16　黒色砂（N2/）　炭化物粒を多量含む。オリーブ灰色砂を微量含む。
17　黒色砂（N2/）　炭化物粒を多量含む。オリーブ灰色砂を微量含む。
18　オリーブ灰色砂（5GY6/1）　炭化物粒を極微量含む。
19　暗灰色砂（N3/）　炭化物粒を多量含む。オリーブ灰色砂少量含む。
20　暗灰色砂（N3/）　炭化物粒を多量含む。オリーブ灰色砂少量含む。
21　暗灰色砂（N3/）　炭化物粒を多量含む。オリーブ灰色砂少量含む。
22　黒色砂（N2/）　炭化物層。
23　暗灰色砂（N3/）　炭化物粒を多量含む。オリーブ灰色砂を少量含む。
24　黒色砂（N2/）　炭化物粒を多量含む。オリーブ灰色砂を微量含む。

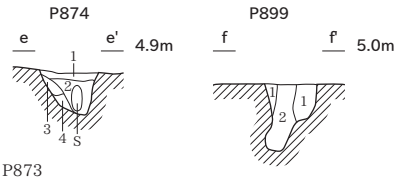


SI860-炉
1　暗赤褐色砂質シルト（5YR3/2）　焼土。炭化物粒・微細な骨片を多量含む。
2　黒褐色砂質シルト（10YR3/2）　炭化物粒を多量含む。



P895
1　明緑灰色砂（10GY8/1）　炭化物粒を極微量含む。
2　緑灰色砂（10GY6/1）　炭化物粒を極微量含む。

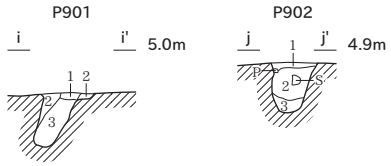
P896
1　緑灰色シルト（10GY6/1）　炭化物粒を極微量含む。
2　緑灰色砂（10GY6/1）
3　暗緑灰色シルト（10GY4/1）　オリーブ灰色砂を少量含む。炭化物粒を極微量含む。



P873
1　青灰色砂（5B5/1）　炭化物粒を少量含む。
2　暗青灰色砂（5B4/1）　炭化物粒を少量含む。

P874
1　黒色砂（10YR2/1）　炭化物粒を多量含む。緑灰色砂を少量含む。
2　黒褐色砂（10YR3/1）　炭化物粒・緑灰色砂を多量含む。
3　緑灰色砂（10GY6/1）　黒褐色砂を微量含む。
4　緑灰色砂（10GY6/1）　黒褐色砂を少量含む。

P899
1　青灰色砂（5BG6/1）　炭化物粒を多量含む。
2　暗青灰色砂（10BG4/1）　炭化物粒を少量含む。

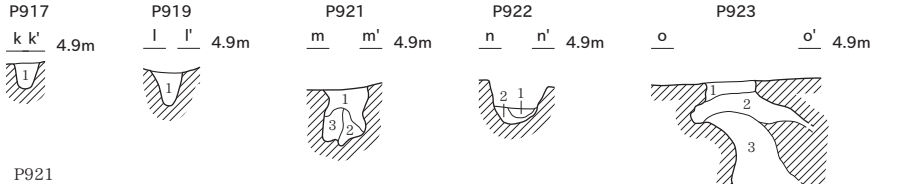


P901
1　暗灰色シルト（N3/）　炭化物粒を多量含む。
2　青灰色シルト（5BG6/1）　炭化物粒を微量含む。
3　暗青灰色シルト（10BG4/1）　炭化物粒を少量含む。

P902
1　暗灰色シルト（N3/）　炭化物粒を多量含む。
2　青灰色砂（5BG6/1）　炭化物粒を微量含む。
3　青灰色砂（5BG6/1）　炭化物粒を極微量含む。

P917
1　黒褐色砂質シルト（10YR3/2）　炭化物粒を多量含む。

P919
1　黒褐色砂質シルト（10YR3/2）　炭化物粒を多量含む。



P921
1　黒褐色砂質シルト（2.5Y3/1）　炭化物粒を多量含む。
2　黒褐色砂質シルト（2.5Y3/1）　青灰色砂を少量含む。
3　黒褐色砂質シルト（2.5Y3/1）　青灰色砂を多量含む。

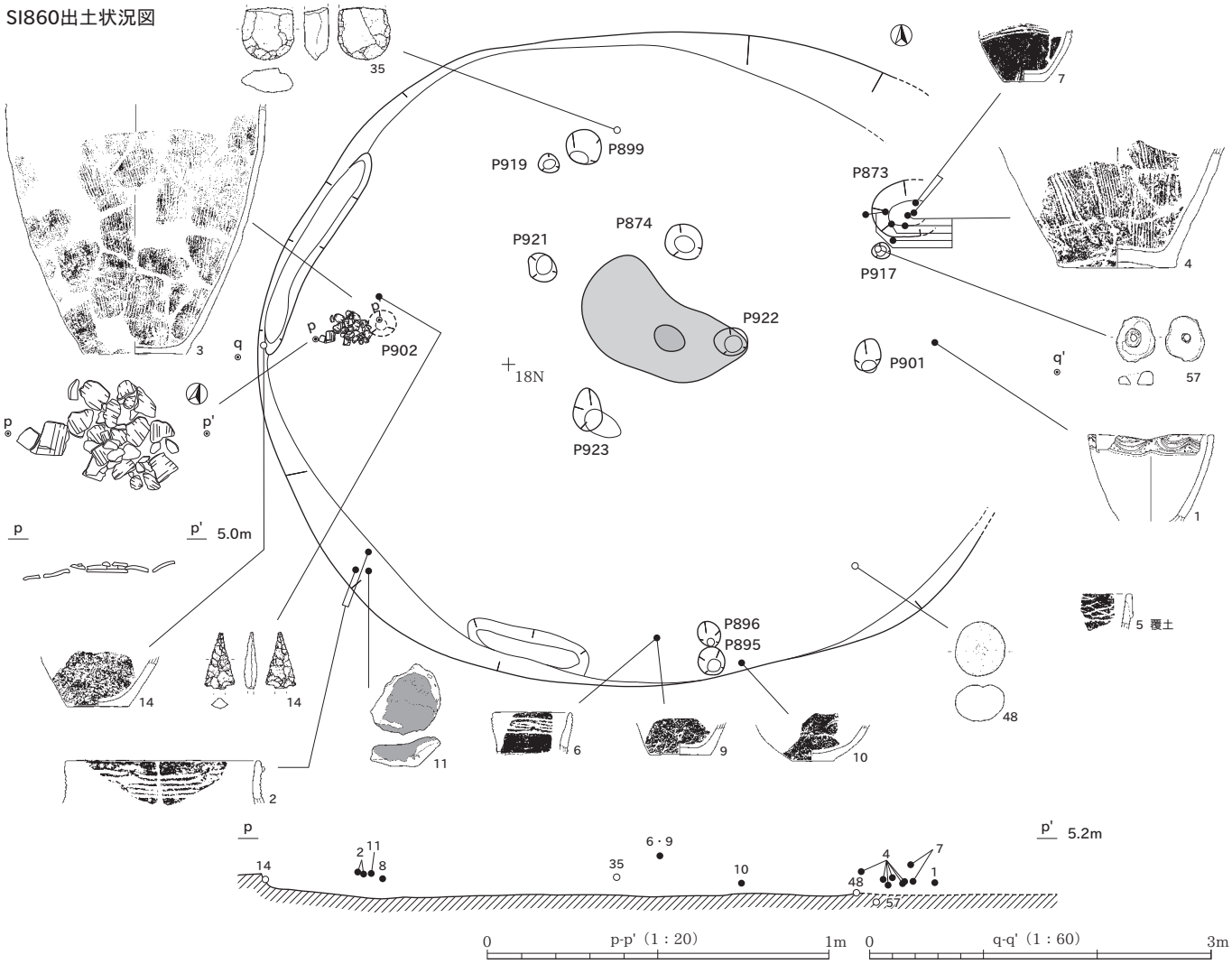
P922
1　黒褐色砂質シルト（2.5Y3/2）　炭化物粒を多量含む。
2　青灰色砂質シルト（10BG6/1）　黒褐色砂質シルトを少量含む。

P923
1　黒褐色砂質シルト（2.5Y3/1）　炭化物粒を多量含む。暗青灰色シルトを少量含む。
2　黒褐色砂質シルト（2.5Y3/1）　炭化物粒を微量含む。
3　黒褐色砂質シルト（2.5Y3/2）　炭化物粒を多量含む。

0　平面図・断面図（1：60）　3m

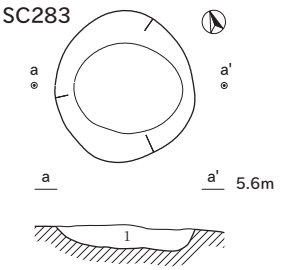
0　断面図（1：40）　2m

SI860出土状況図



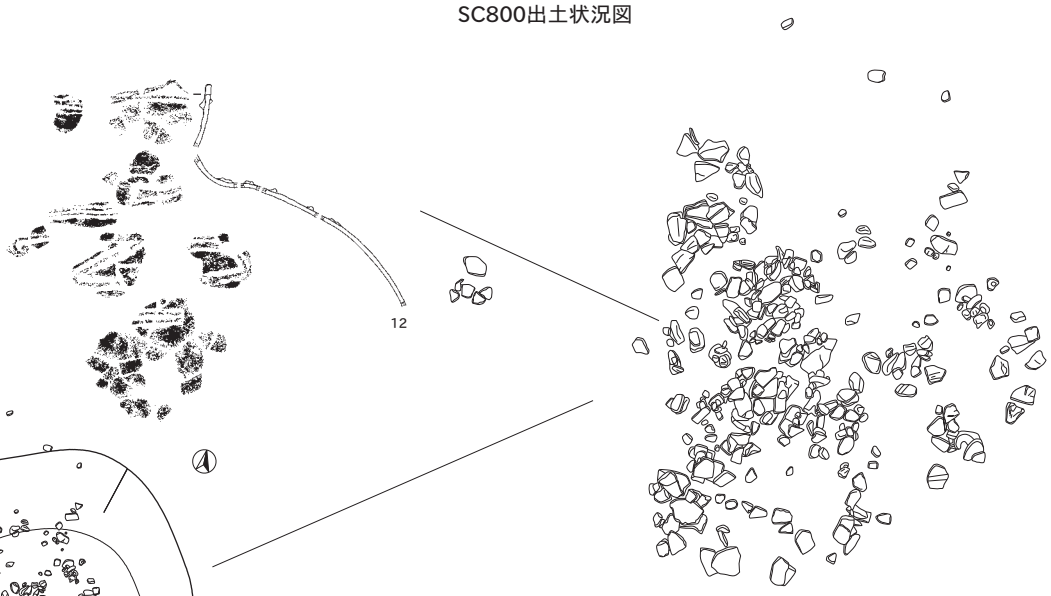
0 p-p'（1：20） 1m　0 q-q'（1：60） 3m

SC283

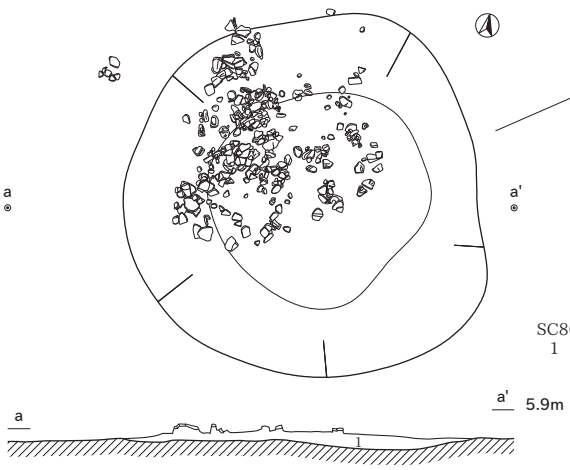


SC283
1　灰黄褐色粘質シルト（10YR4/2）炭化物粒を部分的に多量含む。

SC800出土状況図



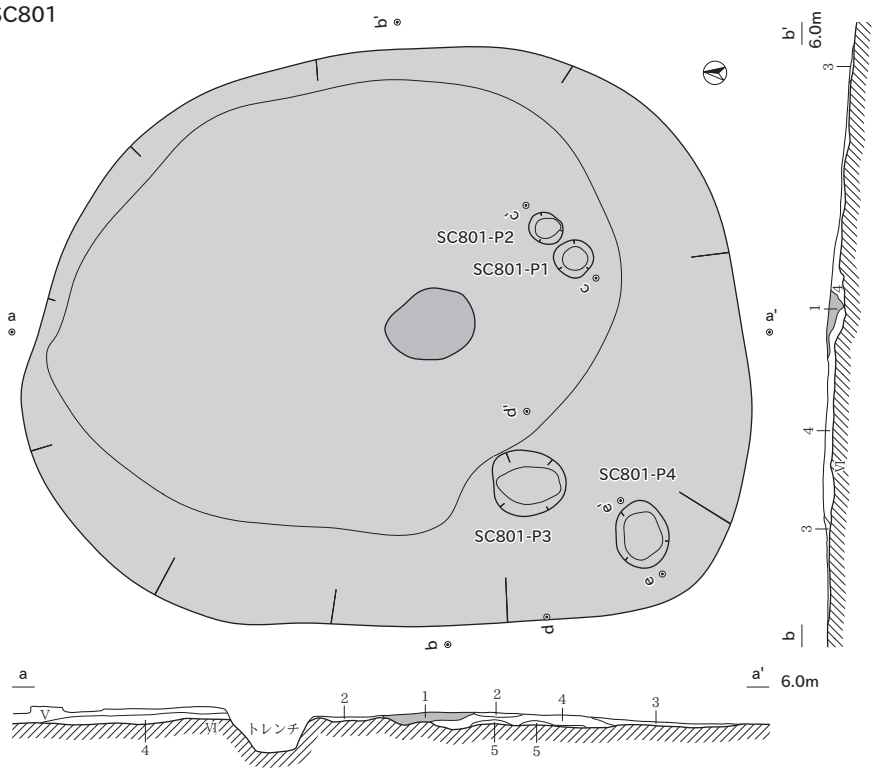
SC800



SC800
1　灰黄色シルト（2.5Y6/2）炭化物粒を多量含む。焼土粒を少量含む。

0 SC800出土状況図（1：20） 1m
0 その他（1：40） 2m

SC801



P1・P2
1　灰黄褐色シルト（2.5Y6/2）炭化物粒を多量含む。

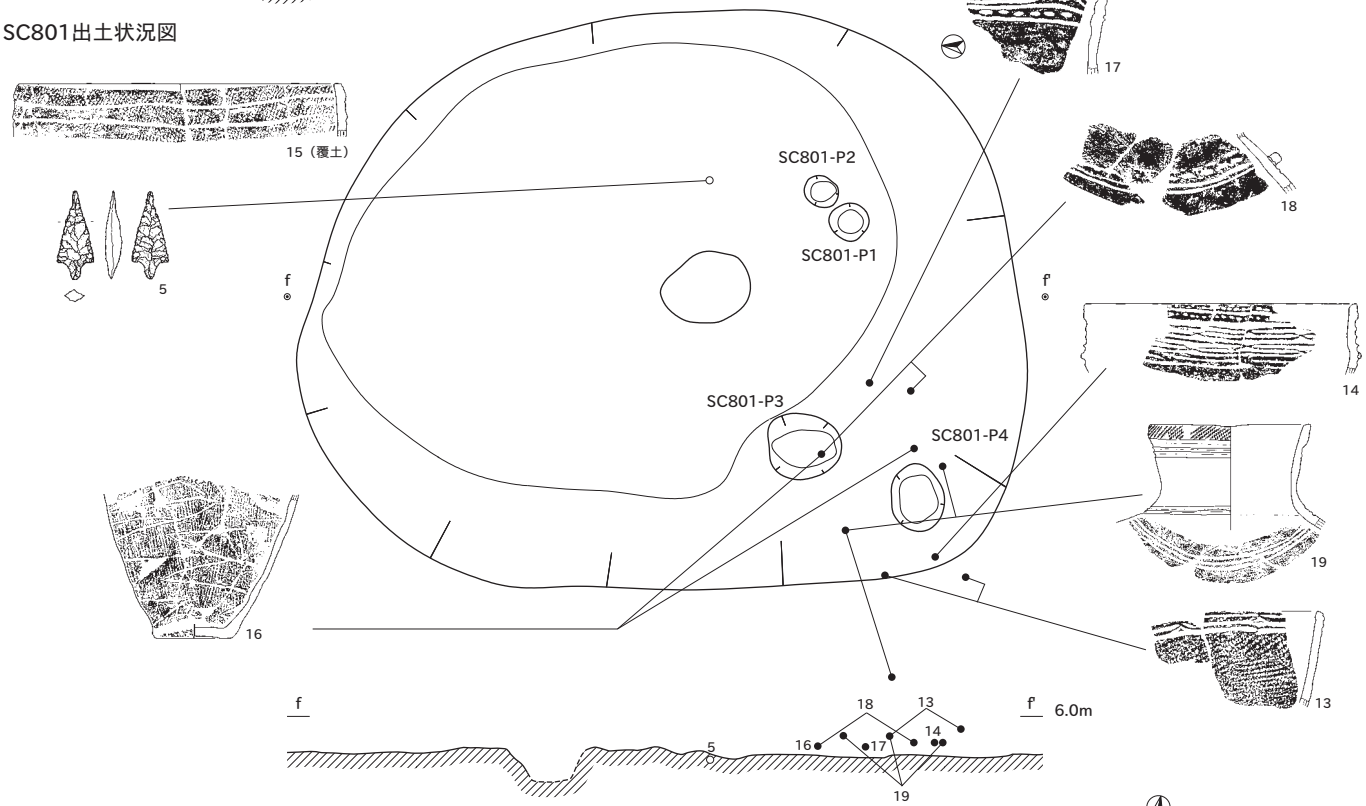
P4
1　灰黄褐色シルト（2.5Y6/2）炭化物粒を多量含む。
SC801の3層より炭化物の量少ない。

P3
1　灰黄褐色シルト（2.5Y6/2）炭化物粒を含む。
SC801の4層より炭化物の量少ない。

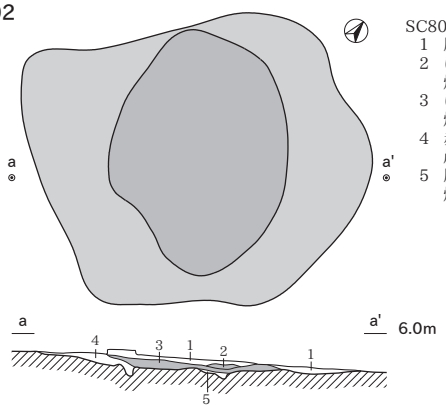
SC801
1　明赤褐色シルト（5YR5/6）焼土。
2　にぶい赤褐色シルト（5YR5/4）焼土粒を含む。
3　浅黄色シルト（2.5Y7/3）　炭化物粒を少量含む。
4　黄灰色シルト（2.5Y6/1）　炭化物粒を多量含む。
5　浅黄色シルト（2.5Y7/4）

0　P1～P4（1：40）　2m

SC801出土状況図



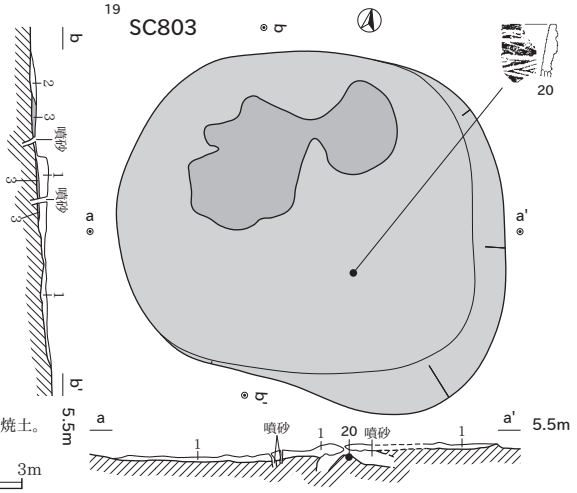
SC802



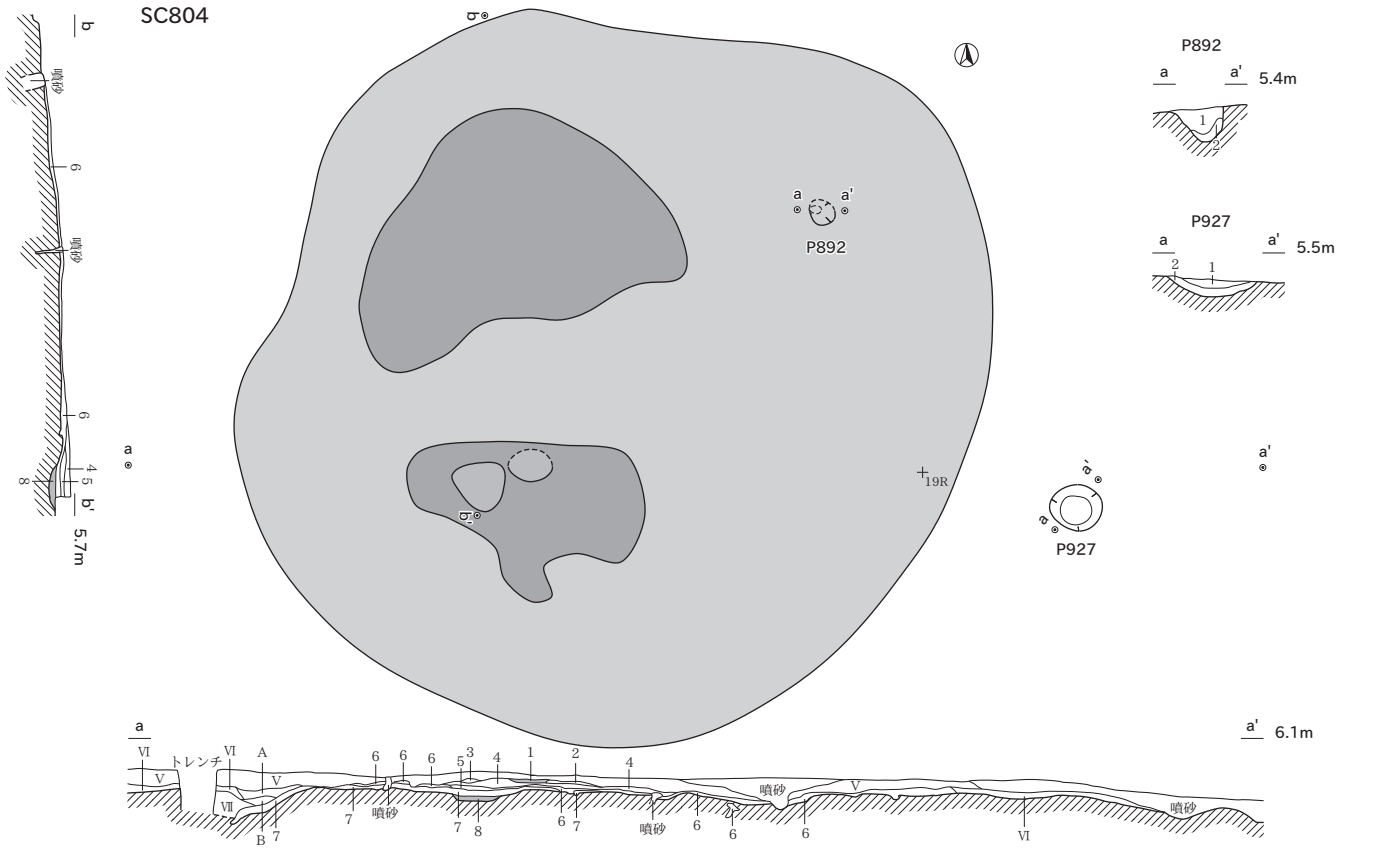
SC802
1　灰黄褐色砂質シルト（2.5Y6/2）
2　にぶい赤褐色シルト（2.5YR6/4）
焼土。炭化物粒を多量含む。
3　にぶい赤褐色シルト（2.5YR4/4）
焼土。炭化物粒を多量含む。
4　赤灰色シルト（2.5YR5/1）
炭化物粒を含む
5　灰白色シルト（2.5Y7/2）
焼土粒・炭化物粒を含む。

SC803
1　黄灰色シルト（2.5Y6/1）
炭化物粒を多量含む。
2　黄灰色シルト（2.5Y6/1）
炭化物粒を少量含む。
3　赤褐色シルト（10YR4/4）焼土。

SC803



0　その他（1：60）　3m

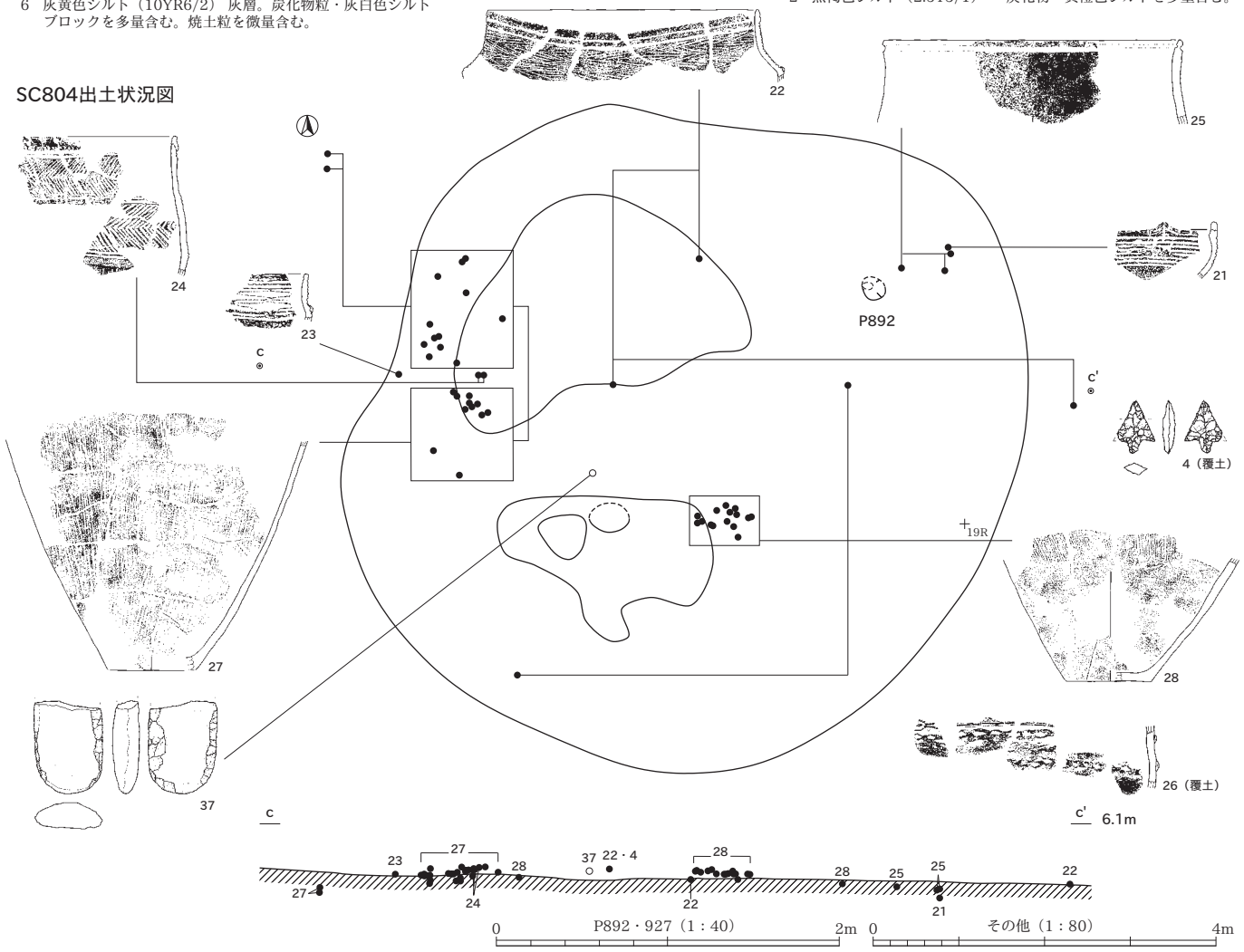


SC804
1 にぶい赤褐色シルト（5YR5/4） 焼土
2 浅黄色シルト（2.5Y7/3） 焼土粒・炭化物粒を少量含む。
3 黄灰色シルト（2.5Y6/1） 炭化物粒を少量含む。
4 黒色シルト（10YR2/1） 炭化物層。焼土粒を少量含む。
5 浅黄色シルト（2.5Y7/3） 焼土粒・炭化物粒を微量含む。
6 灰黄色シルト（10YR6/2） 灰層。炭化物粒・灰白色シルトブロックを多量含む。焼土粒を微量含む。
7 褐灰色シルト（10YR4/1） 灰層。炭化物粒を多量含む。
8 にぶい赤褐色シルト（5YR5/4） 焼土
A 浅黄色シルト（2.5Y8/4）
B 灰白色シルト（2.5Y8/2）

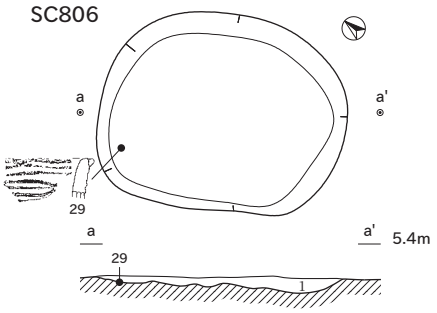
P892
1 灰オリーブ色シルト（7.5Y6/2） 炭化物粒を微量含む。
2 灰白色シルト（7.5Y7/1） 炭化物粒を微量含む。

P927
1 浅黄橙色シルト（10YR8/3） 炭化物粒を極微量含む。
2 黒褐色シルト（2.5Y3/1） 炭化物・黄橙色シルトを多量含む。

SC804出土状況図

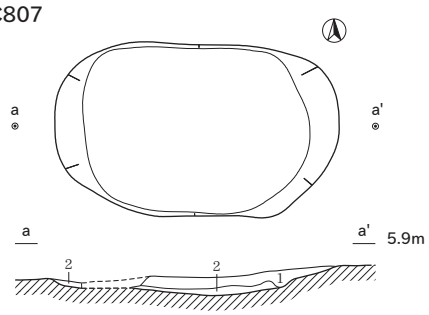


SC806



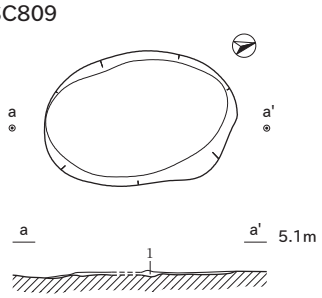
SC806
1　灰オリーブ砂質シルト（7.5Y4/2）炭化物粒を多量含む。焼土粒を少量含む。

SC807



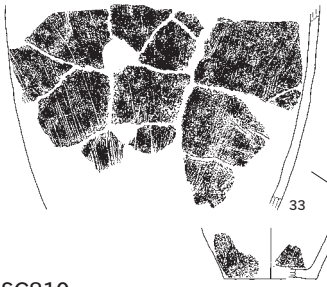
SC807
1　暗灰黄色シルト（2.5Y5/2）　炭化物粒を多量含む。焼土粒を微量含む。
2　にぶい黄色シルト（2.5Y6/3）炭化物を極微量含む。

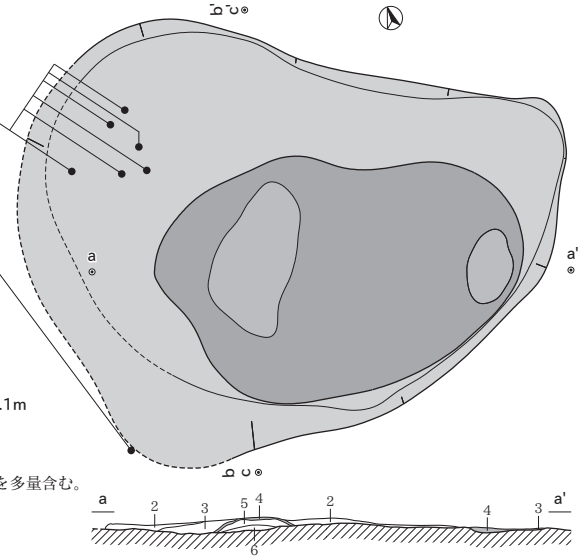
SC809



SC809
1　灰白色砂（2.5Y7/1）炭化物粒を多量含む。焼土粒を微量含む。

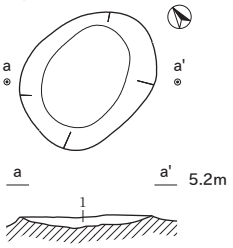
SC808





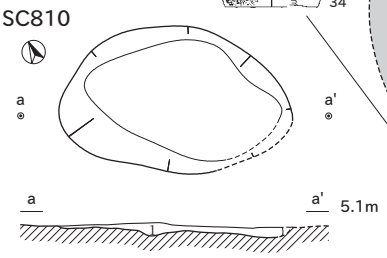
SC808
1　灰白色砂（2.5Y7/1）
2　黄灰色シルト（2.5Y6/1）　焼土・炭化物粒・骨片を多量に含む。
3　黄灰色シルト（2.5Y6/1）　炭化物粒を多量に含む。
4　赤褐色シルト（10YR5/4）焼土粒・炭化物粒を多量含む。
5　赤褐色シルト（10YR4/4）焼土粒・炭化物粒を多量含む。4層より色調が暗い。
6　赤褐色シルト（10YR4/4）と橙色シルト（2.5YR7/8）の混在層。焼土粒を多量含む。

SC845



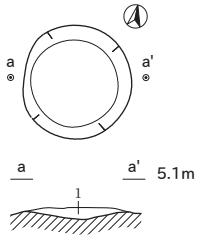
SC845
1　黄褐色砂質シルト（10YR5/6）炭化物を多量含む。焼土粒を含む。

SC810



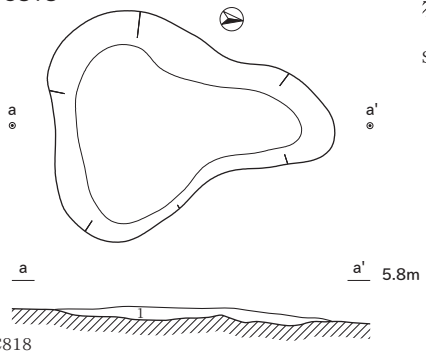
SC810
1　灰白色砂（2.5Y7/1）焼土粒・炭化物粒を多量含む。

SC847



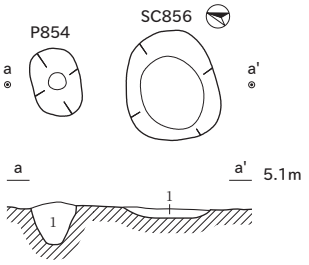
SC847
1　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR6/3）焼土粒・炭化物粒を多量含む。

SC818



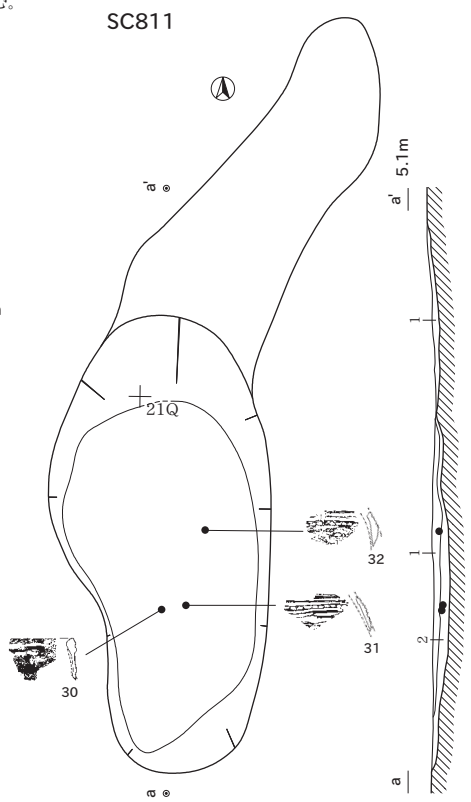
SC818
1　暗灰黄褐色シルト（2.5Y5/2）炭化物粒を多量含む。焼土粒を含む。

SC856・P854



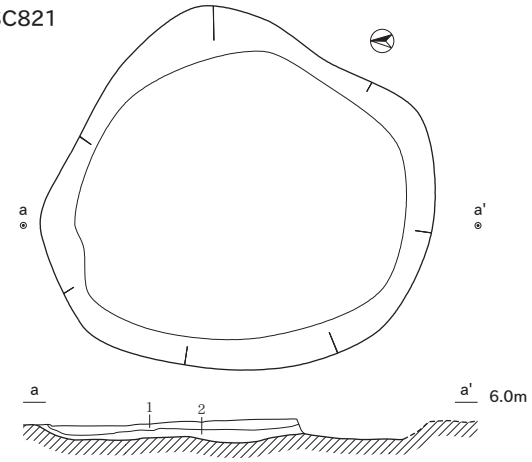
SC856
1　にぶい黄褐色砂質シルト（10YR6/3）炭化物粒を少量含む。
P854
1　にぶい黄褐色砂質シルト（10YR5/3）炭化物粒を少量含む。

SC811



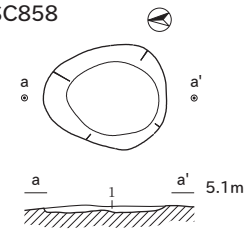
SC811
1　黄灰色シルト（2.5Y6/1）焼土粒・炭化物粒を含む。
2　黄灰色シルト（2.5Y5/1）炭化物粒を多量含む。

SC821



SC821
1　黄褐色砂質シルト（10YR5/8）灰白色シルトを多量含む。炭化物粒を極微量含む。
2　灰白色砂質シルト（10YR7/1）焼土粒・炭化物粒を多量含む。

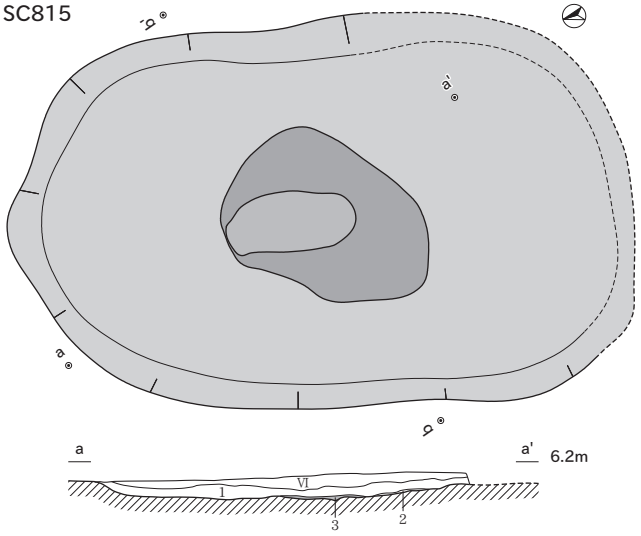
SC858



SC858
1　褐灰色砂質シルト（10YR4/1）焼土粒・炭化物粒を含む。

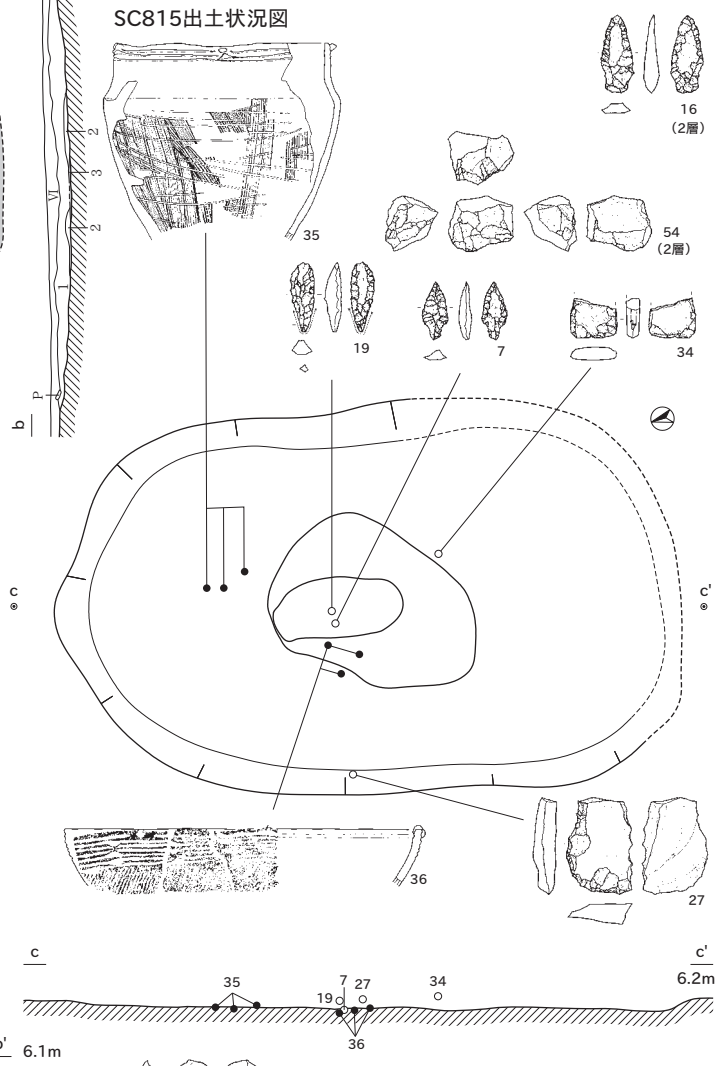
0　SC808（1：60）　3m
0　その他（1：40）　2m

SC815

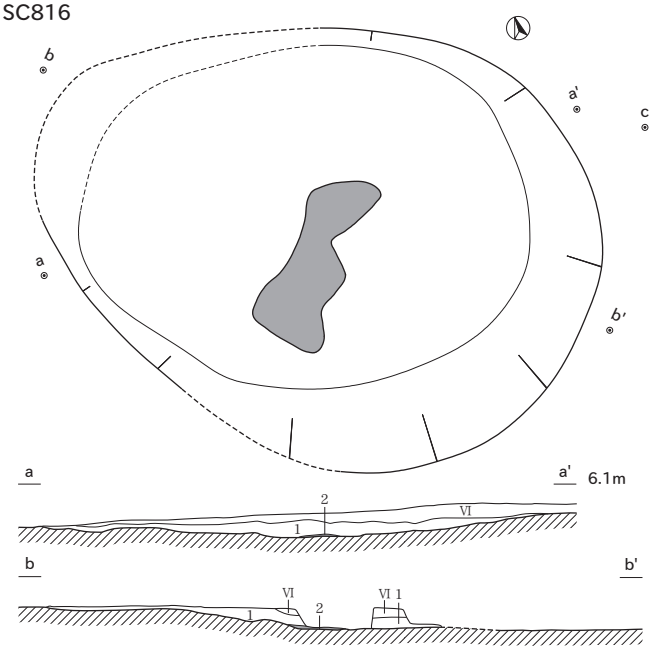


SC815
1　暗灰黄褐色シルト（2.5Y5/2）焼土粒・炭化物粒を多量含む。
2　暗灰黄褐色シルト（2.5Y5/2）1層より炭化物粒が多い。
3　暗赤褐色シルト（10YR3/3）焼土。

SC815出土状況図

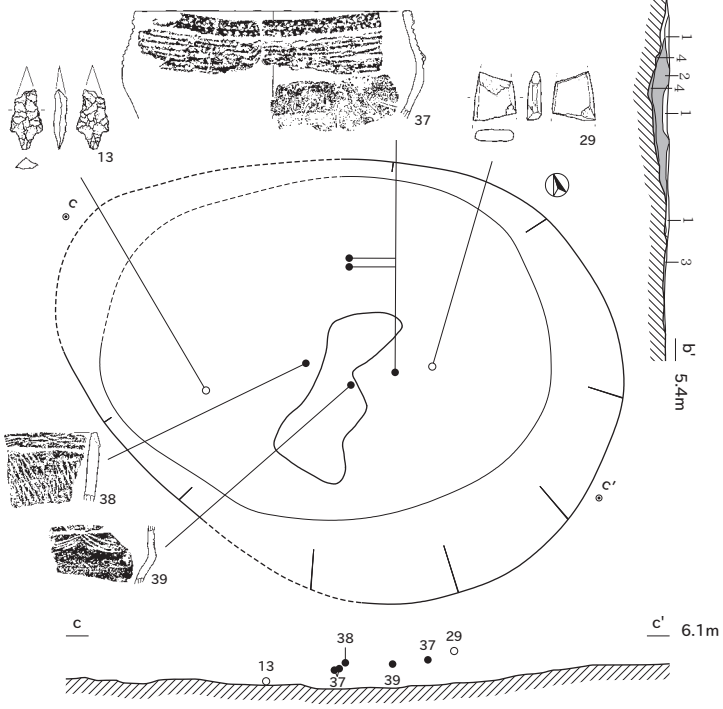


SC816

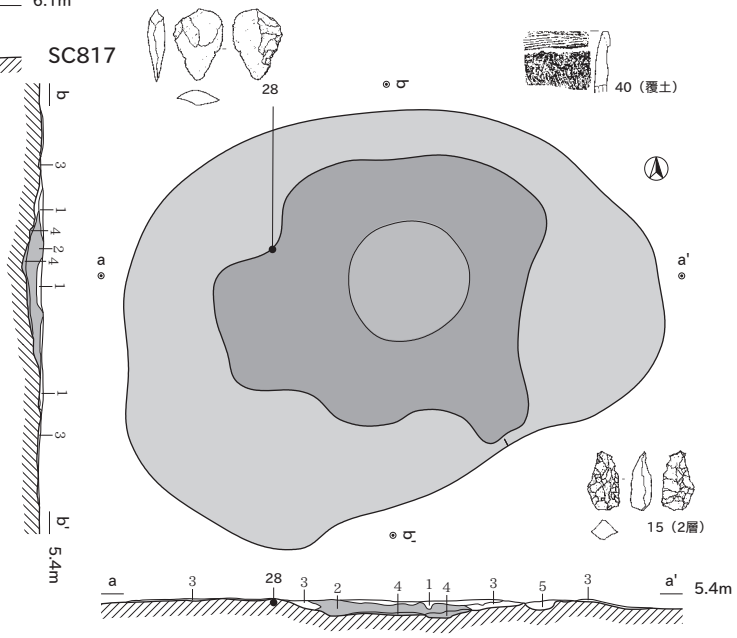


SC816
1　暗灰黄褐色シルト（2.5Y5/2）炭化物粒を含む。
2　暗灰黄褐色シルト（2.5Y5/2）炭化物粒を多量含む。焼土粒を微量含む。

SC816出土状況図



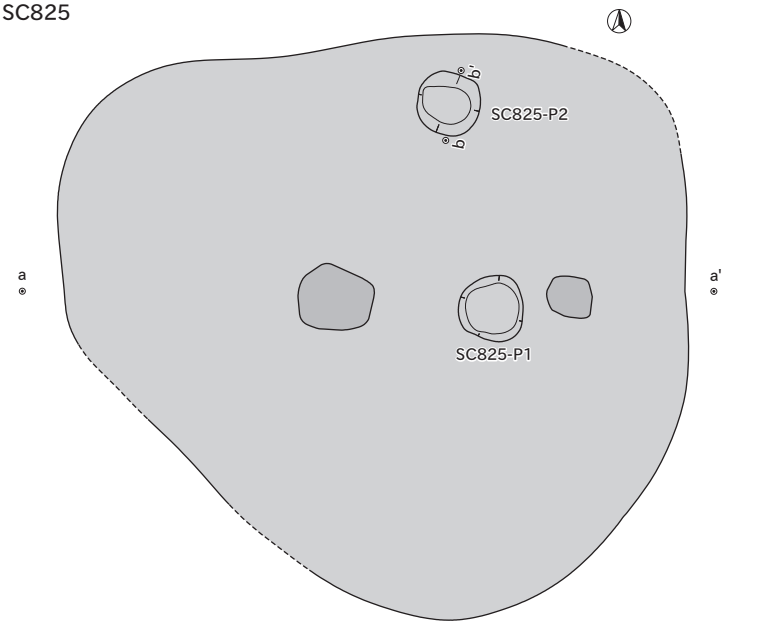
SC817



SC817
1　灰白色シルト（2.5Y8/2）
2　暗赤褐色シルト（2.5YR5/6）焼土。骨片を含む。
3　灰赤褐色シルト（2.5YR4/2）炭化物粒を含む。
4　赤灰色シルト（2.5YR4/1）焼土。炭化物粒を少量含む。
5　赤灰色シルト（2.5YR4/1）炭化物粒を少量含む。

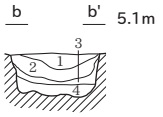
0　（1：60）　3m

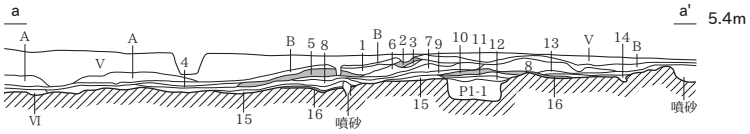
SC825



SC825
1　赤灰色シルト（2.5Y5/1）　炭化物粒を多量含む。
　灰白色シルトブロックを含む。
2　灰赤色シルト（10R5/2）　焼土。
3　灰赤色シルト（10R5/2）　焼土。骨片を多量含む。
4　暗赤灰色シルト（10R7/5）　炭化物粒を含む。
5　赤褐色シルト（10R5/4）　焼土。
6　赤褐色シルト（10R5/4）
7　灰赤色シルト（10R6/2）　灰白色シルトブロックを多量含む。
8　赤褐色シルト（10R5/4）　にぶい赤橙色シルトブロック多量含む。
　骨片含む。下位は炭化物層。
9　灰赤色シルト（10R5/2）　炭化物粒を含む。
10　灰赤色シルト（10R5/1）　焼土。下位は白色シルトが堆積する。
11　赤灰色シルト（10R6/1）　焼土・灰白色シルトブロックを含む。
12　灰赤色シルト（10R5/2）　焼土・炭化物粒・灰白色シルトブロック
　を多量含む。
13　灰赤色シルト（10R5/2）　焼土・炭化物粒・灰白色シルトブロック
　を多量含む。
14　灰赤色シルト（10R5/2）　焼土粒を多量含む。
15　赤灰色シルト（10R6/1）　炭化物粒を含む。
16　暗赤褐色シルト（10R3/3）　焼土。
A　灰白色シルト（N7/1）
B　灰白色シルト（N8/1）　低位面で部分的にⅥ層の上位に堆積する。

SC825-P2

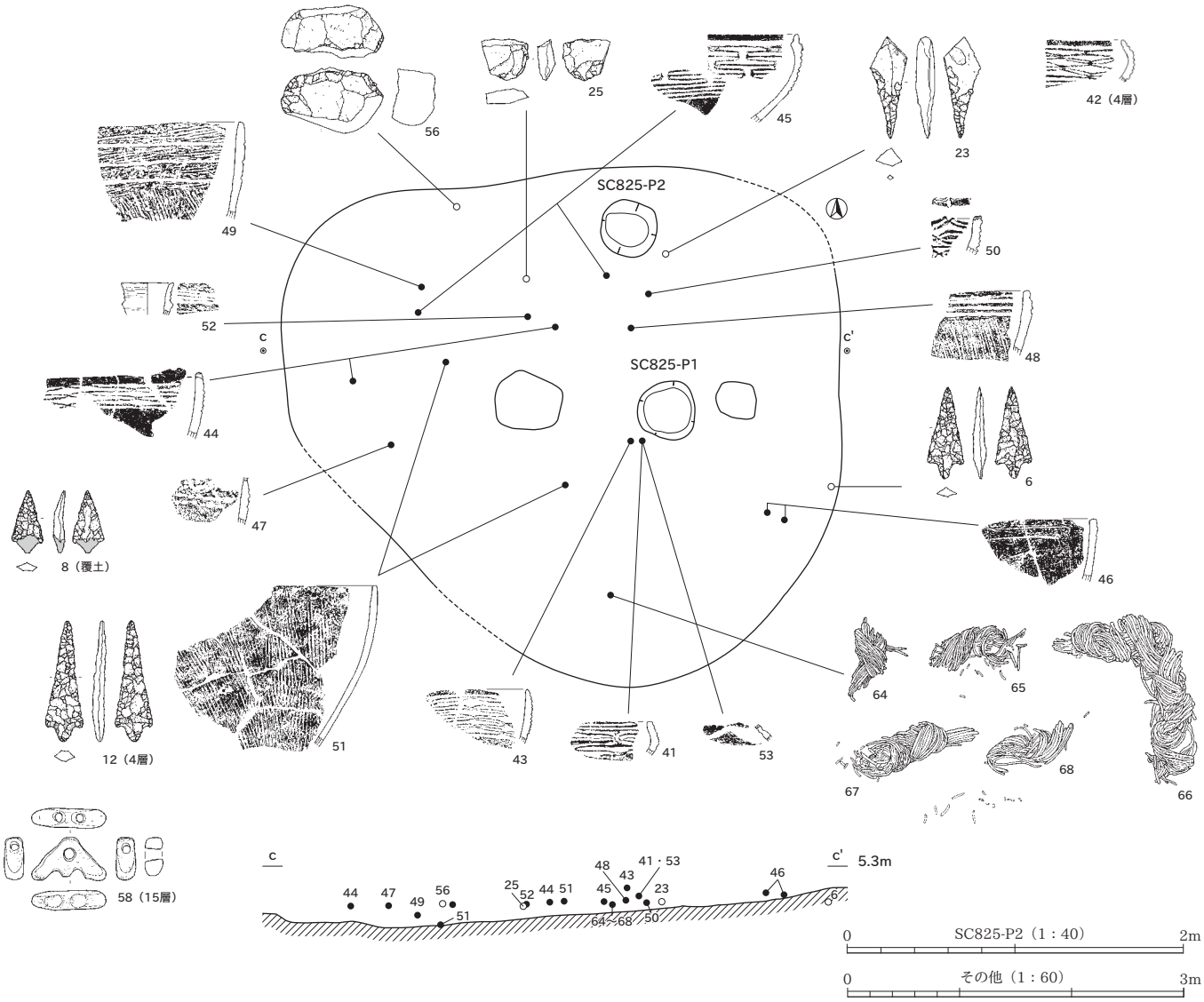


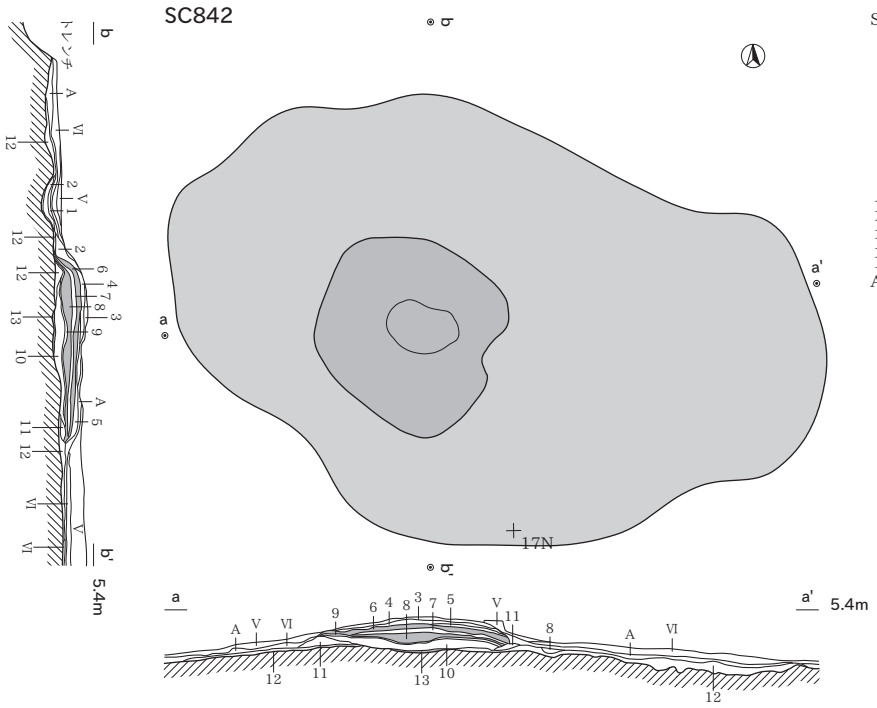


SC825-P1
1　暗赤灰色シルト（10R4/1）　焼土・炭化物・骨片をブロック状に含む。

SC825-P2
1　灰白色シルト（N7/1）
2　暗赤灰色シルト（2.5Y3/1）　炭化物粒・骨片を多量に含む。
3　灰白色シルト（5Y7/2）
4　青灰色シルト（5B5/1）　炭化物粒含む。

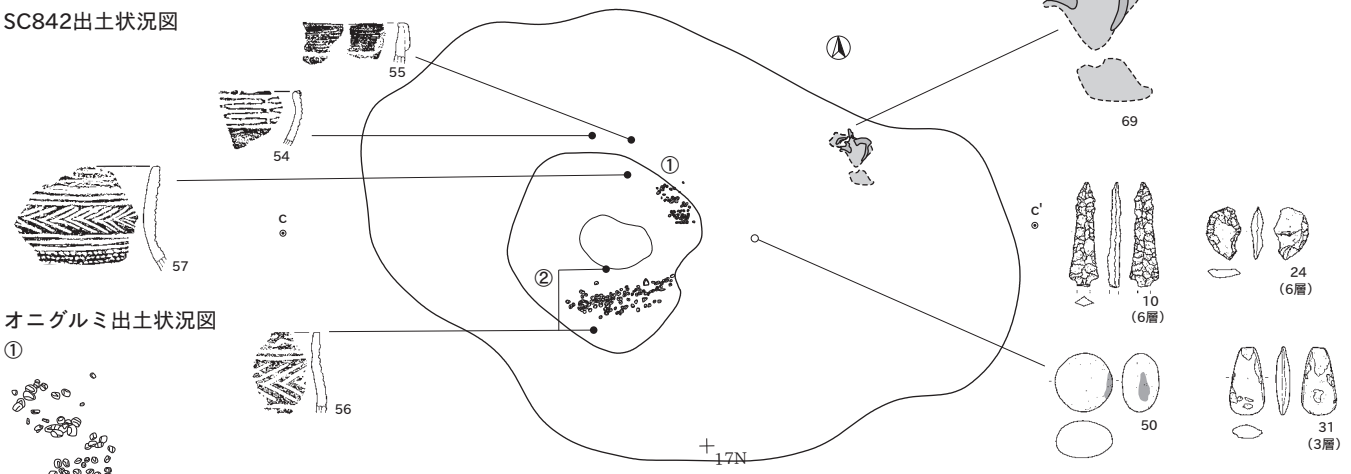
SC825出土状況図



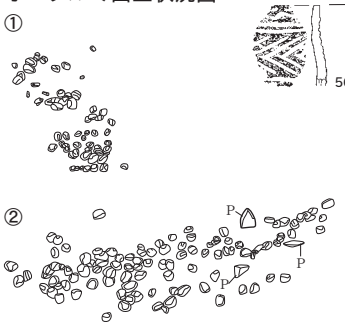


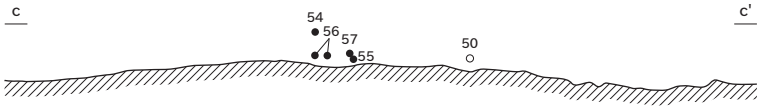
SC842
1 暗灰色シルト（2.5Y5/2） 炭化物粒を含む。
2 暗灰色シルト（2.5Y5/2） 炭化物粒を多量含む。
3 灰褐色シルト（7.5YR6/2） 骨片を多量含む。
4 明赤褐色シルト（2.5YR5/6） 焼土粒・骨片を含む。
5 暗赤灰色シルト（2.5YR3/1） 炭化物粒・クルミを多量含む。
6 明赤褐色シルト（2.5YR5/6） 焼土。骨片を含む。
7 灰褐色シルト（7.5YR6/2） 骨片を多量含む。
8 赤褐色シルト（2.5YR4/6） 焼土。骨片を含む。
9 暗赤褐色シルト（2.5YR3/4） 焼土粒を含む。
10 暗赤褐色シルト（2.5YR3/2） 焼土粒を含む。
11 灰黄色シルト（2.5Y7/2）
12 暗灰黄色シルト（2.5Y5/2） 炭化物を含む。
13 明赤褐色シルト（2.5YR3/4） 焼土。
A 灰白色シルト（2.5Y7/1）

SC842出土状況図

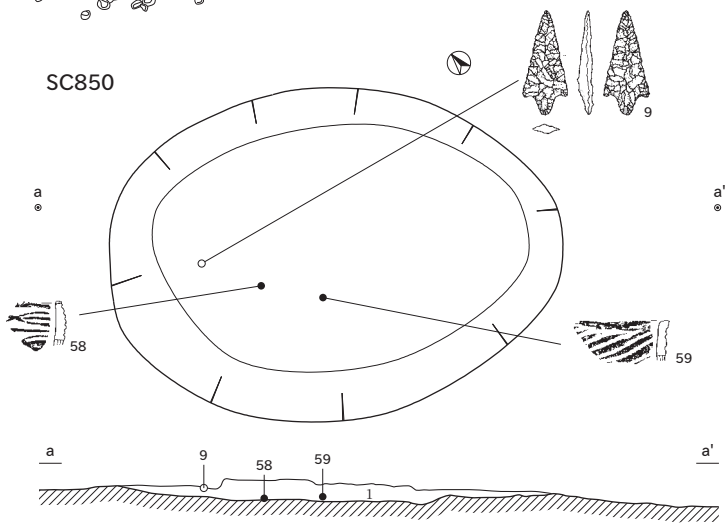


オニグルミ出土状況図

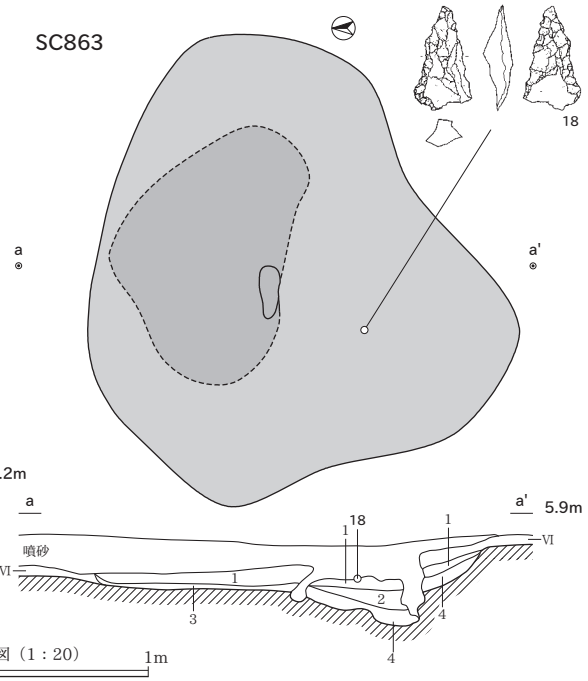




SC850



SC863

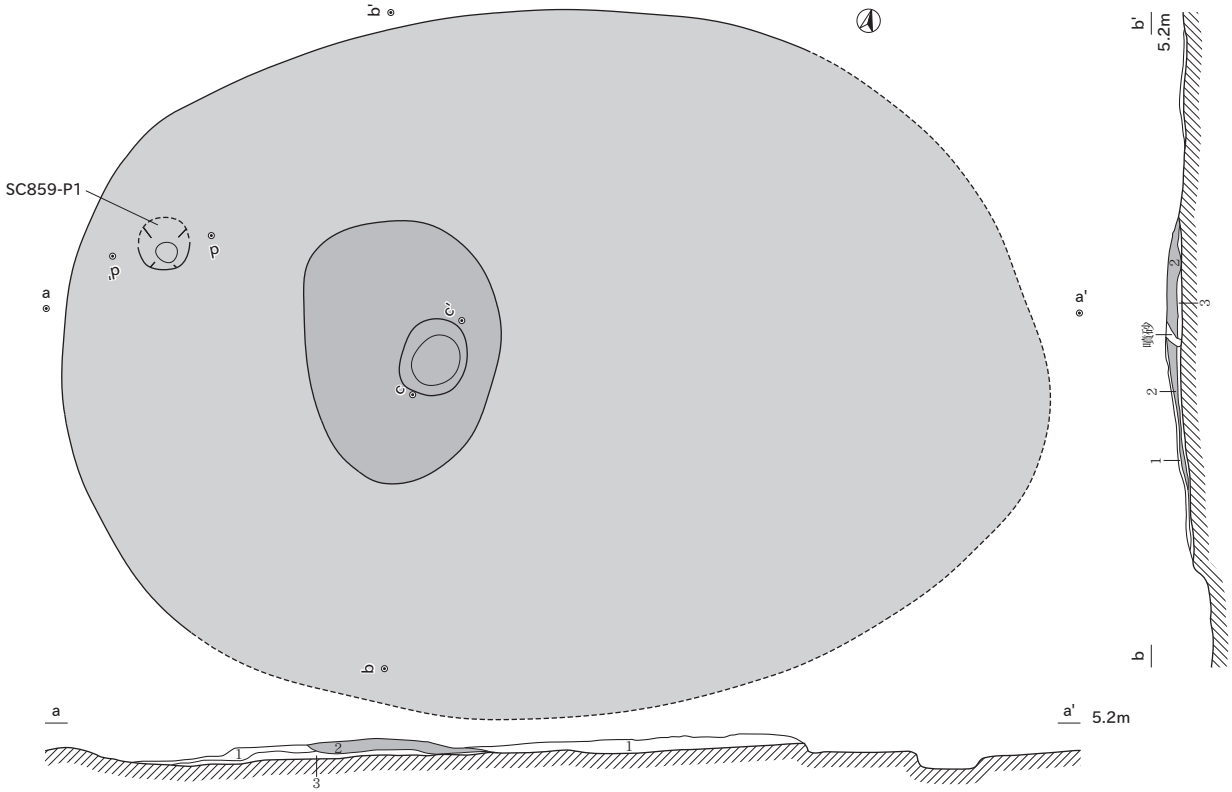


SC850
1 黒褐色砂質シルト（10YR3/2） 焼土粒・炭化物粒を多量含む。

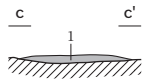
SC863
1 灰白色シルト（7.5Y7/1） 炭化物粒を微量含む。
2 灰白色シルト（7.5Y8/1） 炭化物粒を極微量含む。
3 黒色シルト（2.5Y2/1） 炭化物層。
4 にぶい橙色シルト（5YR6/3） 焼土・炭化物粒を微量含む。

0 SC842クルミ出土状況図（1：20） 1m
0 SC850・863（1：40） 2m
0 その他（1：60） 3m

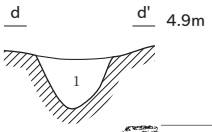
SC859



焼土2



SC859-P1

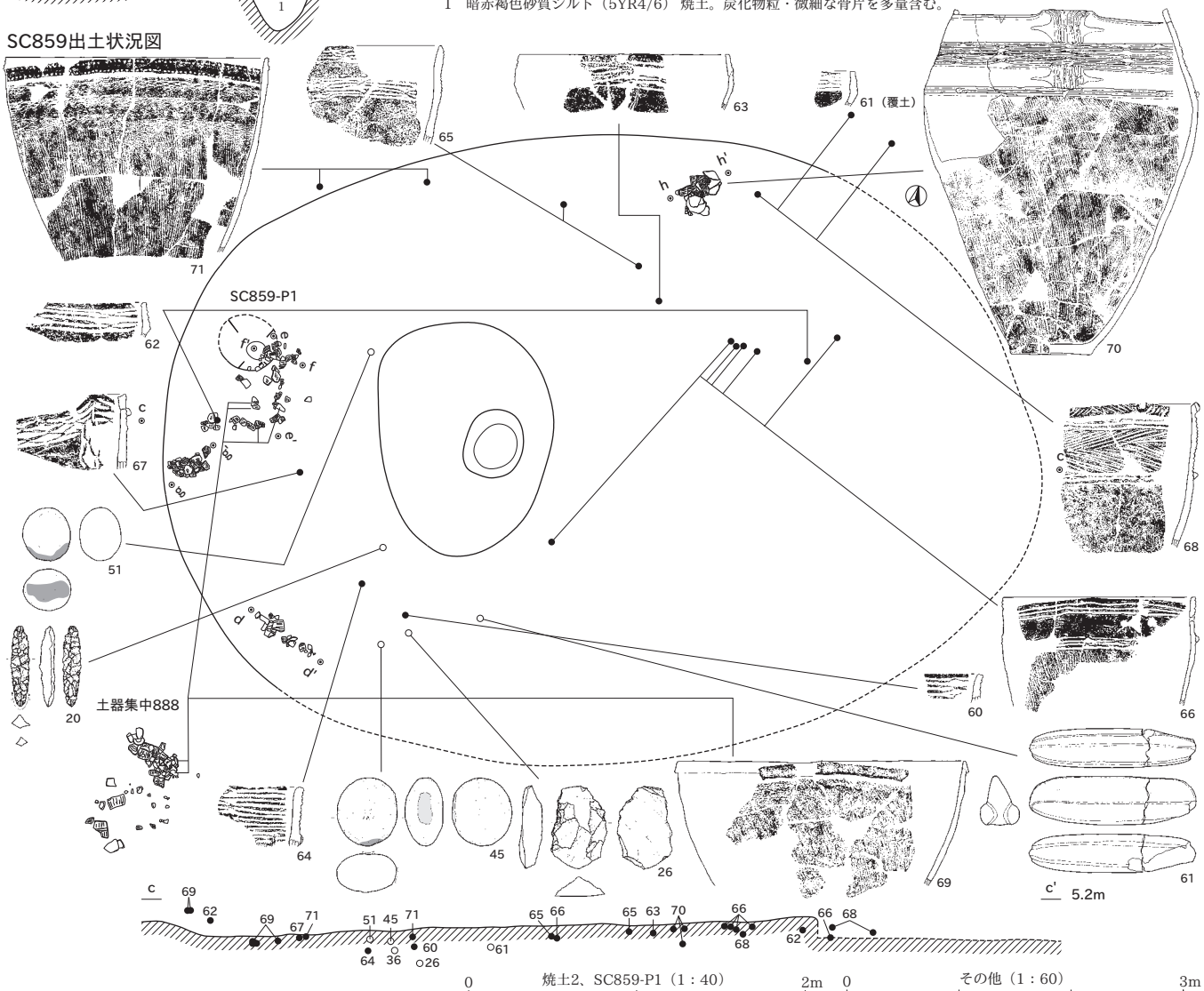


SC859
1　黒褐色シルト（10YR2/2）炭化物を多量含む。骨片を含む。
2　灰黄色シルト（10YR4/2）焼土。炭化物粒を含む。
3　灰オリーブ色砂質シルト（5Y6/2）炭化物粒を少量含む。

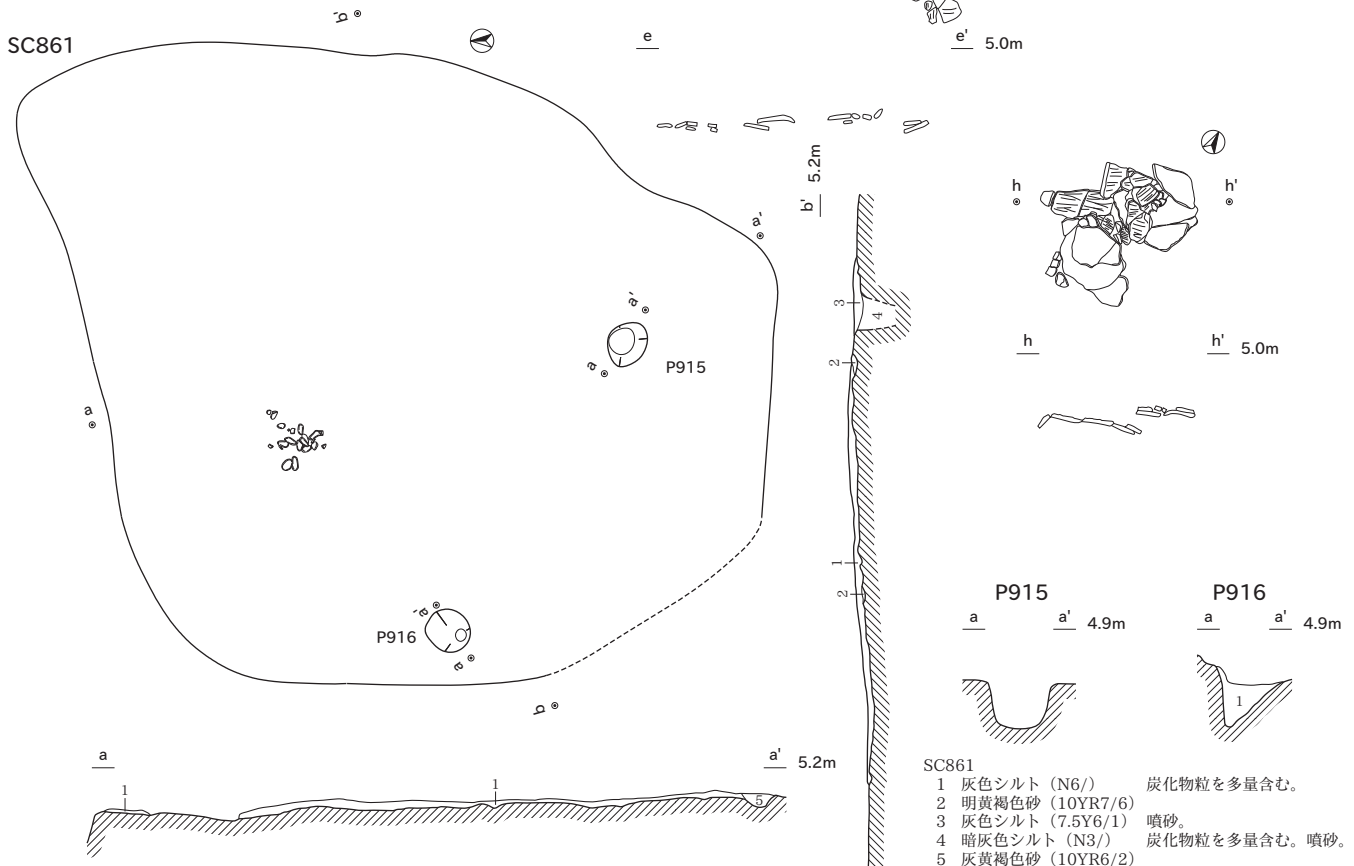
SC859
P1
1　灰色砂質シルト（5Y4/1）炭化物粒を含む。

焼土2
1　暗赤褐色砂質シルト（5YR4/6）焼土。炭化物粒・微細な骨片を多量含む。

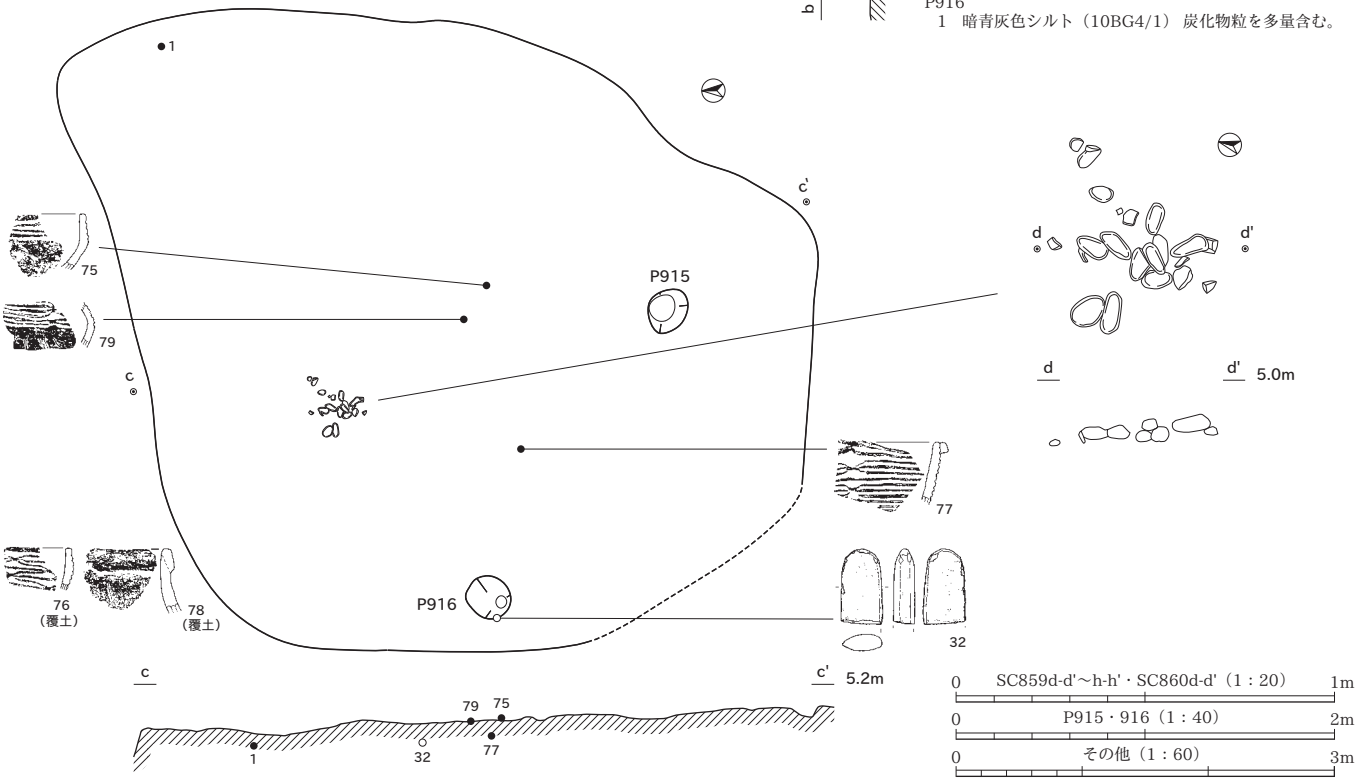
SC859出土状況図



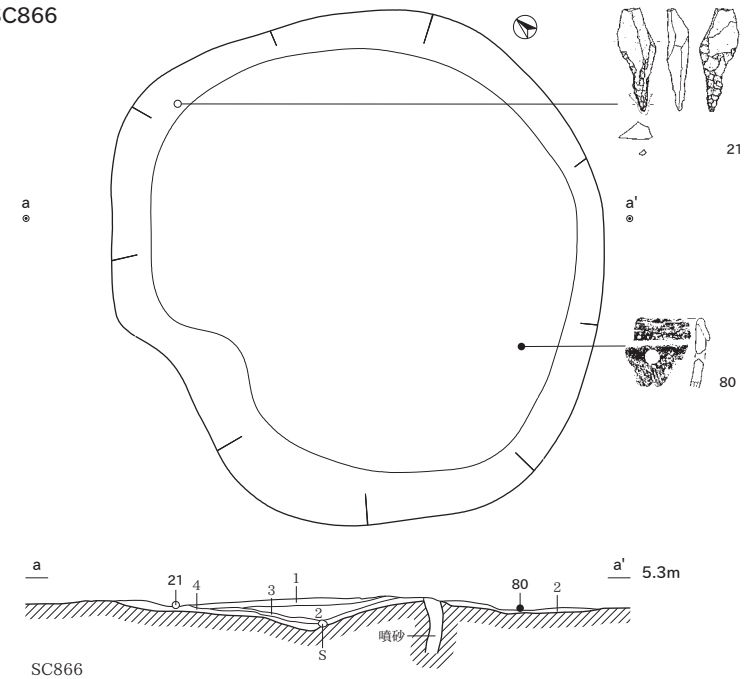
d
d'
4.9m
f
f'
5.0m
e
e'
5.0m
g
g'
5.0m


SC861
P915
P916
a
a'
5.2m
b
b'
5.2m
h
h'
5.0m
P915
P916
4.9m
SC861
1 灰色シルト（N6/） 炭化物粒を多量含む。
2 明黄褐色砂（10YR7/6）
3 灰色シルト（7.5Y6/1） 噴砂。
4 暗灰色シルト（N3/） 炭化物粒を多量含む。噴砂。
5 灰黄褐色砂（10YR6/2）
P916
1 暗青灰色シルト（10BG4/1） 炭化物粒を多量含む。

SC861出土状況図

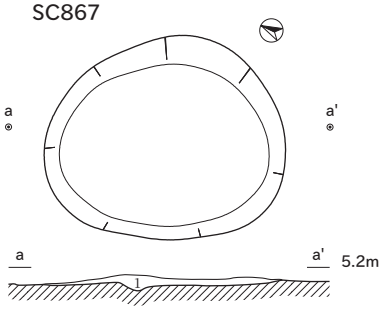

P915
P916
75
79
76
（覆土）
78
（覆土）
77
32
1
c
c'
5.2m
d
d'
5.0m
SC859d-d'～h-h'・SC860d-d'（1：20）
P915・916（1：40）
その他（1：60）
0
1m
2m
3m

SC866



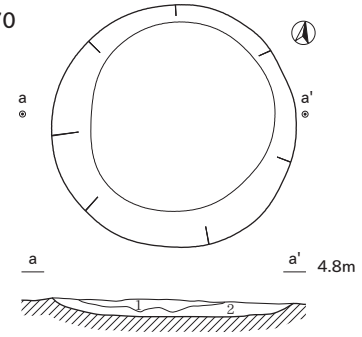
SC866
1　褐色シルト（10YR4/4）　焼土粒・炭化物粒を含む。
2　褐色シルト（10YR4/6）　焼土粒・炭化物粒・骨片を含む。下位は焼土粒が多い。
3　暗褐色シルト（10YR3/4）　炭化物粒を多量含む。骨片を含む。
4　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）　焼土粒。炭化物粒・骨片を含む。

SC867



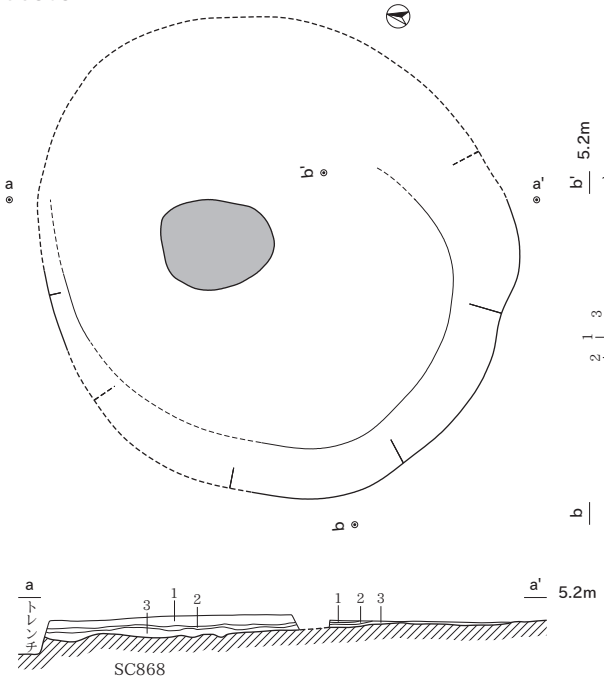
SC867
1　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）　焼土粒・炭化物粒を多量含む。

SC870



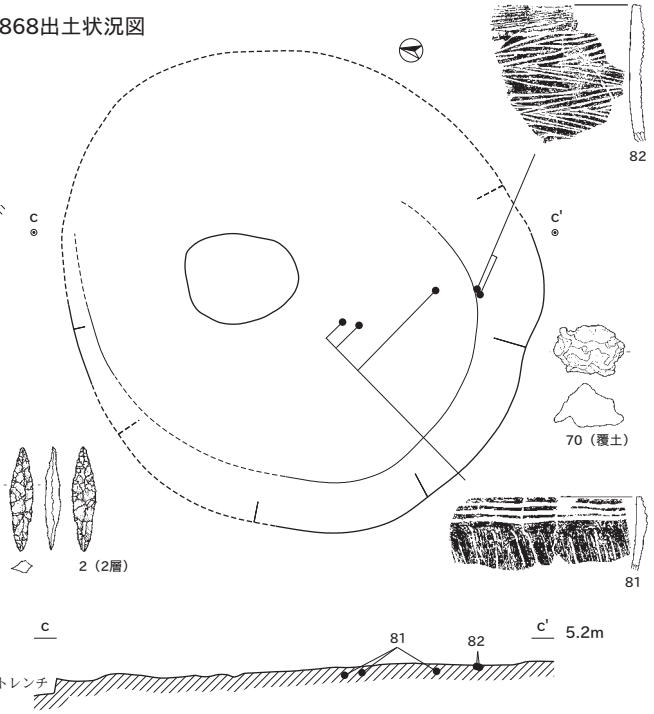
SC870
1　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）　炭化物粒を多量含む。焼土粒を含む。
2　褐灰色シルト（10YR6/1）　明黄褐色シルトをブロック状に含む。炭化物粒を含む。

SC868

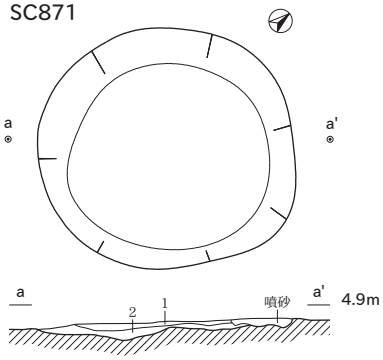


SC868
1　灰黄色シルト（2.5Y7/2）
2　灰白色シルト（2.5Y7/1）
3　暗灰黄色砂質シルト（2.5Y5/2）　焼土粒・炭化物粒を多量含む。

SC868出土状況図

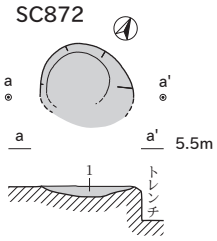


SC871



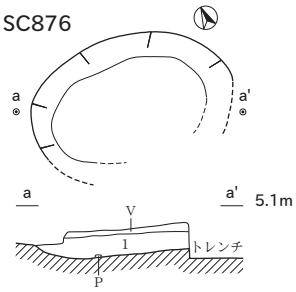
SC871
1　灰オリーブ色シルト（5Y5/2）　炭化物粒を多量含む。
2　オリーブ黄色砂（5Y6/3）　炭化物粒を少量含む。

SC872



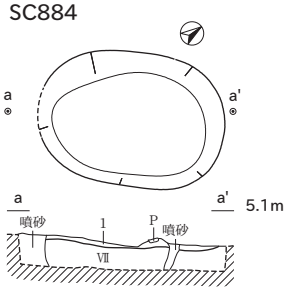
SC872
1　にぶい赤褐色シルト（5YR4/4）　焼土・炭化物粒を微量含む。

SC876



SC876
1　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）　焼土粒・炭化物粒を多量含む。

SC884

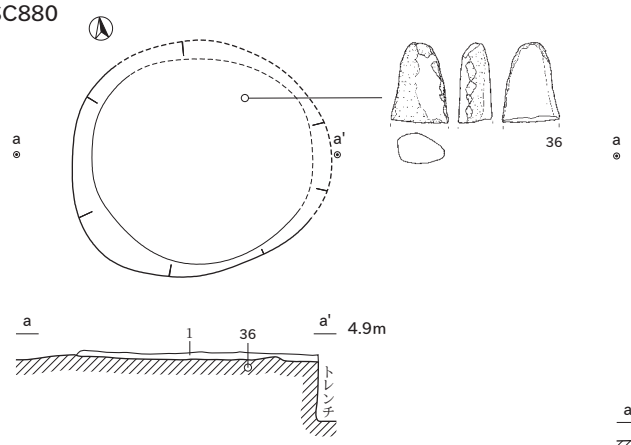


SC884
1　暗灰色シルト（2.5Y5/2）　焼土粒・炭化物粒を含む。

その他（1：40）　0　2m

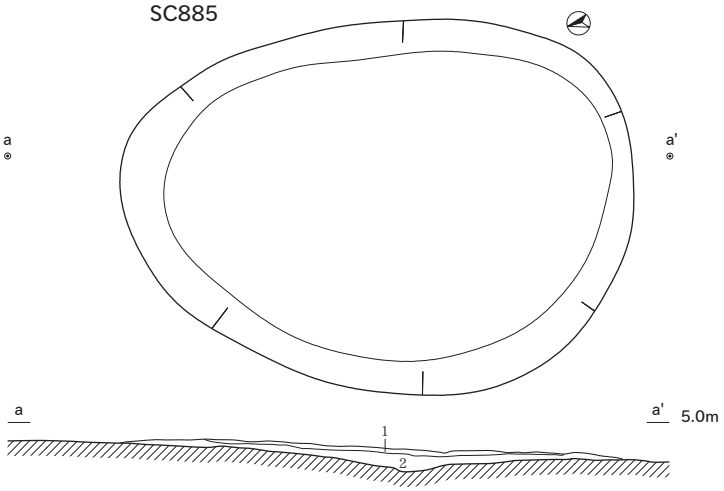
SC868（1：60）　0　3m

SC880



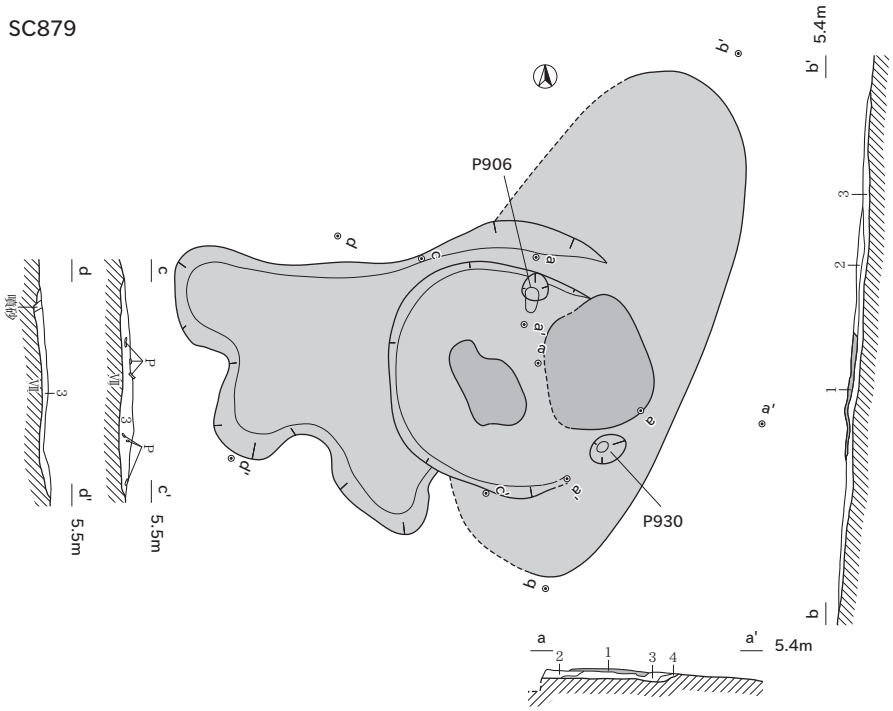
SC880
1 灰黄褐色砂質シルト（2.5Y5/2） 焼土粒・炭化物粒を多量含む。

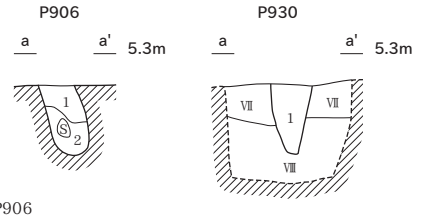
SC885



SC885
1 黒褐色シルト（10YR2/2） 炭化物粒を多量含む。
2 灰黄褐色シルト（10YR4/2） 焼土・炭化物粒を多量含む。

SC879

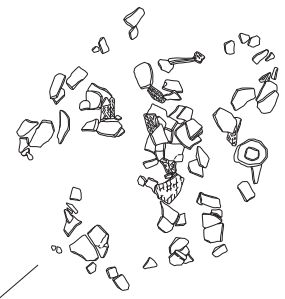




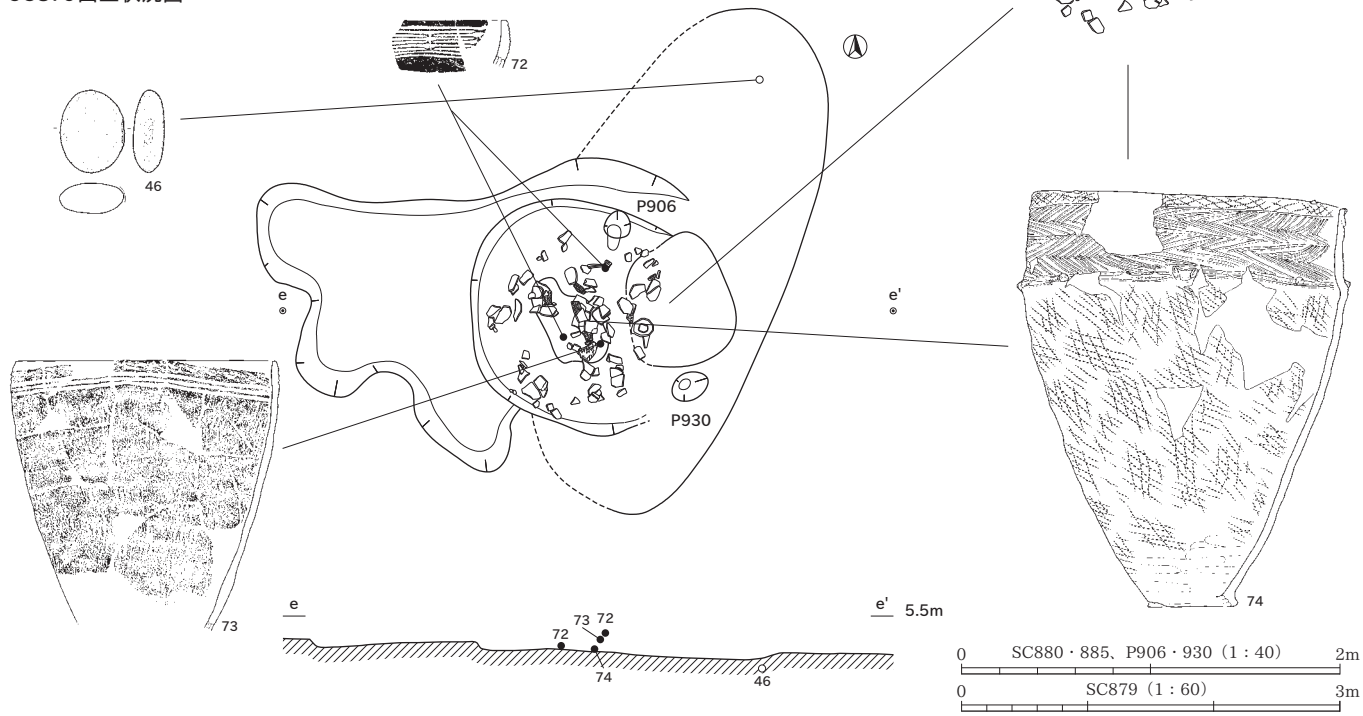
P906
1 黒褐色シルト（7.5Y3/1） 炭化物を多量含む。
2 黄灰色シルト（2.5Y4/1） 炭化物粒を多量含む。

P930
1 浅黄橙色シルト（10YR8/3） 炭化物粒を微量含む。

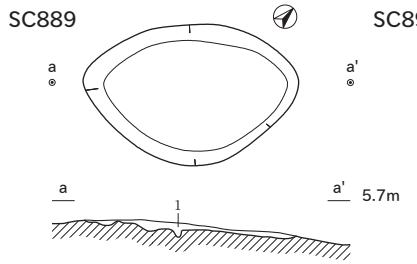
SC879
1 にぶい赤褐色シルト（5YR4/4） 焼土。炭化物粒を多量含む。
2 橙色シルト（5YR6/8） 微細な骨片を少量含む。
3 黄灰色シルト（2.5Y6/1） 炭化物粒を多量含む。
4 灰白色シルト（2.5Y7/1） 炭化物粒を少量含む。



SC879出土状況図

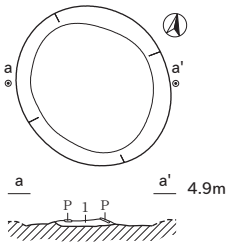


SC889



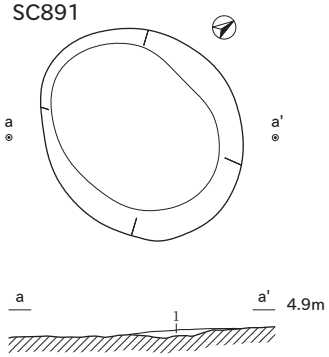
SC889
1　黒褐色シルト（2.5Y3/1）　炭化物粒・灰白色シルトを多量含む。

SC890



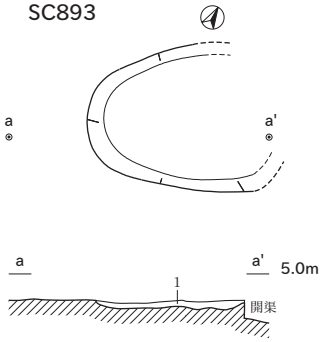
SC890
1　暗青灰色シルト（10BG4/1）　炭化物粒を多量含む。

SC891



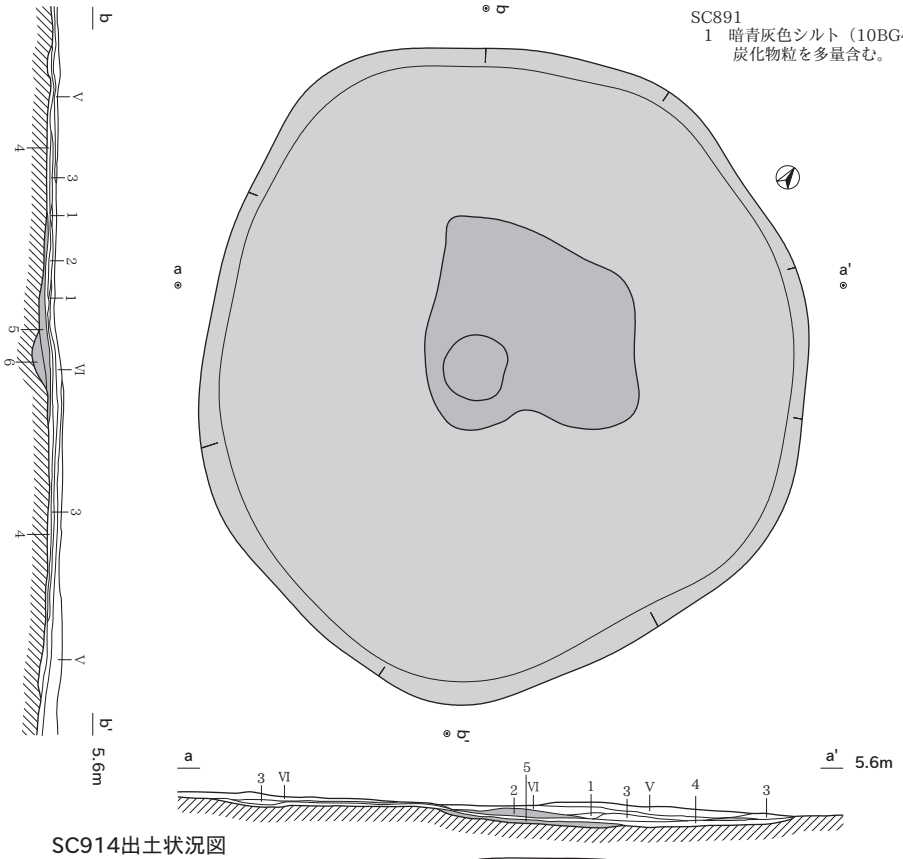
SC891
1　暗青灰色シルト（10BG4/1）　炭化物粒を多量含む。

SC893

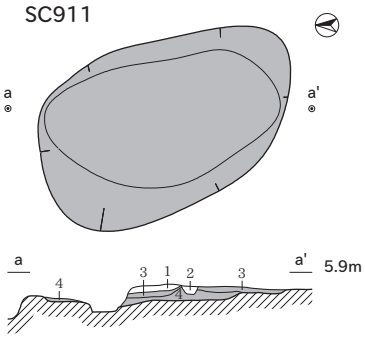


SC893
1　灰色砂（5Y6/1）　炭化物粒を少量含む。

SC914

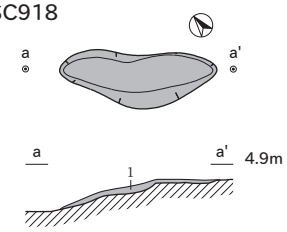


SC911



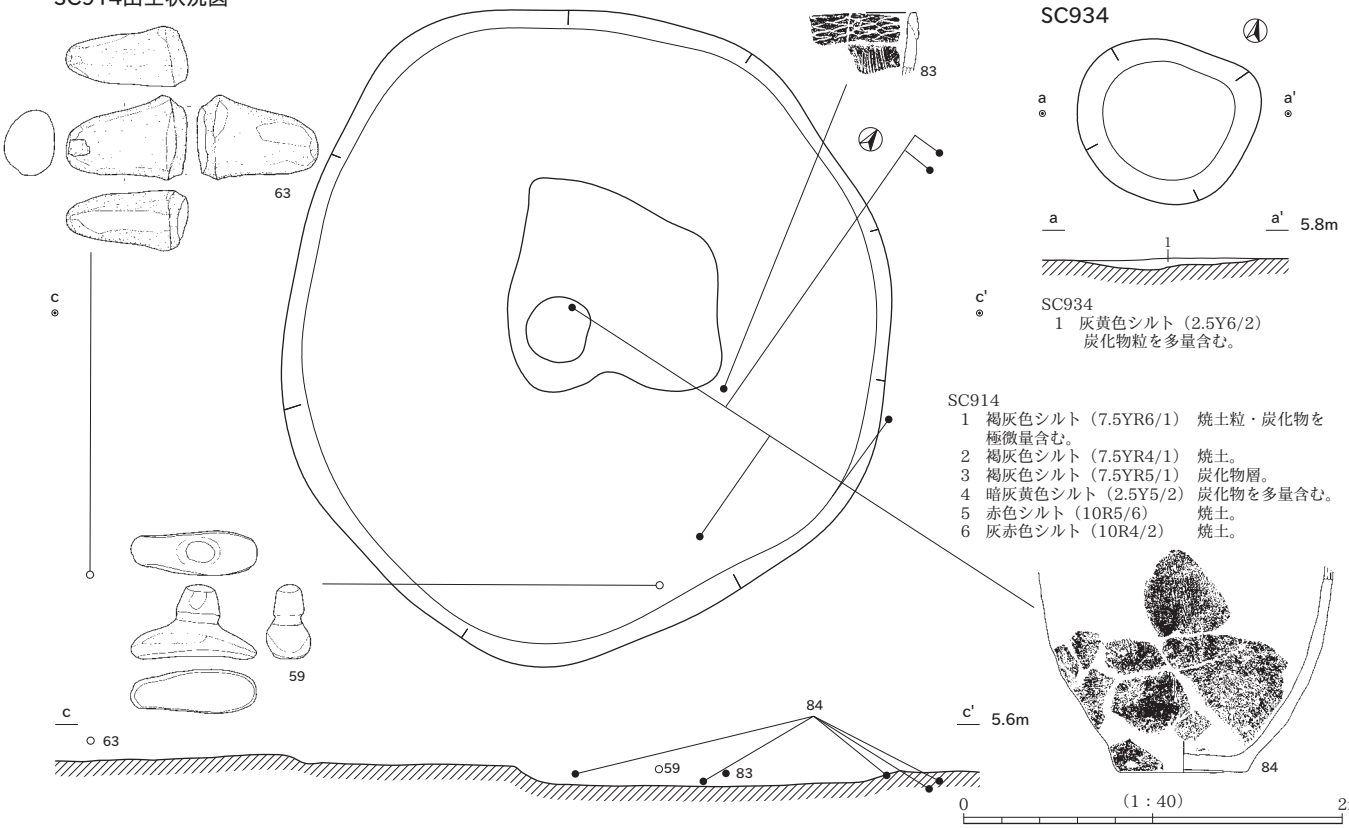
SC911
1　浅黄橙色シルト（10YR8/3）　炭化物粒を少量含む。
2　浅黄橙色シルト（10YR8/4）
3　赤褐色シルト（5YR4/6）　焼土・骨片を多量含む。
4　暗赤褐色シルト（5YR3/6）　焼土。浅黄橙色シルトを少量含む。

SC918



SC918
1　にぶい赤褐色砂質シルト（5YR4/4）　焼土。

SC914出土状況図

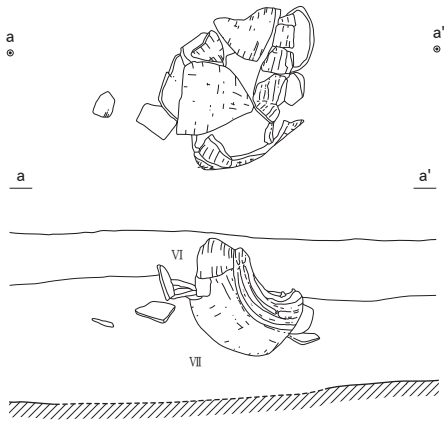


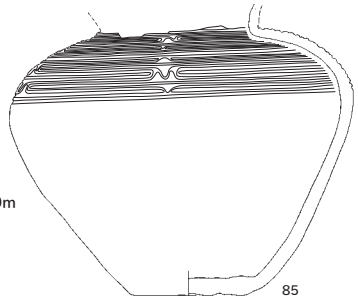
SC934

SC934
1　灰黄色シルト（2.5Y6/2）　炭化物粒を多量含む。

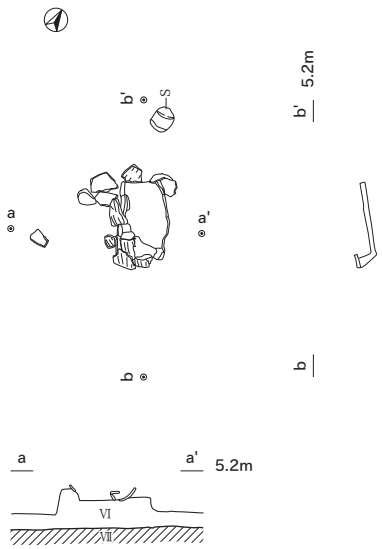
SC914
1　褐灰色シルト（7.5YR6/1）　焼土粒・炭化物を極微量含む。
2　褐灰色シルト（7.5YR4/1）　焼土。
3　褐灰色シルト（7.5YR5/1）　炭化物層。
4　暗灰黄色シルト（2.5Y5/2）　炭化物を多量含む。
5　赤色シルト（10R5/6）　焼土。
6　灰赤色シルト（10R4/2）　焼土。

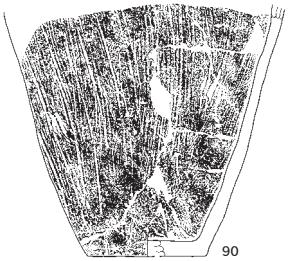
埋設土器1



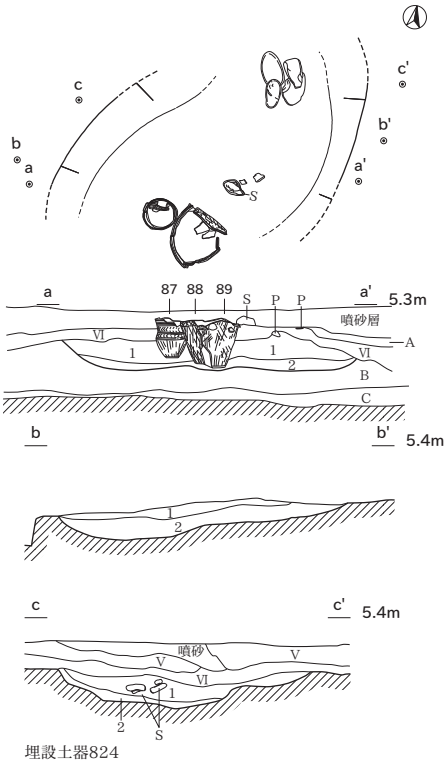


埋設土器828



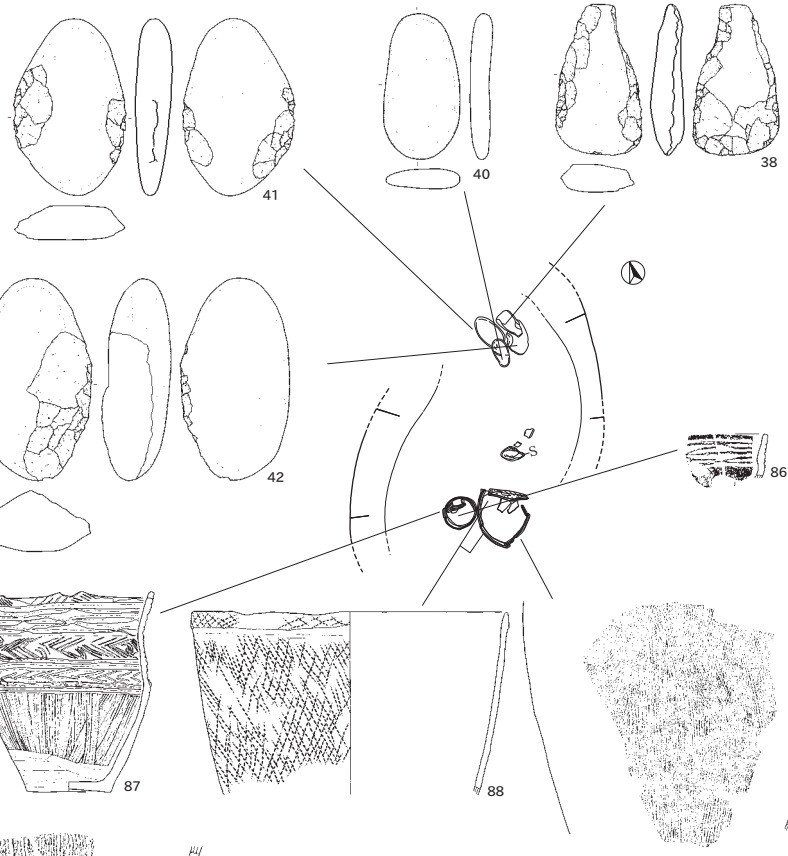


埋設土器824

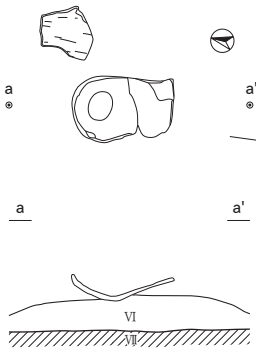


埋設土器824
1　黄橙色砂（10YR7/8）炭化物粒を少量含む。
2　褐色砂（10YR4/4）　炭化物粒を多量含む。
A　灰褐色砂（2.5Y7/1）
B　明黄褐色砂（10YR6/8）
C　灰白色シルト（N7/）

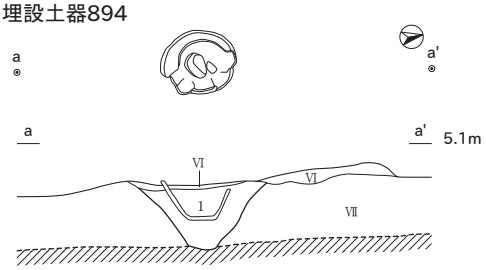
埋設土器824出土状況図



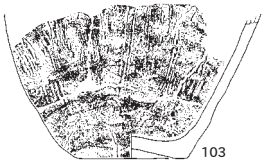
埋設土器834



埋設土器894



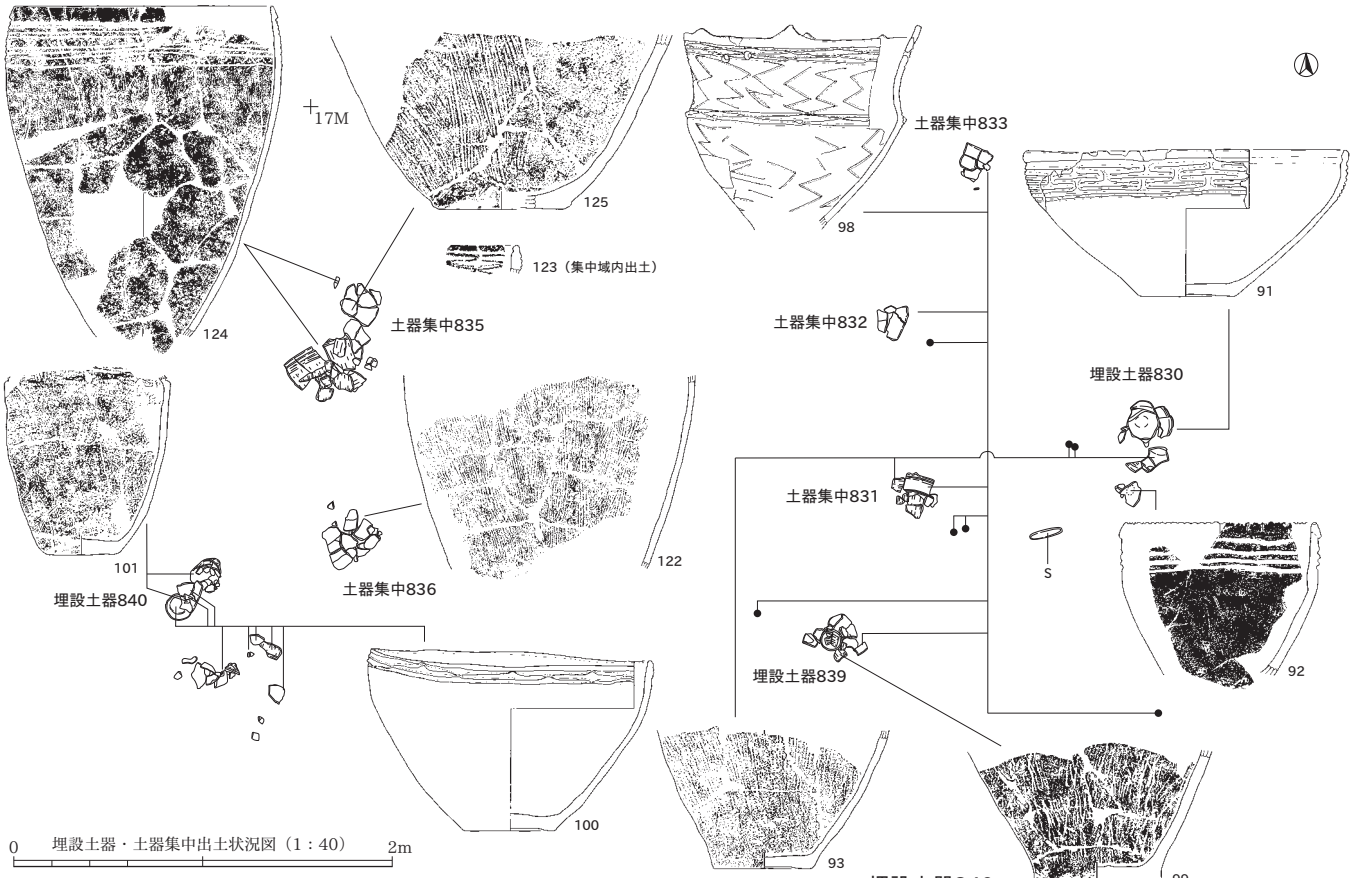
埋設土器894
1　にぶい黄橙色砂（10YR6/4）炭化物粒を少量含む。



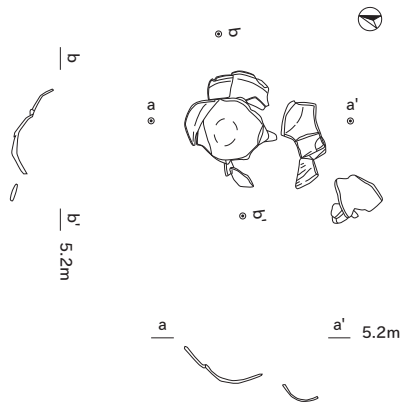
0　埋設土器1・828・834・894（1：20）　1m

0　埋設土器824（1：40）　2m

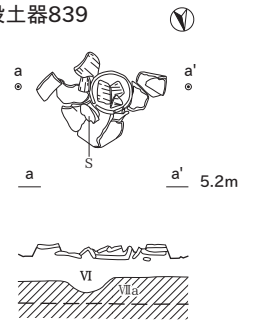
埋設土器830・839・840・土器集中831・832・833・835・836出土状況図



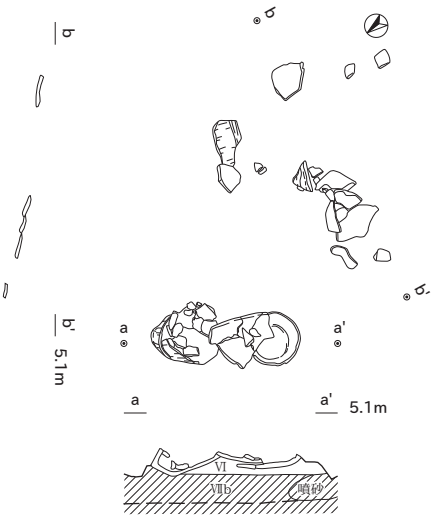
埋設土器830



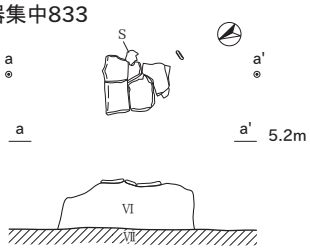
埋設土器839



埋設土器840

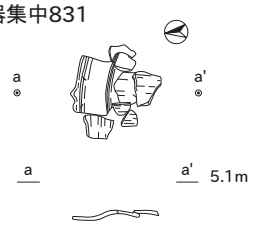


土器集中833

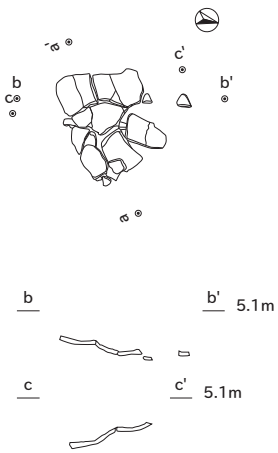


土器集中835

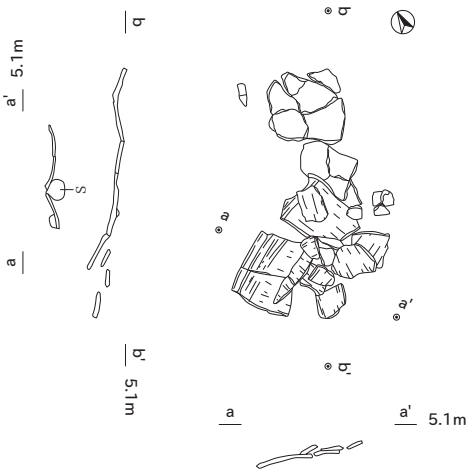
土器集中831



土器集中836

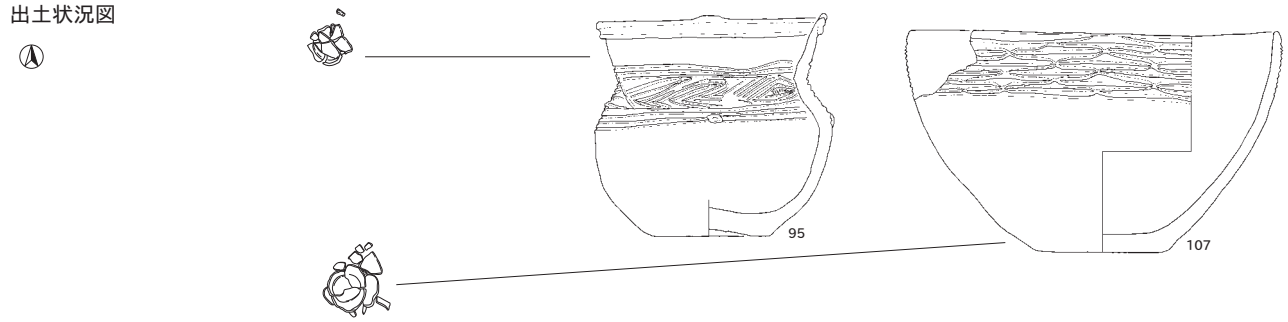


土器集中832

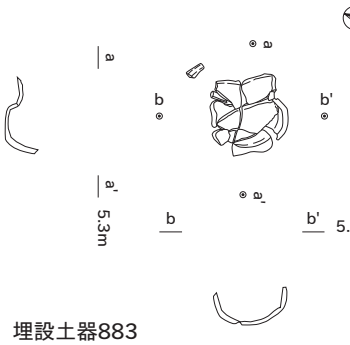


0　（1：20）　1m

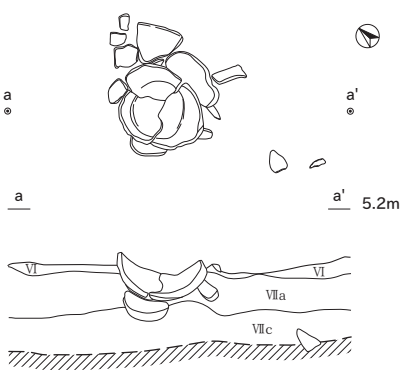
埋設土器837・924
出土状況図



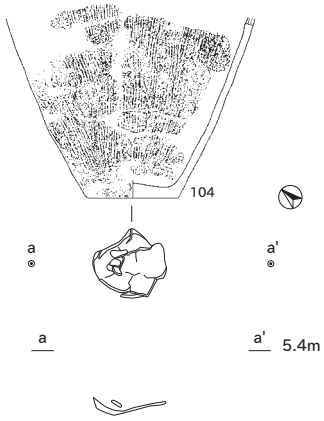
埋設土器837



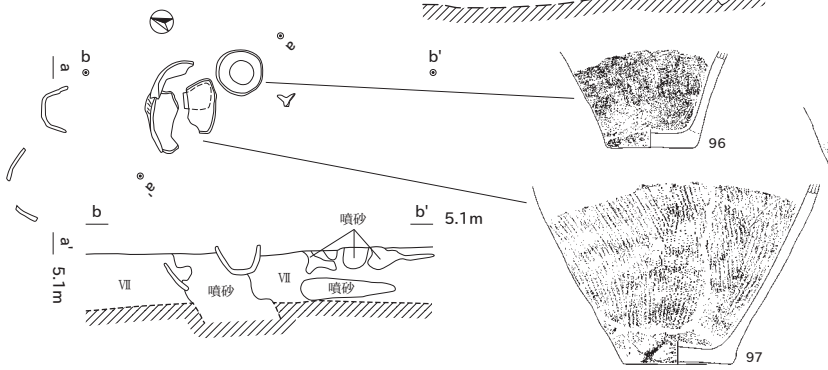
埋設土器924



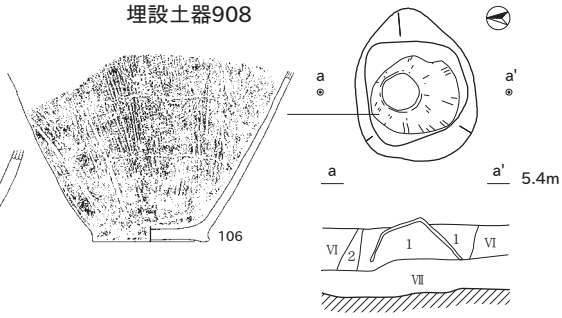
埋設土器898



埋設土器883

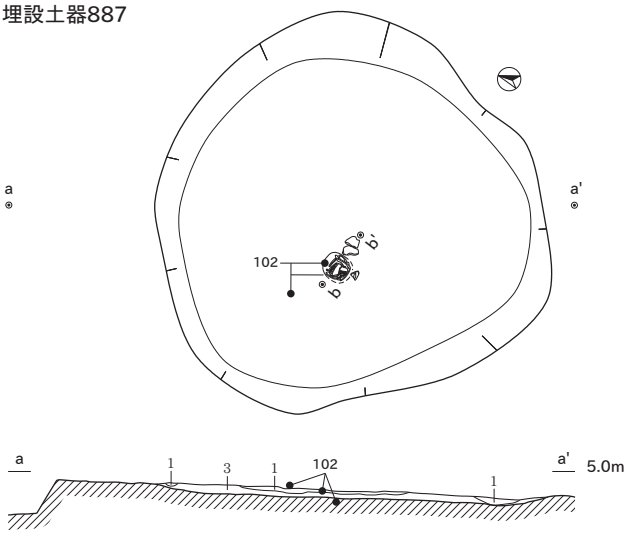


埋設土器908

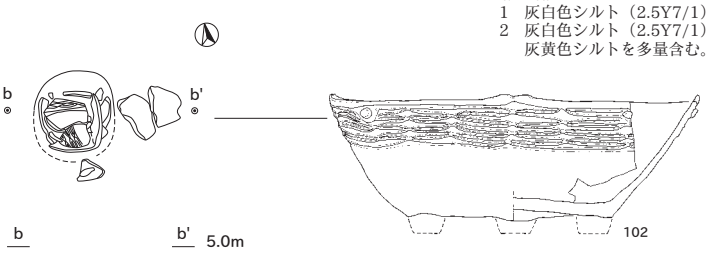


埋設土器908
1　灰白色シルト（2.5Y7/1）
2　灰白色シルト（2.5Y7/1）
　　灰黄色シルトを多量含む。

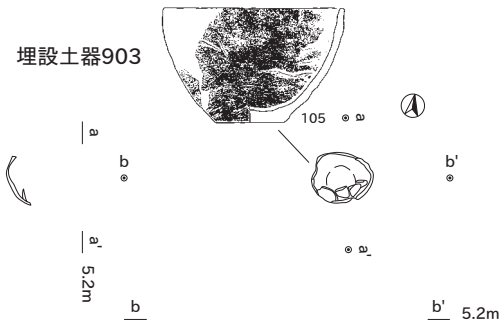
埋設土器887



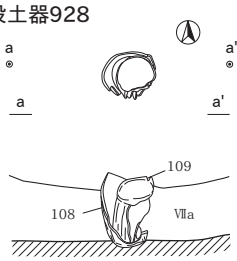
埋設土器887
1　黒褐色シルト（10YR3/2）　焼土粒・炭化物粒を多量含む。
2　にぶい褐色砂（7.5YR5/4）　炭化物を少量含む。
3　にぶい黄褐色砂（2.5Y6/4）　炭化物を少量含む。

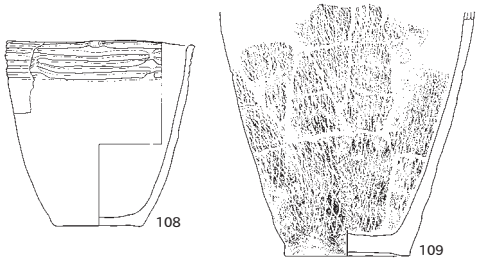


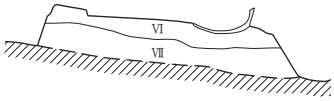
埋設土器903



埋設土器928







0　その他（1：20）　1m
0　埋設土器837・924出土状況図（1：40）　2m
0　埋設土器887（1：60）　3m

土器集中1・2・3出土状況図

53土器集中1内出土

SC283

SC879

土器集中2

116

114

117

土器集中1-3

土器集中3

粘土範囲

119

115

118

土器集中1

112

113

土器集中1

S

a

a'

5.5m

土器集中2

5.6m

土器集中3

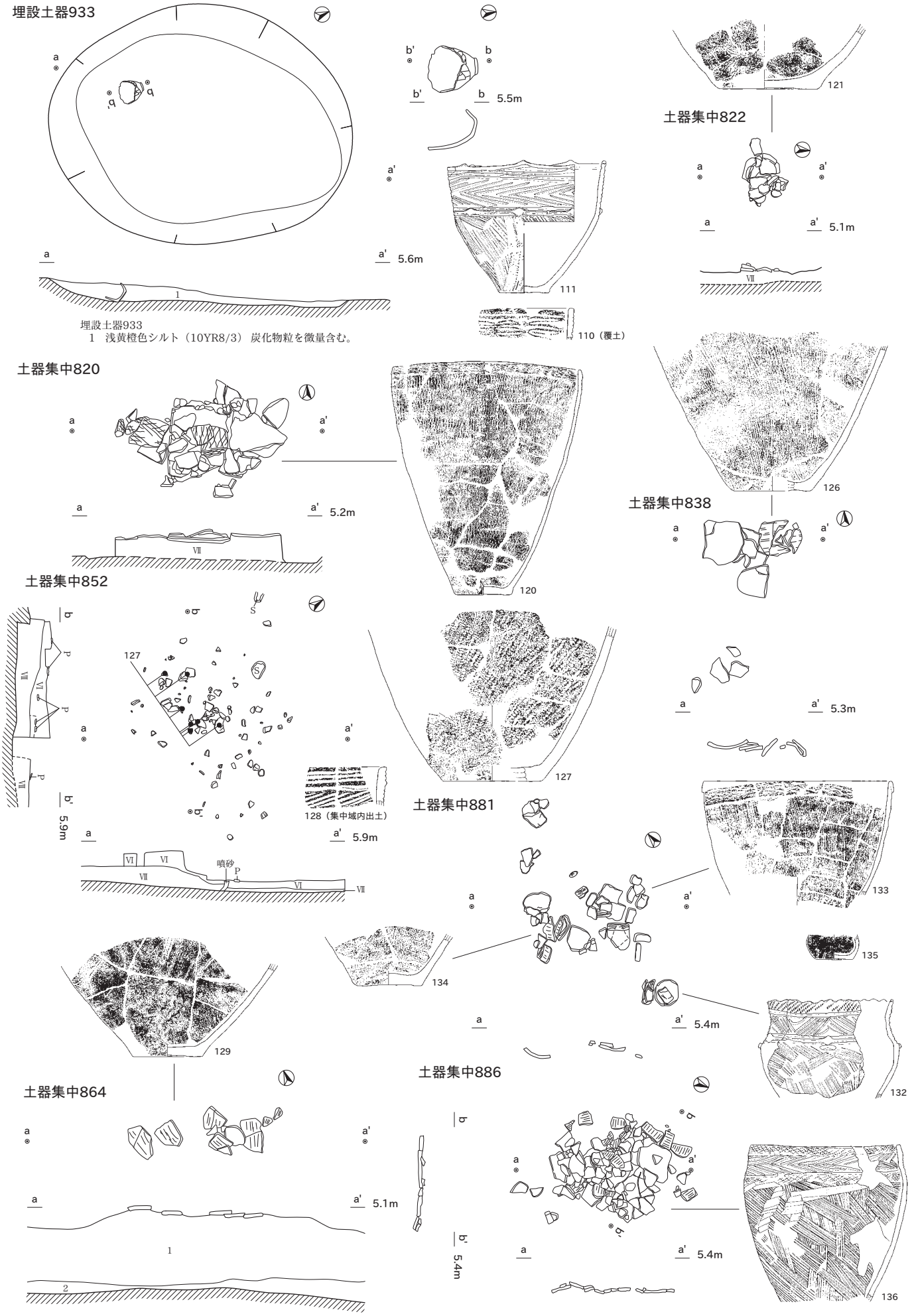
1

2

その他（1：20）　0　1m

土器集中1・2・3出土状況図（1：60）　0　3m

土器集中3
1　黄褐色砂質シルト（10YR5/6）　炭化物粒を含む。
2　にぶい黄褐色粘質シルト（10YR5/4）　粘土。炭化物粒を含む。



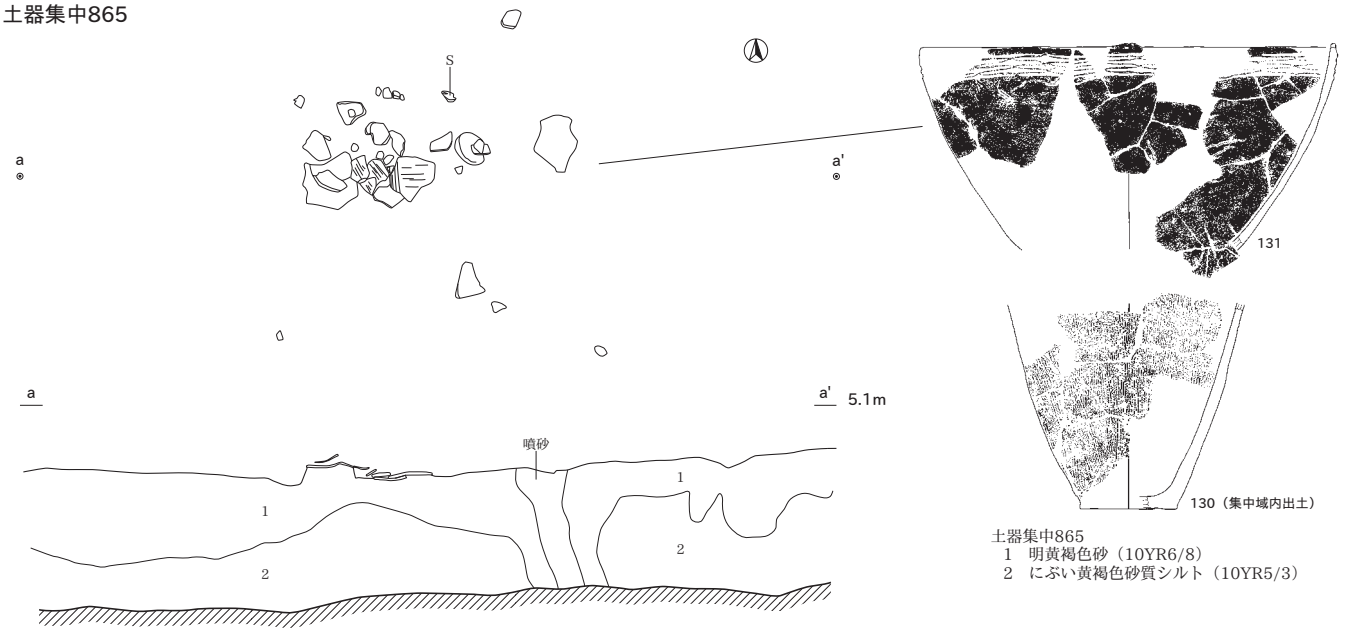
埋設土器933
1 浅黄橙色シルト（10YR8/3） 炭化物粒を微量含む。

土器集中864
1 黄褐色砂質シルト（2.5Y5/4） 炭化物粒を含む。
2 黄灰色砂質シルト（2.5Y5/1）

0 その他（1：20） 1m

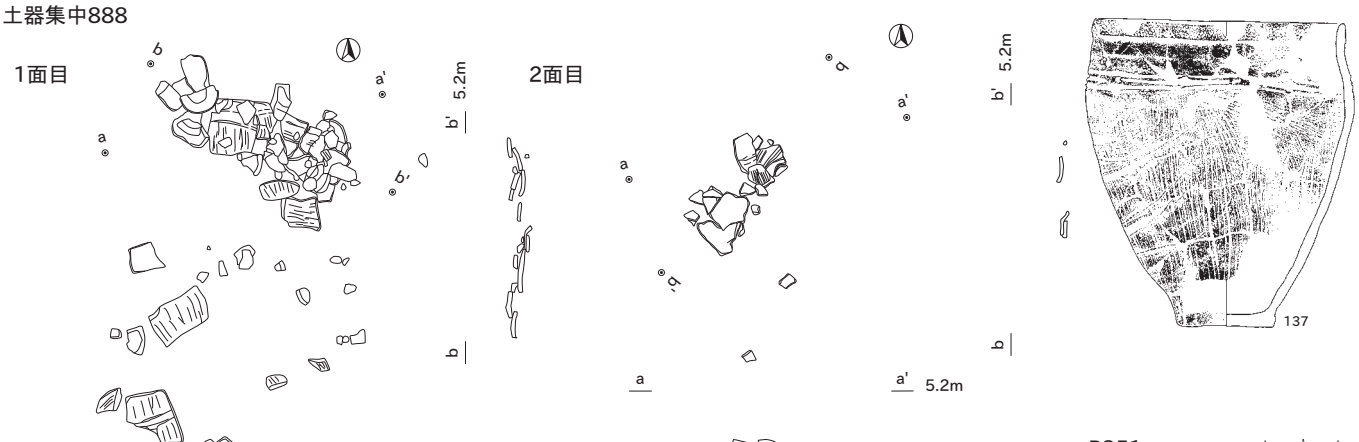
0 埋設土器933・土器集中852（1：40） 2m

土器集中865

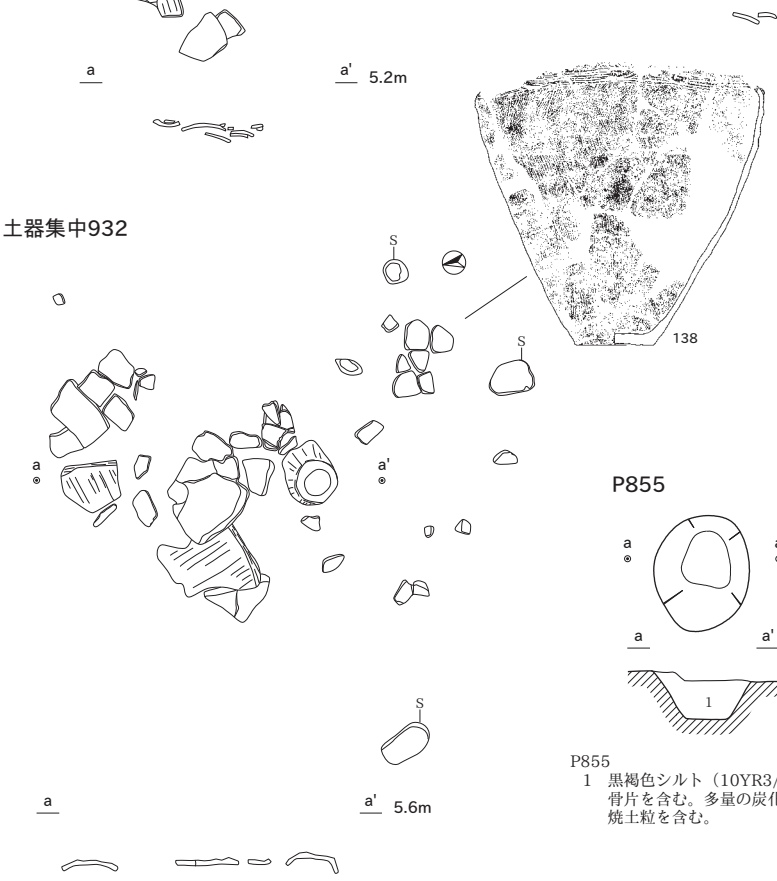


土器集中865
1　明黄褐色砂（10YR6/8）
2　にぶい黄褐色砂質シルト（10YR5/3）

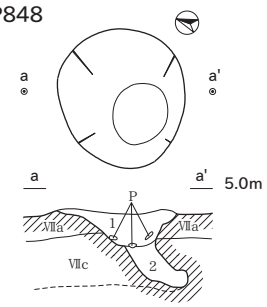
土器集中888



土器集中932

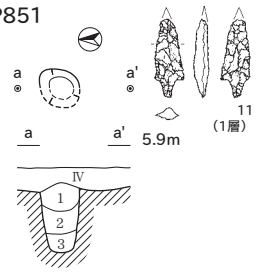


P848



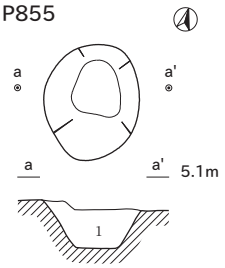
P848
1　灰色砂質シルト（5Y4/1）
　　炭化物粒を多量含む。
2　灰色砂質シルト（5Y4/1）
　　炭化物粒を少量含む。

P851



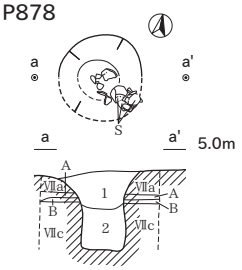
P851
1　にぶい黄色シルト（2.5Y6/3）
　　炭化物を多量含む。
2　浅黄色シルト（2.5Y7/3）
3　にぶい黄色シルト（2.5Y6/3）
　　炭化物を多量含む。

P855



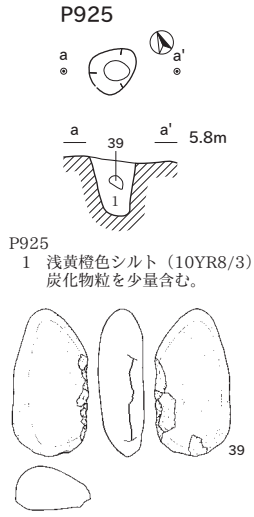
P855
1　黒褐色シルト（10YR3/2）
　　骨片を含む。多量の炭化物粒・
　　焼土粒を含む。

P878



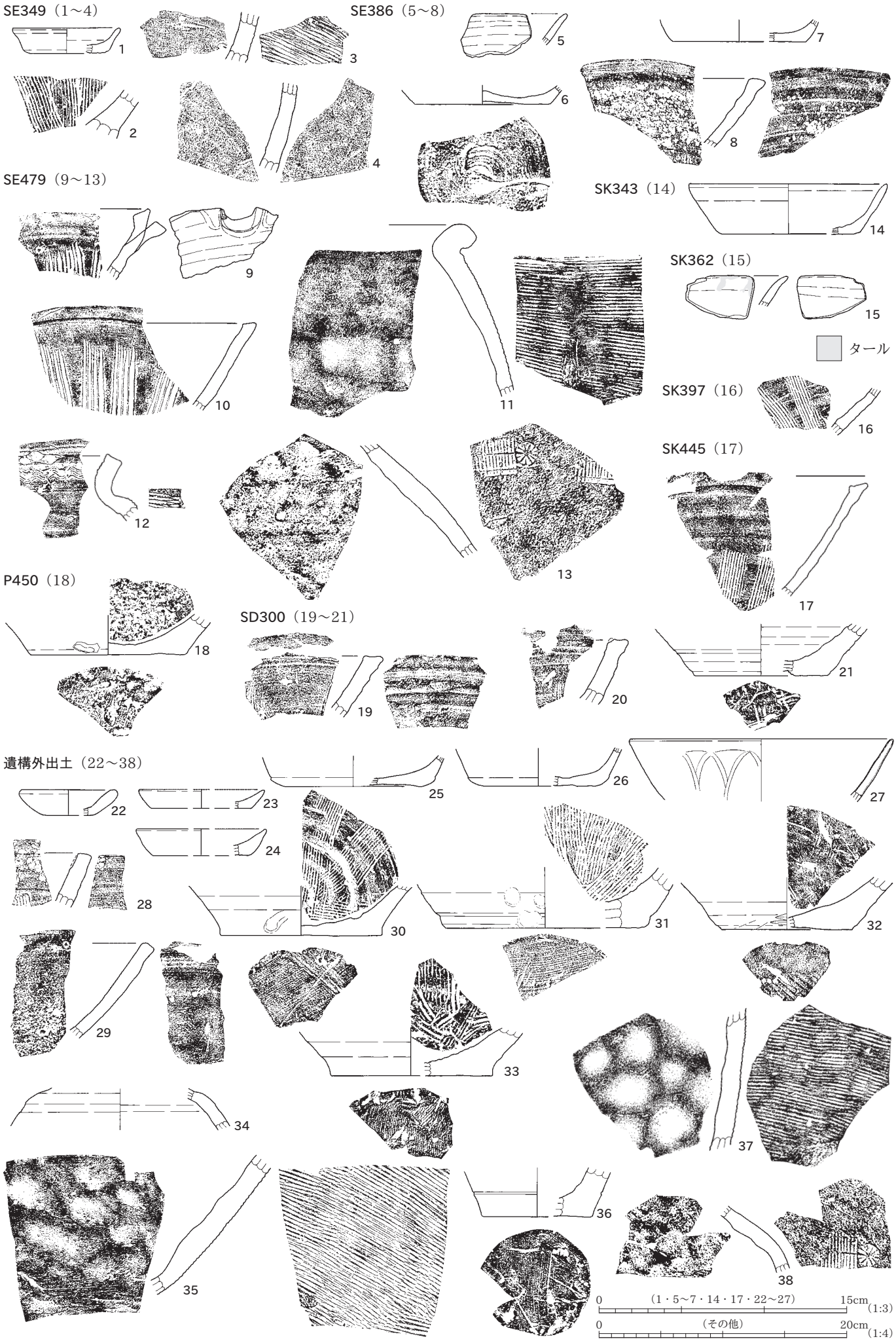
P878
1　灰色砂質シルト（5Y5/1）
　　炭化物粒を多量含む。
2　灰色砂質シルト（2.5Y4/1）
　　炭化物粒を含む。
A　灰オリーブ砂（5Y5/2）
B　にぶい黄褐色砂（2.5Y6/3）

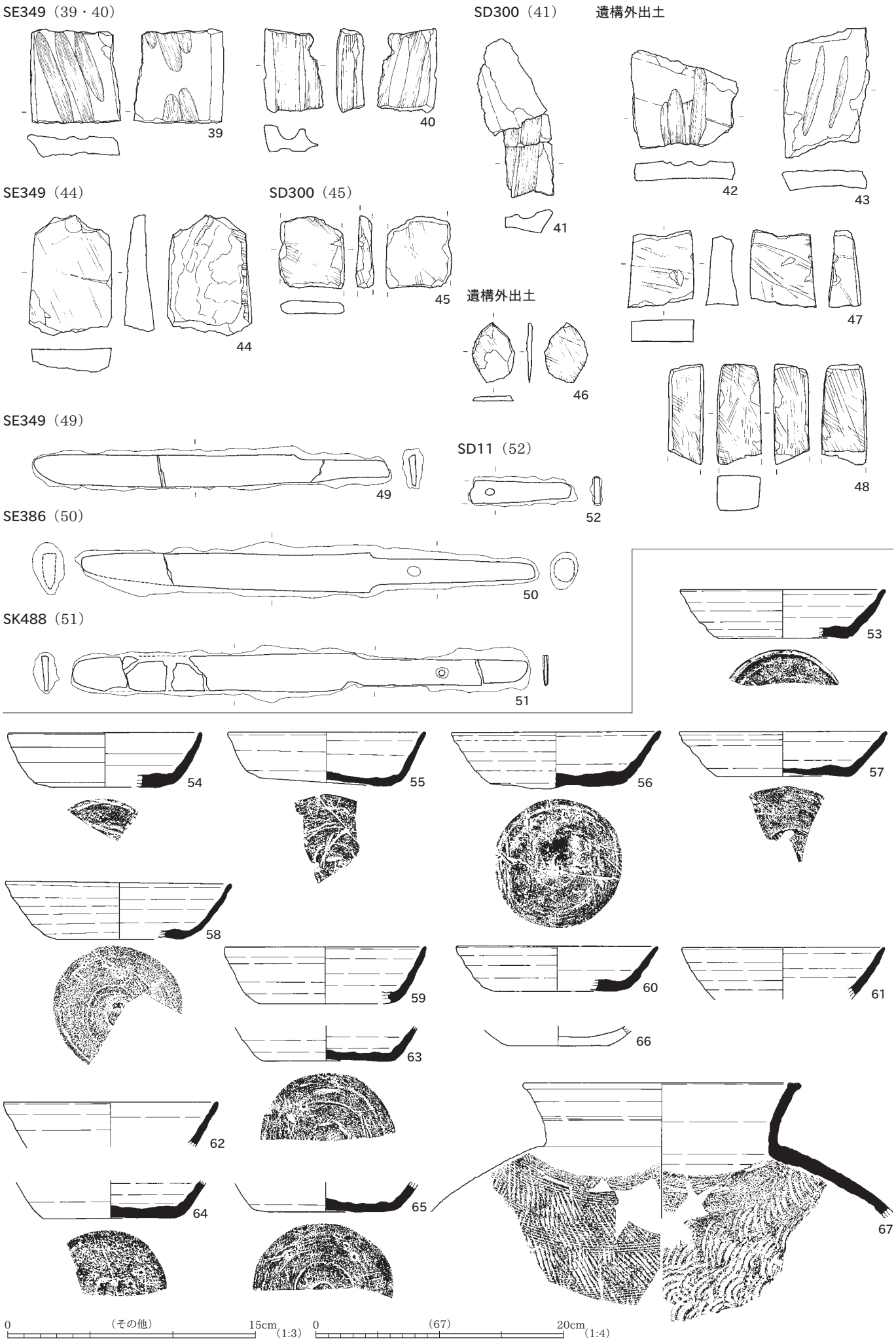
P925



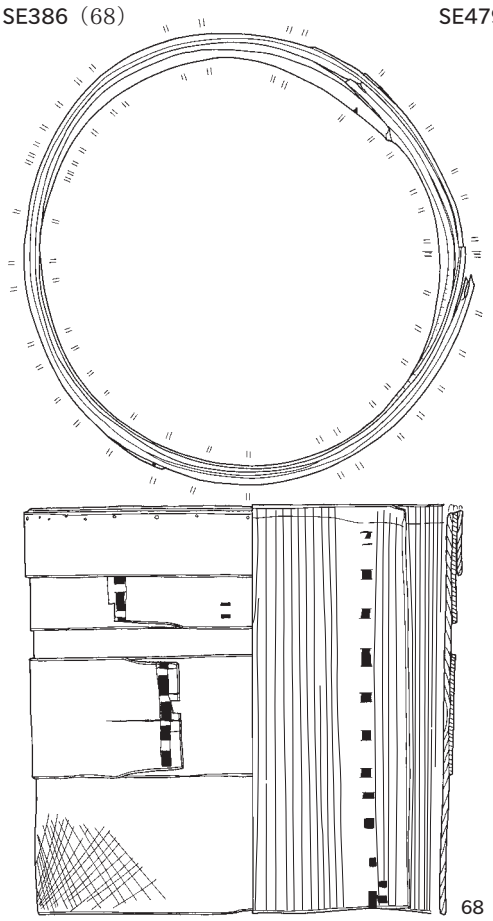
P925
1　浅黄橙色シルト（10YR8/3）
　　炭化物粒を少量含む。

0　その他（1：20）　1m　　0　P848・851・855・878・925（1：40）　2m

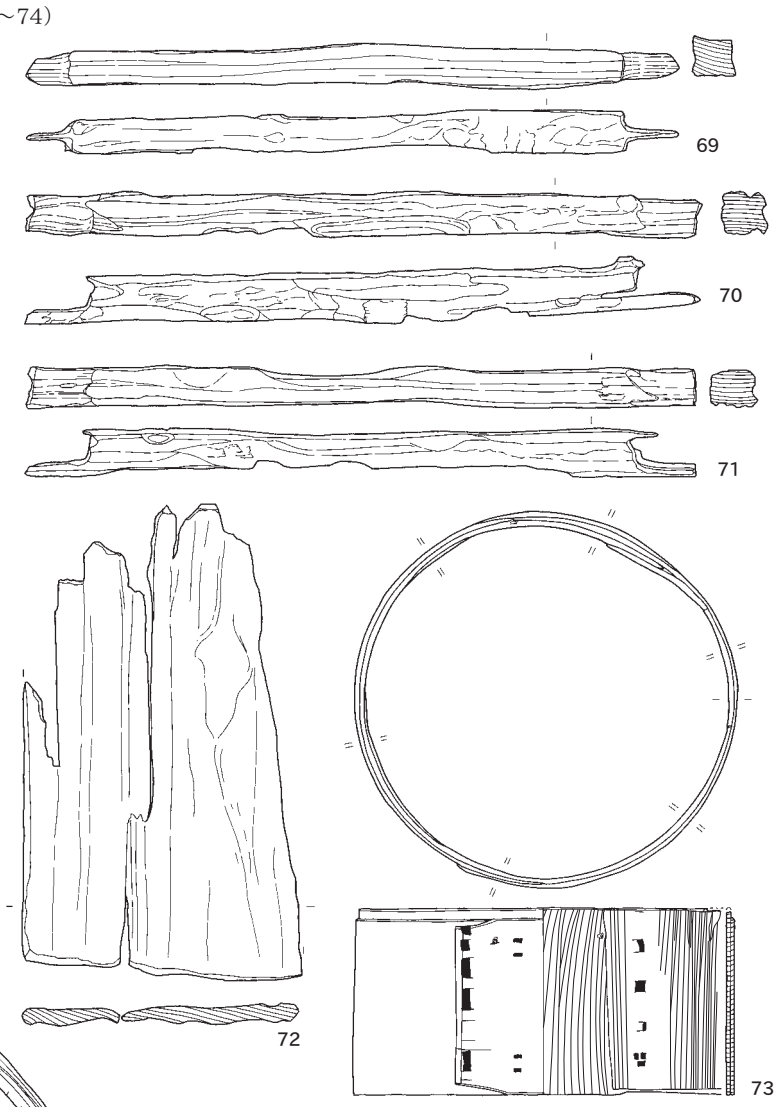

SE349（1～4）
SE386（5～8）
SE479（9～13）
SK343（14）
SK362（15）
タール
SK397（16）
SK445（17）
P450（18）
SD300（19～21）
遺構外出土（22～38）
(1・5～7・14・17・22～27)
15cm
(1:3)
(その他)
20cm
(1:4)

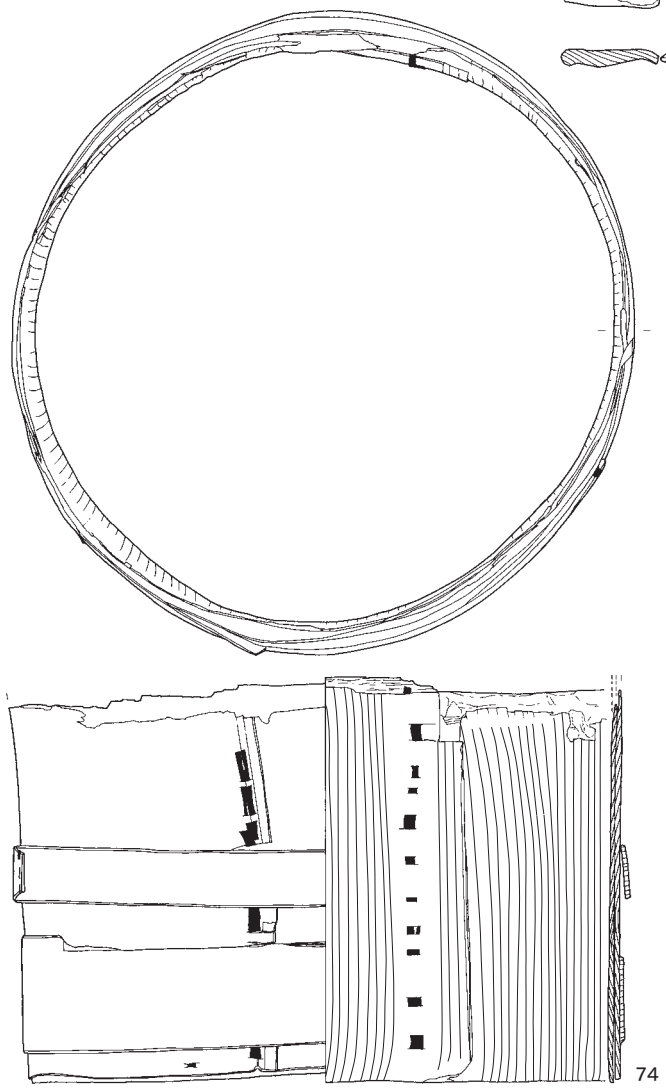

SE349（39・40）
39
40
SD300（41）
遺構外出土
41
42
43
SE349（44）
44
SD300（45）
45
遺構外出土
46
47
48
SE349（49）
49
SD11（52）
52
SE386（50）
50
SK488（51）
51
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
0　（その他）　15cm（1:3）
0　（67）　20cm（1:4）

SE386（68）

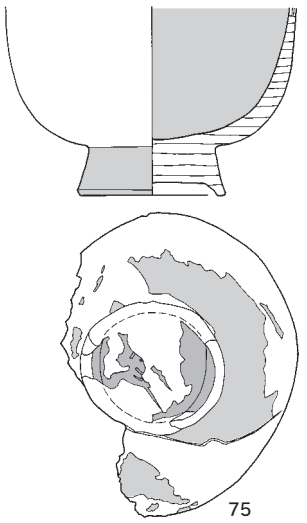


SE479（69～74）





SE520（75）



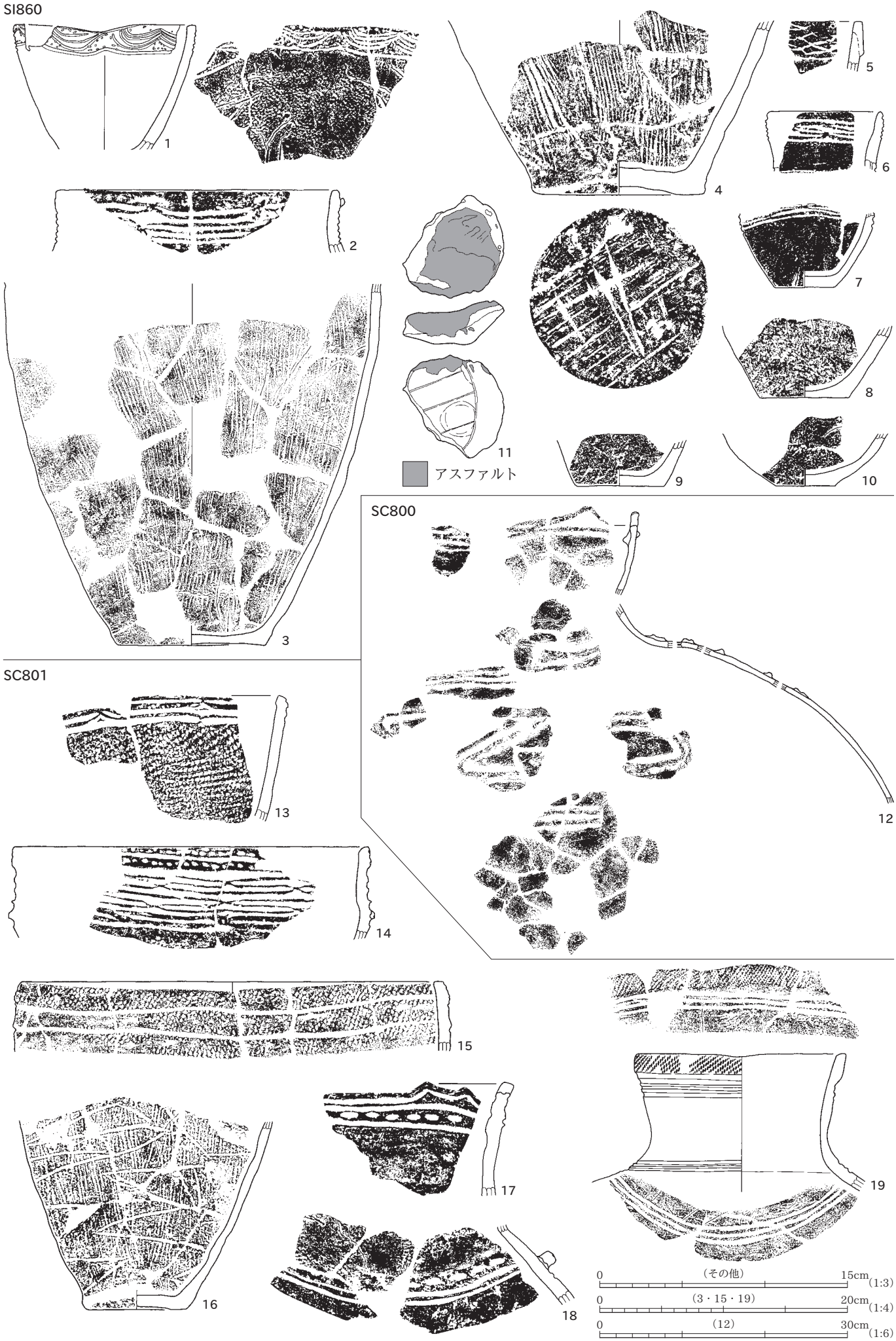
赤色系漆

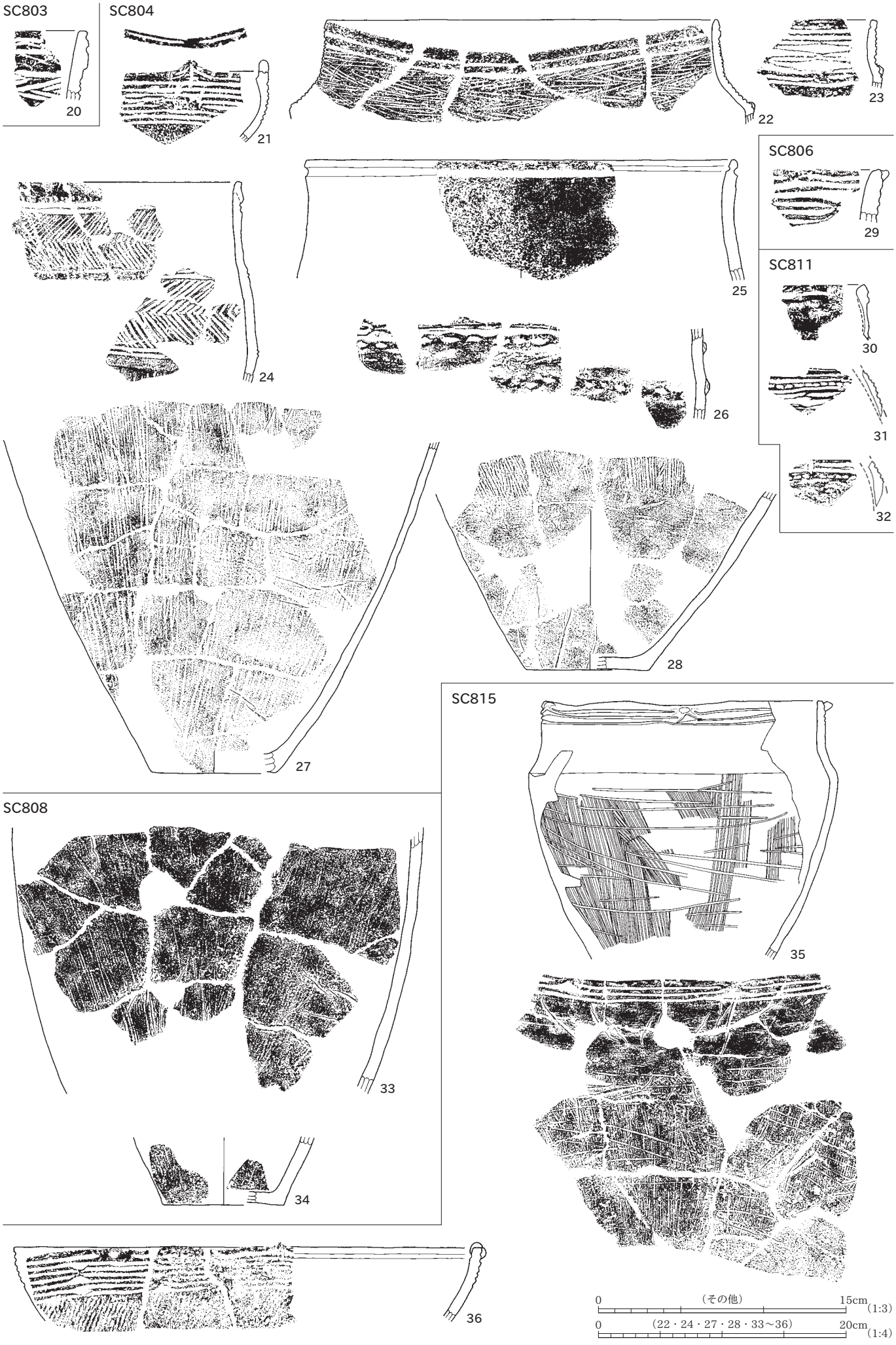
黒色系漆

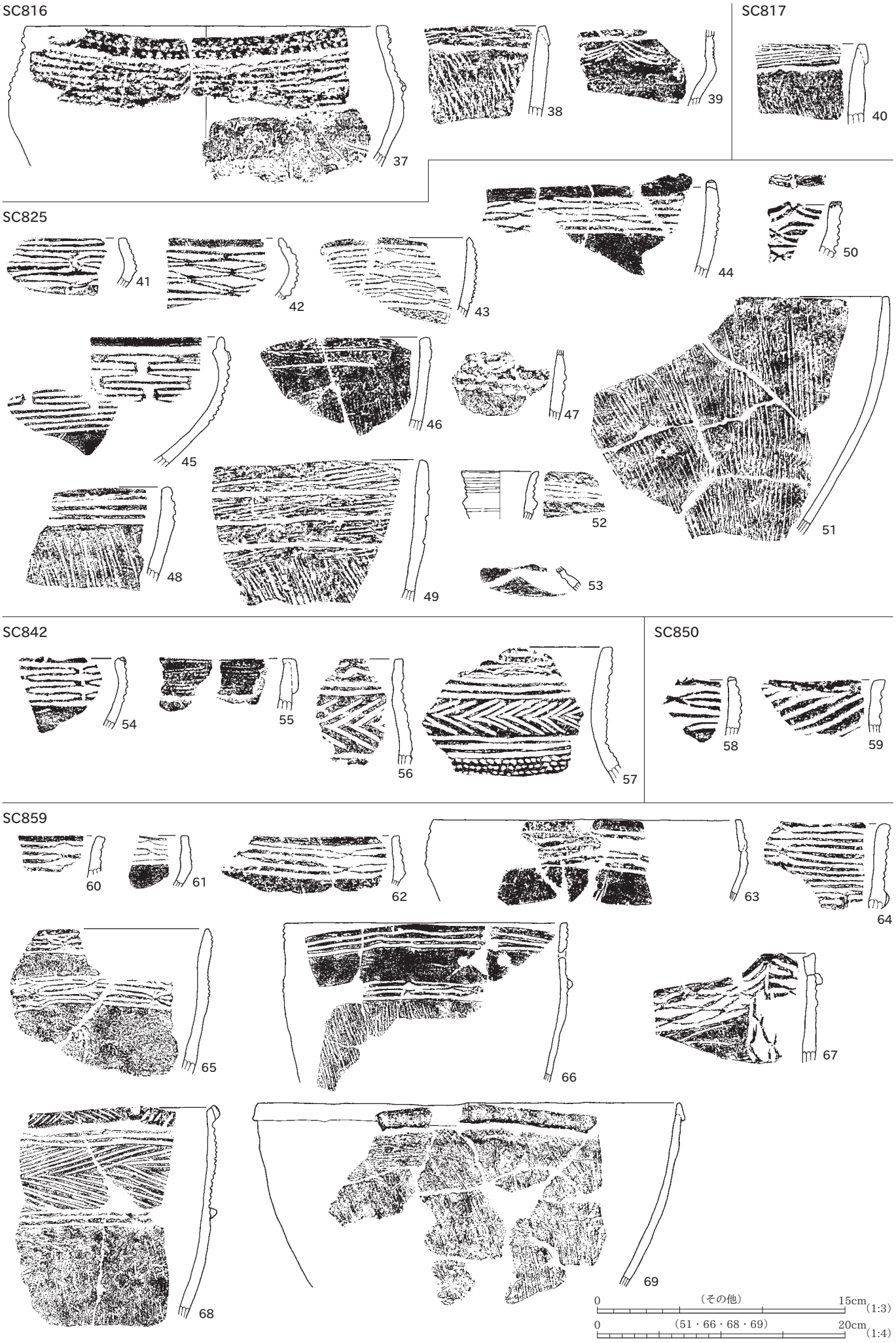
0 (75) 15cm (1:3)

0 (72) 20cm (1:4)

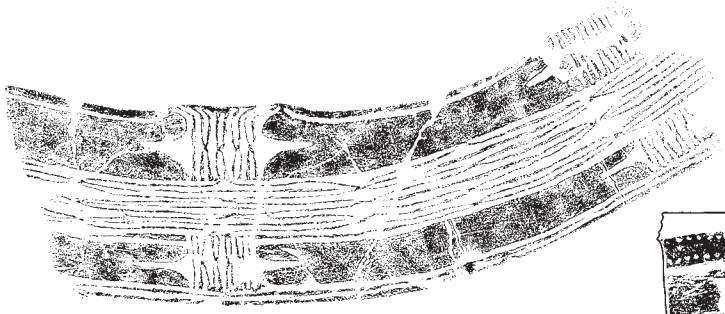
0 (その他) 50cm (1:10)

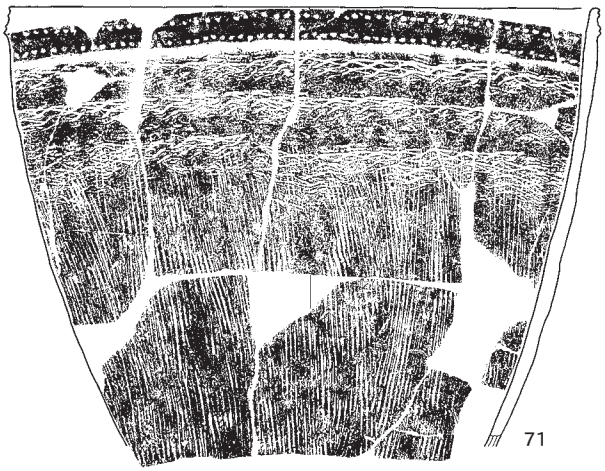

SI860
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
アスファルト
SC800
12
SC801
13
14
15
16
17
18
19
0 （その他） 15cm (1:3)
0 （3・15・19） 20cm (1:4)
0 （12） 30cm (1:6)


SC803
20
SC804
21
22
23
SC806
29
SC811
30
31
32
24
25
26
27
28
SC815
35
SC808
33
34
36
0 （その他） 15cm (1:3)
0 （22・24・27・28・33～36） 20cm (1:4)


SC816
SC817
SC825
SC842
SC850
SC859
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
0
（その他）
15cm
(1:3)
0
（51・66・68・69）
20cm
(1:4)

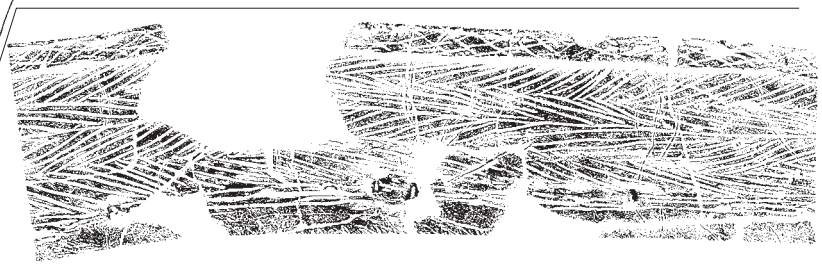
SC859





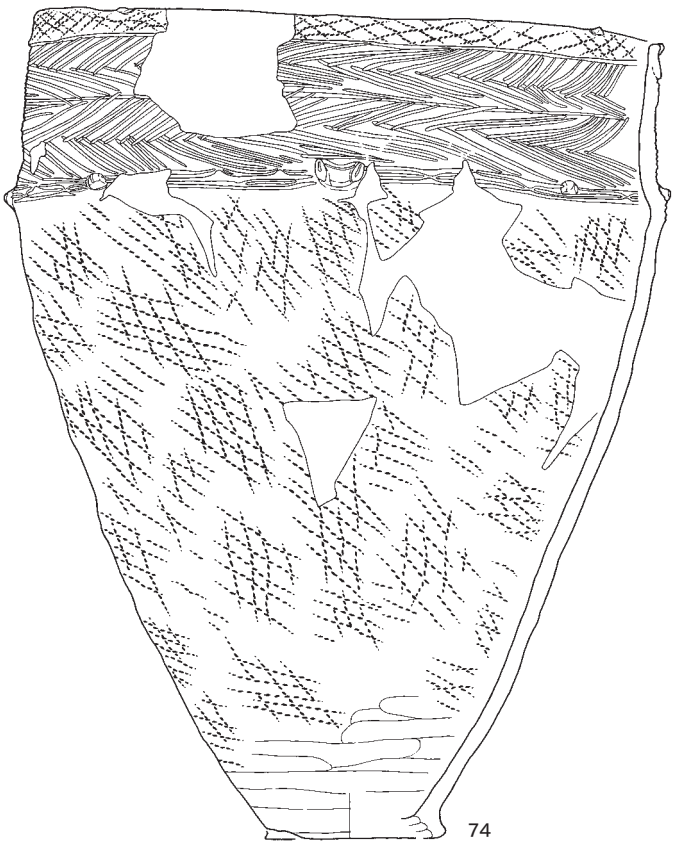
71

70

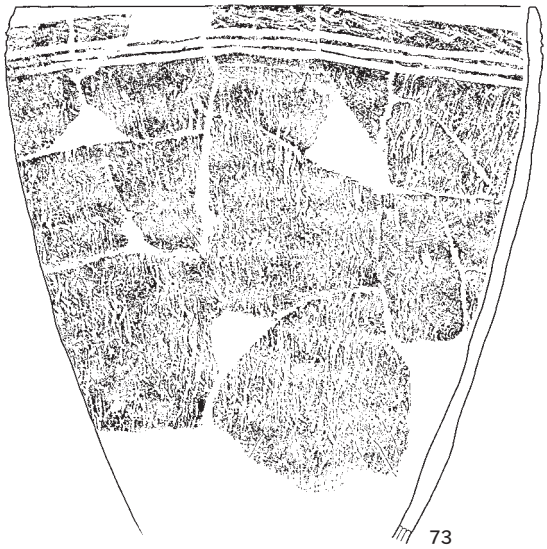


SC879

72



74



73

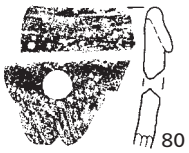
0　(72)　15cm (1:3)

0　(70・71・74)　20cm (1:5)

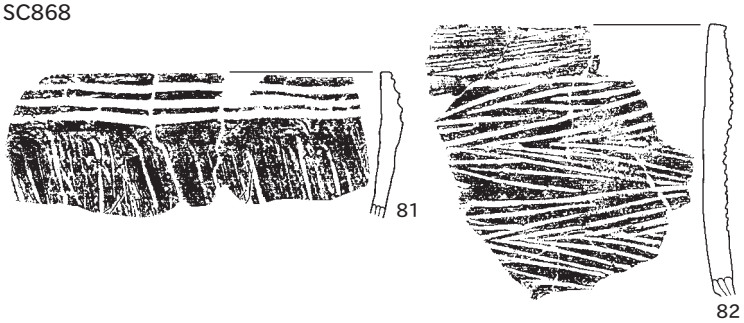
0　(73)　20cm (1:4)

SC861

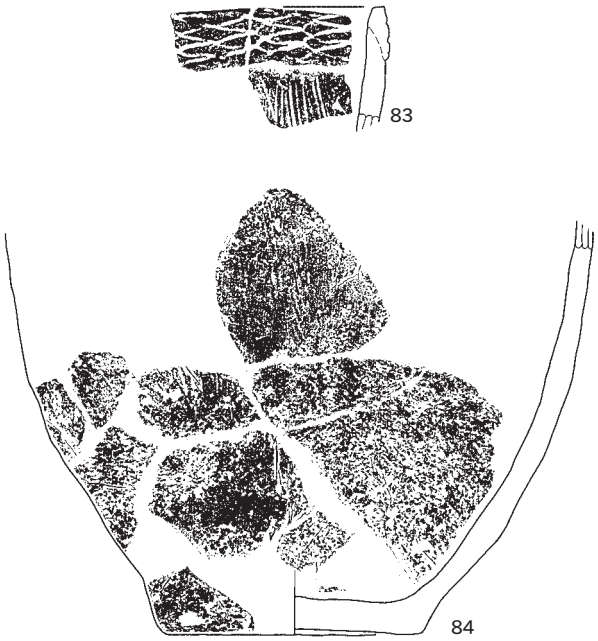
SC866



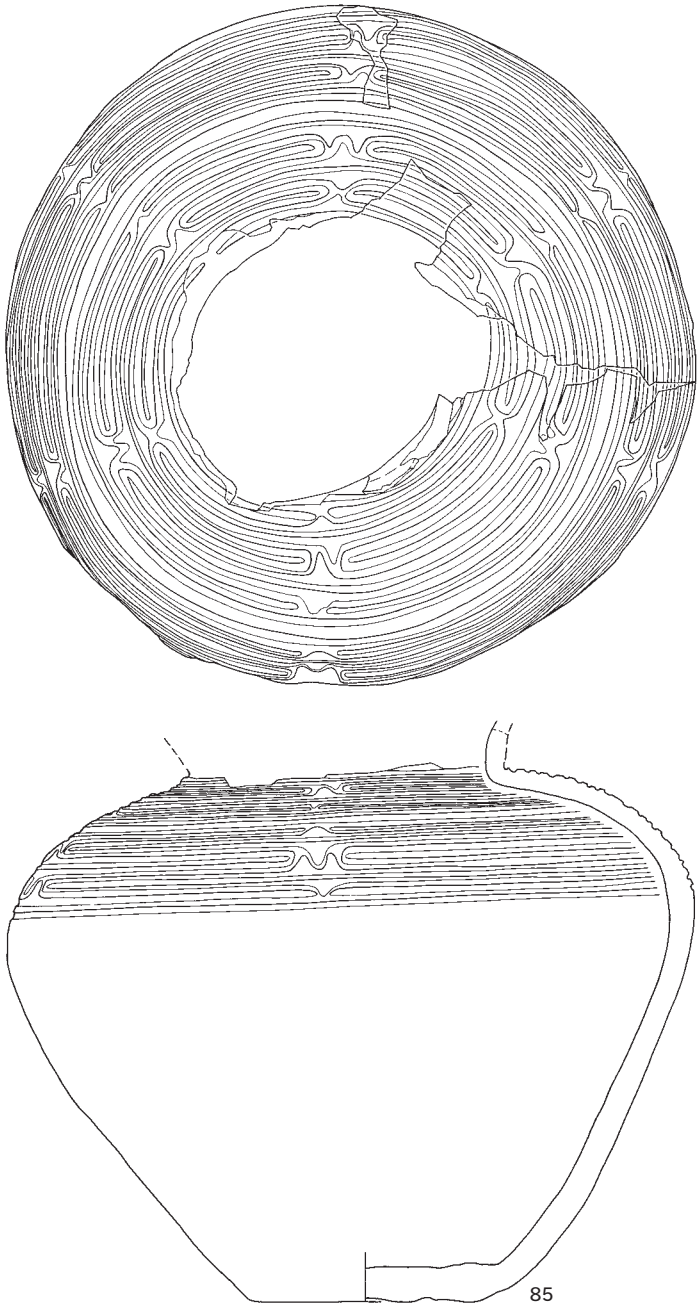
SC868



SC914



埋設土器1

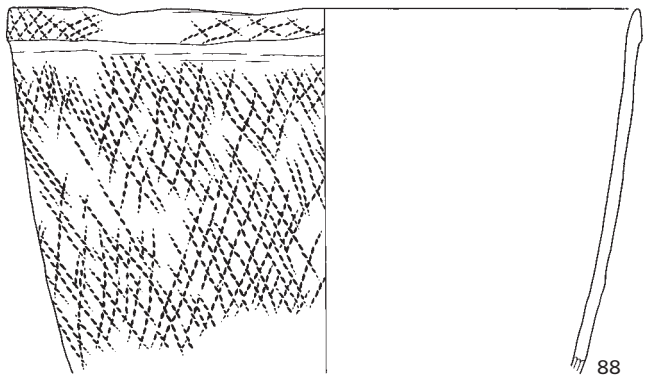


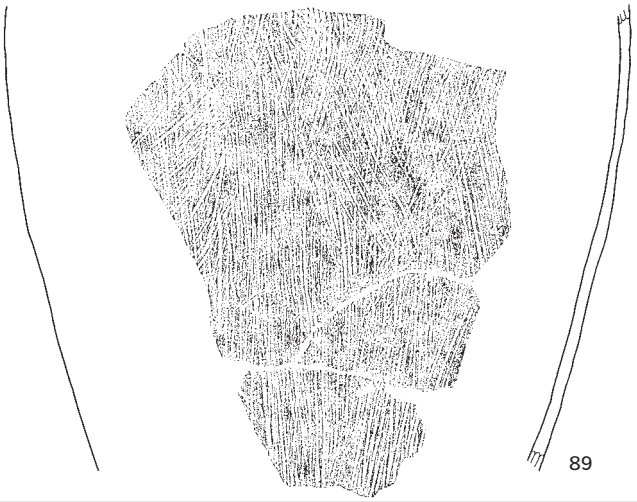
埋設土器824

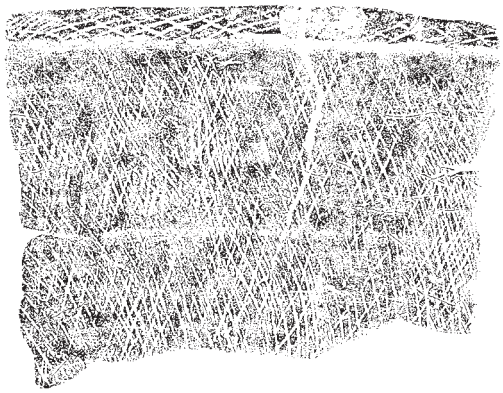
0　（その他）　15cm（1:3）

0　（85・87）　20cm（1:4）

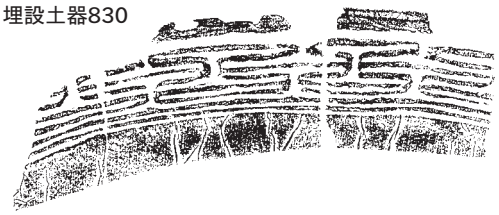
埋設土器824

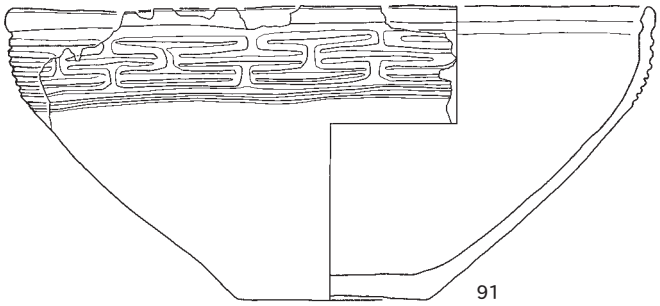


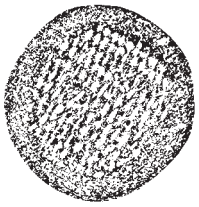




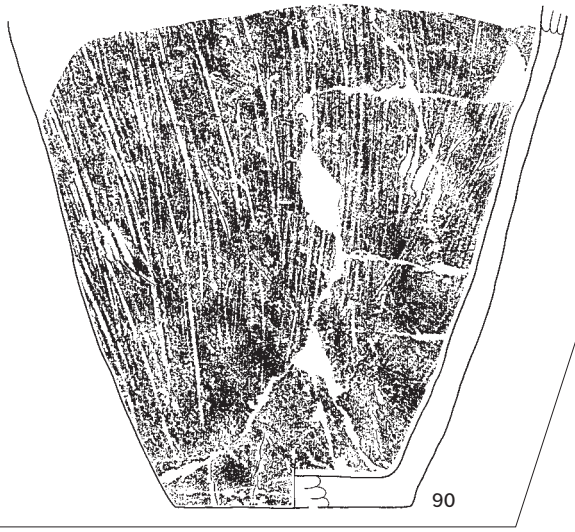
埋設土器830



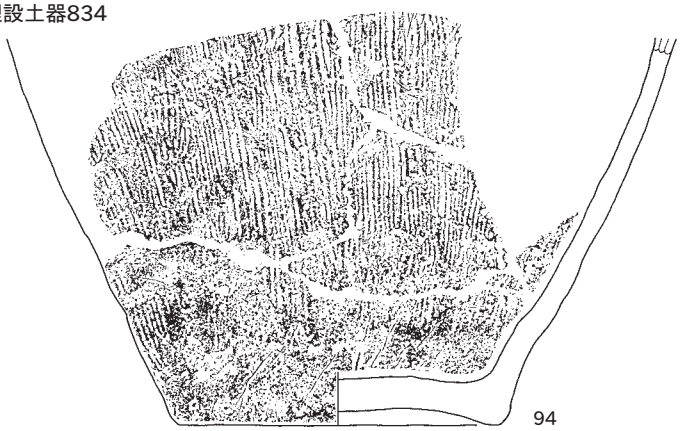


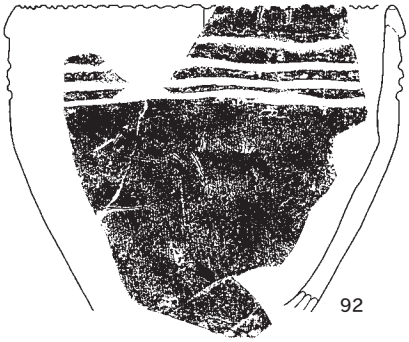


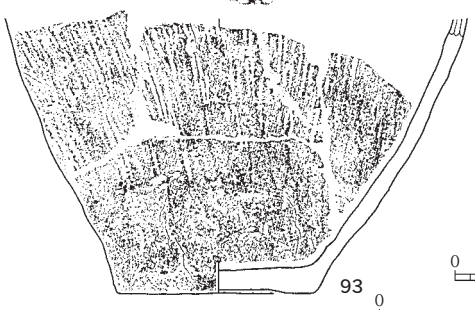
埋設土器828



埋設土器834



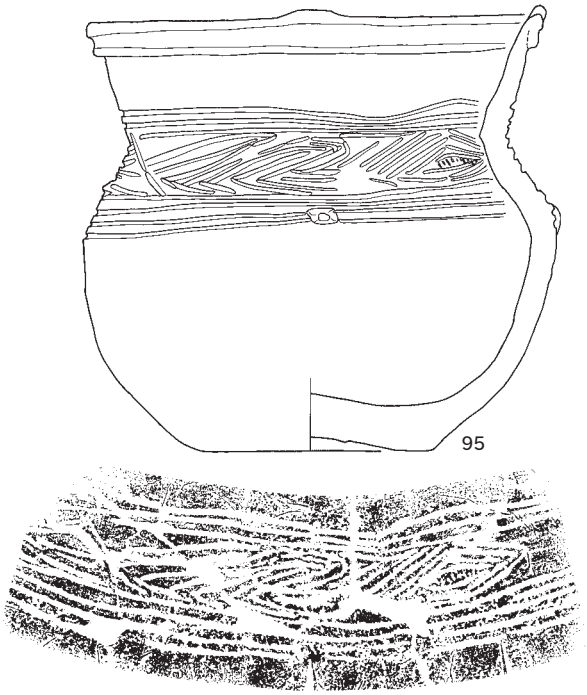




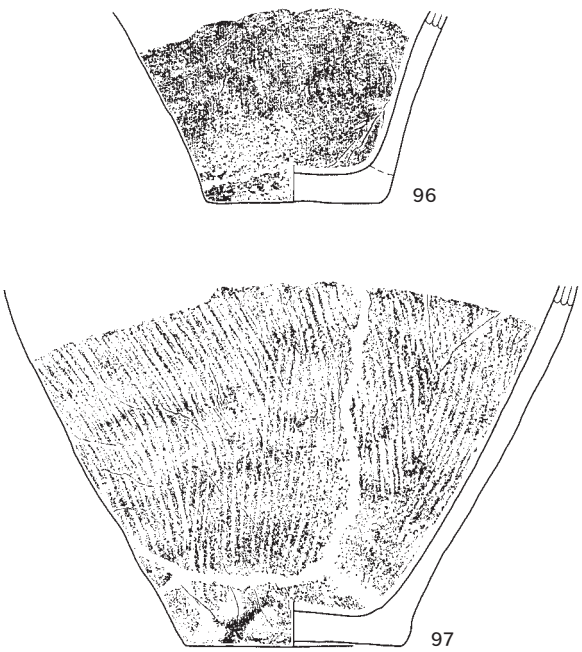
0　（88・89）　20cm（1:5）

0　（その他）　15cm（1:3）

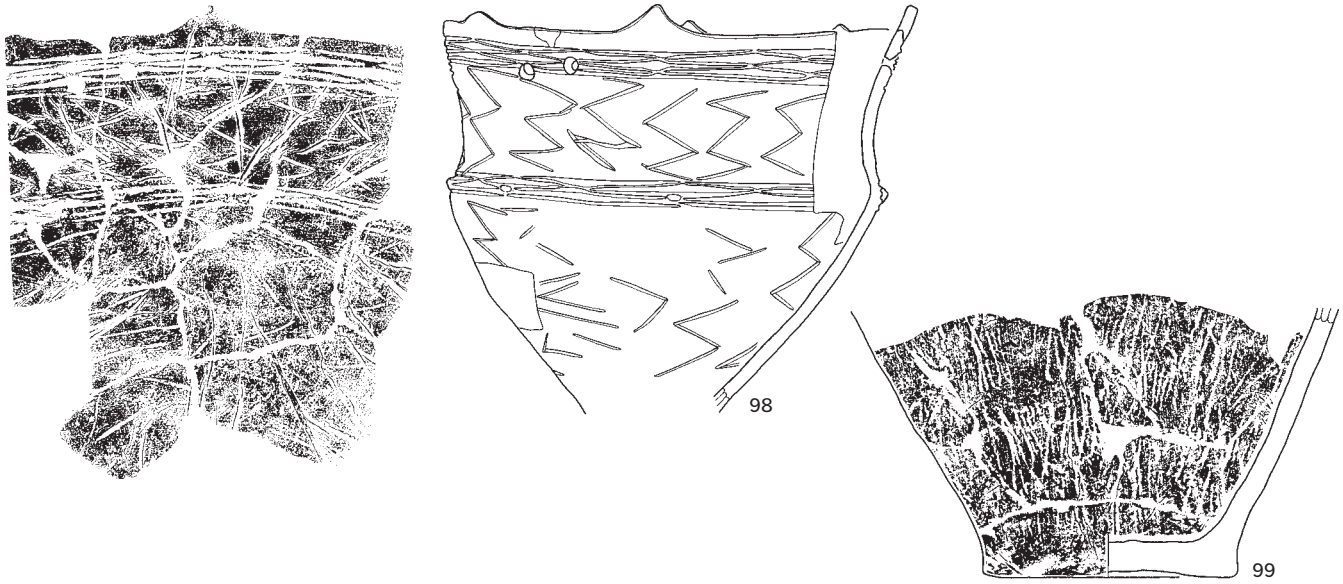
埋設土器837



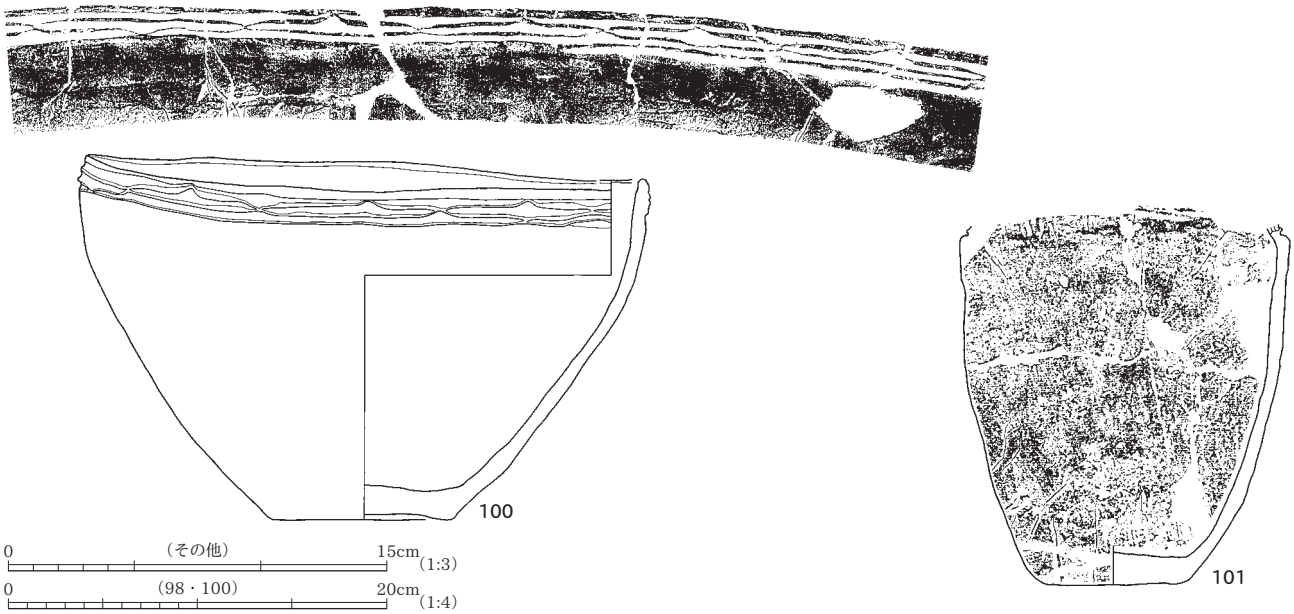
埋設土器883



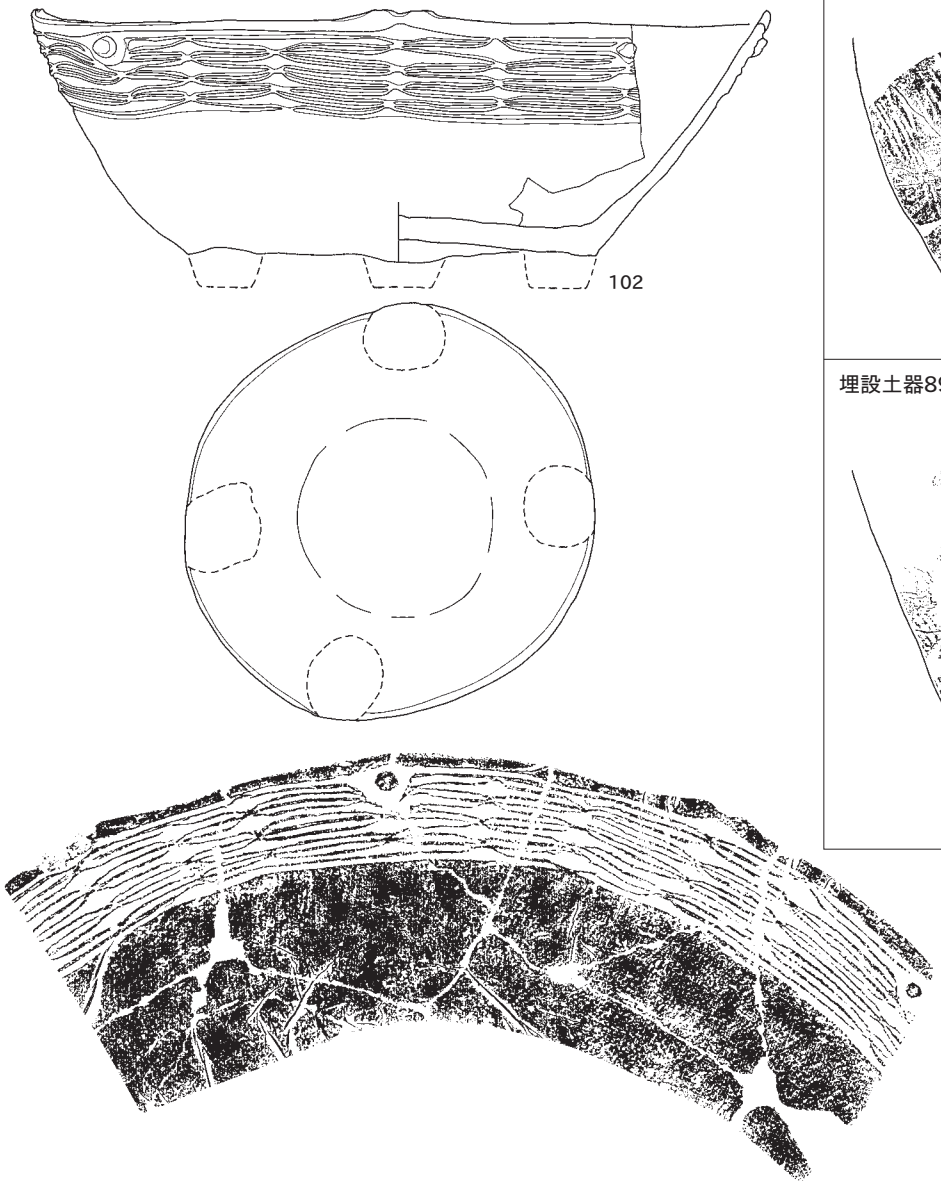
埋設土器839



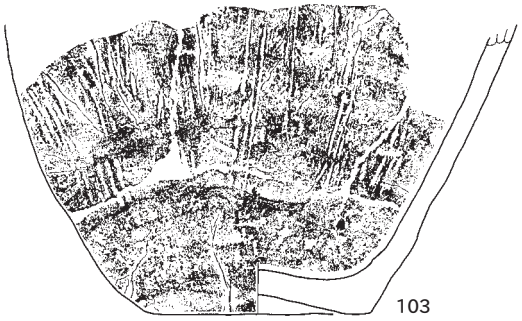
埋設土器840



埋設土器887



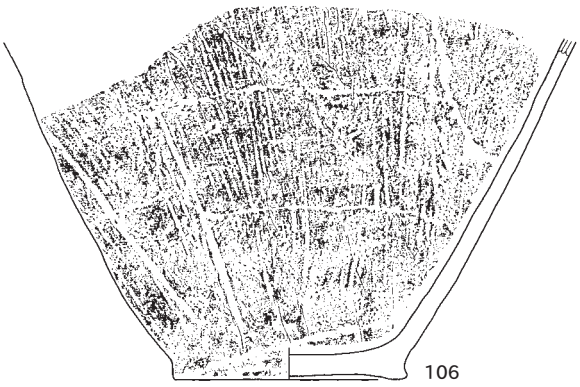
埋設土器894



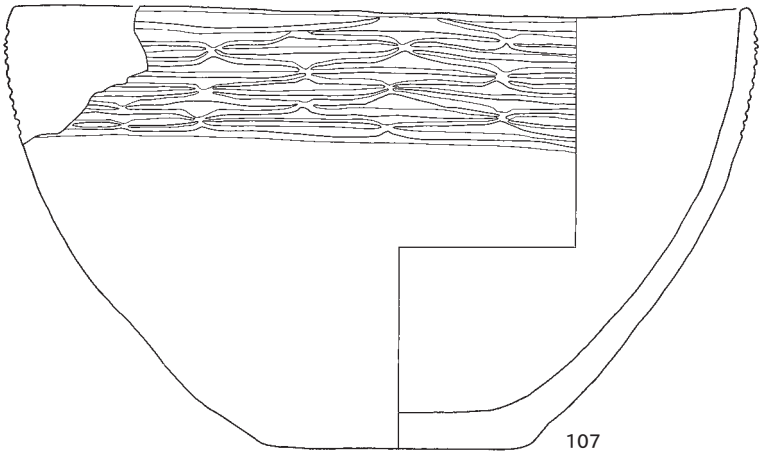
埋設土器898

埋設土器903

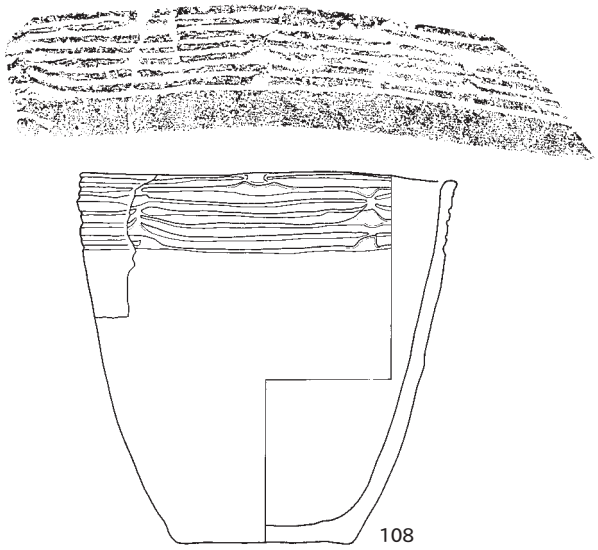
埋設土器908

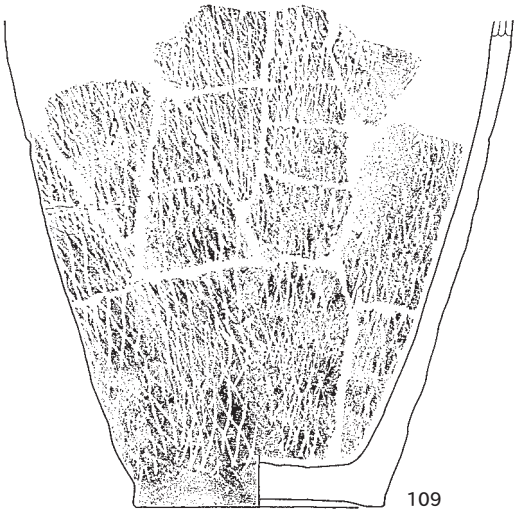


埋設土器924

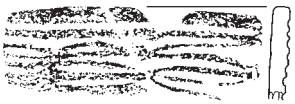


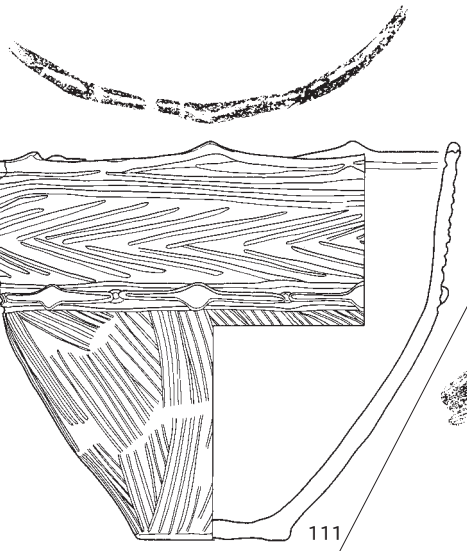
埋設土器928



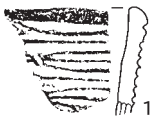


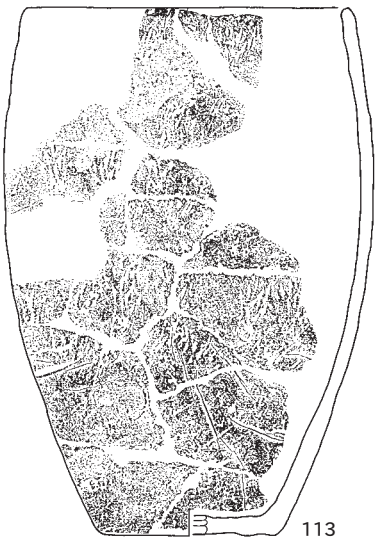
埋設土器933

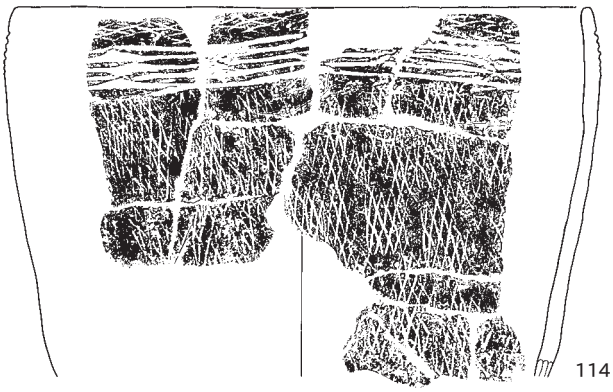




土器集中1

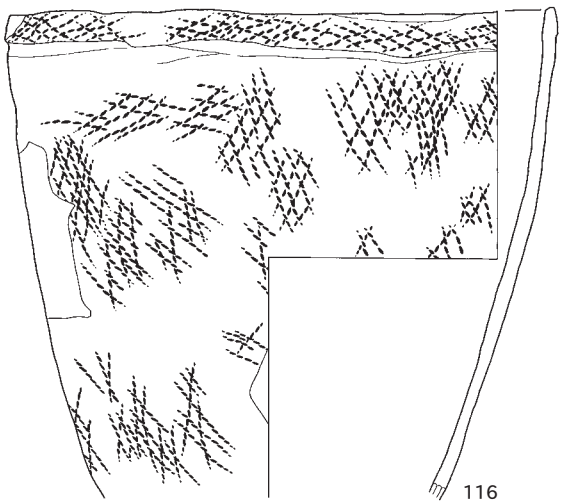




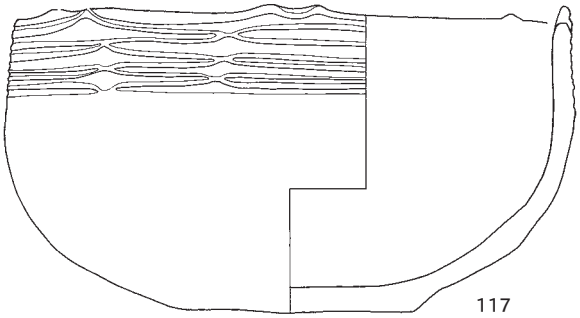


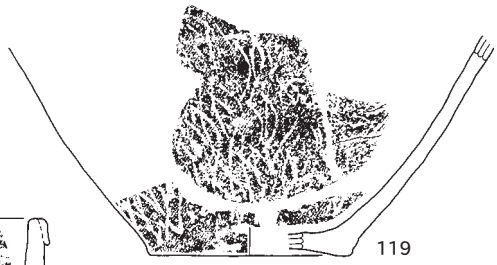
0　（その他）　15cm（1:3）
0　（113・114）　20cm（1:4）
0　（115）　20cm（1:5）

土器集中2

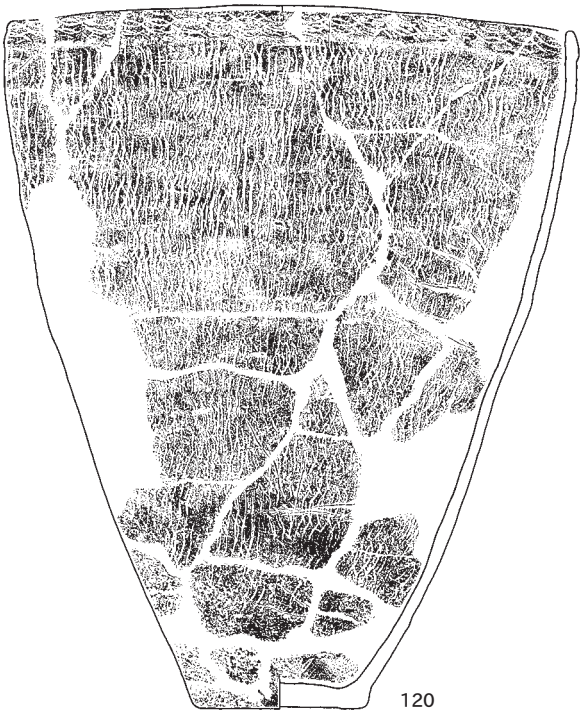


土器集中3





土器集中820

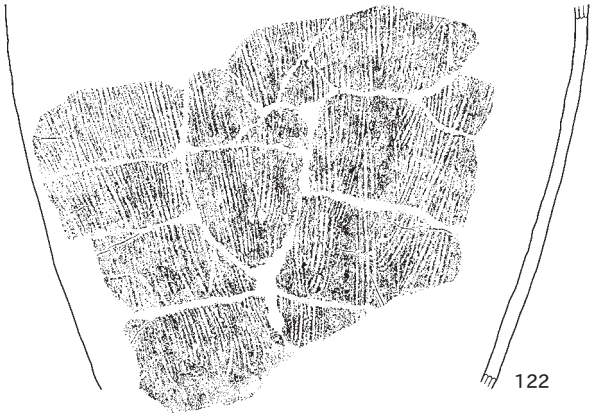


0　（116・120・122）　20cm（1:5）

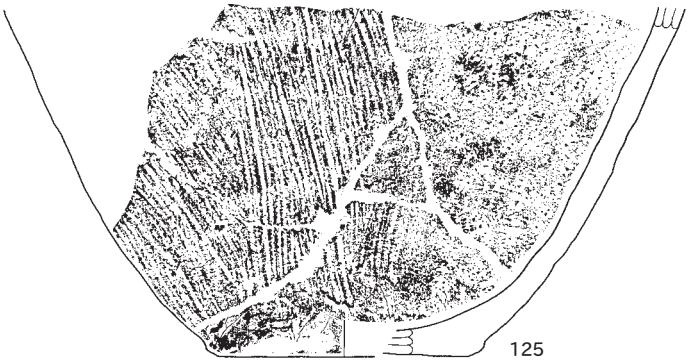
0　（その他）　15cm（1:3）

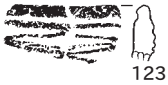
土器集中822

土器集中836

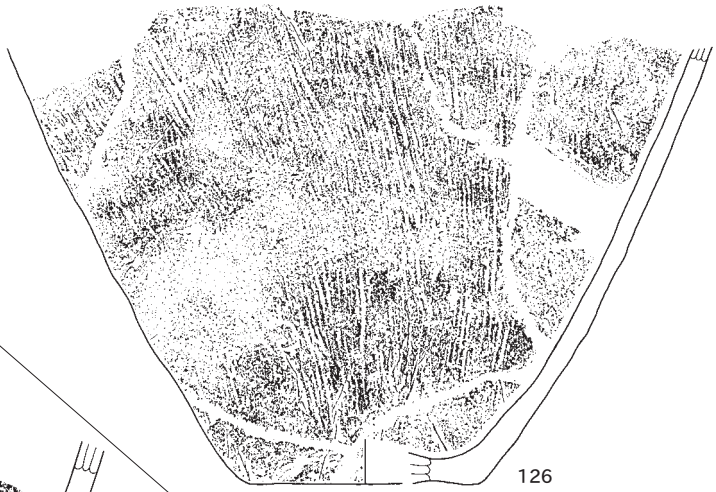


土器集中835



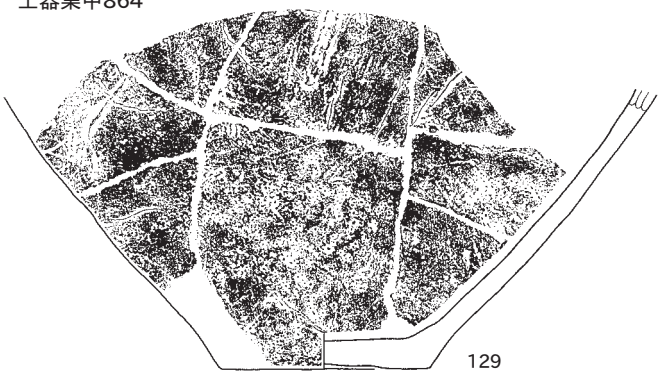


土器集中838

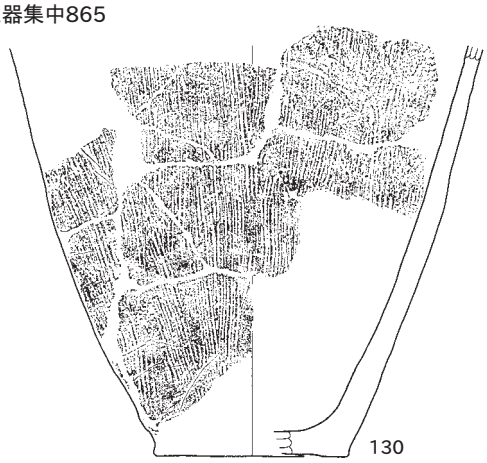


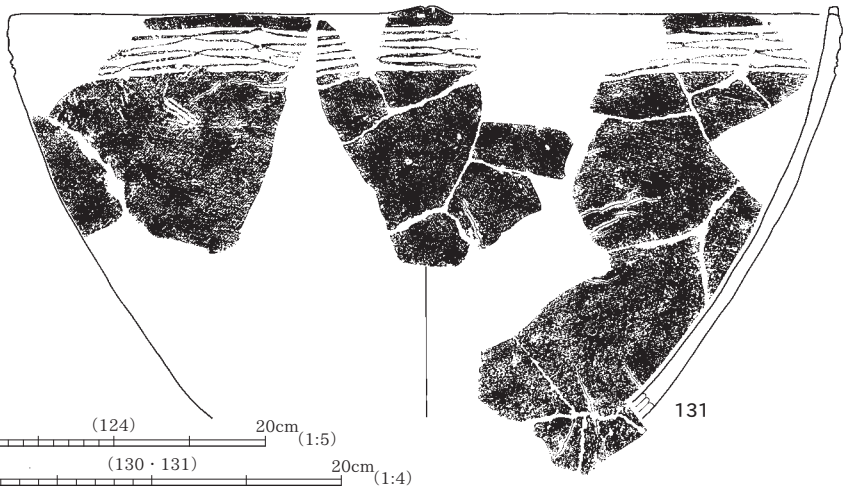
土器集中852

土器集中864



土器集中865



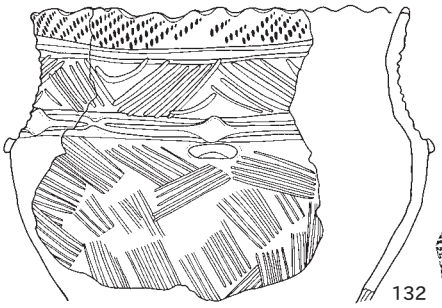


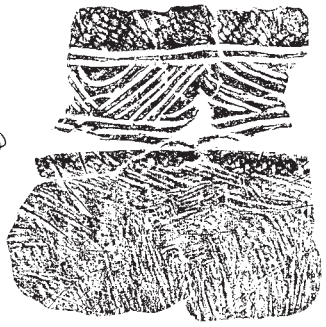
0　（その他）　15cm（1:3）

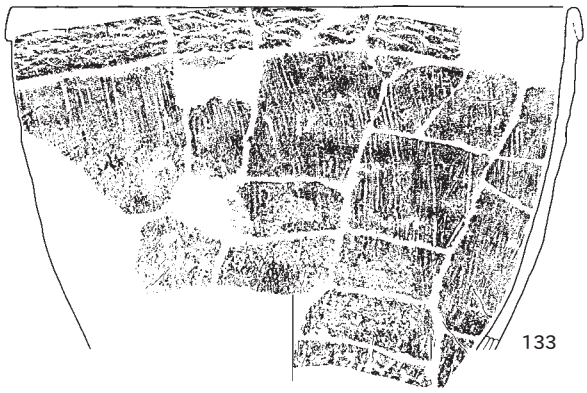
0　（124）　20cm（1:5）

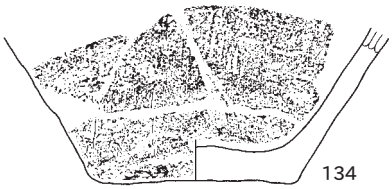
0　（130・131）　20cm（1:4）

土器集中881


132




133

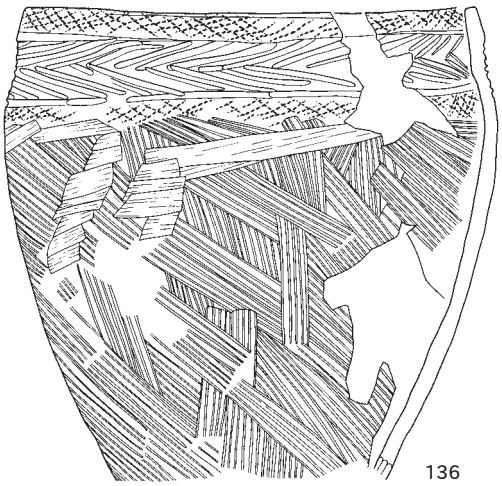

134

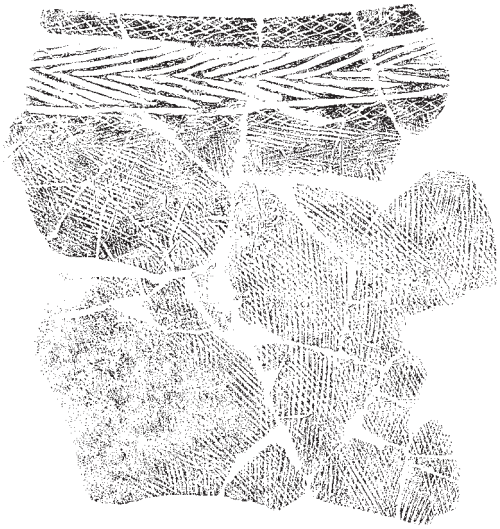
135

土器集中888

137

土器集中886


136

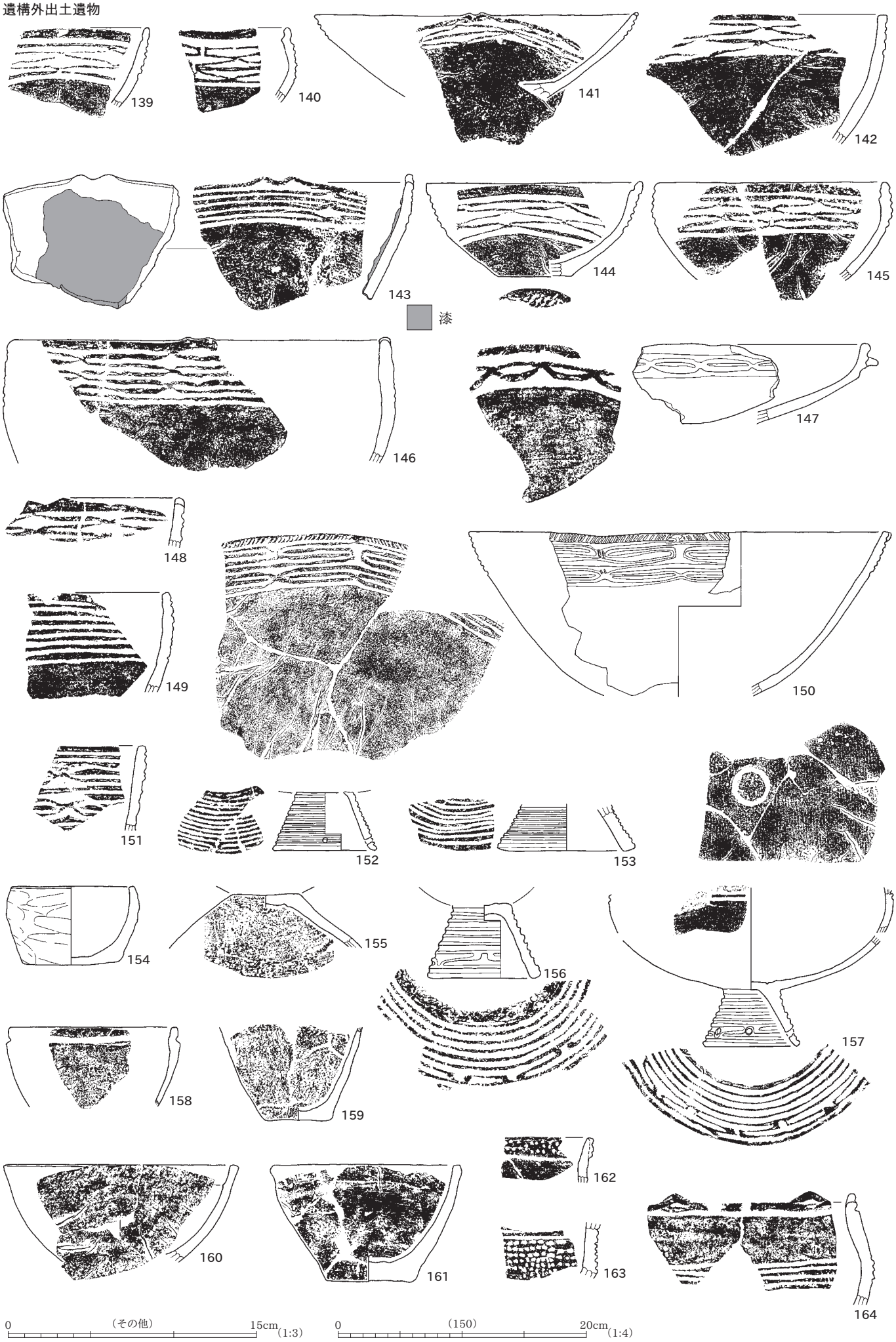


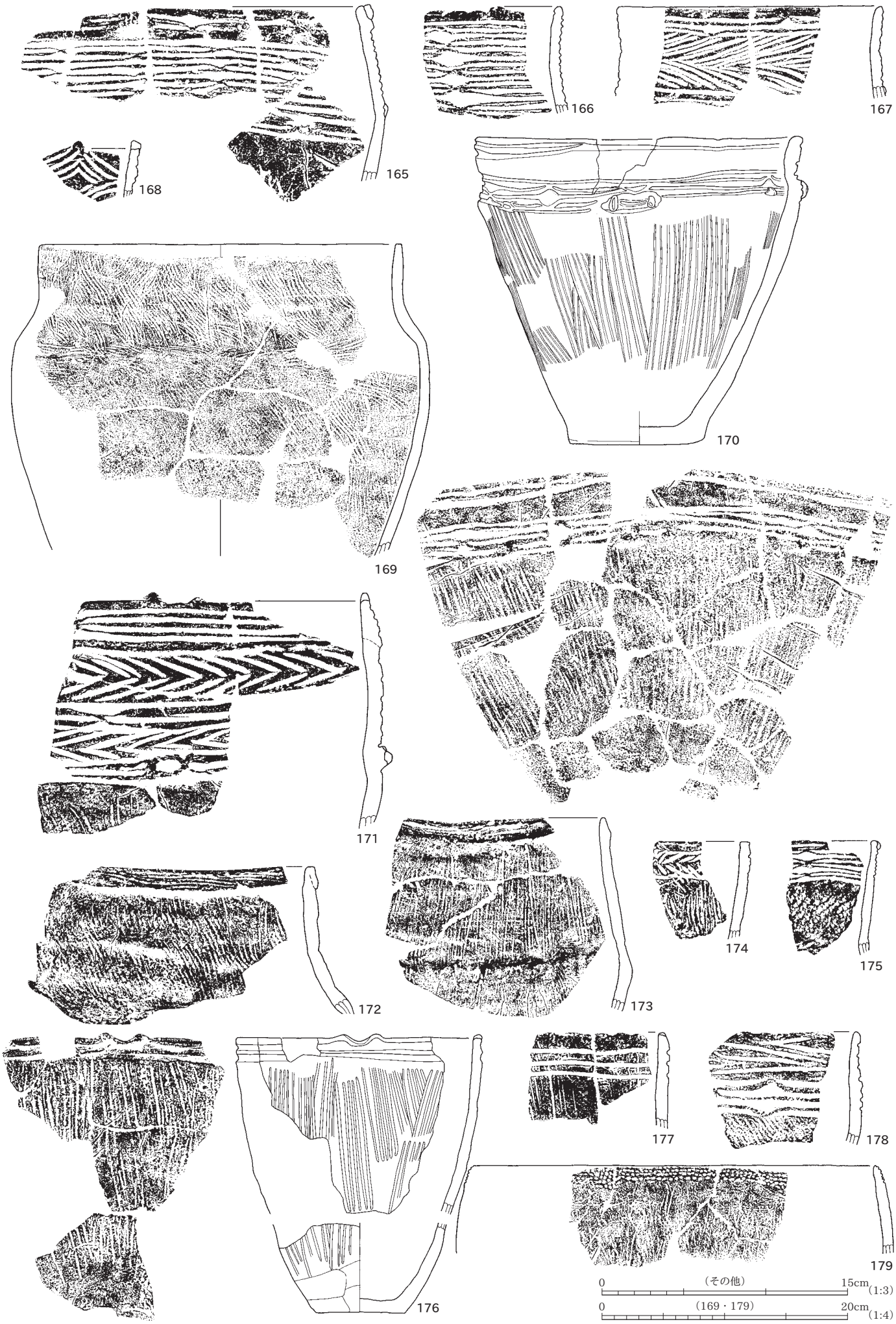
土器集中932

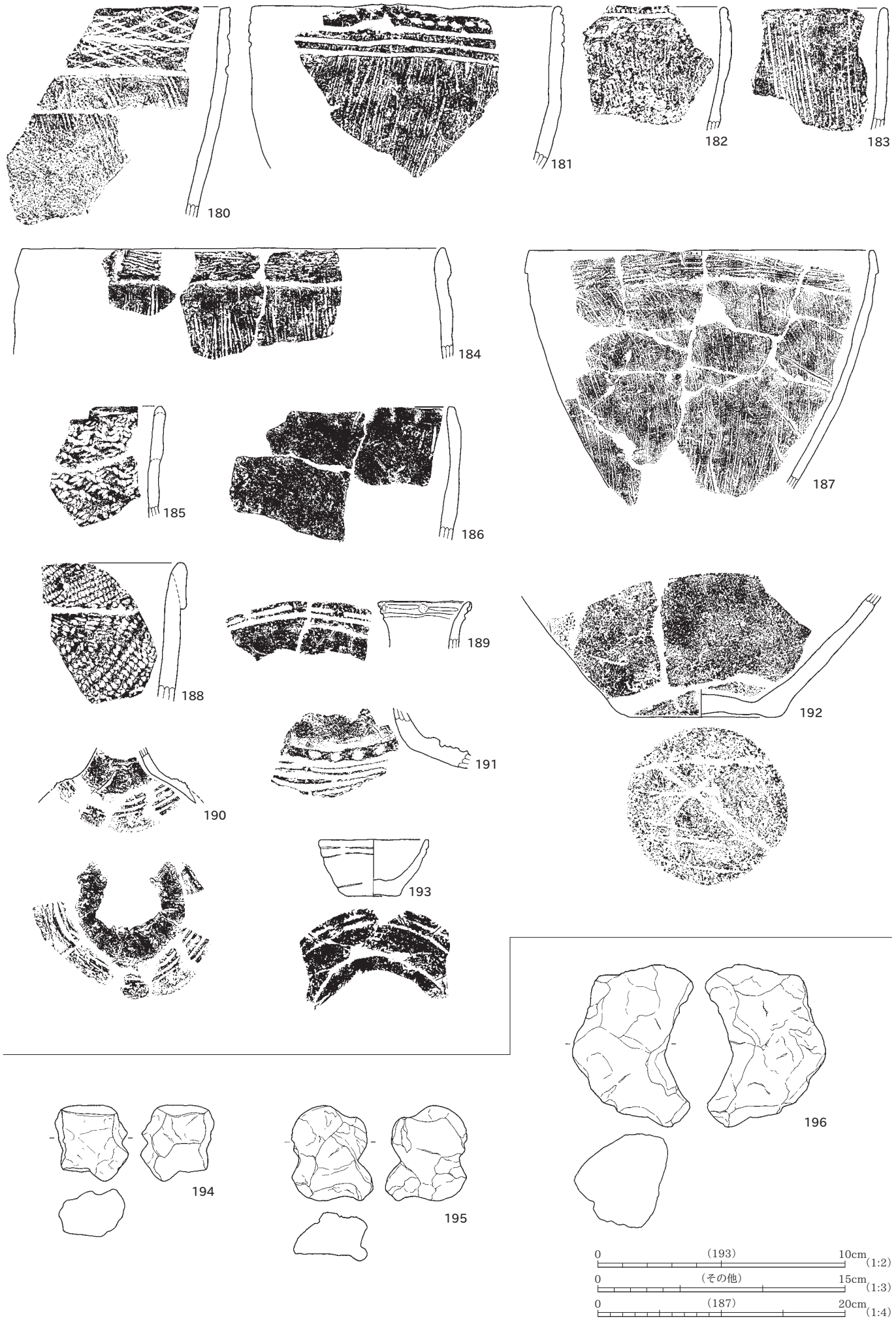
138

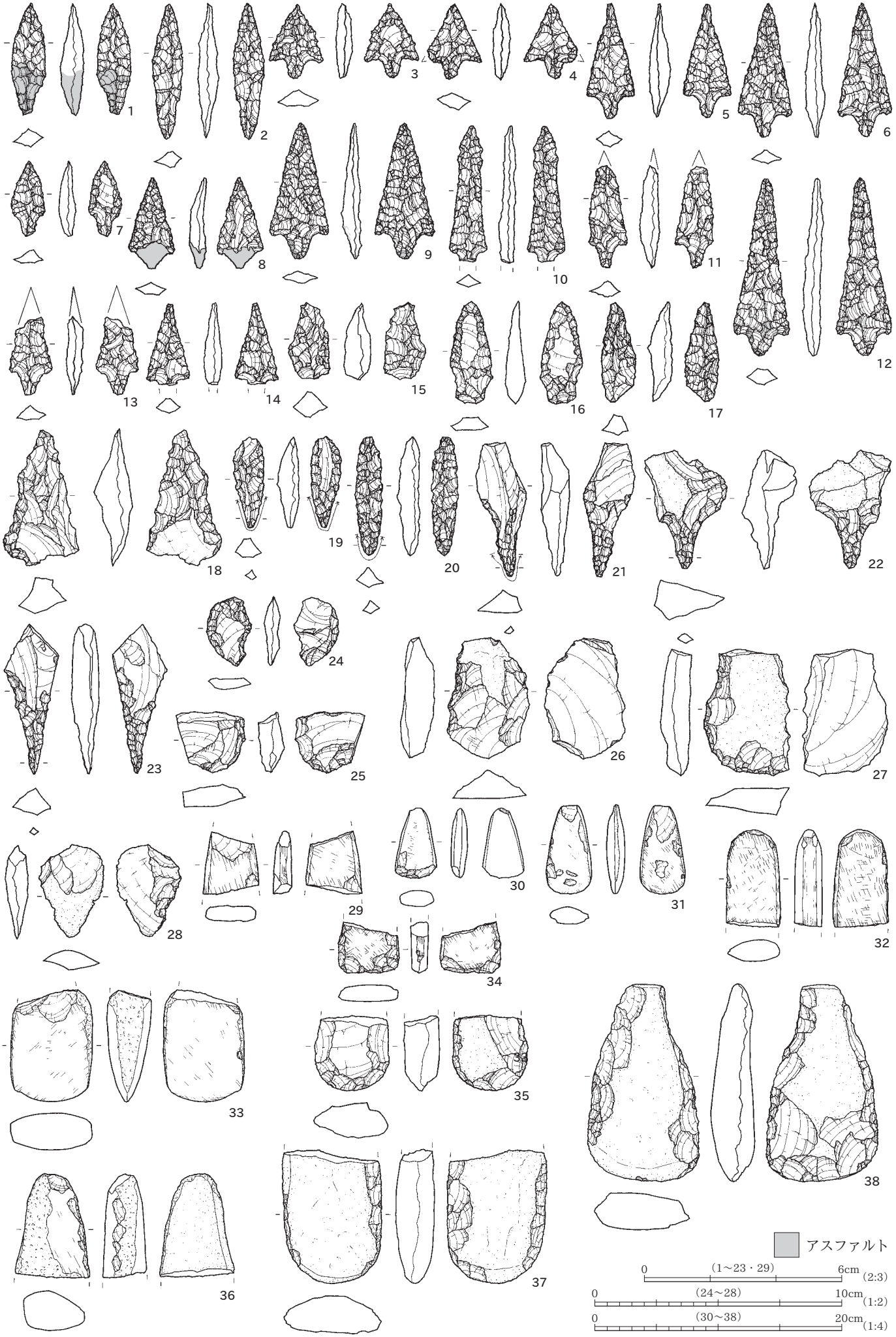
0　（その他）　15cm（1:3）
0　（133・137）　20cm（1:4）
0　（136・138）　20cm（1:5）

遺構外出土遺物

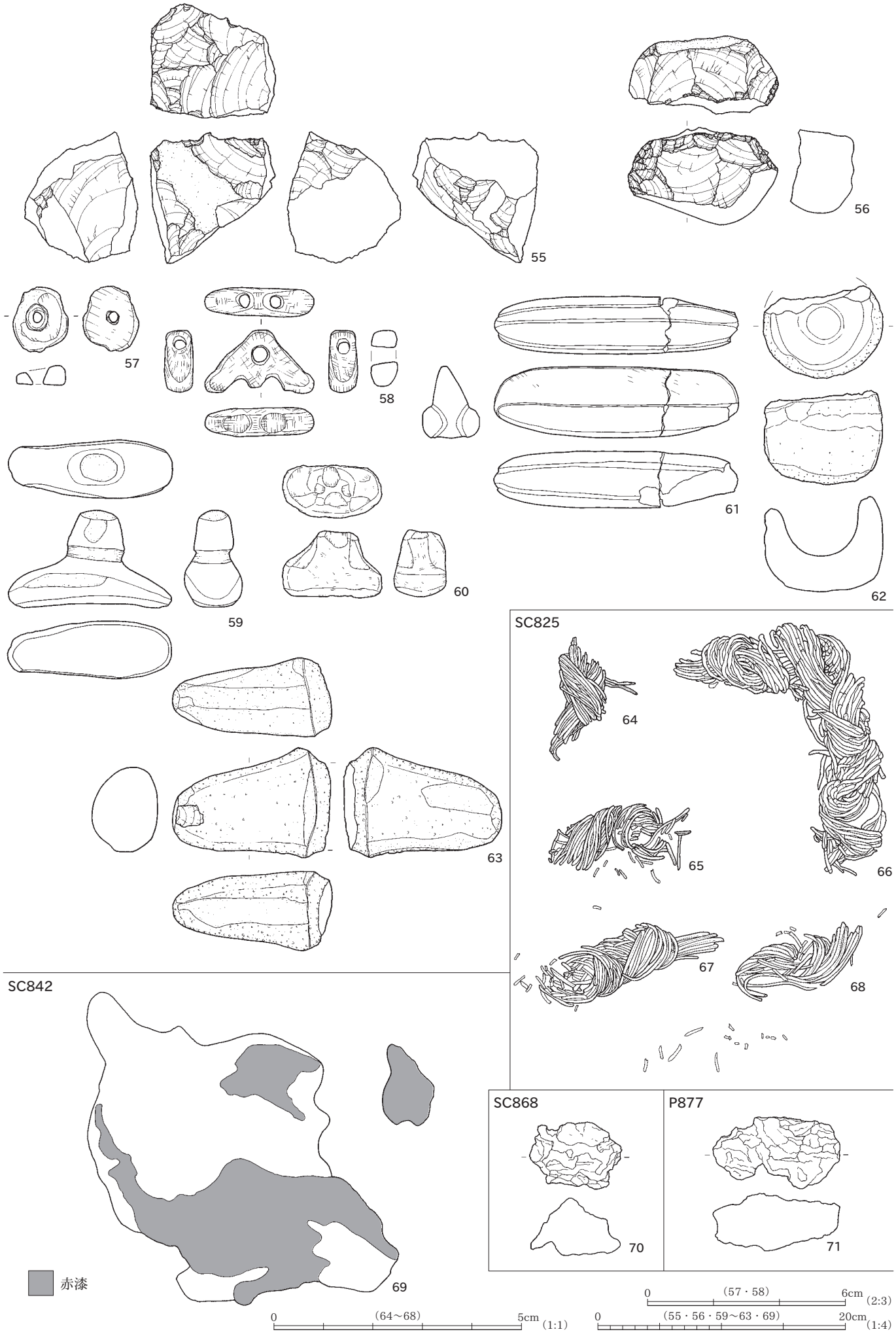

139
140
141
142
143
144
145
漆
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
0
（その他）
15cm
(1:3)
0
（150）
20cm
(1:4)


165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
0
（その他）
15cm
(1:3)
0
（169・179）
20cm
(1:4)


180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
0 (193) 10cm (1:2)
0 (その他) 15cm (1:3)
0 (187) 20cm (1:4)


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
アスファルト
0 (1～23・29) 6cm (2:3)
0 (24～28) 10cm (1:2)
0 (30～38) 20cm (1:4)

39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
赤色顔料
磨痕
0
20cm
(1:4)


55
56
57
58
59
60
61
62
63
SC825
64
65
66
67
68
SC842
69
赤漆
SC868
70
P877
71
0 (57・58) 6cm (2:3)
0 (64～68) 5cm (1:1)
0 (55・56・59～63・69) 20cm (1:4)

遺跡近景・上層（北西から）　林の奥は境塚遺跡

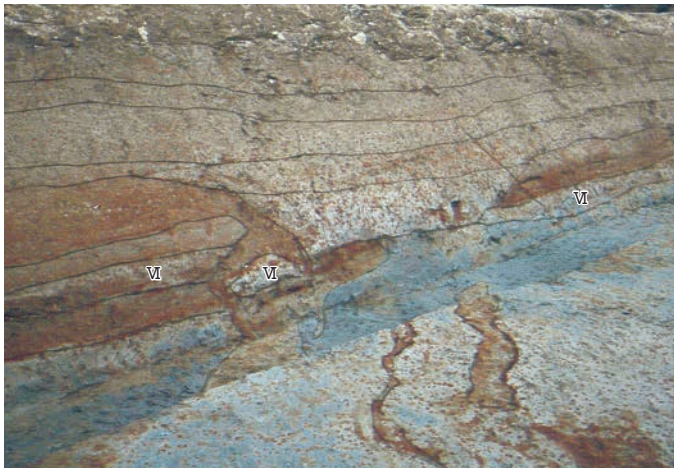
遺跡近景・下層（南西から）

調査区全景・下層

基本層序（18P）

噴砂 1（16O）

噴砂 2（19P）



噴砂口（18O）

陥没 1（19O）

Ⅵ層の陥没（19S）

SC863（18S　西から）

埋設土器 883（13M　北東から）

SI860　遺物出土状況（南西から）

SC825　遺物出土状況（南から）

SC842　遺物出土状況（西から）

SC842　焼土セクション（西から）

SC859　遺物出土状況（北から）

SC859　石冠出土状況（北東から）

埋設土器１　出土状況（北西から）

埋設土器 824　出土状況（南から）

下層出土 縄文土器

SC825（64～68）

64

65

66

67

68

SC868（70）

70

P877（71）

71

SC842（69）

69

下層出土石器（石冠）・糸玉・漆製品・アスファルト

SB7・9、SE386・398・479　完掘（西から）

SB8　完掘（西から）

SB6　完掘（北から）

SB7-P381　セクション（西から）

SE308　完掘（南から）

SE349　セクション（南東から）

SE386　セクション（南から）

SE386　曲物出土状況（南から）

SE396　セクション（東から）

SE398（右）・P411（中）・SK412（左）　セクション（東から）

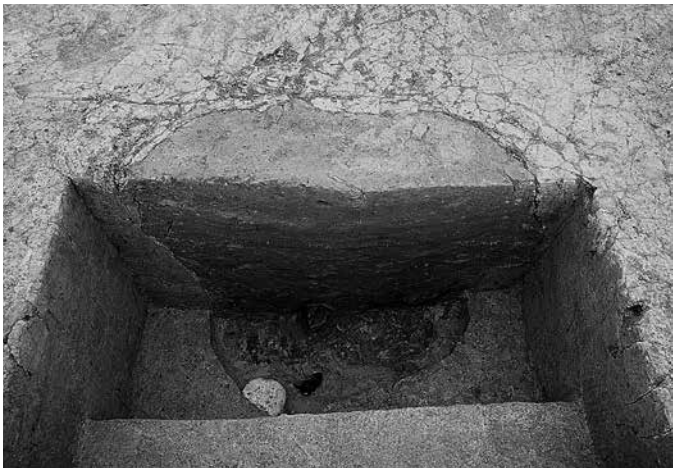
SE478　セクション（西から）

SE479　遺物出土状況（西から）

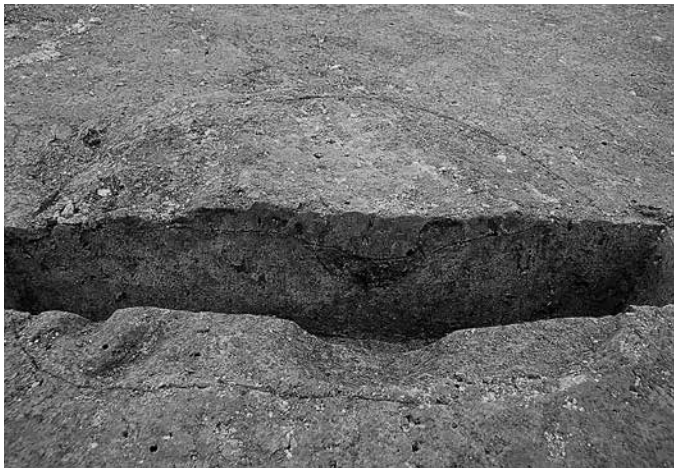
SE479　下部セクション（東から）

SE479　曲物出土状況（西から）

SE520　上部セクション（南から）



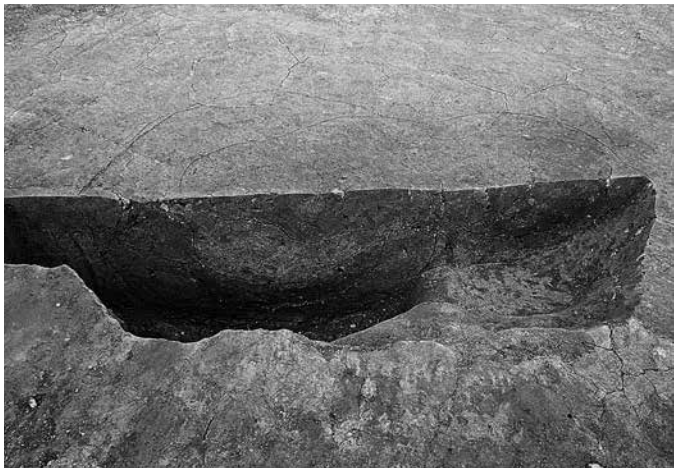
SE520　遺物出土状況（南から）



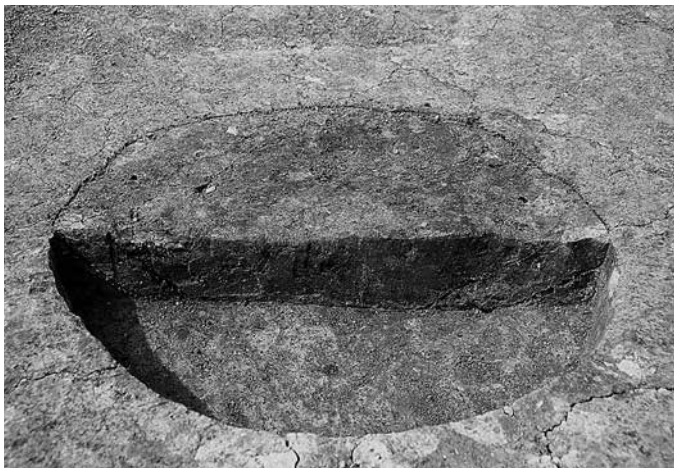
SK312　セクション（東から）

SK313　セクション（南から）

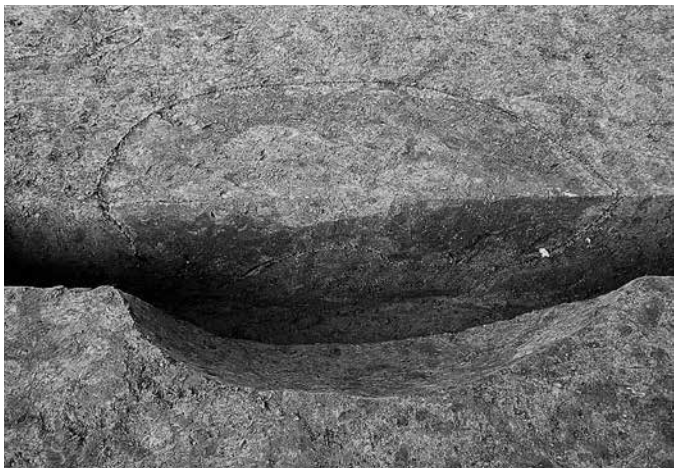
SK336　セクション（南西から）



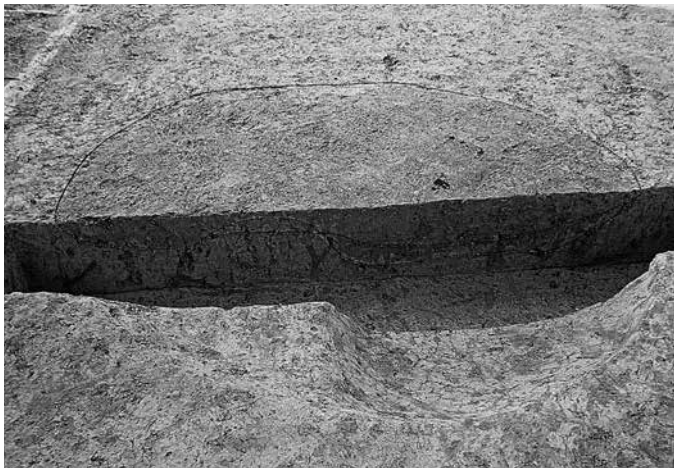
SK346（右）・362（左）　セクション（南から）



SK351　セクション（南から）



SK385　セクション（西から）

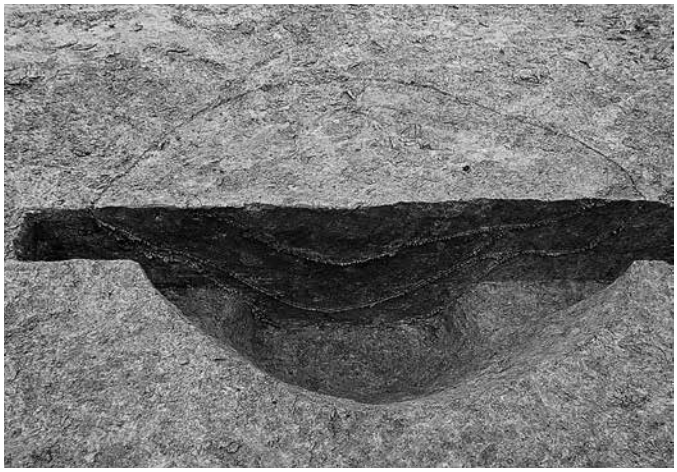


SK390　セクション（東から）

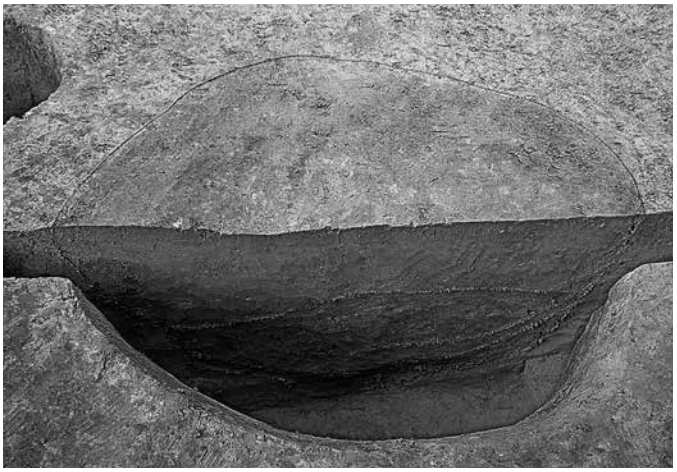
SK395　セクション（南から）

SK397　セクション（東から）

SK399（右）・SD373（左）　セクション（北から）



SK403　セクション（西から）



SK437　セクション（西から）

SK471　セクション（西から）

SK476　セクション（東から）

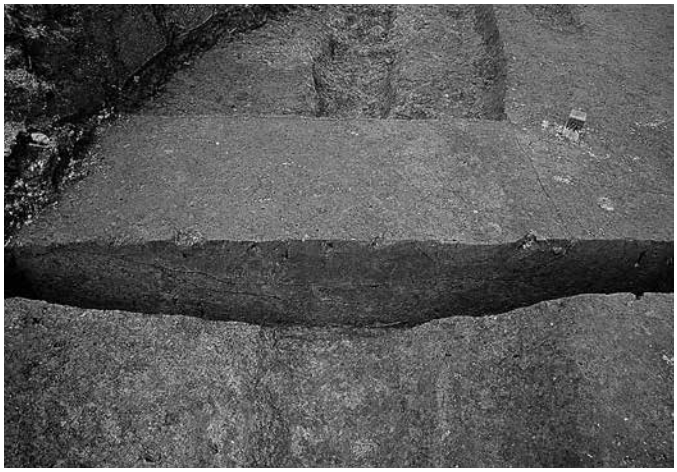
SK476　骨片出土状況（北から）

SK488　セクション（東から）

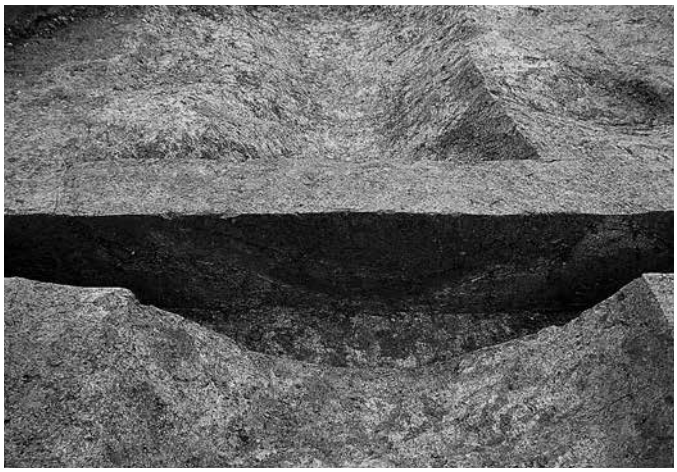
SX525 セクション（北から）

SX525（左）・SD347　完掘（南から）

SD11　セクション（19S　東から）

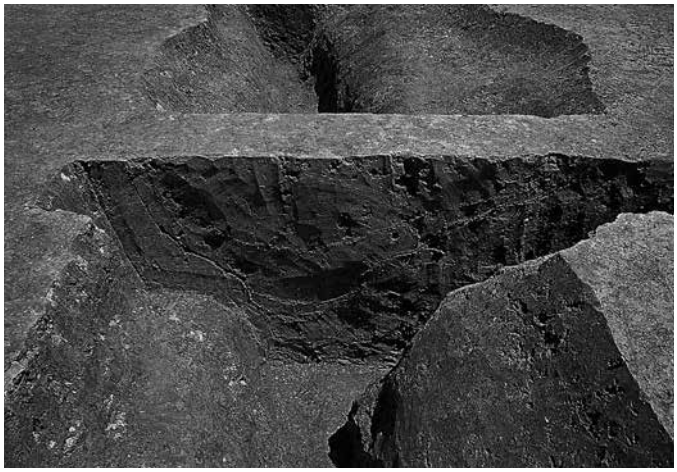


SD300　セクション（17R　東から）



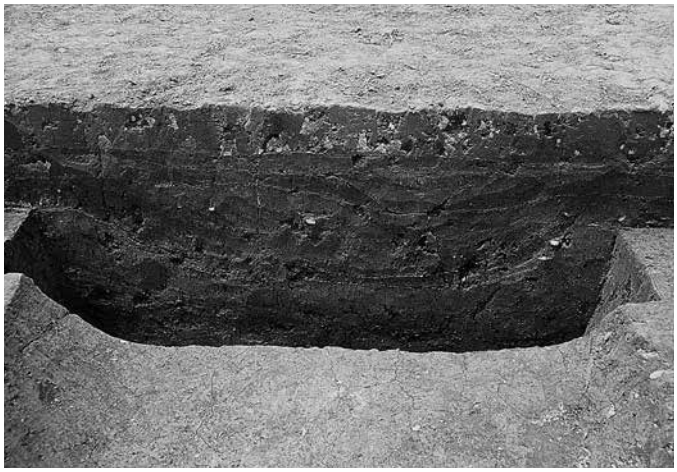
SD303　セクション（17R・S　東から）

SD37・40・553・554　完掘（21・22O ～ R　北から）



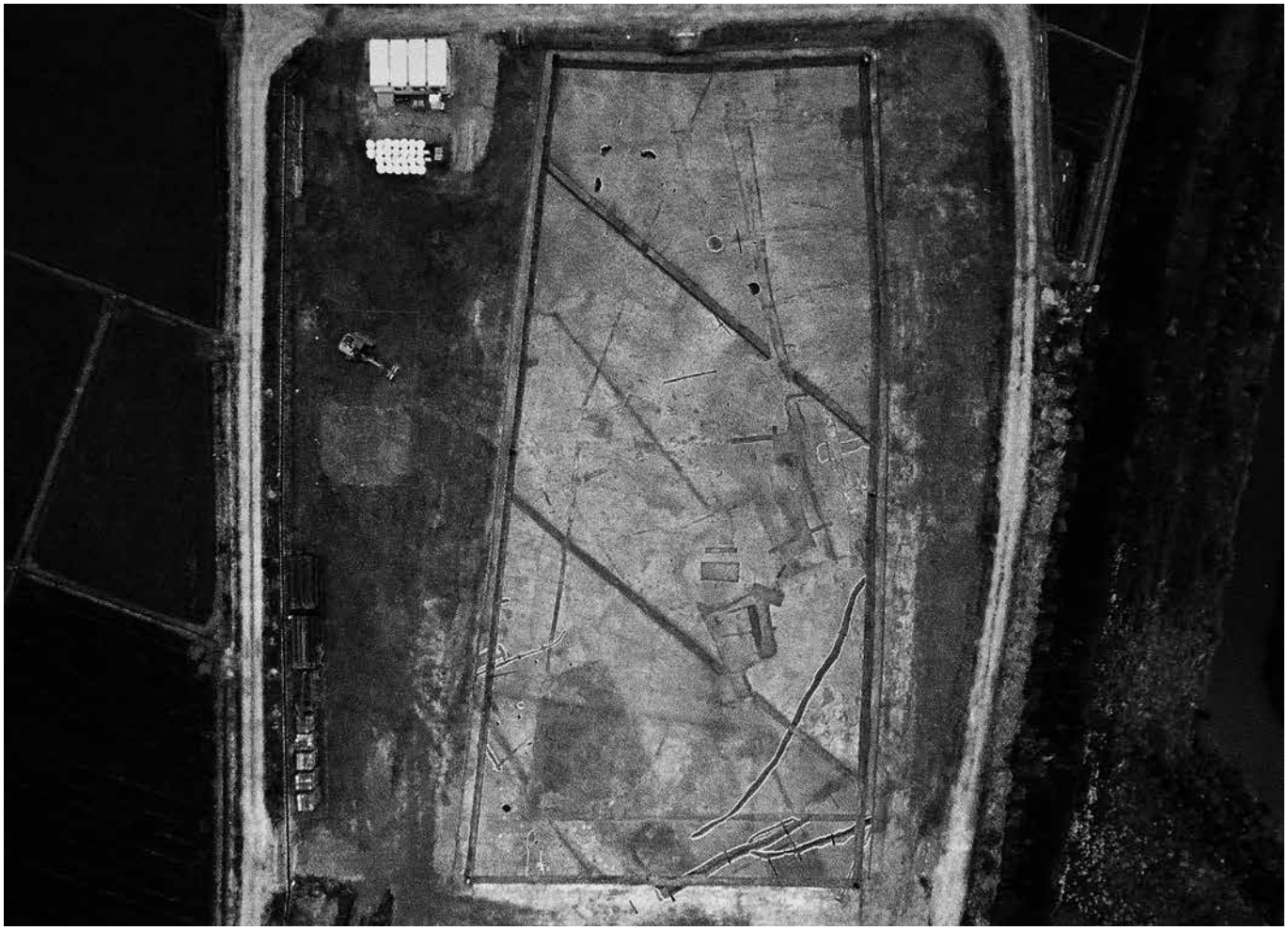
SD553　セクション（22P　南から）

道 1（SD6（右）・SD30（左）　完掘（20・21U　北から）



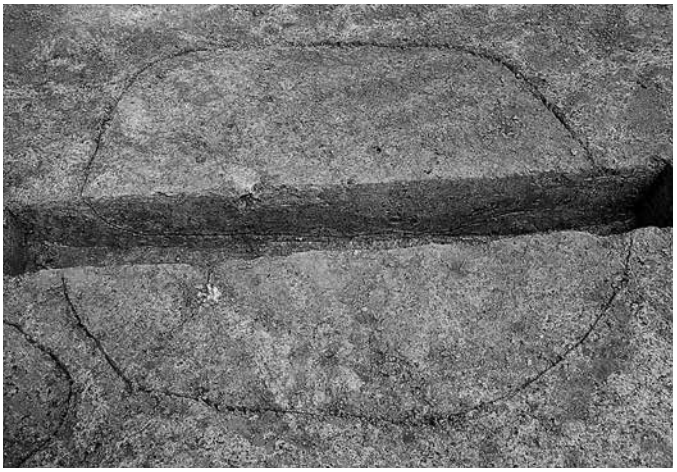
SD6　セクション（北から）

SD30　セクション（北から）



中層　完掘（真上から）

SK503　セクション（西から）



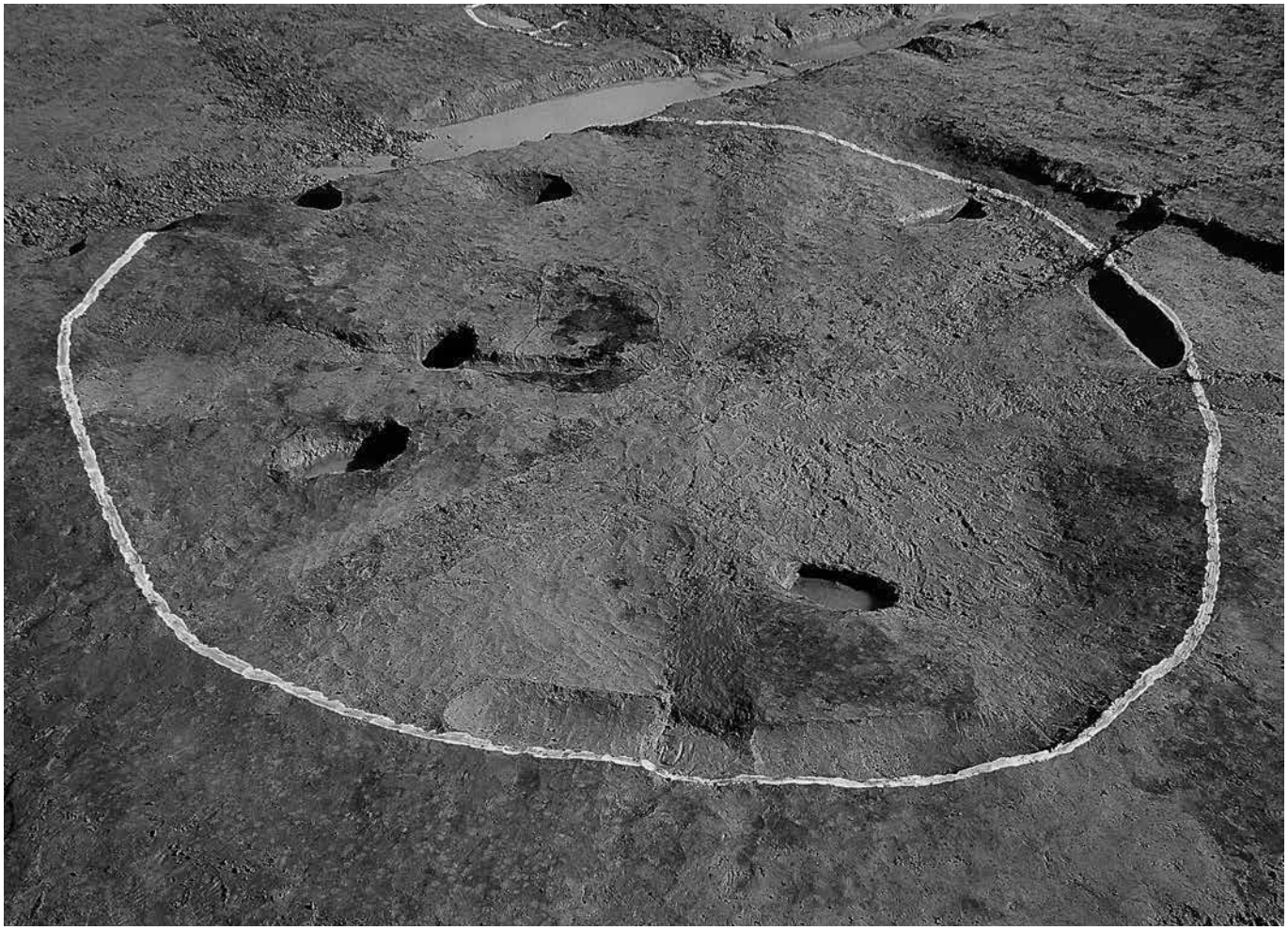
SK531　セクション（南東から）

SD46　完掘（北から）

SD46　セクション（南東から）

SI860　検出（南から）

SI860　セクション（南西から）



SI860　完掘（北西から）

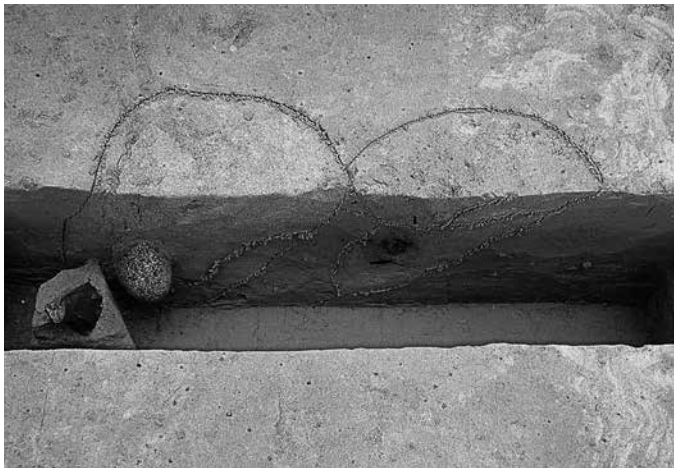
SI860　炉　検出状況（北東から）

SI860　炉　セクション（南西から）

SI860　出土状況（南東から）

SI860-P873　セクション（南から）

SI860-P874　セクション（北西から）



SI860-P895（左）・P896（右）　セクション（東から）

SI860-P899　セクション（東から）

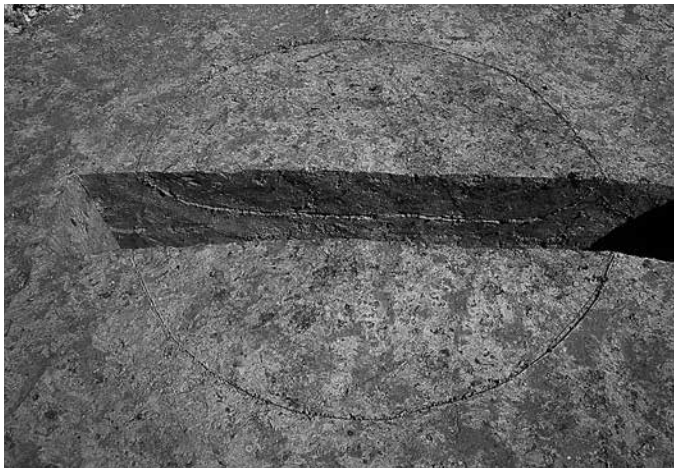
SI860-P901　セクション（東から）

SI860-P917　セクション（東から）

SI860-P919　セクション（西から）

SI860-P921　セクション（西から）

SI860-P923 セクション（南西から）

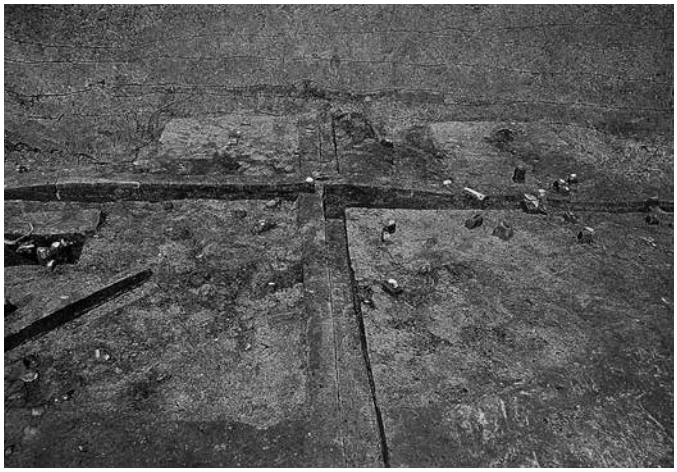


SC283　セクション（南から）

SC800　検出（南から）

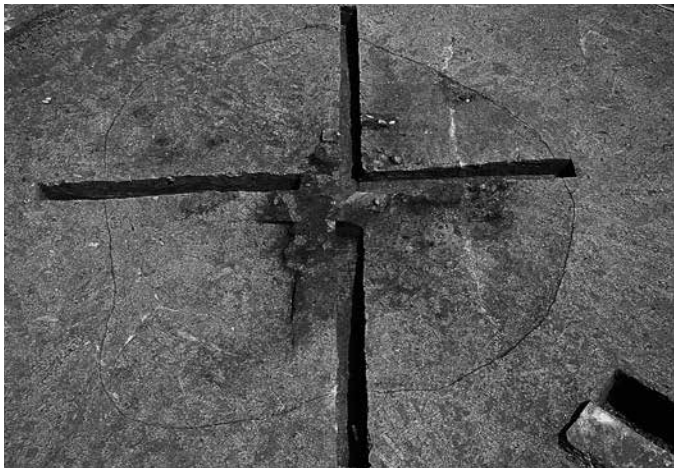
SC800　出土状況（南から）

SC801　焼土検出状況（東から）

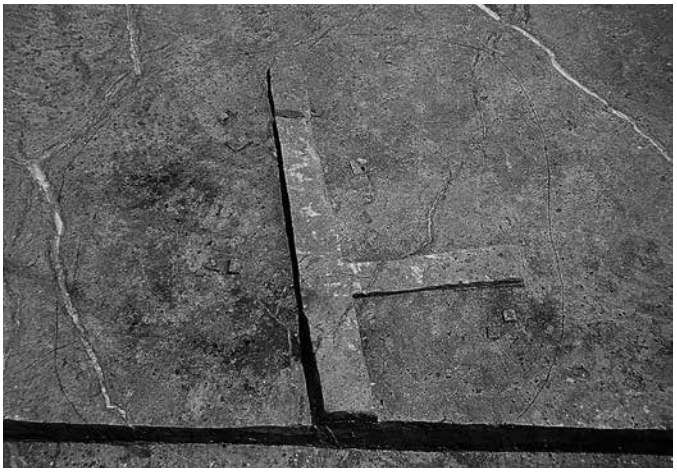


SC801　セクション（東から）

SC801　セクション（南から）



SC802　セクション（西から）

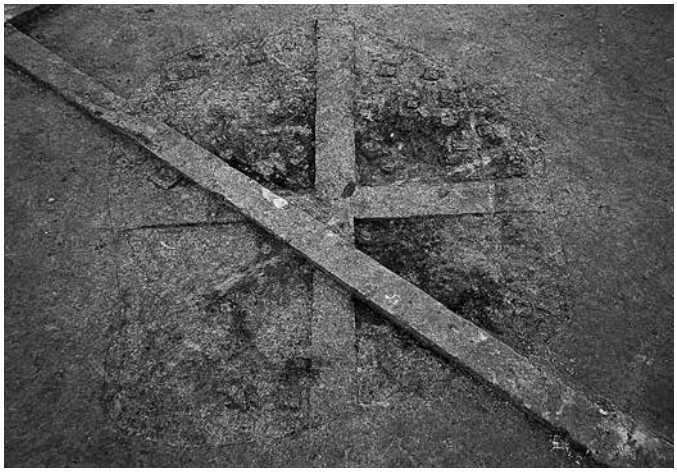


SC803　検出状況（西から）

SC804　検出（北から）

SC804　焼土検出状況（南西から）

SC804　セクション（北から）



SC806　焼土検出状況（西から）

SC806　セクション（南西から）

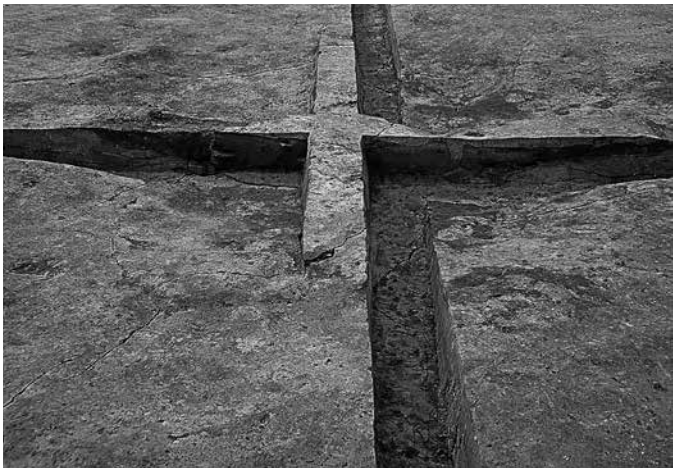
SC807　遺物出土状況（北から）

SC810　セクション（北から）

SC815　遺物出土状況（北から）

SC816　遺物出土状況（東から）

SC817　検出状況（北から）



SC817　セクション（北から）

SC850　検出状況（南から）

SC858　セクション（西から）

SC825　炭化物検出状況（南から）

SC825　セクション（北から）

SC825　セクション（北から）

SC825　焼土検出状況（南から）

SC825　糸玉出土状況（西から）

SC842　焼土（最上層）　出土状況（北から）

SC842　焼土（最下層）　検出状況（西から）

SC842　セクション（南から）

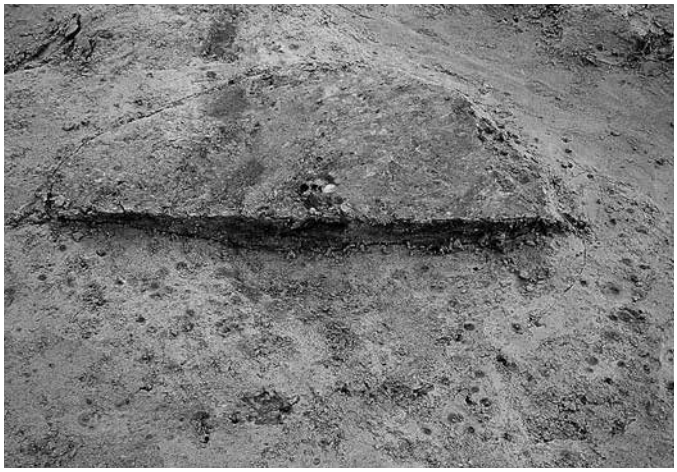
SC842　オニグルミ出土状況（東から）

SC859　検出状況（西から）

SC859　セクション（南から）

SC859　遺物出土状況（北から）

SC859　遺物出土状況（北から）



SC859　焼土（最下層）　セクション（東から）

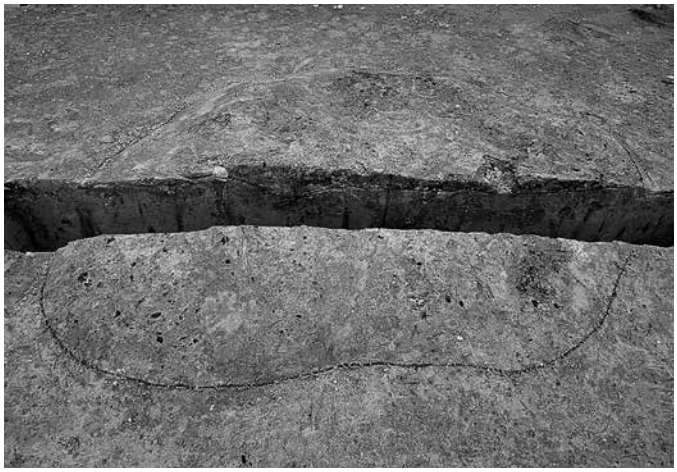
SC859-P1　セクション（北から）

SC861　遺物出土状況（西から）

SC861　セクション（南から）

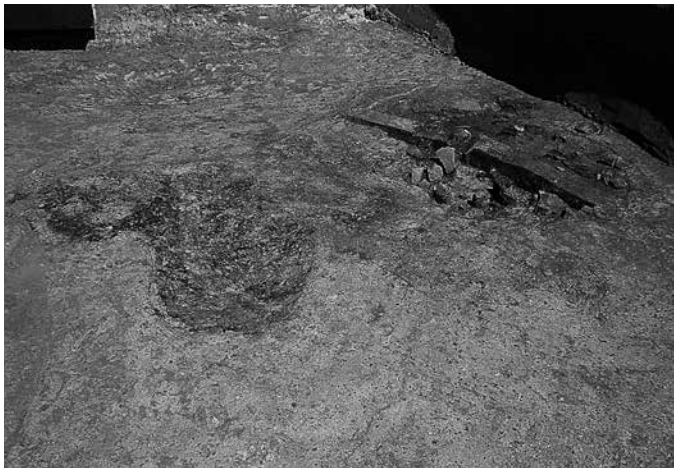
SC861　礫出土状況（東から）

SC866　セクション（東から）



SC867　セクション（西から）

SC870　セクション（北西から）



SC879　遺物出土状況（西から）

SC879　セクション（西から）

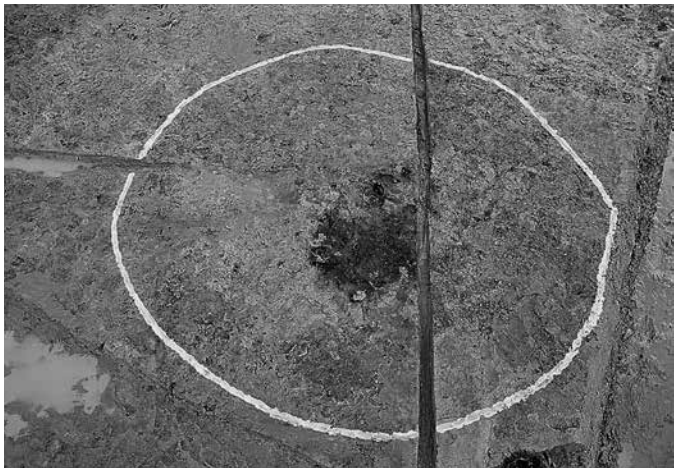
SC880　セクション（南から）

SC884　セクション（北西から）

SC911　セクション（南西から）

SC918　セクション（南西から）

SC914　検出状況（西から）



SC914　焼土（最下層）　検出状況（東から）

SC914　セクション（南から）

埋設土器 824　検出状況（東から）

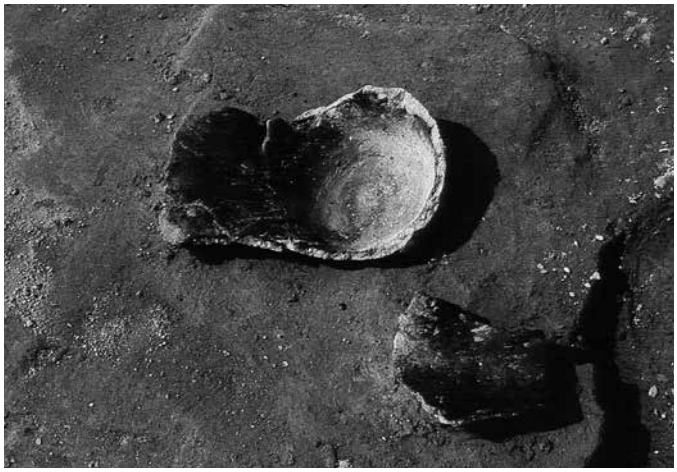
埋設土器 824　セクション（北西から）

埋設土器 824　出土状況（北東から）

埋設土器 828　出土状況（北から）

埋設土器 830　出土状況（南東から）

埋設土器 830　セクション（西から）



埋設土器 834　出土状況（北東から）

埋設土器 837　出土状況（南から）

埋設土器 839　出土状況（西から）

埋設土器 840　出土状況（東から）

埋設土器 883　出土状況（北東から）

埋設土器 887　検出状況（南西から）

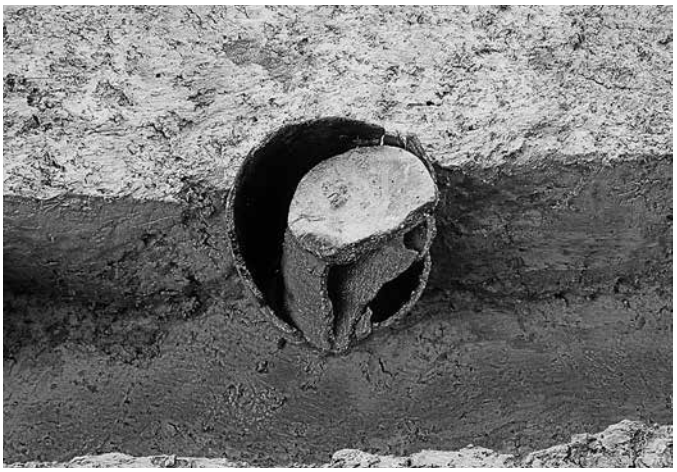
埋設土器 887　出土状況（西から）

埋設土器 887　セクション（南から）

埋設土器 894　セクション（東から）

埋設土器 903　セクション（南から）

埋設土器 908　セクション（西から）



埋設土器 928　出土状況（南から）

埋設土器 933　セクション（南東から）

埋設土器 933　出土状況（北から）

土器集中 1　出土状況（東から）

土器集中 2　出土状況（南から）

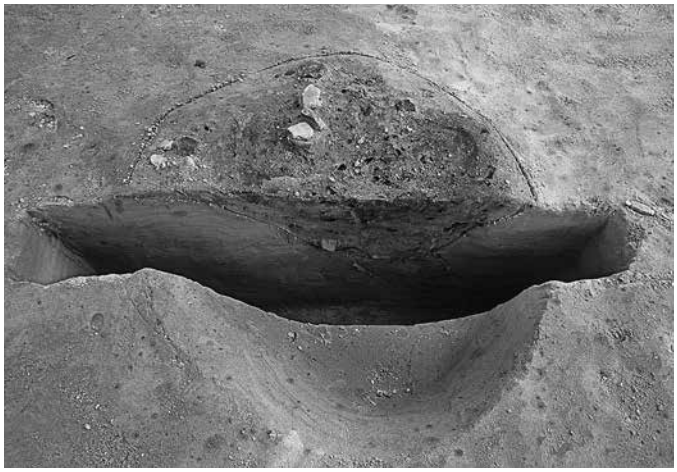
土器集中 820　出土状況（南から）

土器集中 835　出土状況（南西から）

土器集中 865　出土状況（西から）

土器集中 886　出土状況（北から）

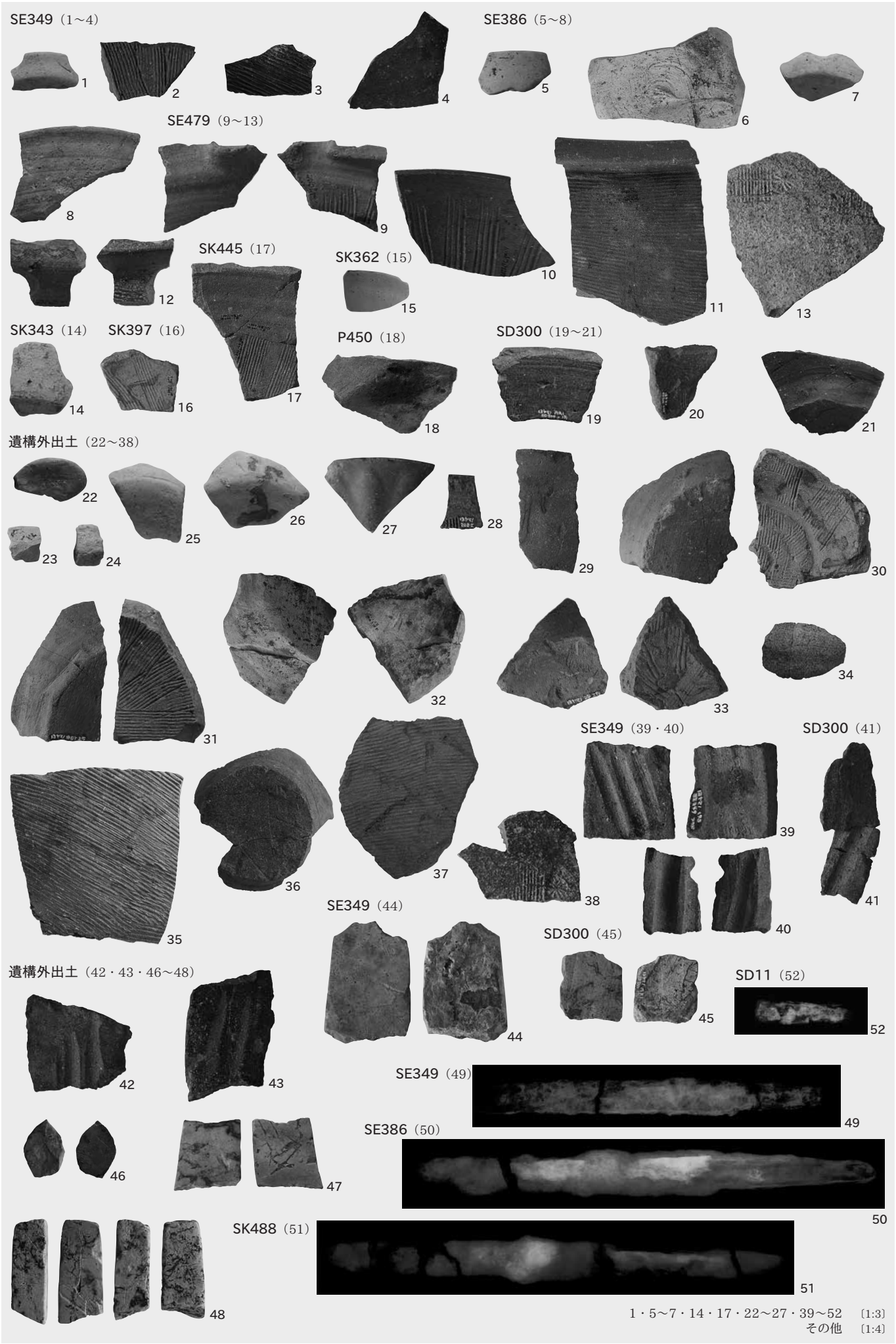
土器集中 932　出土状況（南東から）



P848　セクション（南から）

P855　セクション（南東から）

P878　セクション（南西から）



1・5～7・14・17・22～27・39～52　〔1:3〕
その他　〔1:4〕

53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
SE386（68）
SE479（69～74）
69
70
71
68
72
73
74
SE520（75）
75
53～66・75　〔1:3〕
67・72　〔1:4〕
その他　〔1:10〕

SI860（1～11）

1

2

3

5

6

4

11

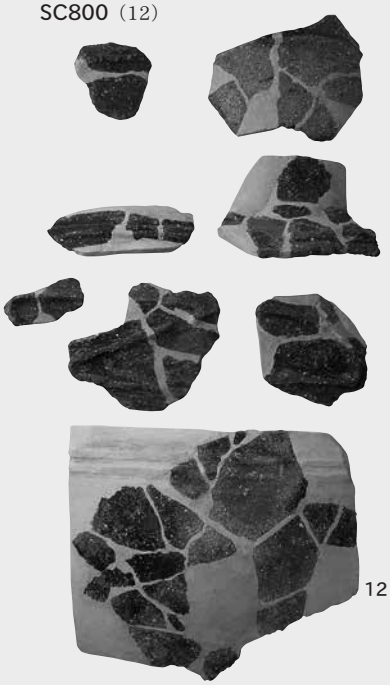
7

8

9

10

SC800（12）


12

SC801（13～19）

13

14

15

17

18

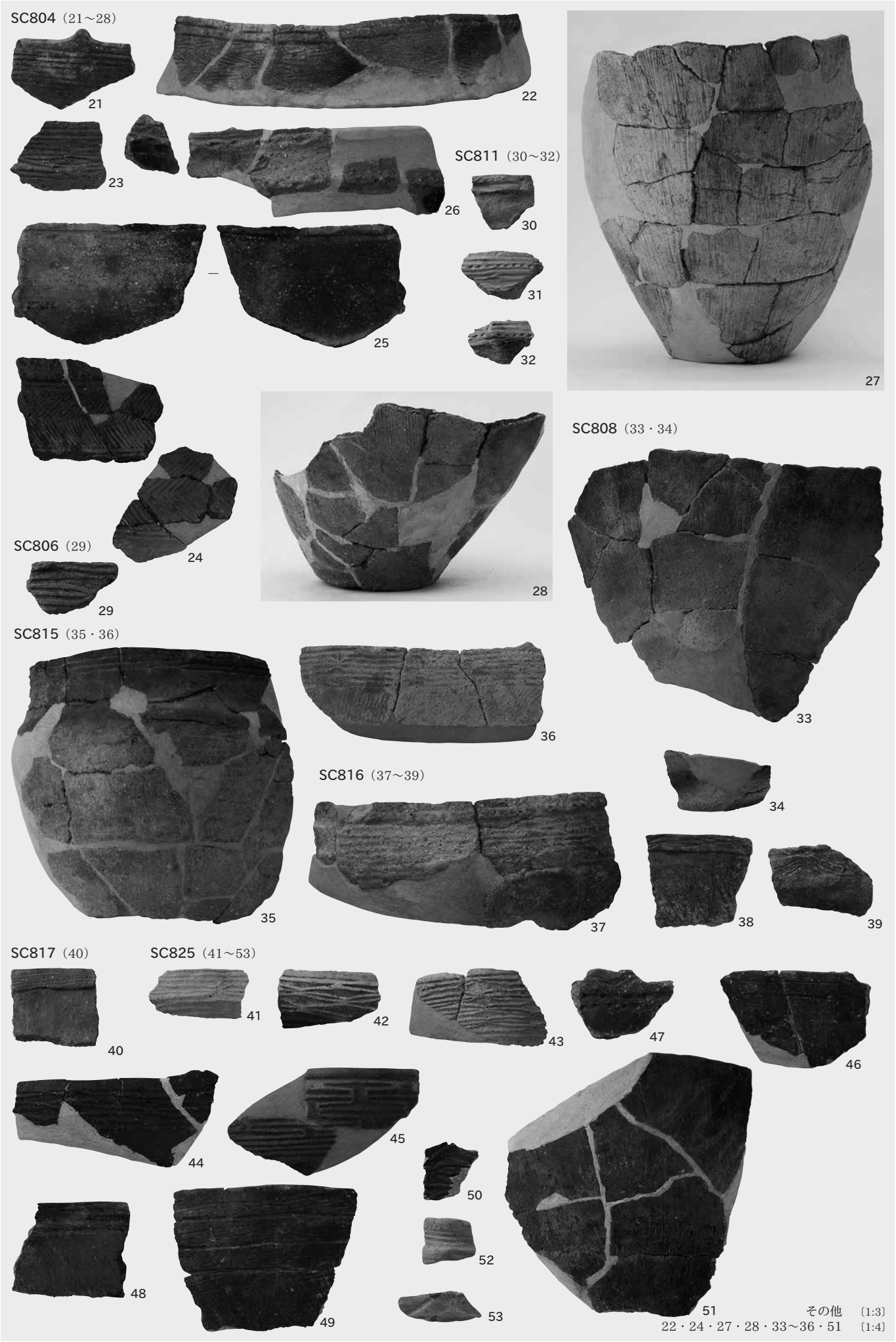
16

19

SC803（20）

20

その他　〔1:3〕
3・15・19　〔1:4〕
12　〔1:6〕



その他　〔1:3〕
22・24・27・28・33～36・51　〔1:4〕

SC842（54～57）

54

55

56

57

SC850（58・59）

58

59

SC859（60～71）

60

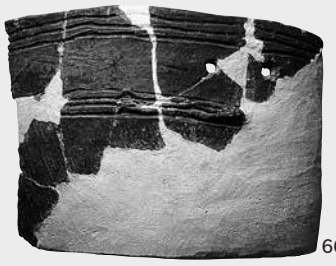
61

63

62

64

65


66

67

70

68

69

SC861（75～79）

75

76

77

78

79

SC868（81・82）

81

SC866（80）

80

71

82

その他　〔1:3〕
66・68・69　〔1:4〕
70・71　〔1:5〕

SC879（72～74）

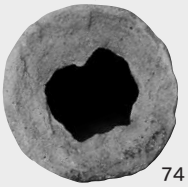
72

73

SC914（83・84）

84

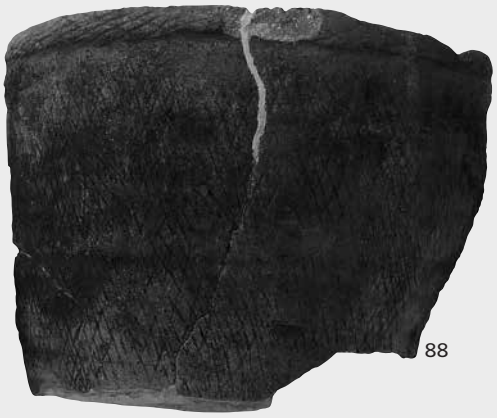
83


74

埋設土器824（86～89）

86

87


88

89

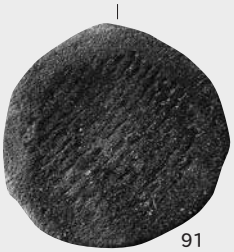
その他　〔1:3〕
73・87　〔1:4〕
74・88・89　〔1:5〕

埋設土器1（85）

埋設土器828（90）

埋設土器834（94）

埋設土器830（91～93）



その他　〔1:3〕
85　〔1:4〕

埋設土器837（95）

95

埋設土器883（96・97）

97

98

96

埋設土器839（98・99）

99

埋設土器887（102）

102

埋設土器840（100・101）

100

101

その他　〔1:3〕
98・100　〔1:4〕

埋設土器894（103）

埋設土器898（104）

埋設土器903（105）

埋設土器908（106）

埋設土器924（107）

埋設土器928（108・109）

埋設土器933（110・111）

土器集中1（112～115）

その他　〔1:3〕
113・114　〔1:4〕

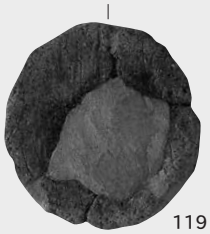
115

土器集中2（116）

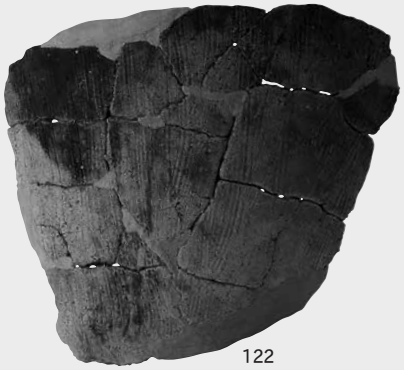
116

土器集中3（117～119）

118


119

土器集中836（122）


122

117

土器集中822（121）

121

土器集中820（120）

120

土器集中838（126）

126

その他　〔1:3〕
115・116・120・122　〔1:5〕

土器集中835（123～125）

124

125

123

土器集中852（127・128）

127

土器集中864（129）

129

128

土器集中865（130・131）

131

130

土器集中881（132～135）

135

132

134

その他　〔1:3〕
130・131　〔1:4〕
124　〔1:5〕

133

土器集中886（136）

136

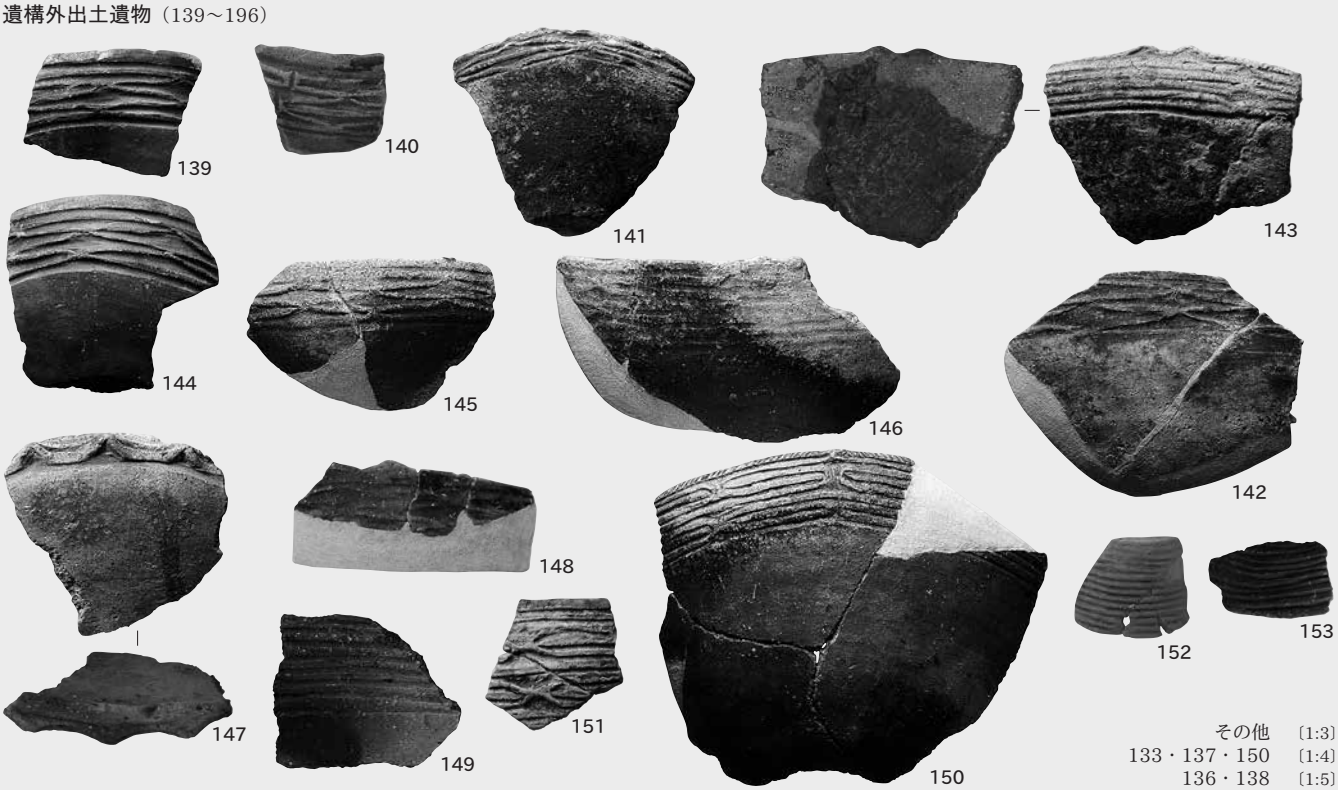
土器集中888（137）

137

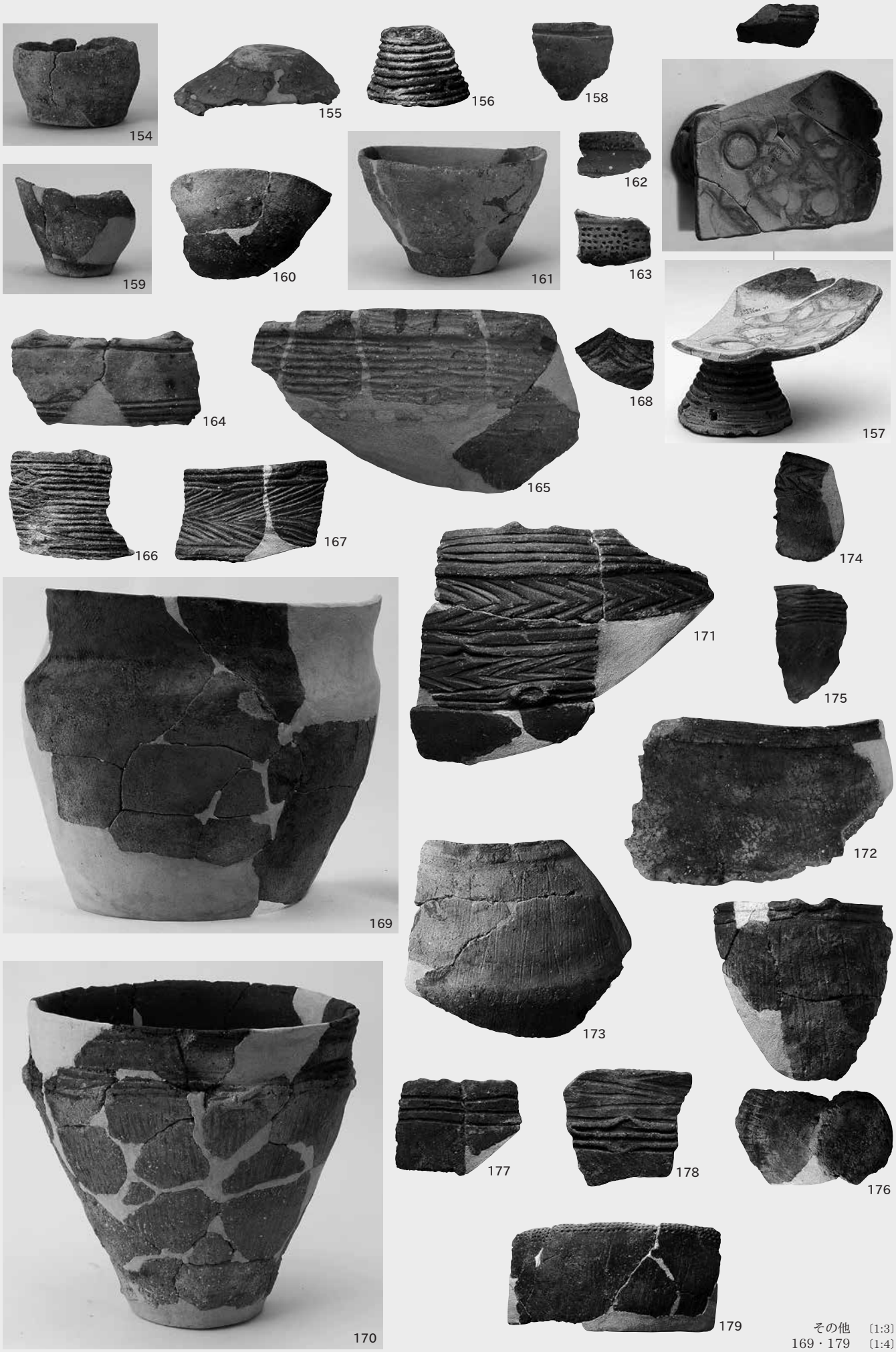
土器集中932（138）

138

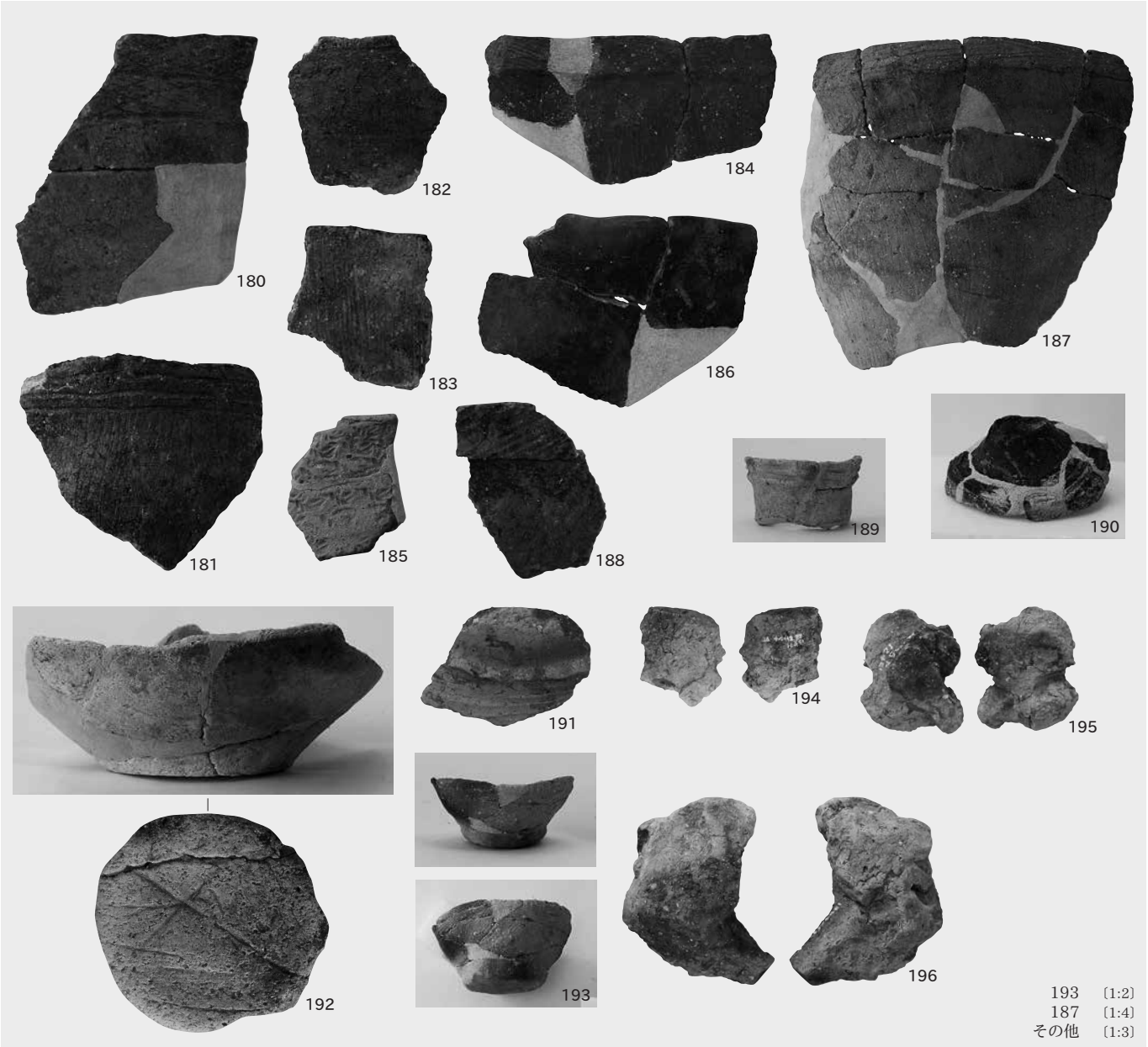
遺構外出土遺物（139～196）



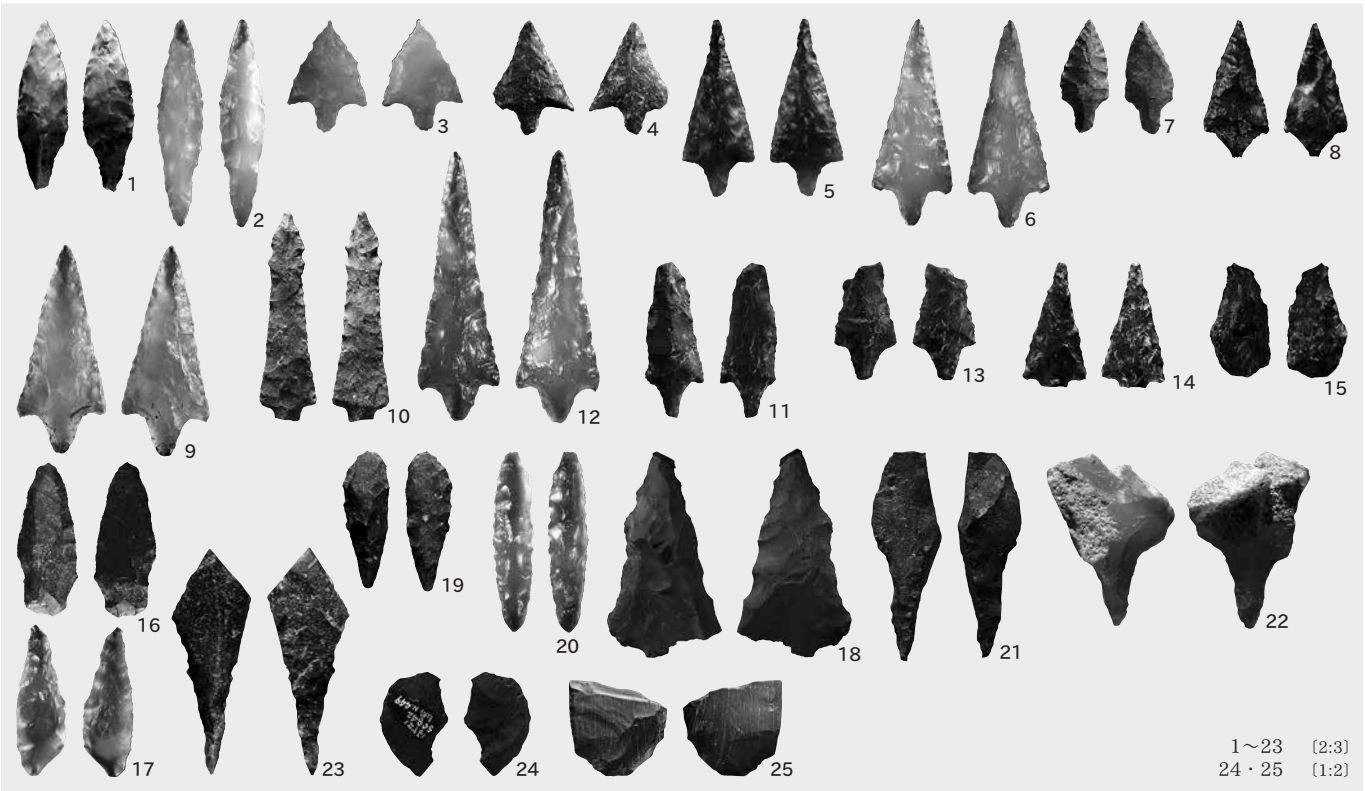
その他　〔1:3〕
133・137・150　〔1:4〕
136・138　〔1:5〕



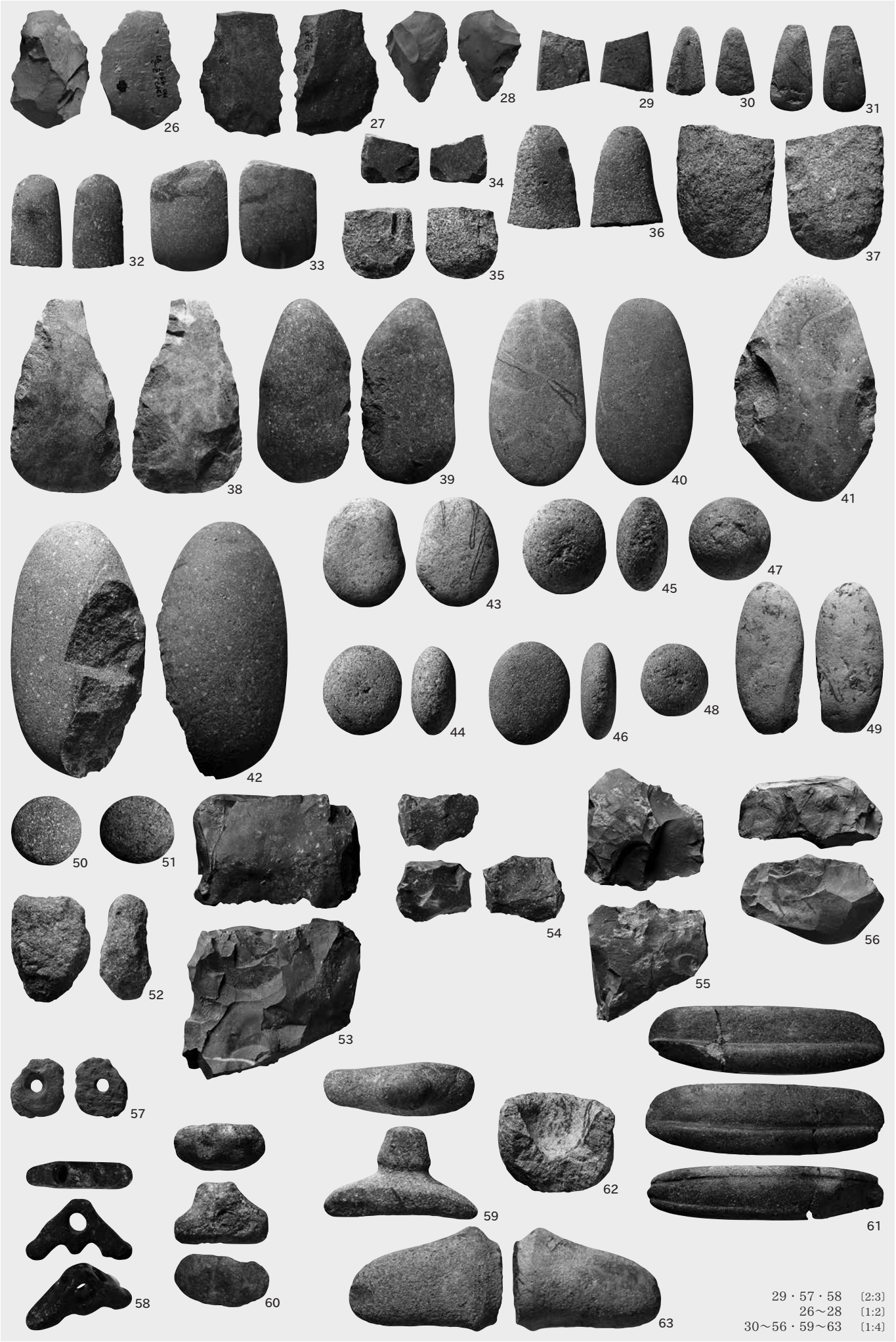
その他　〔1:3〕
169・179　〔1:4〕



193　〔1:2〕
187　〔1:4〕
その他　〔1:3〕



1～23　〔2:3〕
24・25　〔1:2〕



29・57・58　〔2:3〕
26～28　〔1:2〕
30～56・59～63　〔1:4〕

報告書抄録

ふりがな	やまぐちのなかいせき　に
書名	山口野中遺跡Ⅱ
副書名	一般国道 49 号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書
巻次	Ⅷ
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 258 集
編著者名	村上章久・高橋 均・今村 克（以上、株式会社帆苅組）、田海義正（埋文事業団）、小林克也・伊藤 茂・安 昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一・竹原弘展・ZaurLomtatidze・InezaJorjoliani（以上、株式会社パレオ・ラボ）、千葉博俊・松本美由紀・金井慎司・齋藤紀行（以上、パリノ・サーヴェイ株式会社）
編集機関	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団・株式会社帆苅組
所在地	〒 956－0845 新潟県新潟市秋葉区金津 93 番地 1　TEL 0250（25）3981　公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 〒 959－2221 新潟県阿賀野市保田 1111 番地　TEL 0250（68）1166　株式会社帆苅組
発行年月日	2015（平成 27）年 3 月 13 日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
やまぐちのなかいせき 山口野中遺跡	にいがたけんあがのし 新潟県阿賀野市 おおあざつきざきちない 大字月崎地内	152234	400	37°49′54″ ～ 37°49′49″	139°12′19″ ～ 139°12′29″	20130401 ～ 20131130	14,857㎡ （上層 3,759㎡、中層 5,616㎡、下層 5,482㎡）	一般国道49号阿賀野バイパス建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
山口野中遺跡	集落跡	縄文時代晩期	竪穴建物 1 基、焼土・炭化物の集積 46 か所、埋設土器17基、土器集中 15 か所、ピット 24 基	縄文土器・石器・漆製品・焼成粘土塊・アスファルト	
	集落跡	平安時代（9 世紀前～中葉）	掘立柱建物 1 棟、土坑 4 基、ピット 51 基、溝 3 条、性格不明遺構 1 基	土師器・須恵器	
	集落跡	鎌倉時代（13 世紀後半～ 14 世紀前半）	掘立柱建物 4 棟、井戸 8 基、土坑 40 基、ピット 111 基、道 1 条、溝 15 条、性格不明遺構 1 基	土師質土器・青磁・白磁・珠洲焼・瓷器系陶器・土器転用研磨具・金属製品・石製品・木製品	

要約	下層では縄文時代晩期後葉の遺構・遺物が出土した。遺構は東西の旧河川に挟まれた幅約 100m の微高地端部から低位面にかけてつくられており、遺跡は旧河川に沿って南北方向に延びるものと推定される。遺構は焼土・炭化物の集積が主体である。ここでは堅果類（トチノキ・オニグルミ・クリなど）・魚類（コイ科・アユ属・サケ属など）の食物残滓の燃焼と、これらの集積を繰り返し行っていたことが推定される。埋設土器は焼土・炭化物の集積と分布がほぼ重なっており、埋設土器の土器内からは炭化した堅果類が出土した。出土状況から堅果類は土器内に納められた可能性がある。このことから、食物残滓の燃焼行為と埋設土器の設置、食物残滓の集積は一連のものと捉えられる可能性が考慮される。また、燃焼行為を示す遺構やその付近で石冠・独鈷状石製品の出土が認められることから、祭祀的な場であったことが推定される。

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 258 集

一般国道 49 号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書Ⅷ

山口野中遺跡Ⅱ

2015(平成27)年 3 月 13 日印刷
2015(平成27)年 3 月 16 日発行

編集・発行　新潟県教育委員会
〒 950－8570　新潟市中央区新光町 4 番地 1
電話　025（285）5511

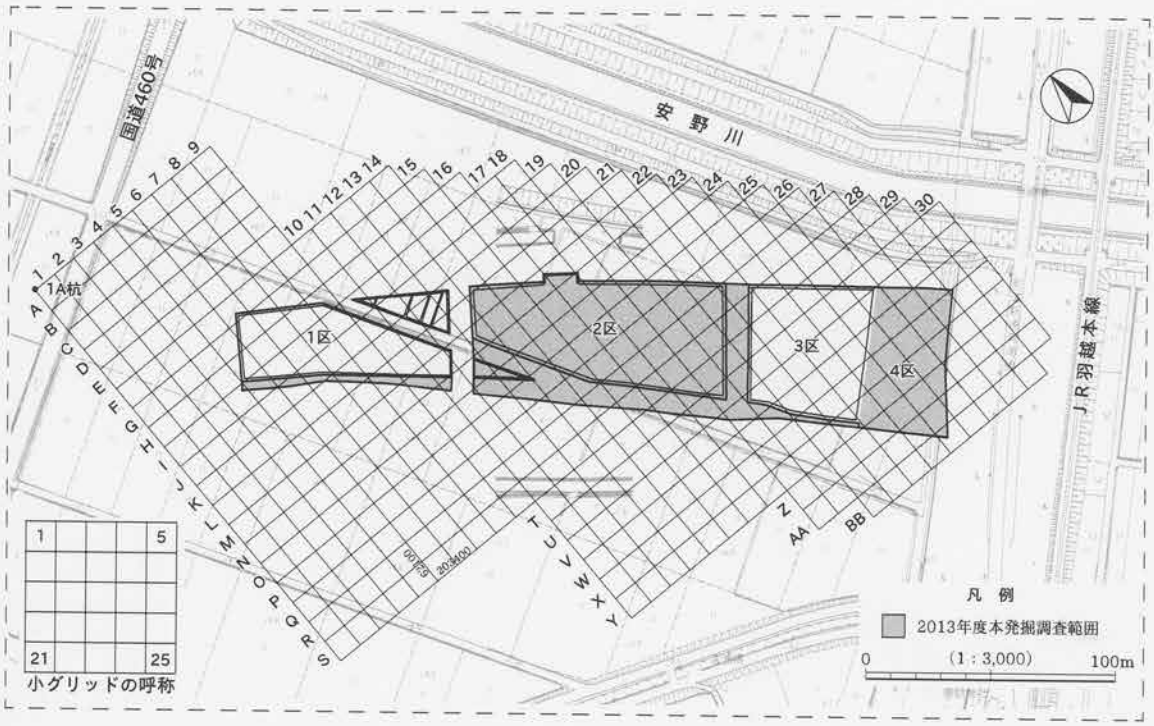
公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒 956－0845　新潟市秋葉区金津 93 番地 1
電話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986

印刷・製本　有限会社不二出版
〒 963－8024　郡山市朝日 2 丁目 1 番 5 号
電話　024（932）0111

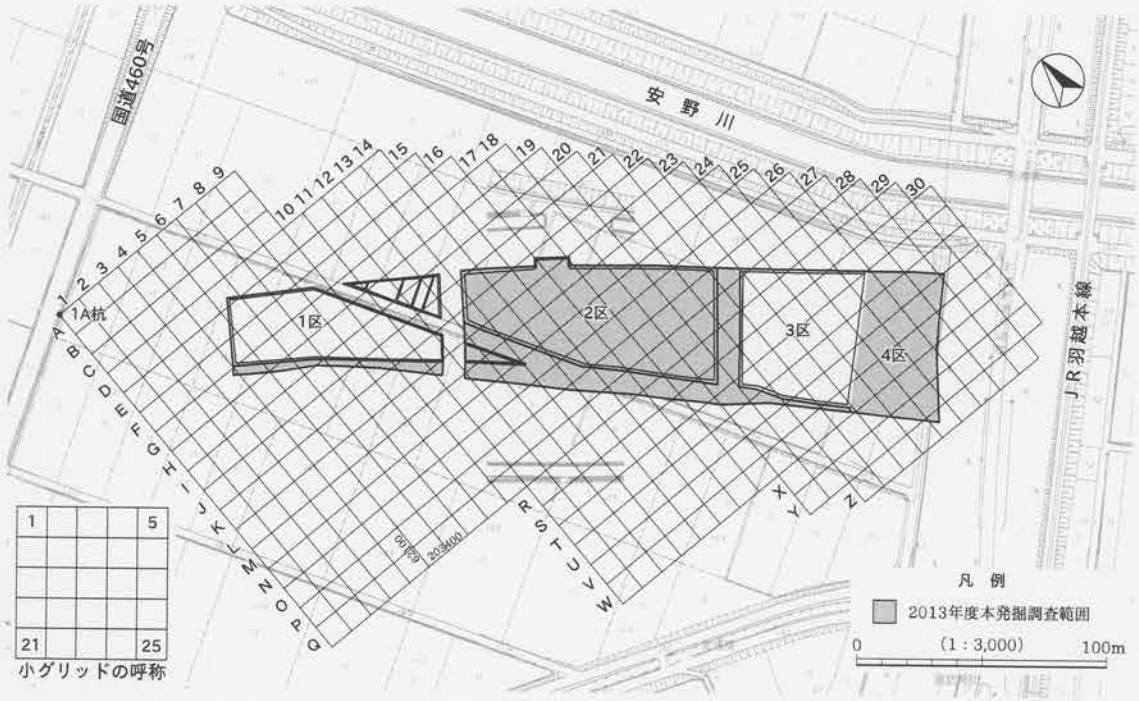
正　誤　表

このたび新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団より刊行いたしました『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第258集　山口野中遺跡Ⅱ』13頁　第8図　グリッド設定図において、下記に誤りがありましたので、修正してお知らせいたします。

誤



正



第258集　山口野中遺跡Ⅱ　正誤表

ページ	行	誤	正
12	上から12行目	上野林丘陵の遺跡には、…	上野林段丘の遺跡には、…
12	上から13行目	上野林丘陵西側に立地し、…	上野林段丘西側に立地し、…
31	下から5行目	石斧未製品（図版73・116-37）が出土した。	石斧未成品（図版73・116-38）が出土した。
70	上から2行目	D　漆成品（図版75・117-64～69）	D　漆成品（図版75・79-64～69）
70	上から9行目	E　アスファルト（図版75・117-70・71）	E　アスファルト（図版75・79-70・71）